動物形態機能学－1

学科	動物看護系学科	シラバス(概要)
コース		動物の生命維持の仕組みと、解剖学及び生理学の基礎を知り、生命体としての動物を理解できるようにする。解剖学では動物体の構造について、生理学では動物体の機能について学習する。動物病院での臨床において、あらゆる診療知識や技術の基本となるのが解剖学と生理学であり、また、内科学及び外科学などについて理解する際にも、解剖学や生理学の知識は必要不可欠であり、それらを正しく理解し、診療チームとしてより有効な動物看護ができることを目指す。動物病院においての診察対象は主にイヌやネコであるため、特にイヌやネコを基本に解剖学及び生理学を理解することを目指す。その他の動物についても、イヌやネコと比較しながら解剖学及び生理学について理解をする。
履修条件	動物形態機能学－1を先行すること	
ユニット		
科目名	動物形態機能学－1	
単位	1(1～5合わせて5単位)	
履修時間	30時間(1～5合わせて150時間)	
回数	30回(1～5合わせて150回)	
授業形態	講義	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員会	筆記試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①系統看護学講座解剖生理学(医学書院)②わかりやすい獣医解剖生理学(文永堂出版)③家畜の解剖と生理(養賢堂)	

コマシラバス

50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	形態機能概論①	1.シラバスとの関係	解剖生理学を学ぶために自然界における動物を理解する	
		2.コマ主題	自然界の生態系における動物の位置を確認し、植物との違いから動物の体の構成の基本を理解する	
		3.コマ主題細目	体の階層性について理解する	
		4.コマ主題細目深度	動物の体の階層性(個体、器官系、器官、組織、細胞、細胞小器官、分子)について学ぶ	
		5.次コマとの関係	生物体の基礎となる細胞について学ぶ前に、細胞の集合体である体の階層性を学ぶ	
2	形態機能概論②	1.シラバスとの関係	解剖生理学を学ぶための基礎知識として細胞について理解する	
		2.コマ主題	動物の体の素材としての細胞について理解する	
		3.コマ主題細目	細胞の構造について理解する	
		4.コマ主題細目深度	①核について学ぶ ②細胞小器官(小胞体、リボソーム、ゴルジ装置、中心小体、ミトコンドリア、リソソーム)について学ぶ ③細胞膜について学ぶ	
		5.次コマとの関係	細胞の詳細を学ぶ前にその概要を理解する。	
3	形態機能概論③	1.シラバスとの関係	解剖生理学を学ぶための基礎知識として細胞の構成成分である化学物質について学ぶ	
		2.コマ主題	細胞を構成する化学物質について理解する	
		3.コマ主題細目	細胞を構成する物質とエネルギー生成	
		4.コマ主題細目深度	①細胞の構成物質である糖質(炭水化物)について学ぶ ②細胞の構成物質である脂質について学ぶ ③細胞の構成物質であるタンパク質について学ぶ	
		5.次コマとの関係	タンパク質合成について学ぶ前に各構成物質について学ぶ	
4	形態機能概論④	1.シラバスとの関係	細胞内で行われる合成とエネルギー生成について学ぶ	
		2.コマ主題	細胞内の合成とエネルギー生成について理解する	
		3.コマ主題細目	細胞を構成する物質とエネルギー生成	
		4.コマ主題細目深度	①核酸(DNAとRNA)について学ぶ ②タンパク質の合成について学ぶ ③ATPについて学ぶ ④ATPの産生と消費について学ぶ ⑤触媒、酵素、補酵素の意味を理解する	
		5.次コマとの関係	細胞の増殖、染色体について学ぶ前にDNA，RNAについて理解する	
5	形態機能概論⑤	1.シラバスとの関係	細胞の増殖と染色体について学ぶ	
		2.コマ主題	細胞の増殖と染色体について理解する	
		3.コマ主題細目	細胞の増殖と染色体	
		4.コマ主題細目深度	①細胞周期について学ぶ ②染色体について学ぶ ③動物による染色体数の違いについて学ぶ ④性染色体について学ぶ	
		5.次コマとの関係	分化した細胞が作る組織について学ぶ	
6	形態機能概論⑥	1.シラバスとの関係	上皮組織、筋組織の概要を学ぶ	
		2.コマ主題	上皮組織、筋組織の概要を理解する	
		3.コマ主題細目	上皮組織、筋組織の種類と分布	
		4.コマ主題細目深度	①重層扁平上皮について学ぶ ②単層円柱上皮について学ぶ ③多列線毛上皮について学ぶ ④移行上皮について学ぶ ⑤単層扁平上皮について学ぶ ⑥腺上皮について学ぶ ⑦骨格筋について学ぶ ⑧心筋について学ぶ ⑨平滑筋について学ぶ	
		5.次コマとの関係	結合組織に進む	

7	形態機能概論⑦	1.シラバスとの関係	結合組織について学ぶ	
		2.コマ主題		
		3.コマ主題細目	結合組織の種類と分布	
		4.コマ主題細目深度	①結合組織の構成要素について学ぶ ②結合組織の種類と分布について学ぶ ③骨組織について学ぶ ④軟骨組織について学ぶ ⑤神経細胞について学ぶ ⑥末梢神経について学ぶ ⑦シナプスについて学ぶ	
		5.次コマとの関係	イヌネコの体の構造に進む	
8	比較解剖 イヌとネコの体の構造と機能①	1.シラバスとの関係	イヌとネコ以外の動物の体の違いを理解するために、イヌネコの体の構造を総体的に知る	
		2.コマ主題	イヌネコの体の構造を知る	
		3.コマ主題細目	構造からみた体	
		4.コマ主題細目深度	①体の区分について学ぶ ②体腔について学ぶ ③胸腔にある臓器の種類と位置について学ぶ ④腹腔にある臓器の種類と位置について学ぶ	
		5.次コマとの関係	イヌネコの体の機能に進む	
9	比較解剖 イヌとネコの体の構造と機能②	1.シラバスとの関係	イヌとネコ以外の動物の体の違いを理解するために、イヌネコの体の機能を総体的に知る	
		2.コマ主題	イヌネコの体の機能を知る	
		3.コマ主題細目	機能から見た体	
		4.コマ主題細目深度	①生命維持システム(植物機能)について学ぶ ②運動・調節システム(運動機能)について学ぶ ③細胞膜で行われる拡散と浸透について学ぶ ④ナトリウムポンプについて学ぶ	
		5.次コマとの関係	イヌネコの循環器系に進む	
10	比較解剖 イヌとネコの体の構造と機能③	1.シラバスとの関係	イヌとネコ以外の動物の体の違いを理解するためにイヌネコの循環器系について理解する	
		2.コマ主題	イヌネコの循環器系の概要について理解する	
		3.コマ主題細目	循環器系	
		4.コマ主題細目深度	①心臓の構造と機能について学ぶ ②動脈と静脈について学ぶ ③大循環について学ぶ ④小循環について学ぶ	
		5.次コマとの関係	呼吸器系に進む	
11	比較解剖 イヌとネコの体の構造と機能④	1.シラバスとの関係	イヌとネコ以外の動物の体の違いを理解するために、イヌネコの呼吸器系について理解する	
		2.コマ主題	イヌネコの呼吸器系の概要について理解する	
		3.コマ主題細目	呼吸器系	
		4.コマ主題細目深度	①肺の構造について学ぶ ②外呼吸について学ぶ ③内呼吸について学ぶ ④肺におけるガス交換について学ぶ	
		5.次コマとの関係	消化器系に進む	
12	比較解剖 イヌとネコの体の構造と機能⑤	1.シラバスとの関係	イヌとネコ以外の動物の体の違いを理解するために、イヌネコの消化器系について理解する	
		2.コマ主題	イヌネコの消化器系の概要について理解する	
		3.コマ主題細目	消化器系	
		4.コマ主題細目深度	①消化器系全体の構造について学ぶ ②消化器系全体の機能について学ぶ ③消化器系の蠕動運動について学ぶ ④食肉目であるイヌネコの盲腸の特徴について学ぶ	
		5.次コマとの関係	泌尿器系に進む	
13	比較解剖 イヌとネコの体の構造と機能⑥	1.シラバスとの関係	イヌとネコ以外の動物の体の違いを理解するために、イヌネコの泌尿器系について理解する	
		2.コマ主題	イヌネコの泌尿器系の概要について理解する	
		3.コマ主題細目	泌尿器系	
		4.コマ主題細目深度	①泌尿器系全体の構造について学ぶ ②泌尿器系全体の機能について学ぶ ③尿生成の機序について学ぶ ④尿生成以外の腎臓の機能について学ぶ ⑤膀胱について学ぶ	
		5.次コマとの関係	生殖器系に進む	
14	比較解剖 イヌとネコの体の構造と機能⑦	1.シラバスとの関係	イヌとネコ以外の動物の体の違いを理解するために、イヌネコの生殖器系について理解する	
		2.コマ主題	イヌネコの生殖器系の概要について理解する	
		3.コマ主題細目	生殖器系	
		4.コマ主題細目深度	①生殖器系全体の構造について学ぶ ②イヌとネコの雄の副生殖腺について学ぶ ③イヌとネコの子宮の構造について学ぶ ④イヌとネコの排卵について学ぶ	
		5.次コマとの関係	鳥類の筋骨格系、感覚器の解剖生理に進む	

15	比較解剖 トリの体の構造と機能①	1.シラバスとの関係	イヌネコ以外の動物(鳥類)の解剖生理を理解する	
		2.コマ主題	鳥類の筋骨格系と感覚器について理解する	
		3.コマ主題細目	鳥類の筋骨格系・特殊な感覚器	
		4.コマ主題細目深度	①鳥類の筋骨格系の構造について学ぶ ②鳥類の骨格系の特徴(含気骨、頸椎数)について学ぶ ③鳥類の感覚器の特徴について学ぶ	
		5.次コマとの関係	鳥類の呼吸器系、循環器系の解剖生理に進む	
16	比較解剖 トリの体の構造と機能②	1.シラバスとの関係	イヌネコ以外の動物(鳥類)の解剖生理を理解する	
		2.コマ主題	鳥類の呼吸器系・循環系について理解する	
		3.コマ主題細目	鳥類の呼吸器系・循環器系	
		4.コマ主題細目深度	①鳥類の呼吸器系、循環器系の構造について学ぶ ②気嚢について学ぶ ③肺胞、横隔膜が無いことを学ぶ ④ガス交換について学ぶ	
		5.次コマとの関係	鳥類の消化器系、泌尿器系、生殖器系に進む	
17	比較解剖 トリの体の構造と機能③	1.シラバスとの関係	イヌネコ以外の動物(鳥類)の解剖生理を理解する	
		2.コマ主題	鳥類の消化器系・泌尿器系・生殖器系について理解する	
		3.コマ主題細目	鳥類の消化器系・泌尿器系・生殖器系	
		4.コマ主題細目深度	①鳥類の消化器系・泌尿器系・生殖器系の構造について学ぶ ②総排泄腔(クロアカ)について学ぶ ③雌の卵巣、子宮の発達は左側のみ発達することを学ぶ	
		5.次コマとの関係	ウサギの体の構造と機能に進む	
18	比較解剖 ウサギの体の構造と機能①	1.シラバスとの関係	イヌネコ以外の動物(ウサギ)の解剖生理を理解する	
		2.コマ主題	ウサギの筋骨格系、消化器系について理解する	
		3.コマ主題細目	ウサギの筋骨格系、消化器系	
		4.コマ主題細目深度	①ウサギの筋骨格系、消化器系の構造について学ぶ ②発達した盲腸について学ぶ ③釘歯について学ぶ	
		5.次コマとの関係	ウサギの呼吸器系、泌尿器系、生殖器系に進む	
19	比較解剖 ウサギの体の構造と機能②	1.シラバスとの関係	イヌネコ以外の動物(ウサギ)の解剖生理を理解する	
		2.コマ主題	ウサギの呼吸器系、泌尿器系、生殖器系について理解する	
		3.コマ主題細目	ウサギの呼吸器系、泌尿器系、生殖器系	
		4.コマ主題細目深度	①ウサギの呼吸器系、泌尿器系、生殖器系の構造について学ぶ ②子宮の特徴について学ぶ ③新生子の特徴について学ぶ	
		5.次コマとの関係	ネズミ亜目に属する動物に進む	
20	比較解剖 ネズミ亜目の体の構造と機能①	1.シラバスとの関係	イヌネコ以外の動物(ネズミ亜目)の解剖生理を理解する	
		2.コマ主題	ネズミ亜目の形態学について理解する	
		3.コマ主題細目	ネズミ亜目に属する動物の形態学	
		4.コマ主題細目深度	①ネズミ亜目ネズミ科の動物について学ぶ ②ネズミ亜目キヌゲネズミ科の動物について学ぶ ③ハムスター、スナネズミの臭腺について学ぶ ④シリアンハムスターの雌雄の違いについて学ぶ	
		5.次コマとの関係	ネズミ亜目の動物の消化器系、生殖器系に進む	
21	比較解剖 ネズミ亜目の体の構造と機能②	1.シラバスとの関係	イヌネコ以外の動物(ネズミ亜目)の解剖生理を理解する	
		2.コマ主題	ネズミ亜目の消化器系、生殖器系について理解する	
		3.コマ主題細目	ネズミ亜目に属する動物の消化器系、生殖器系	
		4.コマ主題細目深度	①ネズミ亜目に属する動物の消化器系、生殖器系の構造について学ぶ ②ラットには胆嚢が無いこと、雑食性で盲腸が存在することを学ぶ ③ラットの雄が形成する膣栓について学ぶ ④ラットの雌は不完全性周期であることを学ぶ	
		5.次コマとの関係	ヤマアラシ亜目に属する動物の構造と機能に進む	
22	比較解剖 ヤマアラシ亜目の体の構造と機能	1.シラバスとの関係	イヌネコ以外の動物(ヤマアラシ亜目)の解剖生理を理解する	
		2.コマ主題	モルモット、チンチラの体の構造について理解する	
		3.コマ主題細目	モルモット、チンチラの体の構造	
		4.コマ主題細目深度	①モルモットの体の構造について学ぶ ②モルモットの盲腸について学ぶ ③モルモットの前後肢の指について学ぶ ④モルモットはゲッ歯目ヤマアラシ亜目テンジクネズミ科であることを学ぶ ⑤モルモットの歯式、妊娠期間、新生子の状態を学ぶ	
		5.次コマとの関係	フェレットの構造と生理的機能に進む	
23	比較解剖 フェレットの体の構造と機能	1.シラバスとの関係	イヌネコ以外の動物(フェレット)の解剖生理を理解する	
		2.コマ主題	フェレットの体の構造と機能について理解する	
		3.コマ主題細目	フェレットの体の構造と生理的機能	
		4.コマ主題細目深度	①フェレットの体の構造について学ぶ ②排卵と排卵しない場合の貧血について学ぶ ③消化器系が短いことを学ぶ ④避妊去勢後になりやすい疾患について学ぶ	
		5.次コマとの関係	爬虫類(カメ目)のからだの構造に進む	
24	比較解剖 爬虫類の体の構造と機能①	1.シラバスとの関係	イヌネコ以外の動物(カメ目)の解剖生理を理解する	
		2.コマ主題	カメの体の構造と機能について理解する	
		3.コマ主題細目	カメの体の構造と機能	
		4.コマ主題細目深度	①カメの体の構造について学ぶ ②心臓の構造について学ぶ ③水棲と陸棲の窒素化合物の排泄パターンの違いを学ぶ	
		5.次コマとの関係	爬虫類(トカゲ亜目、ヘビ亜目)のからだの構造に進む	

25	比較解剖 爬虫類の体の構造と機能②	1.シラバスとの関係	イヌネコ以外の動物(トカゲ亜目、ヘビ亜目)の解剖生理を理解する	
		2.コマ主題	トカゲ・ヘビの体の構造と機能を理解する	
		3.コマ主題細目	トカゲ・ヘビの体の構造と機能	
		4.コマ主題細目深度	①トカゲ亜目、ヘビ亜目の体の構造について学ぶ ②ワニ類、トカゲ、ヘビ類の心臓の違いについて学ぶ ③ヘビ類のピット器官について学ぶ	
		5.次コマとの関係	産業動物の体の構造と機能に進む	
26	比較解剖 産業動物の体の構造と機能①	1.シラバスとの関係	イヌネコ以外の動物(産業動物)の解剖生理を理解する	
		2.コマ主題	反芻動物の体の構造と機能について理解する	
		3.コマ主題細目	反芻動物の体の構造と機能	
		4.コマ主題細目深度	①反芻動物について学ぶ ②反芻動物の体の構造について学ぶ ③反芻動物の上顎切歯が無いこと、歯床板の存在を学ぶ	
		5.次コマとの関係	草食動物の体の構造と機能に進む	
27	比較解剖 産業動物の体の構造と機能②	1.シラバスとの関係	イヌネコ以外の動物(草食動物)の解剖生理を理解する	
		2.コマ主題	草食動物の体の構造と機能について理解する	
		3.コマ主題細目	ウマの体の構造と機能	
		4.コマ主題細目深度	①ウマの体の構造について理解する ②嘔吐ができないこと、胃破裂をおこすことがあることを学ぶ ③発達した盲腸、重複結腸について学ぶ	
		5.次コマとの関係	ブタの体の構造と機能に進む	
28	比較解剖 産業動物の体の構造と機能③	1.シラバスとの関係	イヌネコ以外の動物(ブタ)の解剖生理を理解する	
		2.コマ主題	雑食動物のからだの構造と機能について理解する	
		3.コマ主題細目	ブタの体の構造と機能	
		4.コマ主題細目深度	①ブタの体の構造について理解する ②胃憩室について学ぶ ③円錐状結腸について学ぶ ④歯式について学ぶ	
		5.次コマとの関係	魚類の体の構造と生理的機能に進む	
29	比較解剖 魚類の体の構造と機能①	1.シラバスとの関係	イヌネコ以外の動物(魚類)の解剖生理を理解する	
		2.コマ主題	魚類の体の構造と機能を理解する	
		3.コマ主題細目	魚類の体の構造と機能	
		4.コマ主題細目深度	①魚類の体の構造について学ぶ ②淡水魚と海水魚の窒素化合物の排泄方法の違いについて学ぶ ③胃袋が存在せず幽門垂が代役となることを学ぶ ④軟体動物であるタコ、イカの血色素について学ぶ	
		5.次コマとの関係	イヌ、ネコの骨格系に進む	
30	比較解剖 イヌとネコの骨格系	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコの骨格系を理解する	
		2.コマ主題	イヌ、ネコの骨格系を理解する	
		3.コマ主題細目	イヌ、ネコの骨格系	
		4.コマ主題細目深度	①イヌの骨格系について学ぶ ②ネコの骨格系について学ぶ ③イヌ、ネコの骨格系の違いについて学ぶ	
		5.次コマとの関係	動物機能形態学2に進む	

動物形態機能学－2

学科	動物看護系学科	シラバス(概要)
コース		血液の循環とその調整及び呼吸に関わる形態と機能について学ぶ。生物は細胞によって構成されているが、その細胞の活動にはエネルギー並びにそのエネルギーの素となる栄養が必要である。また、栄養を燃焼させることによってエネルギーを生産するために酸素も不可欠である。この栄養素と酸素を体の隅々にまで運搬するのが血液である。また、酸素を体内に取り込む唯一の器官が呼吸器である。循環器系と呼吸器系は酸素を取り込み、運搬する過程で密接な関係にあり、循環系には血管系とリンパ系があり、リンパ系は免疫という自己防衛機能に重要な機能を持つ。生体が活動し、生存していくことに不可欠な酸素と栄養素の運搬について理解することを目標とする。
履修条件	動物形態機能学－1を履修すること	
ユニット		
科目名	動物形態機能学－2	
単位	1(1～5合わせて5単位)	
履修時間	30時間(1～5合わせて150時間)	
回数	30回(1～5合わせて150回)	
授業形態	講義	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員会	筆記試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①系統看護学講座解剖生理学(医学書院)②わかりやすい獣医解剖生理学(文永堂出版)③家畜の解剖と生理(養賢堂)	

コマシラバス				
50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	循環器系の構成①	1.シラバスとの関係	体内にある循環系を理解する	
		2.コマ主題	循環器系の構成を理解する	
		3.コマ主題細目	体内における循環系	
		4.コマ主題細目深度	①循環系の概略について学ぶ ②体循環と肺循環について学ぶ	
		5.次コマとの関係	心臓に進む	
2	循環器系の構成②	1.シラバスとの関係	循環器系を理解するために心臓について理解する①	
		2.コマ主題	心臓の構造について理解する	
		3.コマ主題細目	心臓の解剖学的構造	
		4.コマ主題細目深度	①心臓の位置と外形 ②心臓の4つの部屋と4つの弁 ③ポンプとしての心臓 ④構造面からみた心臓	
		5.次コマとの関係	引き続き心臓を学ぶ	
3	循環器系の構成③	1.シラバスとの関係	循環器系を理解するために心臓について理解する②	
		2.コマ主題	心臓の構造について理解する	
		3.コマ主題細目	心臓の血管と神経	
		4.コマ主題細目深度	①冠状血管系について学ぶ ②冠状循環について学ぶ ③心臓に分布する神経について学ぶ	
		5.次コマとの関係	心臓が動く仕組みに進む	
4	心臓の生理的機能①	1.シラバスとの関係	循環器系を理解するために心臓が動く仕組みを理解する	
		2.コマ主題	心臓の拍出機能について理解する	
		3.コマ主題細目	心臓の興奮と伝達	
		4.コマ主題細目深度	①心臓の自動性と歩調とりについて学ぶ ②興奮の伝播(刺激伝導系)について学ぶ ③リズムの変化と潜在的歩調とりについて学ぶ	
		5.次コマとの関係	心臓の拍出機能に進む	
5	心臓の生理的機能②	1.シラバスとの関係	循環器系を理解するために心臓の拍出機能を理解する	
		2.コマ主題	心臓の拍出機能の読みとり方を理解する	
		3.コマ主題細目	心電図	
		4.コマ主題細目深度	①心電図の導出について学ぶ ②心電図で記録される波形とその意味について ③波形の異常について学ぶ	
		5.次コマとの関係	心臓の拍出の仕組みに進む	
6	心臓の生理的機能③	1.シラバスとの関係	循環器系を理解するために心臓の拍出の仕組みを理解する	
		2.コマ主題	心臓の拍出機能について理解する	
		3.コマ主題細目	心臓の収縮	
		4.コマ主題細目深度	①心拍出量と血圧の調節について学ぶ ②心周期について学ぶ ③心音と心雑音について学ぶ ④大動物と小動物の心拍数の違いについて学ぶ	
		5.次コマとの関係	血管に進む	
7	末梢循環器系の構造①	1.シラバスとの関係	循環器系を理解するために血管を理解する①	
		2.コマ主題	血管の構造について理解する①	
		3.コマ主題細目	動脈	
		4.コマ主題細目深度	①動脈の構造について学ぶ ②動脈と脈拍について学ぶ	
		5.次コマとの関係	毛細血管に進む	
8	末梢循環器系の構造②	1.シラバスとの関係	循環器系を理解するために血管について理解する②	
		2.コマ主題	血管の構造について理解する②	
		3.コマ主題細目	毛細血管	
		4.コマ主題細目深度	①毛細血管の構造について学ぶ ②臓器、部位による毛細血管の違いについて学ぶ ③側副循環と吻合について学ぶ ④毛細血管の体温調節について学ぶ ⑤物質交換の機序について学ぶ ⑥浮腫について学ぶ	
		5.次コマとの関係	静脈に進む	

9	末梢循環器系の構造③	1.シラバスとの関係	循環器系を理解するために血管について理解する③	
		2.コマ主題	血管の構造について理解する③	
		3.コマ主題細目	静脈	
		4.コマ主題細目深度	①静脈の構造について学ぶ ②静脈弁と筋ポンプについて学ぶ ③体循環としての静脈と門脈について学ぶ	
		5.次コマとの関係	肺循環に進む	
10	末梢循環器系の構造④	1.シラバスとの関係	循環器系を理解するために肺循環について理解する	
		2.コマ主題	肺循環の血管について理解する	
		3.コマ主題細目	肺循環の血管	
		4.コマ主題細目深度	①肺動脈を流れる血液について学ぶ ②肺静脈を流れる血液について学ぶ	
		5.次コマとの関係	体循環の動脈に進む	
11	末梢循環器系の構造⑤	1.シラバスとの関係	循環器系を理解するために体循環について理解する①	
		2.コマ主題	体循環の動脈について理解する	
		3.コマ主題細目	体循環の動脈	
		4.コマ主題細目深度	①大動脈の分岐について学ぶ ②横隔膜を通過する大動脈について学ぶ ③大腿動脈の位置と脈拍の触知について学ぶ	
		5.次コマとの関係	体循環の静脈に進む	
12	末梢循環器系の構造⑥	1.シラバスとの関係	循環器系を理解するために体循環について理解する②	
		2.コマ主題	体循環の静脈について理解する	
		3.コマ主題細目	体循環の静脈と門脈系	
		4.コマ主題細目深度	①大静脈の分岐について学ぶ ②横隔膜を通過する大静脈について学ぶ ③門脈について学ぶ	
		5.次コマとの関係	血圧に進む	
13	血液の循環の調整①	1.シラバスとの関係	血液循環を起こす血圧について理解する	
		2.コマ主題	血液循環の調節について理解する	
		3.コマ主題細目	血圧	
		4.コマ主題細目深度	①「心臓の生理的機能3」の復習 ②血圧について学ぶ ③血圧の変化(血液容量、総断面積、血流速度)について学ぶ	
		5.次コマとの関係	血圧の調整に進む	
14	血液の循環の調整②	1.シラバスとの関係	血圧の調整について理解する	
		2.コマ主題	血圧・血流量の調整について理解する①	
		3.コマ主題細目	血圧の調整	
		4.コマ主題細目深度	①レニン－アンギオテンシン系について学ぶ ②ノルアドレナリンについて学ぶ ③グルココルチコイドについて学ぶ ④アドレナリンについて学ぶ	
		5.次コマとの関係	リンパ系に進む	
15	リンパとリンパ管①	1.シラバスとの関係	リンパ系について理解する①	
		2.コマ主題	リンパとリンパ管について理解する	
		3.コマ主題細目	リンパ系の構造	
		4.コマ主題細目深度	①リンパ管の分布と血管分布について学ぶ ②リンパ液について学ぶ ③リンパ節について学ぶ ④胸管について学ぶ	
		5.次コマとの関係	リンパ循環に進む	
16	リンパとリンパ管②	1.シラバスとの関係	リンパ系について理解する②	
		2.コマ主題	リンパ循環について理解する	
		3.コマ主題細目	微小循環	
		4.コマ主題細目深度	①リンパ循環と胸管の関係について学ぶ ②悪性腫瘍の転移について学ぶ	
		5.次コマとの関係	胸腺に進む	
17	リンパとリンパ管③	1.シラバスとの関係	リンパ系について理解する③	
		2.コマ主題	胸腺について理解する	
		3.コマ主題細目	胸腺	
		4.コマ主題細目深度	①胸腺の位置について学ぶ ②年齢による胸腺の違いについて学ぶ ③胸腺の機能について学ぶ	
		5.次コマとの関係	脾臓に進む	
18	リンパとリンパ管④	1.シラバスとの関係	リンパ系について理解する④	
		2.コマ主題	脾臓について理解する	
		3.コマ主題細目	脾臓	
		4.コマ主題細目深度	①脾臓の位置について学ぶ ②脾臓の血液循環について学ぶ ③脾臓の機能について学ぶ	
		5.次コマとの関係	呼吸器系(上気道)に進む	
19	呼吸器の構造①	1.シラバスとの関係	呼吸器系について理解する①	
		2.コマ主題	上気道について理解する	
		3.コマ主題細目	上気道	
		4.コマ主題細目深度	①鼻、鼻腔、咽頭について学ぶ ②喉頭における喉頭蓋の機能について学ぶ	
		5.次コマとの関係	下気道に進む	

動物形態機能学－2

20	呼吸器の構造②	1.シラバスとの関係	呼吸器系について理解する②	
		2.コマ主題	下気道と肺んついて理解する	
		3.コマ主題細目	下気道と肺	
		4.コマ主題細目深度	①気管、気管支、肺について学ぶ ②気管輪について学ぶ ③肺葉の構造について学ぶ ④動物種による肺葉数の違いについて学ぶ	
		5.次コマとの関係	呼吸器系の働きに進む	
21	呼吸器系の働き①	1.シラバスとの関係	呼吸器系について理解する③	
		2.コマ主題	呼吸器系の働きについて理解する	
		3.コマ主題細目	呼吸器系と血液を介しての物質のやりとり	
		4.コマ主題細目深度	①呼吸器系の機能について学ぶ ②呼吸器系における血液の機能について学ぶ	
		5.次コマとの関係	内呼吸と外呼吸に進む	
22	呼吸気系の働き②	1.シラバスとの関係	呼吸器系について理解する④	
		2.コマ主題	呼吸について理解する①	
		3.コマ主題細目	内呼吸と外呼吸	
		4.コマ主題細目深度	①内呼吸について学ぶ ②外呼吸について学ぶ	
		5.次コマとの関係	気道と肺胞に進む	
23	呼吸気系の働き③	1.シラバスとの関係	呼吸器系について理解する⑤	
		2.コマ主題	呼吸について理解する②	
		3.コマ主題細目	気道と肺胞	
		4.コマ主題細目深度	①気道の細胞と異物の排出について学ぶ ②クララ細胞について学ぶ ③肺胞について学ぶ	
		5.次コマとの関係	呼吸のメカニズムに進む	
24	呼吸気系の働き④	1.シラバスとの関係	呼吸器系について理解する⑥	
		2.コマ主題	呼吸のメカニズムについて理解する	
		3.コマ主題細目	呼吸のメカニズム	
		4.コマ主題細目深度	①呼吸のメカニズムについて学ぶ ②呼吸筋と肺の収縮について学ぶ ③せき、くしゃみ、しゃっくり、あくびについて学ぶ	
		5.次コマとの関係	呼吸気量に進む	
25	呼吸気系の働き⑤	1.シラバスとの関係	呼吸器系について理解する⑦	
		2.コマ主題	呼吸気量について理解する	
		3.コマ主題細目	呼吸気量	
		4.コマ主題細目深度	①呼吸数と心拍数の連動について学ぶ ②換気量について学ぶ ③肺活量について学ぶ ④残気量について学ぶ	
		5.次コマとの関係	ガス交換に進む	
26	呼吸気系の働き⑥	1.シラバスとの関係	呼吸器系について理解する⑧	
		2.コマ主題	ガス交換とガスの運搬について理解する①	
		3.コマ主題細目	ガス交換	
		4.コマ主題細目深度	①肺におけるガス交換について学ぶ ②吸気、呼気のガス組成と血液ガスについて学ぶ	
		5.次コマとの関係	ガスの運搬に進む	
27	呼吸気系の働き⑦	1.シラバスとの関係	呼吸器系について理解する⑨	
		2.コマ主題	ガス交換とガスの運搬について理解する②	
		3.コマ主題細目	ガスの運搬	
		4.コマ主題細目深度	①酸素の運搬について学ぶ ②酸素解離曲線について学ぶ ③二酸化炭素の運搬について学ぶ	
		5.次コマとの関係	肺循環に進む	
28	呼吸気系の働き⑧	1.シラバスとの関係	呼吸器系について理解する⑩	
		2.コマ主題	肺の循環と血液について理解する	
		3.コマ主題細目	肺循環	
		4.コマ主題細目深度	①「循環器系の構成1」の肺循環について復習する ②「末梢循環器系の構造4」の肺動脈、肺静脈について復習する ③肺の血流と血圧 ④換気と血流の調整 ⑤胎子循環について学ぶ	
		5.次コマとの関係	呼吸運動の調整に進む	
29	呼吸気系の働き⑨	1.シラバスとの関係	呼吸器系について理解する⑪	
		2.コマ主題	呼吸運動の調整について理解する	
		3.コマ主題細目	呼吸運動の調整	
		4.コマ主題細目深度	①呼吸の神経性調節について学ぶ ②化学受容器(頸動脈小体)について学ぶ ③酸塩基平衡について学ぶ ④過換気症候群	
		5.次コマとの関係	呼吸器系の病態生理に進む	
30	呼吸器系の病態生理	1.シラバスとの関係	呼吸器系について理解する⑫	
		2.コマ主題	呼吸器系の病態生理について理解する	
		3.コマ主題細目	呼吸の過程で生じる異常による病態	
		4.コマ主題細目深度	①アシドーシスとアルカローシスについて学ぶ ②換気障害について学ぶ ②拡散障害について学ぶ ③換気血流比不均等について学ぶ	
		5.次コマとの関係	動物形態機能学3、血液に進む	

動物形態機能学－3

学科	動物看護系学科	シラバス(概要)
コース		動物が自然界で生存していくために、自らを防護する構造や機能が備わっている。外部からの刺激や異物が体内に侵入するのを防ぐため、皮膚に覆われ、また、一旦侵入した異物を排除するための機能が免疫機能として体内に存在する。それらの機能をつかさどる皮膚や血液について理解することを目指す。また、生体内機能が正常に働くために一定の体温を保つ恒常性についても理解し、血液とその造血器、血球、血漿成分、骨髄の形態に関する基礎的な知識を得る。さらに、免疫系の基本的な仕組みを理解し、外部環境からの防御として生体防御機構について、また外皮の構造と機能、免疫のしくみ、体温調節に関する基礎知識を得る。
履修条件	動物形態機能学－1・2を履修すること	
ユニット		
科目名	動物形態機能学－3	
単位	1(1～5合わせて5単位)	
履修時間	30時間(1～5合わせて150時間)	
回数	30回(1～5合わせて150回)	
授業形態	講義	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員会	筆記試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①系統看護学講座解剖生理学(医学書院)②わかりやすい獣医解剖生理学(文永堂出版)③家畜の解剖と生理(養賢堂)	

コマシラバス

50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	血液①	1.シラバスとの関係	血液について理解する①	
		2.コマ主題	血液の組成と機能について理解する①	
		3.コマ主題細目	血液の組成	
		4.コマ主題細目深度	①血漿について学ぶ ②血餅、血清について学ぶ ③細胞成分について学ぶ ④フィブリノーゲンとフィブリンについて学ぶ	
		5.次コマとの関係	血液について理解する②	
2	血液②	1.シラバスとの関係	血液について理解する②	
		2.コマ主題	血液の組成と機能について理解する②	
		3.コマ主題細目	血液の機能	
		4.コマ主題細目深度	①血液の水分と物質輸送について学ぶ ②白血球の機能について学ぶ ③血小板の止血作用について学ぶ	
		5.次コマとの関係	赤血球に進む	
3	血液③	1.シラバスとの関係	血液について理解する③	
		2.コマ主題	赤血球について理解する①	
		3.コマ主題細目	貧血の指標となるもの	
		4.コマ主題細目深度	①赤血球の数について学ぶ ②血色素であるヘモグロビン濃度について学ぶ ③ヘマトクリットについて学ぶ ④哺乳類の赤血球の特徴について学ぶ	
		5.次コマとの関係	ヘモグロビンの構造と機能に進む	
4	血液④	1.シラバスとの関係	血液について理解する④	
		2.コマ主題	赤血球について理解する②	
		3.コマ主題細目	ヘモグロビンの構造と機能	
		4.コマ主題細目深度	①ヘモグロビンの構造(ヘムタンパクとグロビンタンパク)について学ぶ ②ヘモグロビンと酸素の結合について学ぶ	
		5.次コマとの関係	赤血球について理解する⑤	
5	血液⑤	1.シラバスとの関係	血液について理解する⑤	
		2.コマ主題	赤血球について理解する③	
		3.コマ主題細目	赤血球の破壊と新生	
		4.コマ主題細目深度	①赤血球を産生とエリスロポエチンについて学ぶ ②赤血球の破壊の方法について学ぶ ③動物種による赤血球の寿命の違いについて学ぶ ④ヘムタンパクから作られる胆汁色素(ビリルビン)について学ぶ	
		5.次コマとの関係	白血球(顆粒球)に進む	
6	血液⑥	1.シラバスとの関係	血液について理解する⑥	
		2.コマ主題	白血球について理解する①	
		3.コマ主題細目	白血球の種類①	
		4.コマ主題細目深度	①顆粒球について学ぶ ②好中球について学ぶ ③好酸球について学ぶ ④好塩基球について学ぶ ⑤イヌネコにおける顆粒球の割合について学ぶ	
		5.次コマとの関係	白血球(単球、リンパ球)に進む	
7	血液⑦	1.シラバスとの関係	血液について理解する⑦	
		2.コマ主題	白血球について理解する②	
		3.コマ主題細目	白血球の種類②	
		4.コマ主題細目深度	①単球について学ぶ ②リンパ球について学ぶ ③マクロファージについて学ぶ	
		5.次コマとの関係	血小板に進む	
8	血液⑧	1.シラバスとの関係	血液について理解する⑧	
		2.コマ主題	血小板について理解する	
		3.コマ主題細目	血小板の機能	
		4.コマ主題細目深度	①血小板の生成について学ぶ ②血小板のはたらき(一次止血)について学ぶ ③二次止血、止血栓の除去について学ぶ	
		5.次コマとの関係	血漿タンパク質に進む	

9	血液⑨	1.シラバスとの関係	血液について理解する⑨	
		2.コマ主題	血漿タンパク質について理解する	
		3.コマ主題細目	血漿タンパク質の働き	
		4.コマ主題細目深度	①血漿タンパク質の種類について学ぶ ②グロブリンの種類について学ぶ ③物質の運搬 ④血液凝固への関与 ⑤抗体としての役割	
		5.次コマとの関係	血液凝固に進む	
10	血液⑩	1.シラバスとの関係	血液について理解する⑩	
		2.コマ主題	血液凝固	
		3.コマ主題細目	血液凝固因子と血液凝固	
		4.コマ主題細目深度	①血液凝固因子について学ぶ ②プロトロンビンとビタミンKについて学ぶ ③血液凝固とカルシウムイオンについて学ぶ ④血液凝固防止剤とワルファリン中毒について学ぶ	
		5.次コマとの関係	線維素溶解に進む	
11	血液⑪	1.シラバスとの関係	血液について理解する⑪	
		2.コマ主題	線維素溶解	
		3.コマ主題細目	出血から繊維素溶解まで	
		4.コマ主題細目深度	①出血時間について学ぶ ②凝固時間について学ぶ ③線維素溶解とプラスミンについて学ぶ ④播種性血管内凝固(DIC)について学ぶ	
		5.次コマとの関係	人の血液型に進む	
12	血液⑫	1.シラバスとの関係	血液について理解する⑫	
		2.コマ主題	人の血液型について理解する	
		3.コマ主題細目	人の血液型	
		4.コマ主題細目深度	①ABO式血液型と複対立遺伝子について学ぶ ②Rh式血液型について学ぶ	
		5.次コマとの関係	イヌとネコの血液型に進む	
13	血液⑬	1.シラバスとの関係	血液について理解する⑬	
		2.コマ主題	イヌとネコの血液型について理解する	
		3.コマ主題細目	イヌとネコの血液型	
		4.コマ主題細目深度	①イヌの血液型(DEA)式について学ぶ ②ネコの血液型とその割合について学ぶ	
		5.次コマとの関係	ヒトの輸血に進む	
14	血液⑭	1.シラバスとの関係	血液について理解する⑭	
		2.コマ主題	輸血について理解する①	
		3.コマ主題細目	ヒトの輸血	
		4.コマ主題細目深度	①赤血球にある凝集原について学ぶ ②血漿にある凝集素について学ぶ	
		5.次コマとの関係	交差適合試験(クロスマッチ)に進む	
15	血液⑮	1.シラバスとの関係	血液について理解する⑮	
		2.コマ主題	輸血について理解する②	
		3.コマ主題細目	交差適合試験(クロスマッチ)	
		4.コマ主題細目深度	①交差適合試験の必要性について学ぶ ②キットを使った交差適合試験について学ぶ	
		5.次コマとの関係	イヌ、ネコの輸血	
16	血液⑯	1.シラバスとの関係	血液について理解する⑯	
		2.コマ主題	輸血について理解する③	
		3.コマ主題細目	イヌ、ネコの輸血	
		4.コマ主題細目深度	①イヌの輸血における急性溶血反応について学ぶ ②ネコの輸血における急性溶血反応について学ぶ	
		5.次コマとの関係	外皮に進む	
17	外部環境からの防御①	1.シラバスとの関係	動物が自らを防護するための外皮について理解する①	
		2.コマ主題	皮膚の構造と機能について理解する	
		3.コマ主題細目	皮膚の組織構造	
		4.コマ主題細目深度	①重層扁平上皮からなる表皮について学ぶ ②真皮には血管、神経、膠原線維、弾性繊維が含まれることを学ぶ ③皮下組織には皮下脂肪を貯める役割があることを学ぶ	
		5.次コマとの関係	皮膚の附属器に進む	
18	外部環境からの防御②	1.シラバスとの関係	動物が自らを防護するための外皮について理解する②	
		2.コマ主題	皮膚の附属器について理解する	
		3.コマ主題細目	皮膚の付属器	
		4.コマ主題細目深度	①毛(粗毛、下毛)について学ぶ ②皮膚腺(皮脂腺、汗腺、ヒトとの違い)について学ぶ ③肉球について学ぶ ④鉤爪について学ぶ	
		5.次コマとの関係	皮膚の血管と神経に進む	
19	外部環境からの防御③	1.シラバスとの関係	動物が自らを防護するための外皮について理解する③	
		2.コマ主題	皮膚の血管と神経について理解する	
		3.コマ主題細目	皮膚の血管と神経	
		4.コマ主題細目深度	①皮膚の血管について学ぶ ②痛覚、圧覚を感知する皮膚の神経について学ぶ ③皮膚の機能について学ぶ	
		5.次コマとの関係	非特異的防御機構に進む	

20	外部環境からの防御④	1.シラバスとの関係	動物が自らを防護するための防御機構について理解する①	
		2.コマ主題	非特異的防御機構について理解する	
		3.コマ主題細目	非特異的防御機構	
		4.コマ主題細目深度	①皮膚常在菌による皮膚における防御について学ぶ ②消化管、気道、尿路、生殖器系の粘膜における防御について学ぶ ②炎症部位で行われる貪食作用について学ぶ ③細胞障害物質による防御について学ぶ	
		5.次コマとの関係	特異的防御機構に進む	
21	外部環境からの防御⑤	1.シラバスとの関係	動物が自らを防護するための防御機構について理解する②	
		2.コマ主題	特異的防御機構について理解する	
		3.コマ主題細目	特異的防御機構	
		4.コマ主題細目深度	①免疫について学ぶ ②免疫に関与するリンパ球の機能について学ぶ ③B細胞と液性免疫について学ぶ ④T細胞と細胞性免疫、ヘルパーT細胞について学ぶ	
		5.次コマとの関係	液性免疫と抗体に進む	
22	外部環境からの防御⑥	1.シラバスとの関係	動物が自らを防護するための防御機構について理解する③	
		2.コマ主題	液性免疫と抗体について理解する	
		3.コマ主題細目	液性免疫と抗体	
		4.コマ主題細目深度	①抗体の種類(IgA, IgE, IgD, IgM, IgG)について学ぶ ②IgGが最も多いこと、IgEが1型アレルギーに関与するなどそれぞれの抗体の機能、特徴について学ぶ	
		5.次コマとの関係	ワクチン接種とアレルギーに進む	
23	外部環境からの防御⑦	1.シラバスとの関係	動物が自らを防護するための防御機構について理解する④	
		2.コマ主題	ワクチン接種とアレルギーについて理解する	
		3.コマ主題細目	ワクチン接種とアレルギー	
		4.コマ主題細目深度	①予防としてのワクチン接種について学ぶ- ②免疫異常であるアレルギー(Ⅰ型～Ⅳ型)について学ぶ	
		5.次コマとの関係	炎症に進む	
24	外部環境からの防御⑧	1.シラバスとの関係	動物が自らを防護するための防御機構について理解する⑤	
		2.コマ主題	生体防御の関連臓器について理解する	
		3.コマ主題細目	生体防御の関連臓器	
		4.コマ主題細目深度	①リンパ節、胸腺、脾臓の復習(動物機能形態学Ⅱ参照) ②炎症の機序について学ぶ	
		5.次コマとの関係	熱の出納にすすむ	
25	外部環境からの防御⑨	1.シラバスとの関係	体温とその調節について理解する	
		2.コマ主題	熱の出納について理解する	
		3.コマ主題細目	熱の出納について	
		4.コマ主題細目深度	①骨格筋で50～60%を占める熱産生について学ぶ ②赤筋と白筋について学ぶ ③熱の放散について学ぶ	
		5.次コマとの関係	動物種による体温の違いに進む	
26	外部環境からの防御⑩	1.シラバスとの関係	動物種による体温の違いについて理解する	
		2.コマ主題	動物による体温の違いについて理解する	
		3.コマ主題細目	恒温動物と変温動物	
		4.コマ主題細目深度	①恒温動物について学ぶ ②変温動物について学ぶ	
		5.次コマとの関係	体温調節に進む	
27	外部環境からの防御⑪	1.シラバスとの関係	体温調節について理解する	
		2.コマ主題	体温調節について理解する	
		3.コマ主題細目	体温調節法	
		4.コマ主題細目深度	①ホルモンによる体温調節について学ぶ ②自律神経による体温調節について学ぶ ③パンティングについて学ぶ	
		5.次コマとの関係	高体温と低体温にすすむ	
28	外部環境からの防御⑫	1.シラバスとの関係	いろいろな熱型について理解する	
		2.コマ主題	いろいろな熱型について理解する	
		3.コマ主題細目	高体温と低体温	
		4.コマ主題細目深度	①高熱時の熱型(稽留熱、回帰熱、波状熱、間歇熱、弛張熱)について学ぶ ②低体温について学ぶ	
		5.次コマとの関係	血液のまとめ	
29	まとめ①	1.シラバスとの関係	血液について	
		2.コマ主題	血液の機能	
		3.コマ主題細目	血液の機能の概要	
		4.コマ主題細目深度	①血液の運搬に関する機能 ②血液の免疫に関する機能 ③血液凝固の機序	
		5.次コマとの関係	自己防護機能のまとめ	
30	まとめ②	1.シラバスとの関係	生体防護について	
		2.コマ主題	自己防護について	
		3.コマ主題細目	生体に備わった自己防護機能	
		4.コマ主題細目深度	①皮膚 ②免疫 ③体温調節	
		5.次コマとの関係	動物形態機能学4、神経系に進む	

動物形態機能学－4

学科	動物看護系学科	シラバス(概要)
コース		生体は、外界からさまざまな情報を取り込み、その器官が感覚器であり、感覚器で取り込まれた情報は神経を介して中枢に伝えられる。中枢において処理された情報は、再び神経を介して実際に処理を行う筋肉や骨格へと伝えられ、その情報に従って、筋肉や骨が作動し、情報に対する処理が完了する。このように動物は常に外からの情報に応じた反応ができるよう、構造と機能を備えている。それらの機能、構造について理解する。情報の受容と処理では、脳と神経における神経組織、中枢神経系および末梢神経系の解剖生理に関する基礎知識を、また感覚と情報伝達では視覚、聴覚、嗅覚、皮膚感覚、痛覚の解剖生理学に関する基礎知識を、体幹の支持と運動では骨と関節、骨格筋と運動、各部位の運動器に関する基礎知識についても学ぶ。
履修条件	動物形態機能学－1～3を履修すること	
ユニット		
科目名	動物形態機能学－4	
単位	1(1～5合わせて5単位)	
履修時間	30時間(1～5合わせて150時間)	
回数	30回(1～5合わせて150回)	
授業形態	講義	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員会	筆記試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①系統看護学講座解剖生理学(医学書院)②わかりやすい獣医解剖生理学(文永堂出版)③家畜の解剖と生理(養賢堂)	

コマシラバス				
50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	情報の受容と処理①	1.シラバスとの関係	情報の受容と処理に関与する神経系について理解する	
		2.コマ主題	神経系の構造と機能について理解する①	
		3.コマ主題細目	神経細胞と支持細胞	
		4.コマ主題細目深度	①ニューロン(神経細胞)について学ぶ ②シナプス ③グリア細胞 ④シュワン細胞 ⑤有髄神経線維と無髄神経線維	
		5.次コマとの関係	興奮の伝達に進む	
2	情報の受容と処理②	1.シラバスとの関係	情報の受容と処理に関与する神経系について理解する	
		2.コマ主題	神経系の構造と機能について理解する②	
		3.コマ主題細目	興奮の伝達(ニューロンとシナプス)	
		4.コマ主題細目深度	①ニューロンでの興奮の伝導について学ぶ ②電気的伝導について、脱分極、過分極、再分極について学ぶ ③化学的伝導について、神経物質について学ぶ	
		5.次コマとの関係	神経系の構造に進む	
3	情報の受容と処理③	1.シラバスとの関係	情報の受容と処理に関与する神経系について理解する	
		2.コマ主題	神経系の構造と機能について理解する③	
		3.コマ主題細目	神経系の構造	
		4.コマ主題細目深度	①中枢神経と末梢神経について学ぶ ②脳幹について学ぶ ③体性神経について学ぶ ④自律神経について学ぶ	
		5.次コマとの関係	脊髄の構造と機能について学ぶ	
4	情報の受容と処理④	1.シラバスとの関係	情報の受容と処理に関与する神経系について理解する	
		2.コマ主題	中枢神経である脊髄と脳を理解する①	
		3.コマ主題細目	脊髄の構造と機能	
		4.コマ主題細目深度	①灰白質について学ぶ ②白質について学ぶ ③脊髄の構造について学ぶ ④脊髄反射について学ぶ	
		5.次コマとの関係	脳幹の構造と機能に進む	
5	情報の受容と処理⑤	1.シラバスとの関係	情報の受容と処理に関与する神経系について理解する	
		2.コマ主題	中枢神経である脊髄と脳を理解する①	
		3.コマ主題細目	脳幹の構造と機能	
		4.コマ主題細目深度	①脳幹の構造について学ぶ ②脳幹の機能について学ぶ ③延髄の機能について学ぶ	
		5.次コマとの関係	小脳、間脳の構造と機能に進む	
6	情報と受容と処理⑥	1.シラバスとの関係	情報の受容と処理に関与する神経系について理解する	
		2.コマ主題	中枢神経である脊髄と脳を理解する②	
		3.コマ主題細目	小脳、間脳の構造と機能	
		4.コマ主題細目深度	①小脳の構造と機能について学ぶ ②間脳の構造と機能について学ぶ ③視床下部と下垂体について学ぶ	
		5.次コマとの関係	大脳の機能と構造について学ぶ	
7	情報の受容と処理⑦	1.シラバスとの関係	情報の受容と処理に関与する神経系について理解する	
		2.コマ主題	中枢神経である脊髄と脳を理解する③	
		3.コマ主題細目	大脳の構造と機能	
		4.コマ主題細目深度	①大脳の構造について学ぶ ②大脳皮質の構造と機能について学ぶ ③大脳髄質の構造について学ぶ ④動物種による大脳の構造の違いについて学ぶ	
		5.次コマとの関係	髄膜、脳脊髄液、血液脳関門に進む	
8	情報の受容と処理⑧	1.シラバスとの関係	情報の受容と処理に関与する神経系について理解する	
		2.コマ主題	中枢神経である脊髄と脳を理解する④	
		3.コマ主題細目	髄膜、脳脊髄液、血液脳関門	
		4.コマ主題細目深度	①髄膜の構造(硬膜、クモ膜、軟膜)について学ぶ ②脳脊髄液の循環と機能について学ぶ ③血液脳関門の仕組みとその目的について学ぶ	
		5.次コマとの関係	脊髄神経と脳神経に進む	

9	情報の受容と処理⑨	1.シラバスとの関係	情報の受容と処理に関与する神経系について理解する	
		2.コマ主題	脊髄神経と脳神経について理解する	
		3.コマ主題細目	脊髄神経と脳神経	
		4.コマ主題細目深度	①脊髄神経の構成(腹根と背根による神経の違い)と機能について学ぶ ②脳神経12対について各機能を学ぶ(語呂合わせによって覚え方を学ぶ)	
		5.次コマとの関係	体性神経に続く	
10	情報の受容と処理⑩	1.シラバスとの関係	情報の受容と処理に関与する神経系について理解する	
		2.コマ主題	末梢神経について理解する	
		3.コマ主題細目	体性神経系の構成と機能	
		4.コマ主題細目深度	①末梢神経には体性神経と自律神経があることを学ぶ ②体性神経が骨格筋を支配することを学ぶ ③体性神経には運動神経、知覚神経、混合神経がある事を学ぶ	
		5.次コマとの関係	自律神経に進む	
11	情報の受容と処理⑪	1.シラバスとの関係	情報の受容と処理に関与する神経系について理解する	
		2.コマ主題	末梢神経について理解する	
		3.コマ主題細目	自律神経系の構成と機能	
		4.コマ主題細目深度	①自律神経が平滑筋、心筋を支配することを学ぶ ②交感神経と副交感神経の拮抗的二重支配について学ぶ	
		5.次コマとの関係	眼球の構造と付属器に進む	
12	感覚と情報伝達①	1.シラバスとの関係	外界から情報を取り込む器官である感覚器を理解する	
		2.コマ主題	眼の構造と視覚について理解する①	
		3.コマ主題細目	眼球の構造と付属器	
		4.コマ主題細目深度	①眼球の構造について詳細に学ぶ ②眼球の付属器:眼瞼について学ぶ ③眼球の付属機関:結膜について学ぶ ④眼球の付属機関:涙器について学ぶ ⑤眼球の付属機関:眼筋について学ぶ ⑥タペタム(輝板)について学ぶ	
		5.次コマとの関係	視覚に進む	
13	感覚と情報伝達②	1.シラバスとの関係	外界から情報を取り込む器官である感覚器を理解する	
		2.コマ主題	眼の構造と視覚について理解する②	
		3.コマ主題細目	視覚	
		4.コマ主題細目深度	①視覚はの網膜から視神経を通って間脳に伝わる機能について学ぶ ②遠近調節は毛様体筋による水晶体の厚さの調節によることを学ぶ ③明反応と暗反応に分かれる明暗反応について学ぶ ④眼球運動の調節	
		5.次コマとの関係	耳の構造に進む	
14	感覚と情報伝達③	1.シラバスとの関係	外界から情報を取り込む器官である感覚器を理解する	
		2.コマ主題	耳の構造と聴覚・平衡覚について理解する①	
		3.コマ主題細目	耳の構造	
		4.コマ主題細目深度	①耳の基本的構造(外耳、中耳、内耳)について学ぶ ②外耳の構造(イヌネコとヒトの違い)について学ぶ ③中耳の構造(耳小骨)について学ぶ ④内耳の構造(蝸牛と三半器官)について学ぶ	
		5.次コマとの関係	聴覚と平衡覚に進む	
15	感覚と情報伝達④	1.シラバスとの関係	外界から情報を取り込む器官である感覚器を理解する	
		2.コマ主題	耳の構造と聴覚・平衡覚について理解する②	
		3.コマ主題細目	聴覚と平衡覚	
		4.コマ主題細目深度	①音の伝わり方について学ぶ ②蝸牛のコルチ器官により音波を感じることを学ぶ ③難聴になる機序について学ぶ ④平衡覚について学ぶ	
		5.次コマとの関係	味覚に進む	
16	感覚と情報伝達⑤	1.シラバスとの関係	外界から情報を取り込む器官である感覚器を理解する	
		2.コマ主題	味覚について理解する	
		3.コマ主題細目	味覚器と味覚	
		4.コマ主題細目深度	①味覚器の構造について学ぶ ②味蕾による甘味、酸味、苦味、塩味、うま味の感知について学ぶ	
		5.次コマとの関係	嗅覚器と嗅覚に進む	
17	感覚と情報伝達⑥	1.シラバスとの関係	外界から情報を取り込む器官である感覚器を理解する	
		2.コマ主題	嗅覚について理解する	
		3.コマ主題細目	嗅覚器と嗅覚	
		4.コマ主題細目深度	①嗅覚器の構造について学ぶ ②嗅覚器の特徴(鋤鼻器)について学ぶ ③嗅覚の伝わり方について学ぶ	
		5.次コマとの関係	痛みと疼痛に進む	
18	感覚と情報伝達⑦	1.シラバスとの関係	外界から情報を取り込む器官である感覚器を理解する	
		2.コマ主題	痛覚について理解する	
		3.コマ主題細目	痛みの分類・疼痛の発生機序	
		4.コマ主題細目深度	①体性痛と内臓痛について学ぶ ②誘因による痛みの分類について学ぶ ③疼痛の伝導について学ぶ ④内因性鎮痛物質について	
		5.次コマとの関係	骨の形態と構造に進む	

動物形態機能学－4

19	からだの支持と運動①	1.シラバスとの関係	体を指示する骨格系について理解する	
		2.コマ主題	骨格を構成する骨について理解する①	
		3.コマ主題細目	骨の形態と構造	
		4.コマ主題細目深度	①形態による骨の名称について学ぶ ②骨の構造について学ぶ ③骨膜、骨髄について学ぶ ④長骨の構造について学ぶ	
		5.次コマとの関係	骨の組織と組成に進む	
20	からだの支持と運動②	1.シラバスとの関係	体を指示する骨格系について理解する	
		2.コマ主題	骨格を構成する骨について理解する②	
		3.コマ主題細目	骨の組織と組成	
		4.コマ主題細目深度	①骨芽細胞、骨細胞、破骨細胞について骨組織を学ぶ ②骨の組成について学ぶ ③複数の骨で構成される骨について学ぶ	
		5.次コマとの関係	骨の発生と成長、機能に進む	
21	からだの支持と運動③	1.シラバスとの関係	体を指示する骨格系について理解する	
		2.コマ主題	骨の発生と成長、機能について理解する	
		3.コマ主題細目	骨の発生と成長、機能	
		4.コマ主題細目深度	①骨の発生（カルシトニンとパラソルモン）について学ぶ ②骨の成長について学ぶ ③機械的支持・力学的役割について学ぶ ④カルシウムの貯蔵 ⑤造血について学ぶ	
		5.次コマとの関係	関節の構造と形状に進む	
22	からだの支持と運動④	1.シラバスとの関係	体を指示する骨格系について理解する	
		2.コマ主題	骨の連結部位である関節について理解する①	
		3.コマ主題細目	関節の構造と形状	
		4.コマ主題細目深度	①関節の一般構造について学ぶ ②関節の形状と可動性について学ぶ ③体の各部位の関節の形状について学ぶ	
		5.次コマとの関係	関節運動の障害、不動性の連結に進む	
23	からだの支持と運動⑤	1.シラバスとの関係	体を指示する骨格系について理解する	
		2.コマ主題	骨の連結部位である関節について理解する②	
		3.コマ主題細目	関節運動の障害、不動性の連結	
		4.コマ主題細目深度	①関節運動の障害（股関節形成不全、膝蓋骨脱臼）について学ぶ　②不動性の連結（仙腸関節）について学ぶ	
		5.次コマとの関係	筋系の構造による分類に進む	
24	からだの支持と運動⑥	1.シラバスとの関係	体の運動をつかさどる筋系について理解する	
		2.コマ主題	筋系について理解する	
		3.コマ主題細目	筋系の構造による分類	
		4.コマ主題細目深度	①骨格筋、平滑筋、心筋を随意性、分布部位によって比較し学ぶ②骨格筋、平滑筋、心筋を支配する神経、横紋の有無によって比較し学ぶ	
		5.次コマとの関係	骨格筋の構造に進む	
25	からだの支持と運動⑦	1.シラバスとの関係	体の運動をつかさどる筋系について理解する	
		2.コマ主題	骨格筋について理解する①	
		3.コマ主題細目	骨格筋の構造①	
		4.コマ主題細目深度	①筋原線維→骨格筋線維→筋束という骨格筋の形成について学ぶ ②筋束がまとまって筋肉になり、筋膜で覆われることを学ぶ	
		5.次コマとの関係	赤筋と白筋に進む	
26	からだの支持と運動⑧	1.シラバスとの関係	体の運動をつかさどる筋系について理解する	
		2.コマ主題	骨格筋について理解する②	
		3.コマ主題細目	骨格筋の構造②	
		4.コマ主題細目深度	①赤筋の構造と特徴について学ぶ ②白筋の構造と特徴について学ぶ	
		5.次コマとの関係	骨格筋の神経支配に進む	
27	からだの支持と運動⑨	1.シラバスとの関係	体の運動をつかさどる筋系について理解する	
		2.コマ主題	骨格筋が動く仕組みについて理解する	
		3.コマ主題細目	骨格筋の神経支配	
		4.コマ主題細目深度	①神経接合部における伝達物質と受容体について学ぶ ②筋収縮のメカニズムである滑走説について学ぶ	
		5.次コマとの関係	横隔膜に進む	
28	からだの支持と運動⑩	1.シラバスとの関係	体の運動をつかさどる筋系について理解する	
		2.コマ主題	横隔膜について理解する	
		3.コマ主題細目	横隔膜	
		4.コマ主題細目深度	①横隔膜の機能について学ぶ ②横隔膜を貫通する孔について学ぶ	
		5.次コマとの関係	腹壁を構成する筋に進む	
29	からだの支持と運動⑪	1.シラバスとの関係	体の運動をつかさどる筋系について理解する	
		2.コマ主題	腹壁を構成する筋について理解する	
		3.コマ主題細目	腹壁を構成する筋	
		4.コマ主題細目深度	①外腹斜筋、内腹斜筋について学ぶ ②腹横筋、腹直筋について学ぶ ③正中線（白線）について学ぶ	
		5.次コマとの関係	情報の受容と処理全般に進む	

動物形態機能学－4

30	まとめ	1.シラバスとの関係	情報の受容と処理全般について理解する	
		2.コマ主題	情報の受容から情報をもとにした処理について理解する	
		3.コマ主題細目	各器官における機能	
		4.コマ主題細目深度	①情報の受容器としての感覚器について学ぶ ②情報の伝達器としての神経、神経伝達物質と自律神経について学ぶ ③情報をもとに処理器官としての筋系骨格系について学ぶ	
		5.次コマとの関係	動物形態機能学5、消化器系に進む	

動物形態機能学－5

学科	動物看護系学科	シラバス（概要）
コース		動物が生存していくうえで不可欠なエネルギーの素、身体を作る素となるのが栄養素である。それを体内に取り込み、消化して吸収するのが消化器である。消化器系の機能である吸収、代謝、貯蔵をコントロールするのが自律神経と内分泌系である。体内に含まれる水分のコントロールには尿の生成をはじめとする泌尿器系の働きが大きく関与している。栄養の消化と吸収を理解するには、消化器の構造と機能を学ぶ必要がある。また、内臓機能の調節では、自律神経と内分泌の基本構造と機能を、体液調整と尿の生成では、腎機能と尿細管における再吸収と分泌、集合管における尿濃縮について、また、細胞外液の調整機序を知り、体液の調整を学ぶ。これらの機能により、生体内での恒常性の維持を理解することを目標とする。
履修条件	動物形態機能学－1～4を履修すること	
ユニット		
科目名	動物形態機能学－5	
単位	1（1～5合わせて5単位）	
履修時間	30時間（1～5合わせて150時間）	
回数	30回（1～5合わせて150回）	
授業形態	講義	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員会	筆記試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①系統看護学講座解剖生理学（医学書院）②わかりやすい獣医解剖生理学（文永堂出版）③家畜の解剖と生理（養賢堂）	

コマシラバス

50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	栄養の消化と吸収①	1.シラバスとの関係	体内に取り込まれた食物を消化し、栄養として吸収するための消化器系について理解する	
		2.コマ主題	口腔、歯、唾液腺の構造と機能を学び、咀嚼のメカニズムについて理解する	
		3.コマ主題細目	口の構造と機能	
		4.コマ主題細目深度	①口腔について学ぶ ②歯について学ぶ ③唾液腺（舌下腺、耳下腺、顎下腺）について学ぶ ④咀嚼のメカニズムについて学ぶ	
		5.次コマとの関係	嚥下のメカニズムに進む	
2	栄養の消化と吸収②	1.シラバスとの関係	体内に取り込まれた食物を消化し、栄養として吸収するための消化器系について理解する	
		2.コマ主題	咽頭・食道の構造と機能を学び、嚥下のメカニズムにつ	
		3.コマ主題細目	咽頭と食道の構造と機能	
		4.コマ主題細目深度	①咽頭について学ぶ ②嚥下のメカニズムについて学ぶ ③食道、蠕動運動について学ぶ	
		5.次コマとの関係	胃に進む	
3	栄養の消化と吸収③	1.シラバスとの関係	体内に取り込まれた食物を消化し、栄養として吸収するための消化器系について理解する	
		2.コマ主題	腹部消化管である胃の構造と機能について理解する	
		3.コマ主題細目	胃の構造と機能	
		4.コマ主題細目深度	①動物種によって違う胃の形状について学ぶ ②胃壁の構造と胃液の成分について学ぶ ③胃の機能について学ぶ	
		5.次コマとの関係	小腸に進む	
4	栄養の消化と吸収④	1.シラバスとの関係	体内に取り込まれた食物を消化し、栄養として吸収するための消化器系について理解する	
		2.コマ主題	腹部消化管である小腸の構造と機能について理解する	
		3.コマ主題細目	小腸の構造と機能	
		4.コマ主題細目深度	①小腸粘膜の構造について学ぶ ②膵臓との関係を含めて小腸における消化について学ぶ ③十二指腸、空腸、回腸について学ぶ	
		5.次コマとの関係	大腸のに進む	
5	栄養の消化と吸収⑤	1.シラバスとの関係	体内に取り込まれた食物を消化し、栄養として吸収するための消化器系について理解する	
		2.コマ主題	腹部消化管である大腸の構造と機能について理解する	
		3.コマ主題細目	大腸の構造と機能	
		4.コマ主題細目深度	①盲腸の動物種（単胃の草食動物と食肉動物）による違いを学ぶ ②大腸における水分吸収のメカニズムを学ぶ ③大腸に棲息する腸内細菌について学ぶ	
		5.次コマとの関係	膵臓に進む	
6	栄養の消化と吸収⑥	1.シラバスとの関係	体内に取り込まれた食物を消化し、栄養として吸収するための消化器系について理解する	
		2.コマ主題	腹部消化器である膵臓の構造と機能について理解する	
		3.コマ主題細目	膵臓の構造と機能	
		4.コマ主題細目深度	①膵臓には内分泌と外分泌の機能があることを学ぶ ②膵臓の外分泌について学ぶ ③急性膵炎について学ぶ	
		5.次コマとの関係	肝臓と胆嚢に進む	
7	栄養の消化と吸収⑦	1.シラバスとの関係	体内に取り込まれた食物を消化し、栄養として吸収するための消化器系について理解する	
		2.コマ主題	腹部消化器である肝臓の構造と胆嚢について理解する	
		3.コマ主題細目	肝臓と胆嚢の構造	
		4.コマ主題細目深度	①肝葉に分かれる肝臓の肉眼的構造について学ぶ ②胆嚢と胆道について学ぶ ③胆嚢の無い動物について学ぶ ④門脈について学ぶ	
		5.次コマとの関係	肝臓の機能に進む	

動物形態機能学－5

8	栄養の消化と吸収⑧	1.シラバスとの関係	体内に取り込まれた食物を消化し、栄養として吸収するための消化器系について理解する	
		2.コマ主題	腹部消化器である肝臓の機能について理解する	
		3.コマ主題細目	肝臓の機能	
		4.コマ主題細目深度	①代謝機能（タンパク合成、糖新生）について学ぶ ②解毒・排泄機能（オルニチン回路）について学ぶ ③胆汁の生産について学ぶ ④貯蔵機能について学ぶ	
		5.次コマとの関係	腹膜と腸間膜に進む	
9	栄養の消化と吸収⑨	1.シラバスとの関係	消化器系をおおう腹膜と腸間膜について理解する	
		2.コマ主題	腹膜と腸間膜の機能について理解する	
		3.コマ主題細目	腹膜と腸間膜の機能の機能	
		4.コマ主題細目深度	①腹膜は漿膜からなることを学ぶ ②腸間膜には血管、神経、リンパ節、リンパ管が分布することを学ぶ	
		5.次コマとの関係	自律神経に進む	
10	内臓機能の調整①	1.シラバスとの関係	消化器系の機能をコントロールする自律神経について理解する	
		2.コマ主題	自律神経による調節の仕方を理解する	
		3.コマ主題細目	自律神経の機能	
		4.コマ主題細目深度	①交感神経と副交感神経について学ぶ ②自律神経の二重支配について学ぶ ③脳神経中にある副交感神経（動眼神経、顔面神経、舌咽神経、迷走神経）について学ぶ	
		5.次コマとの関係	交感神経と副交感神経に進む	
11	内臓機能の調整②	1.シラバスとの関係	消化器系の機能をコントロールする自律神経について理解する	
		2.コマ主題	交感神経と副交感神経について理解する	
		3.コマ主題細目	交感神経と副交感神経	
		4.コマ主題細目深度	①交感神経の構造について学ぶ ②副交感神経の構造について学ぶ ③それぞれの神経伝達物質について学ぶ ④伝達物質受容体について学ぶ	
		5.次コマとの関係	内分泌系に進む	
12	内臓機能の調整③	1.シラバスとの関係	ホメオスタシスをコントロールする内分泌系について理解する	
		2.コマ主題	内分泌について理解する	
		3.コマ主題細目	分泌物の伝わり方とホルモンの特徴	
		4.コマ主題細目深度	①内分泌と外分泌の違いについて学ぶ ②ホルモンの特徴について学ぶ	
		5.次コマとの関係	ホルモンの生理作用に進む	
13	内臓機能の調整④	1.シラバスとの関係	ホメオスタシスをコントロールする内分泌系について理解する	
		2.コマ主題	ホルモンによる調節について理解する	
		3.コマ主題細目	ホルモンの生理作用	
		4.コマ主題細目深度	①成長及び代謝の促進について学ぶ ②適応力の増進・ホメオスタシスの維持について学ぶ ③本能行動の発現について学ぶ ④ほかの内分泌腺の機能状態の調整について学ぶ	
		5.次コマとの関係	ホルモンのフィードバックに進む	
14	内臓機能の調整⑤	1.シラバスとの関係	ホメオスタシスをコントロールする内分泌系について理解する	
		2.コマ主題	ホルモンのフィードバック機能について理解する	
		3.コマ主題細目	ホルモンのフィードバック機能	
		4.コマ主題細目深度	①負のフィードバックについて学ぶ ②正のフィードバックについて学ぶ	
		5.次コマとの関係	内分泌系全般に進む	
15	内臓機能の調整⑥	1.シラバスとの関係	ホメオスタシスをコントロールする内分泌系について理解する	
		2.コマ主題	全身の内分泌腺について理解する	
		3.コマ主題細目	内分泌とホルモン	
		4.コマ主題細目深度	①全身にある内分泌系器官の位置を学ぶ ②内分泌系の特徴をもう一度確認する	
		5.次コマとの関係	視床下部と下垂体に進む	
16	内臓機能の調整⑦	1.シラバスとの関係	全身の内分泌腺と内分泌細胞について理解する	
		2.コマ主題	視床下部ー下垂体系について理解する	
		3.コマ主題細目	視床下部と下垂体	
		4.コマ主題細目深度	①視床下部の位置と機能について学ぶ ②下垂体前葉について学ぶ ③下垂体後葉について学ぶ	
		5.次コマとの関係	視床下部と下垂体のホルモンに進む	
17	内臓機能の調整⑧	1.シラバスとの関係	全身の内分泌腺と内分泌細胞について理解する	
		2.コマ主題	視床下部ー下垂体系について理解する	
		3.コマ主題細目	視床下部と下垂体のホルモン	
		4.コマ主題細目深度	①視床下部で合成されるホルモンについて学ぶ ②下垂体前葉ホルモンについて学ぶ ③下垂体後葉ホルモンについて学ぶ	
		5.次コマとの関係	甲状腺に進む	
18	内臓機能の調整⑨	1.シラバスとの関係	全身の内分泌腺と内分泌細胞について理解する	
		2.コマ主題	甲状腺と副甲状腺について理解する	
		3.コマ主題細目	甲状腺の構造と機能	
		4.コマ主題細目深度	①甲状腺の構造（濾胞細胞）について学ぶ ②甲状腺ホルモンの産生について学ぶ ③甲状腺ホルモンの分泌調整について学ぶ	
		5.次コマとの関係	副甲状腺に進む	

19	内臓機能の調整⑩	1.シラバスとの関係	全身の内分泌腺と内分泌細胞について理解する	
		2.コマ主題	甲状腺と副甲状腺について理解する	
		3.コマ主題細目	副甲状腺（上皮小体）の構造と機能	
		4.コマ主題細目深度	①副甲状腺の構造について学ぶ ②副甲状腺の機能（骨の再吸収）について学ぶ ③カルシウムイオンの吸収について学ぶ	
		5.次コマとの関係	膵臓に進む	
20	内臓機能の調整⑪	1.シラバスとの関係	全身の内分泌腺と内分泌細胞について理解する	
		2.コマ主題	膵臓について理解する	
		3.コマ主題細目	膵島（ランゲルハンス島）の構造と機能	
		4.コマ主題細目深度	①膵島の構造について学ぶ ②膵島の機能について学ぶ ③血糖値に関与するインスリンとグルカゴンについて学ぶ	
		5.次コマとの関係	副腎に進む	
21	内臓機能の調整⑫	1.シラバスとの関係	全身の内分泌腺と内分泌細胞について理解する	
		2.コマ主題	副腎について理解する	
		3.コマ主題細目	副腎の構造と機能	
		4.コマ主題細目深度	①副腎の構造について学ぶ ②副腎皮質から放出されるホルモンとその機能について学ぶ ③副腎髄質から放出されるアドレナリンの機能について学ぶ	
		5.次コマとの関係	性腺に進む	
22	内臓機能の調整⑬	1.シラバスとの関係	全身の内分泌腺と内分泌細胞について理解する	
		2.コマ主題	性腺について理解する	
		3.コマ主題細目	性腺の構造と機能	
		4.コマ主題細目深度	①性腺（卵巣、精巣）について学ぶ ②エストロゲン（女性ホルモン）の機能について学ぶ ③プロゲステロン（女性ホルモン）の機能について学ぶ ④テストステロン（男性ホルモン）の機能について学ぶ	
		5.次コマとの関係	その他の内分泌腺に進む	
23	内臓機能の調整⑭	1.シラバスとの関係	全身の内分泌腺と内分泌細胞について理解する	
		2.コマ主題	その他の内分泌腺について理解する	
		3.コマ主題細目	消化管、腎臓、胎盤	
		4.コマ主題細目深度	①消化管から分泌されるホルモンについて学ぶ ②腎臓から分泌されるホルモンについて学ぶ ③胎盤から分泌されるホルモンについて学ぶ	
		5.次コマとの関係	泌尿器系に進む	
24	体液の調整と尿の生成①	1.シラバスとの関係	体液調整と尿生成に関与する泌尿器系について理解する	
		2.コマ主題	腎臓について理解する	
		3.コマ主題細目	腎臓の構造と機能	
		4.コマ主題細目深度	①腎臓の全体的な構造について学ぶ ②腎臓の機能の概要を学ぶ	
		5.次コマとの関係	糸球体に進む	
25	体液の調整と尿の生成②	1.シラバスとの関係	体液調整と尿生成に関与する泌尿器系について理解する	
		2.コマ主題	糸球体について理解する	
		3.コマ主題細目	糸球体の構造と機能	
		4.コマ主題細目深度	①腎小体と尿細管からなるネフロン（腎単位）について学ぶ ②糸球体の構造について学ぶ	
		5.次コマとの関係	尿細管の構造と機能に進む	
26	体液の調整と尿の生成③	1.シラバスとの関係	体液調整と尿生成に関与する泌尿器系について理解する	
		2.コマ主題	尿細管について理解する	
		3.コマ主題細目	尿細管の構造と機能	
		4.コマ主題細目深度	①尿細管の組織構造について学ぶ ②尿細管の再吸収について学ぶ ③再吸収されるもの、されないものについて学ぶ	
		5.次コマとの関係	傍糸球体装置と生理活性物質に進む	
27	体液の調整と尿の生成④	1.シラバスとの関係	体液調整と尿生成に関与する泌尿器系について理解する	
		2.コマ主題	傍糸球体装置、腎臓から分泌される生理活性物質について理解する	
		3.コマ主題細目	傍糸球体装置、腎臓から分泌される生理活性物質	
		4.コマ主題細目深度	①傍糸球体装置の構造と機能について学ぶ ②レニンーアンギオテンシンーアルドステロン系について学ぶ ③エリスロポエチンについて学ぶ	
		5.次コマとの関係	排尿路に進む	
28	体液の調整と尿の生成⑤	1.シラバスとの関係	体液調整と尿生成に関与する泌尿器系について理解する	
		2.コマ主題	排尿路について理解する	
		3.コマ主題細目	排尿路の構造	
		4.コマ主題細目深度	①尿管について学ぶ ②膀胱について学ぶ ③尿道について学ぶ ④動物種による排尿路の違いについて学ぶ	
		5.次コマとの関係	排尿に進む	
29	体液の調整と尿の生成⑥	1.シラバスとの関係	体液調整と尿生成に関与する泌尿器系について理解する	
		2.コマ主題	排尿について理解する	
		3.コマ主題細目	尿の貯蔵と排尿	
		4.コマ主題細目深度	①排尿の機序について学ぶ ②尿の成分と性状について学ぶ ③尿・排尿の異常について学ぶ	
		5.次コマとの関係	体液調整に進む	

30	体液の調整と尿の生成⑦	1.シラバスとの関係	体液調整と尿生成に関与する泌尿器系について理解する	
		2.コマ主題	体液の調節について理解する	
		3.コマ主題細目	酸塩基平衡、電解質の異常	
		4.コマ主題細目深度	①アシドーシス（代謝性と呼吸性）について学ぶ ②アルカローシス（代謝性と呼吸性）について学ぶ ③血液中のナトリウムとカリウム（ナトリウムポンプ）について学ぶ	
		5.次コマとの関係		

動物病理学

学科	動物看護系学科	シラバス(概要)
コース		動物看護に於いて、動物がどのような状況にあり、どのような看護が必要かは、発病のメカニズムと病理学的特徴を理解することから始まる。ついては、生理機能の障害からどのように病気が発生し、どのように変化し、どのように回復していくのか理解する。さらに、病変の特徴や分類、名称、病理学的検査方法などの病理学専門用語を用い学ぶ。一般的な正常と異常の違いは、加齢による組織変化や生理機能の違い、動物種による病変の違いなどを理解し、動物看護に活かす。これらのことを理解するために、病気の成り立ち、細胞の死滅、循環障害、退行性病変、進行性病変、炎症、先天異常、免疫異常、老齢性病変、腫瘍などの項目について学ぶ。
履修条件		
ユニット		
科目名	動物病理学	
単位	1	
履修時間	30時間	
回数	30回	
授業形態	講義	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	筆記試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①病理学(ヌーベルヒロカワ)	

コマシラバス				
50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	動物病理学の概要	1.シラバスとの関係	動物病理学を学ぶ意義を理解する。	
		2.コマ主題	病理学とは何かを理解する。	
		3.コマ主題細目	病理学の全体概要と役割を知る。	
		4.コマ主題細目深度	疾病のさまざまな原因について学ぶ。特に内因・外因について理解する。	
		5.次コマとの関係	病気における身体の変遷を知る。	
2	病気の変遷 成り立ちと変遷	1.シラバスとの関係	動物の病気の発症の機序を学ぶ。	
		2.コマ主題	病気の変遷と動物看護学の関連を知る。	
		3.コマ主題細目	病気の成り立ちと変遷、動物看護学との関連を知る。	
		4.コマ主題細目深度	さまざまな病気の原因と臓器の変化を理解する。	
		5.次コマとの関係	細胞の死について理解する。	
3	細胞の死① 壊死とアポトーシス	1.シラバスとの関係	動物病理学における細胞の死を学ぶ①。	
		2.コマ主題	壊死とアポトーシスについて理解する。	
		3.コマ主題細目	壊死とアポトーシスの違いを理解する。	
		4.コマ主題細目深度	壊死とアポトーシスに関する疾患を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	細胞における物質沈着について理解する	
4	細胞の死② 物質沈着	1.シラバスとの関係	動物病理学における細胞の死を学ぶ②。	
		2.コマ主題	物質沈着を理解する	
		3.コマ主題細目	物質沈着の機序を理解する。	
		4.コマ主題細目深度	物質沈着に関与する疾患を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	循環障害について理解する。	
5	循環障害① 充血、うっ血	1.シラバスとの関係	動物病理学における循環障害の病態を学ぶ①。	
		2.コマ主題	循環障害の機序について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	充血とうっ血の病態を学ぶ。	
		4.コマ主題細目深度	充血とうっ血に関与する疾病を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	循環障害関与する血液凝固の原因を理解する。	
6	循環障害② 血栓、止血	1.シラバスとの関係	動物病理学における循環障害の病態を学ぶ②	
		2.コマ主題	血液凝固が関与する循環障害について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	血栓と止血の機序について学ぶ。	
		4.コマ主題細目深度	血栓と止血の関連疾患を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	栓塞と塞栓を学ぶ。	
7	循環障害③ 塞栓と栓塞	1.シラバスとの関係	動物病理学における循環障害の病態を学ぶ③	
		2.コマ主題	栓塞と塞栓を理解する。	
		3.コマ主題細目	栓塞と塞栓の機序を理解する。	
		4.コマ主題細目深度	栓塞と塞栓に関与する疾患を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	ショックについて理解する。	
8	循環障害④ ショック	1.シラバスとの関係	動物病理学における循環障害の病態を学ぶ④	
		2.コマ主題	ショックを理解する	
		3.コマ主題細目	ショックの機序を理解する。	
		4.コマ主題細目深度	ショックの原因を理解する。	
		5.次コマとの関係	リンパ液の循環障害について学ぶ。	
9	循環障害⑤ リンパ系障害	1.シラバスとの関係	動物病理学における循環障害の病態を学ぶ⑤	
		2.コマ主題	リンパ系の循環障害について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	リンパ液の循環障害に関する浮腫について学ぶ。	
		4.コマ主題細目深度	浮腫の病態を理解する。	
		5.次コマとの関係	退行性変化の萎縮と変性について理解する。	
10	退行性病変① 組織の萎縮と変性	1.シラバスとの関係	動物病理学に関する退行性病変について学ぶ①。	
		2.コマ主題	体、組織の病変について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	組織の萎縮と変性を理解する。	
		4.コマ主題細目深度	組織の萎縮と変性、病気との関連を理解する。	
		5.次コマとの関係	代謝障害と病気の関連を理解する	
11	退行性病変② 代謝障害	1.シラバスとの関係	動物病理学に関する退行性病変について学ぶ②	
		2.コマ主題	組織の病変について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	組織の代謝障害をタンパク質、糖、その他の欠乏・過剰による病変を理解する。	
		4.コマ主題細目深度	代謝障害の原因(内因・外因)を理解する。	
		5.次コマとの関係	進行性病変について理解する。	
12	進行性病変① 肥大・過形成・再生	1.シラバスとの関係	動物病理学における進行性病変について学ぶ①	
		2.コマ主題	組織の委縮、肥大、過形成、再生について理解する。	
		3.コマ主題細目	組織の委縮、肥大、過形成、再生の意義を理解する。	
		4.コマ主題細目深度	組織の肥大、過形成、化生と疾病の関わりについて理解する。	
		5.次コマとの関係	組織の再生と修復について理解する。	

動物病理学

13	進行性変化② 再生と修復	1.シラバスとの関係	動物病理学における進行性病変について学ぶ②	
		2.コマ主題	組織の再生と修復について理解する。	
		3.コマ主題細目	組織の再生と修復の意義について理解する。	
		4.コマ主題細目深度	組織の再生と修復、疾病について理解する。	
		5.次コマとの関係	肉芽組織、創傷治癒について学習する。	
14	進行性変化③ 肉芽組織と創傷の治癒	1.シラバスとの関係	動物病理学における進行性病変について学ぶ③	
		2.コマ主題	肉芽組織、創傷、器質化、臓器移植について理解する。	
		3.コマ主題細目	肉芽組織、創傷、器質化、臓器移植の意義について理解する。	
		4.コマ主題細目深度	創傷の治癒機転について理解する。	
		5.次コマとの関係	組織、身体の炎症を理解する。	
15	炎症① 変性と滲出	1.シラバスとの関係	動物病理学における炎症について学ぶ①。	
		2.コマ主題	炎症の意義と5徴候を理解する。	
		3.コマ主題細目	組織変性と滲出を理解する。	
		4.コマ主題細目深度	組織変性と滲出性炎症の意義を理解する。	
		5.次コマとの関係	組織の増殖と炎症の転帰を理解する。	
16	炎症② 炎症の転帰	1.シラバスとの関係	動物病理学における炎症について学ぶ②。	
		2.コマ主題	炎症の転帰を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	炎症の機転の病態を理解する。	
		4.コマ主題細目深度	炎症の転帰による疾病との関連性について理解する。	
		5.次コマとの関係	炎症の種類について理解する。	
17	炎症③ 炎症の種類	1.シラバスとの関係	動物病理学における炎症について学ぶ③。	
		2.コマ主題	急性および慢性炎症について理解する。	
		3.コマ主題細目	急性炎症の実質性および滲出性炎症を理解する	
		4.コマ主題細目深度	急性炎症の実質性および滲出性炎症の違いを理解する	
		5.次コマとの関係	滲出性炎症を理解する。	
18	炎症④ 滲出性炎症①	1.シラバスとの関係	動物病理学における炎症について学ぶ④。	
		2.コマ主題	滲出性炎症を理解する。	
		3.コマ主題細目	滲出性炎症の漿液性炎症、線維素性炎症、化膿性炎症を理解する。	
		4.コマ主題細目深度	漿液性炎症、線維素性炎症、化膿性炎症と疾患の関連性を理解する。	
		5.次コマとの関係	カタル性炎症、出血性炎症、腐敗性炎症の滲出性炎症を理解する。	
19	炎症⑤ 滲出性炎症②	1.シラバスとの関係	動物病理学における炎症について学ぶ⑤。	
		2.コマ主題	滲出性炎症を理解する。	
		3.コマ主題細目	カタル性炎症、出血性炎症、腐敗性炎症を理解する。	
		4.コマ主題細目深度	カタル性炎症、出血性炎症、腐敗性炎症と疾患の関連性を理解する。	
		5.次コマとの関係	慢性炎症を理解する。	
20	炎症⑥ 慢性炎症	1.シラバスとの関係	動物病理学における炎症について学ぶ⑥。	
		2.コマ主題	慢性炎症を理解する。	
		3.コマ主題細目	慢性炎症の肉芽腫性炎について理解する。	
		4.コマ主題細目深度	肉芽腫性炎と病気の関連性について理解する。	
		5.次コマとの関係	先天異常の意義について理解する。	
21	先天異常① 遺伝要因	1.シラバスとの関係	動物病理学における先天異常について学ぶ①。	
		2.コマ主題	遺伝要因における先天性異常ついて理解する。	
		3.コマ主題細目	先天異常のうち遺伝子異常について理解する。	
		4.コマ主題細目深度	先天異常のうち遺伝子異常による疾患を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	環境要因における先天異常ついて理解する。	
22	先天異常② 環境要因	1.シラバスとの関係	動物病理学における先天異常について学ぶ②。	
		2.コマ主題	環境要因における先天異常について理解する。	
		3.コマ主題細目	先天異常のうち環境要因について理解する。	
		4.コマ主題細目深度	先天異常のうち環境要因による疾患を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	免疫異常の意義について理解する。	
23	免疫異常① 免疫反応と担当細胞	1.シラバスとの関係	動物病理学における免疫異常を学ぶ①。	
		2.コマ主題	免疫異常の意義について理解する。	
		3.コマ主題細目	免疫反応と担当細胞の意義について理解する。	
		4.コマ主題細目深度	細胞性、液性免疫と関連する担当細胞の意義について理解する。	
		5.次コマとの関係	アレルギー型に関する特徴について理解する	
24	免疫異常② アレルギー型	1.シラバスとの関係	動物病理学における免疫異常を学ぶ②。	
		2.コマ主題	アレルギーの1－4型について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	アレルギーの1－4型の違いについて理解する。	
		4.コマ主題細目深度	異なったアレルギー型と疾病の関連について学ぶ。	
		5.次コマとの関係	老齢性病変の形態的変化を意義を学ぶ。	
25	老齢性病変① 形態的	1.シラバスとの関係	動物病理学における老齢性病変について学ぶ①。	
		2.コマ主題	老齢性病変の形態的変化について理解する。	
		3.コマ主題細目	老齢性病変の形態的変化の機序について理解する。	
		4.コマ主題細目深度	老齢性病変の形態的変化の疾患について学ぶ。	
		5.次コマとの関係	老齢性病変の生理学的変化を理解する。	
26	老齢性病変② 生理的	1.シラバスとの関係	動物病理学における老齢性病変について学ぶ②。	
		2.コマ主題	老齢性病変の生理的変化について理解する。	
		3.コマ主題細目	老齢性病変の生理的変化の機序について理解する。	
		4.コマ主題細目深度	老齢性病変の形態的変化の疾患を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	腫瘍について理解する。	
27	腫瘍　総論① 定義	1.シラバスとの関係	動物病理学における腫瘍について学ぶ①。	
		2.コマ主題	腫瘍の定義を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	腫瘍の形態について学ぶ。	
		4.コマ主題細目深度	腫瘍の発生について学ぶ。	
		5.次コマとの関係	腫瘍の転移と再発について理解する。	

28	腫瘍　総論② 転移と再発	1.シラバスとの関係	動物病理学における腫瘍について学ぶ②。	
		2.コマ主題	腫瘍の転移と再発について理解する。	
		3.コマ主題細目	腫瘍の転移と再発の機序について学ぶ。	
		4.コマ主題細目深度	腫瘍の転移と再発と宿主の関連性について理解する。	
		5.次コマとの関係	成熟型上皮性腫瘍と未成熟型上皮性腫瘍について理解する。	
29	腫瘍　各論① 成熟型と未成熟型腫瘍	1.シラバスとの関係	動物病理学における腫瘍について学ぶ③。	
		2.コマ主題	成熟型上皮性腫瘍と未成熟型上皮性腫瘍について理解する。	
		3.コマ主題細目	成熟型上皮性腫瘍と未成熟型上皮性腫瘍の違いについて理解する。	
		4.コマ主題細目深度	成熟型と未成熟型上皮性腫瘍と宿主の関連性について理解する。	
		5.次コマとの関係	肉腫と癌腫について理解する。	
30	腫瘍　各論② 肉腫と癌腫	1.シラバスとの関係	動物病理学における腫瘍について学ぶ④。	
		2.コマ主題	肉腫と癌腫について理解する。	
		3.コマ主題細目	肉腫と癌腫の違いについて理解する。	
		4.コマ主題細目深度	肉腫と癌腫と宿主の関連性について理解する。	
		5.次コマとの関係		

動物疾病看護学－1

学科	動物看護系学科	シラバス(概要)
コース		チーム獣医療の場で必要な病名や診断名について学習する。また、治療方針の理解度を高め、疾病別の動物看護に活かすために必要な疾病について学ぶ。器官別の疾患については、特有の検査や動物看護に必要な知識を学び、動物の看護を実践できるよう知識を身に付ける。疾患によっては、好発種や、好発年齢があるので、そのポイントを把握した上で各症状を理解し、動物への看護法を身に付ける。「動物疾病看護学－1」では、概論としてバイタルサインやBCSについて学習し、口腔内疾患および感覚器疾患(耳・眼・皮膚)の代表的な疾病について学ぶ。
履修条件	動物疾病看護学－1を先行すること	
ユニット		
科目名	動物疾病看護学－1	
単位	1(1～5合わせて5単位)	
履修時間	30時間(1～5合わせて150時間)	
回数	30回(1～5合わせて150回)	
授業形態	講義	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	筆記試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①コンパニオン・アニマルの疾患学入門(インターズー)②ビジュアルで学ぶ動物看護学(チクサン出版社)③動物看護の教科書第3巻(緑書房)④小動物臨床のための機能形態学入門(インターズー)	

コマシラバス

50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	概論①	1.シラバスとの関係	獣医療におけるチーム医療の場で、カルテにある病名や診断名、治療方針について概略を理解できる	
		2.コマ主題	疾病の診断・治療・看護までの流れを理解できる	
		3.コマ主題細目	①動物機能形態学で学習した、生体を構成する要素について復習する ②疾病看護学とはどのようなものか理解できる ③診断・治療・看護の大まかな流れを理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①生体を構成する要素(細胞・組織・器官・臓器)について理解できる ②疾病看護学・ホメオスタシス・自然治癒力・疾病・疾患の用語を理解できる ③診断・治療・看護の大まかな流れを理解できる	
		5.次コマとの関係	診断へのステップとして必要な項目を学ぶ	
2	概論②	1.シラバスとの関係	獣医療におけるチーム医療の場で、カルテにある病名や診断名、治療方針について概略を理解できる	
		2.コマ主題	疾病の診断・治療・看護の内容について理解できる	
		3.コマ主題細目	①診断・治療・看護の内容を理解できる ②問診について理解できる ③治療の概略について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①診断に必要な問診、バイタルサイン、体重、身体検査、インフォームド・コンセント、予後などの用語を理解できる ②問診の内容(動物に関するデータ・主訴・現症・既往症など)について理解できる。 ③治療の内容(薬剤投与・内科的療法・外科的療法・対処療法・病因療法)について理解できる	
		5.次コマとの関係	バイタルサインについて学ぶ	
3	概論③	1.シラバスとの関係	主に犬猫のバイタルサインと病的変化を理解する。	
		2.コマ主題	犬猫のバイタルサインの正常と異常の違いを理解できる	
		3.コマ主題細目	①バイタルサインの項目とそれぞれの評価法を理解できる ②バイタルサインの正常と異常の違いが理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①バイタルサインの項目(体温、脈拍、呼吸数、血圧、CRTなど)がわかる ②バイタルサインの項目について評価法を理解できる。 ③TPRの意味が分わかる ④バイタルサインの正常値を学習し、正常と異常の違いがわかるようになる	
		5.次コマとの関係	バイタルサインについてさらに深く学習する	
4	概論④	1.シラバスとの関係	主に犬猫のバイタルサインと病的変化を理解する。	
		2.コマ主題	概論③で学んだ内容をさらに深く学習する	
		3.コマ主題細目	①体温調節について復習し、発熱の仕組みについて理解できる。熱型について理解できる ②脈拍の異常について理解できる ③呼吸の異常について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①体温調節について復習し、発熱の仕組みについて理解できる ②あえぎ(パンティング)について理解できる ③熱型(稽留熱・弛張熱・間歇熱・回帰熱・波状熱)について理解できる	
		5.次コマとの関係	身体検査を理解できるように学ぶ	
5	概論⑤	1.シラバスとの関係	犬猫の身体検査を理解する	
		2.コマ主題	犬猫の身体検査の正常と異常の違いを理解できる	
		3.コマ主題細目	①身体検査の項目とそれぞれの評価法を理解できる ②身体検査の正常と異常の違いが理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①身体検査の項目(望診・視診・触診・打診・聴診など)がわかる ②身体検査の確認項目やその評価法を理解できる。 ③身体検査の正常値を学習し、正常と異常の違いがわかるようになる	
		5.次コマとの関係	身体検査についてさらに深く学習する	

6	概論⑥	1.シラバスとの関係	犬猫の身体検査を理解する	
		2.コマ主題	概論⑤で学んだ内容をさらに深く学習する	
		3.コマ主題細目	①一般状態を確認することができる ②体表の状態を確認することができる	
		4.コマ主題細目深度	①体重・BCS(ボディー・コンディション・ソコア)がわかる ②一般状態(元気消失・食欲不振・削痩・肥満・嗜眠・背彎姿勢・犬座姿勢・チック・痙攣・振せんなど)の用語が理解できる ③可視粘膜の状態(蒼白・チアノーゼ・黄疸など)がわかる	
		5.次コマとの関係	概論の内容をふまえ、それぞれの疾患について各論に入	
7	口腔内疾患①	1.シラバスとの関係	バイタルサイン、身体検査ついての小テスト 口腔内の局所解剖と生理学を復習する	
		2.コマ主題	口腔内の局所解剖と生理学を復習し、知識を習得してから検査、代表的疾病に進む	
		3.コマ主題細目	①小テスト ②口腔内の局所解剖と生理について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①バイタルサイン・身体検査についての小テスト ②動物機能形態学で学習した、口腔内の解剖・生理について理解できる	
		5.次コマとの関係	口腔内の検査について学習する	
8	口腔内疾患②	1.シラバスとの関係	口腔内のおもな検査について学習する	
		2.コマ主題	口腔の局所解剖と生理を理解した上で、口腔の検査について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	口腔内検査について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①五感を使う口腔内検査(視診・触診・打診・臭診など)について理解できる ②検査機器を使用する口腔内検査(X線検査・CT検査・細菌検査・組織検査)について理解できる	
		5.次コマとの関係	口腔内の疾患について学習する	
9	口腔内疾患③	1.シラバスとの関係	口腔内の疾患について学習する	
		2.コマ主題	口腔内の疾患について学ぶ。口腔の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	主な口腔内疾患について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	口腔内疾患(口腔内腫瘍、歯肉口内炎、口蓋裂など)の機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	歯の主な疾患について学習する	
10	口腔内疾患④	1.シラバスとの関係	歯の主な検査法について学習する	
		2.コマ主題	歯の局所解剖と生理を理解した上で、口腔の検査について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	①歯の構造について復習する ②歯の主な検査法について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①動物機能形態学で学習した歯の構造・歯式・乳歯と永久歯の生え変わり時期について復習する ②歯の主な検査法(視診・触診・打診・X線検査・歯肉指数・歯石指数・動揺度指数など)について理解できる	
		5.次コマとの関係	歯の主な検査法について学習する	
11	口腔内疾患⑤	1.シラバスとの関係	歯の主な疾患について学習する	
		2.コマ主題	歯の主な疾患について学ぶ。歯の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	歯の主な疾患について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	歯の主な疾患(歯周病・破折・歯瘻・乳歯残存・歯頚部吸収病巣など)の機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	歯周疾患の治療と予防について学習する	
12	口腔内疾患⑥	1.シラバスとの関係	歯周疾患の治療と予防について学習する	
		2.コマ主題	歯周の主な疾患について学ぶ。歯周の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	①歯周疾患の治療(スケーリングなど)について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①歯周疾患の治療(スケーリングなど)について理解できる	
		5.次コマとの関係	口腔内疾患と歯の疾患について小テスト 耳の局所解剖と生理学を復習する	
13	感覚器疾患:耳①	1.シラバスとの関係	口腔内疾患と歯の疾患について小テスト 耳の局所解剖と生理学を復習する	
		2.コマ主題	耳局所解剖と生理学について理解できる	
		3.コマ主題細目	①小テスト ②耳の局所解剖と生理学を復習し、知識を習得してから検査、代表的疾病に進む	
		4.コマ主題細目深度	①口腔内疾患と歯の疾患についての小テスト ②動物形態機能学で学んだ耳の解剖・生理について復習する	
		5.次コマとの関係	耳の検査法について学習する	
14	感覚器疾患:耳②	1.シラバスとの関係	耳の検査法について学習する	
		2.コマ主題	耳の局所解剖と生理を理解した上で、耳の検査について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	耳の検査法について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	耳の主な検査法(視診・触診・耳垢検査・耳鏡検査・X線検査・CT検査・細菌培養・薬剤感受性試験など)について理解できる	
		5.次コマとの関係	耳の疾患について学習する	

15	感覚器疾患:耳③	1.シラバスとの関係	耳の疾患について学習する	
		2.コマ主題	耳の疾患について学ぶ。耳の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	耳の疾患について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	耳の主な疾患（外耳炎・中耳炎・内耳炎・耳血腫など）の機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	耳の疾患の小テストを行う 眼の局所解剖と生理学を復習する	
16	感覚器疾患:眼①	1.シラバスとの関係	耳の疾患の小テストを行う 眼の局所解剖と生理学を復習する	
		2.コマ主題	眼の局所解剖と生理学を復習し、知識を習得してから検査、代表的疾病に進む	
		3.コマ主題細目	①小テスト ②眼の解剖・生理について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①耳の疾患についての小テスト ②動物形態機能学で学んだ眼の解剖・生理について復習する	
		5.次コマとの関係	眼の検査法について学習する	
17	感覚器疾患:眼②	1.シラバスとの関係	眼の検査法について学習する	
		2.コマ主題	眼の局所解剖と生理を理解した上で、眼の検査について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	眼の検査法について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	眼の主な検査法（問診・視診・視覚検査・シルマーティアテスト・眼圧検査・スリットランプ検査・眼底検査・生体染色検査など）について理解できる	
		5.次コマとの関係	眼の疾患について学習する	
18	感覚器疾患:眼③	1.シラバスとの関係	眼の疾患について学習する	
		2.コマ主題	眼の疾患について学ぶ。眼の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	①睫毛に生じる疾患を理解できる ②眼瞼に生じる疾患を理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①睫毛に生じる疾患（睫毛乱生、睫毛重生など） ②眼瞼に生じる疾患（眼瞼炎・眼瞼内反症・眼瞼外反症など） についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	眼の疾患についてさらに深く学習する	
19	感覚器疾患:眼④	1.シラバスとの関係	眼の疾患について学習する	
		2.コマ主題	眼の疾患について学ぶ。眼の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	①マイボーム腺に生じる疾患を理解できる ②ぶどう膜に生じる疾患を理解できる ③角膜に生じる疾患を理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①マイボーム腺に生じる疾患（霰粒腫、麦粒腫、マイボーム腺機能不全など） ②ぶどう膜に生じる疾患（ぶどう膜炎など） ③角膜に生じる疾患（角膜びらん・角膜潰瘍・角膜穿孔・ネコの角膜黒色壊死症など） についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、眼の疾患について学習する	
20	感覚器疾患:眼⑤	1.シラバスとの関係	眼の疾患について学習する	
		2.コマ主題	眼の疾患について学ぶ。眼の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	①強膜に生じる疾患を理解できる ②結膜に生じる疾患を理解できる ③瞬膜に生じる疾患を理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①強膜に生じる疾患（強膜炎・輪部黒色腫など） ②結膜に生じる疾患（結膜炎など） ③瞬膜に生じる疾患（瞬膜突出・チェリーアイなど） についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、眼の疾患について学習する	
21	感覚器疾患:眼⑥	1.シラバスとの関係	眼の疾患について学習する	
		2.コマ主題	眼の疾患について学ぶ。眼の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	①水晶体に生じる疾患を理解できる ②網膜に生じる疾患を理解できる ③涙腺に生じる疾患を理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①水晶体に生じる疾患（白内障・水晶体脱臼・核硬化症など） ②網膜に生じる疾患（網膜剥離・進行性網膜萎縮・ネコの網膜萎縮症など） ③涙腺に生じる疾患（乾性角結膜炎・流涙症など） についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、眼の疾患について学習する	

22	感覚器疾患:眼⑦	1.シラバスとの関係	眼の疾患について学習する	
		2.コマ主題	眼の疾患について学ぶ。眼の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	眼球全体に生じる疾患を理解できる	
		4.コマ主題細目深度	眼球全体に生じる疾患(眼球突出・緑内障など)についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	眼の疾患の小テストを行う 皮膚の局所解剖と生理学を復習する	
23	感覚器疾患:皮膚①	1.シラバスとの関係	眼の疾患の小テストを行う 皮膚の局所解剖と生理学を復習する	
		2.コマ主題	皮膚の局所解剖と生理学を復習し、知識を習得してから検査、代表的疾病に進む	
		3.コマ主題細目	①小テスト ②皮膚の解剖・生理について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①眼の疾患についての小テスト ②動物形態機能学で学んだ皮膚の解剖・生理について復習する	
		5.次コマとの関係	皮膚の検査法について学習する	
24	感覚器疾患:皮膚②	1.シラバスとの関係	皮膚の検査法について学習する	
		2.コマ主題	皮膚の局所解剖と生理を理解した上で、皮膚の検査について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	皮膚の検査法について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	皮膚の主な検査法(問診・視診・皮診・皮膚書き取り検査・毛検査・直接塗抹検査・ウッド灯検査・細菌検査・薬剤感受性検査・皮膚生検・アレルギー検査など)について理解できる	
		5.次コマとの関係	皮膚の疾患について学習する	
25	感覚器疾患:皮膚③	1.シラバスとの関係	皮膚の疾患について学習する	
		2.コマ主題	皮膚の疾患について学ぶ。皮膚の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	①内分泌性皮膚疾患を理解できる ②アレルギー性皮膚疾患を理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①内分泌性皮膚疾患(脱毛症X、甲状腺機能低下症、クッシング症候群など) ②アレルギー性皮膚疾患(アトピー性皮膚炎・食物アレルギーなど)についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	皮膚の疾患についてさらに深く学習する	
26	感覚器疾患:皮膚④	1.シラバスとの関係	皮膚の疾患について学習する	
		2.コマ主題	皮膚の疾患について学ぶ。皮膚の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	免疫介在性皮膚疾患を理解できる	
		4.コマ主題細目深度	免疫介在性皮膚疾患(天疱瘡、全身性エリテマトーデス、円盤状エリテマトーデス、フォークト・小柳・原田病様症候群など)についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き皮膚の疾患について学習する	
27	感覚器疾患:皮膚⑤	1.シラバスとの関係	皮膚の疾患について学習する	
		2.コマ主題	皮膚の疾患について学ぶ。皮膚の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	感染性皮膚疾患を理解できる	
		4.コマ主題細目深度	感染性皮膚疾患 ①細菌性皮膚炎(膿皮症など) ②親近性皮膚炎(マラセチア症・カンジダ症・皮膚糸状菌症・クリプトコックス症など)についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、皮膚の疾患について学習する	
28	感覚器疾患:皮膚⑥	1.シラバスとの関係	皮膚の疾患について学習する	
		2.コマ主題	皮膚の疾患について学ぶ。皮膚の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	寄生虫性皮膚疾患を理解できる	
		4.コマ主題細目深度	寄生虫性皮膚炎(ノミ感染症・イヌ毛包虫症・疥癬症など)についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、皮膚の疾患について学習する	
29	感覚器疾患:皮膚⑦	1.シラバスとの関係	皮膚の疾患について学習する	
		2.コマ主題	皮膚の疾患について学ぶ。皮膚の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	①その他の皮膚疾患を理解できる ②小テスト	
		4.コマ主題細目深度	①その他の皮膚疾患(脂漏症・ビタミンA過剰症・亜鉛反応性皮膚炎など)についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる ②皮膚疾患についての小テスト	
		5.次コマとの関係	動物疾病看護学Ⅰで学習した疾患の総復習を行う	

動物疾病看護学－1

30	総復習	1.シラバスとの関係	総復習	
		2.コマ主題	動物疾病看護学Ⅰで学習した疾患のまとめ	
		3.コマ主題細目	動物疾病看護学Ⅰで学習した疾患を理解することができる	
		4.コマ主題細目深度	①バイタルサイン・身体検査 ②口腔内疾患 ③感覚器（耳・眼・皮膚）疾患の総復習し理解できていることを確認できる	
		5.次コマとの関係	動物疾病看護学2につづく	

動物疾病看護学－2

学科	動物看護系学科	シラバス(概要)
コース		チーム獣医療の場で必要な病名や診断名について学習する。また、治療方針の理解度を高め、疾病別の動物看護に活かすために必要な疾病について学ぶ。器官別疾患については、特有の検査や動物看護に必要な知識を学び、動物の看護が実践できるよう知識を身に付ける。疾患によっては、好発種と好発年齢があるので、そのポイントを把握した上で、各症状を理解し、動物への看護法を身に付ける。「動物疾病看護学－2」では、主に循環器系疾患および呼吸器系疾患、血液・造血器系疾患の代表的な疾病について学ぶ。
履修条件	動物疾病看護学－1を履修すること	
ユニット		
科目名	動物疾病看護学－2	
単位	1(1～5合わせて5単位)	
履修時間	30時間(1～5合わせて150時間)	
回数	30回(1～5合わせて150回)	
授業形態	講義	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	筆記試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①コンパニオン・アニマルの疾患学入門(インターズー)②ビジュアルで学ぶ動物看護学(チクサン出版社)③動物看護の教科書第3巻(緑書房)④小動物臨床のための機能形態学入門(インターズー)	

コマシラバス

50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	循環器系疾患①	1.シラバスとの関係	心臓・血液循環の解剖・生理について復習する	
		2.コマ主題	泌尿器系の局所解剖と生理学を復習し、知識を習得してから検査、代表的疾病に進む	
		3.コマ主題細目	循環器系の局所解剖と生理について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①心臓血管系(心臓・心筋の性質・大循環・小循環・冠状循環) ②リンパ管系(リンパ循環など) が理解できる	
		5.次コマとの関係	循環器系の検査方法へつづく	
2	循環器系疾患②	1.シラバスとの関係	心臓・血液循環器系の検査法について学習する	
		2.コマ主題	心臓・血液循環器系の局所解剖と生理を理解した上で、泌尿器系の検査について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	循環器系のおもな検査方法が理解できる	
		4.コマ主題細目深度	循環器系のおもな検査方法 ①問診・視診・聴診(呼吸状態・起座姿勢・心拍のリズム・雑音など) ②X線検査・心エコー検査(心臓の大きさ、血液動態など) ③心電図検査(不整脈・波形の変化など)が理解できる	
		5.次コマとの関係	循環器系の主な疾患について学習する	
3	循環器系疾患③	1.シラバスとの関係	代表的な循環器系疾患を学習する	
		2.コマ主題	循環器系の疾患について学ぶ。循環器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	うっ血性心不全について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	うっ血性心不全についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、循環器系の疾患について学習する	
4	循環器系疾患④	1.シラバスとの関係	代表的な循環器系疾患を学習する	
		2.コマ主題	循環器系の疾患について学ぶ。循環器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	僧帽弁閉鎖不全症について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	僧帽弁閉鎖不全症についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、循環器系の疾患について学習する	
5	循環器系疾患⑤	1.シラバスとの関係	代表的な循環器系疾患を学習する	
		2.コマ主題	循環器系の疾患について学ぶ。循環器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	三尖弁閉鎖不全症について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	三尖弁閉鎖不全症についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、循環器系の疾患について学習する	
6	循環器系疾患⑥	1.シラバスとの関係	代表的な循環器系疾患を学習する	
		2.コマ主題	循環器系の疾患について学ぶ。循環器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	ショックについて理解できる	
		4.コマ主題細目深度	ショックについてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、循環器系の疾患について学習する	
7	循環器系疾患⑦	1.シラバスとの関係	代表的な循環器系疾患を学習する	
		2.コマ主題	循環器系の疾患について学ぶ。循環器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	ショックについて理解できる	
		4.コマ主題細目深度	ショックについてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、循環器系の疾患について学習する	

8	循環器系疾患⑧	1.シラバスとの関係	代表的な循環器系疾患を学習する	
		2.コマ主題	循環器系の疾患について学ぶ。循環器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	①イヌ糸状虫症 ②大静脈症候群 について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①イヌ糸状虫症 ②大静脈症候群についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	先天性心疾患について理解する	
9	循環器系疾患⑨	1.シラバスとの関係	循環器系の疾患について学習する	
		2.コマ主題	循環器系の疾患について学ぶ。循環器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	先天性心疾患を理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①動脈管開存 ②大動脈弁狭窄 ③肺動脈弁狭窄についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、循環器系の疾患について学習する	
10	循環器系疾患⑩	1.シラバスとの関係	循環器系の疾患について学習する	
		2.コマ主題	循環器系の疾患について学ぶ。循環器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	先天性心疾患を理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①心室中隔欠損症 ②心房中隔欠損症 についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、循環器系の疾患について学習する	
11	循環器系疾患⑪	1.シラバスとの関係	循環器系の疾患について学習する	
		2.コマ主題	循環器系の疾患について学ぶ。循環器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	先天性心疾患を理解できる	
		4.コマ主題細目深度	ファロー四徴症についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、循環器系の疾患について学習する	
12	循環器系疾患⑫	1.シラバスとの関係	循環器系の疾患について学習する	
		2.コマ主題	循環器系の疾患について学ぶ。循環器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	先天性心疾患を理解できる	
		4.コマ主題細目深度	門脈体循環シャントについてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、循環器系の疾患について学習する 循環器系疾患の復習を行う	
13	循環器系疾患⑬	1.シラバスとの関係	循環器系の疾患について学習する 循環器系疾患の小テスト	
		2.コマ主題	循環器系の疾患について学ぶ。循環器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	①心内膜床欠損症を理解できる ②小テスト	
		4.コマ主題細目深度	①心内膜床欠損症についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる ②先天性心疾患についての小テスト	
		5.次コマとの関係	引き続き、循環器系の疾患について学習する	
14	循環器系疾患⑭	1.シラバスとの関係	心筋症について理解する	
		2.コマ主題	循環器系の疾患について学ぶ。循環器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	拡張型心筋症について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	拡張型心筋症についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、循環器系の疾患について学習する	
15	循環器系疾患⑮	1.シラバスとの関係	心筋症について理解する	
		2.コマ主題	循環器系の疾患について学ぶ。循環器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	肥大型心筋症について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	肥大型心筋症についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、循環器系の疾患について学習する	
16	循環器系疾患⑯	1.シラバスとの関係	引き続き、循環器系の疾患について学習する	
		2.コマ主題	循環器系の疾患について学ぶ。循環器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	その他の循環器系疾患（心内膜症・心膜滲出）について理解できる。	
		4.コマ主題細目深度	①心内膜症 ②心膜滲出 についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	循環器系疾患の小テストを行う	
17	循環器系疾患⑰	1.シラバスとの関係	循環器系の疾患についての小テスト	
		2.コマ主題	循環器系の疾患についての総復習	
		3.コマ主題細目	循環器系の疾患について確認テスト	
		4.コマ主題細目深度	循環器疾患に関する確認テストを実施する	
		5.次コマとの関係	呼吸器系の解剖生理について学習する	

18	呼吸器系疾患①	1.シラバスとの関係	呼吸器系の疾患について学習する	
		2.コマ主題	呼吸器系の局所解剖と生理学を復習し、知識を習得してから検査、代表的疾病に進む	
		3.コマ主題細目	①呼吸器系の解剖生理を復習する ②検査法について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①呼吸器系の解剖生理について理解できる ②呼吸器系の検査法(問診、聴診、視診、X線検査、内視鏡検査、CTなど)について理解できる	
		5.次コマとの関係	解剖生理の知識をもって呼吸器系の疾患について学習する	
19	呼吸器系疾患②	1.シラバスとの関係	呼吸器系の疾患について学習する	
		2.コマ主題	呼吸器系疾患について学ぶ。呼吸器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	鼻汁・くしゃみ・咳について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	鼻汁・くしゃみ・咳についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、呼吸器疾患について学習する	
20	呼吸器系疾患③	1.シラバスとの関係	呼吸器系の解剖生理について復習し理解を深める	
		2.コマ主題	呼吸器系疾患について学ぶ。呼吸器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	ケンネル・コフについて理解できる	
		4.コマ主題細目深度	ケンネル・コフについてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、呼吸器疾患について学習する	
21	呼吸器系疾患④	1.シラバスとの関係	引き続き、呼吸器系疾患について学習する	
		2.コマ主題	呼吸器系疾患について学ぶ。呼吸器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	ネコの上部気道感染症候群について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	ネコの上部気道感染症候群についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、呼吸器系の疾患について学習する	
22	呼吸器系疾患⑤	1.シラバスとの関係	引き続き、呼吸器系疾患について学習する	
		2.コマ主題	呼吸器系疾患について学ぶ。呼吸器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	肺炎について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	肺炎(ウイルス性肺炎・細菌性肺炎・真菌性肺炎・アレルギー性肺炎・吸引性肺炎)についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、呼吸器系の疾患について学習する	
23	呼吸器系疾患⑥	1.シラバスとの関係	引き続き、呼吸器系の疾患について学習する	
		2.コマ主題	呼吸器系疾患について学ぶ。呼吸器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	水胸・膿胸・血胸について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	水胸・膿胸・血胸についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、呼吸器系の疾患について学習する	
24	呼吸器系疾患⑦	1.シラバスとの関係	引き続き、呼吸器系の疾患について学習する	
		2.コマ主題	呼吸器系疾患について学ぶ。呼吸器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	その他の呼吸器系疾患について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	その他の呼吸器系疾患(気胸・肺気腫・気管虚脱・短頭種気道症候群・横隔膜ヘルニア・鼻孔狭窄症)についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	呼吸器系系の疾患についての小テスト 血液・造血器系の疾患についての概論を学習する	
25	血液・造血器系疾患①	1.シラバスとの関係	呼吸器系系の疾患についての小テスト 血液・造血器系の疾患についての概論を学習する	
		2.コマ主題	呼吸器系の疾患についての小テスト 血液・造血器系の解剖生理について理解する	
		3.コマ主題細目	①確認テスト ②血液・造血器系の解剖生理について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①呼吸器系の疾患にについて確認テストを実施する ②血液・造血器系の解剖生理について理解できる	
		5.次コマとの関係	解剖生理の知識をもとに、疾患を学習する	
26	血液・造血器疾患②	1.シラバスとの関係	血液・造血器系の代表的な疾患について学ぶ	
		2.コマ主題	血液・造血器系疾患について学ぶ。血液・造血器系疾患の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	貧血について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	再生性貧血についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き貧血について学習する	
27	血液・造血器疾患③	1.シラバスとの関係	血液・造血器系の代表的な疾患について学ぶ	
		2.コマ主題	貧血について理解できる	
		3.コマ主題細目	血液・造血器系疾患について学ぶ。血液・造血器系疾患の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		4.コマ主題細目深度	非再生性貧血についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、血液・造血器系の疾患について学習する	

動物疾病看護学－2

28	血液・造血器系疾患④	1.シラバスとの関係	引き続き、血液・造血器系の疾患について学習する	
		2.コマ主題	血液・造血器系疾患について学ぶ。血液・造血器系疾患の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	リンパ節の腫脹について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①リンパ節の腫脹について理解できる ②血液・造血器系の疾患について確認テスト	
		5.次コマとの関係	動物疾病看護学Ⅱで学習した疾患の総復習を行う	
29	総復習①	1.シラバスとの関係	総復習	
		2.コマ主題	動物疾病看護学Ⅱで学習した疾患のまとめ	
		3.コマ主題細目	動物疾病看護学Ⅱで学習した疾患を理解できていることを確認することができる	
		4.コマ主題細目深度	①循環器系疾患 ②呼吸器系疾患 ③血液・造血器系疾患 総復習し、理解できていることを確認できる	
		5.次コマとの関係	ひきつづき、動物疾病看護学Ⅱで学習した疾患の総復習	
30	総復習②	1.シラバスとの関係	総復習	
		2.コマ主題	動物疾病看護学Ⅱで学習した疾患のまとめ	
		3.コマ主題細目	動物疾病看護学Ⅱで学習した疾患を理解できていることを確認することができる	
		4.コマ主題細目深度	①循環器系疾患 ②呼吸器系疾患 ③血液・造血器系疾患 総復習し、理解できていることを確認できる	
		5.次コマとの関係	動物疾病看護学Ⅲにつづく	

動物疾病看護学－3

学科	動物看護系学科	シラバス(概要)
コース		チーム獣医療の場で必要な病名や診断名について学習する。また、治療方針の理解度を高め、疾病別の動物看護に活かすために必要な疾病について学ぶ。器官別疾患については、特有の検査や動物看護に必要な知識を学び、動物の看護が実践できるよう知識を身に付ける。疾患によっては、好発種と好発年齢があるので、そのポイントを把握した上で、各症状を理解し、動物への看護法を身に付ける。「動物疾病看護学－3」では、主に消化器系疾患および肝胆道系・膵外分泌系疾患の代表的な疾病について学ぶ。
履修条件	動物疾病看護学－1・2を履修すること	
ユニット		
科目名	動物疾病看護学－3	
単位	1(1～5合わせて5単位)	
履修時間	30時間(1～5合わせて150時間)	
回数	30回(1～5合わせて150回)	
授業形態	講義	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	筆記試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①コンパニオン・アニマルの疾患学入門(インターズー)②ビジュアルで学ぶ動物看護学(チクサン出版社)③動物看護の教科書第3巻(緑書房)④小動物臨床のための機能形態学入門(インターズー)	

コマシラバス				
50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	消化器系疾患①	1.シラバスとの関係	消化器系の解剖生理について復習し理解を深める	
		2.コマ主題	消化器系の局所解剖と生理学を復習し、知識を習得してから検査、代表的疾病に進む	
		3.コマ主題細目	消化器系の解剖生理が理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①消化管(口腔、食道、胃、小腸、大腸)の構造が理解できる	
		5.次コマとの関係	消化器系の検査法へつづく	
2	消化器系疾患②	1.シラバスとの関係	消化器系の検査法について学習する	
		2.コマ主題	消化器系の局所解剖と生理を理解した上で、泌尿器系の検査について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	消化器系の主な検査法 ①直腸検査 ②内視鏡検査 ③画像検査が理解できる	
		4.コマ主題細目深度	消化器系の主な検査法 ①直腸検査(消化管内寄生虫・パルボウイルスなど) ②内視鏡検査 ③X線造影検査・超音波検査が理解できる	
		5.次コマとの関係	代表的な消化器系疾患について学習する	
3	消化器系疾患③	1.シラバスとの関係	代表的な消化器系疾患について学習する	
		2.コマ主題	代表的な消化器系疾患について学ぶ。消化器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	嚥下困難・流涎、口臭について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	嚥下困難・流涎、口臭についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、消化器系疾患について学習する	
4	消化器系疾患④	1.シラバスとの関係	代表的な消化器系疾患について学習する	
		2.コマ主題	代表的な消化器系疾患について学ぶ。消化器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	吐出、嘔吐、吐血について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	吐出、嘔吐、吐血についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、消化器系疾患について学習する	
5	消化器系疾患⑤	1.シラバスとの関係	代表的な消化器系疾患について学習する	
		2.コマ主題	代表的な消化器系疾患について学ぶ。消化器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	下痢ついて理解できる	
		4.コマ主題細目深度	下痢についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、消化器系疾患について学習する	
6	消化器系疾患⑥	1.シラバスとの関係	代表的な消化器系疾患について学習する	
		2.コマ主題	代表的な消化器系疾患について学ぶ。消化器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	①血便、下血 ②便秘について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①下痢、血便、下血 ②便秘 についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、消化器系疾患について学習する	
7	消化器系疾患⑦	1.シラバスとの関係	代表的な消化器系疾患について学習する	
		2.コマ主題	代表的な消化器系疾患について学ぶ。消化器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	①巨大食道症、食道内異物 ②胃食道逆流症について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①巨大食道症、食道内異物 ②胃食道逆流症 についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、代表的な消化器疾患について学習する	

8	消化器系疾患⑧	1.シラバスとの関係	代表的な消化器系疾患について理解できる	
		2.コマ主題	代表的な消化器系疾患について学ぶ。消化器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	①胃炎、胃内異物 ②胃潰瘍 ③幽門狭窄 について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①胃炎、胃内異物 ②胃潰瘍 ③幽門狭窄 についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、消化器系疾患について学習する	
9	消化器系疾患⑨	1.シラバスとの関係	代表的な消化器系疾患について学習する	
		2.コマ主題	代表的な消化器系疾患について学ぶ。消化器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	①急性胃拡張・胃捻転 ②毛球症について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①急性胃拡張・胃捻転 ②毛球症 についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、消化器系疾患について学習する	
10	消化器系疾患⑩	1.シラバスとの関係	代表的な消化器系疾患について学習する	
		2.コマ主題	代表的な消化器系疾患について学ぶ。消化器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	ウイルス感染による腸炎について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①犬パルボウイルス感染症 ②猫汎白血球減少症 ③コロナウイルス感染症 についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、消化器系疾患について学習する	
11	消化器系疾患⑪	1.シラバスとの関係	代表的な消化器系疾患について学習する	
		2.コマ主題	代表的な消化器系疾患について学ぶ。消化器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	細菌感染による腸炎について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①カンピロバクター症 ②サルモネラ症 ③クロストリジウム感染症 についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、消化器系疾患について学習する	
12	消化器系疾患⑫	1.シラバスとの関係	代表的な消化器系疾患について学習する	
		2.コマ主題	代表的な消化器系疾患について学ぶ。消化器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	腸管内寄生虫による腸炎ついて理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①回虫症 ②鉤虫症 ③イヌ鞭虫症 についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、消化器系疾患について学習する	
13	消化器系疾患⑬	1.シラバスとの関係	代表的な消化器系疾患について学習する	
		2.コマ主題	代表的な消化器系疾患について学ぶ。消化器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	腸管内寄生虫による腸炎ついて理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①イヌ条虫症 ②マンソン裂頭条虫症 についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、消化器系疾患について学習する	
14	消化器系疾患⑭	1.シラバスとの関係	代表的な消化器系疾患について学習する	
		2.コマ主題	代表的な消化器系疾患について学ぶ。消化器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	腸管内寄生虫による腸炎ついて理解できる	
		4.コマ主題細目深度	コクシジウム症についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、消化器系疾患について学習する	
15	消化器系疾患⑮	1.シラバスとの関係	代表的な消化器系疾患について学習する	
		2.コマ主題	代表的な消化器系疾患について学ぶ。消化器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	①腸トリコモナス症、ジアルジア症 ②クリプトスポリジウム症について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①腸トリコモナス症、ジアルジア症 ②クリプトスポリジウム症 についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、消化器系疾患について学習する	

16	消化器系疾患⑯	1.シラバスとの関係	代表的な消化器系疾患について学習する	
		2.コマ主題	代表的な消化器系疾患について学ぶ。消化器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	イレウスについて理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①イレウス(腸閉塞):単純性イレウス・複雑性イレウス・機能性イレウス ②腸閉塞 についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、消化器系疾患について学習する	
17	消化器系疾患⑰	1.シラバスとの関係	代表的な消化器系疾患について学習する	
		2.コマ主題	代表的な消化器系疾患について学ぶ。消化器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	腸管のヘルニアについて理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①臍ヘルニア ②鼠径ヘルニア ③陰嚢ヘルニア についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、消化器系疾患について学習する	
18	消化器系疾患⑱	1.シラバスとの関係	代表的な消化器系疾患について学習する	
		2.コマ主題	代表的な消化器系疾患について学ぶ。消化器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	腸管のヘルニアについて理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①会陰ヘルニア ②腹壁ヘルニア ③腸間膜ヘルニアについてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、消化器系疾患について学習する	
19	消化器系疾患⑲	1.シラバスとの関係	代表的な消化器系疾患について学習する	
		2.コマ主題	代表的な消化器系疾患について学ぶ。消化器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	①肛門嚢炎 ②腹膜炎について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①肛門嚢炎 ②腹膜炎 についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、消化器系疾患について学習する	
20	消化器系疾患⑳	1.シラバスとの関係	代表的な消化器系疾患を学習する	
		2.コマ主題	代表的な消化器系疾患について学ぶ。消化器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	①炎症性ポリープ ②巨大結腸症について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①炎症性ポリープ ②巨大結腸症 についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	消化器系疾患について復習する	
21	消化器系疾患21	1.シラバスとの関係	消化器系疾患について復習する	
		2.コマ主題	消化器系の疾患についての総復習	
		3.コマ主題細目	消化器系の疾患について確認テスト	
		4.コマ主題細目深度	消化器疾患に関する小テストを実施する	
		5.次コマとの関係	肝胆道系・膵外分泌系の解剖生理を復習する	
22	肝胆道系・膵外分泌系疾患①	1.シラバスとの関係	肝胆道系・膵外分泌系の解剖生理についての復習し理解を深める	
		2.コマ主題	肝胆道系・膵外分泌系の局所解剖と生理学を復習し、知識を習得してから検査、代表的疾病に進む	
		3.コマ主題細目	肝胆道系・膵外分泌系の解剖生理を復習する	
		4.コマ主題細目深度	①肝臓・胆嚢・膵臓の解剖 ②肝臓・膵臓の機能 について理解できる	
		5.次コマとの関係	解剖生理の知識をもって肝胆道系・膵外分泌系の疾患について学習する	
23	肝胆道系・膵外分泌系疾患②	1.シラバスとの関係	肝胆道系・膵外分泌系の疾患について学習する	
		2.コマ主題	肝胆道系・膵外分泌系疾患について学ぶ。肝胆道系・膵外分泌系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	黄疸について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	黄疸・腹部膨満・肝性脳症についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、肝胆道系・膵外分泌系について学習する	
24	肝胆道系・膵外分泌系疾患③	1.シラバスとの関係	肝胆道系・膵外分泌系の疾患について学習する	
		2.コマ主題	肝胆道系・膵外分泌系疾患について学ぶ。肝胆道系・膵外分泌系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	腹部膨満について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	腹部膨満についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、肝胆道系・膵外分泌系について学習する	

25	肝胆道系・膵外分泌系疾患④	1.シラバスとの関係	肝胆道系・膵外分泌系の疾患について学習する
		2.コマ主題	肝胆道系・膵外分泌系疾患について学ぶ。肝胆道系・膵外分泌系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。
		3.コマ主題細目	肝性脳症について理解できる
		4.コマ主題細目深度	肝性脳症についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる
		5.次コマとの関係	引き続き、肝胆道系・膵外分泌系について学習する
26	肝胆道系・膵外分泌系疾患⑤	1.シラバスとの関係	肝胆道系・膵外分泌系の疾患について学習する
		2.コマ主題	肝胆道系・膵外分泌系疾患について学ぶ。肝胆道系・膵外分泌系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。
		3.コマ主題細目	①慢性進行性肝炎 ②感染性肝炎について理解できる
		4.コマ主題細目深度	①慢性進行性肝炎 ②感染性肝炎についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる
		5.次コマとの関係	引き続き、肝胆道系・膵外分泌系について学習する
27	肝胆道系・膵外分泌系疾患⑥	1.シラバスとの関係	肝胆道系・膵外分泌系の疾患について学習する
		2.コマ主題	肝胆道系・膵外分泌系疾患について学ぶ。肝胆道系・膵外分泌系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。
		3.コマ主題細目	①薬物や毒物による肝炎 ②肝リピドーシスについて理解できる
		4.コマ主題細目深度	①薬物や毒物による肝炎 ②肝リピドーシについてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる
		5.次コマとの関係	引き続き、肝胆道系・膵外分泌系について学習する
28	肝胆道系・膵外分泌系疾患⑦	1.シラバスとの関係	肝胆道系・膵外分泌系の疾患について学習する
		2.コマ主題	肝胆道系・膵外分泌系疾患について学ぶ。肝胆道系・膵外分泌系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。
		3.コマ主題細目	膵炎について理解できる
		4.コマ主題細目深度	膵炎についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる
		5.次コマとの関係	引き続き、肝胆道系・膵外分泌系について学習する
29	肝胆道系・膵外分泌系疾患⑧	1.シラバスとの関係	肝胆道系・膵外分泌系の疾患について学習する
		2.コマ主題	肝胆道系・膵外分泌系疾患について学ぶ。肝胆道系・膵外分泌系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。
		3.コマ主題細目	膵外分泌不全について理解できる
		4.コマ主題細目深度	膵外分泌不全についてその機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる
		5.次コマとの関係	動物疾病看護学③で学習した疾患の総まとめを行う
30	総復習	1.シラバスとの関係	総復習
		2.コマ主題	動物疾病看護学Ⅲで学習した疾患のまとめ
		3.コマ主題細目	動物疾病看護学Ⅲで学習した疾患を理解できていることを確認できる
		4.コマ主題細目深度	①消化器系の疾患 ②肝胆道系・膵臓外分泌系の疾患を総復習し、理解できていることを確認できる
		5.次コマとの関係	動物疾病看護学4に続く

動物疾病看護学－4

学科	動物看護系学科	シラバス(概要)
コース		チーム獣医療の場で必要な病名や診断名について、また、治療方針の理解度を高め、疾病別の動物看護に活かすために必要な疾病について学ぶ。器官別疾患については、特有の検査や動物看護に必要な知識を学び、動物の看護が実践できるよう知識を身に付ける。疾患によっては、好発種と、好発年齢があるので、そのポイントを把握した上で、各症状を理解し、動物への看護法を身に付ける。「動物疾病看護学－4」では、主に泌尿器系疾患および内分泌系疾患、生殖器系疾患の代表的な疾病について学ぶ。
履修条件	動物疾病看護学－1～3を履修すること	
ユニット		
科目名	動物疾病看護学－4	
単位	1(1～5合わせて5単位)	
履修時間	30時間(1～5合わせて150時間)	
回数	30回(1～5合わせて150回)	
授業形態	講義	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	筆記試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①コンパニオン・アニマルの疾患学入門(インターズー)②ビジュアルで学ぶ動物看護学(チクサン出版社)③動物看護の教科書第3巻(緑書房)④小動物臨床のための機能形態学入門(インターズー)	

コマシラバス				
50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	泌尿器系疾患①	1.シラバスとの関係	泌尿器系の局所解剖と生理学を復習する	
		2.コマ主題	泌尿器系の局所解剖と生理学を復習し、知識を習得してから検査、代表的疾病に進む	
		3.コマ主題細目	泌尿器系疾患の局所解剖と生理について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①腎臓、尿管、膀胱、尿道の構造が理解できる	
		5.次コマとの関係	泌尿器系の検査方法へつづく	
2	泌尿器系疾患②	1.シラバスとの関係	泌尿器系の検査について学習する	
		2.コマ主題	泌尿器系の局所解剖と生理を理解した上で、泌尿器系の検査について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	泌尿器系の検査について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	身体検査・尿検査・血液検査・画像診断などを理解できる	
		5.次コマとの関係	泌尿器系の主な疾患について学習する	
3	泌尿器系疾患③	1.シラバスとの関係	泌尿器系の主な疾患について学習する	
		2.コマ主題	泌尿器系疾患について学ぶ。泌尿器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	泌尿器系の主な症状を理解することができる	
		4.コマ主題細目深度	泌尿器系の主な症状(排尿異常、尿の色調の変化、多飲・多尿など)を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、泌尿器系の主な疾患について学習する	
4	泌尿器系疾患④	1.シラバスとの関係	泌尿器系の主な疾患について学習する	
		2.コマ主題	泌尿器系疾患について学ぶ。泌尿器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	腎不全について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	急性腎不全の機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、泌尿器系の主な疾患について学習する	
5	泌尿器系疾患⑤	1.シラバスとの関係	泌尿器系の主な疾患について学習する	
		2.コマ主題	泌尿器系疾患について学ぶ。泌尿器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	腎不全について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	慢性腎不全の機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、泌尿器系の主な疾患について学習する	
6	泌尿器系疾患⑥	1.シラバスとの関係	泌尿器系の主な疾患について学習する	
		2.コマ主題	泌尿器系疾患について学ぶ。泌尿器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	ネコの下部尿路器疾患の疾患について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	ネコの下部尿路器疾患	
		5.次コマとの関係	引き続き、泌尿器系の主な疾患について学習する	
7	泌尿器系疾患⑦	1.シラバスとの関係	泌尿器系の主な疾患について学習する	
		2.コマ主題	泌尿器系疾患について学ぶ。泌尿器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	犬の尿石症の疾患について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	犬の尿石症	
		5.次コマとの関係	引き続き、泌尿器系の主な疾患について学習する	
8	泌尿器系疾患⑧	1.シラバスとの関係	泌尿器系の主な疾患について学習する	
		2.コマ主題	泌尿器系疾患について学ぶ。泌尿器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	ネフローゼ症候群の疾患について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	ネフローゼ症候群について機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、泌尿器系の主な疾患について学習する	
9	泌尿器系疾患⑨	1.シラバスとの関係	泌尿器系の主な疾患について学習する	
		2.コマ主題	泌尿器系疾患について学ぶ。泌尿器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	①糖尿病性腎症	
		4.コマ主題細目深度	①糖尿病性腎症	
		5.次コマとの関係	引き続き、泌尿器系の主な疾患について学習する	

動物疾病看護学－4

10	泌尿器系疾患⑩	1.シラバスとの関係	泌尿器系の主な疾患について学習する	
		2.コマ主題	泌尿器系疾患について学ぶ。泌尿器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	①アミロイド腎症	
		4.コマ主題細目深度	①アミロイド腎症	
		5.次コマとの関係	引き続き、泌尿器系の主な疾患について学習する	
11	泌尿器系疾患⑪	1.シラバスとの関係	泌尿器系の主な疾患について学習する	
		2.コマ主題	泌尿器系疾患について学ぶ。泌尿器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	①腎性尿崩症②排尿障害の疾患について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①腎性尿崩症	
		5.次コマとの関係	引き続き、泌尿器系の主な疾患について学習する	
12	泌尿器系疾患⑫	1.シラバスとの関係	泌尿器系の主な疾患について学習する	
		2.コマ主題	泌尿器系疾患について学ぶ。泌尿器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	①尿道狭窄	
		4.コマ主題細目深度	①尿道狭窄	
		5.次コマとの関係	泌尿器系疾患の小テストを行う	
13	内分泌系の疾患①	1.シラバスとの関係	泌尿器系疾患の小テストを行う	
		2.コマ主題	内分泌系の局所解剖と生理学を復習し、知識を習得してから検査、代表的疾病に進む	
		3.コマ主題細目	①小テスト	
		4.コマ主題細目深度	①泌尿器系疾患に関する小テスト	
		5.次コマとの関係	内分泌系の主な検査へ続く	
14	内分泌系の疾患②	1.シラバスとの関係	内分泌系の主な検査法について学習する	
		2.コマ主題	内分泌系の疾患の局所解剖と生理を理解した上で、内分泌系の検査について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	視診、血液検査、尿検査など理解できる	
		4.コマ主題細目深度	視診、血液検査(血中ホルモン濃度など)、尿検査など理解できる	
		5.次コマとの関係	内分泌系の主な疾患について学習する	
15	内分泌系の疾患③	1.シラバスとの関係	内分泌系の主な疾患について学習する	
		2.コマ主題	内分泌系の疾患について学ぶ。内分泌系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	甲状腺の疾患について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	甲状腺機能低下症の機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、内分泌系の主な疾患について学習する	
16	内分泌系の疾患④	1.シラバスとの関係	内分泌系の主な疾患について学習する	
		2.コマ主題	内分泌系の疾患について学ぶ。内分泌系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	l甲状腺の疾患について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	甲状腺機能亢進症の機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、内分泌系の主な疾患について学習する	
17	内分泌系の疾患⑤	1.シラバスとの関係	内分泌系の主な疾患について学習する	
		2.コマ主題	内分泌系の疾患について学ぶ。内分泌系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	副腎の疾患について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	副腎皮質機能亢進症(クッシング症候群)、副腎皮質機能低下症(アジソン病)の機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、内分泌系の主な疾患について学習する	
18	内分泌系の疾患⑥	1.シラバスとの関係	内分泌系の主な疾患について学習する	
		2.コマ主題	内分泌系の疾患について学ぶ。内分泌系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	膵臓の疾患について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	糖尿病の機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	内分泌系の疾患の小テストを行う	
19	生殖器系疾患①	1.シラバスとの関係	内分泌系の疾患の小テストを行う	
		2.コマ主題	泌尿器系の局所解剖と生理学を復習し、知識を習得してから検査、代表的疾病に進む	
		3.コマ主題細目	①小テスト	
		4.コマ主題細目深度	①内分泌系疾患に関する小テスト	
		5.次コマとの関係	生殖器系の主な検査へ続く	
20	生殖器系疾患②	1.シラバスとの関係	生殖器系の主な検査法について学習する	
		2.コマ主題	泌尿器系の疾患の局所解剖と生理を理解した上で、泌尿器系の検査について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	膣スメア検査、清液検査、直腸検査、画像検査など理解できる	
		4.コマ主題細目深度	膣スメア検査(有核上皮細胞、赤血球など)、精液検査、直腸検査、画像検査など理解できる	
		5.次コマとの関係	生殖器系の主な疾患について学習する	

21	生殖器系疾患③	1.シラバスとの関係	生殖器系のの疾患について学ぶ。内分泌系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		2.コマ主題	雌の生殖器系疾患について学ぶ。生殖器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	子宮蓄膿症について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	子宮蓄膿症の機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、雌の生殖器系の主な疾患について学習する	
22	生殖器系疾患④	1.シラバスとの関係	生殖器系の主な疾患について学習する	
		2.コマ主題	雌の生殖器系疾患について学ぶ。生殖器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	乳腺腫瘍、産褥テタニーについて理解できる	
		4.コマ主題細目深度	乳腺腫瘍、産褥テタニーの機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、雌の生殖器系の主な疾患について学習する	
23	生殖器系疾患⑤	1.シラバスとの関係	生殖器系の主な疾患について学習する	
		2.コマ主題	雌の生殖器系疾患について学ぶ。生殖器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	持続性発情、子宮内膜過形成、子宮粘液症について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	持続性発情、子宮内膜過形成、子宮粘液）の機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、雌の生殖器系の主な疾患について学習する	
24	生殖器系疾患⑥	1.シラバスとの関係	生殖器系の主な疾患について学習する	
		2.コマ主題	雌の生殖器系疾患について学ぶ。生殖器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	子宮捻転、子宮破裂、子宮脱について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	子宮捻転、子宮破裂、子宮脱の機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、雌の生殖器系の主な疾患について学習する	
25	生殖器系疾患⑦	1.シラバスとの関係	生殖器系の主な疾患について学習する	
		2.コマ主題	雌の生殖器系疾患について学ぶ。生殖器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	胎盤停滞、胎盤部分退縮不全、膣炎、膣過形成について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	胎盤停滞、胎盤部分退縮不全、膣炎、膣過形成の機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	雄の生殖器系の主な疾患について学習する	
26	生殖器系疾患⑧	1.シラバスとの関係	生殖器系の主な疾患について学習する	
		2.コマ主題	雄の生殖器系疾患について学ぶ。生殖器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	前立腺肥大について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	前立腺肥大の機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、雄の生殖器系の主な疾患について学習する	
27	生殖器系疾患⑨	1.シラバスとの関係	生殖器系の主な疾患について学習する	
		2.コマ主題	雄の生殖器系疾患について学ぶ。生殖器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	潜在精巣、陰嚢ヘルニアについて理解できる	
		4.コマ主題細目深度	潜在精巣、陰嚢ヘルニアの機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、雄の生殖器系の主な疾患について学習する	
28	生殖器系疾患⑩	1.シラバスとの関係	生殖器系の主な疾患について学習する	
		2.コマ主題	雄の生殖器系疾患について学ぶ。生殖器系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	前立腺嚢胞、前立腺炎について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	前立腺嚢胞、前立腺炎の機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	生殖器系の疾患の小テストを行う	
29	生殖器系疾患⑪	1.シラバスとの関係	生殖器系の疾患の小テスト	
		2.コマ主題	小テスト	
		3.コマ主題細目	生殖器系の疾患について理解できていることが確認できる	
		4.コマ主題細目深度	生殖器系の疾患について確認テスト	
		5.次コマとの関係	動物疾病看護学Ⅳで学習した疾患の総復習を行う	
30	総復習	1.シラバスとの関係	総復習	
		2.コマ主題	動物疾病看護学Ⅳで学習した疾患のまとめ	
		3.コマ主題細目	動物疾病看護学Ⅳで学習した疾患を理解できていることを確認することができる	
		4.コマ主題細目深度	①泌尿器系疾患	
		5.次コマとの関係	動物疾病看護学5につづく	

動物疾病看護学－5

学科	動物看護系学科	シラバス(概要)
コース		チーム獣医療の場で必要な病名や診断名について学習する。また、治療方針の理解度を高め、疾病別の動物看護に活かすために必要な疾病について学ぶ。器官別疾患については、特有の検査や動物看護に必要な知識を学び、動物の看護が実践できるよう知識を身に付ける。疾患によっては、好発種と好発年齢があるので、そのポイントを把握した上で、各症状を理解し、動物への看護法を身に付ける。「動物疾病看護学－5」では、主に整形外科疾患および神経系疾患の代表的な疾病について学ぶ。また「動物疾病看護学－1～5」で学習した内容について、総合的復習を行う。
履修条件	動物疾病看護学－1～4を履修すること	
ユニット		
科目名	動物疾病看護学－5	
単位	1(1～5合わせて5単位)	
履修時間	30時間(1～5合わせて150時間)	
回数	30回(1～5合わせて150回)	
授業形態	講義	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	筆記試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①コンパニオン・アニマルの疾患学入門(インターズー)②ビジュアルで学ぶ動物看護学(チクサン出版社)③動物看護の教科書第3巻(緑書房)④小動物臨床のための機能形態学入門(インターズー)	

コマシラバス				
50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	整形外科疾患①	1.シラバスとの関係	整形外科疾患の局所解剖と生理学を復習する	
		2.コマ主題	整形外科疾患の局所解剖と生理学を復習し、知識を習得してから検査、代表的疾病に進む	
		3.コマ主題細目	整形外科疾患の局所解剖と生理について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	整形外科の形態と機能(骨格、筋肉など)について理解できる	
		5.次コマとの関係	整形外科の検査について学習する	
2	整形外科疾患②	1.シラバスとの関係	整形外科の検査について学習する	
		2.コマ主題	整形外科系の局所解剖と生理を理解した上で、整形外科の検査について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	整形外科の検査について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①跛行の評価	
		5.次コマとの関係	整形外科疾患について学習する	
3	整形外科疾患③	1.シラバスとの関係	整形外科疾患について学習する	
		2.コマ主題	整形外科疾患について学ぶ。整形外科の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	骨折について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	骨折の機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、整形外科疾患について学習する	
4	整形外科疾患④	1.シラバスとの関係	整形外科疾患について学習する	
		2.コマ主題	整形外科疾患について学ぶ。整形外科の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	膝蓋骨脱臼について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	膝蓋骨脱臼の機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、整形外科疾患について学習する	
5	整形外科疾患⑤	1.シラバスとの関係	整形外科疾患について学習する	
		2.コマ主題	整形外科疾患について学ぶ。整形外科の局所解剖と	
		3.コマ主題細目	前十字靭帯断裂・後十字靭帯断裂傷について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	前十字靭帯断裂・後十字靭帯断裂の機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、整形外科疾患について学習する	
6	整形外科疾患⑥	1.シラバスとの関係	整形外科疾患について学習する	
		2.コマ主題	整形外科疾患について学ぶ。整形外科の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	側副靭帯損傷・半月板損傷について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	側副靭帯損傷・半月板損傷の機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、整形外科疾患について学習する	
7	整形外科疾患⑦	1.シラバスとの関係	整形外科疾患について学習する	
		2.コマ主題	整形外科疾患について学ぶ。整形外科の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	股関節形成不全・レッグペルテス病について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	股関節形成不全・レッグペルテス病の機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、整形外科疾患について学習する	
8	整形外科疾患⑧	1.シラバスとの関係	整形外科疾患について学習する	
		2.コマ主題	整形外科疾患について学ぶ。整形外科の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	肘関節形成不全・脛骨内鬱症ス腱断裂について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	肘関節形成不全・脛骨内鬱症の機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、整形外科疾患について学習する	
9	整形外科疾患⑨	1.シラバスとの関係	整形外科疾患について学習する	
		2.コマ主題	整形外科疾患について学ぶ。整形外科の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	肩関節不安定症・アキレス腱断裂について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	肩関節不安定症・アキレス腱断裂の機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、整形外科疾患について学習する	

10	整形外科疾患⑩	1.シラバスとの関係	整形外科疾患について学習する	
		2.コマ主題	整形外科疾患について学ぶ。整形外科の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	離断性骨軟骨症・尺骨遠位成長板早期閉鎖について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	離断性骨軟骨症・尺骨遠位成長板早期閉鎖の機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	整形外科疾患についての小テスト	
11	整形外科疾患⑪	1.シラバスとの関係	整形外科疾患についての小テスト	
		2.コマ主題	整形外科疾患についての総復習	
		3.コマ主題細目	整形外科疾患について確認テスト	
		4.コマ主題細目深度	整形外科疾患に関する確認テストを実施する	
		5.次コマとの関係	神経系疾患の局所解剖と生理学を復習する	
12	神経系疾患①	1.シラバスとの関係	神経系疾患の局所解剖と生理学を復習する	
		2.コマ主題	神経系疾患の局所解剖と生理学を復習し、知識を習得してから検査、代表的疾病に進む	
		3.コマ主題細目	神経系疾患の局所解剖と生理について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	神経系の形態と機能（大脳、脳幹、小脳、脊髄、ニューロン）について理解できる	
		5.次コマとの関係	神経系の検査について学習する	
13	神経系疾患②	1.シラバスとの関係	神経系の検査について学習する	
		2.コマ主題	神経系の局所解剖と生理を理解した上で、神経系の検査について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	①神経系の検査について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①神経学的検査	
		5.次コマとの関係	神経系疾患について学習する	
14	神経系疾患③	1.シラバスとの関係	神経系疾患について学習する	
		2.コマ主題	神経系疾患について学ぶ。神経系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	椎間板ヘルニアについて理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①椎間板ヘルニアの分類（ハンセンⅠ型・ハンセンⅡ型）	
		5.次コマとの関係	引き続き、神経系疾患について学習する	
15	神経系疾患④	1.シラバスとの関係	神経系疾患について学習する	
		2.コマ主題	神経系疾患について学ぶ。神経系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	椎間板ヘルニアについて理解できる	
		4.コマ主題細目深度	椎間板ヘルニアの検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、神経系疾患について学習する	
16	神経系疾患⑤	1.シラバスとの関係	神経系疾患について学習する	
		2.コマ主題	神経系疾患について学ぶ。神経系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	椎間板ヘルニアについて理解できる	
		4.コマ主題細目深度	椎間板ヘルニアの機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、神経系疾患について学習する	
17	神経系疾患⑥	1.シラバスとの関係	神経系疾患について学習する	
		2.コマ主題	神経系疾患について学ぶ。神経系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	水頭症について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	水頭症の機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、神経系疾患について学習する	
18	神経系疾患⑦	1.シラバスとの関係	神経系疾患について学習する	
		2.コマ主題	神経系疾患について学ぶ。神経系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	てんかんについて理解できる	
		4.コマ主題細目深度	てんかんの機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、神経系疾患について学習する	
19	神経系疾患⑧	1.シラバスとの関係	神経系疾患について学習する	
		2.コマ主題	神経系疾患について学ぶ。神経系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	変性性腰仙部狭窄症について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	変性性腰仙部狭窄症の機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、神経系疾患について学習する	
20	神経系疾患⑨	1.シラバスとの関係	神経系疾患について学習する	
		2.コマ主題	神経系疾患について学ぶ。神経系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	ウォブラー症候群について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	ウォブラー症候群の機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、神経系疾患について学習する	

動物疾病看護学－5

21	神経系疾患⑩	1.シラバスとの関係	神経系疾患について学習する	
		2.コマ主題	神経系疾患について学ぶ。神経系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	キアリ様奇形・脊髄空洞症・脊髄クモ膜嚢胞について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	キアリ様奇形・脊髄空洞症・脊髄クモ膜嚢胞の機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	引き続き、神経系疾患について学習する	
22	神経系疾患⑪	1.シラバスとの関係	神経系疾患について学習する	
		2.コマ主題	神経系疾患について学ぶ。神経系の局所解剖と生理を理解した上で、疾患について知識を得る。	
		3.コマ主題細目	環椎軸椎脱臼・脊椎奇形について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	環椎軸椎脱臼・脊椎奇形の機序および症状、検査法、治療法を理解し、看護に活かすことができる	
		5.次コマとの関係	神経系疾患についての小テスト	
23	神経系疾患⑫	1.シラバスとの関係	神経系疾患についての小テスト	
		2.コマ主題	神経系疾患についての総復習	
		3.コマ主題細目	神経系疾患について確認テスト	
		4.コマ主題細目深度	神経系疾患に関する確認テストを実施する	
		5.次コマとの関係	腫瘍性疾患について学習する	
24	腫瘍性疾患①	1.シラバスとの関係	腫瘍性疾患について学習する	
		2.コマ主題	腫瘍性疾患について理解する	
		3.コマ主題細目	①腫瘍の分類	
		4.コマ主題細目深度	①腫瘍の分類（腫瘍・良性腫瘍・悪性腫瘍）	
		5.次コマとの関係	腫瘍性疾患についての小テスト	
25	腫瘍性疾患②	1.シラバスとの関係	腫瘍性疾患についての小テスト	
		2.コマ主題	腫瘍性疾患についての総復習	
		3.コマ主題細目	腫瘍性疾患について確認テスト	
		4.コマ主題細目深度	腫瘍性疾患に関する確認テストを実施する	
		5.次コマとの関係	動物疾病看護学1～5までの総復習を行う	
26	動物疾病看護学総まとめ①	1.シラバスとの関係	総復習	
		2.コマ主題	動物疾病看護学で学習した疾患の総まとめ	
		3.コマ主題細目	動物疾病看護学1で学習した疾患を理解できていることを確認することができる	
		4.コマ主題細目深度	①バイタルサイン・身体検査	
		5.次コマとの関係	引き続き、動物疾病看護学の総まとめを行う	
27	動物疾病看護学総まとめ②	1.シラバスとの関係	総復習	
		2.コマ主題	動物疾病看護学で学習した疾患の総まとめ	
		3.コマ主題細目	動物疾病看護学2で学習した疾患を理解できていることを確認することができる	
		4.コマ主題細目深度	①循環器系疾患	
		5.次コマとの関係	引き続き、動物疾病看護学の総まとめを行う	
28	動物疾病看護学総まとめ③	1.シラバスとの関係	総復習	
		2.コマ主題	動物疾病看護学で学習した疾患の総まとめ	
		3.コマ主題細目	動物疾病看護学3で学習した疾患を理解できていることを確認することができる	
		4.コマ主題細目深度	①消化器系疾患	
		5.次コマとの関係	引き続き、動物疾病看護学の総まとめを行う	
29	動物疾病看護学総まとめ④	1.シラバスとの関係	総復習	
		2.コマ主題	動物疾病看護学で学習した疾患の総まとめ	
		3.コマ主題細目	動物疾病看護学4で学習した疾患を理解できていることを確認することができる	
		4.コマ主題細目深度	①泌尿器系疾患	
		5.次コマとの関係	引き続き、動物疾病看護学の総まとめを行う	
30	動物疾病看護学総まとめ⑤	1.シラバスとの関係	総復習	
		2.コマ主題	動物疾病看護学で学習した疾患の総まとめ	
		3.コマ主題細目	動物疾病看護学5で学習した疾患を理解できていることを確認することができる	
		4.コマ主題細目深度	①神経系疾患	
		5.次コマとの関係		

動物薬理学

学科	動物看護系学科	シラバス（概要）
コース		薬は獣医師の処方により調剤するが、その薬理作用および副作用などを動物看護師が確認し、知識を有することは、カルテに記載された内容を正しく理解し、作用と症状の変化を予測する上で重要である。さらに動物は、種による体重の違いも大きく、生理的代謝の特異性による投与禁忌などがあるので確認が必要となるので、薬物の取扱いと保存方法を習得し、正確な薬用量計算ができなければならない。薬理学総論を通して、薬には基本的性質があり効能と副作用の両方を有することを学ぶ。また、薬の効能を最大限に発揮し副作用を最小化するために、飼い主が誤った判断をしないよう正しい服薬指導を行い、投薬前の状態、投薬後の動物の変化に気づくためには、薬理学の各論を理解することが必須である。
履修条件		
ユニット		
科目名	動物薬理学	
単位	1	
履修時間	30時間	
回数	30回	
授業形態	講義	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	筆記試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	動物看護の教科書第6巻(緑書房)	

コマシラバス				
50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	総論　薬理学とは	1.シラバスとの関係	薬理学を学ぶ上で必要な基本的知識を学ぶ	
		2.コマ主題	薬理学とは	
		3.コマ主題細目	薬理学とは？基本用語、必要な用語を学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	①薬理学とは何か②医薬品に関する情報の必要性③薬品の取扱いと注意事項について学び、薬理学に必要な基本的な知識を習得することができる。	
		5.次コマとの関係	次のコマでは、薬の剤形について学ぶ	
2	総論　薬理学とは	1.シラバスとの関係	薬理学を学ぶ上で必要な基本的知識を学ぶ	
		2.コマ主題	薬と類する物の分類	
		3.コマ主題細目	医療現場で用いられるものから食品まで、身近なものを俯瞰し、分類ができる。その法律的背景や規制を知る。	
		4.コマ主題細目深度	医薬品（医療用医薬品・OTC医薬品）、医薬部外品、化粧品、食品（特定機能食品・栄養機能食品・一般食品）の区別、効能効果の表示、販売の規制、処方の規制について学ぶ	
		5.次コマとの関係	薬理学の基本を知る	
3	総論　薬理学とは	1.シラバスとの関係	薬理学を学ぶ上で必要な基本的知識を学ぶ	
		2.コマ主題	薬理学とは	
		3.コマ主題細目	薬理学の基本と医薬品の定義について学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	医薬品（医療用医薬品・OTC医薬品）、医薬部外品、化粧品、食品（特定機能食品・栄養機能食品・一般食品）の区別、効能効果の表示、販売の規制、処方の規制について学ぶ医薬品の定義を理解し、それを正しく最大限に発現させるため、副作用を低減させるための用量用法について理解する。	
		5.次コマとの関係	次のコマでは、薬の剤形について学ぶ	
4	薬物の剤形①	1.シラバスとの関係	臨床の場で薬剤を使用する際に必要な知識を学ぶ	
		2.コマ主題	薬物の剤形について	
		3.コマ主題細目	薬物の剤形について知る：内服薬	
		4.コマ主題細目深度	薬剤は、局所に効かせたい場合や、全身に効かせたい場合など、目的が異なることがあり、それに最適な形状を選んで投与する必要がある。なぜ、様々な形状があるのかを理解し、患者動物またはその家族のコンプライアンスにより判断し、使い分けることができうるような知識を得ることを目的に学ぶ。	
		5.次コマとの関係	必要な環境に応じた薬剤の形状を理解できる。次は注射	
5	薬物の剤形②	1.シラバスとの関係	臨床の場で薬剤を使用する際に必要な知識を学ぶ	
		2.コマ主題	薬物の剤形について	
		3.コマ主題細目	薬物の剤形について知る：注射薬、外用薬	
		4.コマ主題細目深度	目的に応じた効果を期待するために使い分ける。注射という行為は獣医師のみが行えることではあるが、患者動物の観察や注射後の観察、使用する際の準備などについて必要な知識を学ぶ。それにより看護動物の看護介入に役立つ知識を得ることができる。	
		5.次コマとの関係	薬剤について知った後で、その薬物の投与方法とその特徴について知る	
6	薬物の投与方法とその特徴①	1.シラバスとの関係	臨床の場で使用する薬物の投与方法とその特徴について知る	
		2.コマ主題	薬物の投与方法について	
		3.コマ主題細目	薬物の投与方法について：様々な投与方法の長所、短所を知る	
		4.コマ主題細目深度	様々な投与経路の長所と短所を知ることにより、環境と状況に際的な方法を知ることができる。知識を持つことにより、看護介入時に活用することができる。	
		5.次コマとの関係	投与方法の全体を知ることにより理解し、各論に進む	
7	薬物の投与方法とその特徴②	1.シラバスとの関係	臨床の場で使用する薬物の投与方法とその特徴について知る	
		2.コマ主題	薬物の投与方法について	
		3.コマ主題細目	薬物の投与方法について：静脈内投与①	
		4.コマ主題細目深度	静脈内に針を刺入し、シリンジや点滴装置を用いて薬剤を投与する方法。効果発現は早いが、そのため薬剤の反応も早く現れることになるので、治療をうける動物の観察をより詳細にする必要がある。知識を得て看護介入に活かすことができるようになる。	
		5.次コマとの関係	静脈注射という事が、生命に直接影響を及ぼすということの認識	

動物薬理学

8	薬物の投与方法とその特徴③	1.シラバスとの関係	臨床の場で使用する薬物の投与方法とその特徴について知る	
		2.コマ主題	薬物の投与方法について	
		3.コマ主題細目	薬物の投与方法について:静脈内投与②	
		4.コマ主題細目深度	静脈内に直接薬剤を投与する、ということは直接循環血の中に薬剤が投与され、生命に影響を及ぼす可能性もあるということ。薬剤投与が命に関わる重要事であるということを認識できるよう、生命現象についても改めて認識できるよう解説を得、認識を新たにできるようになる。	
		5.次コマとの関係	次は、他の薬剤投与方法を学ぶ	
9	薬物の投与方法とその特徴④	1.シラバスとの関係	臨床の場で使用する薬物の投与方法とその特徴について知る	
		2.コマ主題	薬物の投与方法について	
		3.コマ主題細目	薬物の投与方法について:その他の投与方法として経口投与	
		4.コマ主題細目深度	口から薬剤を投与する方法。長所と短所をわきまえ、家族への指導が出来るようにする。簡便で安全な方法ではあるが、家庭内では油断することがないよう、回数や量を家族が勝手な判断で変更してしまわないような教育指導できる知識が必要となる。誤飲や大量摂取、または飲んだつもりになってしまって効果が出ないというようなことのないようにする知識を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	次は、他の薬剤投与方法を学ぶ	
10	薬物動態①	1.シラバスとの関係	薬を投与した後の、体内での流れと効果発現までのストーリーを知る	
		2.コマ主題	体内の薬物の動きについて	
		3.コマ主題細目	体内の薬物の動き、効果発現までの流れについて知る	
		4.コマ主題細目深度	薬物は、様々な方法で投与された後入った体内で、どのような流れで効果が発現されるのか、という流れのストーリーを学び、投与された後の薬剤を考慮しながら看護動物の看護介入に活かすことができるようになる。	
		5.次コマとの関係	薬の投与方法を学んで、後に、その薬がどのように吸収されるのかを次回に知った後でプロセスを学ぶ	
11	薬物動態②	1.シラバスとの関係	薬を投与した後の、体内での流れと効果発現までのストーリーを知る	
		2.コマ主題	体内の薬物の動きについて	
		3.コマ主題細目	体内の薬物の動き、効果発現までのプロセスについて知る	
		4.コマ主題細目深度	体内での薬剤の崩壊、胃からの排出、小腸からの吸収、食事の影響、分布にについて学び、食事後の投薬された看護動物の看護介入に活かすことができるようにする。	
		5.次コマとの関係	薬物の分布について知り、その後の代謝を理解する	
12	薬物動態③	1.シラバスとの関係	薬を投与した後の、体内での流れと効果発現までのストーリーを知る	
		2.コマ主題	体内の薬物の動きについて	
		3.コマ主題細目	体内に入った薬剤の代謝について知る	
		4.コマ主題細目深度	薬物は、吸収されて全身に分布し、作用部位に届くことによって効果を発揮する。しかし、それまでの経過中で肝臓を通過する際に代謝を受けることになり、このことは薬剤が効果を発揮できるうえで重要な作用となる。再度、肝臓の働きを復習しながら代謝について知り、効果的な投薬について学ぶことができる。	
		5.次コマとの関係	次から、薬物に影響を与える要因について学ぶ	
13	薬物に影響を与える因子①	1.シラバスとの関係	体内に入った薬剤が影響を与える因子について(量、その他要因)	
		2.コマ主題	効果に影響を与える因子について	
		3.コマ主題細目	効果に影響を与える因子、量について	
		4.コマ主題細目深度	薬物は、全ての動物に対して同じように作用するものではないので、さまざまな要因により薬物の効果が変化したり、副作用がでることを知る。これらのことが看護介入に活かせるよう知識として得ることができるようにする。	
		5.次コマとの関係	量の他の要因について学ぶ(頻度、年齢、性別)	
14	薬物に影響を与える因子②	1.シラバスとの関係	体内に入った薬剤が影響を与える因子について(頻度、年齢、性別)	
		2.コマ主題	効果に影響を与える因子について	
		3.コマ主題細目	効果に影響を与える因子、頻度、年齢、性別	
		4.コマ主題細目深度	投与する動物の年齢が若い、高齢ということによっても発現する効果に違いがでることが考えられる。調剤は、このような要因を念頭においてすることになるので、そういう知識を持っていることが看護介入に活用できることにな	
		5.次コマとの関係	次回から、おもな薬剤の特性(各論)に進む	
15	おもな薬剤の特性①	1.シラバスとの関係	獣医療の場で使用される薬剤の各論	
		2.コマ主題	自律神経作用薬	
		3.コマ主題細目	自律神経の生理の復習と、その作用薬とは?	
		4.コマ主題細目深度	自律神経とは、消化器、血管系、内分泌腺、生殖器など、自分の意志でコントロールできない期間(不随意器官)の機能を促進または抑制する神経。解剖生理学的知識を復習しながら、ここに影響を及ぼす薬剤について学ぶことができる。	
		5.次コマとの関係	受容体について学ぶ	

16	おもな薬剤の特性②	1.シラバスとの関係	獣医療の場で使用される薬剤の各論	
		2.コマ主題	自律神経作用薬	
		3.コマ主題細目	自律神経に影響を及ぼす薬物について、受容体作動薬について	
		4.コマ主題細目深度	副交感神経作動薬、交感神経作動薬、受容体について学ぶ。患者動物に処方された薬剤の作動を知ることにより、看護動物の容態の観察をする上でより留意できるようになる。	
		5.次コマとの関係	次のコマでは、抗菌薬について学ぶ	
17	おもな薬剤の特性③	1.シラバスとの関係	獣医療の場で使用される薬剤の各論	
		2.コマ主題	抗菌薬について	
		3.コマ主題細目	抗生物質とは何か？	
		4.コマ主題細目深度	抗生物質とは、ほかの微生物の増殖を抑えるカビまたは細菌から得る可溶性物質。抗生物質の系統を学び、そこに分類される薬品名を知ることにより、患者動物に処方される抗生物質について理解を深め、副作用や体に起きてくる症状を予測し、看護介入に活かすことができるようになる。	
		5.次コマとの関係	抗菌剤の系統分けをし、商品名を学ぶ	
18	おもな薬剤の特性④	1.シラバスとの関係	獣医療の場で使用される薬剤の各論	
		2.コマ主題	抗菌薬について	
		3.コマ主題細目	抗生物質とは何か？	
		4.コマ主題細目深度	①βラクタム系抗生物質、②アミノグリコシド、③テトラサイクリン、④クロラムフェニコール系の特性について学び、各所属する薬品名を知る	
		5.次コマとの関係	抗菌剤の系統分けをし、商品名を学ぶ	
19	おもな薬剤の特性⑤	1.シラバスとの関係	獣医療の場で使用される薬剤の各論	
		2.コマ主題	抗菌薬について	
		3.コマ主題細目	抗生物質とは何か？	
		4.コマ主題細目深度	⑤マクロライド系、⑥リンコマイシン系、⑦キノロン系の特性を知り各所属する薬品名を知る	
		5.次コマとの関係	抗菌剤の系統分けをし、商品名を学ぶ	
20	おもな薬剤の特性⑥	1.シラバスとの関係	獣医療の場で使用される薬剤の各論	
		2.コマ主題	抗菌薬について	
		3.コマ主題細目	抗生物質とは何か？	
		4.コマ主題細目深度	⑧スルホンアミド（サルファ剤）、⑨ポリミキシンB、⑩バンコマイシンの特性を知り各所属する薬剤名を知る	
		5.次コマとの関係	抗菌剤の系統分けをし、商品名を学ぶ	
21	おもな薬剤の特性⑦	1.シラバスとの関係	獣医療の場で使用される薬剤の各論	
		2.コマ主題	合成ステロイド	
		3.コマ主題細目	糖質コルチコイド作用を有する合成ステロイドについて知る	
		4.コマ主題細目深度	糖質コルチコイド作用を有する合成ステロイド（副腎皮質ホルモン剤）は、獣医療でもっとも多く使用されている薬物の一つである。幅広い薬効を持ち、貢献している薬物である一方、副採用の多い薬物でもある。しっかりと理解し、看護に活かす。	
		5.次コマとの関係	総論を知り、次回からの糖質コルチコイドを知る上に活かす	
22	おもな薬剤の特性⑧	1.シラバスとの関係	獣医療の場で使用される薬剤の各論	
		2.コマ主題	合成ステロイド	
		3.コマ主題細目	糖質コルチコイド作用を有する合成ステロイドについて知る	
		4.コマ主題細目深度	①糖質コルチコイドの分泌・抑制機構、②糖質コルチコイドの生理作用、③合成ステロイドの種類について学び患者動物に対する作用を理解し、看護介入に活かせるようにする。	
		5.次コマとの関係	糖質コルチコイドの基本を知った上で、応用に進む	
23	おもな薬剤の特性⑨	1.シラバスとの関係	獣医療の場で使用される薬剤の各論	
		2.コマ主題	非ステロイド抗炎症剤	
		3.コマ主題細目	非ステロイド抗炎症剤（NSAIDs）について	
		4.コマ主題細目深度	NSAIDsの種類について学ぶ。臨床の場で多く使用するこになるNSAIDsの薬品名を知り、処方された薬剤を使用する患者動物の看護介入に活かし、その薬についてご家族に指導教育する時の資料になるよう学ぶことができる。	
		5.次コマとの関係	次回は、循環器疾患に作用する薬について	
24	おもな薬剤の特性⑩	1.シラバスとの関係	獣医療の場で使用される薬剤の各論	
		2.コマ主題	循環器疾患に対する薬	
		3.コマ主題細目	循環器疾患に対する薬の作用機序について知る	
		4.コマ主題細目深度	①心不全の病態生理を知り、薬の作用機序について学ぶ。②血管拡張薬についてその作用機序について知ることにより、患者動物の看護介入に活かすことができる。	
		5.次コマとの関係	次回は、消化器疾患に作用する薬について	
25	おもな薬剤の特性⑪	1.シラバスとの関係	獣医療の場で使用される薬剤の各論	
		2.コマ主題	消化器疾患に対する薬	
		3.コマ主題細目	消化器疾患に対する薬の特徴と種類について	
		4.コマ主題細目深度	①嘔吐とは、②薬による治療法の注意点、③下痢とは ④下痢の祭に使用される薬剤の種類と特徴　について知る	
		5.次コマとの関係		
26	薬用量の計算①	1.シラバスとの関係	看護動物に使用する際の量の計算が正しくできる	
		2.コマ主題	薬用量の計算	
		3.コマ主題細目	投与量の計算ができるようになる	
		4.コマ主題細目深度	動物は、年齢、体重、体格が様々である。薬物の投与量は動物ごとに決定する必要がある。体重1キロあたりの量で定められていることが多く、正しく使用するために計算ができるようにする。そのコンプライアンスについて。	
		5.次コマとの関係		

27	薬用量の計算②	1.シラバスとの関係	看護動物に使用する際の量の計算が正しくできる	
		2.コマ主題	薬用量の計算	
		3.コマ主題細目	投与量の計算ができるようになる	
		4.コマ主題細目深度	動物は、年齢、体重、体格が様々である。薬物の投与量は動物ごとに決定する必要がある。体重1キロあたりの量で定められていることが多く、正しく使用するために計算ができるようにする。	
		5.次コマとの関係	次は液体の薬の計算ができるようになる	
28	薬用量の計算③	1.シラバスとの関係	看護動物に使用する際の量の計算が正しくできる	
		2.コマ主題	薬用量の計算	
		3.コマ主題細目	投与量の計算ができるようになる	
		4.コマ主題細目深度	動物は、年齢、体重、体格が様々である。薬物の投与量は動物ごとに決定する必要がある。体重1キロあたりの量で定められていることが多く、正しく使用するために計算ができるようにする。注射やシロップなどの溶液の計算ができるようになる。	
		5.次コマとの関係	次は液体の薬の計算ができるようになる	
29	薬用量の計算④	1.シラバスとの関係	看護動物に使用する際の量の計算が正しくできる	
		2.コマ主題	薬用量の計算	
		3.コマ主題細目	投与量の計算ができるようになる	
		4.コマ主題細目深度	コンプライアンスを確認し、薬用量の計算の応用が出来るようにする。手術時の麻酔量の計算も、複数人で確認をするよう心がけるが、薬の量は命に結びつく可能性のある間違っていけないものなので、充分に配慮する習慣がつくようにする。	
		5.次コマとの関係	いままでのまとめ	
30	総まとめ	1.シラバスとの関係	動物薬理学の総まとめ	
		2.コマ主題	不十分な部分がないか確認し、薬物投与に関する略語について知る	
		3.コマ主題細目	不十分な部分がないか確認し、薬物投与に関する略語について知る	
		4.コマ主題細目深度	復習として必要な部分を確認し、その他に薬物投与に関する略語について復習をする。	
		5.次コマとの関係		

動物感染症学－1

学科	動物看護系学科	シラバス（概要）
コース		伴侶動物であるイヌやネコをはじめ、動物の感染症を理解することは、獣医療に関わるものとして大変重要である。主にイヌやネコに感染する微生物や寄生虫の特徴や生活環、感染経路、症状について学習し、予防と看護に活かす。感染症を予防するためには、感染症の発生機序、原因となる病原体についての理解が必要である。「動物感染症学－1」では、感染・発症の定義、感染の成り立ちについて学習し、主にイヌやネコに感染する微生物（細菌、真菌、原虫、ウイルス）について、性状と構造、分類、感染経路、病害発生の機序、予防法を学び、飼い主に感染症予防の大切さを伝えられるようにする。
履修条件	動物感染症学－1を先行すること	
ユニット		
科目名	動物感染症学－1	
単位	1（1・2合わせて2単位）	
履修時間	30時間（1・2合わせて60時間）	
回数	30回（1・2合わせて60回）	
授業形態	講義	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	筆記試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①動物看護のための小動物衛生学（ファームプレス）②動物看護の教科書第3巻（緑書房）	

コマシラバス

50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	感染・感染症とは	1.シラバスとの関係	感染症の定義と感染症の原因を理解し、感染症の予防と看護に役立てる。	
		2.コマ主題	感染、発症、感染症の定義が言えるようになる。また、感染症の経過を理解する。	
		3.コマ主題細目	①感染、発症、感染症とは　②感染症の経過	
		4.コマ主題細目深度	①感染、発症、感染症の定義を知る。感染しても発症しない場合があるため、感染と発症は同じではないことを理解する。②感染症の経過を図式したものを見ながら、その流れを確認する。ここで出てくる潜伏期、前駆症状、キャリアー（保菌者）の意味を説明できるようになる。	
		5.次コマとの関係	感染症の種類に進む。	
2	感染症の種類①	1.シラバスとの関係	感染症の定義と感染症の原因を理解し、感染症の予防と看護に役立てる。	
		2.コマ主題	感染症の種類について学習し、それぞれの意味を答えられるようになる。	
		3.コマ主題細目	①伝染病、非伝染病、流行　②一次感染、二次感染、菌交代症、混合感染　③日和見感染、院内感染	
		4.コマ主題細目深度	①～③の感染症の意味を学習する。その後、それぞれの意味が答えられるか、小テストで確認する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、感染症の種類を学ぶ。	
3	感染症の種類②	1.シラバスとの関係	感染症の定義と感染症の原因を理解し、感染症の予防と看護に役立てる。	
		2.コマ主題	感染症の種類について学習し、それぞれの意味を答えられるようになる。	
		3.コマ主題細目	①局所感染、全身感染、病巣感染　②持続感染、潜伏感染　③侵入経路による感染　④その他の感染	
		4.コマ主題細目深度	①～④の感染症の意味を学習する。その後、それぞれの意味が答えられるか、小テストで確認する。	
		5.次コマとの関係	感染の成立に必要な3つの要因について学ぶ。	
4	感染が成り立つには①	1.シラバスとの関係	感染症の定義と感染症の原因を理解し、感染症の予防と看護に役立てる。	
		2.コマ主題	感染が成立するために必要な3つの要因が言えるようになる。それに加えて、感染が成立するか否かを決める3つの力関係についても学習する。	
		3.コマ主題細目	①感染の成立に必要な3つの要因　②感染源	
		4.コマ主題細目深度	①感染の成立に必要な3つの要因（感染源、感染経路、感受性体）が言えるようになる。また、この3つの要因が存在しても、感染が必ず成立するとは限らず、3つの力関係（起病力、毒力、抵抗力）があることを知る。②病原巣の意味を学んだ上で感染源の定義を理解する。	
		5.次コマとの関係	感染経路について学ぶ。	
5	感染が成り立つには②	1.シラバスとの関係	感染症の定義と感染症の原因を理解し、感染症の予防と看護に役立てる。	
		2.コマ主題	感染が成立するために必要な3つの要因が言えるようになる。それに加えて、感染が成立するか否かを決める3つの力関係についても学習する。	
		3.コマ主題細目	①感染の伝播形式（経路）	
		4.コマ主題細目深度	①感染様式を大きく2つに分け（水平感染、垂直感染）、その水平感染の中の接触感染が、感染経路として最も重要である。感染の伝播様式を図式したものを見ながら、それぞれの伝播様式について学習する。	
		5.次コマとの関係	宿主の感染防御能と感染症の診断について学ぶ。	
6	感染が成り立つには③	1.シラバスとの関係	感染症の定義と感染症の原因を理解し、感染症の予防と看護に役立てる。	
		2.コマ主題	感染が成立するために必要な3つの要因が言えるようになる。それに加えて、感染が成立するか否かを決める3つの力関係についても学習する。	
		3.コマ主題細目	①宿主の感染防御能　②感染症の診断	
		4.コマ主題細目深度	①生体の有する種々の感染防御能（免疫）について学ぶ。しここでは概要を学び、詳細は「動物形態機能学」の免疫学で学習する。②感染症の原因である病原微生物を見つける、2つの方法（病原微生物の分離と同定、血清・免疫学的診断）とその概要を知る。	
		5.次コマとの関係	感染症を引き起こす微生物に進む。	

7	微生物学 微生物とは	1.シラバスとの関係	動物に感染症を引き起こす微生物について、分類、感染経路、病害発生の機序、予防法を学び、飼い主に感染症予防の大切さを伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	微生物の定義、その対象、性状の違いを知る。	
		3.コマ主題細目	①微生物とは　②微生物学の対象、性状の違い	
		4.コマ主題細目深度	①微生物の定義を知る。肉眼では見ることができない、微細な単細胞の生物であることを理解する。②対象となる、原虫、真菌、細菌（リケッチア、クラミジア、マイコプラズマを含む）、ウイルス、プリオンについて、それらの性状の違いを知る。	
		5.次コマとの関係	病原微生物に進む。	
8	微生物学 病原微生物とは	1.シラバスとの関係	動物に感染症を引き起こす微生物について、分類、感染経路、病害発生の機序、予防法を学び、飼い主に感染症予防の大切さを伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	病原微生物とは何かが説明できるようになる。	
		3.コマ主題細目	①病原微生物とは	
		4.コマ主題細目深度	①微生物全てが感染症を引き起こす訳ではなく、そのごく一部が動植物やヒトに病害を引き起こす。この性質をもった微生物が病原微生物であることを理解する。病原微生物については、「病原体・衛生管理」で詳しく学ぶ。	
		5.次コマとの関係	細菌について学ぶ。	
9	微生物学 細菌①	1.シラバスとの関係	動物に感染症を引き起こす微生物について、分類、感染経路、病害発生の機序、予防法を学び、飼い主に感染症予防の大切さを伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	細菌の性状を知る。	
		3.コマ主題細目	①細菌の性状	
		4.コマ主題細目深度	①細菌は細胞壁をもつ単細胞の原核生物であり、一般細菌、リケッチア、クラミジア、マイコプラズマが含まれていることを知る。大きさや形態について、図を見ながら学習する。細菌は形態によって名称が異なることを知る。	
		5.次コマとの関係	細菌の構造に進む。	
10	微生物学 細菌②	1.シラバスとの関係	動物に感染症を引き起こす微生物について、分類、感染経路、病害発生の機序、予防法を学び、飼い主に感染症予防の大切さを伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	細菌の構造を知る。	
		3.コマ主題細目	①細菌の構造	
		4.コマ主題細目深度	①細菌の基本構造を図を見ながら理解する。特殊構造である、莢膜、鞭毛、繊毛、芽胞についても学ぶ。特に芽胞は位置や形によって名称が変わるため、それぞれの名称も覚える。	
		5.次コマとの関係	細菌の染色法に進む。	
11	微生物学 細菌③	1.シラバスとの関係	動物に感染症を引き起こす微生物について、分類、感染経路、病害発生の機序、予防法を学び、飼い主に感染症予防の大切さを伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	細菌を観察する際に行う染色について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①細菌の染色法	
		4.コマ主題細目深度	①細菌を判別するために、様々な染色法があることを知る。その中でも細菌の分類上重要な染色法であるグラム染色について、その手順を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	細菌の発育（増殖）に進む。	
12	微生物学 細菌④	1.シラバスとの関係	動物に感染症を引き起こす微生物について、分類、感染経路、病害発生の機序、予防法を学び、飼い主に感染症予防の大切さを伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	細菌の発育や増殖に必要な栄養素と、増殖に関わる因子を知る。	
		3.コマ主題細目	①細菌の栄養素　②増殖に必要な因子	
		4.コマ主題細目深度	①細菌の発育や増殖に必要な栄養素（水分、無機塩類、炭素源、窒素源、発育因子）が何かを知る。②細菌の増殖に必要な因子（温度、水素イオン濃度（pH）、酸素、浸透圧）について学習する。細菌の種類によって、増殖に最適な条件が異なることを知る。	
		5.次コマとの関係	細菌の培養と分類に進む。	
13	微生物学 細菌⑤	1.シラバスとの関係	動物に感染症を引き起こす微生物について、分類、感染経路、病害発生の機序、予防法を学び、飼い主に感染症予防の大切さを伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	細菌培養の目的と細菌の分類について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①細菌の培養　②細菌の分類	
		4.コマ主題細目深度	①細菌培養の目的を知る。培地とは何かが説明できるようになる。細菌の同定（菌名を明らかにすること）には、培養が不可欠であることを理解する。②細菌はどのような基準で分類されるかを知る。グラム染色性、形態、増殖に酸素を必要とするか、などにより分類されていることを学び、主な分類を覚える。	
		5.次コマとの関係	イヌ、ネコの主な細菌感染症に進む。	

動物感染症学－1

14	微生物学 イヌ、ネコの主な細菌感染症①	1.シラバスとの関係	動物に感染症を引き起こす微生物について、分類、感染経路、病害発生の機序、予防法を学び、飼い主に感染症予防の大切さを伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	イヌ、ネコの主な細菌感染症の病原菌、感染経路、症状、治療・予防を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①ブドウ球菌感染症　②炭疽　③緑膿菌感染症	
		4.コマ主題細目深度	①～③の感染症について、それぞれの病原菌、感染経路、症状、治療・予防を学び、特徴が答えられるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き、イヌ、ネコの主な細菌感染症を学ぶ。	
15	微生物学 イヌ、ネコの主な細菌感染症②	1.シラバスとの関係	動物に感染症を引き起こす微生物について、分類、感染経路、病害発生の機序、予防法を学び、飼い主に感染症予防の大切さを伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	イヌ、ネコの主な細菌感染症の病原菌、感染経路、症状、治療・予防を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①ブルセラ症　②ボルデテラ症　③サルモネラ症	
		4.コマ主題細目深度	①～③の感染症について、それぞれの病原菌、感染経路、症状、治療・予防を学び、特徴が答えられるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き、イヌ、ネコの主な細菌感染症を学ぶ。	
16	微生物学 イヌ、ネコの主な細菌感染症③	1.シラバスとの関係	動物に感染症を引き起こす微生物について、分類、感染経路、病害発生の機序、予防法を学び、飼い主に感染症予防の大切さを伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	イヌ、ネコの主な細菌感染症の病原菌、感染経路、症状、治療・予防を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①ライム病　②レプトスピラ症　③カンピロバクター症	
		4.コマ主題細目深度	①～③の感染症について、それぞれの病原菌、感染経路、症状、治療・予防を学び、特徴が答えられるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き、イヌ、ネコの主な細菌感染症を学ぶ。	
17	微生物学 イヌ、ネコの主な細菌感染症④	1.シラバスとの関係	動物に感染症を引き起こす微生物について、分類、感染経路、病害発生の機序、予防法を学び、飼い主に感染症予防の大切さを伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	イヌ、ネコの主な細菌感染症の病原菌、感染経路、症状、治療・予防を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①猫クラミジア症　②猫ヘモプラズマ感染症（猫ヘモバルトネラ症）　③犬猫の呼吸器感染症	
		4.コマ主題細目深度	①～③の感染症について、それぞれの病原菌、感染経路、症状、治療・予防を学び、特徴が答えられるようになる。	
		5.次コマとの関係	真菌に進む。	
18	微生物学 真菌①	1.シラバスとの関係	動物に感染症を引き起こす微生物について、分類、感染経路、病害発生の機序、予防法を学び、飼い主に感染症予防の大切さを伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	真菌とは何か、その形態と増殖様式を知る。	
		3.コマ主題細目	①真菌とは　②真菌の形態と増殖様式	
		4.コマ主題細目深度	①真菌とは何かが説明できるようになる。身近に存在する真菌を挙げ、食品や医薬品に深い関係があることを知る。②形態によって分類された酵母様真菌と糸状菌について、それぞれの形態の特徴と増殖様式を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	主な病原性真菌と検査法を学ぶ。	
19	微生物学 真菌②	1.シラバスとの関係	動物に感染症を引き起こす微生物について、分類、感染経路、病害発生の機序、予防法を学び、飼い主に感染症予防の大切さを伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	主な病原性真菌と検査法について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①主な病原性真菌　②検査法	
		4.コマ主題細目深度	①主な病原性真菌にはどのようなものがあるかを知る。その中でもイヌ、ネコやヒトに感染するものを覚える。②真菌の診断には、直接鏡検する方法と分離培養する方法があることを知り、それぞれの大まかな手順を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	イヌ、ネコの主な真菌感染症に進む。	
20	微生物学 イヌ、ネコの主な真菌感染症①	1.シラバスとの関係	動物に感染症を引き起こす微生物について、分類、感染経路、病害発生の機序、予防法を学び、飼い主に感染症予防の大切さを伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	イヌ、ネコの主な真菌感染症の病原菌、感染経路、症状、治療・予防を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①マラセチア症　②クリプトコックス症　③カンジダ症	
		4.コマ主題細目深度	①～③の感染症について、それぞれの病原菌、感染経路、症状、治療・予防を学び、特徴が答えられるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き、イヌ、ネコの主な真菌感染症を学ぶ。	
21	微生物学 イヌ、ネコの主な真菌感染症②	1.シラバスとの関係	動物に感染症を引き起こす微生物について、分類、感染経路、病害発生の機序、予防法を学び、飼い主に感染症予防の大切さを伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	イヌ、ネコの主な真菌感染症の病原菌、感染経路、症状、治療・予防を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①皮膚糸状菌症　②アスペルギルス症	
		4.コマ主題細目深度	①、②の感染症について、それぞれの病原菌、感染経路、症状、治療・予防を学び、特徴が答えられるようにな	
		5.次コマとの関係	原虫に進む。	

動物感染症学－1

22	微生物学 原虫	1.シラバスとの関係	動物に感染症を引き起こす微生物について、分類、感染経路、病害発生の機序、予防法を学び、飼い主に感染症予防の大切さを伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	原虫とは何かを知り、その分類と増殖様式、検査法を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①原虫とは　②分類と増殖形式　③検査法	
		4.コマ主題細目深度	①原虫とは何かが説明できるようになる。他の生物体内で寄生・共生している病原性原虫にはどのようなものがあるかを知る。②原虫は運動器官の形態により、根足虫類、鞭毛虫類、繊毛虫類、胞子虫類に分類されていることと、それぞれの特徴を知る。また、ここでは大まかな増殖形式を知り、詳細は「動物感染症学2」で学ぶ。③消化管寄生の原虫、血液中に寄生する原虫、それぞれの検査法を知る。	
		5.次コマとの関係	イヌ、ネコの主な原虫感染症に進む。	
23	微生物学 イヌ、ネコの主な原虫感染症①	1.シラバスとの関係	動物に感染症を引き起こす微生物について、分類、感染経路、病害発生の機序、予防法を学び、飼い主に感染症予防の大切さを伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	イヌ、ネコの主な原虫感染症の病原体、感染経路、症状、治療・予防を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①コクシジウム症　②トキソプラズマ症	
		4.コマ主題細目深度	①、②の感染症について、それぞれの病原体、感染経路、症状、治療・予防を学び、特徴が答えられるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き、イヌ、ネコの主な原虫感染症を学ぶ。	
24	微生物学 イヌ、ネコの主な原虫感染症②	1.シラバスとの関係	動物に感染症を引き起こす微生物について、分類、感染経路、病害発生の機序、予防法を学び、飼い主に感染症予防の大切さを伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	イヌ、ネコの主な原虫感染症の病原体、感染経路、症状、治療・予防を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①バベシア症　②ジアルジア症　③トリコモナス症	
		4.コマ主題細目深度	①～③の感染症について、それぞれの病原体、感染経路、症状、治療・予防を学び、特徴が答えられるようになる。	
		5.次コマとの関係	ウイルスに進む。	
25	微生物学 ウイルス①	1.シラバスとの関係	動物に感染症を引き起こす微生物について、分類、感染経路、病害発生の機序、予防法を学び、飼い主に感染症予防の大切さを伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	ウイルスとは何か、その性状と分類について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①ウイルスの性状　②分類	
		4.コマ主題細目深度	①ウイルスの性状を知り、ウイルスとは何かが説明できるようになる。大きさ、形状、構造が他の微生物とは大きく異なることを理解する。②ウイルスは核酸の種類によってDNAウイルスとRNAウイルスに大きく分類されることを知る。その他、粒子構造や組成によって分類されていることを、表を見て確認する。	
		5.次コマとの関係	ウイルスの増殖に進む。	
26	微生物学 ウイルス②	1.シラバスとの関係	動物に感染症を引き起こす微生物について、分類、感染経路、病害発生の機序、予防法を学び、飼い主に感染症予防の大切さを伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	ウイルスの増殖と、感染の経過について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①ウイルスの増殖　②感染の経過	
		4.コマ主題細目深度	①ウイルスの細胞内増殖過程の模式図を見ながら、6段階の増殖過程を確認する。ウイルスの増殖は必ず生きた細胞を必要とすることを覚える。②ウイルスの感染の経過を学ぶ。また、ウイルス感染による細胞の変化についても学習する。	
		5.次コマとの関係	イヌの主なウイルス感染症に進む。	
27	微生物学 イヌの主なウイルス感染症①	1.シラバスとの関係	動物に感染症を引き起こす微生物について、分類、感染経路、病害発生の機序、予防法を学び、飼い主に感染症予防の大切さを伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	イヌの主なウイルス感染症の病原体、感染経路、症状、治療・予防を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①狂犬病　②犬ジステンパー　③犬アデノウイルス感染症（Ⅰ型、Ⅱ型）	
		4.コマ主題細目深度	①～③の感染症について、それぞれの病原体、感染経路、症状、治療・予防を学び、特徴が答えられるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き、イヌのウイルス感染症を学ぶ。	
28	微生物学 イヌの主なウイルス感染症②	1.シラバスとの関係	動物に感染症を引き起こす微生物について、分類、感染経路、病害発生の機序、予防法を学び、飼い主に感染症予防の大切さを伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	イヌの主なウイルス感染症の病原体、感染経路、症状、治療・予防を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①犬パルボウイルス感染症　②犬コロナウイルス感染症　③犬パラインフルエンザ感染症	
		4.コマ主題細目深度	①～③の感染症について、それぞれの病原体、感染経路、症状、治療・予防を学び、特徴が答えられるようになる。	
		5.次コマとの関係	ネコの主なウイルス感染症に進む。	

動物感染症学－1

29	微生物学 ネコの主なウイルス感染症①	1.シラバスとの関係	動物に感染症を引き起こす微生物について、分類、感染経路、病害発生の機序、予防法を学び、飼い主に感染症予防の大切さを伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	ネコの主なウイルス感染症の病原体、感染経路、症状、治療・予防を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①猫ウイルス性鼻気管炎　②猫カリシウイルス感染症 ③猫汎白血球減少症	
		4.コマ主題細目深度	①～③の感染症について、それぞれの病原体、感染経路、症状、治療・予防を学び、特徴が答えられるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き、ネコの主なウイルス感染症を学ぶ。	
30	微生物学 ネコの主なウイルス感染症②	1.シラバスとの関係	動物に感染症を引き起こす微生物について、分類、感染経路、病害発生の機序、予防法を学び、飼い主に感染症予防の大切さを伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	ネコの主なウイルス感染症の病原体、感染経路、症状、治療・予防を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①猫白血病ウイルス感染症　②猫免疫不全ウイルス感染症　③猫伝染性腹膜炎	
		4.コマ主題細目深度	①～③の感染症について、それぞれの病原体、感染経路、症状、治療・予防を学び、特徴が答えられるようになる。	
		5.次コマとの関係	「動物感染症学2」では寄生虫について学ぶ。	

動物感染症学－2

学科	動物看護系学科	シラバス（概要）
コース		伴侶動物であるイヌやネコをはじめ、動物の感染症を理解することは、獣医療に関わるものとして大変重要である。主にイヌやネコに感染する微生物や寄生虫について、それらの特徴や生活環、感染経路、症状について学習し、予防と看護に活かす。感染症を予防するためには、感染症の発生機序、原因となる病原体についての理解が必要である。「動物感染症学－2」では、動物をとりまく環境と寄生虫の関係について理解し、寄生虫の生物学的な特徴や寄生虫症についての基礎知識を修得する。主にイヌネコに感染する内部寄生虫、外部寄生虫の感染経路、病害発生の機序、検査法、予防法を学び、飼主に寄生虫感染予防の大切さを伝えられるようにする。
履修条件	動物感染症学－1を履修すること	
ユニット		
科目名	動物感染症学－2	
単位	1（1・2合わせて2単位）	
履修時間	30時間（1・2合わせて60時間）	
回数	30回（1・2合わせて60回）	
授業形態	講義	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	筆記試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①動物看護のための小動物寄生虫学（ファームプレス）②専門基礎分野　動物寄生虫学（インターズー）③犬・猫・エキゾチックペットの寄生虫ビジュアルガイド（インターズー）	

コマシラバス

50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	寄生虫とは	1.シラバスとの関係	寄生虫感染の予防の大切さを知るために、寄生虫とは何かが説明できるようになる。	
		2.コマ主題	寄生虫とは何かが説明できるようになる。	
		3.コマ主題細目	①寄生虫とは　②寄生虫の分類	
		4.コマ主題細目深度	①寄生虫の定義を知り、寄生虫とは何かが説明できるようになる。宿主の意味を理解する。②内部寄生虫と外部寄生虫の違いが答えられるようになる。また、宿主特異性についても理解する。	
		5.次コマとの関係	内部寄生虫の分類に進む。	
2	内部寄生虫の分類①	1.シラバスとの関係	寄生虫感染の予防の大切さを知るために、寄生虫とは何かが説明できるようになる。	
		2.コマ主題	内部寄生虫の分類と特徴を整理する。	
		3.コマ主題細目	①蠕虫類（線虫類）	
		4.コマ主題細目深度	①蠕虫類に分類される、線虫類について、その形態や生活環を回虫を例に学ぶ。終宿主、中間宿主について説明できるようになる。また、イヌ、ネコに寄生する主な線虫類にはどのようなものがあるかを知る。	
		5.次コマとの関係	引き続き、内部寄生虫の蠕虫類について学ぶ。	
3	内部寄生虫の分類②	1.シラバスとの関係	寄生虫感染の予防の大切さを知るために、寄生虫とは何かが説明できるようになる。	
		2.コマ主題	内部寄生虫の分類と特徴を整理する。	
		3.コマ主題細目	①蠕虫類（条虫類）	
		4.コマ主題細目深度	①蠕虫類に分類される、条虫類について、その形態や生活環を学ぶ。また、イヌ、ネコに寄生する主な条虫類にはどのようなものがあるかを知る。	
		5.次コマとの関係	引き続き、内部寄生虫の蠕虫類について学ぶ。	
4	内部寄生虫の分類③	1.シラバスとの関係	寄生虫感染の予防の大切さを知るために、寄生虫とは何かが説明できるようになる。	
		2.コマ主題	内部寄生虫の分類と特徴を整理する。	
		3.コマ主題細目	①蠕虫類（吸虫類）	
		4.コマ主題細目深度	①蠕虫類に分類される、吸虫類について、その形態や生活環を学ぶ。また、イヌ、ネコに寄生する主な吸虫類にはどのようなものがあるかを知る。	
		5.次コマとの関係	内部寄生虫の原虫類について学ぶ。	
5	内部寄生虫の分類④	1.シラバスとの関係	寄生虫感染の予防の大切さを知るために、寄生虫とは何かが説明できるようになる。	
		2.コマ主題	内部寄生虫の分類と特徴を整理する。	
		3.コマ主題細目	①原虫類	
		4.コマ主題細目深度	①原虫類について、その形態や生活環を学ぶ。また、「動物感染症学Ⅰ」で学んだ、イヌ、ネコに寄生する主な原虫類にはどのようなものがあったかを振り返る。	
		5.次コマとの関係	外部寄生虫の分類に進む。	
6	外部寄生虫の分類①	1.シラバスとの関係	寄生虫感染の予防の大切さを知るために、寄生虫とは何かが説明できるようになる。	
		2.コマ主題	外部寄生虫の分類と特徴を整理する。	
		3.コマ主題細目	①昆虫類	
		4.コマ主題細目深度	①昆虫類の形態や発育形態を学ぶ。イヌ、ネコに寄生する主な昆虫類にはどのようなものがあるかを知る。	
		5.次コマとの関係	外部寄生虫のダニ類について学ぶ。	
7	外部寄生虫の分類②	1.シラバスとの関係	寄生虫感染の予防の大切さを知るために、寄生虫とは何かが説明できるようになる。	
		2.コマ主題	外部寄生虫の分類と特徴を整理する。	
		3.コマ主題細目	①ダニ類	
		4.コマ主題細目深度	①ダニ類の形態や発育形態を学ぶ。イヌ、ネコに寄生する主なダニ類にはどのようなものがあるかを知る。	
		5.次コマとの関係	臨床症状がみられる内部寄生虫の種類と特徴に進む。	
8	臨床症状がみられる内部寄生虫 消化器症状を示す内部寄生虫①	1.シラバスとの関係	臨床症状別に内部寄生虫を分類し、症状から寄生虫感染を疑えるようになる。	
		2.コマ主題	イヌに消化器症状を示す内部寄生虫について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①犬回虫	
		4.コマ主題細目深度	①の内部寄生虫において、成虫や虫卵の形態、生活環、感染経路、症状、治療・予防法について学習する。	
		5.次コマとの関係	引き続きイヌに消化器症状を示す内部寄生虫を学ぶ。	

動物感染症学－2

9	臨床症状がみられる内部寄生虫 消化器症状を示す内部寄生虫②	1.シラバスとの関係	臨床症状別に内部寄生虫を分類し、症状から寄生虫感染を疑えるようになる。	
		2.コマ主題	イヌに消化器症状を示す内部寄生虫について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①犬鉤虫	
		4.コマ主題細目深度	①の内部寄生虫において、成虫や虫卵の形態、生活環、感染経路、症状、治療・予防法について学習する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、イヌに消化器症状を示す内部寄生虫を学ぶ。	
10	臨床症状がみられる内部寄生虫 消化器症状を示す内部寄生虫③	1.シラバスとの関係	臨床症状別に内部寄生虫を分類し、症状から寄生虫感染を疑えるようになる。	
		2.コマ主題	イヌに消化器症状を示す内部寄生虫について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①犬鞭虫 ②糞線虫	
		4.コマ主題細目深度	①、②の内部寄生虫において、成虫や虫卵の形態、生活環、感染経路、症状、治療・予防法について学習する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、イヌに消化器症状を示す内部寄生虫を学ぶ。	
11	臨床症状がみられる内部寄生虫 消化器症状を示す内部寄生虫④	1.シラバスとの関係	臨床症状別に内部寄生虫を分類し、症状から寄生虫感染を疑えるようになる。	
		2.コマ主題	イヌに消化器症状を示す内部寄生虫について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①イソスポラ ②クリプトスポリジウム ③ジアルジア	
		4.コマ主題細目深度	①～③の内部寄生虫において、原虫の形態、生活環、感染経路、症状、治療・予防法について学習する。	
		5.次コマとの関係	ネコに消化器症状を示す内部寄生虫を学ぶ。	
12	臨床症状がみられる内部寄生虫 消化器症状を示す内部寄生虫⑤	1.シラバスとの関係	臨床症状別に内部寄生虫を分類し、症状から寄生虫感染を疑えるようになる。	
		2.コマ主題	ネコに消化器症状を示す内部寄生虫について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①猫回虫 ②猫鉤虫 ③猫糞線虫	
		4.コマ主題細目深度	①～③の内部寄生虫において、成虫や虫卵の形態、生活環、感染経路、症状、治療・予防法について学習する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、ネコに消化器症状を示す内部寄生虫を学ぶ。	
13	臨床症状がみられる内部寄生虫 消化器症状を示す内部寄生虫⑥	1.シラバスとの関係	臨床症状別に内部寄生虫を分類し、症状から寄生虫感染を疑えるようになる。	
		2.コマ主題	ネコに消化器症状を示す内部寄生虫について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①壺形吸虫 ②イソスポラ	
		4.コマ主題細目深度	①～③の内部寄生虫において、成虫や虫卵（もしくは原虫）の形態、生活環、感染経路、症状、治療・予防法について学習する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、ネコに消化器症状を示す内部寄生虫を学ぶ。	
14	臨床症状がみられる内部寄生虫 消化器症状を示す内部寄生虫⑦	1.シラバスとの関係	臨床症状別に内部寄生虫を分類し、症状から寄生虫感染を疑えるようになる。	
		2.コマ主題	ネコに消化器症状を示す内部寄生虫について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①トキソプラズマ	
		4.コマ主題細目深度	①の内部寄生虫において、原虫の形態、生活環、感染経路、症状、治療・予防法について学習する。	
		5.次コマとの関係	全身症状を示す内部寄生虫に進む。	
15	臨床症状がみられる内部寄生虫 全身症状を示す内部寄生虫①	1.シラバスとの関係	臨床症状別に内部寄生虫を分類し、症状から寄生虫感染を疑えるようになる。	
		2.コマ主題	イヌ、ネコに循環器症状や呼吸器症状を示す内部寄生虫について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①犬糸状虫 ②肺吸虫	
		4.コマ主題細目深度	①、②の内部寄生虫において、成虫や虫卵の形態、生活環、感染経路、症状、治療・予防法について学習する。また、②以外で呼吸器症状を示す内部寄生虫を振り返る。	
		5.次コマとの関係	引き続き、全身症状を示す内部寄生虫を学ぶ。	
16	臨床症状がみられる内部寄生虫 全身症状を示す内部寄生虫②	1.シラバスとの関係	臨床症状別に内部寄生虫を分類し、症状から寄生虫感染を疑えるようになる。	
		2.コマ主題	血液に寄生する内部寄生虫について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①バベシア ②ヘモプラズマ（ヘモバルトネラ）	
		4.コマ主題細目深度	①、②の内部寄生虫において、原虫の形態、生活環、感染経路、症状、治療・予防法について学習する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、全身症状を示す内部寄生虫を学ぶ。	
17	臨床症状がみられる内部寄生虫 全身症状を示す内部寄生虫③	1.シラバスとの関係	臨床症状別に内部寄生虫を分類し、症状から寄生虫感染を疑えるようになる。	
		2.コマ主題	血液に寄生する内部寄生虫について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①ヘパトゾーン ②エールリヒア	
		4.コマ主題細目深度	①、②においては、寄生虫ではないが、血液に感染する病原体の特徴や症状を知る。	
		5.次コマとの関係	症状が明らかでない内部寄生虫に進む。	
18	ほとんど無症状の内部寄生虫①	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコにおいて通常の感染では無症状でも、ヒトにうつる寄生虫がいることを知り、寄生虫の駆除・予防の大切さを伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	イヌ、ネコにおいて症状が明らかでない内部寄生虫について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①瓜実条虫	
		4.コマ主題細目深度	①の内部寄生虫において、成虫や虫卵の形態、生活環、感染経路、症状、治療・予防法、ヒトへの感染について学習する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、症状が明らかでない内部寄生虫を学ぶ。	

動物感染症学－2

19	ほとんど無症状の内部寄生虫②	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコにおいて通常の感染では無症状でも、ヒトにうつる寄生虫がいることを知り、寄生虫の駆除・予防の大切さを伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	イヌ、ネコにおいて症状が明らかでない内部寄生虫について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①エキノコックス	
		4.コマ主題細目深度	①の内部寄生虫において、成虫や虫卵の形態、生活環、感染経路、症状、治療・予防法、ヒトへの感染について学習する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、症状が明らかでない内部寄生虫を学ぶ。	
20	ほとんど無症状の内部寄生虫③	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコにおいて通常の感染では無症状でも、ヒトにうつる寄生虫がいることを知り、寄生虫の駆除・予防の大切さを伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	イヌ、ネコにおいて症状が明らかでない内部寄生虫について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①マンソン裂頭条虫　②猫条虫	
		4.コマ主題細目深度	①、②の内部寄生虫において、成虫や虫卵の形態、生活環、感染経路、症状、治療・予防法、ヒトへの感染について学習する。	
		5.次コマとの関係	外部寄生虫に進む。	
21	皮膚障害を伴う外部寄生虫昆虫類①	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコに皮膚障害を伴う外部寄生虫を分類別に学習し、イヌ、ネコだけでなくヒトに対しても害があることを知り、予防と駆除の大切さを伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	イヌ、ネコに皮膚障害を伴う外部寄生虫の中の昆虫類について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①イヌノミ　②ネコノミ	
		4.コマ主題細目深度	①、②の外部寄生虫において、成虫の形態、生活環、感染経路、症状、治療・予防法、ヒトへの感染について学習する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、皮膚障害を伴う昆虫類を学ぶ。	
22	皮膚障害を伴う外部寄生虫昆虫類②	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコに皮膚障害を伴う外部寄生虫を分類別に学習し、イヌ、ネコだけでなくヒトに対しても害があることを知り、予防と駆除の大切さを伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	イヌ、ネコに皮膚障害を伴う外部寄生虫の中の昆虫類について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①イヌジラミ　②イヌハジラミ　③ネコハジラミ	
		4.コマ主題細目深度	①～③の外部寄生虫において、成虫の形態、生活環、感染経路、症状、治療・予防法、ヒトへの感染について学習する。	
		5.次コマとの関係	皮膚障害を伴うダニ類に進む。	
23	皮膚障害を伴う外部寄生虫ダニ類①	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコに皮膚障害を伴う外部寄生虫を分類別に学習し、イヌ、ネコだけでなくヒトに対しても害があることを知り、予防と駆除の大切さを伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	イヌ、ネコに皮膚障害を伴う外部寄生虫の中のダニ類について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①イヌヒゼンダニ	
		4.コマ主題細目深度	①の外部寄生虫において、成虫の形態、生活環、感染経路、症状、治療・予防法、ヒトへの感染について学習する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、皮膚障害を伴うダニ類を学ぶ。	
24	皮膚障害を伴う外部寄生虫ダニ類②	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコに皮膚障害を伴う外部寄生虫を分類別に学習し、イヌ、ネコだけでなくヒトに対しても害があることを知り、予防と駆除の大切さを伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	イヌ、ネコに皮膚障害を伴う外部寄生虫の中のダニ類について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①ミミヒゼンダニ	
		4.コマ主題細目深度	①の外部寄生虫において、成虫の形態、生活環、感染経路、症状、治療・予防法、ヒトへの感染について学習す	
		5.次コマとの関係	引き続き、皮膚障害を伴うダニ類を学ぶ。	
25	皮膚障害を伴う外部寄生虫ダニ類③	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコに皮膚障害を伴う外部寄生虫を分類別に学習し、イヌ、ネコだけでなくヒトに対しても害があることを知り、予防と駆除の大切さを伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	イヌ、ネコに皮膚障害を伴う外部寄生虫の中のダニ類について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①イヌニキビダニ	
		4.コマ主題細目深度	①の外部寄生虫において、成虫の形態、生活環、感染経路、症状、治療・予防法、ヒトへの感染について学習する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、皮膚障害を伴うダニ類を学ぶ。	
26	皮膚障害を伴う外部寄生虫ダニ類④	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコに皮膚障害を伴う外部寄生虫を分類別に学習し、イヌ、ネコだけでなくヒトに対しても害があることを知り、予防と駆除の大切さを伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	イヌ、ネコに皮膚障害を伴う外部寄生虫の中のダニ類について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①イヌツメダニ	
		4.コマ主題細目深度	①の外部寄生虫において、成虫の形態、生活環、感染経路、症状、治療・予防法、ヒトへの感染について学習する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、皮膚障害を伴うダニ類を学ぶ。	

27	皮膚障害を伴う外部寄生虫 ダニ類⑤	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコに皮膚障害を伴う外部寄生虫を分類別に学習し、イヌ、ネコだけでなくヒトに対しても害があることを知り、予防と駆除の大切さを伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	イヌ、ネコに皮膚障害を伴う外部寄生虫の中のダニ類について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①ショウセンコウヒゼンダニ　②ネコツメダニ	
		4.コマ主題細目深度	①、②の外部寄生虫において、成虫の形態、生活環、感染経路、症状、治療・予防法、ヒトへの感染について学習する。	
		5.次コマとの関係	吸血性の昆虫類に進む。	
28	吸血性の昆虫類	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコを吸血する外部寄生虫について学習し、それらが吸血の際に病原体を伝播していることを知り、予防と駆除の大切さを伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	イヌ、ネコを吸血する外部寄生虫の昆虫類について学ぶ。また、媒介する病原体も合わせて覚える。	
		3.コマ主題細目	①吸血性の昆虫類	
		4.コマ主題細目深度	①これまで学んだ外部寄生虫の中で、吸血する昆虫類を挙げる。それぞれが媒介する病原体を整理する。	
		5.次コマとの関係	吸血性のダニ類に進む。	
29	吸血性のダニ類	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコを吸血する外部寄生虫について学習し、それらが吸血の際に病原体を伝播していることを知り、予防と駆除の大切さを伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	イヌ、ネコを吸血する外部寄生虫のダニ類について学ぶ。また、媒介する病原体も合わせて覚える。	
		3.コマ主題細目	①マダニ	
		4.コマ主題細目深度	①マダニ類の中で、日本で特によく見られるマダニ属、チマダニ属、コイタマエダニ属の特徴や媒介する病原体について学習する。	
		5.次コマとの関係	まとめ	
30	まとめ	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコの内部寄生虫、外部寄生虫をを臨床症状別にまとめ、症状から寄生虫感染が疑えるようになる。	
		2.コマ主題	これまで学んだイヌ、ネコの内部寄生虫、外部寄生虫を臨床症状別にまとめる。	
		3.コマ主題細目	①内部寄生虫のグループ分け　②外部寄生虫のグループ分け	
		4.コマ主題細目深度	①、②において、臨床症状の有無や軽重、主な症状でグループ分けし、これまで学んだことが理解できているかを確認する。	
		5.次コマとの関係		

動物病原体・衛生管理学

学科	動物看護系学科	シラバス（概要）
コース		病原性をもつ微生物が生体に侵入して増殖した結果、動物に疾病（感染症）が生じる。動物看護師は、感染症に罹った動物を看護しなければならないことが多く、病原体の正確な知識を持たなければ、院内感染が拡大し、自身が感染する危険性も生じる。「動物感染症学」で学んだ、個々の動物の生命と健康の維持に障害を及ぼす病原体の知識をもとに、これらの病原体によって引き起こされる感染症をどのように予防するかを考える。その中でワクチンについても理解し、動物を健康に管理する知識を身につける。また、感染症の予防の重要性を飼い主に伝えられるようになる。
履修条件		
ユニット		
科目名	動物病原体・衛生管理	
単位	1	
履修時間	30時間	
回数	30回	
授業形態	講義	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	筆記試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①動物看護の教科書第4巻(緑書房)②動物看護のための小動物衛生学(ファームプレス)③動物看護学各論(インターズー)	

コマシラバス

50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	動物病原体とは	1.シラバスとの関係	動物病原体になりうる微生物にはどのようなものがあるかを知り、その知識を予防に活かす。	
		2.コマ主題	動物病原体とは何か、どのようなものがあるかが答えられるようになる。	
		3.コマ主題細目	①動物病原体とは	
		4.コマ主題細目深度	①まずは病原性について理解する。地球上に存在している数多くの微生物のごく一部が病原性を持っている。この知識をもとに、動物病原体とは何かが答えられるようになる。さらに動物病原体にはどのようなものがあるのかを知る。	
		5.次コマとの関係	引き続き、動物病原体について学ぶ。	
2	病原性について	1.シラバスとの関係	動物病原体の病原性について学び、予防に活かす。	
		2.コマ主題	病原性について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①病原性の差　②病原因子	
		4.コマ主題細目深度	①病原微生物には動物の種によって病原性を示す差がある。人獣共通感染症や日和見感染を例に、病原性の差について理解する。②細菌の病原性の強弱を示す言葉を病原因子というが、3つの病原因子（定着因子、侵入因子、毒性因子）について学ぶ。特に毒性因子の外毒素と内毒素について理解する。	
		5.次コマとの関係	感染症の予防に進む。	
3	感染症の予防①	1.シラバスとの関係	感染症の予防について、まずは感染の成り立ちを振り返り、感染を成立させない方法を考える。	
		2.コマ主題	感染が成り立つ3つの要因を振り返り、感染予防について考える。	
		3.コマ主題細目	①感染が成立する3つの要因	
		4.コマ主題細目深度	①「動物感染症学」で学んだ、感染が成り立つ3つの要因（感染源、感染経路、感受性体）が言えるかを確認する。これら3つの要因に加えて、微生物の性質と宿主の抵抗力の力関係によって感染が成立するか否かが決まることを理解する。その後、これらの知識をもとに、感染を成立させない方法を考える。	
		5.次コマとの関係	引き続き、感染を成立させない方法を知る。	
4	感染症の予防②	1.シラバスとの関係	感染症の予防について、まずは感染の成り立ちを振り返り、感染を成立させない方法を考える。	
		2.コマ主題	感染を成立させない方法と注意点について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①感染源、感染経路　②宿主の抵抗力　③海外からの侵入	
		4.コマ主題細目深度	①感染源と感染経路を絶つ方法を考える。身近な感染症を例に、どのような方法が有効かを考え、発表する。②宿主の抵抗力に影響するもの（環境因子の排除、ワクチンの利用）について学ぶ。環境因子にはどのようなものがあるかを知る。③病原体が海外から侵入しないようにするために、どのような対策がとられているかを知る。	
		5.次コマとの関係	引き続き、感染を成立させない方法を知る。	
5	感染症の予防③	1.シラバスとの関係	感染症の予防について、まずは感染の成り立ちを振り返り、感染を成立させない方法を考える。	
		2.コマ主題	感染を成立させない方法と注意点について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①衛生教育の普及　②法律の整備、改正	
		4.コマ主題細目深度	①動物の飼い主に対して、感染症予防に対する衛生知識の普及ができるようになる。そのために必要な知識をこの科目で学んでいることを再確認する。②イヌやネコに限らず、動物の衛生に関係する法律にはどのようなものがあるかを知る。	
		5.次コマとの関係	感染症の予防に有効なワクチンに進む。	
6	ワクチンとは	1.シラバスとの関係	感染症の予防に有効なワクチンについて学び、飼い主にワクチン接種の重要性を伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	ワクチンとは何かが説明できるようになる。	
		3.コマ主題細目	①ワクチンとは	
		4.コマ主題細目深度	①ワクチンとは、免疫の仕組みを利用して感染症を予防するものである。免疫学的記憶（一次応答、二次応答）とワクチンとの関係を理解する。	
		5.次コマとの関係	ワクチンの種類に進む。	

7	生ワクチンと不活化ワクチン	1.シラバスとの関係	感染症の予防に有効なワクチンについて学び、飼い主にワクチン接種の重要性を伝えられるようになる。
		2.コマ主題	ワクチンの製造方法により分けられる生ワクチンと不活化ワクチンの特徴とその違いについて学ぶ。
		3.コマ主題細目	①生ワクチンと不活化ワクチンの比較
		4.コマ主題細目深度	①使用される病原体、獲得する免疫の種類、免疫持続時間などの特徴を比較し、違いを理解する。また、不活化ワクチンに含まれるアジュバントについても学ぶ。
		5.次コマとの関係	ワクチンの必要性に進む。
8	ワクチンの必要性	1.シラバスとの関係	感染症の予防に有効なワクチンについて学び、飼い主にワクチン接種の重要性を伝えられるようになる。
		2.コマ主題	ワクチンがなぜ必要か、どんなときに必要かを考える。
		3.コマ主題細目	①なぜ必要か　②どんな時に必要か
		4.コマ主題細目深度	①感染症は唯一予防できる疾患である。ワクチン接種により、どのようなメリットがあるかを考える。②子イヌ、子ネコにワクチンを接種する際に必要な知識を学ぶ。移行抗体とブースター効果の意味を理解し、いつワクチンを接種するべきか、説明できるようになる。
		5.次コマとの関係	ワクチンの効果に進む。
9	ワクチンの効果	1.シラバスとの関係	感染症の予防に有効なワクチンについて学び、飼い主にワクチン接種の重要性を伝えられるようになる。
		2.コマ主題	ワクチンの効果に影響を与えるものについて学習する。
		3.コマ主題細目	①ワクチンの失活　②ワクチン接種にあたって　③ワクチン間の干渉
		4.コマ主題細目深度	①生ワクチンは誤った保存により効力を失うことがあることを知る。また、使用期限を守ることも重要である。②ワクチン接種は指示通りの接種法と用量を守ることが大前提である。特に接種回数の注意点を知る。③違う種類のワクチンを同時に接種した場合に起こる相互干渉について学ぶ。
		5.次コマとの関係	イヌとネコのワクチネーションに進む。
10	ワクチネーションとは	1.シラバスとの関係	感染症の予防に有効なワクチンについて学び、飼い主にワクチン接種の重要性を伝えられるようになる。
		2.コマ主題	ワクチネーションとは何かが言えるようになる。また、ワクチネーションに影響する因子について学ぶ。
		3.コマ主題細目	①ワクチネーションとは　②ワクチネーションに影響する因子
		4.コマ主題細目深度	①ワクチネーションとは何かを学ぶ。②ワクチネーションに影響する因子にはどのようなものがあるかを学ぶ。移行抗体、接種間隔、健康状態、動物の免疫反応性がワクチネーションに及ぼす影響を知る。
		5.次コマとの関係	ワクチンの副作用について学ぶ。
11	ワクチンの副作用	1.シラバスとの関係	感染症の予防に有効なワクチンについて学び、飼い主にワクチン接種の重要性を伝えられるようになる。
		2.コマ主題	ワクチンの副作用にはどのようなものがあるかを知る。
		3.コマ主題細目	①ワクチンの副作用
		4.コマ主題細目深度	①ワクチンによるアレルギー反応にはどのようなものがあるか、実際の写真を見て学ぶ。また、そのメカニズムについても学習する。重大な副作用である、ネコのワクチン誘発性肉腫について、その特徴と対策について学ぶ。
		5.次コマとの関係	ワクチンで予防できる感染症に進む。
12	コアワクチンとノンコアワクチン	1.シラバスとの関係	感染症の予防に有効なワクチンについて学び、飼い主にワクチン接種の重要性を伝えられるようになる。
		2.コマ主題	コアワクチンとノンコアワクチンについて説明できるようになる。
		3.コマ主題細目	①コアワクチン　②ノンコアワクチン
		4.コマ主題細目深度	①コアワクチンとは何かが説明できるようになる。その判断基準を確認する。②同様にノンコアワクチンとは何かが説明できるようになる。
		5.次コマとの関係	イヌのコアワクチンについて学ぶ。
13	イヌのコアワクチン	1.シラバスとの関係	感染症の予防に有効なワクチンについて学び、飼い主にワクチン接種の重要性を伝えられるようになる。
		2.コマ主題	イヌのコアワクチンに含まれる感染症にはどのようなものがあるかが言えるようになる。
		3.コマ主題細目	①イヌのコアワクチン
		4.コマ主題細目深度	①イヌのコアワクチンに含まれる感染症を確認する。「動物感染症学」で学んだ知識を振り返り、それぞれの感染症の簡単な説明ができるようになる。
		5.次コマとの関係	イヌのノンコアワクチンについて学ぶ。
14	イヌのノンコアワクチン	1.シラバスとの関係	感染症の予防に有効なワクチンについて学び、飼い主にワクチン接種の重要性を伝えられるようになる。
		2.コマ主題	イヌのノンコアワクチンに含まれる感染症にはどのようなものがあるかが言えるようになる。
		3.コマ主題細目	①イヌのノンコアワクチン
		4.コマ主題細目深度	①前回と同様に、イヌのノンコアワクチンに含まれる感染症を確認し、それぞれの感染症の簡単な説明ができるようになる。
		5.次コマとの関係	ネコのコアワクチンに進む。

15	ネコのコアワクチン	1.シラバスとの関係	感染症の予防に有効なワクチンについて学び、飼い主にワクチン接種の重要性を伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	ネコのコアワクチンに含まれる感染症にはどのようなものがあるかが言えるようになる。	
		3.コマ主題細目	①ネコのコアワクチン	
		4.コマ主題細目深度	①ネコのコアワクチンに含まれる感染症を確認する。「動物感染症学」で学んだ知識を振り返り、それぞれの感染症の簡単な説明ができるようになる。	
		5.次コマとの関係	ネコのノンコアワクチンについて学ぶ。	
16	ネコのノンコアワクチン	1.シラバスとの関係	感染症の予防に有効なワクチンについて学び、飼い主にワクチン接種の重要性を伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	ネコのノンコアワクチンに含まれる感染症にはどのようなものがあるかが言えるようになる。	
		3.コマ主題細目	①ネコのノンコアワクチン	
		4.コマ主題細目深度	①前回と同様に、ネコのノンコアワクチンに含まれる感染症を確認し、それぞれの感染症の簡単な説明ができるようになる。	
		5.次コマとの関係	イヌとネコの混合ワクチンの種類と含まれる感染症を覚えていく。	
17	イヌとネコの混合ワクチン	1.シラバスとの関係	感染症の予防に有効なワクチンについて学び、飼い主にワクチン接種の重要性を伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	獣医療現場で使用されるイヌとネコの混合ワクチンの種類と、それらに含まれる感染症を覚える。	
		3.コマ主題細目	①イヌの混合ワクチン ②ネコの混合ワクチン	
		4.コマ主題細目深度	①獣医療現場で使用されるイヌの混合ワクチンの種類（単価～9種混合）と、それぞれに含まれる感染症名を覚える。②同様にネコの混合ワクチン（単価～7種混合）と、それぞれに含まれる感染症名を覚える。	
		5.次コマとの関係	イヌのワクチネーションプログラム（プロトコール）に進む。	
18	イヌのワクチネーションプログラム①	1.シラバスとの関係	感染症の予防に有効なワクチンについて学び、飼い主にワクチン接種の重要性を伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	イヌのワクチネーションプログラムの基本事項について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①基本事項	
		4.コマ主題細目深度	①ワクチネーションプログラムは、獣医師が動物の診察を行ったうえで作成するが、基本事項はどのような動物でも共通している。ここではイヌのワクチネーションプログラムの基本事項について学ぶ。レプトスプラと狂犬病のワクチンに関する基本事項についても理解する。	
		5.次コマとの関係	引き続きイヌのワクチネーションプログラムについて学ぶ。	
19	イヌのワクチネーションプログラム②	1.シラバスとの関係	感染症の予防に有効なワクチンについて学び、飼い主にワクチン接種の重要性を伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	イヌの初年度、1歳、その後に接種するワクチンの種類と時期は、動物の状態や環境によって獣医師が決定するが、その一例からワクチネーションプログラムを学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①初年度 ②1歳 ③1歳のワクチン後	
		4.コマ主題細目深度	①～③の一例から、それぞれの時期に接種するワクチンの種類や注意点を知る。	
		5.次コマとの関係	引き続きイヌのワクチネーションプログラムについて学ぶ。	
20	イヌのワクチネーションプログラム③	1.シラバスとの関係	感染症の予防に有効なワクチンについて学び、飼い主にワクチン接種の重要性を伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	8週齢を過ぎて初めてワクチン接種を行う場合のワクチネーションプログラムを学ぶ。また、イヌのワクチン接種の際の注意事項を知り、飼い主に説明できるようになる。	
		3.コマ主題細目	①8週齢を過ぎて初めてワクチン接種を行う場合 ②ワクチン接種の際の注意事項	
		4.コマ主題細目深度	①8週齢から14週齢未満、14週齢から1歳未満、1歳以降、それぞれで初回ワクチンを打つ場合のワクチネーションプログラムの一例を学ぶ。②ワクチン接種の際の注意事項（特に注射後の反応）を知り、飼い主に説明できるようになる。	
		5.次コマとの関係	ネコのワクチネーションプログラムに進む。	
21	ネコのワクチネーションプログラム①	1.シラバスとの関係	感染症の予防に有効なワクチンについて学び、飼い主にワクチン接種の重要性を伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	ネコのワクチネーションプログラムの基本事項と初年度～1歳のワクチン後について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①基本事項 ②初年度のワクチン ③1歳のワクチン ④その後のワクチン	
		4.コマ主題細目深度	①全てのネコに共通する基本事項を確認する。ネコは特に接種部位に注意する。②～④の一例を知り、それぞれで接種するワクチンの種類や時期、注意点を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	引き続きネコのワクチネーションプログラムについて学ぶ。	

22	ネコのワクチネーションプログラム②	1.シラバスとの関係	感染症の予防に有効なワクチンについて学び、飼い主にワクチン接種の重要性を伝えられるようになる。	
		2.コマ主題	8週齢を過ぎて初めてワクチン接種を行う場合のワクチネーションプログラムを学ぶ。また、ネコのワクチン接種の際の注意事項を知り、飼い主に説明できるようになる。	
		3.コマ主題細目	①8週齢を過ぎて初めてワクチン接種を行う場合　②ワクチン接種の際の注意事項	
		4.コマ主題細目深度	①8週齢から1歳未満、1歳以降、それぞれで初回ワクチンを打つ場合のワクチネーションプログラムの一例を学ぶ。②ワクチン接種の際の注意事項（特に注射後の反応）を知り、飼い主に説明できるようになる。	
		5.次コマとの関係	寄生虫の予防に進む。	
23	寄生虫の予防 内部寄生虫①	1.シラバスとの関係	病原体になりうる寄生虫の感染予防法を理解し、動物の健康維持に努める。	
		2.コマ主題	イヌとネコに寄生する内部寄生虫を振り返り、それぞれの感染予防の方法が説明できるようになる。	
		3.コマ主題細目	①内部寄生虫の分類　②バベシア症	
		4.コマ主題細目深度	①「動物感染症学」で学んだ内部寄生虫の分類を振り返る。イヌとネコに寄生する主な原虫と蠕虫（線虫類、条虫類、吸虫類）が答えられるかを確認する。②バベシア症の病原体、感染経路、症状を振り返る。バベシアはダニによって媒介されることを思い出し、予防法を考える。	
		5.次コマとの関係	引き続き、内部寄生虫感染症の予防について学ぶ。	
24	寄生虫の予防 内部寄生虫②	1.シラバスとの関係	病原体になりうる寄生虫の感染予防法を理解し、動物の健康維持に努める	
		2.コマ主題	イヌとネコに寄生する主な内部寄生虫の感染予防法が説明できるようになる。	
		3.コマ主題細目	①トキソプラズマ症　②コクシジウム症	
		4.コマ主題細目深度	①、②の内部寄生虫感染症について、それぞれの病原体、感染経路、症状を振り返る。感染経路をもとに、予防方法を考える。特に、トキソプラズマについてはその発育環を復習し、それを踏まえた説明ができるかを確認する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、内部寄生虫感染症の予防について学ぶ。	
25	寄生虫の予防 内部寄生虫③	1.シラバスとの関係	病原体になりうる寄生虫の感染予防法を理解し、動物の健康維持に努める	
		2.コマ主題	イヌとネコに寄生する主な内部寄生虫の感染予防法が説明できるようになる。	
		3.コマ主題細目	①回虫症　②瓜実条虫症	
		4.コマ主題細目深度	①、②の内部寄生虫感染症について、それぞれの病原体、感染経路、症状を振り返る。感染経路をもとに、予防方法を考える。回虫は幼虫による胎盤感染や乳汁感染を起こすこと、瓜実条虫はノミの経口摂取により感染することを思い出す。	
		5.次コマとの関係	引き続き、内部寄生虫感染症の予防について学ぶ。	
26	寄生虫の予防 内部寄生虫④	1.シラバスとの関係	病原体になりうる寄生虫の感染予防法を理解し、動物の健康維持に努める	
		2.コマ主題	イヌとネコに寄生する主な内部寄生虫の感染予防法が説明できるようになる。	
		3.コマ主題細目	①フィラリア症	
		4.コマ主題細目深度	①フィラリア症の病原体、感染経路、症状を振り返る。獣医療現場において、動物看護師が飼い主にフィラリア症予防の説明をする機会が多いため、予防法についてしっかりと説明できるようになる。使用されている主な予防薬と、それぞれの特徴についても答えられるようになる。	
		5.次コマとの関係	外部寄生虫の予防に進む。	
27	寄生虫の予防 外部寄生虫①	1.シラバスとの関係	病原体になりうる寄生虫の感染予防法を理解し、動物の健康維持に努める	
		2.コマ主題	イヌとネコに寄生する主な外部寄生虫の感染予防法が説明できるようになる。	
		3.コマ主題細目	①外部寄生虫の分類　②疥癬	
		4.コマ主題細目深度	①「動物感染症学」で学んだ外部寄生虫の分類を振り返る。イヌとネコに寄生する主な外部寄生虫が答えられるかを確認する。②疥癬の病原体、感染経路、症状を振り返る。その感染経路から、有効な予防方法を考える。	
		5.次コマとの関係	引き続き、外部寄生虫感染症の予防について学ぶ。	
28	寄生虫の予防 外部寄生虫②	1.シラバスとの関係	病原体になりうる寄生虫の感染予防法を理解し、動物の健康維持に努める	
		2.コマ主題	イヌとネコに寄生する主な外部寄生虫の感染予防法が説明できるようになる。	
		3.コマ主題細目	①マダニ感染症	
		4.コマ主題細目深度	①マダニの発育環と特徴を振り返る。また、マダニが媒介する感染症が答えられるかを確認する。獣医療現場で使用されている主な駆除・予防薬を知り、それぞれの特徴を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	引き続き、外部寄生虫感染症の予防について学ぶ。	

29	寄生虫の予防 外部寄生虫③	1.シラバスとの関係	病原体になりうる寄生虫の感染予防法を理解し、動物の健康維持に努める	
		2.コマ主題	イヌとネコに寄生する主な外部寄生虫の感染予防法が説明できるようになる。	
		3.コマ主題細目	①ノミ感染症	
		4.コマ主題細目深度	①マダニと同様に、ノミの発育環と特徴を振り返る。また、ノミが媒介する感染症が答えられるかを確認する。獣医療現場で使用されている主な駆除・予防薬を知り、それぞれの特徴を学ぶ。また、ノミの予防には飼育環境の衛生管理が重要であり、そのポイントを知る。	
		5.次コマとの関係	総まとめ	
30	まとめ	1.シラバスとの関係	病原体になりうる寄生虫の感染予防法を理解し、動物の健康維持に努める	
		2.コマ主題	これまで学んだ内容が理解できたか、問題を解いて確認	
		3.コマ主題細目	①確認問題、解答、解説	
		4.コマ主題細目深度	①教科書に載っている確認問題、統一認定試験の過去問題、予想問題を解く。解答と解説を聞き、理解できたかを確認する。	
		5.次コマとの関係		

動物健康管理

学科	動物看護系学科	シラバス（概要）
コース		健常なイヌやネコに必要な日常ケアと適正飼育法を理解し、適正飼育に努めるよう飼い主への指導ができることが、本教科の目的である。動物が発病して診療を受ける時のみに獣医療が必要なのではなく、動物が家族の一員となった昨今、動物の一生涯にわたって獣医療の介入が必要になっている。動物病院は、動物の幸せな一生と健康をサポートし、動物看護師は動物の健やかで快適な生涯を送るための看護介入ができるように、ウェルネスプログラムとそれに含まれる定期健康診断の内容の充実は欠かせない。このプログラムを理解し、飼い主に説明指導ができるように学習する。
履修条件		
ユニット		
科目名	動物健康管理	
単位	1	
履修時間	15時間	
回数	15回	
授業形態	講義	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	筆記試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①コンパニオン・アニマルの新健康管理学（インターズー）②動物看護の教科書第4巻（緑書房）③室内犬の飼い方・しつけ方（西東社）④かわいい猫の飼い方・しつけ方（ナツメ社）⑤犬の十戒（日本文芸社）	

コマシラバス

50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	動物と暮らすということ	1.シラバスとの関係	イヌやネコが家族の一員として受け入れられるようになった今、改めて動物と暮らすことの意味を考える。	近年のイヌ、ネコの殺処分数（環境省ホームページ）
		2.コマ主題	動物と暮らす上で欠かせない2つの心構えを知る。	
		3.コマ主題細目	①終生飼養について ②HABとは何か	
		4.コマ主題細目深度	①全国のイヌやネコの殺処分数を知り、その数を減らすためにも終生飼養の概念が不可欠であることを知る。終生飼養にどれくらいの費用や時間が必要かを知り、動物を飼い始めた飼主に説明できるようになる。犬の十戒を読み、動物の立場に立ち感じたことを発表し、わが身を振り返る。 ②人と動物の絆（HAB）の理念を知る。動物と共生することによって起こるヒトへの精神的、肉体的な効果を知る。	
		5.次コマとの関係	代表的なコンパニオンアニマルであるイヌの飼育環境について学ぶ。	
2	イヌの飼育環境作り①	1.シラバスとの関係	動物の幸せな一生と健康をサポートするための快適で安全な飼育環境について学ぶ。	
		2.コマ主題	イヌと暮らす上で、まずはイヌという動物を知り、どのような世話が必要かを考える。	
		3.コマ主題細目	①イヌの7つの欲求 ②イヌのボディーランゲージ ②どのような世話が必要か	
		4.コマ主題細目深度	①イヌの7つの欲求を知り、今イヌと暮らしているのであればそれを満たしてあげられているかを確認する。またその欲求が満たされないと問題行動や病気の発症につながることがあることを知る。②イヌのボディーランゲージやその中に含まれるカーミングシグナルを知り、イヌとの正しいコミュニケーションの取り方を学び、今後それを実践していく。 ③イヌの世話で毎日すること、ほぼ毎日すること、定期的にすることをグループで話し合った後、全員で確認する。	
		5.次コマとの関係	イヌの欲求や世話を理解した上で、具体的な環境作りについて学ぶ。	
3	イヌの飼育環境作り②	1.シラバスとの関係	動物の幸せな一生と健康をサポートするための快適で安全な飼育環境について学ぶ。	
		2.コマ主題	室内でイヌを飼う場合の具体的な飼育環境について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①イヌを室内で飼育する上で必要な物 ②室内犬のための部屋作り	
		4.コマ主題細目深度	①室内でイヌと暮らす前にそろえておかなければならないものを各々で考えリストを作る。その後はじめにそろえるもの、徐々にそろえていけばいいものに分け、最低限必要な物を知る。また、室内飼いで起こりうる事故を考え、それを防ぐためのグッズがあることを知る。 ②室内犬が安心して過ごせる部屋を作るためにはどうしたらよいのかを考える。イヌにとって危ないもの、危ない場所を挙げて行き、それらの対策を考え、安全な快適な環境を作る。	
		5.次コマとの関係	イヌに続き、代表的なコンパニオンアニマルであるネコの飼育環境について学ぶ。	
4	ネコの飼育環境作り①	1.シラバスとの関係	動物の幸せな一生と健康をサポートするための快適で安全な飼育環境について学ぶ。	
		2.コマ主題	ネコと暮らす上で、まずはネコという動物を知り、その習性によって快適で安全な飼育環境がイヌとは異なることを	
		3.コマ主題細目	①ネコの習性とボディーランゲージ ②ネコを飼育する上で必要な物	
		4.コマ主題細目深度	①ネコのボディーランゲージや表情、行動から気持ちを読み取れるようになる。ネコ特有のものを挙げ、イヌとの違いを理解する。②ネコを飼育する上で必要な物を挙げる。特に爪とぎやトイレ用品など、ネコ特有の物があることを知る。	
		5.次コマとの関係	ネコの具体的な環境作りについて学ぶ。	

動物健康管理

5	ネコの飼育環境作り②	1.シラバスとの関係	動物の幸せな一生と健康をサポートするための快適で安全な飼育環境について学ぶ。	
		2.コマ主題	室内でネコを飼う場合の具体的な飼育環境について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①ネコにとって快適で安全な飼育環境とは ②室内に潜む事故	
		4.コマ主題細目深度	①ネコはイヌとは違い、上下の運動を好む。立体的な空間を作るためにどのような工夫が必要かをグループで話し合う。また、ネコの視覚や聴覚を刺激するような環境や、トイレや爪とぎの種類や設置場所を考える。ネコが好む場所や温度についても知る。 ②室内の事故で多いもの（転落、火傷、有害植物、水難など）を知り、それを予防するための工夫を考える。	
		5.次コマとの関係	動物の健康に深く関わる食事について学ぶ。	
6	食べさせてはいけないもの	1.シラバスとの関係	動物の幸せな一生と健康をサポートするための快適で安全な飼育環境について学ぶ。	
		2.コマ主題	イヌ、ネコが健康に生きていくためにはどのような食事を与えればよいのかを知る。	
		3.コマ主題細目	①市販されているフードのタイプ ②食べさせてはいけな	
		4.コマ主題細目深度	①市販されているドッグフード、キャットフードの種類（ドライ、ウェット、ライフステージ）の特徴や利点、欠点を考える。また、フードのパッケージを実際に見て、記載内容を把握する。そこから良質のフードかどうかを見極められるようになる。 ②イヌやネコが食べてはいけないものを挙げていき、なぜそれがいけないのかを説明できるようになる。	
		5.次コマとの関係	イヌ、ネコの健康管理に必要なウェルネスプログラムについて学ぶ。	
7	ウェルネスプログラム①	1.シラバスとの関係	獣医療の中で、イヌ、ネコの健康管理を目的としたウェルネスプログラムについて学ぶ。	
		2.コマ主題	ウェルネスプログラムとは何か、その中の感染症予防について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①ウェルネスプログラムとは ②感染症予防のためのワクチン	
		4.コマ主題細目深度	①獣医療は病気の治療だけでなく、健康な状態を保つためのウェルネスプログラムが不可欠であることを理解する。またその目的を知り、どのような内容があるか、動物看護師としてできることを考える。②健康管理で重要な感染症予防のためのワクチン（狂犬病、混合ワクチン）について、まずは狂犬病予防法に基づいたワクチン接種について、その目的、症状、接種時期などを学ぶ。	
		5.次コマとの関係	引き続き、ワクチンで予防できる感染症について学ぶ。	
8	ウェルネスプログラム②	1.シラバスとの関係	獣物医療の中で、イヌ、ネコの健康管理を目的としたウェルネスプログラムについて学ぶ	
		2.コマ主題	ウェルネスプログラムの感染症予防について学ぶ	
		3.コマ主題細目	①イヌの混合ワクチン ②ネコの混合ワクチン	
		4.コマ主題細目深度	①イヌの混合ワクチンで予防できる感染症の種類、特徴、症状、接種時期について、飼い主に説明できるようになる。②ネコの混合ワクチンで予防できる感染症の種類、特徴、症状、接種時期について、飼い主に説明できるようになる。	
		5.次コマとの関係	ウェルネスプログラム中の寄生虫コントロールについて学ぶ。	
9	ウェルネスプログラム③	1.シラバスとの関係	獣医療の中で、イヌ、ネコの健康管理を目的としたウェルネスプログラムについて学ぶ。	
		2.コマ主題	ウェルネスプログラムの寄生虫コントロールの中のフィラリア症予防について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①フィラリアとは ②感染経路 ③症状 ④予防	
		4.コマ主題細目深度	①フィラリアとは何か、が説明できる。蚊が媒介し、心臓に寄生する寄生虫であることを理解する。②フィラリアに感染している動物からどのようにして他の動物に感染するのかが説明できる。③フィラリア症に特徴的な症状を最低3つ（咳、腹水、血色素尿など）は言えるようになる。④予防の方法、時期をその理由も含めて答えられるようになる。	
		5.次コマとの関係	フィラリア以外の寄生虫コントロールについて学ぶ。	
10	ウェルネスプログラム④	1.シラバスとの関係	獣医療の中で、イヌ、ネコの健康管理を目的としたウェルネスプログラムについて学ぶ。	
		2.コマ主題	ウェルネスプログラムの寄生虫コントロールのノミ・マダニの予防について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①ノミ ②マダニ	
		4.コマ主題細目深度	イヌやネコの代表的な外部寄生虫であるノミについて、その特徴や媒介する病気、予防や駆除のポイントを学ぶ。②マダニについても同様に学ぶ。ノミもマダニも皮膚炎を起こすだけでなく、全身性疾患やズーノーシスの原因になること、そのために予防と駆除が大切であることを飼い主に説明できるようになる。	
		5.次コマとの関係	その他の外部寄生虫と、主な内部寄生虫について学ぶ。	

動物健康管理

11	ウェルネスプログラム⑤	1.シラバスとの関係	獣物医療の中で、イヌ、ネコの健康管理を目的としたウェルネスプログラムについて学ぶ。	
		2.コマ主題	ウェルネスプログラムの寄生虫コントロールの外部寄生虫と、主な内部寄生虫の種類、特徴、予防と駆除について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①ノミ・マダニ以外の主な外部寄生虫　②主な内部寄生	
		4.コマ主題細目深度	①犬毛包虫、ヒゼンダニ、ミミヒゼンダニ、ツメダニ、ハジラミについて、それぞれの特徴と病害、吸血の有無、予防・駆除について学ぶ。②イヌ、ネコに寄生する回虫、鉤虫、犬鞭虫、条虫、原虫類(コクシジウム、腸トリコモナス、ジアルジア)について、それぞれの特徴と病害、予防・駆除を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	ウェルネスプログラムの避妊・去勢について学ぶ。	
12	ウェルネスプログラム⑥	1.シラバスとの関係	獣物医療の中で、イヌ、ネコの健康管理を目的としたウェルネスプログラムについて学ぶ。	
		2.コマ主題	ウェルネスプログラムの中の避妊・去勢について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①避妊・去勢の目的　②手術方法　③予防できる病気、問題行動　④術後の肥満について	
		4.コマ主題細目深度	①避妊・去勢の目的を3つ(繁殖の制限、性ホルモンが影響する疾病の予防・治療、性ホルモンに関連する問題行動の予防・治療)言えるようになる。②雌と雄の手術方法を学ぶ。③避妊、去勢で予防できる病気や問題行動を言えるようになる。特に乳腺腫瘍の発生率は避妊手術をする時期に影響を受けることを理解する。④術後の問題として多い肥満について、その理由と対処法を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	自宅で行う日常的なケアについて学ぶ。	
13	日常ケア①	1.シラバスとの関係	イヌネコの適正飼育、健康管理の一環としての日常ケアを学ぶ。	
		2.コマ主題	日常ケアの中の体表のケア(ブラッシング、入浴、肛門嚢の手入れ)について学び、自宅で実践できるものは今後していく。	
		3.コマ主題細目	①ブラッシング　②入浴　③肛門嚢の手入れ	
		4.コマ主題細目深度	①ブラッシングの目的が言えるようになる。見た目だけの問題ではなく、皮膚の健康管理につながることを理解する。またブラッシングをする際の観察項目を学ぶ。②ブラッシングと同様、入浴の目的が言えるようになる。正しい入浴方法、頻度を学び、入浴時の注意についても理解する。③肛門嚢の場所、手入れの仕方を学ぶ。また、手入れを怠ったりした場合に起こる肛門嚢炎・肛門周囲瘻孔についても学ぶ。	
		5.次コマとの関係	これら以外の体表のケアについて学ぶ。	
14	日常ケア②	1.シラバスとの関係	イヌネコの適正飼育、健康管理の一環としての日常ケアを学ぶ。	
		2.コマ主題	眼、耳、爪のケアについて学び、自宅で実践できるものは今後していく。	
		3.コマ主題細目	①眼の手入れ　②耳の手入れ　③爪の手入れ	
		4.コマ主題細目深度	①眼の構造を振り返る。日常の手入れ方法を学び、自宅でも実践する。手入れを怠ることで起こりやすい疾病についても学ぶ。②同様に耳の手入れ方法を学ぶ。耳垢の観察は特に注意が必要であり、外耳炎の主な原因であるミミヒゼンダニやマラセチア菌はどのような耳垢が観察されるかを理解する。③爪の構造を振り返る。爪を切る際の注意点、出血した場合の対処法を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	デンタルケアについて学ぶ。	
15	日常ケア③	1.シラバスとの関係	イヌネコの適正飼育、健康管理の一環としての日常ケアを学ぶ。	
		2.コマ主題	デンタルケアについて学び、自宅で実践できるものは今後していく。	
		3.コマ主題細目	①歯の構造　②口腔内疾患　③日常のデンタルケア	
		4.コマ主題細目深度	①歯の解剖を振り返る。乳歯と永久歯について、それぞれの歯の萌出時期からおおよその年齢が推定できることを知る。②代表的な口腔内疾患(歯周病、口内炎)について、それらの発生要因を知る。③日常の口腔衛生で欠かせないデンタルケア(歯磨き)について学ぶ。歯磨きトレーニングの方法、やってはいけないことを飼い主に伝えられるようになる。動物病院で行う歯石除去の方法についても学ぶ。	
		5.次コマとの関係		

動物栄養学－1

学科	動物看護系学科	シラバス（概要）
コース		動物が家族の一員として位置づけられ、人と生活を共にする動物の「食」を取り巻く環境は大きく変わり、病気の動物を治療することが獣医療の目的ではあるが、むしろ病気の予防や病気にならない環境作り、さらには健康を推進することが動物看護師の大きな役割と言える。本教科では、動物の健康維持に必要な栄養素を学び、その基礎知識を活用して各論の学習に進む準備のため、まずはイヌとネコの六大栄養素についての知識を、動物の生理学に立脚した栄養学を総論として学び、様々なペットフードやパンフレットに記載されている専門用語を理解し、飼い主に適切な栄養相談および指導を行う際の基礎知識を習得する。また栄養学総論に基づいて、注意すべき食材を知り、必要エネルギー量の指導ができ、イヌとネコに必要な栄養素の違いが説明でき、ライフステージ別の栄養指導ができることを目的として学習する。
履修条件	動物栄養学－1を先行すること	
ユニット		
科目名	動物栄養学－1	
単位	1（1～3合わせて3単位）	
履修時間	30時間（1～3合わせて75時間）	
回数	30回（1～3合わせて75回）	
授業形態	講義・演習	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	筆記試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	臨床栄養指導認定動物看護師試験教本（インターズー）	

コマシラバス

50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	動物栄養学総論①	1.シラバスとの関係	基礎栄養素とイヌネコの必要栄養素の違い、適切な食事管理を理解する	
		2.コマ主題	六大栄養素	
		3.コマ主題細目	六大栄養素と概論	
		4.コマ主題細目深度	到達目標は、六大栄養素、犬猫の基礎栄養、BCS評価、カロリー計算、適切なフードの知識を知る。	
		5.次コマとの関係	次回からの総論として開始	
2	動物栄養学総論②	1.シラバスとの関係	基礎栄養素とイヌネコの必要栄養素の違い、適切な食事管理を理解する	
		2.コマ主題	六大栄養素	
		3.コマ主題細目	六大栄養素と概論	
		4.コマ主題細目深度	表示や記載されていることで理解できること、知っていること、わからないことを認識する。	
		5.次コマとの関係	次回からの総論として開始	
3	基礎栄養学①	1.シラバスとの関係	動物栄養学の中の基本を知る	
		2.コマ主題	基礎栄養学	
		3.コマ主題細目	六大栄養素とその働きについて知る	
		4.コマ主題細目深度	六大栄養素とは何か？水、タンパク質、炭水化物、脂肪、ミネラル、ビタミン。総論として各栄養素を理解する。	
		5.次コマとの関係	次回からは、一つづつの栄養素について学ぶ	
4	基礎栄養学②	1.シラバスとの関係	動物栄養学の中の基本を知る	
		2.コマ主題	基礎栄養学	
		3.コマ主題細目	六大栄養素とその働きについて知る	
		4.コマ主題細目深度	食物を構成する三、五、六大栄養素を理解、主要食品別の分布とその主な役割を知る。身近な食品の成分とカロリー表示を見る習慣を持つようにしてみる。栄養素は、学問としてではなく私達の日常の知識であることを知る。	
		5.次コマとの関係	次回からは、一つづつの栄養素について学ぶ	
5	基礎栄養素 水	1.シラバスとの関係	動物に必要な栄養素の中の水について学ぶ	
		2.コマ主題	基礎栄養素：水	
		3.コマ主題細目	水について学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	あらゆる栄養素の中で最も重要で不可欠な水について。水の重要性と体内動態を理解し、標準的な給与量を説明できる。	
		5.次コマとの関係	六大栄養素の二つ目の蛋白質に進む	
6	基礎栄養素 タンパク質①	1.シラバスとの関係	六大栄養素の中のたんぱく質について学ぶ	
		2.コマ主題	タンパク質について	
		3.コマ主題細目	他に代えられない重要な蛋白質の機能を理解する。	
		4.コマ主題細目深度	蛋白質の単位としてアミノ酸を理解し、動物種別に異なる必須アミノ酸の違いを説明できる。	
		5.次コマとの関係	六大栄養素の二つ目の蛋白質の消化吸収について学ぶ	
7	基礎栄養素 タンパク質②	1.シラバスとの関係	動物に必要な栄養素の中のタンパク質について学ぶ	
		2.コマ主題	基礎栄養素：タンパク質	
		3.コマ主題細目	タンパク質について学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	タンパク質は約20種類のアミノ酸からなる高分子化合物の総称。タンパク質の働き、アミノ酸の種類、消化吸収について学ぶ。	
		5.次コマとの関係	六大栄養素の三つ目の炭水化物に進むためにタンパク質を学ぶ	
8	基礎栄養素 タンパク質③	1.シラバスとの関係	動物に必要な栄養素の中のタンパク質について学ぶ	
		2.コマ主題	基礎栄養素：タンパク質	
		3.コマ主題細目	体内でのアミノ酸代謝を学び、特に窒素動態を理解する。	
		4.コマ主題細目深度	体内でのアミノ酸代謝を学び、特に窒素動態を理解する。窒素動態の基本（排泄）。進化の過程に応じた魚類～哺乳類の排泄の流れ。代表的なアミノ酸の理解（アルギニン、リジン、フェニルアラニン、チロシン、ヒスチジン、トレオニン、トリプトファン）	
		5.次コマとの関係	六大栄養素の三つ目の炭水化物に進む	

動物栄養学－1

9	基礎栄養素 炭水化物	1.シラバスとの関係	動物に必要な栄養素の中の炭水化物について学ぶ	
		2.コマ主題	基礎栄養素:炭水化物	
		3.コマ主題細目	炭水化物について学ぶ。糖の動態と肥満、削痩の関連性を理解する機能性食物繊維の理解し、肥満時、消化管疾患時などでの食物繊維の利点及び注意点を説明できる。	
		4.コマ主題細目深度	炭水化物は、炭素、水素、酸素で構成される。その働き、消化吸収、推奨量について学ぶ。体内での糖類の動態と糖新生、草食獣の炭水化物利用について理解し、動物看護師が理解しなければならない範囲の広さとその深さを再認識する。	
		5.次コマとの関係	六大栄養素の四つ目の脂肪に進む	
10	基礎栄養素 脂肪	1.シラバスとの関係	動物に必要な栄養素の中の脂肪について学ぶ	
		2.コマ主題	基礎栄養素:脂肪	
		3.コマ主題細目	高エネルギー源としての脂肪の特徴とその長所と短所を説明できる。	
		4.コマ主題細目深度	有機溶剤に可溶性で水に不溶性の物質を脂肪という。脂肪の働き、必須脂肪酸、飽和脂肪酸、脂肪の修理、脂肪の分類、消化吸収、推奨量について学ぶ。主な食材、脂質と脂肪、体内での役割、中性脂肪(トリグリセリド)、消化吸収(胆汁の重要性、)脂肪酸、基本的な化学的特徴、飽和と不飽和脂肪酸、油と脂(植物性と動物性)、酸化、過酸化脂質の毒性と賞味期限、保存方法、必須脂肪酸、ω-6脂肪酸ω-3脂肪酸とその割合、EPAおよびDHA(アラキドン酸、リノール酸)、猫とアラキドンについて学ぶ。	
		5.次コマとの関係	次回は六大栄養素の五つ目ミネラルに進む	
11	基礎栄養素 ミネラル	1.シラバスとの関係	動物に必要な栄養素の中のミネラルについて学ぶ	
		2.コマ主題	基礎栄養素:ミネラル	
		3.コマ主題細目	主要な供給源、カルシウムとリンのバランス、細胞内外のナトリウムとリンの関係、マグネシウムとFULTDの関連性を知る。	
		4.コマ主題細目深度	生体に含まれる元素のうち、炭素、水素、酸素、窒素を除いたものをミネラル(灰分、無機質)という。その働き、ミネラルの機能、微量ミネラルの機能と欠乏症、消化吸収、ミネラルの働きと推奨量について学ぶ。無機と有機、主要必須ミネラルと微量必須ミネラル、カルシウム、リン、カリウム、ナトリウム、マグネシウム、塩素。各々の欠乏症及び過剰症を知り、ビタミンとの関連性を学ぶ。(鉄、亜鉛、マンガン、銅、ヨウ素、セレン)	
		5.次コマとの関係	次回は、六大栄養素最後のビタミンにすすむ	
12	基礎栄養素 ビタミン	1.シラバスとの関係	動物に必要な栄養素の中のビタミンについて学ぶ	
		2.コマ主題	基礎栄養素:ビタミン	
		3.コマ主題細目	微量必須有機物としてのビタミン、脂溶性と水溶性、過剰症と欠乏症、IU(単位)。生態の機能や代謝に働きかけるビタミンの重要性を理解し、特に過剰症に関しての注意点を学び、毒性に関する理解を深める。	
		4.コマ主題細目深度	ビタミンは体の構成成分やエネルギー源にならないが、微量でも生体の機能や代謝を円滑にする働きをする有機化合物である。その種類、働き、消化吸収、推奨量について学ぶ。生態の機能や代謝に働きかけるビタミンの重要性を理解し、特に過剰症に関しての注意点を学び、毒性に関する理解を深める。	
		5.次コマとの関係	基礎栄養素の知識を元に次コマにすすむ	
13	イヌとネコの栄養要求の違い ①	1.シラバスとの関係	動物栄養学の中で、特に身近な動物の栄養について	
		2.コマ主題	イヌとネコの栄養素のちがい	
		3.コマ主題細目	イヌとネコの必要な栄養素が違う訳	
		4.コマ主題細目深度	イヌは集団で狩りをするオオカミやコヨーテと近縁。ネコは乾燥した地域で進化した動物で、単独で狩りをする。生活液体の違いが狩りと栄養素の違いを産むことを知る。イヌとネコの生理的代謝の違いについて知る。雑食と肉食、味覚、蛋白代謝、食事頻度と一回量、特猫が絶食した時の影響について知識を持つ。	
		5.次コマとの関係	基本的な構造を知った上で必要な栄養素の違いにすすむ	
14	イヌとネコの栄養要求の違い ②	1.シラバスとの関係	動物栄養学の中で、特に身近な動物の栄養について	
		2.コマ主題	イヌとネコに必要な栄養素の違い	
		3.コマ主題細目	イヌとネコにどんな食事を与えたらよいか	
		4.コマ主題細目深度	食性や体の構造が異なるイヌとネコでは、必要な栄養素が異なる。健康維持のためにどんな食事を与えればよいか。	
		5.次コマとの関係	イヌとネコの栄養素の特徴にすすむまえに総論を学ぶ	
15	イヌとネコの栄養要求の違い ③	1.シラバスとの関係	動物栄養学の中で、特に身近な動物の栄養について	
		2.コマ主題	イヌとネコに必要な栄養素の違い	
		3.コマ主題細目	イヌとネコにどんな食事を与えたらよいか	
		4.コマ主題細目深度	イヌにはタンパク質を人より多く摂取する必要があるイヌは雑食。ネコは肉食。ネコには与える必要な栄養素とは何か。食べさせてはいけない食物とは何か。	
		5.次コマとの関係	ライフステージ別の栄養管理に進む前の総論	

16	ライフステージ別の栄養管理①	1.シラバスとの関係	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考える	
		2.コマ主題	ライフステージ別に考える理由	
		3.コマ主題細目	なぜ、ライフステージ別の栄養が必要なのか考えてみる	
		4.コマ主題細目深度	ヒトと同じように、イヌもネコもそれぞれのライフステージによって必要となる栄養素の量が異なることを知る。ライフステージとは、年齢、生活状態、生理状態などを言う。	
		5.次コマとの関係	ライフステージ別の栄養管理に進む	
17	ライフステージ別の栄養管理②	1.シラバスとの関係	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考えるが、今回は繁殖期について	
		2.コマ主題	繁殖期に必要な栄養管理について学習する	
		3.コマ主題細目	繁殖期に必要な栄養管理について学習し、繁殖に携わるイヌやネコが健やかないすごせるように知識を習得する。	
		4.コマ主題細目深度	繁殖期の動物たちは、栄養素によっては成長期以上の要求量を必要とする。良好な状態で妊娠を維持し、子イヌや子ネコの胎児期や新生児期の生育を最適にするためには、この時期の食事が重要になってくることを学習する。特に、妊娠期について学習する。	
		5.次コマとの関係	繁殖期の授乳期に必要な栄養に進む	
18	ライフステージ別の栄養管理③	1.シラバスとの関係	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考えるが、今回は繁殖期の授乳期について	
		2.コマ主題	繁殖期の授乳期に必要な栄養管理について学習する	
		3.コマ主題細目	繁殖期に必要な栄養管理について学習し、繁殖に携わるイヌやネコが健やかにすごせるよう知識を習得する。	
		4.コマ主題細目深度	繁殖期の動物たちは、栄養素によっては成長期以上の要求量を必要とする。良好な状態で妊娠を維持し、子イヌや子ネコの胎児期や新生児期の生育を最適にするためには、この時期の食事が重要になってくることを学習する。特に、授乳期について学習する。授乳期は母体の維持に加えて、母乳を供給せねばならないため、ライフステージ中で最もエネルギーを必要とすることを理解する。	
		5.次コマとの関係	繁殖期の授乳期に必要な栄養に進む	
19	ライフステージ別の栄養管理④	1.シラバスとの関係	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考えるが、今回は成長期の授乳期について	
		2.コマ主題	子イヌや子ネコの成長期には、どんなエネルギー源が必要となるのか、を理解できるようにする。	
		3.コマ主題細目	子イヌや子ネコの成長期には、活動のためのエネルギー源と発達のためのエネルギーが必要であることを理解できる。	
		4.コマ主題細目深度	子イヌや子ネコの成長期(哺乳中、離乳中)には、体の維持や活動のエネルギー源と栄養素のために必要となるエネルギーと、免疫系や身体構造、骨格の発達のために必要なエネルギーや栄養素が必要であることが理解できるようになる。	
		5.次コマとの関係	離乳後の成長期に必要な栄養に進む	
20	ライフステージ別の栄養管理⑤	1.シラバスとの関係	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考えるが、今回は成長期の哺乳後について	
		2.コマ主題	子イヌと子ネコの離乳後の成長期に必要な栄養について理解する	
		3.コマ主題細目	離乳後に必要な栄養管理について学習し、適切な成長を促すためにも、健康なイヌやネコに育てるためにも重要であることを理解する。	
		4.コマ主題細目深度	離乳後の成長期の栄養管理で大切なのは、子イヌ子ネコの最適な成長を保ち、健康な成イヌ・成ネコに育てることである。この時期のエネルギー要求量の目安を計算でき、内容を理解できるようにする。	
		5.次コマとの関係	維持期(成イヌ・成ネコ)期に必要な栄養に進む	
21	ライフステージ別の栄養管理⑥	1.シラバスとの関係	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考えるが、今回は維持期について	
		2.コマ主題	一般に成イヌ・成ネコ期とはいつごろまでの事をいうのかを理解できるようにする。	
		3.コマ主題細目	成イヌ・成ネコにはそれぞれの栄養基準を満たした、維持期用の栄養が摂取できるようの考え、理解できるようにな	
		4.コマ主題細目深度	一般に成犬・成猫期とは、成熟してから平均寿命の約半分の年齢に達するまでの期間であることを知り、大型や小型犬によって必要な内容が異なることを理解し、この時期の栄養管理が適切でなりと今後の健康に影響を与えることを理解できるように学習する。	
		5.次コマとの関係	繁殖期の高齢期に必要な栄養に進む	

22	ライフステージ別の栄養管理⑦	1.シラバスとの関係	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考えるが、今回は高齢期について	
		2.コマ主題	加齢に伴う変化が現れる時期であることを理解した上で、必要な栄養を理解できるようになる	
		3.コマ主題細目	高齢のイヌとネコは、食事内容を変化することに対して頑固なところがあるが、加齢に伴う体調の変化に合わせて食事内容や栄養を考慮する必要がある。この意味を理解し、対応できるような知識を習得できるようにする。	
		4.コマ主題細目深度	一般に成犬・成猫期とは、成熟してから平均寿命の約半分の年齢に達するまでの期間であることを知り、大型や小型犬によって必要な内容が異なることを理解し、この時期の栄養管理が適切でなりと今後の健康に影響を与えることを理解できるように学習する。	
		5.次コマとの関係	ペットフードの表示の見方にすすむ	
23	ライフステージ別の栄養管理⑧	1.シラバスとの関係	動物にとって適切な栄養をライフステージ別で考えるが、今回は高齢期について	
		2.コマ主題	加齢に伴う変化が現れる時期であることを理解した上で、必要な栄養を理解できるようになる。	
		3.コマ主題細目	高齢の犬と猫は、食事内容を変化することに対して頑固なところがあるが、加齢に伴う体調の変化に合わせて食事内容や栄養を考慮する必要がある。この意味を理解し、対応できるような知識を習得できるようにする。	
		4.コマ主題細目深度	一般に成犬・成猫期とは、成熟してから平均寿命の約半分の年齢に達するまでの期間であることを知り、大型や小型犬によって必要な内容が異なることを理解し、この時期の栄養管理が適切でなりと今後の健康に影響を与えることを理解できるように学習する。	
		5.次コマとの関係	ペットフードの表示の見方にすすむ	
24	ペットフードの表示の見方①	1.シラバスとの関係	市販のペットフードのパッケージやラベルにある情報が理解できるようにする	
		2.コマ主題	市販のペットフードのパッケージやラベルにある情報が理解できるようになり、動物の種類、目的、使用されている原材料などの情報が表示されていることが理解できる。	
		3.コマ主題細目	市販のペットフードのパッケージやラベルにある情報が理解できるようになり、動物の種類、目的、使用されている原材料、給与方法、原産国、賞味期限などの情報が明記されていることを知り、その意味が理解できるようにする。	
		4.コマ主題細目深度	市販のペットフードのパッケージやラベルにある情報が理解できるようになり、動物の種類、目的、使用されている原材料、給与方法、原産国、賞味期限などの情報が明記されていることを知り、その意味が理解できるようにする。	
		5.次コマとの関係	パッケジやラベルに表現されている事の意味が理解できたので、実際の商品をいろいろとみてみる。	
25	ペットフードの表示の見方②	1.シラバスとの関係	パッケジやラベルに表現されている事の意味が理解できたので、実際の商品をいろいろとみてみる	
		2.コマ主題	実際のいろいろな商品を見て、ラベル上の情報を読み取る練習をする。	
		3.コマ主題細目	ラベルやパッケージには様々な情報が提示されており、また、そのデザインによって売れ行きに影響ができることがあるので、さまざまな商品を見比べてみる。	
		4.コマ主題細目深度	ペットフードのいろいろを見比べて見て、そこに表現されている情報を比較検討してみる。臨床の場で、質問を受けた時に情報を読み取ることができ、対応できるように練習をしておく。	
		5.次コマとの関係	BCS評価ができるようになるための学習にすすむ	
26	BCS評価とカロリー計算の仕方①	1.シラバスとの関係	食事管理ができるためには必要カロリー量が計算できることが必要である。	
		2.コマ主題	食事管理を行うためには、どの動物がどんな栄養度にあるかを理解できる必要がある。その観察方法を知る。	
		3.コマ主題細目	各動物の栄養状態を客観的に表現できる方法を学習する	
		4.コマ主題細目深度	食事管理を行うには、まずその動物の体の状態を客観的に評価しなければならない。BCSとは何かを理解し、その上で、与える食事がどのくらいのエネルギーを持つのか、動物自身のエネルギー要求量はどのくらいなのか、を理解し、計算方法を習得し、活用できるようにする。	
		5.次コマとの関係	カロリー計算ができるようになる	
27	BCS評価とカロリー計算の仕方②	1.シラバスとの関係	食事管理ができるためには必要カロリー量が計算できることが必要である。	
		2.コマ主題	食事管理を行うためには、どの動物が必要としているカロリー計算ができることが必要である。	
		3.コマ主題細目	食事管理を行うためには、どの動物が必要としているカロリー計算ができることが必要であり、臨床の場でも、飼主家族からの相談のあった時にでも計算ができるようにしておく。	
		4.コマ主題細目深度	動物のエネルギー要求量には個体差がある。年齢や繁殖状態、環境、性別、活動レベルなどによって差が出てくるので、個体別の状態に見合ったカロリー計算ができるようになる。	
		5.次コマとの関係	個体が必要としているエネルギー量（食事の量）が計算できるようにする	

28	BCS評価とカロリー計算の仕方③	1.シラバスとの関係	食事管理ができるためには必要カロリー量が計算できることが必要	
		2.コマ主題	食事管理を行うためには、どの動物が必要としているカロリー計算ができることが必要なので、様々なパターンを事例として練習する。	
		3.コマ主題細目	食事管理を行うためには、その動物が必要としているカロリー計算ができることが必要であり、臨床の場でも、飼主家族からの相談のあった時にでも計算ができるようにしておく。	
		4.コマ主題細目深度	動物のエネルギー要求量には個体差がある。年齢や繁殖状態、環境、性別、活動レベルなどによって差が出てくるので、個体別の状態に見合ったカロリー計算ができるようになる。様々な事例を挙げてその動物が必要としている最適な食事量やカロリーを計算し、提示できるようになる。	
		5.次コマとの関係	ペットフードのには種類が多数あることを理解する	
29	ペットフードの種類①	1.シラバスとの関係	ペットフードの種類があることを理解する	
		2.コマ主題	目的別のフードを理解する	
		3.コマ主題細目	目的別にペットフードがあることを理解する。目的別のフードの内容について知識を習得し、飼主家族に説明できるようになる。	
		4.コマ主題細目深度	目的別にペットフードがあることを理解する。目的別のフードの内容について知識を習得し、飼主家族に説明できるようになる。総合栄養食の特徴を理解し、その他のフードにはどんなものがあるのを知識として習得する。	
		5.次コマとの関係	ペットフードの種類とともに、全体のまとめにすすむ	
30	ペットフードの種類②	1.シラバスとの関係	ペットフードの種類があることを理解する	
		2.コマ主題	目的別のフードを理解する	
		3.コマ主題細目	ペットフードには、ライフステージ別、機能別（肥満対策、歯石ケア、ネコの毛球対策などに配慮したフードがあり、今後、各論でまなぶ疾患別による栄養特性を理解することにつながるように学習する。	
		4.コマ主題細目深度	ペットフードには、ライフステージ別、機能別（肥満対策、歯石ケア、ネコの毛球対策などに配慮したフードがあり、今後、各論でまなぶ疾患別による栄養特性を理解することにつながるように学習すると共に、フードの与え方にはどんな技術があるのかを理解する。	
		5.次コマとの関係	「動物栄養学2」疾患別栄養管理にすすむ	

動物栄養学－2

学科	動物看護系学科	シラバス（概要）
コース		本教科では、「動物栄養学－1」で学んだ基礎知識を活用して、栄養学的管理が疾患の治療と健康の維持に大きく関連する疾病について各論として学ぶ。獣医師によって予後診断された中で、動物看護師が栄養学的な管理に関わられる疾患について学び、課程での最適な管理を飼い主に指導できる知識を習得する。疾患別の管理については、市販の療法食を活用することが多いため、その療法食の特性を理解し、獣医師の指導のもとで使用することの確認と、必ず定期的な指導のもとで使用することを周知させる必要がある。動物看護師は、獣医師の診断内容と栄養学的な内容を理解し、その疾患に関連する解剖学や生理学の知識を復習して、栄養学および食事の指導をする。
履修条件	動物栄養学－1を履修すること	
ユニット		
科目名	動物栄養学－2	
単位	1（1～3合わせて3単位）	
履修時間	30時間（1～3合わせて75時間）	
回数	30回（1～3合わせて75回）	
授業形態	講義・演習	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	筆記試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	臨床栄養指導認定動物看護師試験教本（インターズー）	

コマシラバス

50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	各論：尿路結石／猫下部尿路疾患①	1.シラバスとの関係	各論として動物の栄養管理を、疾患別にみる	
		2.コマ主題	療法食と疾患別による栄養特性を理解するために局所解剖と疾患について復習する	
		3.コマ主題細目	動物病院に来院する疾患を持った動物の、治療において栄養管理は大きな役割を果たすことが少なくない尿路系について学ぶ。	
		4.コマ主題細目深度	イヌやネコにおいて多い疾患の内で尿路結石、猫下部尿路疾患についてその特徴や栄養管理で注意が必要な点について学ぶことができる。下部尿路疾患とは、膀胱から尿道までに発症する病気の総称のこと。原因と症状について復習しながら学ぶ。	
		5.次コマとの関係	下部尿路の解剖学的知識を持って、尿路結石症に必要な食事管理に進む	
2	各論：尿路結石／猫下部尿路疾患②	1.シラバスとの関係	各論として動物の栄養管理を、疾患別にみる	
		2.コマ主題	特別療法食と疾患別による栄養特性として、尿路結石および猫下部尿路疾患を理解した上で食事管理を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	飲水量が減ると尿量も減り、尿中の血漿生成塩類濃度が高くなることから始まる現象について知る。	
		4.コマ主題細目深度	結石が形成される仕組みを知ることにより、そうならないための食事管理の指導ができるようになる。それぞれの原因を知り、それを改善できるための療法食の適正を知り、指導できるようになる。	
		5.次コマとの関係	尿路結石症の食事の与え方について学ぶ基礎となる	
3	各論：尿路結石／猫下部尿路疾患③	1.シラバスとの関係	各論として動物の栄養を、尿路疾患に関するものとしてみる	
		2.コマ主題	特別療法食と疾患別による栄養特性として、尿路結石および猫下部尿路疾患を理解した上で食事管理を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	尿のpHと食事時間の関連を知り、食事の回数等について学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	尿のpHと食事時間の関連を知り、食事の回数等について学ぶ。自由採食法とストルバイト結晶形成の関係や、ダルメシアンに多い尿酸塩尿路結石症について知ることができる。	
		5.次コマとの関係	疾患別の食事管理として心臓疾患を知る	
4	各論：心臓病①	1.シラバスとの関係	各論として動物の栄養を、疾患別にみる	
		2.コマ主題	栄養管理を学ぶ前に、心臓について局所解剖と心臓病について復習する。心臓は酸素や栄養素を全身に運ぶ血液を送り出している。そのため心臓病になると全身に様々な障害がおきることを理解できるようになる。	
		3.コマ主題細目	栄養管理を学ぶ前に、心臓について局所解剖と心臓病について復習する。心臓は酸素や栄養素を全身に運ぶ血液を送り出している。そのため心臓病になると全身に様々な障害がおきることを理解できるようになる。	
		4.コマ主題細目深度	心臓の局所解剖、機能と生理を復習し、そのような機能を持った心臓が障害をもった時に起きてくる可能性を考えられるようになる。心臓の障害によって次に起きてくることを予想できるようにする。	
		5.次コマとの関係	疾患別の食事管理として心臓疾患を知った上で、代表的な心臓病について学ぶ。	
5	各論：心臓病②	1.シラバスとの関係	心臓疾患に関する動物の栄養を理解する	
		2.コマ主題	特別療法食と疾患別による栄養特性として、心臓病を理解した上で食事管理を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	代表的な心臓病を理解する	
		4.コマ主題細目深度	代表的な心臓病を知った上で心臓病を持ったイヌとネコに適した食事とはどんな内容なのかを理解する。	
		5.次コマとの関係	心臓疾患を持った動物の栄養管理ができるために、疾患について学んだので、次は栄養管理について知る。	
6	各論：心臓病③	1.シラバスとの関係	心臓疾患に関する動物の栄養を理解する	
		2.コマ主題	心臓疾患の食事の与え方について理解する	
		3.コマ主題細目	慢性心不全の食事管理を学習する	
		4.コマ主題細目深度	慢性心不全の食事管理では、心臓の負担軽減と浮腫やうっ血状態の改善を目標とする。適正なエネルギー摂取とナトリウム制限が必要なことを理解できるようになる。	
		5.次コマとの関係	次は、消化器系疾患の食事管理に進む	

7	各論:消化器病①	1.シラバスとの関係	消化器系疾患に必要な動物の栄養を理解する	
		2.コマ主題	代表的な消化器系疾患の原因と症状について知るのに必要な局所解剖と機能生理学を復習する。	
		3.コマ主題細目	代表的な消化器系疾患の原因と症状について知るのに必要な局所解剖と機能生理。学を復習することにより、各部の症状と疾患の原因が理解できるようになる。	
		4.コマ主題細目深度	代表的な消化器系疾患の原因と症状について知るのに必要な局所解剖と機能生理学を復習する。その上で各部の症状と疾患の原因を理解できるようにする。	
		5.次コマとの関係	復習した知識を元にして消化器病の栄養管理に進む	
8	各論:消化器病②	1.シラバスとの関係	消化器系疾患に関する動物の栄養を理解する	
		2.コマ主題	口腔・食道・胃の消化の仕組みと各疾患の食事管理について知る	
		3.コマ主題細目	口と胃では主に物理的な消化が行われる。口腔から食道までの疾患と食事管理について学習する。	
		4.コマ主題細目深度	消化器病の原因には、寄生虫・ウイルス・細菌感染・ストレスなど様々であるが、それぞれについて学習をする。原因を知ることにより、その予防法も知ることとなり、健全が食生活が維持できるような管理ができるようになる。口腔、咽頭、食道疾患の食事管理について学習する。	
		5.次コマとの関係	消化器の部位による消化と生理機能を知ることによる疾患と、食事管理ができる。	
9	各論:消化器病③	1.シラバスとの関係	胃疾患に関する動物の栄養を理解する	
		2.コマ主題	胃疾患に関する動物の栄養を理解する	
		3.コマ主題細目	胃炎、胃拡張、胃捻転の症状と原因を知った上で、その食事管理を学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	胃炎、胃拡張、胃捻転の症状と原因を知った上で、その食事管理を学ぶ。胃炎の食事管理は嘔吐のある疾患の代表的な管理となるため全ての基礎として理解できるようになる。嘔吐と吐出の相違について理解できる。	
		5.次コマとの関係	胃疾患の代表的症状は嘔吐であるが、腸管の代表的症状は下痢であり、腸管疾患に進む。	
10	各論:消化器病④	1.シラバスとの関係	胃疾患に必要な動物の栄養を理解する	
		2.コマ主題	小腸の消化・吸収のしくみを知り、食事管理について知る	
		3.コマ主題細目	小腸の消化・吸収の仕組みを知り、代表的な疾患の症状と原因を知り、その栄養管理について理解できる。	
		4.コマ主題細目深度	小腸の消化・吸収の仕組みを知り、代表的な疾患の症状と原因を知り、その栄養管理について理解できる。	
		5.次コマとの関係	膵臓疾患とその栄養について知る	
11	各論:消化器病⑤	1.シラバスとの関係	消化器系疾患に関する動物の栄養を理解する	
		2.コマ主題	膵臓と大腸の疾患とその食事管理について理解できる	
		3.コマ主題細目	膵臓の疾患として膵炎、大腸炎の食事管理について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	膵炎について症状を理解した上で食事管理ができるようになる。大腸の吸収の仕組みについて理解し、大腸疾患のうち、大腸炎について理解し、便の以上について理解できるようになる。便の異常について栄養管理をする。	
		5.次コマとの関係	次の疾患に関する栄養について理解する	
12	各論:腎臓病①	1.シラバスとの関係	腎臓疾患に必要な動物の栄養を理解する	
		2.コマ主題	腎臓の局所解剖と機能生理を知る	
		3.コマ主題細目	尿が生成される過程を知り、腎臓の機能を復習する	
		4.コマ主題細目深度	腎臓の解剖、機能生理を復習することにより、障害を受けた時の腎障害の症状を理解する。	
		5.次コマとの関係	腎臓疾患を理解する上で解剖、機能生理を学ぶ	
13	各論:腎臓病②	1.シラバスとの関係	腎臓疾患に必要な動物の栄養を理解する	
		2.コマ主題	代表的な腎臓疾患について知る	
		3.コマ主題細目	腎臓での老廃物の処理、排泄について理解し、代表的な疾患を理解できる。	
		4.コマ主題細目深度	フードの嗜好性と受容性を理解できる。ペットフードの適切な取り扱いを理解できるようにする。	
		5.次コマとの関係	代表的な疾患を知り、その栄養管理について学習できるようにする	
14	各論:腎臓病③	1.シラバスとの関係	腎臓疾患に必要な動物の栄養を理解する	
		2.コマ主題	急性腎不全、慢性腎不全について知り、栄養管理について知ることができる。	
		3.コマ主題細目	腎不全の食事管理について知識を習得し、慢性腎不全は長期に管理が必要になるため、飼主家族に指導できるようになる。長期の闘病になる時には、飼主家族に納得して実施してもらえるためにようになる。	
		4.コマ主題細目深度	腎不全の食事管理について知識を習得し、慢性腎不全は長期に管理が必要になるため、飼主家族に指導できるようになる。長期の闘病になる時には、飼主家族に納得して実施してもらえるためにようになる。	
		5.次コマとの関係	次の肝臓病の栄養管理について学ぶ	

15	各論:肝臓病①	1.シラバスとの関係	肝臓疾患に必要な動物の栄養を理解する	
		2.コマ主題	肝臓疾患に必要な動物の栄養を理解する前に、肝臓の解剖と機能生理について復習する。	
		3.コマ主題細目	肝臓は、栄養の代謝、毒性物質の解毒、その他多くの機能を持つ臓器であることを理解する	
		4.コマ主題細目深度	肝臓は、栄養の代謝、毒性物質の解毒、その他多くの機能を持つ臓器である。多くの栄養素が消化吸収されて到達する臓器である。沈黙の臓器、といわれる由縁も知ることができる。	
		5.次コマとの関係	肝臓の機能を知ることにより、主な疾患を次で理解する	
16	各論:肝臓病②	1.シラバスとの関係	肝臓疾患に必要な動物の栄養を理解する	
		2.コマ主題	代表的な肝臓疾患の原因と症状を知る	
		3.コマ主題細目	肝臓病の原因と症状を知る。原因は、ウイルス、細菌感染、有害物質や薬物の摂取、心臓の先天性疾患との関連、犬種による特異性など。	
		4.コマ主題細目深度	肝臓病の原因と症状を知る。原因は、ウイルス、細菌感染、有害物質や薬物の摂取、心臓の先天性疾患との関連、犬種による特異性など。原因とともに症状を知る。	
		5.次コマとの関係	肝臓の機能を知った上で、次のコマで機能障害の影響について学ぶ	
17	各論:肝臓病③	1.シラバスとの関係	肝臓疾患に必要な動物の栄養を理解する	
		2.コマ主題	肝臓機能障害が身体に及ぼす影響について理解する	
		3.コマ主題細目	肝臓は栄養素の代謝において重要な臓器であるため肝機能が低下すると様々な悪影響が現れる。	
		4.コマ主題細目深度	肝臓は栄養素の代謝において重要な臓器であるため肝機能が低下するとタンパク質、アミノ酸、炭水化物、脂質、ミネラル、ビタミンなど様々な悪影響が現れることを学習する。	
		5.次コマとの関係	基本知識を学習した上で、肝臓疾患の栄養管理について次コマで学習できる	
18	各論:肝臓病④	1.シラバスとの関係	肝臓疾患に必要な動物の栄養を理解する	
		2.コマ主題	肝臓病の栄養管理について学ぶ	
		3.コマ主題細目	肝臓疾患の動物の維持エネルギー要求量について学習し、適切な食事内容を理解できるようになる。	
		4.コマ主題細目深度	肝臓疾患の動物の維持エネルギー要求量について学習し、適切な食事内容を理解できるようになる。適切なエネルギー供給は、体タンパク質異化によるアンモニア生成を避けるためにも重要であり、食欲不振になる動物も多いので、少量でも十分なエネルギーが得られるよう密度の高い食物を与えることが必要であることを知る。	
		5.次コマとの関係	次の口腔疾患の栄養管理に進む	
19	各論:口腔疾患①	1.シラバスとの関係	口腔疾患と栄養管理について学ぶ	
		2.コマ主題	口腔疾患として、歯周病をあげる。	
		3.コマ主題細目	歯周病は、食欲不振を引き起こすだけではなく多くの臓器の健康にも影響を及ぼすことを理解する。	
		4.コマ主題細目深度	歯周病は、食欲不振を引き起こすだけではなく多くの臓器の健康にも影響を及ぼし、全身の健康に悪影響を与える。感染した細菌が心臓や肝臓、腎臓など主要な臓器に影響を及ぼすことを理解できる。	
		5.次コマとの関係	歯周病の原因と症状を知るコマにすすむ	
20	各論:口腔疾患②	1.シラバスとの関係	口腔疾患と栄養管理について学ぶ	
		2.コマ主題	歯周病の原因と症状について理解できる	
		3.コマ主題細目	歯周病の原因と症状について理解し、歯周病の進行について知ることができる。歯肉炎と歯周炎の違いを理解し、歯周炎の進行について学習する。	
		4.コマ主題細目深度	歯周病の原因と症状について理解し、歯周病の進行について知ることができる。歯肉炎と歯周炎の違いを理解し、歯周炎の進行について学習する。	
		5.次コマとの関係	歯を含めた口腔内の健康に良い食物が全身の健康に良いことを次コマで知る	
21	各論:口腔疾患③	1.シラバスとの関係	口腔疾患と栄養管理について学ぶ	
		2.コマ主題	歯、口腔内を含めて全身の健康にとってよい良い食物について理解できる。	
		3.コマ主題細目	成犬、成猫期(維持期)の栄養管理。食物と歯について。	
		4.コマ主題細目深度	食物と歯の関係について。歯石は外科的な処置をして除去するが、初期の歯垢は歯磨きや食事の形態でコントロールできることもあることを理解できる。食物の形状、食事の仕方、種類について知ることができる。	
		5.次コマとの関係	次は、高齢期にすすむ	
22	各論:糖尿病①	1.シラバスとの関係	糖尿病の栄養管理について学ぶ	
		2.コマ主題	糖尿病の仕組みについて知るために膵臓の解剖、機能生理について学ぶ	
		3.コマ主題細目	糖尿病は生活習慣病の一つ。薬物療法と共に、治療の基本となる食事管理の重要性を認識するための知識を得る。	
		4.コマ主題細目深度	糖尿病は生活習慣病の一つ。薬物療法と共に、治療の基本となる食事管理の重要性を認識する。膵臓の局所解剖と機能生理について復習する。	
		5.次コマとの関係	糖尿病の仕組みと症状について知る	

23	各論:糖尿病②	1.シラバスとの関係	糖尿病の栄養管理について学ぶ	
		2.コマ主題	糖尿病の仕組みと症状について知る	
		3.コマ主題細目	膵臓と糖尿病の関係について理解できる	
		4.コマ主題細目深度	食後、消化吸収されて血液中に入ったブドウ糖がエネルギー源として利用されるまでの過程について知る。糖尿病の原因、症状、タイプについて理解できるようになる。	
		5.次コマとの関係	糖尿病の食事管理について次コマで理解できる	
24	各論:糖尿病③	1.シラバスとの関係	糖尿病の栄養管理について学ぶ	
		2.コマ主題	糖尿病のの食事管理について理解できるようになる	
		3.コマ主題細目	インスリン非依存性糖尿病とインスリン依存性糖尿病の食事管理について理解できるようになる。	
		4.コマ主題細目深度	食事管理をするためには、まず、その動物の体の状態を客観的に評価しなければならない。その上で、与える食物がもつエネルギー要求量を算出し、活用する必要があるので、BCSを正しく評価活用できるように学ぶ。	
		5.次コマとの関係	次は、食物アレルギーについて理解できるようにすすむ	
25	各論:食物アレルギー①	1.シラバスとの関係	食物アレルギーについて理解できるようになる	
		2.コマ主題	食物アレルギーの原因と症状について知る	
		3.コマ主題細目	食物アレルギーの原因を知り、何がその動物のアレルゲンになっているかを調べる方法について学ぶ。食物アレルギーの症状について理解できるようになる。	
		4.コマ主題細目深度	食物アレルギーの原因を知り、何がその動物のアレルゲンになっているかを調べる方法について学ぶ。食物アレルギーの症状について理解できるようになるまた、アレルギーの症状を知り、類似する症状を呈する皮膚疾患との類焼鑑別をすることが必要であることを学ぶ。	
		5.次コマとの関係	食物アレルギーの仕組みについて次シラバスで知る	
26	各論:食物アレルギー②	1.シラバスとの関係	食物アレルギーについて理解できるようになる	
		2.コマ主題	食物アレルギーの仕組みについて理解できる	
		3.コマ主題細目	食物アレルギーの仕組みについて理解できる。	
		4.コマ主題細目深度	食物アレルギーは、食物に含まれるタンパク質が原因になっておこることが多い。アレルゲンの構造や分子の大きさによってひきおこされるとされるなどについて理解できるようになる。	
		5.次コマとの関係	食物アレルギーの食事管理について次コマで学習する	
27	各論:食物アレルギー③	1.シラバスとの関係	食物アレルギーについて理解できるようになる	
		2.コマ主題	食物アレルギーの食事管理について理解できる	
		3.コマ主題細目	アレルゲンを見つけるための方法を理解する	
		4.コマ主題細目深度	アレルゲンを見つけるための方法を理解する。動物が日常的に摂取する食物やそのほかの口に入れるものを、飼主家族にリストアップしてもらう。その具体的な方法を知り、改善するための食事管理について理解できるようになる。	
		5.次コマとの関係	食物アレルギー除去食について次コマで学習する	
28	各論:食物アレルギー④	1.シラバスとの関係	食物アレルギーについて理解できるようになる	
		2.コマ主題	除去食について理解する	
		3.コマ主題細目	除去食には手作り食と療法食があることを知り、その内容について学習する。	
		4.コマ主題細目深度	除去食には手作り食と療法食があることを知り、その内容について学習する。手づくり食のメリットとデメリットについて知ることができる。除去食を与える時の注意点を説明できるようになる。	
		5.次コマとの関係	次の疾患節の栄養管理に進む	
29	各論:関節炎①	1.シラバスとの関係	関節炎を持つ動物の栄養管理について理解できる	
		2.コマ主題	関節炎のしくみについて理解する	
		3.コマ主題細目	関節炎を理解するために関節や骨の解剖と機能生理について学習する。	
		4.コマ主題細目深度	関節炎のしくみについて理解できる。	
		5.次コマとの関係	関節炎の原因と症状を次のコマで知る	
30	各論:関節炎②	1.シラバスとの関係	関節炎を持つ動物の栄養管理について理解できる	
		2.コマ主題	関節炎の原因と症状について理解できた上で、栄養学的管理をする。	
		3.コマ主題細目	関節炎の原因と症状について理解できた上で、栄養学的管理をする。慢性疾患のため長期的な管理が必要になることを理解する。	
		4.コマ主題細目深度	関節炎の原因と症状について理解できた上で、栄養学的管理をする。慢性疾患のため長期的な管理が必要になることを理解できた上で、関節炎を持つ動物の栄養管理が出来るようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き「動物栄養学3」疾患別栄養管理について学ぶ	

動物栄養学－3

学科	動物看護系学科	シラバス（概要）
コース		獣医療の発展により、人間と同様に動物たちの寿命が劇的に伸びる一方、高齢化に伴う慢性疾患の増加が、獣医療における課題の一つとなっている。人々の動物に対する関心は、医療ばかりでなく、「食」に対してもある。「医食同源」の言葉があるように、「食」すなわち栄養は疾病の予防や日々の健康管理に密着しており、発病時の栄養指導は動物看護師の活躍の場である。 獣医師の指導下で、疾病別の適切なフードのタイプ、給与回数、給与方法を理解し、家庭での栄養指導を行い、また、飼い主が関心を寄せる動物栄養学の知識と飼い主への指導を行うことが、動物看護師の礎となるよう修得する。また、ペットフード自体についても関心を持ち、適切に指導ができるための知識を持つように学習する
履修条件	動物栄養学－1・2を履修すること	
ユニット		
科目名	動物栄養学－3	
単位	1（1～3合わせて3単位）	
履修時間	15時間(1～3合わせて75時間)	
回数	15回(1～3合わせて75回)	
授業形態	講義・演習	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	筆記試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	臨床栄養指導認定動物看護師試験教本（インターズー）	

コマシラバス				
50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	各論：がん①	1.シラバスとの関係	各論の中の疾患別の栄養	
		2.コマ主題	高齢化が進むにつれてがんが増えた。QOLの維持や延命のための栄養管理について知る	
		3.コマ主題細目	がんが進行するにしたがって栄養状態が悪化する中、いかにQOLを維持し、少しでも快適な食生活を送ることができるように学習する。	
		4.コマ主題細目深度	がんが進行するにしたがって栄養状態が悪化する中、いかにQOLを維持し、少しでも快適な食生活を送ることができるように援助できるかを学習する。動物の長寿化で動物看護師や獣医師ががんの動物に遭遇する機会が増えているので、QOLの維持や延命のための栄養管理について把握できる。	
		5.次コマとの関係	栄養管理に必要ながんについての知識を学ぶ	
2	各論：がん②	1.シラバスとの関係	各論の中の疾患別の栄養	
		2.コマ主題	高齢化が進むにつれてがんが増えた。QOLの維持や延命のための栄養管理について知る。	
		3.コマ主題細目	がんが進行するにしたがって栄養状態が悪化する中、いかにQOLを維持し、少しでも快適な食生活を送ることができるように学習する。	
		4.コマ主題細目深度	がんが進行するにしたがって栄養状態が悪化する中、いかにQOLを維持し、少しでも快適な食生活を送ることができるように援助できるかを学習する。動物の長寿化で動物看護師や獣医師ががんの動物に遭遇する機会が増えているので、QOLの維持や延命のための栄養管理について把握できる。	
		5.次コマとの関係	栄養管理に必要ながんについての知識を学ぶ	
3	各論：がん③	1.シラバスとの関係	各論の中の疾患別の栄養	
		2.コマ主題	高齢化が進むにつれてがんが増えた。QOLの維持や延命のための栄養管理について知る	
		3.コマ主題細目	がんが進行するにしたがって栄養状態が悪化する中、いかにQOLを維持し、少しでも快適な食生活を送ることができるように学習する。	
		4.コマ主題細目深度	がんが進行するにしたがって栄養状態が悪化する中、いかにQOLを維持し、少しでも快適な食生活を送ることができるように援助できるかを学習する。動物の長寿化で動物看護師や獣医師ががんの動物に遭遇する機会が増えているので、QOLの維持や延命のための栄養管理について把握できる。	
		5.次コマとの関係	次の各論に進む（脳の加齢を認知障害）	
4	各論：脳の加齢を認知障害①	1.シラバスとの関係	各論の中の疾患別の栄養	
		2.コマ主題	加齢に伴う行動の変化は個体差があるが、脳の加齢と栄養について	
		3.コマ主題細目	脳の加齢による行動異常と機能低下を知る	
		4.コマ主題細目深度	脳の加齢に伴う変化には個体差があるが、多くの場合には、動物の行動の変化は見過ごされてしまうようだ。初期段階でその徴候を見つけて対処できれば、行動の異常の進行を遅らせたり軽減することができるかもしれないことを理解する。フリーラジカルによるダメージは、どんな機能を低下させるかを理解する。	
		5.次コマとの関係	次の各論に進む（脳の加齢を認知障害）	
5	各論：脳の加齢を認知障害②	1.シラバスとの関係	各論の中の疾患別の栄養	
		2.コマ主題	加齢に伴う行動の変化は個体差があるが、脳の加齢と栄養について	
		3.コマ主題細目	認知機能の低下について理解する	
		4.コマ主題細目深度	脳の加齢に伴う変化には個体差があるが、多くの場合には、動物の行動の変化は見過ごされてしまうようだ。初期段階でその徴候を見つけて対処できれば、行動の異常の進行を遅らせたり軽減することができるかもしれないことを理解する。認知機能の低下を示す症状を挙げ、他の疾患と区別することが難しい現実を知る。少しでも進行を遅らせる栄養的手段があるのかどうか、学習する。	
		5.次コマとの関係	次の各論に進む（脳の加齢を認知障害）	

6	各論:脳の加齢を認知障害③	1.シラバスとの関係	各論の中の疾患別の栄養	
		2.コマ主題	加齢に伴う行動の変化は個体差があるが、脳の加齢と栄養について	
		3.コマ主題細目	老化のメカニズムの中で、フリーラジカルについて理解す	
		4.コマ主題細目深度	脳の加齢に伴う変化には個体差があるが、多くの場合には、動物の行動の変化は見過ごされてしまうようだ。初期段階でその徴候を見つけて対処できれば、行動の異常の進行を遅らせたり軽減することができるかもしれないことを理解する。フリーラジカルのメカニズムを知り、栄養学的解決法があるのかを学習する。	
		5.次コマとの関係	次の各論に進む(肥満)	
7	各論:肥満①	1.シラバスとの関係	各論の中の疾患別の栄養	
		2.コマ主題	動物の肥満とはどういう状態かを理解する	
		3.コマ主題細目	肥満の原因と判定について知る	
		4.コマ主題細目深度	肥満の原因を学習する。肥満とは体脂肪が築盛した状態を指す。多くの場合、摂取したエネルギー量が消費したエネルギー量を上回ることによっておこる。肥満を良く知り、これを解消するための栄養学的手段を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	肥満の原因を知る事により、解説法を学べるようになる	
8	各論:肥満②	1.シラバスとの関係	各論の中の疾患別の栄養	
		2.コマ主題	肥満の判定方法について学ぶ	
		3.コマ主題細目	肥満の客観的な判定法について知り、肥満を認識できた上で栄養学的対応を指導できるように知識を学ぶ。来院する動物の多くは肥満または肥満傾向にあるが、多くの飼主はそれに気が付いていない。気が付いてもらうための指導方法を学ぶ。	
		4.コマ主題細目深度	肥満の客観的な判定法について知り、肥満を認識できた上で栄養学的対応を指導できるように知識を学ぶ。来院する動物の多くは肥満または肥満傾向にあるが、多くの飼主はそれに気が付いていない。気が付いてもらうための指導方法を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	適切なカロリー計算ができるために知識を習得する	
9	各論:肥満③	1.シラバスとの関係	各論の中の疾患別の栄養	
		2.コマ主題	BCS評価	
		3.コマ主題細目	栄養状態の判定に用いられるBCSについて	
		4.コマ主題細目深度	食事管理をするためには、まず、その動物の体の状態を客観的に評価しなければならない。その上で、与える食物がもつエネルギー要求量を算出し、活用する必要があるので、BCSを正しく評価活用できるように学ぶ。	
		5.次コマとの関係	次の各論に進む(甲状腺機能亢進症)	
10	各論:状腺機能亢進症①	1.シラバスとの関係	各論の中の疾患別の栄養	
		2.コマ主題	甲状腺機能亢進症の時でもQOLを維持できる栄養を知る	
		3.コマ主題細目	甲状腺機能亢進症の時の栄養学を理解し、飼主家族に指導対応できるような知識を習得する	
		4.コマ主題細目深度	甲状腺機能亢進症は特に高齢の猫に好発する。治療せずに放置すると心臓や腎臓に大きな負担をかけ、死に至ることもあるので、適切な治療と共に栄養学的指導ができればQOLの維持と、少しでも辛くない生活を送ってもらえるようにする。	
		5.次コマとの関係	次の各論に進む(甲状腺機能亢進症)	
11	各論:甲状腺機能亢進症②	1.シラバスとの関係	各論の中の疾患別の栄養	
		2.コマ主題	甲状腺機能亢進症の時でもQOLを維持できる栄養を知る	
		3.コマ主題細目	甲状腺機能亢進症の時の栄養学を理解し、飼主家族に指導対応できるような知識を習得する。	
		4.コマ主題細目深度	甲状腺機能亢進症は特に高齢の猫に好発する。治療せずに放置すると心臓や腎臓に大きな負担をかけ、死に至ることもあるので、適切な治療と共に栄養学的指導ができればQOLの維持と、少しでも辛くない生活を送ってもらえるようにする。	
		5.次コマとの関係	次の各論に進む(甲状腺機能亢進症)	
12	各論:甲状腺機能亢進症③	1.シラバスとの関係	各論の中の疾患別の栄養	
		2.コマ主題	甲状腺機能亢進症の時でもQOLを維持できる栄養を知る	
		3.コマ主題細目	甲状腺機能亢進症の時の栄養学を理解し、飼主家族に指導対応できるような知識を習得する。	
		4.コマ主題細目深度	甲状腺機能亢進症は特に高齢の猫に好発する。治療せずに放置すると心臓や腎臓に大きな負担をかけ、死に至ることもあるので、適切な治療と共に栄養学的指導ができればQOLの維持と、少しでも辛くない生活を送ってもらえるようにする。	
		5.次コマとの関係	ペットフード市場を知るために、疾患ごとにどんな食事が可能かを学習する	
13	ペットフード市場①	1.シラバスとの関係	ペットフード市場を理解する	
		2.コマ主題	ペットフード市場	
		3.コマ主題細目	ペットフード販売と市場について考察する	
		4.コマ主題細目深度	フードの嗜好性と受容性を理解できる。ペットフードの適切な取り扱いを理解できるようにする。	
		5.次コマとの関係	嗜好性を高めるためにはどうするか	

動物栄養学－3

14	ペットフード市場②	1.シラバスとの関係	ペットフード市場を理解する	
		2.コマ主題	嗜好性	
		3.コマ主題細目	嗜好性を考える、嗜好性をよくするために	
		4.コマ主題細目深度	嗜好性の要因を考える。臭い、味、質感・低塩食は美味しいのか。	
		5.次コマとの関係	嗜好性を高めるための工夫を知る	
15	ペットフードに関する規則とまとめ	1.シラバスとの関係	健全なペットフードを使用でくるために規則をしる	
		2.コマ主題	ペットフード安全法	
		3.コマ主題細目	ペットフード安全法を知る	
		4.コマ主題細目深度	多くの動物がペットフードを主食として飼育されている。家族は安心安全を求めている。そのため、ペットフードをの製造・販売に関わる業界団体は、安全確保のための自主的な取り組みをしてきた。それが法律となったことの経緯を知り、今後に役立てる。	
		5.次コマとの関係		

動物医療関連法規

学科	動物看護系学科	シラバス(概要)
コース		獣医療における動物看護師の職域や身分などを明示した法令はない。獣医師とのチーム獣医療を構成する動物看護師は、動物看護師が行う獣医医療関連の業務とそれを取り巻く法律の仕組みを基礎から理解し、獣医療現場及び公衆衛生、環境関連の動物関連の法規について理解を深め、動物福祉と安全な社会づくりに貢献する専門職として遵守の精神を養う必要がある。また、社会人として知っておくべき法規について学習する。2009年に日本動物看護職協会が公表した「動物看護者の倫理綱領2009」と「動物看護者の業務指針」(2012)についても学ぶ。
履修条件		
ユニット		
科目名	動物医療関連法規	
単位	1	
履修時間	30時間	
回数	30コマ	
授業形態	講義	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	筆記試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①動物看護の教科書(緑書房)②獣医事法規(緑書房)③愛玩動物飼養管理士テキスト第1巻(日本愛玩動物協会)④獣医畜産六法(新日本法規出版)	

コマシラバス

50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	法規の概念①	1.シラバスとの関係	法の理念と目的を理解し、専門職としての認識を身につける。	
		2.コマ主題	法令とは	
		3.コマ主題細目	法律等について、条約等について	
		4.コマ主題細目深度	法律と政令、省令と条例などについて、その趣旨や違いについて理解をする。	
		5.次コマとの関係	法律や条例について、その制定と改廃についての仕組みについて理解を深める。	
2	法規の概念②	1.シラバスとの関係	法の理念と目的を理解し、専門職としての認識を身につける。	
		2.コマ主題	法令とは	
		3.コマ主題細目	法律等について、条約等について	
		4.コマ主題細目深度	法律や条例について、その制定と改廃についての仕組みについて理解を深める。	
		5.次コマとの関係	法規の概念について学んだ後に動物看護師を取り巻く獣医療関連法規のアウトラインについて学ぶ。	
3	動物看護師を取り巻く獣医療関連法規のアウトラインについて①	1.シラバスとの関係	動物看護師を取り巻く法律の概要を知る。	
		2.コマ主題	獣医医療を取り巻く法律全般について	
		3.コマ主題細目	獣医事、薬事、環境、動物愛護、自然保護、民法などの概論の紹介。	
		4.コマ主題細目深度	獣医医療の様々な分野について理解するとともに、その分野のすそ野の広さについての理解を深める。	
		5.次コマとの関係	獣医医療関連法規各論(獣医師法について)	
4	動物看護師を取り巻く獣医療関連法規のアウトラインについて②	1.シラバスとの関係	動物看護師を取り巻く法律の概要を知る。	
		2.コマ主題	獣医医療を取り巻く法律全般について	
		3.コマ主題細目	獣医事、薬事、環境、動物愛護、自然保護、民法などの概論の紹介。	
		4.コマ主題細目深度	獣医医療の様々な分野について理解するとともに、その分野のすそ野の広さについての理解を深める。	
		5.次コマとの関係	獣医医療関連法規各論(獣医師法について)	
5	動物看護師の職域に関連する法規①(獣医師法)	1.シラバスとの関係	法の理念と目的を理解し、専門職としての認識を身につける。	
		2.コマ主題	獣医師法①	
		3.コマ主題細目	獣医師法と動物看護師の職務について	
		4.コマ主題細目深度	獣医師法の中の動物看護師の職務について理解する。獣医師は、獣医療を行うことが許された裕何時の国家資格を持つものであり、動物に関わる処置の全ては獣医師の指示下でなければ行うことができない。この基本を認識できるように学ぶ。	
		5.次コマとの関係	引き続き獣医師法について	
6	動物看護師の職域に関連する法規②(獣医師法)	1.シラバスとの関係	法の理念と目的を理解し、専門職としての認識を身につける。	
		2.コマ主題	獣医師法②	
		3.コマ主題細目	獣医師法と動物看護師の職務について	
		4.コマ主題細目深度	獣医師法の中の動物看護師の職務について理解する	
		5.次コマとの関係	獣医療法について	
7	動物看護師の職域に関連する法規③(獣医療法)	1.シラバスとの関係	法の理念と目的を理解し、専門職としての認識を身につける。	
		2.コマ主題	獣医療法①	
		3.コマ主題細目	飼育動物の診療施設の開設及び管理に関し必要な事項について。	
		4.コマ主題細目深度	飼育動物の診療施設の開設及び管理に関し必要な事項について理解する。	
		5.次コマとの関係	獣医療法について	
8	動物看護師の職域に関連する法規④(獣医療法)	1.シラバスとの関係	法の理念と目的を理解し、専門職としての認識を身につける。	
		2.コマ主題	獣医療法②	
		3.コマ主題細目	診療施設の開設及び管理・整備の方法などについて、法律の側から理解する。	
		4.コマ主題細目深度	獣医療法に基づく各種届出などについて理解する。	
		5.次コマとの関係	動物愛護及び管理に関する法律について学ぶ	

動物医療関連法規

9	動物愛護及び管理に関する法律①	1.シラバスとの関係	法の理念、目的を理解し、ヒトと動物のより良い共生に寄与する。	
		2.コマ主題	法における責務と規制事項を理解できる	
		3.コマ主題細目	動物愛護及び管理に関する法律の内容を知る	
		4.コマ主題細目深度	動物愛護法の趣旨と飼い主やペット業者の責任や義務について理解する。	
		5.次コマとの関係	引き続き動物愛護及び管理に関する法律について学ぶ	
10	動物愛護及び管理に関する法律②	1.シラバスとの関係	法の理念、目的を理解し、ヒトと動物のより良い共生に寄与する。	
		2.コマ主題	動物福祉と人との共生の観点から、適切な飼育法を飼主指導できる。	
		3.コマ主題細目	動物愛護法施行令、施行規則	
		4.コマ主題細目深度	実際の業務に関連する届出などの手続きについて理解する。	
		5.次コマとの関係	「動物愛護及び管理に関する法律」関連法規としてペットフード安全法について学ぶ。	
11	動物愛護及び管理に関する法律③関連法律（ペットフード安全法）	1.シラバスとの関係	法の理念、目的を理解し、人と動物のより良い共生に寄与する。	
		2.コマ主題	愛玩動物の健康の確保のための飼料の安全性の確保に関する法律について。	
		3.コマ主題細目	愛玩動物用飼料の安全性の確保に関する法律（ペットフード安全法）が制定された経緯の概要について知り、ペットの健康のために動物を飼育していない国民の同意を得て制定された意味を知る。	
		4.コマ主題細目深度	ペットフードの製造等に関する規制をすることで安全性を図り、ペットの健康を保護し動物の愛護に寄与することを目的とするペットフード安全法の制定の背景と経緯、法律の概要について理解する。	
		5.次コマとの関係	引き続き「動物愛護及び管理に関する法律」関連法規としてペットフード安全法について学ぶ。	
12	動物愛護及び管理に関する法律④関連法律（ペットフード安全法）	1.シラバスとの関係	法の理念、目的を理解し、人と動物のより良い共生に寄与する。	
		2.コマ主題	愛玩動物の健康の確保のための飼料の安全性の確保に関する法律について。	
		3.コマ主題細目	愛玩動物用飼料の安全性の確保に関する法律（ペットフード安全法）の具体的な運用、表示義務などについて。	
		4.コマ主題細目深度	飼料生産業者の表示義務などについて理解する。	
		5.次コマとの関係	狂犬病予防法について	
13	身体障害者補助犬法	1.シラバスとの関係	法の理念、目的を理解し、人と動物のより良い共生に寄与する。	
		2.コマ主題	動物福祉と人との共生の観点から、身体障害者補助犬法において動物看護師が理解を深めておくべき部分を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	身体障害者補助犬法は、身体障害者補助犬を訓練する事業者及び使用する者の義務を定めている。	
		4.コマ主題細目深度	実際の業務に関連する届出などの手続きについて理解する。	
		5.次コマとの関係	「動物愛護及び管理に関する法律」関連法規としてペットフード安全法について学ぶ。	
14	狂犬病予防法①	1.シラバスとの関係	法の理念と目的を理解し狂犬病の予防に寄与する。	
		2.コマ主題	狂犬病法を知りながら、法における責務と規制事項を理解できる。	
		3.コマ主題細目	狂犬病法の概要を知識として得る。	
		4.コマ主題細目深度	国内での狂犬病の予防のための各種施作について理解する。狂犬病の予防と登録の必要性を飼主に説明できるように理解を深める。	
		5.次コマとの関係	引き続き狂犬病予防法について	
15	狂犬病予防法②	1.シラバスとの関係	法の理念と目的を理解し狂犬病の予防に寄与する。	
		2.コマ主題	狂犬病法を知りながら、法における責務と規制事項を理解できる。	
		3.コマ主題細目	狂犬病などの海外悪性伝染病について理解する。	
		4.コマ主題細目深度	なぜ、法律が必要なのかを知る。狂犬病について知識として習得する。	
		5.次コマとの関係	家畜衛生行政関連法規について学ぶ。	
16	家畜衛生行政関連法規①（家畜伝染病予防法）	1.シラバスとの関係	動物全般の伝染性疾病について理解する。	
		2.コマ主題	法の理念と目的を学び、家畜防疫についての理解を深める。	
		3.コマ主題細目	家畜伝染病予防法について学ぶ。	
		4.コマ主題細目深度	色々な動物の感染症についてその発生予防などについて理解する。	
		5.次コマとの関係	海外悪性伝染病について学ぶ。	
17	家畜衛生行政関連法規②（家畜伝染病予防法）	1.シラバスとの関係	動物全般の伝染性疾病について理解する。	
		2.コマ主題	法の理念と目的を学び、家畜防疫についての理解を深める。	
		3.コマ主題細目	家畜伝染病予防法について学ぶ。	
		4.コマ主題細目深度	海外悪性伝染病について理解する。	
		5.次コマとの関係	食品衛生法（乳及び乳製品の成分に関する省令を含む）	

動物医療関連法規

18	公衆衛生行政関連法規①(食品衛生法)	1.シラバスとの関係	法の理念と目的を理解し公衆衛生に寄与する。	
		2.コマ主題	国民生活に関連した各種公衆衛生関連の法律について学習する。	
		3.コマ主題細目	食品衛生法(乳及び乳製品の成分に関する省令を含む)	
		4.コマ主題細目深度	獣医師は、人の健康と食品の安全と衛生を保つための職域を持つ。動物看護師の職域として、人の健康や食品の衛生管理に関わる可能性も含めて、これらに関係ある法律について理解する。	
		5.次コマとの関係	と畜場法、食鳥検査法、水道法、下水道法など	
19	公衆衛生行政関連法規②(と畜場法、食鳥検査法、水道法、下水道法など)	1.シラバスとの関係	法の理念と目的を理解し、公衆衛生に寄与する。	
		2.コマ主題	国民生活に関連した各種公衆衛生関連の法律について学習する。	
		3.コマ主題細目	と畜場法、食鳥検査法、水道法、下水道法など	
		4.コマ主題細目深度	日常の動物看護師の職域としては、あまり縁のない内容ではあるが、人の健康管理に大きく影響する食品の衛生確保のための法律について理解する。	
		5.次コマとの関係	薬物関連法規について学ぶ	
20	薬物関連法規①(薬事法)	1.シラバスとの関係	医薬品、医薬部外品等の有効性及び安全性の確保について学ぶ。	
		2.コマ主題	薬事法について学ぶ	
		3.コマ主題細目	動物用医薬品、医薬部外品、医療機器の品質、有効性及び安全性の確保のための法律などについて学ぶ。	
		4.コマ主題細目深度	動物看護師が理解を深めておくべき部分を理解できるように取り巻く医薬品等の取扱について学ぶ。	
		5.次コマとの関係	引き続き薬事法について学ぶ	
21	薬物関連法規②(薬事法)	1.シラバスとの関係	医薬品、医薬部外品等の有効性及び安全性の確保について学ぶ。	
		2.コマ主題	薬事法について学ぶ	
		3.コマ主題細目	動物用医薬品、医薬部外品、医療機器の品質、有効性及び安全性の確保のために必要な規制について学ぶ。	
		4.コマ主題細目深度	動物病院などでの実際の取扱と管理について学ぶ。薬事法に関連し、麻薬及び向精神薬取締法、覚せい剤取締法の存在を知る。	
		5.次コマとの関係	産業廃棄物処理法について	
22	環境行政関連法規①(産業廃棄物法概論)	1.シラバスとの関係	産業廃棄物処理法を理解する	配布資料による(廃棄物の処理および清掃に関する法律)環境省大臣官房要約版を使用。
		2.コマ主題	動物医療現場から排出される廃棄物の体系について理解する。	
		3.コマ主題細目	廃棄物処理法に基づく産業廃棄物の大きな区分を理解しする。	
		4.コマ主題細目深度	動物医療現場から排出される各種廃棄物の位置づけを理解する。	
		5.次コマとの関係	具体的な動物医療現場での廃棄物の分類について理解する。	
23	環境行政関連法規②(特に医療廃棄物について)	1.シラバスとの関係	産業廃棄物処理法を理解する。	配布資料による(廃棄物の処理および清掃に関する法律:環境省大臣官房要約版など)
		2.コマ主題	動物医療現場から排出される廃棄物の種類とその取扱について理解する。	
		3.コマ主題細目	廃棄物処理法に基づく感染性廃棄物処理について理解を深める。	
		4.コマ主題細目深度	動物医療現場から排出される廃棄物を法律に基づいて分類ができる。	
		5.次コマとの関係	野生動物の保護に関する法について学ぶ。	
24	野生動物にかかわる関係法令①	1.シラバスとの関係	法の理念と目的を学び、野生鳥獣の保護と適正狩猟について理解する。	配布資料による(環境省レッドデータブックなど)
		2.コマ主題	鳥獣保護及び狩猟の適正化に関する法律、ワシントン条約関連の野生保護に係る一連の法律と条約について理解する。	
		3.コマ主題細目	野生動物に関する法体系	
		4.コマ主題細目深度	野生動物の保護を目的とした各種法律の概略について理解する。	
		5.次コマとの関係	いつくかの野生動物に関する法について学ぶ	
25	野生動物にかかわる関係法令②	1.シラバスとの関係	法の理念と目的を学び、野生鳥獣の保護と適正狩猟について理解する。	配布資料による(環境省レッドデータブックなど)
		2.コマ主題	鳥獣保護及び狩猟の適正化に関する法律、ワシントン条約関連の野生保護に係る一連の法律と条約について理解する。	
		3.コマ主題細目	鳥獣保護及び狩猟の適正化に関する法律	
		4.コマ主題細目深度	鳥獣の保護を目的とした各種法律の概略について理解する。「特定外来生物による生態系等に係わる被害の防止に関する法律」「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律」について存在を知る。	
		5.次コマとの関係	社会人として知っておく必要のある法律について学ぶ	
26	社会人として知っておく必要のある法律①(民法)	1.シラバスとの関係	動物看護師が知っておく必要のある一般法律について理解する。	
		2.コマ主題	各種申請業務、契約業務に関連する法律について。	
		3.コマ主題細目	民法の概略について	
		4.コマ主題細目深度	民法における契約などの生活関連法規について、その基礎を理解する。	
		5.次コマとの関係	一般法律について知る	

動物医療関連法規

27	社会人として知っておく必要のある法律②	1.シラバスとの関係	動物看護師が知っておく必要のある一般法律について理解する。	
		2.コマ主題	民法の概略について	
		3.コマ主題細目	各種申請業務、契約業務に関連する法律について	
		4.コマ主題細目深度	民法における契約などの生活関連法規について、その基礎を理解する。	
		5.次コマとの関係	動物看護師のための法律整備に向けて	
28	動物看護師のための法律①	1.シラバスとの関係	国家資格化と動物看護師のためのあらたな法律の整備について。	
		2.コマ主題	獣医療技術者としての動物看護師の位置づけ	
		3.コマ主題細目	獣医療技術者としての動物看護師の位置づけと法律	
		4.コマ主題細目深度	獣医療技術者に求められる倫理と医療技術者としての動物看護師の位置づけを理解する。	
		5.次コマとの関係		
29	動物看護師のための法律②	1.シラバスとの関係	国家資格化と動物看護師のためのあらたな法律の整備について。	
		2.コマ主題	獣医療技術者としての動物看護師の位置づけ。	
		3.コマ主題細目	獣医療技術者としての動物看護師の位置づけと法律。	
		4.コマ主題細目深度	獣医療技術者に規定される法律を考え、職場での動物看護師の実際の業務と法律の関係を理解する。	
		5.次コマとの関係	動物看護師のための法律整備に向けて	
30	総まとめ	1.シラバスとの関係	獣医療技術者としての動物看護師の位置づけと法律	
		2.コマ主題	まとめ	
		3.コマ主題細目	いままでのまとめ	
		4.コマ主題細目深度	動物看護師として法規の遵守の必要性を意識づける	
		5.次コマとの関係		

公衆衛生学

学科	動物看護系学科	シラバス（概要）
コース		公衆衛生の基本的な考え方を理解し、国民の健康増進、動物福祉、環境保全等に活かせる知識を身につける。動物の看護に関係する衛生学は、個々の動物の生命と健康に障害を及ぼす各種要因についての動物衛生と、社会一般への疾病の予防を目的とする公衆衛生がある。公衆衛生は、ヒトと動物の全てを対象とした分野であり、獣医療に関わるうえでも重要な分野である。また、関連するさまざまな環境要因とヒトの健康である疾病予防、早期発見、健康維持および増進に役立てる総合的な学科目である。ヒトと動物の共生など対象とする科目では、人獣共通感染症、食品衛生、環境衛生があり、滅菌と消毒、動物防疫学についても学習する。将来、動物看護師として動物病院で勤務する際に衛生面で注意するべきことを理解し、飼い主への飼育・衛生管理指導に活かすよう学習する。
履修条件		
ユニット		
科目名	公衆衛生学	
単位	1	
履修時間	30時間	
回数	30回	
授業形態	講義	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	筆記試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①動物看護の教科書第3巻(緑書房)②動物看護のための小動物衛生学(ファームプレス)」③動物看護学各論(インターズー)	

コマシラバス				
50分／コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	公衆衛生学概論①	1.シラバスとの関係	獣医療および動物看護学の基礎知識と実践をもとにして、公衆衛生の発展に寄与できる。	
		2.コマ主題	動物看護と公衆衛生の関係性を考え、公衆衛生の目的と活動を理解する。	
		3.コマ主題細目	①公衆衛生の定義と目的　②対象となる領域	
		4.コマ主題細目深度	①公衆衛生学の定義と目的を知る。動物とヒトの相互依存関係を対象としていることを理解する。②動物看護と公衆衛生の関係性を考える。対象となる4つの領域(「動物飼育衛生管理とその指導的役割」、「人獣共通感染症の予防と対策」、「ヒトの精神衛生とヒトと動物の関係」および「動物の愛護と福祉」、「衛生行政と関連法規」)がなぜ公衆衛生に寄与するかを考える。	
		5.次コマとの関係	動物看護公衆衛生の活動領域について学ぶ。	
2	公衆衛生学概論②	1.シラバスとの関係	獣医療および動物看護学の基礎知識と実践をもとにして、公衆衛生の発展に寄与できる。	
		2.コマ主題	動物看護公衆衛生の活動領域について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①基本的な活動分野　②関連した活動分野	
		4.コマ主題細目深度	①人獣共通感染症、食品衛生管理、環境衛生、動物の保護と管理について、動物看護師としてどのような活動を行うことができるかを考える。②今後、動物看護師の活動が期待される分野を知る。	
		5.次コマとの関係	人獣共通感染症(ズーノーシス)に進む。	
3	人獣共通感染症① 人獣共通感染症とは	1.シラバスとの関係	人獣共通感染症(ズーノーシス)について学び、動物看護師としてそれらの予防活動と飼い主への指導ができるようになる。また、自分自身に感染しないようにする。	
		2.コマ主題	人獣共通感染症の定義とその現状を知る。また、新興感染症と再興感染症の発生要因を知る。	
		3.コマ主題細目	①人獣共通感染症の定義　②人獣共通感染症の現状　③新興感染症と再興感染症の発生要因	
		4.コマ主題細目深度	①WHOが定義している人獣共通感染症(ズーノーシス、動物由来感染症)の定義が言えるようになる。日本国内で問題になる約40種の人獣共通感染症を知る。②社会的に問題となっている「新興感染症」や「再興感染症」が説明できるようになる。主な新興、再興感染症の大半は人獣共通感染症であることを知る。③新興、再興感染症の発生要因を考える。	
		5.次コマとの関係	人獣共通感染症の伝播様式と予防対策に進む。	
4	人獣共通感染症② 伝播様式、予防対策	1.シラバスとの関係	人獣共通感染症(ズーノーシス)について学び、動物看護師としてそれらの予防活動と飼い主への指導ができるようになる。また、自分自身に感染しないようにする。	
		2.コマ主題	人獣共通感染症の動物からヒトへの感染様式と、予防対策について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①人獣共通感染症の伝播様式　②人獣共通感染症の予防対策	
		4.コマ主題細目深度	①人獣共通感染症の動物からヒトへの3つの感染様式について、図を見ながら理解する。これらの生態系を解明することは、予防対策上重要なことである。②人獣共通感染症の予防対策について、ここではおおまかに学習する。法律やワクチンによる予防対策があることを知る。「動物防疫学」で詳しく学習する。	
		5.次コマとの関係	動物由来の主な人獣共通感染症に進む。	
5	人獣共通感染症③ 動物由来の主な人獣共通感染症	1.シラバスとの関係	人獣共通感染症(ズーノーシス)について学び、動物看護師としてそれらの予防活動と飼い主への指導ができるようになる。また、自分自身に感染しないようにする。	
		2.コマ主題	イヌ、ネコ、サル類、げっ歯類の主な人獣共通感染症にはどのようなものがあるかを学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①イヌ、ネコの主な人獣共通感染症　②サル類の主な人獣共通感染症　③げっ歯類の主な人獣共通感染症	
		4.コマ主題細目深度	①～③について、それらの病原体や感染宿主、国内発生の有無について学ぶ。その中でも問題視されている感染症を知る。	
		5.次コマとの関係	病原体ごとにそれぞれの人獣共通感染症の概要、症状、治療・予防法について学んでいく。	

6	人獣共通感染症④ ウイルスによる主な人獣共通感染症	1.シラバスとの関係	人獣共通感染症（ズーノーシス）について学び、動物看護師としてそれらの予防活動と飼い主への指導ができるようになる。また、自分自身に感染しないようにする。	
		2.コマ主題	ウイルスによる主な人獣共通感染症に入る前に、ウイルスの性状について振り返る。	
		3.コマ主題細目	①ウイルスの形態と構造　②ウイルスの分類　③ウイルスの増殖	
		4.コマ主題細目深度	①「動物感染症学」で学んだ、ウイルスの特徴（形態、構造の図を見ながら）を振り返る。②核酸の種類により分類されたDNAウイルスとRNAウイルスの代表的なものを確認する。③ウイルスの細胞内増殖過程を図を見ながら復習する。	
		5.次コマとの関係	ウイルスによる主な人獣共通感染症について学ぶ。	
7	人獣共通感染症⑤ ウイルスによる主な人獣共通感染症	1.シラバスとの関係	人獣共通感染症（ズーノーシス）について学び、動物看護師としてそれらの予防活動と飼い主への指導ができるようになる。また、自分自身に感染しないようにする。	
		2.コマ主題	ウイルスによる主な人獣共通感染症について、それらの概要や症状、治療・予防方法の説明ができるようになる。	
		3.コマ主題細目	①狂犬病　②高病原性鳥インフルエンザ	
		4.コマ主題細目深度	①、②について、それらの発生状況、病原体、症状、治療・予防について学び、説明できるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続きウイルスによる主な人獣共通感染症について学ぶ。	
8	人獣共通感染症⑥ ウイルスによる主な人獣共通感染症	1.シラバスとの関係	人獣共通感染症（ズーノーシス）について学び、動物看護師としてそれらの予防活動と飼い主への指導ができるようになる。また、自分自身に感染しないようにする。	
		2.コマ主題	ウイルスによる主な人獣共通感染症について、それらの概要や症状、治療・予防方法の説明ができるようになる。	
		3.コマ主題細目	①日本脳炎　②ニューカッスル病　③ウエストナイル熱	
		4.コマ主題細目深度	①～③について、それらの発生状況、病原体、症状、治療・予防について学び、説明できるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続きウイルスによる主な人獣共通感染症について学ぶ。	
9	人獣共通感染症⑦ ウイルスによる主な人獣共通感染症	1.シラバスとの関係	人獣共通感染症（ズーノーシス）について学び、動物看護師としてそれらの予防活動と飼い主への指導ができるようになる。また、自分自身に感染しないようにする。	
		2.コマ主題	ウイルスによる主な人獣共通感染症について、それらの概要や症状、治療・予防方法の説明ができるようになる。	
		3.コマ主題細目	①エボラ出血熱　②Bウイルス病　③ニパウイルス感染症	
		4.コマ主題細目深度	①～③について、それらの発生状況、病原体、症状、治療・予防について学び、説明できるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続きウイルスによる主な人獣共通感染症とプリオンによる人獣共通感染症について学ぶ。	
10	人獣共通感染症⑧ ウイルスによる主な人獣共通感染症	1.シラバスとの関係	人獣共通感染症（ズーノーシス）について学び、動物看護師としてそれらの予防活動と飼い主への指導ができるようになる。また、自分自身に感染しないようにする。	
		2.コマ主題	ウイルスとプリオンによる主な人獣共通感染症について、それらの概要や症状、治療・予防方法の説明ができるようになる。	
		3.コマ主題細目	①重症急性呼吸器症候群（SARS）　②牛海綿状脳症	
		4.コマ主題細目深度	①、②について、それらの発生状況、病原体、症状、治療・予防について学び、説明できるようになる。②については、プリオンとは何かが答えられるようになる。	
		5.次コマとの関係	細菌による主な人獣共通感染症に進む。	
11	人獣共通感染症⑨ 細菌による主な人獣共通感染症	1.シラバスとの関係	人獣共通感染症（ズーノーシス）について学び、動物看護師としてそれらの予防活動と飼い主への指導ができるようになる。また、自分自身に感染しないようにする。	
		2.コマ主題	細菌による主な人獣共通感染症に入る前に、細菌の性状について振り返る。	
		3.コマ主題細目	①細菌の大きさと形態　②細菌の構造　③細菌の分類	
		4.コマ主題細目深度	①「動物感染症学」で学んだ、細菌の大きさと形態を図を見ながら振り返る。②同様に、細菌の構造についても図を見ながら振り返る。③グラム陽性球菌・桿菌、グラム陰性球菌・桿菌、スピロヘータ、ラセン菌、リケッチア、クラミジア、マイコプラズマについて、それぞれの特徴を復習する。	
		5.次コマとの関係	細菌による主な人獣共通感染症について学ぶ。	
12	人獣共通感染症⑩ 細菌による主な人獣共通感染症	1.シラバスとの関係	人獣共通感染症（ズーノーシス）について学び、動物看護師としてそれらの予防活動と飼い主への指導ができるようになる。また、自分自身に感染しないようにする。	
		2.コマ主題	細菌による主な人獣共通感染症について、それらの概要や症状、治療・予防方法の説明ができるようになる。	
		3.コマ主題細目	①レプトスピラ症　②パスツレラ症	
		4.コマ主題細目深度	①、②について、それらの発生状況、病原体、症状、治療・予防について学び、説明できるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き細菌による主な人獣共通感染症について学ぶ。	
13	人獣共通感染症⑪ 細菌による主な人獣共通感染症	1.シラバスとの関係	人獣共通感染症（ズーノーシス）について学び、動物看護師としてそれらの予防活動と飼い主への指導ができるようになる。また、自分自身に感染しないようにする。	
		2.コマ主題	細菌による主な人獣共通感染症について、それらの概要や症状、治療・予防方法の説明ができるようになる。	
		3.コマ主題細目	①カンピロバクター症　②ブルセラ症	
		4.コマ主題細目深度	①、②について、それらの発生状況、病原体、症状、治療・予防について学び、説明できるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き細菌による主な人獣共通感染症について学ぶ。	

14	人獣共通感染症⑪ 細菌による主な人獣共通感染症	1.シラバスとの関係	人獣共通感染症（ズーノーシス）について学び、動物看護師としてそれらの予防活動と飼い主への指導ができるようになる。また、自分自身に感染しないようにする。	
		2.コマ主題	細菌による主な人獣共通感染症について、それらの概要や症状、治療・予防方法の説明ができるようになる。	
		3.コマ主題細目	①サルモネラ症　②腸管出血性大腸菌感染症	
		4.コマ主題細目深度	①、②について、それらの発生状況、病原体、症状、治療・予防について学び、説明できるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き細菌による主な人獣共通感染症について学ぶ。	
15	人獣共通感染症⑫ 細菌による主な人獣共通感染症	1.シラバスとの関係	人獣共通感染症（ズーノーシス）について学び、動物看護師としてそれらの予防活動と飼い主への指導ができるようになる。また、自分自身に感染しないようにする。	
		2.コマ主題	細菌による主な人獣共通感染症について、それらの概要や症状、治療・予防方法の説明ができるようになる。	
		3.コマ主題細目	①炭疽　②野兎病　③結核	
		4.コマ主題細目深度	①～③について、それらの発生状況、病原体、症状、治療・予防について学び、説明できるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き細菌による主な人獣共通感染症について学ぶ。	
16	人獣共通感染症⑫ 細菌による主な人獣共通感染症	1.シラバスとの関係	人獣共通感染症（ズーノーシス）について学び、動物看護師としてそれらの予防活動と飼い主への指導ができるようになる。また、自分自身に感染しないようにする。	
		2.コマ主題	細菌による主な人獣共通感染症について、それらの概要や症状、治療・予防方法の説明ができるようになる。	
		3.コマ主題細目	①破傷風　②細菌性赤痢　③エルシニア感染症（ペスト）	
		4.コマ主題細目深度	①～③について、それらの発生状況、病原体、症状、治療・予防について学び、説明できるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き細菌による主な人獣共通感染症について学ぶ。	
17	人獣共通感染症⑬ 細菌による主な人獣共通感染症	1.シラバスとの関係	人獣共通感染症（ズーノーシス）について学び、動物看護師としてそれらの予防活動と飼い主への指導ができるようになる。また、自分自身に感染しないようにする。	
		2.コマ主題	細菌による主な人獣共通感染症について、それらの概要や症状、治療・予防方法の説明ができるようになる。	
		3.コマ主題細目	①猫ひっかき病　②Q熱	
		4.コマ主題細目深度	①、②について、それらの発生状況、病原体、症状、治療・予防について学び、説明できるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き細菌による主な人獣共通感染症について学ぶ。	
18	人獣共通感染症⑬ 細菌による主な人獣共通感染症	1.シラバスとの関係	人獣共通感染症（ズーノーシス）について学び、動物看護師としてそれらの予防活動と飼い主への指導ができるようになる。また、自分自身に感染しないようにする。	
		2.コマ主題	細菌による主な人獣共通感染症について、それらの概要や症状、治療・予防方法の説明ができるようになる。	
		3.コマ主題細目	①オウム病　②ツツガムシ病　③ライム病	
		4.コマ主題細目深度	①～③について、それらの発生状況、病原体、症状、治療・予防について学び、説明できるようになる。	
		5.次コマとの関係	真菌による人獣共通感染症に進む。	
19	人獣共通感染症⑭ 真菌による主な人獣共通感染症	1.シラバスとの関係	人獣共通感染症（ズーノーシス）について学び、動物看護師としてそれらの予防活動と飼い主への指導ができるようになる。また、自分自身に感染しないようにする。	
		2.コマ主題	真菌による主な人獣共通感染症に入る前に、真菌の性状について振り返る。	
		3.コマ主題細目	①真菌の形態と構造　②真菌の増殖様式	
		4.コマ主題細目深度	①「動物感染症学」で学んだ、真菌の形態と構造を図を見ながら振り返る。②酵母様真菌と菌糸型真菌（糸状菌）の増殖形式も同様に、図を見ながら復習する。	
		5.次コマとの関係	真菌による人獣共通感染症について学ぶ。	
20	人獣共通感染症⑮ 真菌による主な人獣共通感染症	1.シラバスとの関係	人獣共通感染症（ズーノーシス）について学び、動物看護師としてそれらの予防活動と飼い主への指導ができるようになる。また、自分自身に感染しないようにする。	
		2.コマ主題	真菌による主な人獣共通感染症について、それらの概要や症状、治療・予防方法の説明ができるようになる。	
		3.コマ主題細目	①皮膚糸状菌症　②クリプトコッカス症	
		4.コマ主題細目深度	①、②について、それらの発生状況、病原体、症状、治療・予防について学び、説明できるようになる。	
		5.次コマとの関係	寄生虫による人獣共通感染症に進む。	
21	人獣共通感染症⑯ 寄生虫による主な人獣共通感染症	1.シラバスとの関係	人獣共通感染症（ズーノーシス）について学び、動物看護師としてそれらの予防活動と飼い主への指導ができるようになる。また、自分自身に感染しないようにする。	
		2.コマ主題	寄生虫による人獣共通感染症の中で、原虫によるものについて、それらの概要や症状、治療・予防方法の説明ができるようになる。	
		3.コマ主題細目	①原虫について　②トキソプラズマ症	
		4.コマ主題細目深度	①原虫とは何か、運動器官の形態による分類、増殖について簡単に振り返る。②トキソプラズマ症の発生状況、病原体、症状、治療・予防について学び、説明できるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き原虫による人獣共通感染症について学ぶ。	
22	人獣共通感染症⑰ 寄生虫による主な人獣共通感染症	1.シラバスとの関係	人獣共通感染症（ズーノーシス）について学び、動物看護師としてそれらの予防活動と飼い主への指導ができるようになる。また、自分自身に感染しないようにする。	
		2.コマ主題	寄生虫による人獣共通感染症の中で、原虫によるものについて、それらの概要や症状、治療・予防方法の説明ができるようになる。	
		3.コマ主題細目	①ジアルジア症　②クリプトスポリジウム症　③アメーバ赤痢	
		4.コマ主題細目深度	①～③について、それらの発生状況、病原体、症状、治療・予防について学び、説明できるようになる。	
		5.次コマとの関係	原虫以外の寄生虫による人獣共通感染症について学ぶ。	

23	人獣共通感染症⑱ 寄生虫による主な人獣共通感染症	1.シラバスとの関係	人獣共通感染症（ズーノーシス）について学び、動物看護師としてそれらの予防活動と飼い主への指導ができるようになる。また、自分自身に感染しないようにする。	
		2.コマ主題	原虫以外の寄生虫による人獣共通感染症について、、それらの概要や症状、治療・予防方法の説明ができるようになる。	
		3.コマ主題細目	①線虫によるもの ②条虫によるもの	
		4.コマ主題細目深度	①幼虫移行症（犬・猫回虫症）、アニサキス症 ②マンソン裂頭条虫症、エキノコックス症について、それらの発生状況、病原体、症状、治療・予防について学び、説明できるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き原虫以外の寄生虫による人獣共通感染症について学ぶ。	
24	人獣共通感染症⑲ 寄生虫による主な人獣共通感染症	1.シラバスとの関係	人獣共通感染症（ズーノーシス）について学び、動物看護師としてそれらの予防活動と飼い主への指導ができるようになる。また、自分自身に感染しないようにする。	
		2.コマ主題	原虫以外の寄生虫による人獣共通感染症について、、それらの概要や症状、治療・予防方法の説明ができるようになる。	
		3.コマ主題細目	①寄生性節足動物によるもの	
		4.コマ主題細目深度	①ダニによるもの（マダニ症、疥癬症、ツメダニ症）、ノミによるものについて、それらの概要や症状、治療・予防方法の説明ができるようになる。	
		5.次コマとの関係	滅菌と消毒に進む。	
25	滅菌と消毒① 滅菌について	1.シラバスとの関係	公衆衛生の活動領域としての環境衛生や、感染症の予防に不可欠な滅菌と消毒について学び、適切な方法で実施できるよう	
		2.コマ主題	滅菌と消毒の違いについて理解し、物理的滅菌方法について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①滅菌と消毒の違い ②物理的滅菌方法	
		4.コマ主題細目深度	①滅菌と消毒の違いが説明できるようになる。どちらを実施するかは、目的や対象によって異なることを理解する。②全ての微生物を物理的に殺滅する、高圧蒸気滅菌（オートクレーブ）とろ過について学ぶ。それぞれの方法、滅菌できるもの（対象）、特徴、注意点を理解する。	
		5.次コマとの関係	化学的滅菌方法と消毒について学ぶ。	
26	滅菌と消毒② 滅菌、消毒について	1.シラバスとの関係	公衆衛生の活動領域としての環境衛生や、感染症の予防に不可欠な滅菌と消毒について学び、適切な方法で実施できるようになる。	
		2.コマ主題	前回に引き続き、滅菌法の化学的滅菌方法について学ぶ。その後、消毒の物理的消毒方法に進む。	
		3.コマ主題細目	①化学的滅菌方法 ②物理的消毒方法	
		4.コマ主題細目深度	①エチレンオキサイドガス滅菌について、その方法、滅菌できるもの（対象）、特徴、注意点について学ぶ。②消毒法に進む。物理的消毒方法である煮沸消毒について、その方法や対象物、注意点を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	化学的消毒方法について学ぶ。	
27	滅菌と消毒③ 消毒について	1.シラバスとの関係	公衆衛生の活動領域としての環境衛生や、感染症の予防に不可欠な滅菌と消毒について学び、適切な方法で実施できるようになる。	
		2.コマ主題	前回に引き続き、消毒法の化学的消毒法について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①化学的消毒方法	
		4.コマ主題細目深度	①消毒薬を使用して行う消毒の基本原則と使用時の注意点、使用条件を学ぶ。数ある消毒薬の中から、目的とする微生物に効力のある消毒薬を選択し、正しく取り扱い、正しく使用することが重要である。消毒薬によって、抗微生物スペクトル、主な用途と特性、用途別濃度、調剤後の使用期限が異なることを理解する。	
		5.次コマとの関係	動物防疫学に進む。	
28	動物防疫学① 人獣共通感染症の対策	1.シラバスとの関係	人獣共通感染症や院内感染を含めた、感染症の予防にはどのような対策がとられているかを学び、動物看護師として防疫対策が実践できるようになる。	
		2.コマ主題	人獣共通感染症の対策について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①法律による規制 ②ワクチンの接種	
		4.コマ主題細目深度	①日本で人獣共通感染症の予防対策として制定された法律にはどのようなものがあるかを知る。特に感染症法の分類について学習し、第1類に含まれる重篤な感染症はすべて人獣共通感染症であることに気づく。また、世界各国の動物検疫状況の一覧を見て、国による行政対策の違いを認識する。②日本国内でヒトを対象としたワクチンの種類を知る。	
		5.次コマとの関係	引き続き、人獣共通感染症の対策について学ぶ。	
29	動物防疫学② 人獣共通感染症の対策	1.シラバスとの関係	人獣共通感染症や院内感染を含めた、感染症の予防にはどのような対策がとられているかを学び、動物看護師として防疫対策が実践できるようになる。	
		2.コマ主題	伴侶動物と共生する上での人獣共通感染症の対策について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①伴侶動物と共生する上での対策	
		4.コマ主題細目深度	①伴侶動物由来の人獣共通感染症を予防するために必要なことをグループで考える。自宅で飼い主が注意すること、動物看護師などの医療従事者が勤務中に注意することに分けて、意見を出し合い発表する。後者は次回の院内感染につながる。	
		5.次コマとの関係	院内感染の対策について学ぶ。	

30	動物防疫学② 院内感染の対策	1.シラバスとの関係	人獣共通感染症や院内感染を含めた、感染症の予防にはどのような対策がとられているかを学び、動物看護師として防疫対策が実践できるようになる。	
		2.コマ主題	院内感染とは何か、またその対策について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①院内感染とは　②院内感染の対策	
		4.コマ主題細目深度	①院内感染とは何かが説明できるようになる。外因性と内因性があり、どちらも発生の予防に努めなければならない。②感染源への対策、感染経路への対策、感受性者（動物）への対策に分け、それぞれで有効だと思われる対策を考える。	
		5.次コマとの関係		

動物繁殖学

学科	動物看護系学科	シラバス(概要)
コース		繁殖は動物が存続する上で欠かせないものであり、雌雄がそれぞれ成長して生殖能力を有し受精により新たな個体(生命)が誕生する神秘的な営みである。本科目では主にイヌやネコの雌雄の生殖器の構造と機能、性行動及び発情・交尾・妊娠・分娩の過程を学ぶ。さらに正常な分娩の前兆、生理的変化と異常分娩時における助産について学習する。また、産褥期の母体看護、新生児の管理を理解し、飼い主へのアドバイスに役立てる。ブリーディングにおいて知っておかなければならない交配上の注意、遺伝学の概論、遺伝性疾患についても理解を深める。
履修条件		
ユニット		
科目名	動物繁殖学	
単位	1	
履修時間	15時間	
回数	15回	
授業形態	講義	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	筆記試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①獣医繁殖学(文永堂出版)②動物看護のための小動物繁殖学(ファームプレス)	

コマシラバス				
50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	雌の生殖器の構造と機能	1.シラバスとの関係	雌の生殖器の構造と機能及び生理	
		2.コマ主題	雌特有の生殖器の構造・機能・生理を理解する	
		3.コマ主題細目	雌の生殖器(卵巣・卵管・子宮・膣および外部生殖器)について学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	①雌の生殖器(卵巣・卵管・子宮・膣および外部生殖器)の名称及び形態機能について学ぶ ②動物種による違い(イヌ・ネコ・ウシ・ウマ・ブタ・ウサギ・げっ歯目・サル・ヒトなど)を学ぶ	
		5.次コマとの関係	雄の生殖器の構造と機能及び生理	
2	雄の生殖器の構造と機能	1.シラバスとの関係	雄の生殖器の構造と機能及び生理	
		2.コマ主題	雄特有の生殖器の構造・機能・生理を理解する	
		3.コマ主題細目	雄の生殖器(精巣・精巣上体・精管・副生殖腺・外部生殖器)について学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	①雄の生殖器(精巣・精巣上体・精管・副生殖腺・外部生殖器)の名称及び形態機能について学ぶ ②動物種による違い(イヌ・ネコ・ウシ・ウマ・ブタ・ウサギ・げっ歯目・サル・ヒトなど)を学ぶ	
		5.次コマとの関係	生殖活動に関連するホルモンについて学ぶ	
3	生殖活動に関連するホルモン(性腺ホルモン他、フィードバック機構)	1.シラバスとの関係	生殖活動に関連するホルモン	
		2.コマ主題	生殖活動に関与するホルモンとフィードバック機構について理解する	
		3.コマ主題細目	視床下部ホルモン・下垂体ホルモン・性腺ホルモン・子宮ホルモン・胎盤ホルモン・ホルモンのフードバック機構について学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	①視床下部ホルモン ②下垂体ホルモン(下垂体前葉ホルモン、下垂体後葉ホルモン) ③性腺ホルモン(卵巣ホルモン・精巣ホルモン) ④子宮ホルモン ⑤胎盤ホルモン ⑥ホルモンのフードバック機構 について学ぶ	
		5.次コマとの関係	性成熟と性周期について学ぶ	
4	性成熟と生殖周期(ライフサイクル、季節周期)	1.シラバスとの関係	性成熟、性周期	
		2.コマ主題	性成熟、性周期とは何か理解する①	
		3.コマ主題細目	雌の性成熟と生殖周期(ライフサイクル・季節周期・完全生殖周期と不完全生殖周期)について理解する	
		4.コマ主題細目深度	①雌の性成熟に達する月齢及び妊娠期間 ②生殖周期(ライフサイクル・季節周期・完全生殖周期と不完全生殖周期 について動物種による違い(イヌ・ネコ・ウシ・ウマ・ブタ・ウサギ・げっ歯目・サル・ヒトなど)を学ぶ	
		5.次コマとの関係	性成熟と性周期の続きとイヌの発情周期について学ぶ	
5	性成熟と生殖周期(完全生殖周期と不完全生殖周期) 雌イヌの繁殖(発情周期)	1.シラバスとの関係	性成熟、性周期	
		2.コマ主題	性成熟、性周期とは何か理解する②	
		3.コマ主題細目	雌の性成熟と生殖周期(ライフサイクル・季節周期・完全生殖周期と不完全生殖周期)について動物種の違いを理解する	
		4.コマ主題細目深度	①生殖周期(ライフサイクル・季節周期・完全生殖周期と不完全生殖周期について動物種による違い(イヌ・ネコ・ウシ・ウマ・ブタ・ウサギ・げっ歯目・サル・ヒトなど)を学ぶ ②雌イヌの発情周期(発情前期・発情期・発情休止期・非発情期または無発情期)について学ぶ	
		5.次コマとの関係	排卵、交配時期について学ぶ	
6	雌イヌの繁殖(排卵と交配)	1.シラバスとの関係	雌イヌの繁殖(排卵、交配)	
		2.コマ主題	イヌの排卵、交配時期について理解する	
		3.コマ主題細目	イヌの排卵・交配時期の生理を理解する	
		4.コマ主題細目深度	①イヌの発情周期と排卵の関係について学ぶ ②イヌの受胎可能な交配時期について学ぶ	
		5.次コマとの関係	これまでのまとめ	

動物繁殖学

7	振り返り	1.シラバスとの関係	振り返り	
		2.コマ主題	ここまでを振り返り理解を深める	
		3.コマ主題細目	習得した内容のポイントを振り返る	
		4.コマ主題細目深度	①イヌネコの雌雄の生殖器の名称と関連するホルモンを言える ②イヌの発情周期を言える ③排卵とは何か説明できる	
		5.次コマとの関係	妊娠、分娩、出産に関する看護について学ぶ	
8	雌イヌの繁殖（妊娠、分娩、出産の看護）	1.シラバスとの関係	雌イヌの繁殖（妊娠・分娩・出産）	
		2.コマ主題	イヌの妊娠・分娩・出産について理解する	
		3.コマ主題細目	妊娠、分娩、出産とは何か理解する	
		4.コマ主題細目深度	①イヌの妊娠（着床・胎盤・妊娠期間・胎子の発育・早期妊娠診断）について学ぶ ②イヌの分娩の徴候と経過について学ぶ ③イヌの出産の看護（出産準備・妊娠中の母イヌの看護・産子の看護）について学ぶ	
		5.次コマとの関係	助産および帝王切開、新生子の管理	
9	雌イヌの繁殖（性ホルモン濃度の推移、助産および帝王切開、新生子の管理）	1.シラバスとの関係	助産および帝王切開、新生子の管理	
		2.コマ主題	イヌの妊娠期の異常、分娩時の異常、助産および帝王切開、新生子の管理について理解する	
		3.コマ主題細目	イヌの妊娠期の異常、分娩時の異常の徴候から助産および帝王切開の援助、新生子の管理について理解する	
		4.コマ主題細目深度	①雌イヌの性ホルモン濃度の推移について学ぶ ②イヌの妊娠期の異常(流産・胎子死)、分娩時の異常の徴候を学ぶ ③助産および帝王切開について学ぶ ④新生子の管理(先天異常・哺育)について学ぶ ⑤母イヌの管理について学ぶ（急性子宮炎・産褥テタニー）	
		5.次コマとの関係	雌ネコの繁殖（発情周期・交配）について学ぶ	
10	雌ネコの繁殖（発情周期、排卵と交配）	1.シラバスとの関係	雌ネコの繁殖（発情周期・排卵・交配）	
		2.コマ主題	雌ネコの繁殖（発情周期・排卵・交配）について理解する	
		3.コマ主題細目	雌ネコの発情の特徴と排卵、交配、妊娠について、イヌとの違いを理解する	
		4.コマ主題細目深度	①ネコの発情の特徴について学ぶ ②ネコ排卵と交配の特徴について学ぶ ③ネコの妊娠期間および偽妊娠について学ぶ	
		5.次コマとの関係	ネコの分娩、助産および帝王切開、新生子の管理	
11	雌ネコの繁殖（性ホルモン濃度の推移、分娩、助産および帝王切開、新生子の管理）	1.シラバスとの関係	ネコの分娩、助産および帝王切開、新生子の管理	
		2.コマ主題	ネコの分娩、助産および帝王切開、新生子の管理について理解する	
		3.コマ主題細目	ネコの分娩、助産および帝王切開、新生子の管理について、イヌと比較しながら理解を深める	
		4.コマ主題細目深度	①雌ネコの性ホルモン濃度の推移について学ぶ ②ネコの分娩時の徴候について学ぶ ③新生子の管理(哺育)について学ぶ	
		5.次コマとの関係	雄イヌネコの繁殖（精液・交尾・性ホルモン濃度）について学ぶ	
12	雄イヌネコの繁殖（精液、交尾、性ホルモン濃度の推移）	1.シラバスとの関係	雄イヌネコの繁殖（精液・交尾・性ホルモン濃度）	
		2.コマ主題	雄イヌネコの繁殖（精液・交尾・性ホルモン濃度）について理解する	
		3.コマ主題細目	雄特有の繁殖に関わる特徴（精液・交尾・性ホルモン濃度の推移）について、雌と比較しながら理解を深める	
		4.コマ主題細目深度	①精液とは何かを学ぶ ②イヌとネコの交尾姿勢を学ぶ ③性ホルモン濃度の推移	
		5.次コマとの関係	イヌネコの人工的交配(人工授精・誘起発情・避妊)について学ぶ	
13	イヌネコの繁殖の人的支配（人工授精、誘起発情、避妊）	1.シラバスとの関係	イヌネコのブリーディングにおける人工的交配と避妊	
		2.コマ主題	イヌネコの人工的交配(人工授精・誘起発情・避妊)について理解する	
		3.コマ主題細目	人工授精、発情誘起、雌性避妊（不妊手術・薬剤による避妊・発情抑制・受精および着床の阻止、中絶）、雄性避妊（去勢手術・薬剤による去勢）について理解する	
		4.コマ主題細目深度	①人工授精（使用器具と方法）について学ぶ ②発情誘起 ③日照時間の調整 ③雌性避妊（不妊手術・薬剤による避妊・発情抑制・受精および着床の阻止、中絶）について学ぶ ④雄性避妊（去勢手術・薬剤による去勢）について学ぶ	
		5.次コマとの関係	これまでのまとめ	
14	振り返り	1.シラバスとの関係	振り返り	
		2.コマ主題	ここまでを振り返り理解を深める	
		3.コマ主題細目	習得した内容のポイントを振り返る	
		4.コマ主題細目深度	①イヌの早期妊娠診断方法と適期を説明できる ②イヌの分娩、出産時の異常徴候を言える ③ネコの発情と交配についてイヌとの違いを説明できる ④母イヌの管理と新生子の管理を説明できる ⑤イヌネコの人的交配とはどのようなものか説明できる	
		5.次コマとの関係	総まとめ	

動物繁殖学

15	遺伝学の基礎と遺伝性疾患 総まとめ	1.シラバスとの関係	繁殖学のポイントを振り返る	
		2.コマ主題	今まで学んだ繁殖学のポイントを振り返り理解を深める	
		3.コマ主題細目	繁殖を通じて遺伝学の基礎と遺伝性疾患を学ぶ。動物看護師として母体および新生子の看護に活かす。飼い主にイヌネコの繁殖について、アドバイスできるようポイントを押さえ総まとめとして振り返る。	
		4.コマ主題細目深度	通じ遺伝学の基礎をふまえ繁殖学の理解を深める。イヌネコの発情周期、妊娠期間を他の動物と比較しながら言えるようになる。妊娠中の母体管理（栄養学の知識も必要）と異常分娩の徴候から帝王切開時の新生子の管理および産後の母体管理は緊急事態につながることもあるので重要である。人的交配時の注意(倫理的配慮も含め）と避妊・去勢手術の必要性も飼い主指導に活せるようになる。	
		5.次コマとの関係		

動物人間関係学

学科	動物看護系学科	シラバス(概要)
コース		人間と暮らす動物たちはどのようにして人との関係を築いたのかを古代から現代にいたるまでの出来事や当時の考え方を概観しながら動物と人の関係について理解を深め思慮する。さらにヒューマンアニマルボンド(HAB)の考え方、基本理念をベースに、動物が人に及ぼす心理的・生理的・社会的効果について、概観する。IAHAIOの概念から、動物介在療法(AAA)、動物介在療法(AAT)、動物介在教育(AAE)とは何かを理解し、どのような活動がなされているか知る。動物看護師は診療現場のみならずあらゆるシチュ―ションにある動物に関心をもち、個々の動物の看護を行う必要がある。動物(ペットだけでなく使役動物、野生動物)を取り巻く環境の遷移を思慮し、現実的な問題や課題を知り対応法を検討し、グループワークを行いながら動物と人の関係、様々な影響について理解を深める。
履修条件		
ユニット		
科目名	動物人間関係学	
単位	1	
履修時間	30時間	
回数	30回	
授業形態	講義	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	筆記試験
教科書	各校の選択に準ずる	
教科書	①人と動物の関係学(インターズー)②現代社会と家庭動物(インターズー)	

コマシラバス

50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	イヌの起源と家畜化①	1.シラバスとの関係	イヌと人の関係を歴史から振り返る①	
		2.コマ主題	イヌの起源を知る	
		3.コマ主題細目	遺跡や生物的、文化的な家畜化を知る	
		4.コマ主題細目深度	イヌの祖先を言える、遺跡から何が解ったのか言える、イヌの祖先とイエイヌの共通点を言える。	
		5.次コマとの関係	人はどのようにイヌの祖先を家畜化したのか	
2	イヌの起源と家畜化②	1.シラバスとの関係	イヌと人の関係を歴史から振り返る②	
		2.コマ主題	オオカミの家畜化でどのようなことが起こったのか知る	
		3.コマ主題細目	遺跡や生物的、文化的な家畜化から知る	
		4.コマ主題細目深度	家畜化とは何かが言える、生物学的変遷とは何か言える、イヌ科の動物の共通特徴を言える。	
		5.次コマとの関係	イヌの家畜化から人が得るものとは何か	
3	イヌの起源と家畜化	1.シラバスとの関係	家畜化と人の社会への適応①	
		2.コマ主題	イヌの家畜化から社会的認知能力について知る	
		3.コマ主題細目	イヌの家畜化がもたらしたことは何かを知る	
		4.コマ主題細目深度	イヌの社会で行われる認知能力とはどのようなものか言える。	
		5.次コマとの関係	イヌの認知能力と人間社会への適合性	
4	イヌの起源と家畜化④	1.シラバスとの関係	家畜化と人の社会への適応②	
		2.コマ主題	イヌの社会的認知能力と人の社会への適応性について	
		3.コマ主題細目	様々な実験から犬の社会的認知を知る	
		4.コマ主題細目深度	イヌの社会で行われる認知能力と人との暮らしで行われる認知能力の共通点を言える。	
		5.次コマとの関係	家畜化の実験から犬の社会的認知を知る	
5	イヌの起源と家畜化⑤ グループワーク	1.シラバスとの関係	家畜化と人の社会への適応③	キツネの家畜化実験のビデオ
		2.コマ主題	キツネの家畜化実験ビデオを見て意見交換する	
		3.コマ主題細目	ベリャーエフ博士が行った実験対象を言える、どのような実験か言える、実験で何が起きたか言える。	
		4.コマ主題細目深度	ベリャーエフ博士が行った実験から、各自感じたことを意見交換できる(グループワーク及び発表)	
		5.次コマとの関係	使役犬とは何か	
6	使役動物と人の絆	1.シラバスとの関係	使役動物と人の絆	
		2.コマ主題	使役動物とは何か説明できる	
		3.コマ主題細目	介助犬、聴導犬、盲導犬それぞれの役割を知る	
		4.コマ主題細目深度	介助犬とは何か言える、聴導犬とは何か言える、盲導犬とは何か言える、使役動物の福祉について思慮できる。	
		5.次コマとの関係	1～6コマまでの振り返り	
7	イヌの家畜化と使役犬について 振り返りとまとめ	1.シラバスとの関係	まとめ	
		2.コマ主題	イヌの起源と家畜化から理解の確認	
		3.コマ主題細目	イヌと人との関わりを時系列で例を挙げながら説明できる	
		4.コマ主題細目深度	イヌの祖先、イヌの家畜化の始まり、犬の社会的認知能力とはどのようなものか、そこからどのように使役に用いられているか説明できる。	
		5.次コマとの関係	使役動物からアニマルセラピーとは何か	
8	アニマルセラピー(AAT)の歴史①	1.シラバスとの関係	動物介在療法(AAT・アニマルセラピー)の概要を知る	
		2.コマ主題	アニマルセラピー(AAT)の歴史を概観し、その理念を探る	
		3.コマ主題細目	動物介在療法(AAT・アニマルセラピー)の歴史を知る	
		4.コマ主題細目深度	アニマルセラピーの起源を言える、アニマルセラピーの歴史から実際どのように行っていたか3つ以上言える。	
		5.次コマとの関係	アニマルセラピーからIAHAIOの概念	
9	アニマルセラピーの歴史②	1.シラバスとの関係	人と動物の関係に関する取組み	
		2.コマ主題	AIAHAIOの活動を概観し、その理念を探る	
		3.コマ主題細目	IAHAIOとは何かを言える	
		4.コマ主題細目深度	IAHAIOの目的が言える、IAHAIOがいつ設立したか言える、IAHAIOの5つの決議を言える。	
		5.次コマとの関係	AAA、AAT、AAEがもたらす効果	
10	動物介在活動(AAA)、動物介在療法(AAT)、AAE(動物介在教育)	1.シラバスとの関係	AAA、AAT、AAEの概要を知る	
		2.コマ主題	AAA、AAT、AAEの概要を知る違いを知る	
		3.コマ主題細目	AAA、AAT、AAEがそれぞれ何か略号から説明できる	
		4.コマ主題細目深度	AAAとは何かまたどのような活動か言える、AATの目的は何かまたどのような活動か言える、AAEの目的は何かまたどのような活動か言える、それぞれの方法による分類にどのようなものがあるか言える。	
		5.次コマとの関係	8～10コマまでの振り返り	

動物人間関係学

11	AAA、AAT、AAEについて 振り返りとまとめ	1.シラバスとの関係	まとめ	
		2.コマ主題	AAA、AAT、AAEについて理解の確認	
		3.コマ主題細目	IAHAIOの概念及び用いられる動物のストレスについて考察する	
		4.コマ主題細目深度	IAHAIOの5つの決議を言える、AAA、AAT、AAEをそれぞれどのような活動及び目的か言える、活動における動物のストレスにどのようなものがあるか言える。	
		5.次コマとの関係	使役動物からアニマルセラピーとは何か	
12	ペットと人の絆①	1.シラバスとの関係	HABの概念	
		2.コマ主題	人と人との潤滑的役割を持つペットの存在を概観する	
		3.コマ主題細目	ヒューマンアニマルボンド(HAB)とは何か説明できる	
		4.コマ主題細目深度	ヒューマンアニマルボンドとは何か言える、動物がいるときといないときの印象の違いを言える。	
		5.次コマとの関係	ペットの存在を考察する	
13	ペットと人の絆②	1.シラバスとの関係	動物が人に及ぼす心理的・生理的・社会的効果①	
		2.コマ主題	HABからペットの存在を考察する	
		3.コマ主題細目	家族としてのペットとはどのような存在か考察する	
		4.コマ主題細目深度	ペットを人に置き換えて接する場面を具体例を交えて挙げられる。	
		5.次コマとの関係	動物が人に及ぼす心理的・生理的・社会的効果	
14	ペットと人の絆③	1.シラバスとの関係	動物が人に及ぼす心理的・生理的・社会的効果②	
		2.コマ主題	愛着をテーマに心理的、社会的効果を考察する	
		3.コマ主題細目	日本におけるペットの飼育率及びペット産業の変遷、欧米における医療を含めた人と動物の関係学分野を知る。	
		4.コマ主題細目深度	日本におけるペット飼育率やペット産業の変遷についてどのようなことが挙げられるか言える、欧米の人と動物の関係学からどのような研究がなされたかまたどのような調査報告があるか3つ以上言える。	
		5.次コマとの関係	動物が人に及ぼす心理的・生理的・社会的効果	
15	ペットと人の絆④	1.シラバスとの関係	動物が人に及ぼす心理的・生理的・社会的効果③	
		2.コマ主題	動物が及ぼす影響を考察する	
		3.コマ主題細目	動物が人の健康に及ぼす効果や社会的知覚に及ぼす影響を知る。	
		4.コマ主題細目深度	動物が人の健康に及ぼす効果や社会的知覚に及ぼす影響を3つ以上言える。	
		5.次コマとの関係	動物福祉に影響を与える要因	
16	ペットと人の絆⑤	1.シラバスとの関係	人を含め動物を取り巻く環境の遷移を思慮する	
		2.コマ主題	ペットを飼育することで得られる身体的、心理的影響と効	
		3.コマ主題細目	人はなぜペットを擬人化するのか(虐待、多頭飼育を含む)考察する。	
		4.コマ主題細目深度	人と動物の関わりから動物福祉に影響を及ぼす要因を3つ以上言える。	
		5.次コマとの関係	12～16コマまでのまとめ(グループワーク)	
17	ペットと人の絆⑥ グループワーク	1.シラバスとの関係	ペットと人の絆を考察する	
		2.コマ主題	ペットを飼育することで得られる身体的、心理的影響と効果について理解の確認	
		3.コマ主題細目	ペットを飼育することで得られる身体的、心理的効果を考察する。	
		4.コマ主題細目深度	ペットを飼育することで得られる身体的、心理的効果から各自感じたことを意見交換できる(グループワーク及び発表)。	
		5.次コマとの関係	子どもの発達における動物との関連性	
18	子どもの発達と動物の関連性	1.シラバスとの関係	ペットが関わる人のステージにおける身体的、心理的影響と効果	
		2.コマ主題	ペットを飼育することで子供の発達に関わる身体的、心理的影響と効果を考察する	
		3.コマ主題細目	児童のペットに対する態度の研究、ペットを飼育する家庭環境から大人になってからの行動変化の考察。	
		4.コマ主題細目深度	児童のペットに対する研究ではどのような調査がさなれたか言える。	
		5.次コマとの関係	子どもの心理療法とは	
19	グリーンチムニーズにおける HAB①	1.シラバスとの関係	HAB、AAE、AATの活動事例から①	
		2.コマ主題	グリーンチムニーズの実例を通じてHABの意義を学ぶ	
		3.コマ主題細目	グリーンチムニーズとは何か、どのような意義があるか考察する	
		4.コマ主題細目深度	グリーンチムニーズ設立の経緯を言える、どのような人が対象になるのか言える、どのような活動がなされているか言える、どのような効果がもたらされているか言える。	
		5.次コマとの関係	グリーンチムニーズの実践	
20	グリーンチムニーズにおける HAB②	1.シラバスとの関係	HAB、AAE、AATの活動事例から②	グリーンチムニーズのビデオ
		2.コマ主題	グリーンチムニーズの実践をビデオで紹介する	
		3.コマ主題細目	グリーンチムニーズのビデオからどのような実践が行われているか映像から知る。	
		4.コマ主題細目深度	グリーンチムニーズのビデオからどのような実践が行われているか、子供たちの態度や動物たちの行動を注意しながら考察する。	
		5.次コマとの関係	HAB、AAE、AATについてグループワーク	

動物人間関係学

21	子どもの発達と動物の関連性グループワーク	1.シラバスとの関係	HAB、AAE、AATの活動事例から考察する	
		2.コマ主題	HABの実践から子どもの発達に与えた影響を考察し述べる	
		3.コマ主題細目	HAB、AAT、AAEの実践ビデオを振り返りながら子供に得られる身体的、心理的効果を考察する。	
		4.コマ主題細目深度	HAB、AAT、AAEの実践ビデオを振り返りながら子供に得られる身体的、心理的効果など各自感じたことを意見交換できる(グループワーク及び発表)。	
		5.次コマとの関係	高齢者における動物との関連性	
22	高齢者施設に及ぼすペットの効果①	1.シラバスとの関係	ペットが関わる人のステージにおける身体的、心理的影響と効果	
		2.コマ主題	高齢者施設におけるAAA活動を理解する①	
		3.コマ主題細目	高齢者施設におけるAAA活動で得られる効果についてどのような研究や調査が行われたか考察する。	
		4.コマ主題細目深度	高齢者施設におけるAAA活動で得られる効果についてどのような研究や調査が行われたか3つ以上言える。	
		5.次コマとの関係	高齢者における動物との関連性	
23	高齢者施設に及ぼすペットの効果②	1.シラバスとの関係	ペットが関わる人のステージにおける身体的、心理的影	
		2.コマ主題	高齢者施設におけるAAA活動を理解する②	
		3.コマ主題細目	高齢者施設におけるAAA活動で得られる心理的、身体的、社会的効果とはどのようなものか考察する。	
		4.コマ主題細目深度	高齢者施設におけるAAA活動で得られる心理的効果を言える、身体的・生理的効果を言える、社会的効果を具体例を用いて言える。	
		5.次コマとの関係	医療施設におけるAAA活動とは	
24	小児病棟に及ぼすペットの効果	1.シラバスとの関係	動物が人に及ぼす心理的・生理的・社会的効果について	
		2.コマ主題	小児病棟におけるAAA活動を理解する①	
		3.コマ主題細目	小児病棟におけるAAA活動とはどのようなものがあるか考察する。	
		4.コマ主題細目深度	小児病棟で得られるAAAの心理的、生理的効果を言える	
		5.次コマとの関係	AAEの実践事例(自閉症・発達障害)	
25	動物がもたらす教育効果・事例①	1.シラバスとの関係	動物が人に及ぼす心理的・生理的・社会的効果について	
		2.コマ主題	自閉症の事例から考察する	
		3.コマ主題細目	自閉症や発達障害にはどのような特徴があるか、またHAB活動でにどのような効果があるかAATから考察する。	
		4.コマ主題細目深度	自閉症や発達障害にはどのような特徴があるか言える、HAB活動を行った際の効果について言える、本活動で起こり得る問題や課題を言える。	
		5.次コマとの関係	AAEの実践事例(非行少年)	
26	動物がもたらす教育効果・事例②	1.シラバスとの関係	動物が人に及ぼす心理的・生理的・社会的効果について	
		2.コマ主題	非行少年の事例から考察する	
		3.コマ主題細目	非行少年の背景を思慮しながらHAB活動でにどのような効果があるかAAEから考察する。	
		4.コマ主題細目深度	非行少年の背景には何があったか言える、HAB活動を行った際の効果について言える、本活動で起こり得る問題や課題を言える。	
		5.次コマとの関係	野生動物と人との関係	
27	野生動物と人の関係	1.シラバスとの関係	人を含め動物を取り巻く環境の遷移	
		2.コマ主題	人と動物が自然の中でどのように関わっているのか考察	
		3.コマ主題細目	ペットや使役動物と関わらない人達を思慮しながら、野生動物との関連性を考察する。	
		4.コマ主題細目深度	自然環境から他の生物への関心を促すために何を提言すべきかAAEを意識しながら考察できる。	
		5.次コマとの関係	22～26コマまでの振り返り	
28	振り返りとまとめ	1.シラバスとの関係	22～26コマまでのまとめ	
		2.コマ主題	AAA、AAE、AAEの事例からどのような活動と効果があったか振り返る	
		3.コマ主題細目	AAA、AAE、AAEの事例から活動方法と効果、活動目的の違いを考察する。	
		4.コマ主題細目深度	AAA、AAE、AAEの事例から活動方法と効果、活動目的の違いを言える。	
		5.次コマとの関係	動物人間関係学のまとめ	
29	グループ討論①	1.シラバスとの関係	動物と人の関わりついて思慮を深める①	
		2.コマ主題	人と動物の適切な関係のために動物看護師として関われることを考察する	
		3.コマ主題細目	今まで学んだ動物と人の関係を理解したうえで、自由な発想で意見交換する。	
		4.コマ主題細目深度	今まで学んだ動物と人の関係を振り返りながら自習な発想でグループに分かれ意見交換する。	
		5.次コマとの関係	動物人間関係学のまとめ	
30	グループ討論②	1.シラバスとの関係	動物と人の関わりついて思慮を深める②	
		2.コマ主題	人と動物の適切な関係のために動物看護師として関われることを考察する。	
		3.コマ主題細目	今まで学んだ動物と人の関係を理解したうえで、自由な発想で意見交換したことをグループ発表する。	
		4.コマ主題細目深度	グループ発表したことで様々な意見に思慮しながら、動物に関わる者としての意識を高める。	
		5.次コマとの関係		

動物行動学－１

学科	動物看護系学科	シラバス（概要）
コース		主にイヌやネコの発生起源、種類による特徴を知り、基本的行動様式から適正飼育と正しいハンドリング及び基本的なしつけを理解し、動物の看護と飼い主への指導に活かす。ヒトと動物のコミュニケーションは、ほとんどが行動を介して行われるため、獣医療に関わる者は、動物行動を的確に理解し、ヒトと動物の間の絆としての役割を持っている。動物看護師が必要とする獣医学的な知識の中に、動物行動学が取り入れられることは、動物の身体的な健康の保持に加えて、心理的な健康の大切さに注目している。特に伴侶動物の問題行動や産業動物に関するアニマルウェルフェアの国際基準「5つの自由」に関連する動物行動学の基礎と応用を適切に学んだ動物看護師が、動物医療の専門職として求められる。
履修条件	動物行動学1を先行すること	
ユニット		
科目名	動物行動学－１	
単位	1（1・2合わせて2単位）	
履修時間	30時間（1・2合わせて60時間）	
回数	30回（1・2合わせて60回）	
授業形態	講義	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	筆記試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①動物看護の教科書第2巻（緑書房）②動物看護の教科書第4巻（緑書房）③犬と猫の行動学基礎から臨床へ（学窓社） ④専門分野動物行動学（インターズー）	

コマシラバス

50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	動物行動学の基礎	1.シラバスとの関係	動物がなぜその行動をするのかを知るために、行動学の基礎について学ぶ。	
		2.コマ主題	行動学の歴史を学び、動物行動学研究の主体となっている4つの柱について知る。	
		3.コマ主題細目	①行動学の歴史　②行動学の研究	
		4.コマ主題細目深度	①動物行動学とは何かを学習する。行動学の礎となった3名の研究者を知る。その礎が家畜動物の応用行動学へと広がり、現在ではコンパニオンアニマルへと応用されている。②行動研究の4つの柱について学ぶ。イヌのマーキングを例に考えてみる。問題行動治療のためには、行動学の知識が不可欠であることを知る。	
		5.次コマとの関係	イヌとネコの家畜化の過程を学ぶ。	
2	イヌとネコの家畜化①	1.シラバスとの関係	コンパニオンアニマル（イヌ、ネコ）の行動について学ぶにあたり、まずはどのような過程で家畜化されたのかを知	
		2.コマ主題	イヌ、ネコの進化の過程と発達について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①進化の過程　②イヌ、ネコの行動特性	
		4.コマ主題細目深度	①イヌ、ネコの共通祖先（小型肉食獣「ミアキス」）が言えるようになる。そのミアキスから系統分化し、イヌ、ネコとして進化した過程を学ぶ。②イヌ、ネコの行動特性について学ぶ。これらの差異が生じた要因を探る。	
		5.次コマとの関係	イヌの家畜化について詳しく学ぶ。	
3	イヌとネコの家畜化②	1.シラバスとの関係	コンパニオンアニマル（イヌ、ネコ）の行動について学ぶにあたり、まずはどのような過程で家畜化されたのかを知	
		2.コマ主題	イヌを家畜化した理由とその時期、イヌの特徴について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①イヌが家畜化された理由　②イヌが家畜化された時期　③オオカミからイヌへの変化	
		4.コマ主題細目深度	①イエイヌの祖先であるオオカミが何故、どのように家畜化されたのか（諸説ある）、その過程を学ぶ。家畜化されたことでお互いにどのようなメリットがあったかを考える。②イヌはいつ、どこで家畜化されたのかを知る。③オオカミとイヌの形態学的、行動学的、生理学的な違いを知る。進化の過程で起こった幼形成熟（ネオテニー）の意味を理解する。	
		5.次コマとの関係	ネコの家畜化について詳しく学ぶ。	
4	イヌとネコの家畜化③	1.シラバスとの関係	コンパニオンアニマル（イヌ、ネコ）の行動について学ぶにあたり、まずはどのような過程で家畜化されたのかを知る。	
		2.コマ主題	ネコを家畜化した理由とその時期、現代におけるネコの役割を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①ネコが家畜化された理由　②現代におけるネコの役割	
		4.コマ主題細目深度	①イエネコの祖先であるリビアヤマネコが何故、どのように家畜化されたのか、その過程を学ぶ。②現代におけるネコの役割を考えてみる。ネコがコンパニオンアニマルとして重要な役割を担っていることを理解する。	
		5.次コマとの関係	犬種、猫種による違いとその目的に進む。	
5	犬種、猫種による違いとその目的①	1.シラバスとの関係	犬種による特徴と行動特性を知ることで、適正飼育指導や問題行動の予防ができる。	
		2.コマ主題	主な犬種の特徴と行動特性を知る。	
		3.コマ主題細目	①イヌの改良の目的　②犬種の用途やルーツによるグループ分け	
		4.コマ主題細目深度	①家畜化されたイヌが、牧羊犬・牧畜犬、使役犬、猟犬、愛玩犬などに改良された目的を知る。②国際畜犬連盟（FCI）の第1、2グループにおいて、それぞれの用途や主な犬種を知る。また、それぞれのグループに属するイヌの行動特性を考え、適正飼育指導に活かす。	
		5.次コマとの関係	引き続き、各グループの用途や主な犬種を知り、行動特性を考える。	

6	犬種、猫種による違いとその目的②	1.シラバスとの関係	犬種による特徴と行動特性を知ることで、適正飼育指導や問題行動の予防ができる。	
		2.コマ主題	主な犬種の特徴と行動特性を知る。	
		3.コマ主題細目	①犬種の用途やルーツによるグループ分け	
		4.コマ主題細目深度	①前回に引き続き、第3～6グループにおいて、それぞれの用途や主な犬種を知る。それぞれのグループに属するイヌの行動特性を考える。	
		5.次コマとの関係	引き続き、各グループの用途や主な犬種を知り、行動特性を考える。	
7	犬種、猫種による違いとその目的③	1.シラバスとの関係	犬種による特徴と行動特性を知ることで、適正飼育指導や問題行動の予防ができる。	
		2.コマ主題	主な犬種の特徴と行動特性を知る。	
		3.コマ主題細目	①犬種の用途やルーツによるグループ分け	
		4.コマ主題細目深度	①前回に引き続き、第7～10グループにおいて、それぞれの用途や主な犬種を知る。それぞれのグループに属するイヌの行動特性を考える。	
		5.次コマとの関係	猫種による違いとその目的に進む。	
8	犬種、猫種による違いとその目的④	1.シラバスとの関係	猫種による特徴と行動特性を知ることで、適正飼育指導や問題行動の予防ができる。	
		2.コマ主題	主な猫種の特徴と行動特性を知る。	
		3.コマ主題細目	①主な猫種の歴史と特徴	
		4.コマ主題細目深度	①知っているネコの種類を挙げる。主な猫種の歴史と特徴を学び、イヌと同様に行動特性を考える。イヌとは改良の目的が違うことを知る。	
		5.次コマとの関係	イヌ、ネコの行動発達に進む。	
9	イヌ、ネコの行動発達①	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコにおける行動の発達ステージと発達過程を理解し、各時期に特徴的な行動学的変化について説明できるようになる。また、正常な行動発達には何が必要かを知る。	
		2.コマ主題	発達行動学を学ぶ目的を知り、胎生期について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①学習目的　②胎生期の時期と特徴	
		4.コマ主題細目深度	①不完全な形態と中枢機能で誕生した哺乳類は、幼少期の社会環境が中枢発達に大きく影響を及ぼすことを知る。正常な行動発達の過程を学ぶことにより、成長後の問題行動の発現を減らすことができる。②胎生期の後期から末期に胎子の脳の性分化が起こること、また妊娠期、授乳期の母動物の栄養やストレスが、胎子の中枢神経系の発達に永続的な影響を与えることを知る。	
		5.次コマとの関係	イヌ、ネコの新生子期、移行期の行動発達に進む。	
10	イヌ、ネコの行動発達②	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコにおける行動の発達ステージと発達過程を理解し、各時期に特徴的な行動学的変化について説明できるようになる。また、正常な行動発達には何が必要かを知る。	
		2.コマ主題	イヌ、ネコの新生子期、移行期の時期と特徴的な行動学的変化について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①新生子期の時期と特徴　②移行期の時期と特徴	
		4.コマ主題細目深度	①イヌ、ネコの新生子期の時期を言えるようになる。この時期は完全に母親に依存している。新生子の身体的な特徴を知り、母親からの十分な感覚刺激（特に触覚）が中枢神経系の発達に必須であることを学ぶ。②同様に移行期の時期、身体的な特徴を知る。視覚や聴覚が発達するため、これらからの感覚情報が中枢神経系の発達を促す。また、運動能力が向上し、社会行動のシグナルを表現し始めるのもこの時期である。	
		5.次コマとの関係	イヌ、ネコの社会化期の行動発達に進む。	
11	イヌ、ネコの行動発達③	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコにおける行動の発達ステージと発達過程を理解し、各時期に特徴的な行動学的変化について説明できるようになる。また、正常な行動発達には何が必要かを知る。	
		2.コマ主題	イヌ、ネコの社会化期の時期と特徴的な行動学的変化について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①社会化期の時期と特徴	
		4.コマ主題細目深度	①イヌ、ネコのおおよその社会化期の時期を言えるようになる。この時期には感覚機能や運動機能が著しく発達し、新しい行動が出現する。この時期に経験した事象が将来の行動反応や特質に大きな影響を与えることを知る。また、この時期の前半と後半では、新奇刺激に対する反応が変化することを学ぶ。これらのことを踏まえ、社会化の際に注意することがわかるようになる。	
		5.次コマとの関係	イヌ、ネコの若年期、成熟期、高齢期に進む。	

12	イヌ、ネコの行動発達④	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコにおける行動の発達ステージと発達過程を理解し、各時期に特徴的な行動学的変化について説明できるようになる。また、正常な行動発達には何が必要かを	
		2.コマ主題	イヌ、ネコの若年期、成熟期、高齢期の時期と特徴的な行動学的変化について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①若年期の時期と特徴　②成熟期の時期と特徴　③高齢期の時期と特徴	
		4.コマ主題細目深度	①イヌ、ネコの若年期のおおよその時期を言えるようになる。この時期の子イヌの身体的な特徴を知る。この時期に性に従った社会行動が発達すること、一時期に恐怖に対する感受性が高まる時期が存在することを学ぶ。また、ネコでは性成熟と共に独立する傾向が強くなることを知る。②成熟期の身体的な特徴を学ぶ。性成熟後においても、経験により行動が大きく変わることを知る。③加齢に伴う行動変化において、生理的変化か疾病に付随した変化かを鑑別できるようになる。	
		5.次コマとの関係	イヌ、ネコにおけるコミュニケーション行動について学ぶ。	
13	イヌ、ネコのコミュニケーション行動①	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコにおけるコミュニケーション行動およびボディランゲージを理解し、イヌ、ネコの心理が理解できるようになる。	
		2.コマ主題	イヌ、ネコのコミュニケーション行動の種類を知り、聴覚によるコミュニケーションについて学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①イヌ、ネコのコミュニケーション行動の種類　②イヌ、ネコの聴覚によるコミュニケーション	
		4.コマ主題細目深度	①哺乳類の三つのコミュニケーション方法（視覚、聴覚、嗅覚を介するもの）を知る。また、それらのコミュニケーション行動が進化した理由を知る。②イヌ、ネコそれぞれにおいて、聴覚によるコミュニケーション行動（主に発声）について学ぶ。また、イヌとネコの違いについてその理由を考える。	
		5.次コマとの関係	イヌ、ネコの嗅覚によるコミュニケーション行動について学ぶ。	
14	イヌ、ネコのコミュニケーション行動②	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコにおけるコミュニケーション行動およびボディランゲージを理解し、イヌ、ネコの心理が理解できるようになる。	
		2.コマ主題	イヌ、ネコの嗅覚によるコミュニケーション行動について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①イヌ、ネコの嗅覚によるコミュニケーション行動	
		4.コマ主題細目深度	①動物の持つ二つの嗅覚システムについて学び、フレーメンの意味を知る。尿、肛門嚢分泌物、アポクリン腺と脂腺分泌物、便などの臭いによるコミュニケーション行動について学ぶ。また、イヌとネコの違い、雄と雌の違いについても学ぶ。	
		5.次コマとの関係	イヌ、ネコの視覚によるコミュニケーション行動について学ぶ。	
15	イヌ、ネコのコミュニケーション行動③	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコにおけるコミュニケーション行動およびボディランゲージを理解し、イヌ、ネコの心理が理解できるようになる。	
		2.コマ主題	イヌ、ネコの視覚によるコミュニケーション行動について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①イヌ、ネコの視覚によるコミュニケーション行動	
		4.コマ主題細目深度	①イヌ、ネコそれぞれにおいて、ボディランゲージと表情の図を見て、それらの意味を理解する。	
		5.次コマとの関係	実際にイヌ、ネコのコミュニケーション行動を観察する。	
16	イヌ、ネコのコミュニケーション行動④	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコにおけるコミュニケーション行動およびボディランゲージを理解し、イヌ、ネコの心理が理解できるようになる。	
		2.コマ主題	実際にイヌ、ネコのコミュニケーション行動を観察し、その意味を理解する。	
		3.コマ主題細目	①学校飼育犬、猫の行動や、映像を見て、どのようなコミュニケーション行動やボディランゲージがみられるかを	
		4.コマ主題細目深度	①観察で気づいたコミュニケーション行動やボディランゲージを記録し、その意味を考える。個々で記録した行動とその意味を発表する。	
		5.次コマとの関係	行動特性に進む。	
17	行動特性① 生得的行動の分類	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコにおける生得的行動について、それぞれの行動の意味、目的を知ることで異常行動との鑑別ができるようになる。	
		2.コマ主題	動物の行動はどのように分類されているかを学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①動物の行動の分類	
		4.コマ主題細目深度	①生まれつき備わっている行動（生得的分類）を、機能的な面と行動発現の面で分類する。分類された行動にはどのようなものがあるかを理解する。	
		5.次コマとの関係	個体維持行動に分類される行動について学ぶ。	
18	行動特性② 個体維持行動	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコにおける生得的行動について、それぞれの行動の意味、目的を知ることで異常行動との鑑別ができるようになる。	
		2.コマ主題	個体維持行動に分類される行動について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①個体維持行動に分類される行動の意味	
		4.コマ主題細目深度	①摂食行動、飲水行動、休息行動、排泄行動、護身行動、身づくろい行動、探査行動、遊戯行動について、それぞれの行動の意味を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	社会維持行動に分類される行動について学ぶ。	

19	行動特性③ 社会維持行動	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコにおける生得的行動について、それぞれの行動の意味、目的を知ることで異常行動との鑑別ができるようになる。	
		2.コマ主題	社会維持行動に分類される行動について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①社会維持行動に分類される行動の意味	
		4.コマ主題細目深度	①社会空間行動、敵対行動、親和行動、探査行動、遊戯行動について、それぞれの行動の意味を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	生殖行動、失宜行動について学ぶ。	
20	行動特性④ 生殖行動、失宜行動	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコにおける生得的行動について、それぞれの行動の意味、目的を知ることで異常行動との鑑別ができるようになる。	
		2.コマ主題	生殖行動、失宜行動について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①生殖行動　②失宜行動	
		4.コマ主題細目深度	①性行動と母子行動について、それらの行動の意味を学ぶ。②葛藤行動（転位行動、転嫁行動、真空行動）、異常行動（常同行動、異常反応）について、それぞれの意味を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	学習理論に進む。	
21	学習理論①	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコの行動は個体の経験（学習）により適応的に変化する。この学習のメカニズムを理解し、問題行動の発現の理解と治療のプログラム作成につなげる。	
		2.コマ主題	学習の定義を知り、学習に影響を与える因子について説明できるようになる。	
		3.コマ主題細目	①習得行動（学習行動）の定義　②学習に影響を与える因子	
		4.コマ主題細目深度	①習得行動の定義を知る。生得的行動との違いが説明できるようになる。②習得的な学習能力には内的要因（動物種、品種、系統、年齢など）と、外的要因（環境）とが影響を及ぼすことを知る。	
		5.次コマとの関係	馴化と鋭敏化について学ぶ。	
22	学習理論② 馴化と鋭敏化	1.シラバスとの関係	学習のメカニズムを理解し、問題行動の発現の理解と治療のプログラム作成につなげる。	
		2.コマ主題	最も簡単な学習行動である馴化と、その逆の過程である鋭敏化（感作）について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①馴化　②鋭敏化（感作）	
		4.コマ主題細目深度	①馴化とは何かを身近な例を挙げて説明できるようになる。馴化を利用した行動修正法（氾濫法、脱感作法）についても学習する。②馴化とは逆の過程である鋭敏化（感作）について、身近な例を挙げて説明できるようになる。	
		5.次コマとの関係	古典的条件付けについて学ぶ。	
23	学習理論② 古典的条件付け	1.シラバスとの関係	学習のメカニズムを理解し、問題行動の発現の理解と治療のプログラム作成につなげる。	
		2.コマ主題	古典的条件付けが発見された過程と、その仕組みを学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①古典的条件付けの発見　②古典的条件付けのしくみ	
		4.コマ主題細目深度	①ロシアの生理学者パブロフがどのように古典的条件付けを発見したのか、その過程を知る。②パブロフが行った実験を例に、動物の生得的行動が、それまで全く関係のなかった何らかの刺激によって誘発されるようになる仕組みを学習する。この際に出てくる無条件刺激、無条件反応、中性刺激、条件刺激、条件反応という言葉の意味を理解する。古典的条件付けの身近な例を考えて発表する。	
		5.次コマとの関係	古典的条件付けに関連する刺激般化、消去、自発的回復、拮抗条件付けについて学ぶ。	
24	学習理論③ 古典的条件付け	1.シラバスとの関係	学習のメカニズムを理解し、問題行動の発現の理解と治療のプログラム作成につなげる。	
		2.コマ主題	古典的条件付けに関連する刺激般化、消去、自発的回復、拮抗条件付けについて学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①刺激般化　②消去と自発的回復　③拮抗条件付け	
		4.コマ主題細目深度	①刺激般化の意味を、身近な例で理解する。恐怖刺激は般化しやすいことを知る。②パブロフの実験を例に、消去と自発的回復の意味を理解する。一度条件づけられた反応は不変でないことを知る。③拮抗条件付けの意味を、身近な例で理解する。脱感作と組みあわせ、恐怖反応を示す動物の行動修正に用いられている方法である。	
		5.次コマとの関係	古典的条件付けに影響する要因について学ぶ。	
25	学習理論④ 古典的条件付け	1.シラバスとの関係	学習のメカニズムを理解し、問題行動の発現の理解と治療のプログラム作成につなげる。	
		2.コマ主題	古典的条件付けに影響する要因について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①強化　②高次条件付け　③条件刺激と無条件刺激の時間的関係	
		4.コマ主題細目深度	①パブロフの実験を例に、強化の意味を知る。強化には、連続強化と部分強化があるがそれぞれの意味と特徴を理解する。②まずは二次条件付けの意味を、具体的な例で理解する。高次条件付けとは、二次以上の条件付けのことを言う。③条件反応を確実に形成するには、条件刺激と無条件刺激の時間的関係が重要であることを知る。その時間的関係により、順行条件付け（さらに延滞条件付け、痕跡条件付けに分類される）、同時条件付け、逆行条件付けに分類され、どれが最も強固にかつ素早い条件付けを成立させるかを考える。	
		5.次コマとの関係	オペラント条件付けに進む。	

26	学習理論⑤ オペラント条件付け	1.シラバスとの関係	学習のメカニズムを理解し、問題行動の発現の理解と治療のプログラム作成につなげる。	
		2.コマ主題	オペラント条件付けの概要を学び、オペラント条件付けにおける4種類の方法を理解する。	
		3.コマ主題細目	①オペラント条件付けとは　②オペラント条件付けの4種類の方法	
		4.コマ主題細目深度	①オペラント条件付けの基本的な原理となった「効果の法則」を知り、オペラント条件付けとは何かが説明できるようになる。動物のトレーニングや学習によって起こる問題行動の原因究明と修正において、不可欠の理論であることを知る。②強化と罰（弱化）、正と負の意味を理解する。オペラント条件付けの4種類の方法（正の強化、負の強化、正の罰、負の罰）について身近な例で説明できるようになる。	
		5.次コマとの関係	オペラント条件付けの三項随伴性について学ぶ。	
27	学習理論⑥ オペラント条件付け	1.シラバスとの関係	学習のメカニズムを理解し、問題行動の発現の理解と治療のプログラム作成につなげる。	
		2.コマ主題	オペラント条件付けの三項随伴性について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①三項随伴性とは	
		4.コマ主題細目深度	①三項随伴性の意味を知る。オペラント条件付けでは3つの要素（先行刺激、反応、結果）が必要である。いくつかのオペラント条件付けの例を三項随伴性に当てはめて、それぞれの例での3つの要素を答える。	
		5.次コマとの関係	オペラント条件付けに関連する強化子の種類、逐次接近法、影響する要因について学ぶ。	
28	学習理論⑦ オペラント条件付け	1.シラバスとの関係	学習のメカニズムを理解し、問題行動の発現の理解と治療のプログラム作成につなげる。	
		2.コマ主題	オペラント条件付けに関連する強化子の種類、逐次接近法、影響する要因について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①強化子の種類　②逐次接近法　③オペラント条件付けに影響する要因	
		4.コマ主題細目深度	①無条件強化子（一次性強化子）、条件性強化子（二次性強化子）の意味を知り、具体例を挙げる。②逐次接近法の意味を、具体的な例で理解する。動物が本来もっていないような、複雑な動きを教える場合に使われる手法である。③消去と自発的回復、刺激般化、プレマックの原理について具体例で理解する。特に消去バーストについては身近な例で説明できるようになる。	
		5.次コマとの関係	問題行動に進む。	
29	問題行動①	1.シラバスとの関係	学習理論の知識に基づき、主な問題行動の原因、治療について考える。ここでは概要を学び、行動学2につなげていく。	
		2.コマ主題	問題行動の概要とタイプ、おおまかな原因について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①問題行動とは　②問題行動のタイプ　③問題行動の原因	
		4.コマ主題細目深度	①イヌ、ネコの問題行動の定義が言えるようになる。家族の主観によって問題とされる行動が異なることを知る。②行動学的側面から分類された3つの問題行動のタイプを、具体例から学ぶ。②問題行動の5つの原因（獣医学的疾患、学習、社会化不足、遺伝的要因、性ホルモンの影響）について、具体例を聞きながらおおまかに学習する。	
		5.次コマとの関係	問題行動の治療と主な問題行動について学ぶ。	
30	問題行動②	1.シラバスとの関係	学習理論の知識に基づき、主な問題行動の原因、治療について考える。ここでは概要を学び、行動学2につなげていく。	
		2.コマ主題	問題行動の治療と主な問題行動について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①問題行動の治療　②イヌ、ネコの主な問題行動	
		4.コマ主題細目深度	①行動修正法、薬物療法、外科療法（去勢、避妊など）の概要を学ぶ。外科療法の中には、動物福祉の観点から推奨されないものも含まれている。②イヌ、ネコにおける問題行動の種類をおおまかに学習し、その行動が起こるきっかけや特徴を知る。	
		5.次コマとの関係	動物行動学2に進む。	

動物行動学－2

学科	動物看護系学科	シラバス（概要）
コース		ヒトと動物のコミュニケーションは、ほとんどが行動を介して行われるので、獣医療従事者は、動物のプロフェッショナルとして行動を的確に理解、判断しなければならない。動物看護師が必要とする獣医学的な知識の中に、動物行動学が取り入れられることは、動物の身体的な健康の保持に加えて、心理的健康の大切さに注目している。伴侶動物の問題行動は、動物診療における重要な課題であることが明らかになっていて、動物行動学の基礎と応用を適切に学んだ動物看護師はが、獣医療の専門職としも求められている。「動物行動学－1」で学んだ知識を活用し、イヌやネコの基本的なしつけやトレーニングができ、また、行動学の知識を診療や問題行動の治療に活かし、動物たちの心身の健康増進に役立つように学習する。
履修条件	動物行動学1を履修すること	
ユニット		
科目名	動物行動学－2	
単位	1（1・2合わせて2単位）	
履修時間	30時間（1・2合わせて60時間）	
回数	30回（1・2合わせて60回）	
授業形態	講義	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	筆記試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①室内犬の飼い方・しつけ方（西東社 ）②動物看護の教科書第2巻（緑書房）③パピーケアスタッフBOOK（インターズー）④専門基礎分野動物行動学（インターズー）⑤かわいい猫の飼い方・しつけ方（ナツメ社）⑥犬と猫の行動学基礎から臨床へ（学窓社）⑦臨床獣医師のためのイヌとネコの問題行動治療マニュアル（ファームプレス）	

コマシラバス				
50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	イヌ、ネコのしつけ・トレーニング①	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコの基本的なしつけ・トレーニングについて学び、飼い主指導に活かす。間違った方法により、イヌ、ネコたちの心身の健康を損わないようにする。	
		2.コマ主題	しつけとは何か、しつけに必要なものを学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①しつけとは　②しつけに必要なもの、必要ないもの	
		4.コマ主題細目深度	①しつけとは何かが説明できるようになる。しつけは人間にとって都合がいいだけではなく、イヌ、ネコにも安全で快適な暮らしを提供するものであることを理解する。②しつけに必要なものと、必要のないものを知る。間違ったしつけ方を知り、なぜそれがいけないかが説明できるようになる。	
		5.次コマとの関係	しつけ方とほめ方について学ぶ。	
2	イヌ、ネコのしつけ・トレーニング②	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコの基本的なしつけ・トレーニングについて学び、飼い主指導に活かす。間違った方法により、イヌ、ネコたちの心身の健康を損わないようにする。	
		2.コマ主題	褒めるしつけ方と効果的な褒め方について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①学習理論に基づくしつけ方（陽性強化法）　②効果的な褒め方	
		4.コマ主題細目深度	①動物行動学Ⅰで学んだ学習理論に基づき、陽性強化法によるしつけ方を学ぶ。②強化子となるものについて学ぶ。効果的な褒め方、褒美の与え方のポイントを知る。	
		5.次コマとの関係	叱ることについて学ぶ。	
3	イヌ、ネコのしつけ・トレーニング③	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコの基本的なしつけ・トレーニングについて学び、飼い主指導に活かす。間違った方法により、イヌ、ネコたちの心身の健康を損わないようにする。	
		2.コマ主題	叱って教えることの難しさ、やってはいけない叱り方、叱らずにその行動をやめさせる方法を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①叱ることについて　②望ましくない行動をやめさせる方法	
		4.コマ主題細目深度	①叱って教えることの難しさを知る。また、絶対にやってはいけない叱り方となぜそれがいけないかを学ぶ。叱られたイヌがとる3つのF（Freeze、Flight、Fight）を知る。しつけの基本は、してはいけないことを教えるのではなく、何をすればよいかを教えることである。②望ましくない行動をやめさせる3つの方法と、それらをする際の注意点を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	トレーニングのポイントに進む。	
4	イヌ、ネコのしつけ・トレーニング④	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコの基本的なしつけ・トレーニングについて学び、飼い主指導に活かす。間違った方法により、イヌ、ネコたちの心身の健康を損わないようにする。	
		2.コマ主題	トレーニングのポイントを学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①トレーニングのポイントと4つのD	
		4.コマ主題細目深度	①特にイヌのトレーニングをする際の6つのポイントを学ぶ。より効果的にトレーニングをするための4つのD（Distance、Duration、Diversify　Of　Context、Delivery　Of　Reward）について、それぞれの意味とどのように難易度を上げて行くかを例を見ながら学習する。	
		5.次コマとの関係	基本的なトレーニング法について学ぶ。	
5	イヌ、ネコのしつけ・トレーニング⑤	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコの基本的なしつけ・トレーニングについて学び、飼い主指導に活かす。間違った方法により、イヌ、ネコたちの心身の健康を損わないようにする。	
		2.コマ主題	オペラント条件付けに基づいた基本的なトレーニング法について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①しつけとトレーニングの違い　②オペラント条件付けの復習　②誘導法を用いたトレーニングの例	
		4.コマ主題細目深度	①しつけとトレーニングの違いが説明できるようになる。②動物行動学Ⅰで学んだオペラント条件付けを振り返る。三項随伴性について説明できる。③オペラント条件付けに基づいた誘導法を用いたトレーニングの例（Sit＝おすわり）から、基本的なトレーニング法について学ぶ。	
		5.次コマとの関係	日常生活に必要なしつけ・トレーニングに進む。	

6	日常生活に必要なしつけ・トレーニング① 社会化	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコの基本的なしつけ・トレーニングについて学び、飼い主指導に活かす。間違った方法により、イヌ、ネコたちの心身の健康を損わないようにする。	
		2.コマ主題	子イヌ、子ネコの社会化トレーニングについて学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①社会化とは　②どのような刺激に慣れさせるか　③社会化トレーニングの注意点	
		4.コマ主題細目深度	①イヌ、ネコの社会化期がいつか、この時期に行う社会化とは何かが説明できるようになる。②どのような刺激に、どうやって慣れさせればよいかを考える。将来触れ合うことになる動物（ヒトも含めて）、もの、場所、音を挙げていく。③子イヌ、子ネコのワクチンプログラムと社会化との関係性を学ぶ。また、社会化トレーニングの際に注意するべきことを知る。このトレーニングを行う際は何よりも子イヌ、子ネコの様子をよく観察することが大切である。	
			ハンドリングのトレーニングに進む。	
7	日常生活に必要なしつけ・トレーニング② ハンドリング	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコの基本的なしつけ・トレーニングについて学び、飼い主指導に活かす。間違った方法により、イヌ、ネコたちの心身の健康を損わないようにする。	
		2.コマ主題	ハンドリングのトレーニングについて学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①ハンドリングの重要性　②ハンドリングプログラム	
		4.コマ主題細目深度	①なぜハンドリングのトレーニングが必要かを考える。人に身をまかせるようになることで、どのようなメリットがあるのかを学ぶ。②全身を触る、体を拘束するなど、ハンドリングプログラムで行うトレーニングについて、それらの方法や注意点を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	子イヌ、子ネコ教室の概要を学ぶ。	
8	日常生活に必要なしつけ・トレーニング③ 子イヌ、子ネコ教室への参加	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコの基本的なしつけ・トレーニングについて学び、飼い主指導に活かす。間違った方法により、イヌ、ネコたちの心身の健康を損わないようにする。	
		2.コマ主題	子イヌ、子ネコ教室の重要性を知る。	
		3.コマ主題細目	①子イヌ、子ネコ教室の概要と目的　②行っている内容	
		4.コマ主題細目深度	①子イヌ、子ネコ教室とは何か、その目的が説明できるようになる。それらに参加することで、子イヌ、子ネコは何を学ぶのか、飼い主は何を学ぶのかを知る。②子イヌ、子ネコ教室で行っているおおまかな内容を知る。開催する側として必要な知識については、改めて学習する。	
		5.次コマとの関係	イヌのトイレ・トレーニングに進む。	
9	日常生活に必要なしつけ・トレーニング④ イヌのトイレ・トレーニング	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコの基本的なしつけ・トレーニングについて学び、飼い主指導に活かす。間違った方法により、イヌ、ネコたちの心身の健康を損わないようにする。	
		2.コマ主題	イヌのトイレ・トレーニングについて学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①トイレ・トレーニングの基本　②間違った方法	
		4.コマ主題細目深度	①室内犬の飼育で不可欠なトイレ・トレーニングの基本的な方法を学ぶ。まずは家にイヌを連れてくる前のトイレに関するチェックポイントを知る。その後、基本的なトレーニング方法を学習する。失敗させない環境を作ること、失敗しても騒がず叱らないことがポイントである。②学習した方法以外で、今までイヌのトイレ・トレーニングをした経験があれば、どうようにしたかを発表する。間違ったトレーニング方法を知り、なぜそれがいけないかを考える。また、トイレを覚えられない原因を考える。	
		5.次コマとの関係	ネコのトイレと爪とぎのトレーニングに進む。	
10	日常生活に必要なしつけ・トレーニング⑤ ネコののトイレと爪とぎのトレーニング	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコの基本的なしつけ・トレーニングについて学び、飼い主指導に活かす。間違った方法により、イヌ、ネコたちの心身の健康を損わないようにする。	
		2.コマ主題	ネコのトイレと爪とぎのトレーニングについて学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①トイレ・トレーニングの基本　②爪とぎについて	
		4.コマ主題細目深度	①室内でネコを飼育する際に不可欠なトイレ・トレーニングのポイントを学ぶ。トイレを設置する場所、トイレの種類、トイレ砂の種類、掃除の仕方、失敗した時の対処法も知る。ネコの飼育経験があれば、どのようにトレーニングしたかを発表する。②ネコの爪とぎの目的、意味を学ぶ。爪とぎの種類、トレーニング方法、爪とぎ対策を知る。	
		5.次コマとの関係	イヌのクレート（ハウス）・トレーニングに進む。	
11	日常生活に必要なしつけ・トレーニング⑥ イヌ犬のクレート（ハウス）・トレーニング	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコの基本的なしつけ・トレーニングについて学び、飼い主指導に活かす。間違った方法により、イヌ、ネコたちの心身の健康を損わないようにする。	
		2.コマ主題	イヌのクレート（ハウス）・トレーニングについて学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①クレート・トレーニングの目的　②基本的なトレーニング方法　③トレーニングの失敗とその対処法	
		4.コマ主題細目深度	①クレート・トレーニングの目的を知る。今後の生活でどのような時に役立つかを考える。②基本的なクレート・トレーニングの方法を学ぶ。クレートが居心地の良い場所であると認識させるためには、どうすれば良いかを考える。②トレーニングの失敗例から、何が原因かを探り、どのように対処するかを考える。クレートの間違った使い方をしないように、飼い主に伝えられるようになる。	
		5.次コマとの関係	イヌの基本的な服従訓練に進む。	

12	イヌの服従訓練①	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコの基本的なしつけ・トレーニングについて学び、飼い主指導に活かす。間違った方法により、イヌ、ネコたちの心身の健康を損わないようにする。	
		2.コマ主題	服従訓練の目的と概要を知り、基本的な服従訓練について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①服従訓練の目的と概要　②基本的な服従訓練（アイコンタクト、スワレ、フセ）の方法	
		4.コマ主題細目深度	①服従訓練（オビディエンストレーニング）とは何かを知る（現在ではこのような表現はあまりしない）。人間の指示（コマンド）によって動作を身につけさせることの目的と、服従訓練にはどのようなものがあるかを学ぶ。飼い主が主導権、決定権を持てるようになることが、このトレーニングの目標である。②アイコンタクト、スワレ、フセの基本的なトレーニング方法を学ぶ。これらの方法は動物行動学Ⅰで学んだ学習理論を利用したものであることを理解する。また、これらができるようになると、日常生活でどのような場面で役立つかを考える。	
		5.次コマとの関係	引き続き、イヌの服従訓練について学ぶ。	
13	イヌの服従訓練②	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコの基本的なしつけ・トレーニングについて学び、飼い主指導に活かす。間違った方法により、イヌ、ネコたちの心身の健康を損わないようにする。	
		2.コマ主題	前回に引き続き、基本的な服従訓練について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①マテ、オイデの方法　②ハズバンダリーとは	
		4.コマ主題細目深度	①前回に引き続き、主な服従訓練について学ぶ。マテ、オイデの基本的なトレーニング方法を学び、これらが日常生活のどのような場面で役に立つかを考える。②ハズバンダリー・トレーニングの意味を知る。動物が人間からの世話や治療を自らすすんで受けるようになるためのトレーニングである。具体例からそのトレーニングの必要性を感じ取る。	
		5.次コマとの関係	動物看護師ができるしつけについて考える。	
14	動物看護師ができるしつけ	1.シラバスとの関係	動物病院に来院したイヌ、ネコに対して、動物看護師が適切なしつけを行うことで診察等もスムーズに行うことができるようになる。その為にはどのようなことをすればよい	
		2.コマ主題	動物看護師ができるしつけとその目的を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①動物看護師が動物病院でできるしつけ	
		4.コマ主題細目深度	①最大の目的は、動物病院やスタッフを好きになってもらうことである。そのために動物看護師が行うべきことを考える。また、イヌ、ネコが診療行為を受け入れられるようになるための日頃のトレーニングについて、飼い主に指導できるようになる。	
		5.次コマとの関係	動物看護師ができる子イヌ・子ネコ教室について、開催する側の注意点を学ぶ。	
15	子イヌ・子ネコ教室	1.シラバスとの関係	動物看護師ができるしつけ・トレーニングの一つである子イヌ・子ネコ教室について、開催する側としての注意すべきポイントや内容を学ぶ。	
		2.コマ主題	子イヌ・子ネコ教室の意義と開催する際に注意すべきポイントを学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①子イヌ教室　②子ネコ教室　③子イヌ・子ネコ教室のメリット	
		4.コマ主題細目深度	①子イヌ教室（パピークラス、パピーパーティー）を開催する意義、実施形式、対象とする子イヌ、開催場所、行う内容について学ぶ。目的は社会化やハンドリング、日常生活で必要なトレーニングができるようになること、、健康管理のアドバイスを行うことであることを理解する。②あまり普及はしていないが、子ネコ教室についても同様に学ぶ。③子イヌ・子ネコ教室を開催することのメリットを考える。動物、飼い主、病院、それぞれにメリットがあることを理解する。	
		5.次コマとの関係	イヌ、ネコの問題行動に進む。	
16	問題行動① 定義と原因	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコの問題行動の種類や原因、対処（治療）方法について学び、動物看護師として飼い主に適切なアドバイスができるようになり、イヌ、ネコの心身の健康に役立てる。	
		2.コマ主題	問題行動の定義と原因を知る。（動物行動学Ⅰの復習）	
		3.コマ主題細目	①問題行動の定義　②問題行動のタイプ　③問題行動の原因	
		4.コマ主題細目深度	①動物行動学Ⅰで学んだことを振り返る。問題行動の定義が言えるかを確認する。自分が飼育しているイヌやネコの問題行動がある場合はそれを挙げる。②問題行動の3つのカテゴリーを覚えているかを確認する。挙げられた問題行動がどれに分類されるかを考える。③問題行動の5つの原因と具体例がが言えるかを確認する。挙げられた問題行動の原因を考える。	
		5.次コマとの関係	行動診療の手順に進む。	

動物行動学－2

17	問題行動② 行動診療の手順	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコの問題行動の種類や原因、対処（治療）方法について学び、動物看護師として飼い主に適切なアドバイスができるようになり、イヌ、ネコの心身の健康に役立てる。	
		2.コマ主題	問題行動診療の手順を知る。	
		3.コマ主題細目	①カウンセリングとコンサルテーション　②獣医師、動物看護師の役割	
		4.コマ主題細目深度	①行動診療にはカウンセリングやコンサルテーションという方法が用いられる。これらの意味を知り、行動診療の流れを学ぶ。②獣医師が行動診療に関わる3つの理由を知る。それらの理由をもとに、動物看護師ができることを考える。特に行動療法の実施における動物看護師の役割が大きいことを知る。	
		5.次コマとの関係	問題行動の治療と解決のプロセスに進む。	
18	問題行動③ 治療と解決のプロセス	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコの問題行動の種類や原因、対処（治療）方法について学び、動物看護師として飼い主に適切なアドバイスができるようになり、イヌ、ネコの心身の健康に役立てる。	
		2.コマ主題	問題行動の治療と解決のプロセスについて学ぶ。（動物行動学Ⅰの復習）	
		3.コマ主題細目	①問題行動の治療法　②解決のプロセス	
		4.コマ主題細目深度	①動物行動学Ⅰで学んだことを振り返る。問題行動の治療法にはどのようなものがあるかを確認する。特に行動修正法に用いる方法を振り返り、よく用いられる道具も確認する。②問題行動を解決するためのプロセスを学ぶ。まずは原因を解明し、どのような手段でやめさせるかを考えることが重要である。	
		5.次コマとの関係	主な問題行動に進む。	
19	問題行動④ イヌ、ネコの攻撃行動	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコの問題行動の種類や原因、対処（治療）方法について学び、動物看護師として飼い主に適切なアドバイスができるようになり、イヌ、ネコの心身の健康に役立てる。	
		2.コマ主題	攻撃性に関連する問題行動について、その行動を発現させる刺激の種類や分類、攻撃を起こす病気についての情報、治療法について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①恐怖性攻撃行動　②捕食性攻撃行動　③遊び攻撃行	
		4.コマ主題細目深度	攻撃行動の中で比較的多くみられる①～③について、それらが起こるきっかけや特徴、対処法を具体例から学	
		5.次コマとの関係	その他の攻撃行動について学ぶ。	
20	問題行動⑤ イヌ、ネコの攻撃行動	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコの問題行動の種類や原因、対処（治療）方法について学び、動物看護師として飼い主に適切なアドバイスができるようになり、イヌ、ネコの心身の健康に役立てる。	
		2.コマ主題	攻撃性に関連する問題行動について、その行動を発現させる刺激の種類や分類、攻撃を起こす病気についての情報、治療法について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①優位性攻撃行動　②縄張り性攻撃行動	
		4.コマ主題細目深度	前回に引き続き、①、②の攻撃行動について、それらが起こるきっかけや特徴、対処法を具体例から学ぶ。	
		5.次コマとの関係	引き続き、その他の攻撃行動について学ぶ。	
21	問題行動⑥ イヌ、ネコの攻撃行動	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコの問題行動の種類や原因、対処（治療）方法について学び、動物看護師として飼い主に適切なアドバイスができるようになり、イヌ、ネコの心身の健康に役立てる。	
		2.コマ主題	攻撃性に関連する問題行動について、その行動を発現させる刺激の種類や分類、攻撃を起こす病気についての情報、治療法について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①転嫁性攻撃行動　②母性関連攻撃行動　③特発性攻撃行動	
		4.コマ主題細目深度	前回に引き続き、①～③の攻撃行動について、それらが起こるきっかけや特徴、対処法を具体例から学ぶ。	
		5.次コマとの関係	恐怖・不安に関連する問題行動に進む。	
22	問題行動⑦ イヌ、ネコの恐怖・不安行動	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコの問題行動の種類や原因、対処（治療）方法について学び、動物看護師として飼い主に適切なアドバイスができるようになり、イヌ、ネコの心身の健康に役立てる。	
		2.コマ主題	恐怖や不安に関連する問題行動について、攻撃を除く行動とその対処を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①分離不安	
		4.コマ主題細目深度	①分離不安の定義と主な症状を知る。具体例から、分離不安の対処法を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	引き続き、その他の恐怖・不安行動について学ぶ。	
23	問題行動⑧ イヌ、ネコの恐怖・不安行動	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコの問題行動の種類や原因、対処（治療）方法について学び、動物看護師として飼い主に適切なアドバイスができるようになり、イヌ、ネコの心身の健康に役立てる。	
		2.コマ主題	前回に引き続き、恐怖や不安に関連する問題行動について、攻撃を除く行動とその対処を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①恐怖症	
		4.コマ主題細目深度	①恐怖症の定義とその反応を引き起こすもの、おもな症状を知る。具体例から、恐怖症の対処法を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	攻撃や恐怖・不安行動以外の問題行動に進む。	

24	問題行動⑧ イヌ、ネコのその他の問題行動	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコの問題行動の種類や原因、対処（治療）方法について学び、動物看護師として飼い主に適切なアドバイスができるようになり、イヌ、ネコの心身の健康に役立てる。	
		2.コマ主題	イヌ、ネコの攻撃や恐怖・不安行動以外の問題行動でみられる、不適切な排泄についてその原因と対処法を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①イヌの排泄問題	
		4.コマ主題細目深度	①イヌの排泄に関する4つの問題（トレーニングの失敗、性的なマーキング、中高齢犬の失禁、恐怖・不安時の転位行動）を知る。具体例から、不適切な排泄の対処法を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	ネコの排泄問題について学ぶ。	
25	問題行動⑨ イヌ、ネコのその他の問題行動	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコの問題行動の種類や原因、対処（治療）方法について学び、動物看護師として飼い主に適切なアドバイスができるようになり、イヌ、ネコの心身の健康に役立てる。	
		2.コマ主題	イヌ、ネコの攻撃や恐怖・不安行動以外の問題行動でみられる、不適切な排泄についてその原因と対処法を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①ネコの排泄問題	
		4.コマ主題細目深度	①ネコの排泄に関する3つの問題（不安、テリトリー意識、発情周期に伴うマーキング）を知る。具体例から、不適切な排泄の対処法を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	その他の問題行動の中の甘咬みについて学ぶ。	
26	問題行動⑩ イヌ、ネコのその他の問題行動	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコの問題行動の種類や原因、対処（治療）方法について学び、動物看護師として飼い主に適切なアドバイスができるようになり、イヌ、ネコの心身の健康に役立てる。	
		2.コマ主題	イヌ、ネコの攻撃や恐怖・不安行動以外の問題行動でみられる、甘咬みについてその原因と対処法を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①甘咬み	
		4.コマ主題細目深度	①子イヌ、子ネコの甘咬みの原因を知る。具体例から、その対処法と予防策を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	イヌ特有の問題行動に進む。	
27	問題行動⑪ イヌ特有のもの	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコの問題行動の種類や原因、対処（治療）方法について学び、動物看護師として飼い主に適切なアドバイスができるようになり、イヌ、ネコの心身の健康に役立てる。	
		2.コマ主題	イヌ特有の問題行動の中の、吠えに関する問題行動についてその原因と対処法を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①無駄吠え・過剰咆哮	
		4.コマ主題細目深度	①吠える原因、状況によって対処法も変わるため、特に多く見られる玄関チャイムへの吠え、散歩中の吠え、要求の吠えなどについての対処法を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	その他のイヌ特有の問題行動について学ぶ。	
28	問題行動⑫ イヌ特有のもの	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコの問題行動の種類や原因、対処（治療）方法について学び、動物看護師として飼い主に適切なアドバイスができるようになり、イヌ、ネコの心身の健康に役立てる。	
		2.コマ主題	イヌ特有の問題行動の中の、吠え以外の問題行動についてその原因と対処法を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①占有性攻撃行動　②破壊行動　③関心を求める行動	
		4.コマ主題細目深度	①～③のイヌ特有の問題行動について、それらの具体例から起こるきっかけと症状、対処法を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	ネコ特有の問題行動に進む。	
29	問題行動⑬ ネコ特有のもの	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコの問題行動の種類や原因、対処（治療）方法について学び、動物看護師として飼い主に適切なアドバイスができるようになり、イヌ、ネコの心身の健康に役立てる。	
		2.コマ主題	ネコ特有の問題行動についてその原因と対処法を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①不適切な爪とぎ　②愛撫誘発性攻撃行動	
		4.コマ主題細目深度	ネコ特有の①、②について、それらの原因と対処法について学ぶ。	
		5.次コマとの関係	これまでのまとめと適正飼養について考える。	
30	まとめ 適正な飼養	1.シラバスとの関係	これまで動物行動学で学んだことを振り返り、適正飼養とはどういうことかを考え、飼い主指導に活かす。	
		2.コマ主題	適正な飼養とはどういうことかを考える。	
		3.コマ主題細目	①動物と暮らす前に知っておくべき事項	
		4.コマ主題細目深度	①獣医療に携わる者は、飼い主に対して正しい知識を普及していかなければならない。動物を適正に飼養する、とは具体的にどうすることかを考える。動物行動学で学んできたことを振り返り、適正飼養に必要な知識、考え方をまとめる。	
		5.次コマとの関係		

動物福祉論

学科	動物看護系学科	シラバス（概要）
コース		動物看護の実践に必要とされる動物福祉の認識から動物愛護や動物福祉の発展を学び、動物関連法規やヒトの関わりから動物福祉への精神を養う。特に、日本と欧米の歴史から動物観の違いを知り、ヒトと動物の関わり方への変遷を学ぶ。近代の動物福祉の基本的な考え方である「5つの自由」を基に、飼育動物にとってそれらが満たされるとはどういう事かを考察する。また、家庭飼育動物、学校飼育動物、使役動物、産業動物、実験動物、野生動物に存在する動物及び動物種による「生活の質」を考えて、個々の動物のための看護を提供することで、飼い主及び関係者にも動物福祉の概念を伝えられることも大切である。他者の動物福祉に対する考えを聴き、自己の動物福祉への思慮を深めるようグルーワークを行う。
履修条件		
ユニット		
科目名	動物福祉論	
単位	1	
履修時間	30時間	
回数	30回	
授業形態	講義	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	筆記試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	現代社会と家庭動物動物愛護社会化検定専門級試験公式テキストブック（インターズー）	

コマシラバス

50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	授業ガイダンス 「福祉」その言葉の意味	1.シラバスとの関係	個々の動物の状況に応じた環境整備	
		2.コマ主題	「福祉」の意味を知る	
		3.コマ主題細目	ヒトの福祉、動物の福祉とは何かを理解できる	
		4.コマ主題細目深度	言葉の意味を知ることで、「福祉」とはどういう事かを知り、そこから「動物福祉」とはどういう事かを思慮できるようになる。	
		5.次コマとの関係	福祉の概念から人と動物の関わりの歴史を追う	
2	動物福祉の歴史①	1.シラバスとの関係	ヒトと動物の歴史的変遷の中で築かれてきた動物との関わり	
		2.コマ主題	西欧と日本における人と動物の関わりの歴史的変遷を学ぶ	
		3.コマ主題細目	どのようにして現在のような関係が築かれたのか理解する	
		4.コマ主題細目深度	犬と猫の家畜化から中世ヨーロッパ・キリスト教世界の人間と動物、19世紀初頭のイギリスにおける動物虐待防止への移り変わりから動物福祉を思慮できるようになる。	
		5.次コマとの関係	日本と西洋との人動物の関わりの歴史から動物の価値	
3	動物福祉の歴史②	1.シラバスとの関係	西欧と日本の宗教観・価値観の違いからの動物愛護や動物福祉の発展	
		2.コマ主題	西欧と日本における人ヒトと動物の関わりの歴史的変遷	
		3.コマ主題細目	どのようにして現在のような関係が築かれたのか理解す	
		4.コマ主題細目深度	RSPCAの設立から現代のヨーロッパの動物愛護、動物福祉の考えを学び、古代から平安時代の日本人と動物との関わりを理解する。	
		5.次コマとの関係	日本と西洋の文化の違いと動物観の違い	
4	動物福祉の歴史③	1.シラバスとの関係	西欧と日本の宗教観・価値観の違いからの動物愛護や動物福祉の発展	
		2.コマ主題	西欧と日本におけるヒトと動物の関わりの歴史的変遷を	
		3.コマ主題細目	どのようにして現在のような関係が築かれたのか理解す	
		4.コマ主題細目深度	鎌倉時代から明治以降、第二次世界大戦後までの日本人と動物との関わりを理解できる	
		5.次コマとの関係	日本と西洋の動物観の違いと、日本のﾍﾟｯﾄ文化、飼養に関する法律など	
5	日本における動物福祉①	1.シラバスとの関係	「狂犬病予防法」の設立の背景、目的	
		2.コマ主題	日本における動物に関わる法律や規制について学ぶ	
		3.コマ主題細目	なぜ動物に関わる法律や規制が施行されるようになったのか学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	日本におけるペット文化の変遷、狂犬病予防法の施行、その目的、対象動物について理解できる	
		5.次コマとの関係	日本における動物に関わる法律「狂犬病予防法」	
6	日本における動物福祉②	1.シラバスとの関係	動物病院の利用目的、「狂犬病予防法」「動物の愛護と管理に関する法律」設立の背景と目的	
		2.コマ主題	日本における動物に関わる法律や規制について学ぶ	
		3.コマ主題細目	なぜ動物に関わる法律や規制が施行されるようになったのか理解する	
		4.コマ主題細目深度	狂犬病予防法の内容、義務、罰則、飼育環境の変化による予防医療の発展、動愛法施行の背景、動物の適切な取り扱いを説明できる	
		5.次コマとの関係	日本における動物に関する法律「動愛法」	
7	日本における動物福祉③	1.シラバスとの関係	「動物の愛護と管理に関する法律」目的と内容	
		2.コマ主題	日本における動物に関わる法律や規制について学ぶ	
		3.コマ主題細目	なぜ動物に関わる法律や規制が施行されるようになったのか理解する	
		4.コマ主題細目深度	動愛法から、特定動物の飼養規制、虐待、遺棄の禁止、幼齢動物の販売日齢、夜間展示の禁止、ペットフード安全法について説明できる。	
		5.次コマとの関係	動愛法から動物福祉の基本的な考え方	
8	人として動物福祉を考える意味 5つの自由（Five freedom）①	1.シラバスとの関係	動物福祉の基本的な考え方	
		2.コマ主題	「5つの自由」について学ぶ	
		3.コマ主題細目	動物看護師が「5つの自由」を理解し、動物病院でどのように実践に活かすか思考する。	
		4.コマ主題細目深度	「5つの自由」の成り立ち、その定義、内容から1つ1つの詳細、「5つの自由」中には心理的なものと肉体的なものがあること、また人と生活する動物は生活環境をヒトに依存しているため、動物病院においても看護師が動物個々に応じた対応を求められることを思慮できるようになる。	
		5.次コマとの関係	5つの自由から思慮する	

動物福祉論

9	人として動物福祉を考える意味 5つの自由（Five freedom）②	1.シラバスとの関係	「5つの自由」が満たされるとはどういう事か	
		2.コマ主題	「5つの自由」について思考する	
		3.コマ主題細目	動物看護師が「5つの自由」を理解し、動物病院でどのように実践に活かすか思考する	
		4.コマ主題細目深度	いくつかの「5つの自由」が満たされていないシチュエーションから、動物看護師としてどのようにすればそれらを改善し、実践し、飼い主様が「5つの自由」の必要性を理解し、動物と共に健康で幸せに暮らせるか思考する。	
		5.次コマとの関係	「5つの自由」を考慮した動物病院のあり方から現在の飼育動物の存在意義、人と動物の絆について国際的な活動を学ぶ	
10	HABの認識①	1.シラバスとの関係	動物介在活動の参加	
		2.コマ主題	ヒトの歴史と共に築かれてきた動物との絆について学ぶ	
		3.コマ主題細目	ヒトと動物との絆についての国際的な働きかけについて理解する	
		4.コマ主題細目深度	愛玩動物から伴侶動物への変化、現在のヒトの生活の変化に伴う飼育動物の存在意義、共に暮らすことで生まれる絆であるHABからIAHAIO（ヒトと動物の関係に関する国際組織）の存在、設立の目的を理解できる。	
		5.次コマとの関係	動物介在活動とは	
11	HABの認識②	1.シラバスとの関係	動物介在療法、動物介在活動、動物介在教育とはどのようなことか	
		2.コマ主題	ヒトの歴史と共に築かれてきた動物との絆について学ぶ	
		3.コマ主題細目	ヒトと動物との絆についての国際的な働きかけについて理解する	
		4.コマ主題細目深度	IAHAIOジュネーブ宣言からAAT、AAA、AAEとは何か、ブラハ宣言のAAA、AAE、に関わる動物たちの生活の質、セラピー実施時に考慮すべき点を理解できる。	
		5.次コマとの関係	動物介在活動における動物福祉	
12	HABの認識③	1.シラバスとの関係	動物介在活動に参加する動物の健康面、心理面への配	
		2.コマ主題	ヒトの歴史と共に築かれてきた動物との絆について学ぶ	
		3.コマ主題細目	ヒトと動物との絆についての国際的な働きかけについて理解する	
		4.コマ主題細目深度	IAHAIOリオ宣言から、動物介在教育のヒトへの有用性、関わる動物たちの生活の質、配慮すべき点、またIAHAIO東京宣言からヒトが動物から恩恵を受けることは基本的人権であるが動物と接触を望まないヒトへの配慮、コンパニオンアニマルに対する動物福祉の認識を持っておかなければならないことを理解できる。	
		5.次コマとの関係	IAHAIOリオ宣言から学校飼育動物の必要性、飼育方法のあり方を実際のモデル校を見ながら学ぶ。	
13	学校飼育動物について考える （ビデオ鑑賞）	1.シラバスとの関係	動物介在活動に参加する動物の健康面、心理面への配	
		2.コマ主題	学校飼育動物について学ぶ	
		3.コマ主題細目	学校飼育動物の必要性を理解する	
		4.コマ主題細目深度	学校飼育動物について再度「リオ宣言」を復習し、飼育動物のあり方を学ぶ。それを踏まえてビデオ鑑賞する。子供たちが飼育に関わることで得られること、学校飼育動物の必要性を学び取る。鑑賞後レポート提出。	学校飼育動物ビデオ
		5.次コマとの関係	ビデオから動物らしい生活とはなにか理解を深める	
14	生活の質の（QOL）の認識①	1.シラバスとの関係	動物種による「生活の質」	
		2.コマ主題	動物の生活の質について学ぶ	
		3.コマ主題細目	動物種による生活の質について理解する	
		4.コマ主題細目深度	「生活の質」とは何かを知る。 具体的に猫を例とし、動物らしい生活、動物の生活にあった生活とは何かを思慮できるようになる。	
		5.次コマとの関係	具体例から生活の質とは何か	
15	生活の質の（QOL）の認識②	1.シラバスとの関係	動物種による「生活の質」	
		2.コマ主題	動物の生活の質について	
		3.コマ主題細目	動物種による生活の質について	
		4.コマ主題細目深度	具体的にネコを例とし、動物らしい生活、動物の生活にあった生活とは何かを学び、飼育されているネコの場合の生活の満足感、安定感、幸福感、安心感とは何かを考える。	
		5.次コマとの関係	「生活の質」を学び、その動物らしさを発揮するための取り組みを学ぶ	
16	動物福祉を評価する指標 環境エンリッチメント①	1.シラバスとの関係	展示動物に対してその種らしさを発揮できる環境整備	
		2.コマ主題	環境エンリッチメントについて学ぶ	
		3.コマ主題細目	環境エンリッチメントとは何か理解する	
		4.コマ主題細目深度	展示動物に関しての環境エンリッチメントを学ぶ。自然の環境を作り出すことの問題点、代替案として行われること、どのような視点から実施するべきなのか、その問題点や動物福祉的になぜ有効なのかを理解できる。	
		5.次コマとの関係	環境エンリッチメント、動物らしさを取り入れたトレーニングを実施することでメリットになることを学ぶ。	
17	動物福祉を評価する指標 環境エンリッチメント②	1.シラバスとの関係	展示動物に対してその種らしさを発揮できる環境整備	
		2.コマ主題	環境エンリッチメントについて	
		3.コマ主題細目	環境エンリッチメントとは何か	
		4.コマ主題細目深度	展示動物に関しての環境エンリッチメントを学ぶ。自然の環境を作り出すことの問題点、代替案として行われること、どのような視点から実施するべきなのか、その問題点や動物福祉的になぜ有効なのかを考察できるようにな	
		5.次コマとの関係	1年間学んだ動物福祉論から学生各々が考える内容のワークを実施する。	

動物福祉論

18	グループワーク①	1.シラバスとの関係	グループワーク①	メモ用紙（各班分） 厚紙（各班分） ペン（各班分）
		2.コマ主題	動物福祉を考えるワーク	
		3.コマ主題細目	各々の動物福祉の考え聴く、自身の考えを伝える	
		4.コマ主題細目深度	動物福祉に正解は無く、性格や状況に応じて対応することが必要であること、また、グループワークで人によりその考え方に違いがあることを知る。 ※テーマ：野外に行く飼育ネコの福祉を①Five Freedomは満たされているか②ネコの生活の質はどうか③人との共生は行われているか④そのネコは満足しているかの4つの項目を「できている」から「できていない」までの5段階で考えてもらい、クラスでランダムにグループ分け（1班5～6名）をし、そのグループで意見の一致を行う。今回は①もしくは③においてのどちらか1項目（班の中で多い意見）で行う。	
		5.次コマとの関係	グループワークの発表	
19	グループワーク②	1.シラバスとの関係	グループワーク②	メモ用紙（各班分） 厚紙（各班分） ペン（各班分）
		2.コマ主題	動物福祉を考えるワーク（各班発表）	
		3.コマ主題細目	1人1人の動物福祉の考えを知る	
		4.コマ主題細目深度	動物福祉に正解は無く、性格や状況に応じて対応することが必要であること、また、グループワークで人によりその考え方に違いがあることを知る。 ※テーマ：野外に行く飼育ネコの福祉を①Five Freedomは満たされているか②ネコの生活の質はどうか③人との共生は行われているか④そのネコは満足しているかの4つの項目を「できている」から「できていない」までの5段階で考えてもらい、クラスでランダムにグループ分け（1班5～6名）をし、そのグループで意見の一致を行う。今回は①もしくは③においてのどちらか1項目（班の中で多い意見）で行う。	
		5.次コマとの関係	様々なシチュエーションから考える動物福祉	
20	動物福祉の考え方	1.シラバスとの関係	動物看護の実践に必要とされる動物福祉の認識	
		2.コマ主題	今までを通して、再度動物福祉を思慮する	
		3.コマ主題細目	動物福祉の再認識	
		4.コマ主題細目深度	福祉の意味、動物福祉の再認識をして、今後それぞれの飼育動物の区分においての動物福祉を学び、動物看護師としてどうあるべきかを思考する。	
		5.次コマとの関係	家庭飼育動物、伴侶動物	
21	伴侶動物の福祉①	1.シラバスとの関係	飼い主と動物の絆を大切に考えた対応、環境整備①	
		2.コマ主題	伴侶動物の福祉について学ぶ①	
		3.コマ主題細目	伴侶動物の福祉とは何か理解する	
		4.コマ主題細目深度	伴侶動物それぞれの種類に適したフード、健康の維持、世話の仕方、観察法、適正飼育とは何かを知り、それらを伴侶動物と共に暮らす飼い主様に伝えることができる。（伴侶動物と飼い主の共に暮らす期間にわたる福祉につながることを理解する）	
		5.次コマとの関係	家庭飼育動物、伴侶動物について思慮する	
22	伴侶動物の福祉②	1.シラバスとの関係	飼い主と動物の絆を大切に考えた対応、環境整備②	
		2.コマ主題	伴侶動物の福祉について学ぶ②	
		3.コマ主題細目	伴侶動物の福祉とは何か理解する	
		4.コマ主題細目深度	伴侶動物それぞれの種類に適したフード、健康の維持、世話の仕方、観察法、適正飼育とは何かを知り、それらを伴侶動物と共に暮らす飼い主様に伝えることができる。（伴侶動物と飼い主様の共に暮らす期間にわたる福祉につながることを理解する）	
		5.次コマとの関係	動物福祉と飼い主の生活スタイルも考慮し、ヒトと動物の絆を大切にした動物病院での動物看護師の存在について学ぶ。	
23	動物病院における福祉①	1.シラバスとの関係	個々に応じた看護と動物福祉	
		2.コマ主題	動物病院での福祉について学ぶ①	
		3.コマ主題細目	動物病院で考えなければならない福祉とは何か理解する	
		4.コマ主題細目深度	様々な病気や症状で来院、入院している動物たちに動物看護師は個々の動物に応じた環境整備などが求められることを学ぶ。また、看護にあたる動物の状態により、ヒトと動物の絆及び動物の生活の質を重視した選択の中に安楽死もあり得ることも理解する。	
		5.次コマとの関係	個々に応じた看護と動物福祉からどのような選択がある	
24	動物病院における福祉②	1.シラバスとの関係	状況に応じて治療に様々な選択肢がある	
		2.コマ主題	動物病院での福祉について学ぶ②	
		3.コマ主題細目	動物病院で考えなければならない福祉とは何かを理解す	
		4.コマ主題細目深度	様々な病気や症状で来院、入院している動物たちに動物看護師は個々の動物に応じた環境整備などが求められることを学ぶ。また、看護にあたる動物の状態により、人と動物の絆及び動物の生活の質を重視した選択があることも理解する。	
		5.次コマとの関係	動物看護師の仕事は動物病院のみではないことを知る。	

動物福祉論

25	学校飼育動物の福祉① ～本校において～	1.シラバスとの関係	様々なシチュエーションから動物福祉を考える	
		2.コマ主題	学校飼育動物について学ぶ①	
		3.コマ主題細目	学校飼育動物に対して行うべき福祉的なこととは何かを理解する	
		4.コマ主題細目深度	現在、学校で飼育されている各種動物たちの管理方法は「5つの自由」を遵守したものか、家庭飼育動物と何がどのように違うのか、またそれらは動物看護師の視点からどのように評価できるものかを思考できる。	
		5.次コマとの関係	学校飼育動物の福祉を思考する	
26	学校飼育動物の福祉② ～本校において～	1.シラバスとの関係	様々なシチュエーションから動物福祉を考える	
		2.コマ主題	学校飼育動物の福祉について学ぶ②	
		3.コマ主題細目	学校飼育動物に対して行うべき福祉的なこととは何かを理解する	
		4.コマ主題細目深度	現在、学校で飼育されている各種動物たちの管理方法は「5つの自由」を遵守したものか、家庭飼育動物と何がどのように違うのか、またそれらは動物看護師の視点からどのように評価できるものかを思考できる。	
		5.次コマとの関係	産業動物の福祉を思考する	
27	産業動物の福祉①	1.シラバスとの関係	様々なシチュエーションから動物福祉を考える	
		2.コマ主題	産業動物の福祉について学ぶ①	
		3.コマ主題細目	産業動物の福祉とはなにか理解する	
		4.コマ主題細目深度	現在の産業動物の福祉の国際的な流れ、我が国の現状を知る。産業動物使用の基本的な考えから発展した「5つの自由」が現在の産業動物になされているのかを思考できる。	
		5.次コマとの関係	産業動物の福祉を思考する	
28	産業動物の福祉②	1.シラバスとの関係	様々なシチュエーションから動物福祉を考える	
		2.コマ主題	産業動物の福祉について学ぶ②	
		3.コマ主題細目	産業動物の福祉とはなにか理解する	
		4.コマ主題細目深度	産業動物は非生涯飼育動物であり、その産業動物の福祉の国際的な流れ、我が国の現状を知る。産業動物使用の基本的な考えから発展した「5つの自由」が現在の産業動物になされているのかを思考できる。	
		5.次コマとの関係	実験動物の福祉を思考する	
29	実験動物の福祉	1.シラバスとの関係	様々なシチュエーションから動物福祉を考える	
		2.コマ主題	実験動物の福祉について学ぶ	
		3.コマ主題細目	実験動物の福祉とはなにか理解する	
		4.コマ主題細目深度	科学において動物を利用する際の基本となる「3R」について、実験動物の福祉的観点から行われる管理、環境エンリッチメントについて思考できる。	
		5.次コマとの関係	野生動物の福祉を思考する	
30	野生動物の福祉	1.シラバスとの関係	様々なシチュエーションから動物福祉を考える	
		2.コマ主題	野生動物の福祉について学ぶ	
		3.コマ主題細目	野生動物の福祉とはなにか理解する	
		4.コマ主題細目深度	野生動物とヒトとの諸問題、野生動物とヒトとの住み分け、共存のために行われている様々な方策、外来種に関する問題点を思考する。	
		5.次コマとの関係		

動物飼養管理学－1

学科	動物看護系学科
コース	
履修条件	
ユニット	
科目名	飼養管理学－1
単位	1
履修時間	30時間
回数	30回
授業形態	講義
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員
教科書	各校の選択に準ずる
参考図書	①エキゾチックアニマル哺乳類編(緑書房) ②やさしいエキゾ学(インターズー)

シラバス(概要)

主にコンパニオンアニマルとして飼育されている小鳥、ウサギ、ハムスター、モルモット、フェレット、小鳥のほか、大型インコ類や猛禽類、爬虫類、両生類の生態や飼育方法を学び、イヌとネコの違いを比較し、その種本来の習性に則した飼育・看護方法に反映することを目的とする。また、日ごろの健康管理について、動物看護師として飼い主に飼育指導できる人材となることを目指す。近年のコンパニオンアニマルの種類多様化に伴い、小動物臨床現場で遭遇する動物種も増加傾向にあり、それぞれの看護対象を正しく理解し扱える動物看護師の需要は高まっていることを学習する。したがってイヌやネコのみならず全ての動物に関して、自らが継続して学習する姿勢を取り、様々な分野に対して興味を示し自主的に行動を起こせる人材となり、動物看護師に対する社会のニーズに対応することを目指す。

評価方法

筆記試験

コマシラバス

50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	エキゾチックアニマル 授業ガイダンス	1.シラバスとの関係	ペットとして飼われているエキゾチックアニマルについて、イヌ、ネコとの違いを理解し、その生理と生態の違いから適正飼育法を理解する。	
		2.コマ主題	エキゾチックアニマルの定義を知り、飼育上の問題点を考える。	
		3.コマ主題細目	エキゾチックアニマルの定義、飼育上の問題	
		4.コマ主題細目深度	エキゾチックアニマルを飼育する理由、飼育上の問題点、イヌ、ネコとの違い、特異的な生態系、密輸問題、脱走・遺棄による外来種としての問題を理解する	
		5.次コマとの関係	ペットとして飼われているエキゾチックアニマルの代表である、ウサギについて学ぶ。	
2	エキゾチックアニマル ウサギ①	1.シラバスとの関係	ペットとして飼われているエキゾチックアニマルについて、イヌ、ネコとの違いを理解し、その生理と生態の違いから適正飼育法を理解する。	
		2.コマ主題	ウサギの正常と生態を理解し、飼育・看護に活かす。	
		3.コマ主題細目	①ウサギの生態と習性　②生理学的データ　③一般的な飼育方法	
		4.コマ主題細目深度	①ウサギの動物界における分類(ペットして飼育されるウサギの分類)、ペットになる種類、身体的・解剖学的・生理学的特徴、生殖器・繁殖の特徴を知る。②寿命やバイタルサインなどの生理学的データを見て、ウサギの特徴を覚える。③一般的な飼育方法(入手方法、飼育環境、食事、日常の管理)を知る。	
		5.次コマとの関係	ウサギの各種検査と疾病に進む。	
3	エキゾチックアニマル ウサギ②	1.シラバスとの関係	ペットとして飼われているエキゾチックアニマルの主な疾病を理解し、動物病院での診察、検査の補助や看護、飼い主指導に活かす。	
		2.コマ主題	ウサギの検査法と疾病を理解し、飼育・看護に活かす。	
		3.コマ主題細目	①検査・採材方法　②代表的な疾病とその看護	
		4.コマ主題細目深度	①視診、身体検査、糞便検査、尿検査、血液検査(採血法)について学ぶ。②ウサギに多く見られる骨折・脱臼、呼吸器疾患、、皮膚疾患、卵巣・子宮疾患、乳腺疾患、精巣疾患、心疾患、眼科疾患について知る。	
		5.次コマとの関係	引き続き、ウサギに好発する疾病とその予防を学ぶ。	
4	エキゾチックアニマル ウサギ③	1.シラバスとの関係	ペットとして飼われているエキゾチックアニマルの主な疾病を理解し、動物病院での診察、検査の補助や看護、飼い主指導に活かす。	
		2.コマ主題	ウサギの疾病を理解し、飼育・看護に活かす。	
		3.コマ主題細目	代表的な疾病とその看護	
		4.コマ主題細目深度	感染症(パスツレラ症、エンセファリトゾーン症、トレポネーマ症、腸毒血症、粘液腸症、皮膚真菌(白癬症)、ミミダニ症、)膀胱結石、歯牙疾患、下顎膿瘍涙管閉塞、消化機能不全、胃拡張、腎不全、肝不全、腸毒血症、ウサギのストレス要因、心環境不適応症候群、ウサギの全身麻酔(気管挿管)、薬剤投与法を知る	
		5.次コマとの関係	ウサギの保定法に進む。	
5	エキゾチックアニマル ウサギ④	1.シラバスとの関係	ウサギの適切なハンドリング法を学び、動物病院での診察の際、適切な保定ができるようになる。	
		2.コマ主題	ウサギの保定法を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	一般的な診察時の保定	
		4.コマ主題細目深度	ケージから出す・移動時の保定、爪切り・雌雄鑑別・腹部触診時の保定、タオルを使った保定のポイントを学ぶ。保定中に起こりうる事故を予測する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、ウサギの保定を学ぶ。	
6	エキゾチックアニマル ウサギ⑤	1.シラバスとの関係	ウサギの適切なハンドリング法を学び、動物病院での診察の際、適切な保定ができるようになる。	
		2.コマ主題	前回に引き続き、ウサギの保定法を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	動物病院での検査時の保定	
		4.コマ主題細目深度	レントゲン撮影時、口腔内検査の保定のポイントを知る。特にレントゲン検査の際は、ウサギにとって無理な体勢を取ることが多い。起こりうる事故を予測する。	
		5.次コマとの関係	ハムスターに進む。	

7	エキゾチックアニマル ハムスター①	1.シラバスとの関係	ペットとして飼われているエキゾチックアニマルについて、イヌ、ネコとの違いを理解し、その生理と生態の違いから適正飼育法を理解する。	
		2.コマ主題	ハムスターの正常と生態を理解し、飼育・看護に活かす。	
		3.コマ主題細目	①ハムスターの生態と習性　②生理学的データ　③一般的な飼育方法	
		4.コマ主題細目深度	①ハムスターの動物界における分類（ペットして飼育されるハムスターの分類）、ペットになる種類、身体的・解剖学的・生理学的特徴、生殖器・繁殖の特徴を知る。②寿命やバイタルサインなどの生理学的データを見て、ハムスターの特徴を覚える。③一般的な飼育方法（入手方法、飼育環境、食事、日常の管理）を知る。	
		5.次コマとの関係	ハムスターの各種検査と疾病に進む。	
8	エキゾチックアニマル ハムスター②	1.シラバスとの関係	ペットとして飼われているエキゾチックアニマルの主な疾病を理解し、動物病院での診察、検査の補助や看護、飼い主指導に活かす。	
		2.コマ主題	ハムスターの検査法と疾病を理解し、飼育・看護に活かす。	
		3.コマ主題細目	①検査・採材方法　②代表的な疾病とその看護	
		4.コマ主題細目深度	①視診、身体検査、糞便検査、尿検査、血液検査（採血法）について学ぶ。②ハムスターに多く見られる皮膚疾患、腫瘍、消化器疾患、口腔・歯科疾患、泌尿器疾患を知る。	
		5.次コマとの関係	引き続き、ハムスターに好発する疾病とその予防を学ぶ。	
9	エキゾチックアニマル ハムスター③	1.シラバスとの関係	ペットとして飼われているエキゾチックアニマルの主な疾病を理解し、動物病院での診察、検査の補助や看護、飼い主指導に活かす。	
		2.コマ主題	ハムスターの疾病を理解し、飼育・看護に活かす。	
		3.コマ主題細目	代表的な疾病とその看護	
		4.コマ主題細目深度	卵巣・子宮疾患、心疾患、眼科疾患、骨折・脱臼、副腎疾患、呼吸器疾患、感染症、薬剤投与法を知る。	
		5.次コマとの関係	ハムスターの保定に進む。	
10	エキゾチックアニマル ハムスター④	1.シラバスとの関係	ハムスターをはじめ、小型げっ歯類の適切なハンドリング法を学び、動物病院での診察の際、適切な保定ができるようになる。	
		2.コマ主題	マウス、ラット、ハムスターの保定法、注意点を知る。	
		3.コマ主題細目	マウス、ラット、ハムスターの保定法	
		4.コマ主題細目深度	ハムスターをはじめとする小型げっ歯類の解剖学的・行動学的特徴を理解し、保定のポイントを知る。ハムスターの場合、頚部の皮膚を強く引くと眼球が突出するので注意が必要である。	
		5.次コマとの関係	フェレットに進む。	
11	エキゾチックアニマル フェレット①	1.シラバスとの関係	ペットとして飼われているエキゾチックアニマルについて、イヌ、ネコとの違いを理解し、その生理と生態の違いから適正飼育法を理解する。	
		2.コマ主題	フェレットの正常と生態を理解し、飼育・看護に活かす。	
		3.コマ主題細目	①フェレットの生態と習性　②生理学的データ　③一般的な飼育方法	
		4.コマ主題細目深度	①フェレットの動物界における分類、身体的・解剖学的・生理学的特徴、生殖器、繁殖の特徴を知る。②寿命やバイタルサインなどの生理学的データを見て、フェレットの特徴を覚える。③飼育方法（入手方法（ファームの証明書、規則）、飼育環境、食事、日常の管理）を知る。	
		5.次コマとの関係	フェレットの各種検査と疾病に進む。	
12	エキゾチックアニマル フェレット②	1.シラバスとの関係	ペットとして飼われているエキゾチックアニマルの主な疾病を理解し、動物病院での診察、検査の補助や看護、飼い主指導に活かす。	
		2.コマ主題	フェレットの検査法と疾病を理解し、飼育・看護に活かす。	
		3.コマ主題細目	①各種検査法と保定法　②代表的な疾患とその看護	
		4.コマ主題細目深度	①身体検査、糞便検査、尿検査、血液検査（採血法）、保定法について学ぶ。②フェレットの疾病予防（ジステンパー感染症、フィラリア症）、フェレットによく見られる皮膚疾患、腫瘍、消化器疾患、肝疾患について知る。	
		5.次コマとの関係	引き続き、フェレットに好発する疾病とその予防を学ぶ。	
13	エキゾチックアニマル フェレット③	1.シラバスとの関係	ペットとして飼われているエキゾチックアニマルの主な疾病を理解し、動物病院での診察、検査の補助や看護、飼い主指導に活かす。	
		2.コマ主題	フェレットの疾病を理解し、飼育・看護に活かす。	
		3.コマ主題細目	代表的な疾病とその看護	
		4.コマ主題細目深度	口腔・歯科疾患、呼吸器疾患、腎疾患、泌尿器疾患、心疾患、脾臓疾患、副腎疾患、前立腺疾患、卵巣疾患、脾臓疾患、アリューシャン病、骨折・脱臼について知る。	
		5.次コマとの関係	モルモットに進む。	

14	エキゾチックアニマル モルモット①	1.シラバスとの関係	ペットとして飼われているエキゾチックアニマルについて、イヌ、ネコとの違いを理解し、その生理と生態の違いから適正飼育法を理解する。	
		2.コマ主題	モルモットの正常と生態を理解し、飼育・看護に活かす。	
		3.コマ主題細目	①モルモットの生態と習性　②生理学的データ　③一般的な飼育方法	
		4.コマ主題細目深度	①モルモットの動物界における分類（ペットして飼育されるモルモットの分類）、ペットになる種類、身体的・解剖学的・生理学的特徴、生殖器・繁殖の特徴を知る。②寿命やバイタルサインなどの生理学的データを見て、モルモットの特徴を覚える。③一般的な飼育方法（入手方法、飼育環境、食事、日常の管理）を知る。	
		5.次コマとの関係	モルモットの各種検査と疾病に進む。	
15	エキゾチックアニマル モルモット②	1.シラバスとの関係	ペットとして飼われているエキゾチックアニマルの主な疾病を理解し、動物病院での診察、検査の補助や看護、飼い主指導に活かす。	
		2.コマ主題	モルモットの検査法と疾病を理解し、飼育・看護に活かす。	
		3.コマ主題細目	①各種検査法と保定法　②代表的な疾患とその看護	
		4.コマ主題細目深度	①身体検査、糞便検査、尿検査、血液検査（採血法）、保定法について学ぶ。②モルモットによく見られる皮膚疾患、腫瘍、消化器疾患、口腔・歯科疾患、呼吸器疾患、泌尿器疾患について知る。	
		5.次コマとの関係	引き続き、モルモットに好発する疾病とその予防を学ぶ。	
16	エキゾチックアニマル モルモット③	1.シラバスとの関係	ペットとして飼われているエキゾチックアニマルの主な疾病を理解し、動物病院での診察、検査の補助や看護、飼い主指導に活かす。	
		2.コマ主題	モルモットの疾病を理解し、飼育・看護に活かす。	
		3.コマ主題細目	代表的な疾病とその看護	
		4.コマ主題細目深度	卵巣・子宮疾患、生殖器疾患、造血系疾患、骨折、眼科疾患、薬剤投与法を知る。	
		5.次コマとの関係	ウサギ、ハムスター、フェレット、モルモットの各ポイントが理解できたかを確認する。	
17	確認テスト①	1.シラバスとの関係	ペットとして飼われているエキゾチックアニマルについて、イヌ、ネコとの違いを理解し、その生理と生態の違いから適正飼育法を理解する。	
		2.コマ主題	これまで学んだウサギ、ハムスター、フェレット、モルモットについて理解できたかを確認する。	
		3.コマ主題細目	確認テスト	
		4.コマ主題細目深度	ウサギ、ハムスター、フェレット、モルモットについての確認テストで8割正解することができる。	
		5.次コマとの関係	小鳥に進む。	
18	エキゾチックアニマル 小鳥①	1.シラバスとの関係	ペットとして飼われているエキゾチックアニマルについて、イヌ、ネコとの違いを理解し、その生理と生態の違いから適正飼育法を理解する。	
		2.コマ主題	小鳥の正常と生態を理解し、飼育・看護に活かす。	
		3.コマ主題細目	①小鳥の生態と習性　②生理学的データ　③一般的な飼育方法	
		4.コマ主題細目深度	①ペットして飼育される小鳥の種類、身体的・解剖学的・生理学的特徴、生殖器・繁殖の特徴を知る。②寿命やバイタルサインなどの生理学的データを見て、小鳥の特徴を覚える。③一般的な飼育方法（入手方法、飼育環境、食事、日常の管理）を知る。	
		5.次コマとの関係	小鳥の各種検査と疾病に進む。	
19	エキゾチックアニマル 小鳥②	1.シラバスとの関係	ペットとして飼われているエキゾチックアニマルの主な疾病を理解し、動物病院での診察、検査の補助や看護、飼い主指導に活かす。	
		2.コマ主題	小鳥の診察、身体検査（視診）の手順と保定法を理解し、飼育・看護に活かす。	
		3.コマ主題細目	小鳥の診察、身体検査（視診）の手順と保定法	
		4.コマ主題細目深度	視診による身体検査手順、身体検査時の保定について学ぶ。小鳥は胸部を圧迫すると呼吸が制限されることを知る。	
		5.次コマとの関係	小鳥の主な疾病と予防について学ぶ。	
20	エキゾチックアニマル 小鳥③	1.シラバスとの関係	ペットとして飼われているエキゾチックアニマルの主な疾病を理解し、動物病院での診察、検査の補助や看護、飼い主指導に活かす。	
		2.コマ主題	小鳥の解剖学的特徴と疾病を理解し、飼育・看護に活かす。	
		3.コマ主題細目	小鳥の呼吸器疾患と保定の注意点	
		4.コマ主題細目深度	小鳥の呼吸様式を知り、保定による呼吸困難の発生機序を知る。呼吸困難の症状、メカニズム、酸素化の効果と方法、呼吸器疾患について知る。	
		5.次コマとの関係	引き続き、小鳥の主な疾病と予防について学ぶ。	

21	エキゾチックアニマル 小鳥④	1.シラバスとの関係	ペットとして飼われているエキゾチックアニマルの主な疾病を理解し、動物病院での診察、検査の補助や看護、飼い主指導に活かす。	
		2.コマ主題	小鳥の解剖学的特徴と検査法を理解し、飼育・看護に活かす。	
		3.コマ主題細目	小鳥の消化器系の構造と疾患	
		4.コマ主題細目深度	小鳥の消化器の構造、検査(触診と視診、そ嚢検査、糞便検査)について知る。主な消化器疾患の症状と予防について学ぶ。	
		5.次コマとの関係	引き続き、小鳥の主な疾病と予防について学ぶ。	
22	エキゾチックアニマル 小鳥⑤	1.シラバスとの関係	ペットとして飼われているエキゾチックアニマルの主な疾病を理解し、動物病院での診察、検査の補助や看護、飼い主指導に活かす。	
		2.コマ主題	小鳥の解剖学的特徴と検査法を理解し、飼育・看護に活かす。	
		3.コマ主題細目	①小鳥の強制給餌　②小鳥の皮膚疾患	
		4.コマ主題細目深度	①経口カテーテルの挿入法とカロリー計算、流動食の作成法、強制給餌が不適応となる様態、食性の違いによる病院食の例を知る。②小鳥によく見られる皮膚疾患の症状と予防について学ぶ。	
		5.次コマとの関係	大型インコ類に進む。	
23	エキゾチックアニマル 大型インコ類①	1.シラバスとの関係	ペットとして飼われているエキゾチックアニマルについて、イヌ、ネコとの違いを理解し、その生理と生態の違いから適正飼育法を理解する。	
		2.コマ主題	大型インコ類の正常と生態を理解し、飼育・看護に活かす。	
		3.コマ主題細目	①大型インコ類の生態と習性　②生理学的データ　③一般的な飼育方法	
		4.コマ主題細目深度	①大型インコ類の特徴(食性、生活環境)、ペットになる種類、身体的・解剖学的・生理学的特徴を知る。②寿命やバイタルサインなどの生理学的データを見て、大型インコ類の特徴を覚える。③飼育環境(入手方法、食事、日常の管理)、雌雄の鑑別について知る。	
		5.次コマとの関係	猛禽類に進む。	
24	エキゾチックアニマル 猛禽類①	1.シラバスとの関係	ペットとして飼われているエキゾチックアニマルについて、イヌ、ネコとの違いを理解し、その生理と生態の違いから適正飼育法を理解する。	
		2.コマ主題	猛禽類の正常と生態を理解し、飼育・看護に活かす。	
		3.コマ主題細目	①猛禽類の生態と習性　②生理学的データ　③一般的な飼育方法	
		4.コマ主題細目深度	①猛禽類の特徴(食性、生活環境)、ペットになる種類、身体的・解剖学的・生理学的特徴を知る。②寿命やバイタルサインなどの生理学的データを見て、猛禽類の特徴を覚える。③飼育環境(入手方法、食事、日常の管理)、雌雄の鑑別について知る。	
		5.次コマとの関係	大型インコ類、猛禽類の看護に進む。	
25	エキゾチックアニマル 猛禽類②	1.シラバスとの関係	ペットとして飼われているエキゾチックアニマルの主な疾病を理解し、動物病院での診察、検査の補助や看護、飼い主指導に活かす。	
		2.コマ主題	大型インコ類、猛禽類の検査法と保定を理解し、飼育・看護に活かす。	
		3.コマ主題細目	猛禽類の診察、身体検査(視診)の手順と保定法	
		4.コマ主題細目深度	視診による身体検査手順、身体検査時の保定について知る。	
		5.次コマとの関係	引き続き、大型インコ類、猛禽類の主な疾病と予防について学ぶ。	
26	エキゾチックアニマル 猛禽類③	1.シラバスとの関係	ペットとして飼われているエキゾチックアニマルの主な疾病を理解し、動物病院での診察、検査の補助や看護、飼い主指導に活かす。	
		2.コマ主題	大型インコ類、猛禽類の疾病を理解し、飼育・看護に活かす。	
		3.コマ主題細目	猛禽類の疾患と保定の注意点	
		4.コマ主題細目深度	大型インコ類、猛禽類によく見られる疾患の症状と予防について学ぶ。また、強制給餌についてその方法と注意点を知る。	
		5.次コマとの関係	猛禽類の疾病を理解し、飼育・看護に活かす。	
27	エキゾチックアニマル 爬虫類①	1.シラバスとの関係	ペットとして飼われているエキゾチックアニマルについて、イヌ、ネコとの違いを理解し、その生理と生態の違いから適正飼育法を理解する。	
		2.コマ主題	爬虫類の正常と生態を理解し、飼育・看護に活かす。	
		3.コマ主題細目	①爬虫類の生態と習性　②生理学的データ　③一般的な飼育方法	
		4.コマ主題細目深度	①爬虫類の特徴(食性、生活環境)、ペットになる種類、身体的・解剖学的・生理学的特徴を知る。②寿命やバイタルサインなどの生理学的データを見て、爬虫類の特徴を覚える。③飼育環境(入手方法、食事、日常の管理)、雌雄の鑑別について知る。	
		5.次コマとの関係	爬虫類の疾患と保定の注意点を学ぶ。	

動物飼養管理学－1

28	エキゾチックアニマル 爬虫類②	1.シラバスとの関係	ペットとして飼われているエキゾチックアニマルの主な疾病を理解し、動物病院での診察、検査の補助や看護、飼い主指導に活かす。	
		2.コマ主題	爬虫類の疾病を理解し、飼育・看護に活かす。	
		3.コマ主題細目	爬虫類の疾患と保定の注意点	
		4.コマ主題細目深度	爬虫類によく見られる疾患の症状と予防について学ぶ。また、保定の注意点を知る。	
		5.次コマとの関係	両生類に進む。	
29	エキゾチックアニマル 両生類①	1.シラバスとの関係	ペットとして飼われているエキゾチックアニマルについて、イヌ、ネコとの違いを理解し、その生理と生態の違いから適正飼育法を理解する。	
		2.コマ主題	両生類の正常と生態を理解し、飼育・看護に活かす。	
		3.コマ主題細目	①両生類の生態と習性　②生理学的データ　③一般的な飼育方法	
		4.コマ主題細目深度	①両生類の特徴（食性、生活環境）、ペットになる種類、身体的・解剖学的・生理学的特徴を知る。②寿命やバイタルサインなどの生理学的データを見て、両生類の特徴を覚える。③飼育環境（入手方法、食事、日常の管理）、雌雄の鑑別について知る。	
		5.次コマとの関係	総まとめと確認テストを行う。	
30	確認テスト②	1.シラバスとの関係	ペットとして飼われているエキゾチックアニマルについて、イヌ、ネコとの違いを理解し、その生理と生態の違いから適正飼育法を理解する。	
		2.コマ主題	これまで学んだエキゾチックアニマルについて理解できたかどうかを確認する。	
		3.コマ主題細目	確認テスト	
		4.コマ主題細目深度	ウサギ、ハムスター、フェレット、モルモット、小鳥、両生類、爬虫類についての確認テストで8割正解することがで	
		5.次コマとの関係		

動物飼養管理学－2

学科	動物看護系学科	シラバス(概要)
コース		動物看護師の看護対象に含まれる実験動物・産業動物・野生動物・展示動物について知識を深め、専門職として活躍できる能力を身につける。またその能力を生かし、動物看護師の職域を広げ、社会的認知を得られる動物看護師となることを目指す。各分野で、伴侶動物とは異なる生理・生態・行動・習性・疾病・関係法令・飼育管理方法などを学ぶことにより、小動物臨床現場において応用可能な知識・技術を習得し、臨機応変な対応・考え方のできる動物看護師となり、社会人として必要な教養や一般常識を身につけることが重要である。それぞれの動物に対し、伴侶動物とは異なる愛護精神が必要となるため、多様性のある物事のとらえ方、動物との接し方を学び、かつ動物看護師としてどのように関わって行くかを考え思慮を深めることで、多方向から看護対象をとらえることが出来る看護感を養うとともに、正しい知識を身につけそれを社会に普及・啓発し動物福祉の観点からヒトと動物の共生に寄与する人材となることを目指す。
ユニット		
科目名	飼養管理学－2	
単位	1	
履修時間	30時間	
回数	30回	
授業形態	講義	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	筆記試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①家畜飼育の基礎(農文協)	

コマシラバス

50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	実験動物①	1.シラバスとの関係	実験動物の社会的役割と目的、管理について理解し、動物福祉の観点からヒトと動物の共生に寄与する。	
		2.コマ主題	実験動物とは何かを知り、専門用語を習得する。	
		3.コマ主題細目	①実験動物とは ②実験動物の使用数 ③医薬品開発	
		4.コマ主題細目深度	①実験動物とは何かを知る。実験動物社会的役割や、実験動物に関する専門用語の解説ができるようになる。②日本における実験動物使用数の推移とその要因を知る。③大まかな医薬品開発過程を知る。	
		5.次コマとの関係	動物実験の歴史を学ぶ。	
2	実験動物②	1.シラバスとの関係	実験動物の社会的役割と目的、管理について理解し、動物福祉の観点からヒトと動物の共生に寄与する。	
		2.コマ主題	動物実験の歴史的背景と認識を深める。	
		3.コマ主題細目	医学領域における実験動物の貢献	
		4.コマ主題細目深度	動物実験反対運動の歴史と組織概要を知り、様々な観点から動物実験をとらえる概念を養う	
		5.次コマとの関係	実験動物関係法規と動物福祉について学ぶ。	
3	実験動物③	1.シラバスとの関係	実験動物の社会的役割と目的、管理について理解し、動物福祉の観点からヒトと動物の共生に寄与する。	
		2.コマ主題	現在施行されている実験動物関係法規を知り、飼育管理に活かす。	
		3.コマ主題細目	関係法規、実験動物福祉、適正な実験動物の作出方法と理論	
		4.コマ主題細目深度	実験動物関係法規と動物福祉について、科学的に適正な実験動物の定義と作出方法(遺伝的統御と微生物学的統御)を知る。3Rについて説明できるようになる。	
		5.次コマとの関係	実験動物の栄養と飼料・飼育管理方法に進む。	
4	実験動物④	1.シラバスとの関係	実験動物の社会的役割と目的、管理について理解し、動物福祉の観点からヒトと動物の共生に寄与する。	
		2.コマ主題	実験動物の栄養と飼料・飼育管理方法について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	栄養学基礎と飼料の特徴、飼育環境の基準	
		4.コマ主題細目深度	動物全般に当てはまる栄養学の基礎、実験動物の使用目的に則した飼料の種類・形状・保管方法、動物実験を行う施設の環境基準と適応動物、飼育管理方法を知る。また、「5つの自由」を踏まえた飼育管理ができるようになる。	
		5.次コマとの関係	動物種別の飼育管理方法を知る	
5	実験動物⑤	1.シラバスとの関係	実験動物の社会的役割と目的、管理について理解し、動物福祉の観点からヒトと動物の共生に寄与する。	
		2.コマ主題	代表的な実験動物の種類について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	マウス、ラット、モルモット、ウサギ、スナネズミ、サル類、	
		4.コマ主題細目深度	各動物の特徴、習性、動物実験での利用領域、代表的なモデル(疾患モデルを含む)と、動物種別の疾病について知る。	
		5.次コマとの関係	動物実験の主義と実験器具に進む。	
6	実験動物⑥	1.シラバスとの関係	実験動物の社会的役割と目的、管理について理解し、動物福祉の観点からヒトと動物の共生に寄与する。	
		2.コマ主題	小型げっ歯類の実験における手技と実験器具について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	マウス・ラットの検体採取方法、実験器具の紹介	
		4.コマ主題細目深度	採血方法、薬物投与方法、保定具、実験器具を知る。それぞれの器具の取り扱い方法を学び、飼育管理に活かす。	
		5.次コマとの関係	産業動物に進む。	
7	産業動物 畜産学概論	1.シラバスとの関係	産業動物の社会的役割と目的、管理について理解し、動物福祉の観点からヒトと動物の共生に寄与する。	
		2.コマ主題	畜産学概論を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	畜産とは何か	
		4.コマ主題細目深度	畜産とは、家畜とは何か。産業動物と愛玩動物との違い、役割を知る。	
		5.次コマとの関係	産業動物の種類と特徴、飼育管理に進む。	

動物飼養管理学－2

8	産業動物 ウシの特徴	1.シラバスとの関係	産業動物の社会的役割と目的、管理について理解し、動物福祉の観点からヒトと動物の共生に寄与する。	
		2.コマ主題	ウシの解剖学的特徴を理解し、飼育管理に活かす。	
		3.コマ主題細目	ウシの解剖学的特徴	
		4.コマ主題細目深度	ウシの解剖学的特徴と種類・用途（乳用・肉用）による形態的特徴の違いを知る。品種と用途の関連性を理解する。	
		5.次コマとの関係	ウシの繁殖生理に進む。	
9	産業動物 ウシの特徴	1.シラバスとの関係	産業動物の社会的役割と目的、管理について理解し、動物福祉の観点からヒトと動物の共生に寄与する。	
		2.コマ主題	ウシの繁殖生理と飼育管理を理解し、実践に活かす。	
		3.コマ主題細目	ウシの繁殖生理、飼育管理	
		4.コマ主題細目深度	ウシの繁殖生理と日常の飼育管理方法について知る。生産性向上のためにどのような飼育環境がよいかを考える。また、「5つの自由」を踏まえた飼育管理ができるよう	
		5.次コマとの関係	ウマとブタに進む。	
10	産業動物 ウマ、ブタの特徴	1.シラバスとの関係	産業動物の社会的役割と目的、管理について理解し、動物福祉の観点からヒトと動物の共生に寄与する。	
		2.コマ主題	ウマ、ブタの解剖学的特徴と種類について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	ウマ、ブタの形態的、解剖学的特徴	
		4.コマ主題細目深度	ウマ、ブタの解剖学的特徴と種類・用途による形態的特徴の違いを学ぶ。品種と用途の関連性を理解する。	
		5.次コマとの関係	ウマ、ブタの繁殖生理に進む。	
11	産業動物 ウマ、ブタの特徴	1.シラバスとの関係	産業動物の社会的役割と目的、管理について理解し、動物福祉の観点からヒトと動物の共生に寄与する。	
		2.コマ主題	ウマ、ブタの繁殖生理と飼育管理を理解し、実践に活かす。	
		3.コマ主題細目	ウマ、ブタの繁殖生理、飼育管理	
		4.コマ主題細目深度	ウマ、ブタの繁殖生理と日常の飼育管理方法について知る。生産性向上のためにどのような飼育環境がよいかを考える。「5つの自由」を踏まえた飼育管理ができるようになる。	
		5.次コマとの関係	ニワトリに進む。	
12	産業動物 ニワトリの特徴	1.シラバスとの関係	産業動物の社会的役割と目的、管理について理解し、動物福祉の観点からヒトと動物の共生に寄与する。	
		2.コマ主題	ニワトリの解剖学的特徴と種類、飼育管理について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	ニワトリの解剖学的特徴、飼育管理	
		4.コマ主題細目深度	ニワトリの特徴・種類・用途について学ぶ。品種と用途の関連性を理解する。卵用鶏、肉用鶏の飼育管理方法を学び、それらの違いや特徴を知る。	
		5.次コマとの関係	ヤギ、ヒツジなどの特用家畜に進む。	
13	産業動物 ヤギ、ヒツジなどの 特用家畜の特徴	1.シラバスとの関係	産業動物の社会的役割と目的、管理について理解し、動物福祉の観点からヒトと動物の共生に寄与する。	
		2.コマ主題	ヤギ、ヒツジなどの特用家畜の形態的、解剖学的特徴を理解し、飼育管理に活かす。	
		3.コマ主題細目	ヤギ、ヒツジなどの特用家畜の解剖学的特徴、飼育管理	
		4.コマ主題細目深度	ヤギ、ヒツジなどの特用家畜の解剖学的特徴や種類、用途について学ぶ。また、繁殖生理と日常の飼育管理方法について知る。	
		5.次コマとの関係	産業動物の疾病に進む。	
14	産業動物 疾病と予防	1.シラバスとの関係	産業動物の主な疾病と予防法を理解し、看護と飼い主（飼養者）指導に活かす。	
		2.コマ主題	産業動物関連法規で指定されている産業動物の主な疾病について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	ウシ、ウマ、ブタ、ヤギ、ヒツジ、ニワトリの疾病	
		4.コマ主題細目深度	家畜伝染病予防法における家畜法定伝染病及び届出伝染病にはどのようなものがあるかを知る。ウシ、ウマ、ブタ、ヤギ、ヒツジ、ニワトリの疾病とワクチネーションプログラムについて学ぶ。	
		5.次コマとの関係	産業動物の人工授精に進む。	
15	産業動物 人工授精技術	1.シラバスとの関係	産業動物の社会的役割と目的、管理について理解し、動物福祉の観点からヒトと動物の共生に寄与する。	
		2.コマ主題	産業動物（主にウシ）の人工授精技術について知る。	
		3.コマ主題細目	ウシの人工授精技術	
		4.コマ主題細目深度	産業動物の人工授精についてのメリット、デメリット及び、関係法規について知る。特に実施率ほぼ100%であるウシの人工授精関連技術について知る	
		5.次コマとの関係	HACCPに進む。	
15	産業動物 HACCP1	1.シラバスとの関係	安全性の高い食品生産の仕組みを理解する。	
		2.コマ主題	家畜の生産段階における衛生管理に必要な知識としてHACCPについて知る。	
		3.コマ主題細目	畜産農場におけるHACCP	
		4.コマ主題細目深度	安全な畜産物の生産の為に実施されている、衛生・品質管理方式であるHACCPについて知る。具体的な衛生管理を学び、飼育に活かす。	
		5.次コマとの関係	畜産物に進む。	

動物飼養管理学－2

16	産業動物 畜産物	1.シラバスとの関係	安全性の高い食品生産の仕組みを理解する。	
		2.コマ主題	畜産物と、その生産に関する知識を習得する。	
		3.コマ主題細目	畜産物とその生産に関する生理	
		4.コマ主題細目深度	泌乳の生理と、搾乳作業における注意事項について知る。牛乳の品質と利用について知る。肉や卵の品質と利用について知り、畜産物についての理解を深める。	
		5.次コマとの関係	実験動物、産業動物についての確認テストを行う。	
17	確認テスト①	1.シラバスとの関係	実験動物、産業動物の社会的役割と目的、管理について理解し、動物福祉の観点からヒトと動物の共生に寄与する。	
		2.コマ主題	テストを行い、実験動物、産業動物について理解できたかを確認する。	
		3.コマ主題細目	確認テスト	
		4.コマ主題細目深度	実験動物・産業動物についての確認テストで8割正解することができる。	
		5.次コマとの関係	野生動物、展示動物に進む。	
18	野生動物／展示動物 授業ガイダンス	1.シラバスとの関係	展示動物の社会的役割と目的及び野生動物と環境保全を理解し、動物福祉の観点からヒトと動物の共生に寄与する。	
		2.コマ主題	野生動物学を学ぶにあたり必要なことを確認する。	
		3.コマ主題細目	授業展開の仕方、動物に関わる職業人に求められる要	
		4.コマ主題細目深度	動物看護師のみならず、動物に携わり、人に接する職業において必要とされる条件をを知る。その必要条件を意識し、授業に取り組む。	
		5.次コマとの関係	動物の分類に進む。	
19	野生動物／展示動物 動物の分類	1.シラバスとの関係	展示動物の社会的役割と目的及び野生動物と環境保全を理解し、動物福祉の観点からヒトと動物の共生に寄与する。	
		2.コマ主題	動物の分類と定義を知る。	
		3.コマ主題細目	ヒトに関わる動物と野生動物の分類と解説	
		4.コマ主題細目深度	野生動物、展示動物、家畜、エキゾチックアニマル、外来動物の分類とその定義を知る。また、それぞれ代表的な動物種と特徴、利用分野を知る。	
		5.次コマとの関係	野生動物関連法規に進む。	
20	野生動物／展示動物 動物関連法規	1.シラバスとの関係	展示動物の社会的役割と目的及び野生動物と環境保全を理解し、動物福祉の観点からヒトと動物の共生に寄与する。	
		2.コマ主題	動物関連法規について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	各法令名とその内容	
		4.コマ主題細目深度	動物の愛護及び管理に関する法律、展示動物の飼養及び保管に関する基準、実験動物の飼養及び保管並びに苦痛の軽減に関する基準、産業動物の飼養及び保管に関する基準、家庭動物等の飼養及び保管に関する基準、特定動物の飼養又は保管の方法と細目、身体障害者補助犬法、鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律、特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律等をはじめ、諸外国との動物関係条約についてその概要を知る。特にワシントン条約とラムサール条約を理解する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、動物関連法規について学ぶ。	
21	野生動物／展示動物 外来生物法と外来生物	1.シラバスとの関係	展示動物の社会的役割と目的及び野生動物と環境保全を理解し、動物福祉の観点からヒトと動物の共生に寄与する。	
		2.コマ主題	動物関連法規について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	外来生物法と外来生物	
		4.コマ主題細目深度	外来生物法の概要、外来生物の定義と問題点、外来生物との交雑の危険性、外来生物の種類と特徴を学ぶ。外来生物が在来動物に及ぼす影響を知る。	
		5.次コマとの関係	動物の生物学用語に進む。	
22	野生動物／展示動物 動物の生物学用語	1.シラバスとの関係	展示動物の社会的役割と目的及び野生動物と環境保全を理解し、動物福祉の観点からヒトと動物の共生に寄与する。	
		2.コマ主題	生物学用語を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	ベルグマンの法則、アレンの法則、グロージャーの法則	
		4.コマ主題細目深度	各法則の概要と代表動物、テリトリーの意味、マーキングの方法と意義、インプリンティングの意味、性的二形の意味と実例、収斂進化の意味と実例、適応放散の意味と実例、共進化、食物連鎖について学び、展示解説に活かす。	
		5.次コマとの関係	動物展示に関する知識を習得する。	
23	野生動物／展示動物 動物展示	1.シラバスとの関係	展示動物の社会的役割と目的及び野生動物と環境保全を理解し、動物福祉の観点からヒトと動物の共生に寄与する。	
		2.コマ主題	動物の適正な展示方法を知る。	
		3.コマ主題細目	動物、飼育員、観客の三者に考慮した展示	
		4.コマ主題細目深度	展示動物の福祉、飼育員の安全、観客の欲求と満足を理解し、それらを取り入れた展示方法を知る。	
		5.次コマとの関係	展示動物の飼育管理方法に進む。	

動物飼養管理学－2

24	野生動物／展示動物 展示動物	1.シラバスとの関係	展示動物の社会的役割と目的及び野生動物と環境保全を理解し、動物福祉の観点からヒトと動物の共生に寄与する。	
		2.コマ主題	展示動物の飼育管理方法について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	展示動物を飼育管理する際の留意点	
		4.コマ主題細目深度	観察による健康状態のチェック、繁殖生理、飼料設計と給餌方法、衛生管理について理解し、動物展示における衛生管理に活かす。	
		5.次コマとの関係	展示動物の疾病と予防、治療に進む。	
25	野生動物／展示動物 展示動物	1.シラバスとの関係	展示動物の主な疾患と予防法を理解し、適正な飼育、看護に活かす。	
		2.コマ主題	展示動物の主な疾病とその予防と治療について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	展示動物の疾病とその予防と治療のための留意点	
		4.コマ主題細目深度	展示動物の傷病（人獣共通感染症を含む）の原因を理解し、予防策および治療時の留意事項を知る。動物展示における安全管理に活かす。	
		5.次コマとの関係	展示動物の危機管理に進む。	
26	野生動物／展示動物 展示動物	1.シラバスとの関係	動物展示施設における脱出事故を知り、危機管理に活かす。	
		2.コマ主題	展示動物の脱出事故と動物の捕獲・保定方法を知る。	
		3.コマ主題細目	展示動物の脱出事故の実例、捕獲・保定法	
		4.コマ主題細目深度	展示動物の脱出事故の実例から、事故発生と防止策等の留意点、脱出時の動物の捕獲・保定の手段と手順を知る。動物展示施設における危機管理に活かす。	
		5.次コマとの関係	野生動物の現状に進む。	
27	野生動物／展示動物 野生動物	1.シラバスとの関係	野生動物と環境保全を理解し、動物福祉の観点からヒトと動物の共生に寄与する。	
		2.コマ主題	野生動物の現状を知る。	
		3.コマ主題細目	国内外の野生動物の生息状況	
		4.コマ主題細目深度	国内外の野生動物の生息状況とその推移、減少理由、保護の必要性につて理解する。	
		5.次コマとの関係	希少動物保護の関連条約・法令、日本における代表種を知る。	
28	野生動物／展示動物 希少動物の保護増殖	1.シラバスとの関係	野生動物と環境保全を理解し、動物福祉の観点からヒトと動物の共生に寄与する。	
		2.コマ主題	希少動物に関する知識を習得する。	
		3.コマ主題細目	希少動物保護関連条約・法令、レッドリスト、国内の希少動物	
		4.コマ主題細目深度	希少動物保護の関連条約・法令、国政自然保護連合レッドリストカテゴリー、日本版レッドデータブック、日本における希少動物の現状、希少動物の保護・繁殖についての取り組みについて学ぶ。	
		5.次コマとの関係	野生動物と環境保全に進む。	
29	野生動物／展示動物 野生動物と環境保全	1.シラバスとの関係	野生動物と環境保全を理解し、動物福祉の観点からヒトと動物の共生に寄与する。	
		2.コマ主題	野生動物の生息環境を知る。	
		3.コマ主題細目	里山保護の必要性、有害鳥獣（外来生物を含む）と環境問題	
		4.コマ主題細目深度	野生動物の生活環境の保全と環境保全の必要性、自然保護のメリットとデメリット、有害鳥獣駆除に関する法律（鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律、特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律）、野生鳥獣が有害鳥獣と言われる理由、有害鳥獣と外来生物（農林水産被害、生態系の崩壊・混乱、人の生命・身体への危害）を知る。また、野生動物を展示動物へ転化する際の注意点などを知る。	
		5.次コマとの関係	野生動物・展示動物の確認テストを行う。	
30	確認テスト②	1.シラバスとの関係	展示動物の社会的役割と目的及び野生動物と環境保全を理解し、動物福祉の観点からヒトと動物の共生に寄与する。	
		2.コマ主題	テストを行い、展示動物、野生動物について理解できたかを確認する。	
		3.コマ主題細目	確認テスト	
		4.コマ主題細目深度	野生動物・展示動物についての確認テストで8割正解することができる。	
		5.次コマとの関係		

動物看護学

学科	動物看護系学科	シラバス（概要）
コース		小動物診療は、ますます高度化し、動物病院においては獣医師のほかに、「診療の補助行為をはじめとする種々の動物医療関連業務」に携わり、かつ飼い主に対する適切な世話や指導を行う動物看護師の重要性が大きくなってきた。単に獣医師の補助的サポートをするだけではなく、獣医師が為せる職域ではない「動物看護学」を学び、職域として確立する。動物看護師は、獣医師の業務である診断、処方、手術、予後の判定以外の多岐にわたる業務をこなさねばならない。「動物看護学」では、概論として動物看護とは何か、対象は何か、職域は何かを学んだ上で動物看護過程について学習する。まずは動物看護技術を身に付ける以前に必要な要素について概論で学び、動物看護師を目指す目的に向かってステップアップをする。
履修条件		
ユニット		
科目名	動物看護学	
単位	1	
履修時間	15時間	
回数	15回	
授業形態	講義	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	筆記試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①基礎動物看護学（インターズー）②基礎看護技術（インターズー）③動物看護者の倫理綱領2009（日本動物看護職協会）④今からはじめる動物看護過程（インターズー）⑤動物看護実践基準（インターズー）⑥動物看護実践ハンドブック（インターズー）⑦系統看護講座看護学概論（医学書院）⑧系統看護講座基礎看護技術Ⅰ（医学書院）⑨基礎看護技術Ⅱ（医学書院）	

コマシラバス

50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	基礎の動物看護学編 動物看護学概論①	1.シラバスとの関係	動物看護学の中で、動物看護の基本となる概念を学ぶ	
		2.コマ主題	動物看護の本質を説明でき、動物看護の概念が説明できる動物看護学の基本となる概念を学ぶ	
		3.コマ主題細目	動物・環境・健康・動物看護・人間を基にして、獣医療・保健・福祉のなかで動物看護の果たす役割を理解し、動物看護について考え探究する姿勢を修得する	
		4.コマ主題細目深度	動物看護とは何か、を事例のスライド写真を見ながら考える。動物看護の目的を考える。今後の授業でグループワークをし、個人の考えではなくグループの意見を集約したりコミュニケーションを取って回答を構築していく作業をするのでグループの仲間作りをする。その上で、動物看護師は、動物がどんな時にだれのために、どんなことをするのかということがわかるようになる	
		5.次コマとの関係	動物看護師と獣医師の職の違いを知る	
2	動物看護学概論②	1.シラバスとの関係	動物看護学を学ぶ上で、業務を考える	
		2.コマ主題	動物看護師の業務と獣医師の業務の違いを確認する	
		3.コマ主題細目	動物看護師の業務には何があるのか、を考える。また、動物病院の中でチームとして活躍するためには獣医師しかできない職域の理解をしたうえで、動物看護師の仕事を考えてみる	
		4.コマ主題細目深度	獣医療における動物看護師の役割を考える。獣医師が病気を診ることが職務であるに対して、動物看護師は動物全体を看るのだ、ということに気が付くような学習をする。これは動物看護師にしかできないことであり、動物看護師は獣医師の補助役のみが職務でないことの確認をする	
		5.次コマとの関係	動物看護の定義をし、それを助けるための知識としてヒトの看護の歴史を学ぶ	
3	動物看護学概論③	1.シラバスとの関係	動物の看護学を学ぶために人医療の看護師の先人を知る	
		2.コマ主題	ナイチンゲールとヘンダーソン女史について学ぶ	
		3.コマ主題細目	動物看護師もヒトの看護師のイメージに重なるところが多くあるため、ナイチンゲールとヘンダーソンの理論について学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	動物看護の実際、専門職としての看護技術の必要性を知る。ナイチンゲールの言葉の中から、全てに共通する看護技術として、観察力の必要性を学ぶ。ヘンダーソンの言葉を参考にして、技術を発揮する場面の状況を理解する。動物看護を行う上で必要な技術の意義を理解し、専門職としての動物看護技術について考えられるようにする	
		5.次コマとの関係	3回分のまとめと確認テストを実施する	
4	動物看護学概論④	1.シラバスとの関係	動物看護学が必要な場面とは、どんな場面なのか。そして動物看護師が活躍できるのはどんな時なのかを学ぶ	
		2.コマ主題	動物看護が必要な時とは、どんな場面だろうか。動物看護師が活躍できる場面を考えて、理解できるようになる	
		3.コマ主題細目	動物看護師が活躍する場面は、動物の一生涯においてであり、獣医療が行われている臨床現場だけではないことを確認する。	
		4.コマ主題細目深度	動物の一生涯において動物看護の関わりを持つ場面にはどんなステージがあるのか、を確認してみる。看護の対象となる時期は、病気の時だけでなく健康な時には現状を維持し、更なる病気の予防をすること。病気の時には獣医療の補助及び二次的な疾患の発症を予測してそれを予防すること。回復時には、動物の日常生活の自立を助ける。そして回復のない終末期を迎える時には、苦しみのない平和な死を迎えられるように補助が必要になることを知る。死後の動物の体を美しくし、飼い主の悲しみを少しでも無くすことができるよう対応できることも動物看護師の大きな仕事であることを学習する	
		5.次コマとの関係	動物看護師が関わることがある動物の一生涯のステージを知った上で、次のコマで動物看護師の視点を学ぶ	

4	動物看護学概論⑤	1.シラバスとの関係	動物看護を実行する上で必要な動物看護師の視点について学べる	
		2.コマ主題	動物看護師の視点とは何かを学ぶ	
		3.コマ主題細目	動物看護師のプロの視点とは何か、を考えてみる。まず動物が今、どのステージにいるのか（一生涯の中のどのステージ）を見極めることが大切。	
		4.コマ主題細目深度	動物が病んでいる時だけではなく全てのステージにおいて動物看護師がかかわれる部分がある。その関わりは、動物と飼い主家族にとって最上な内容であることが必要である。では、動物看護師にもっとも必要とされるものとは何か、を学ぶ	
		5.次コマとの関係	このコマで学んだことは、次のコマでどのような場面でどのような事が求められるのかを学ぶ	
6	動物看護学概論⑥	1.シラバスとの関係	診療場面での動物看護師の役割について知る	
		2.コマ主題	事例写真をスライドで提示し、考えながら診療場面での動物看護師の役割について学ぶ	
		3.コマ主題細目	事例を見ながら診療場面での動物看護師の役割を考える。動物病院に来院する動物は飼い主家族に伴われて来院する。そんな場面を想定し、来院した動物の気持ちを推測しながら動物看護師の役割について学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	動物病院の診療場面における動物看護師の役割について述べる。飼主家族に向けて行われる症状の聞き取りや獣医師からの診断名の説明、今後の治療方針などは動物には意味不明であり、いきなり見知らぬ場所の入院や治療手術などを受けることになる場合がある。そんな時の動物の気持ちや条件を考えながら、動物看護師が関われることを探り、各自が納得できるように進む	
		5.次コマとの関係	このコマで学んだ事を導入として、動物看護師をなぜ目指すことにしたのか、という各自の気持ちを振り返る。そして動物看護師として何かをしてあげたい、と思う気持ちを実行に移せるためには何が必要なのか、を次コマで学習する	
7	動物看護学概論⑦	1.シラバスとの関係	動物看護を実行する上で必要な動物看護師の視点について知った上で、3回分の確認テストを実施	
		2.コマ主題	概論のまとめと確認テスト	
		3.コマ主題細目	概論のまとめと確認テストをし、動物看護とはなにかを総括する	
		4.コマ主題細目深度	確認テストの実施と模範回答を配布し、答え合わせをする	
		5.次コマとの関係	動物看護概論を確実なものとしたうえで、看護過程を知る	
8	動物の看護過程展開①	1.シラバスとの関係	動物看護を実践するために必要な、動物の看護過程について学ぶ意味を考える	
		2.コマ主題	なぜ、動物の看護過程を学ぶ必要があるのかを考える	
		3.コマ主題細目	事例を踏まえて、なぜ動物の看護過程を学ぶ必要があるのかを考える。スライド上にある動物に、何かをしてあげたい、と思う心を形にするために必要となる技術が看護過程であることを学ぶ。	
		4.コマ主題細目深度	各自がただ単に、バラバラな手法でこの犬に対応するのではなくある行っての手段手法に従って行動できることが優良で安全な動物の看護につながる。そのための手段として動物の看護過程を知る。まずは現状の動物がどのような状態にあるのか、ということを知ることが必要なので、そのための情報を収集することから開始する。それが看護過程であり、その後の手順についても学ぶ。	
		5.次コマとの関係	動物の看護過程について知る意味をよく理解した上で、看護過程について学ぶ	
9	動物の看護過程展開②	1.シラバスとの関係	動物の看護過程とは何か？を知る	
		2.コマ主題	動物の看護過程の5つの校正要素について学習する	
		3.コマ主題細目	私達が、動物にたいする想いを形にしたい（何かしてあげたい）と思うこと自体が動物看護であると思う。しかし、ただそれだけでは系統立てた対応ができないため、最適で安全な対応ができるようになるための手段として看護過程を学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	動物看護師が高準化された継続的な内容を実施し、記録に残すことができる方法として採用されているのが、看護過程ということになる。看護過程では、アセスメントすなわち個々の動物に対して体系的な情報を収集し、それを整理して分類判断をすることから始まる。良質がアセスメントができることが効果的な看護過程を作成し、看護展開ができることになることを実感できるように学ぶ	
		5.次コマとの関係	当コマで動物の看護過程の手順を知り、次コマで各項目についての詳細を知る	

10	動物の看護過程展開③	1.シラバスとの関係	動物の看護過程；展開を学ぶ（アセスメントと観察力）	
		2.コマ主題	5つの構成要素について。アセスメントとは何か、を知る。アセスメントを実施する際に活用するSOAPモデルについて学ぶ	
		3.コマ主題細目	アセスメントとは何か、を知る。アセスメントを実施する際に活用するSOAPモデルについて学ぶ事例を見ながら進む	
		4.コマ主題細目深度	看護過程を構成する5つの要素とは、アセスメント、看護診断（看護問題の明確化）、計画、実施、評価。アセスメントとは何か、を知り、SOAPモデルについて学ぶ。SOAPモデルは人医療の看護記録を作成するのに広く活用されている方式である。その詳細を学び、事例に活用できるように練習する。看護過程の基本は情報収集するための観察から始まる。様々な場面から対象となる動物に関する情報を集積する練習ができると良い	
		5.次コマとの関係	アセスメントを知ることから、情報の分析について学習する	
11	動物の看護過程展開④	1.シラバスとの関係	動物の看護過程；展開を学ぶ（情報の収集と分析）	
		2.コマ主題	情報を分析する道筋を考える。	
		3.コマ主題細目	情報はそのまま存在しているだけでは看護にはつながらず、その意味を考えねばならない。情報の分析とは情報の意味を考えることであり、その情報から現状を知ることであるということを学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	情報の分析は、関連する情報を組織だてて集め、その意味を考えていく。全体像の把握をし、確実な分析のために求められることを学ぶ。	
		5.次コマとの関係	情報の分析をし、次の看護問題を明確化する看護診断に進む	
12	動物の看護過程展開⑤	1.シラバスとの関係	動物の看護過程の中の看護診断について学ぶ	
		2.コマ主題	看護診断の意味を知る。診断は獣医師の職務であるが、動物の看護過程の中での診断という言葉の意味を確認する	
		3.コマ主題細目	動物の看護過程の中の看護診断について知る。看護診断からは問題点を拾い出せること。SOAPモデルを活用した観察によりアセスメントを実施し、看護診断の結果拾い出された問題点を解決するためには何をどのように実践していったらよいのか、がわかるようになる。アセスメントの結果をもとに、看護として解決していくべき問題（看護問題）を明らかにしてくプロセスを看護診断とする。	
		4.コマ主題細目深度	看護診断によって判明した問題点は、看護の目的（ゴール）となりえる部分である。患者動物が現状、何ができて何ができないから困っている、そして快適な生活ができていないということを知った上で、それを解決する計画を立てることができるようになる。動物がその動物らしく生活できる（自立）ための観察事項としては、「OrpetとJeffryのアビリティーモデル2007」を活用できる	
		5.次コマとの関係	看護計画を立てるために必要な「OrpetとJeffryのアビリティーモデル2007」について学ぶ	
13	動物の看護過程展開⑥	1.シラバスとの関係	「OrpetとJeffryのアビリティーモデル2007」について学び看護計画に進む	
		2.コマ主題	動物の看護過程を展開するために必要な「OrpetとJeffryのアビリティーモデル2007」について知る。その後、看護計画を立てられるようにする	
		3.コマ主題細目	情報を収集するために飼い主家族に質問することは重要であるが、質問事項に抜けがないよう系統立てた内容を作っておくことが必要となる。ここから看護計画を立てられるようにする	
		4.コマ主題細目深度	「OrpetとJeffryのアビリティーモデル2007」項目に沿って質問し、情報として活用して看護診断に進んだ。ここから問題点を拾い出してそれを解決できるような看護計画を立てる。この看護計画は、問題点を解決するための目標を設定して、これらを解決するための補助をどのように進めるかという事項を確認し、記録に残す。今すぐに対処せねばならないこと、緊急でないこと、など優先順位をつけて実施する。今後、これらから予測できる事態やおきるかもしれない症状を予測し、予防できることを考える。	
		5.次コマとの関係	当コマで看護計画を知り、次コマでは看護の実行に進む	

14	動物の看護過程展開⑦	1.シラバスとの関係	看護の実行と評価について。	
		2.コマ主題	看護過程の中のケアの実行は、看護技術の提供する場面。看護技術が必要となる。実行の後は必ず評価を実施する必要がある	
		3.コマ主題細目	実行は看護計画に沿って実際の看護ケア活動を提供していくこと。ここで実行されたことは常に評価されなければならない。どのような技術を提供し、どのような補助をするのか、どの結果どのようなことがおきたのか、現状がどうなのか、など誰もが正確に記録し、その時の担当者が不在であったとしても次の担当者が理解できることが必要となる。	
		4.コマ主題細目深度	看護過程にそって実行されたケアについて、評価を行う。計画に準じたケアの実行となるが、日々の変化により実行した内容を評価して変更できることが必要であることを知る。期待される成果に到達できたか、対象者に実施してきた評価してもらうことが必要ということを知る。到達できた、とすればその看護問題は解決できたことになる。	
		5.次コマとの関係	看護過程の展開について知った後で、事例で実際に看護過程の展開を実施してみる	
15	動物の看護過程展開⑧	1.シラバスとの関係	動物の看護過程の展開を知り、概論のまとめと確認テス	
		2.コマ主題	まとめと確認テストの実施	
		3.コマ主題細目	まとめと確認テスト実施	
		4.コマ主題細目深度	確認テストを実施し模範回答をまとめとする	
		5.次コマとの関係		

臨床動物看護学－1

学科	動物看護学科系	シラバス（概要）
コース		動物看護師は、獣医師の診断と治療方針のもとで動物の補助や飼い主を支える専門職として、重要な役割を果たすようになってきている。そのためには獣医師の職域とは異なる動物看護師の視点で動物を見られるようになることが必要である。「臨床動物看護学－1」では、動物看護学で学んだ概要を再度復習し、動物看護師の役割、目的などを振り返る。動物看護師としての観察、記録、コミュニケーション、補助技術と共に獣医学の種々の知識が必要であることは言うまでもない。人の言葉を話せず、習性や生態もちがう動物の心理的な状態を予測すること、看護動物を取り巻く社会的な影響として環境や飼い主家族の特徴をとらえることは、家庭でのお世話を継続して貰うために非常に大切である。チーム獣医療の中で動物看護師がどのような視点で看護を行うべきか症状別の看護のポイントを学ぶ。
履修条件	臨床動物看護学1を先行すること	
ユニット		
科目名	臨床動物看護学－1	
単位	1単位（1～3合わせて3単位）	
履修時間	30時間（1～3合わせて90時間）	
回数	30回（1～3合わせて90回）	
授業形態	講義	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	筆記試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①基礎動物看護学（インターズー）②動物看護者の倫理綱領（日本動物看護職協会）③基礎動物看護技術（インターズー）④事例でやさしく解説今からはじめる動物看護過程（インターズー）⑤臨床動物看護学総論（インターズー）⑥臨床動物看護学各論（インターズー）⑦疾患別動物看護学ハンドブック（インターズー）	

コマシラバス

50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	動物看護学概論①	1.シラバスとの関係	臨床動物看護学の開始前に1年次の復習として動物看護について学び直す	
		2.コマ主題	動物看護師とは何か？	
		3.コマ主題細目	動物看護概論の中の①動物看護とは？②動物看護の対象の理解③職業としての動物看護師　について考える	
		4.コマ主題細目深度	動物看護とは何か、動物看護過程とは何か、1年生で学習した動物看護学を見直し、復習する。写真を見て、どんな感情を持ったかを書留るところから各自が持つ動物への思いを確認する。それが　看護のイメージへとつながる。看護の歴史をナイチンゲールからひもとき、看護のこころと在り方、専門職としての動物看護師を知る。	
		5.次コマとの関係	動物看護過程の展開を知る	
2	動物看護学概論②	1.シラバスとの関係	臨床動物看護学の開始前に1年次の復習として動物看護について学び直す	
		2.コマ主題	動物看護師とは何か？	
		3.コマ主題細目	動物看護を実践する上で必要な観察技術について知る	
		4.コマ主題細目深度	動物看護とは、様々な情報を集積することにより看護過程を展開し、そこで得られた情報から今の問題を知ることによって展開できる。言葉を持たない動物の今と将来を想像する力が必要となる。動物への思いをバラバラに実行するのではなく、その思いをまとめて整理したものが動物看護過程であることの確認。	
		5.次コマとの関係	各自の持っている動物への思いやりが動物看護につながり、動物看護過程の展開につながる	
3	動物看護学概論③	1.シラバスとの関係	動物看護技術の要素とは何か、を知ることにより看護技術について知ることができる	
		2.コマ主題	どのステージにも「共通する動物看護技術」の要素	
		3.コマ主題細目	動物看護技術の要素①観察について学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	動物看護の基本的な条件は、その動物がその動物らしく健康な生活が送れるように支援することであり、そのためには看護対象の状況を適切に捉える必要がある。このために必要なのが観察力。専門職としての観察技術により、患者動物が必要としている看護は何か？看護対象の状態はどうか？を観ることであり、そのためには正常である時を知っていることが重要で、その他の力を駆使して推測する力が必要。観察することで必要としている看護が見つかる。初めて受診する犬の事例を見て、おきる可能性のある問題点と解決法をグループワークする。動物看護とは？を知った上で動物看護者の倫理綱領について学ぶ	
		5.次コマとの関係	「共通する動物看護技術」の要素を引き続き学ぶ	
4	動物看護学概論④	1.シラバスとの関係	共通する動物看護技術の要素とは何か、を知ることにより看護技術について知ることができる	
		2.コマ主題	動物看護技術の要素	
		3.コマ主題細目	動物看護技術の要素②記録について学ぶ。アセスメントのSOAPモデルが理解できるようになる	
		4.コマ主題細目深度	動物看護に関する知識は通常、経験豊かな動物看護師と獣医師の診療中の動作や会話の中で観察により得られる。観察によるアセスメントを実行し、それを記録として残すことにより看護診断や看護計画に通じる。また、診療の中では看護料として料金をいただける対象ともなり得る。ここでは特にアセスメントのSOAPモデルについて習得できる。アビリティーモデルについて知り、アセスメントや記録に活用できるようになる。動物看護の基本となる倫理綱領について学ぶ	
		5.次コマとの関係	看護を実践する上では技術が大切である。実際の技術を習得すると共に、他者とのコミュニケーション能力をも得ることができるようにする	

5	動物看護学概論⑤	1.シラバスとの関係	動物看護技術の要素とは何か、を知ることにより看護技術について知ることができる。引き続いて③について知る。	
		2.コマ主題	動物看護技術の要素	
		3.コマ主題細目	動物看護技術の要素③コミュニケーションについて学ぶ。患者動物がよりよく治るためには、飼主家族との関係が大切であるということを知る	
		4.コマ主題細目深度	動物とその飼い主家族が健康的な生活を送るれるように援助するためには、対象とのコミュニケーションが重要である。コミュニケーションとは知覚、感情、思考の伝達であり分かち合う、伝達するという意味を持つ。動物の治療のためには飼主家族に動物看護師自身を良く理解し、信頼してもらうことが必要でありそのためにはコミュニケーションを取れることが必要になる。専門職として、社会人として必要なコミュニケーション手段を見直し、グループワークをしながら習得できる。	
		5.次コマとの関係	動物看護の基本を復習した上で、看護技術にはどんなものがあるかを知る	
6	動物看護学概論⑥	1.シラバスとの関係	動物看護技術の要素を知った上で、クライアントエデュケーションについて学ぶ	
		2.コマ主題	動物看護師による飼い主教育について	
		3.コマ主題細目	飼い主教育（クライアントエデュケーション）について必要なこと。具体的な例をあげて実際を体験する	
		4.コマ主題細目深度	飼い主に動物の管理や補助を依頼し、これを継続実施していくことは動物が回復し又は健康を維持していくためにとても重要な事である。飼い主に指導するために必要な技術について知り、実際の時に臆せず実施できるようになる	
		5.次コマとの関係	基本的な看護精神と技術を知り、症状別の看護に進む	
7	動物看護者の倫理綱領①	1.シラバスとの関係	「動物看護者の倫理綱領2009」（日本動物看護職協会）の全文を音読する。	動物看護者の倫理綱領
		2.コマ主題	前文を理解した上で、1条から15条までの内容について知る	
		3.コマ主題細目	動物看護師は、常に動物の命の尊さと生きる権利を尊重し、動物福祉の向上に努めることから開始される倫理綱領を読み、理解を深める。	
		4.コマ主題細目深度	「動物看護者の倫理綱領2009」（日本動物看護職協会）の本を音読しながら、解説を聞き事例の看護過程展開に活用し、自分の行動や思考に迷いがある時には倫理綱領に戻って自分の取るべき行動を考えられるようにする	
		5.次コマとの関係	看護の実践に必要な動物福祉の精神を見直す。5つのフリーダムについて復習する	
8	動物看護者の倫理綱領②	1.シラバスとの関係	「動物看護者の倫理綱領2009」（日本動物看護職協会）の条文を考える	動物看護者の倫理綱領
		2.コマ主題	「動物看護者の倫理綱領2009」（日本動物看護職協会）の条文を一つづつ挙げて、事例を考えながら検討する	
		3.コマ主題細目	「動物看護者の倫理綱領2009」（日本動物看護職協会）の条文を一つづつ挙げて、事例を考えながら検討する。事例は、臨床現場で有り得る内容を挙げて身近な事例で考えられるようにする	
		4.コマ主題細目深度	動物看護師が目的とする行動は、倫理綱領の中に示されていることであるため、常に忘れないように音読し、記憶にとどめる。臨床の場でプロの動物看護師としての行動で迷ったことができたときには、前文にあることを思い返して行動するとよいだろう	
		5.次コマとの関係	動物看護師に必要な看護技術について学ぶ	
9	動物看護者の倫理綱領③	1.シラバスとの関係	動物の看護過程の展開を知り、動物看護者の倫理綱領についてのまとめと確認テストの実施	
		2.コマ主題	まとめと確認テストの実施	
		3.コマ主題細目	まとめと確認テスト実施	
		4.コマ主題細目深度	確認テストを実施し模範回答をまとめとする	
		5.次コマとの関係	動物看護師に必要な看護技術について学ぶ	
10	動物看護技術の基盤 動物看護の看護技術について	1.シラバスとの関係	動物看護を遂行する動物看護者に必要な技術について	
		2.コマ主題	技術とは何か、を考える。必要とされる特定の目的や期待を到達させるために、想いや考えを実現にするための術を作り出す力、能力。	
		3.コマ主題細目	動物看護師にとって想いや考えを実現させたい状態、というのは「動物看護者の倫理綱領」にあるように、「動物たちが健やかな一生を全うするように助けることであることを思い返す。	
		4.コマ主題細目深度	動物たちが健やかな一生を全うできるための術、技にはどんなことがあるのだろうか。相手（動物と飼主）を思い遣る心を現実のものとさせるための技術とは？プロの動物看護師として、専門的知識に基づいて実施されなければならない、ということを学ぶ	
		5.次コマとの関係	確認テストでまとめをし、動物看護者の倫理綱領について確実にした後動物看護の基盤技術について知る	
11	動物看護技術の基盤 動物看護の観察①	1.シラバスとの関係	動物看護を遂行する動物看護者に必要な技術について	
		2.コマ主題	動物看護の観察力とは何か	
		3.コマ主題細目	動物看護を遂行するためには観察する力が必要であることを学び、観察とはどういうことかを学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	動物の看護過程に必要な事は、観察することである。観察するとはどういうことか、を知り事例を見て実践してみる	
		5.次コマとの関係	次の動物看護技術に進む	

12	動物看護技術の基盤 動物看護の観察②	1.シラバスとの関係	動物看護を遂行する動物看護者に必要な技術について	
		2.コマ主題	動物看護の観察力とは何か。先入観を持たない観察。	
		3.コマ主題細目	受診動物の全体を観察する力。さまざまな動作を観ることで対象動物と飼主の状態を把握できるようになるためには、どうしたらよいのか。	
		4.コマ主題細目深度	ちょっとした、瞬間の動作を把握することから判明する動物の状態がわかることがある。また、先入観を持たないで観察をすることも大切である。過去の経験から得られる情報も大切であるが、一つの側面のみを観ることによって、新しい結果を見落としたり見誤りが生じる可能性があることを学ぶ	
		5.次コマとの関係	次の動物看護技術にすすむ	
13	動物看護技術の基盤 動物看護の観察③	1.シラバスとの関係	動物看護技術の基盤　観察技術についてまとめと確認テストの実施	
		2.コマ主題	まとめと確認テストの実施	
		3.コマ主題細目	まとめと確認テスト実施	
		4.コマ主題細目深度	確認テストを実施し模範回答をまとめとする	
		5.次コマとの関係	記録と報告にすすむ	
14	動物看護技術の基盤 記録と報告①	1.シラバスとの関係	動物看護を遂行する動物看護師としての技術の習得	
		2.コマ主題	看護における記録の目的と報告について	
		3.コマ主題細目	記録をする意味とはなにか？動物の看護過程の展開を実施していることの証明となる。その過程と手段、結果、評価の実証である	
		4.コマ主題細目深度	動物の看護過程の展開内容を、実施者のみが知っているのではなく、関わる全てのメンバーが情報共有として知っていることが必要となる。スタッフ間のコミュニケーションとしてのみでなく、実施の証拠として残す必要がある。後輩の資料となることもあるが、法的な証拠となることもある技術であることを知る	
		5.次コマとの関係	記録の重要さとそれを共有するための報告技術に進む	
15	動物看護技術の基盤 記録と報告②	1.シラバスとの関係	動物看護を遂行する動物看護師としての技術の習得	
		2.コマ主題	看護における記録の目的と報告について	
		3.コマ主題細目	記録をするための原則と必要な留意点について学ぶ。	
		4.コマ主題細目深度	観察した事実は、客観的事項として正確に記載報告すること。明確に分かりやすく、専門用語を活用して情報共有の場とできるようにする。主観的観察事項も必要な情報となる	
		5.次コマとの関係	次の技術として、環境調整する技術について	
16	動物看護技術の基盤 記録と報告③	1.シラバスとの関係	動物看護技術の基盤　記録と報告技術についてまとめと確認テストの実施	
		2.コマ主題	まとめと確認テストの実施	
		3.コマ主題細目	まとめと確認テスト実施	
		4.コマ主題細目深度	確認テストを実施し模範回答をまとめとする	
		5.次コマとの関係	記録と報告にすすむ	
17	まとめ	1.シラバスとの関係	動物看護学概論と動物看護過程についてまとめる	
		2.コマ主題	動物看護学の基礎となる部分のまとめ	
		3.コマ主題細目	動物看護学では、動物看護共通技術としてコミュニケーションが重要であるが、これは院内コミュニケーションやクライアントエデュケーションで学ぶ。この項目も含めて振り返りをする	
		4.コマ主題細目深度	動物看護学概論、動物看護過程の展開、動物看護者の倫理綱領、共通看護技術として観察力、報告、記録の技術。プラスにてコミュニケーション能力について触れる。	
		5.次コマとの関係	動物看護技術の習得に続く	
18	症状別の動物看護 ～痛み①～	1.シラバスとの関係	臨床的な症状を観察し、それから推測出来る原因や看護動物の今を知ることにより看護動物が安全な看護を受けられるようになれる	
		2.コマ主題	痛みについて。痛みのシステムと意味を知る	
		3.コマ主題細目	痛み。痛みがあるであろう動物の様子を観察し原因を推測する。また、その痛み自体についての知識を持つ	
		4.コマ主題細目深度	痛みのメカニズムや分類を知る。痛みがあるのであろう患者動物の観察により、安全な看護を実践するための過程を知るための学習をする。また、痛みの出る疾患を知り、獣医師による診断結果が出た時に理解し現状を共有できるための知識を持つことができる。慢性の高齢犬関節炎は、鎮痛剤のみでなく運動療法などリハビリテーションの技術によっても疼痛管理が可能であることを事例で検討する。	
		5.次コマとの関係	痛みとは何か、どんな様子を表すのかを知って痛みのある時の看護を知る	

19	症状別の動物看護 ～痛み②～	1.シラバスとの関係	臨床的な症状を観察し、それから推測出来る原因や看護動物の今を知ることにより看護動物が安全な看護を受けられるようになれる	
		2.コマ主題	痛みのある動物の看護はどのようにすればよいか	
		3.コマ主題細目	急性痛と慢性痛の違いを知り、それに沿った看護を理解する	
		4.コマ主題細目深度	痛みのある動物の看護について学ぶ。痛みを表現することが不得手な動物に対して、どのように推測し、どこまで自分の痛みとして感じることができるか。断脚をした事例を前にして、術後の痛みの管理、看護師が介入できる援助について考えることにより動物の身になって考察できるようになる。慢性痛の代表的疾患を関節炎として事例で検討し、急性痛は断脚後の看護について検討する	
		5.次コマとの関係	次の症状別看護の「痛み」に進む。	
20	症状別の動物看護 ～痛み③～	1.シラバスとの関係	症状別の看護として「痛みのある動物の看護」確認テスト	
		2.コマ主題	痛みのある動物の看護はどのようにすればよいか	
		3.コマ主題細目	急性痛と慢性痛の違いを知り、それに沿った看護を理解する	
		4.コマ主題細目深度	痛みのある動物の看護方法について、確認テストをし復習まとめ	
		5.次コマとの関係	次の症状別看護の「かゆみ」に進む。	
21	症状別の動物看護 ～かゆみ①～	1.シラバスとの関係	臨床的な症状を観察し、それから推測出来る原因や看護動物の今を知ることにより看護動物が安全な看護を受けられるようになれる	
		2.コマ主題	かゆみから考えられること、皮膚疾患としてのかゆみと脱毛	
		3.コマ主題細目	かゆみを持つ動物の観察と、かゆみを伴う原因について考え、知識を得る	
		4.コマ主題細目深度	かゆみを伴う疾患にどんなものがあるのか？観察により患者動物の今を知る。また、原因をよく理解した上で獣医師の診断した内容が理解でき、情報を共有できるために知識を学ぶことができる。皮膚疾患の場合には長期闘病になる慢性疾患の看護が必要になるので、家族への教育指導の方法を知ることが必要。	
		5.次コマとの関係	次の症状別看護の「かゆみ」に進む。	
22	症状別の動物看護 ～かゆみ②～	1.シラバスとの関係	臨床症状を観察し、それから推測できる原因や看護動物の今を知ることにより看護動物が安全な看護を受けられるようになる	
		2.コマ主題	経過の長いであろう皮膚疾患の看護について	
		3.コマ主題細目	慢性疾患としての深在性膿皮症についての看護を学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	慢性疾患として経過が長い事が予想される皮膚疾患に対する看護を考える。かゆみを伴う疾患にどんなものがあるのか？家族の理解度を挙げ、看護動物が不快でない生活を送れるような看護をできるようにする	
		5.次コマとの関係	主に皮膚疾患としてのかゆみから、慢性疾患の長期看護の大変さを学び、まとめをする	
23	症状別の動物看護 ～かゆみ③～	1.シラバスとの関係	症状別の看護として「かゆみのある動物の看護」確認テスト	
		2.コマ主題	かゆみのある動物の看護はどのようにすればよいか	
		3.コマ主題細目	皮膚疾患を知り、それに沿った看護を理解する	
		4.コマ主題細目深度	かゆみのある動物の看護方法について、確認テストをし復習まとめ	
		5.次コマとの関係	次の症状別看護の「嘔吐のある動物の看護」、に進む。	
24	症状別の動物看護 ～嘔吐①～	1.シラバスとの関係	臨床的な症状を観察し、それから推測出来る原因や看護動物の今を知ることにより看護動物が安全な看護を受けられるようになれる	
		2.コマ主題	嘔吐とは？吐出との相違について確認する	
		3.コマ主題細目	嘔吐する動物の観察と、そこから発する看護技術につい	
		4.コマ主題細目深度	嘔吐のメカニズムや分類を知る。嘔吐がある患者動物の今を知ることにより動物が安全な看護をうけられるよう、看護を実践するために嘔吐のある疾患の情報を獣医師と共有できるための知識を持つことができる。消化器系とは？嘔吐とは？吐出との違いとは？	
		5.次コマとの関係	嘔吐のある動物の看護を知る	
25	症状別の動物看護 ～嘔吐②～	1.シラバスとの関係	症状として嘔吐がある動物を想定して看護を学ぶ	
		2.コマ主題	嘔吐のある症状をもつ動物の事例を想定して看護を考える	
		3.コマ主題細目	異物摂取した犬、嘔吐する動物の観察と、そこから発する看護技術について学ぶことができる。十分に食べること、飲むことができない動物の看護について学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	事例を想定し、その動物がアビリティーモデルの中の1十分に食べられるか？飲めるか？身づくろいができるか？を確認しながら看護を実践する。異物が胃内にある犬の看護過程について事例を見ながら検証する。	
		5.次コマとの関係	次の症状別看護の排便異常に進む	
26	症状別の動物看護 ～嘔吐③～	1.シラバスとの関係	症状別の看護として「嘔吐のある動物の看護」確認テスト	
		2.コマ主題	嘔吐のある患者動物の看護はどのようにすればよいか	
		3.コマ主題細目	嘔吐の機序、生理的意味、疾患を知り、それに沿った看護を理解する	
		4.コマ主題細目深度	嘔吐のある動物の看護方法について、確認テストをし復習まとめ	
		5.次コマとの関係	次の症状別看護の「排便異常のある動物の看護」、に進む。	

27	症状別の動物看護 ～排便異常①～	1.シラバスとの関係	臨床的な症状を観察し、それから推測出来る原因や看護動物の今を知ることにより看護動物が安全な看護を受けられるようになれる	
		2.コマ主題	正常な排便と異常な排便について	
		3.コマ主題細目	異常な排便にはどのようなものがあるのか、その原因と看護について知る	
		4.コマ主題細目深度	異常な排便。下痢、軟便、血便、便秘。小腸性下痢、大腸性下痢。異常な排便を観察し、その原因をよく理解した上で獣医師の診断した内容が理解でき、情報を共有できるために知識を学ぶことができる	
		5.次コマとの関係	異常な排便についての知識を、患者動物の看護に活かす	
28	症状別の動物看護 ～排便異常②～	1.シラバスとの関係	臨床的な症状を観察し、それから推測出来る原因や看護動物の今を知ることにより看護動物が安全な看護を受けられるようになれる	
		2.コマ主題	排便異常のある事例を想定し、それについての看護を学	
		3.コマ主題細目	排便異常がある患者動物の看護をする時には、栄養学的知識や家での治療としての食事体制を、飼主家族に守って継続して貰えることが必要。	
		4.コマ主題細目深度	ジアルジア感染による下痢が考えられる事例を想定し、この事例から看護過程を実践してみる訓練により、実践できるようになる。人にも影響が考えられる原因があるため、治癒するまで入院が必要となる事例をもとにして看護過程を考えてみる。	
		5.次コマとの関係	事例により看護過程が実践できるようになり、次からの症状に活用できる	
29	症状別の動物看護 ～排便異常③～	1.シラバスとの関係	症状別の看護として「排便異常のある動物の看護」確認テスト	
		2.コマ主題	排便異常のある動物の看護はどのようにすればよいか	
		3.コマ主題細目	排便異常の機序、生理的意味、疾患を知り、それに沿った看護を理解する	
		4.コマ主題細目深度	排便異常のある動物の看護方法について、確認テストをし復習まとめ	
		5.次コマとの関係	次の症状別看護の「排便異常のある動物の看護」に進む。	
30	まとめと確認	1.シラバスとの関係	授業内容習得確認のための小試験を実施する	
		2.コマ主題	症状別看護のまとめ	
		3.コマ主題細目	動物に看護に必要な技術	
		4.コマ主題細目深度	動物看護職の倫理要綱をふまえ、動物看護に必要な要素を理解する。症状別の看護（痛み・かゆみ・嘔吐・排便異常）のまとめから理解を深める。	
		5.次コマとの関係	臨床動物看護学2に進む	

臨床動物看護学－2

学科	動物看護学科系	シラバス（概要）
コース		動物看護師は、獣医師の診断と治療方針のもとで患者動物の援助や飼い主家族の支援をする専門職として、大きな役割を果たすようになってきている。動物看護師が動物病院において適切な動物看護を実践していくためには、獣医学の知識が欠かせない。「臨床動物看護学－2」では、さらに多様な症状別及び臓器別の看護のポイントを学ぶ。動物看護師は、疾病を持つ動物が、その疾病や障害があるために何ができないのか、そのためにどんな不自由がおきているのか、その問題を解消するためにはどんな行動をしたらよいのか、また、不自由な問題点があるままにしておいた時には、次にどんな問題点がおきてくるのかを考えてそれを予防するための行動が必要となる。そのためには、解剖生理や病理、などの基礎獣医学的知識も学習し、応用力を養う必要となる。
履修条件	臨床動物看護学1を履修すること	
ユニット		
科目名	臨床動物看護学－2	
単位	1単位（1～3合わせて3単位）	
履修時間	30時間（1～3合わせて90時間）	
回数	30回（1～3合わせ90回）	
授業形態	講義	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	筆記試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①基礎動物看護学（インターズー）②動物看護者の倫理綱領（日本動物看護職協会）③基礎動物看護技術（インターズー）④事例でやさしく解説今からはじめる動物看護過程（インターズー）⑤臨床動物看護学総論（インターズー）⑥臨床動物看護学各論（インターズー）⑦疾患別動物看護学ハンドブック（インターズー）	

コマシラバス

50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	症状別の動物看護 ～食欲不振①～	1.シラバスとの関係	臨床的な症状を観察し、それから推測出来る原因や看護動物の今を知ることにより看護動物が安全な看護を受けられるようになれる	
		2.コマ主題	食欲不振の症状がある動物の看護について学ぶ	
		3.コマ主題細目	摂食障害の定義について学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	食欲不振の分類、原因・病態について学ぶ。脳の異常、消化器疾患、肝臓・胆嚢疾患による食欲不振、中毒によるもの、ホルモン不足による原因など。欠乏性食欲不振という分類、運動量が減ったため、環境の変化等によるストレスが原因のものなどに分類される。食欲不振によっておきてくる症状を知る。	
		5.次コマとの関係	食欲不振がある動物の看護を実践するために必要な消化器系の解剖生理学について学ぶ	
2	症状別の動物看護 ～食欲不振②～	1.シラバスとの関係	消化器系の解剖生理学を知る	
		2.コマ主題	消化器系の解剖生理学を知った上で、看護の実践に活用できるように振り返る	
		3.コマ主題細目	食欲不振の症状を発症する疾患を知り、その看護を実践するために口腔から始まる消化器系の解剖を復習する。	
		4.コマ主題細目深度	口腔⇒食道⇒胃⇒十二指腸、付属器官（肝臓、胆嚢、膵臓）⇒その他の小腸⇒大腸⇒肛門　までのルートを確認し、その生理学的機能を復習する。特に消化液や働きについて知識を得る	
		5.次コマとの関係	食欲不振を呈する代表的な疾患について知る	
3	症状別の動物看護 ～食欲不振③～	1.シラバスとの関係	食欲不振を呈する臨床の場で数多くみられる疾患の看護	
		2.コマ主題	嘔吐、排便異常、食欲不振を呈する疾患をまとめて考えてみる	
		3.コマ主題細目	嘔吐、排便異常、食欲不振を呈する疾患をまとめて考えてみる。消化器系疾患の症状として観られる症状であるこれらを呈する疾患の代表的なものについて知識を持ち、看護に活かす。まとめとして確認テストを実施する。	
		4.コマ主題細目深度	看護時の観察項目は、今の症状だけでなく健康時の食習慣や食事に関する現状、身体所見など情報を収集する。また、食事をする時の様子や環境なども情報として重要であることを知った上でアセスメントをする	
		5.次コマとの関係	多飲多尿の症状を持つ動物の看護にすすむ	
4	症状別の動物看護 ～多飲多尿①～	1.シラバスとの関係	多飲多尿の意味を知る	
		2.コマ主題	多飲多尿の定義を知り、発症のメカニズムを知る	
		3.コマ主題細目	多飲多尿の症状がある疾患について知り、その検査方法について学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	身体検査、尿検査、腎機能検査、血液検査、レントゲン検査、腹部エコー検査などについて知識を確認し、検査で得られる意味と疾患について知る。	
		5.次コマとの関係	多飲多尿に対する治療の内容を知識として持ち、治療に対する看護を実践する方法を学ぶ	
5	症状別の動物看護 ～多飲多尿①～	1.シラバスとの関係	多飲多尿の症状を持つ動物の看護の実践を学ぶ	
		2.コマ主題	多飲多尿の症状を軽減するためにはどんな看護技術を実践するか	
		3.コマ主題細目	治療に対する看護技術を知る	
		4.コマ主題細目深度	慢性腎不全、腎盂腎炎、腎性尿崩症、甲状腺機能亢進症、子宮蓄膿症について学ぶ。疾患についての知識をもって看護の実践を学ぶ	
		5.次コマとの関係	ここで必要な解剖学と生理学の知識を復習する	
6	症状別の動物看護 ～多飲多尿②～	1.シラバスとの関係	泌尿生殖器系の解剖学について振り返りをする	
		2.コマ主題	腎臓、膀胱、子宮について解剖学を知る	
		3.コマ主題細目	泌尿生殖器系の解剖学について振り返りをする	
		4.コマ主題細目深度	特に腎臓の構造と生理学的機能を振り返り、多飲多尿になる意味をしっておく。今のコマの知識を持って次の排尿障害のある動物の看護に進むので、ここで振り返りをしておく。	
		5.次コマとの関係	排尿障害の症状をもつ動物の看護に進む	

7	循環機能障害を持つ動物の看護①	1.シラバスとの関係	循環機能障害とは何かを学ぶ	
		2.コマ主題	循環機能とはどんなことかを復習する。	
		3.コマ主題細目	循環機能障害をおこす疾患について理解をし、その時の症状や病態整理を知ることができるためには、循環器に関する解剖生理学を振り返り知識を確実にする必要がある。	
		4.コマ主題細目深度	循環機能とは、心臓のポンプ機能により前進に送り出された血液が全身の諸臓器をめぐり、再度心臓に還ってくることを示す。体循環と肺循環の知識を確実にしておかないと、全ての疾患を理解できないので関係する解剖生理の知識を徹底的に振り返りをする	
		5.次コマとの関係	循環器に関わる解剖学を知った上で、次コマで循環器の生理を振り返る	
8	循環機能障害を持つ動物の看護②	1.シラバスとの関係	循環器の生理学を振り返る	
		2.コマ主題	体循環と肺循環に分けて、それぞれがどのような意味を持っているのかを確認する	
		3.コマ主題細目	血液が、ガス交換によって静脈血から動脈血への代わり、その血液がどのようなルートで循環するのか、また、血液が通る血管の分類を知る。	
		4.コマ主題細目深度	体循環は、ガス交換の終わった血液が左心室から全身の臓器に駆出されて酸素を供給して右心室に戻ってくる循環であり、肺循環は右心室からガス交換のために肺へと至り、左心房に戻ってくるルートであることを確実な知識とする	
		5.次コマとの関係	循環器に関する解剖生理学を復習した後で、循環器障害の代表的な疾病名を知る	
9	循環機能障害を持つ動物の看護③	1.シラバスとの関係	循環機能障害をおこす主な疾患	
		2.コマ主題	獣医師による診断時に、循環器障害による代表的な疾病名を聞いたことがあるように学び、それらの詳細については動物疾病学で学習する。	
		3.コマ主題細目	うっ血性心不全、僧房弁閉鎖不全症、三尖弁閉鎖不全症、動脈開存症、心室中核欠損症、犬糸状症、拡張型心筋症、肥大型心筋症、不整脈、心膜液貯留などの病名を聞いたことがある	
		4.コマ主題細目深度	代表的な循環器疾患の詳細については、動物疾病看護学で学習するので、この章では、代表的な疾患の名を聞いたことがあり、それらを総括して「右室系が引き起こす循環器障害」と「左室系が引き起こす循環器障害」「その他の循環器障害」に分けてその機序を知る	
		5.次コマとの関係	このコマで知った疾病の診察と検査について次コマで学習する	
10	循環機能障害を持つ動物の看護④	1.シラバスとの関係	循環器障害による疾病の診察と検査について学習する	
		2.コマ主題	循環器障害をもつ動物の代表的な症状を知った上で、問診方法と身体検査時の観察事項、検査項目について知る	
		3.コマ主題細目	循環器障害の症状と、それによる獣医師の診断の内容についてチーム獣医療のスタッフとして行動するために必要な知識を身に付ける	
		4.コマ主題細目深度	循環器障害を持つ動物は、特異的な症状を呈するが、それにとらわれることのない問診と観察ができるようになるための方法を学習する。獣医師の診察の視点を知った上で動物看護師として必要な視点での身体観察について学習する。また、動物看護師が関与する診断のために必要な検査項目と方法について学習する	
		5.次コマとの関係	循環器障害による症状、獣医師の診断、観察、検査を知った上で獣医師による治療方法を知識として知ることは、動物看護師の視点による関わりと動物看護に必要な内容となる。そのために次コマでは循環器障害に対する治療について学習する	
11	循環機能障害を持つ動物の看護⑤	1.シラバスとの関係	動物看護師の視点で動物看護をする時に、知識として必要な獣医師が実施する循環器障害に対する治療について知識を持つ	
		2.コマ主題	循環器障害の治療について学習する。内科的治療と外科的治療、食事療法、安静療法について。	
		3.コマ主題細目	薬物療法を代表とする内科治療と手術による外科的治療、それ以外の方法として食事療法、安静療法があることを知る。	
		4.コマ主題細目深度	薬物療法の多くは弁膜症や心筋症、血管について根本的に治療するのではなく、循環機能を指示、改善することを目的としていることを学ぶ。またその代表的な薬剤名を知る。食事療法については栄養学で学ぶことが中心ではなるが、循環器疾患に必要な栄養学的原理を知る。安静療法とは何かを知る。	
		5.次コマとの関係	循環器障害についての基本的知識を充分に持った上で、動物看護師の視点による動物の看護に移る	
12	循環機能障害を持つ動物の看護⑥	1.シラバスとの関係	循環器障害を伴う動物の看護について学ぶ	
		2.コマ主題	動物看護師の視点で動物の看護を実践する。	
		3.コマ主題細目	観察項目とアセスメントについて。循環器障害の動物での動物看護過程の展開をする	
		4.コマ主題細目深度	動物看護師の視点として、循環器系に悪影響を及ぼしている原因や要素は何かを観察し、得られた情報からアセスメントをするが、そのポイントや観察項目について学習し、動物の看護過程の展開が実施できるようになる。	
		5.次コマとの関係	循環器系疾患の動物に看護過程の展開ができるようにする	

13	循環機能障害を持つ動物の看護⑦	1.シラバスとの関係	循環器障害のある動物の看護について学ぶ	
		2.コマ主題	動物看護師の視点で動物の看護を実践する。	
		3.コマ主題細目	循環器障害のある動物の看護過程展開を実施するために、アセスメントした次に、動物看護診断をして問題点の拾いだしをする	
		4.コマ主題細目深度	動物看護師の視点として、循環器障害のある動物の看護過程展開をし、アセスメント、動物看護診断による問題点を拾い出し、その解決のためにの看護計画をたてて実践する。それらの行動を動物看護師の視点で行動できるように学ぶ。また、飼主への支援方法も忘れることだできない重要な動物看護師の対象となることを知る	
		5.次コマとの関係	循環器障害のある動物への看護過程の展開を、事例を踏まえて実践してみる	
14	循環機能障害を持つ動物の看護⑧	1.シラバスとの関係	循環器障害のある動物看護過程の展開を事例に基づいて実践してみる	
		2.コマ主題	動物看護師の視点で循環器障害のある動物の看護を事例で実践する。教科書内にある事例について検討する。まとめをする	
		3.コマ主題細目	事例で動物看護過程の展開を実践する。看護動物の情報を収集し、アセスメントから開始してみる。この対象動物の現状の問題点を抽出し、それに対応する看護師の行動を計画できるようになる	
		4.コマ主題細目深度	動物看護師の視点として、循環器障害のある動物の事例を活用して看護過程展開をし、アセスメント、動物看護診断による問題点を拾い出し、その解決のためにの看護計画をたてて実践する。それらの行動を動物看護師の視点で行動できるように学ぶ。また、飼主への支援方法も忘れることができない重要な動物看護師の対象となることを知る。確認テストを実施。	
		5.次コマとの関係	呼吸機能障害について関連事項を学び、動物看護師の視点で動物看護過程が展開できるようになるために学習開始する	
15	呼吸機能障害を持つ動物の看護①	1.シラバスとの関係	呼吸機能の障害について知るために、呼吸器官系の解剖について振り返り、解剖生理学的知識を確認する	
		2.コマ主題	呼吸器障害とは何かを知るために、呼吸器系の解剖生理学を振り返る	
		3.コマ主題細目	呼吸とは、代謝に必要酸素を血液中に取り込み、二酸化炭素を対外に排出することの復習をする	
		4.コマ主題細目深度	ガス交換について復習し、呼吸機能障害とは、ガス交換機能とガス交換機能のどちらか、または両法が障害を受けた時に発症することを知る。	
		5.次コマとの関係	呼吸機能障害がどこで発生するのか、代表的疾患名にはどんなものがるのかについて学習する	
16	呼吸機能障害を持つ動物の看護②	1.シラバスとの関係	呼吸機能障害を起こす疾病にはどんなものがあるのかを知る	
		2.コマ主題	代表的な呼吸器疾患の名を挙げる	
		3.コマ主題細目	代表的な呼吸器疾患の詳細については、動物疾病看護学で学習するので、獣医師の診察時によく出てくる疾病名を聞いたことがあるようにしておく	
		4.コマ主題細目深度	肺水腫、胸水、犬伝染性器官気管支炎、ネコの上部気道疾患、器官虚脱、短頭種気道症候群、ネコの喘息、気管拡張症、肺腫瘍	
		5.次コマとの関係	呼吸器疾患の代表的疾患名を知った上で、獣医師による診察と検査項目について学習する	
17	呼吸機能障害を持つ動物の看護③	1.シラバスとの関係	呼吸器障害による疾病の診察と検査について学習する	
		2.コマ主題	呼吸器障害をもつ動物の代表的な症状を知った上で、問診方法と身体検査時の観察事項、検査項目について知る	
		3.コマ主題細目	呼吸器障害の症状と、それによる獣医師の診断の内容についてチーム獣医療のスタッフとして行動するために必要な知識を身に付ける	
		4.コマ主題細目深度	呼吸器障害を持つ動物は、特異的な症状を呈するが、それにとらわれることのない問診と観察ができるようになるための方法を学習する。獣医師の診察の視点を知った上で動物看護師として必要な視点での身体観察について学習する。また、動物看護師が関与する診断のために必要な検査項目と方法について学習する	
		5.次コマとの関係	呼吸器障害による症状、獣医師の診断、観察、検査を知った上で獣医師による治療方法を知識として知ることは、動物看護師の視点による関わりと動物看護に必要な内容となる。そのために次コマでは循環器障害に対する治療について学習する	

18	呼吸機能障害を持つ動物の看護④	1.シラバスとの関係	動物看護師の視点で動物看護をする時に、知識として必要な獣医師による呼吸器障害の治療について知識を持つ	
		2.コマ主題	呼吸器障害の治療について学習する。対象治療と薬物療法について。	
		3.コマ主題細目	呼吸機能障害の治療は、対象療法と薬物療法に大別される。	
		4.コマ主題細目深度	動物看護師は獣医師が実施する治療が、直接呼吸機能を改善または補助するためのものなのか、原因を治療し呼吸機能の改善を図る原因療法なのかを認識できるために、獣医師が担当する治療法についても知識を持つ必要がある。この結果、治療中の看護動物の適切なアセスメントができ動物看護過程の実施が可能となる。安静の重要性を知る。	
		5.次コマとの関係	呼吸器障害についての基本的知識を充分に持った上で、動物看護師の視点による動物の看護に移る。	
19	呼吸機能障害を持つ動物の看護⑤	1.シラバスとの関係	呼吸器障害を伴う動物の看護について学ぶ。	
		2.コマ主題	動物看護師の視点で動物の看護を実践する。	
		3.コマ主題細目	観察項目とアセスメントについて。呼吸障害の動物での動物看護過程の展開をする。	
		4.コマ主題細目深度	動物看護師の視点として、気管系に悪影響を及ぼしている原因や要素は何かを観察し、得られた情報からアセスメントをするが、そのポイントや観察項目について学習し、動物の看護過程の展開が実施できるようになる。酸素不足による息苦しさは全ての日常生活に影響を与える。わずかな動作でも呼吸困難を起こすので、日常性格への影響をアセスメントすることから開始する。	
		5.次コマとの関係	呼吸器系疾患の動物に看護過程の展開ができるようにする	
20	呼吸機能障害を持つ動物の看護⑥	1.シラバスとの関係	呼吸器障害を伴う動物の看護について学ぶ。	
		2.コマ主題	動物看護師の視点で動物の看護を実践する。特に呼吸を観察するためのポイントについて学習する。	
		3.コマ主題細目	観察項目とアセスメントについて。呼吸障害の動物での動物看護過程の展開をする。	
		4.コマ主題細目深度	呼吸機能障害を持つ動物は、全ての日常行動に影響が出るために呼吸困難のアセスメント、呼吸困難の観察が正しくできることは非常に重要である。そのため呼吸を観察するポイントを知り、正常な呼吸、呼吸の深さの変化の意味、呼吸のリズムや不全の姿勢を熟知する。また、苦しいという結果は主観的な情報であるが、これを客観的に表す意味と手段を知る。	
		5.次コマとの関係	呼吸器系疾患の動物に看護過程の展開ができるようにする	
21	呼吸機能障害を持つ動物の看護⑦	1.シラバスとの関係	呼吸障害を伴う動物の看護について学ぶ。	
		2.コマ主題	動物看護師の視点で動物の看護を実践する。	
		3.コマ主題細目	呼吸障害のある動物の看護過程展開を実施するために、アセスメントした次に、動物看護診断をして問題点を抽出する	
		4.コマ主題細目深度	呼吸障害のある動物の看護における問題点を抽出できるために、問題点を知る。呼吸困難による身体的な苦痛や生活行動の困難さを知る。また、このような状態を見ている飼い主の不安を察することができるようになる（苦しさが持続するのか、という不安）。問題点を抽出したら、動物看護目標を「呼吸困難の改善」におく動物看護過程の展開を実施できるよう考える。	
		5.次コマとの関係	呼吸困難症状がある動物の事例を踏まえて動物看護過程の展開を実践してみる	
22	呼吸機能障害を持つ動物の看護⑧	1.シラバスとの関係	呼吸障害のある動物看護過程の展開を事例に基づいて実践してみる	
		2.コマ主題	動物看護師の視点で呼吸障害のある動物の看護を事例で実践する。教科書内にある事例について検討する	
		3.コマ主題細目	事例で動物看護過程の展開を実践する。看護動物の情報を収集し、アセスメントから開始してみる。この対象動物の現状の問題点を拾い出し、それに対応する看護師の行動を計画できるようになる	
		4.コマ主題細目深度	動物看護師の視点として、呼吸障害のある動物の事例を活用して動物看護過程展開をし、アセスメント、動物看護診断による問題点を拾い出し、その解決のためにの動物看護計画をたてて実践する。それらの行動を動物看護師の視点で行動できるように学ぶ。また、飼い主への支援方法も忘れることができない重要な動物看護師の対象となることを知る。確認テストを実施する。	
		5.次コマとの関係	消化器系障害がある動物の看護について学ぶ	

23	栄養摂取・代謝障害を持つ動物の看護①	1.シラバスとの関係	栄養摂取・代謝機能の障害についてその症状、必要な検査、治療方法に関する基本的知識を習得する	
		2.コマ主題	栄養・代謝障害とは何かを知るために、消化器系の解剖生理学を振り返る	
		3.コマ主題細目	栄養の摂取と代謝について学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	栄養摂取と代謝は、主に消化器系によって制御されている。消化器疾患は臨床の場でも大変に多い疾患であり、予後についても治療のみならず家庭で対応してもらう事が多いため、飼い主への指導や伝達も必要になる。そのため栄養代謝のメカニズムをよく理解しておくことは重要な事である	
		5.次コマとの関係	栄養摂取・代謝のメカニズムをよく理解し、障害による症状を知る	
24	栄養摂取・代謝障害を持つ動物の看護②	1.シラバスとの関係	栄養摂取・代謝機能障害をおこす代表的な疾患名を知る	
		2.コマ主題	消化器疾患として取り扱うことの多い疾患名を知る	
		3.コマ主題細目	栄養摂取・代謝障害の対象動物を看護する動物看護師の視点にとって必要な知識として、獣医師が診断する疾患名について知識を持つ	
		4.コマ主題細目深度	猫の歯肉炎口内炎、歯肉炎、食道狭窄、巨大食道症、胃炎、幽門狭窄、胃拡張胃捻転症候群、パルボウイルス感染症、慢性腸炎、炎症性腸疾患、腸閉塞、イヌの肝炎、ネコの肝リピドーシス、門脈体循環シャント、膵炎などの詳細は「臨床動物看護学」で学習するので、ここでは疾患名を確認する	
		5.次コマとの関係	消化器疾患の代表的疾患名を知った上で、獣医師による診察と検査項目について学習する	
25	栄養摂取・代謝障害を持つ動物の看護③	1.シラバスとの関係	消化器障害による疾病の診察と検査について学習する	
		2.コマ主題	診察と診断の流れを知る	
		3.コマ主題細目	獣医師が診断するためと動物看護過程の展開について必要な情報収集について	
		4.コマ主題細目深度	獣医師の診察と診断に必要な情報を収集するためには、動物看護師からも飼い主から聞き取りをする必要があり、この情報収集が病名を診断し、治療へとつながる大切なものとなる。また、診断のために必要な検査方法を知る。	
		5.次コマとの関係	栄養摂取・代謝障害の治療について聞き、知識をする。これはチーム獣医療の一員としてお互いの情報を共有する必要があるため。	
26	栄養摂取・代謝障害を持つ動物の看護④	1.シラバスとの関係	栄養摂取・代謝障害に対する治療を知る	
		2.コマ主題	獣医師が実施する治療内容を理解し、その後の動物看護過程の展開に活かす	
		3.コマ主題細目	疾患に対する治療方法を知ることは、対象動物に対する理解を深めることになり、現状に何が進行しているのかを知る手段の一つとして必要となる	
		4.コマ主題細目深度	栄養摂取・代謝障害の治療には、薬物療法、輸液療法、食事療法、非経口的栄養補給、外科療法など各疾患や原因に対する療法が多くあることを知る。それらの概略を知識として持つことは、チーム獣医療の一員として行動する上で重要な要素である。	
		5.次コマとの関係	呼吸器障害についての基本的知識を充分に持った上で、動物看護師の視点による動物の看護に移る。	
27	栄養摂取・代謝障害を持つ動物の看護⑤	1.シラバスとの関係	動物看護師の視点による看護を実践する	
		2.コマ主題	栄養摂取・代謝障害の動物の看護を実践する	
		3.コマ主題細目	観察項目とアセスメントについて。栄養摂取・代謝障害の動物での動物看護過程の展開をする。	
		4.コマ主題細目深度	動物看護師の視点として、気管系に悪影響を及ぼしている原因や要素は何かを観察し、得られた情報からアセスメントをするが、そのポイントや観察項目について学習し、動物の看護過程の展開が実施できるようになる。消化器疾患の動物看護の観察、アセスメントでは口から入ったものを飲み込み（嚥下）、胃から腸で消化吸収し、肛門で排泄するまでの家庭を観察し、情報収集すること。また、肝臓での代謝能力を観ることが必要となる。そのために必要な観察事項が何かについて学習する。	
		5.次コマとの関係	観察事項の概要を知り、詳細な観察事項について次で学習する	
28	栄養摂取・代謝障害を持つ動物の看護⑥	1.シラバスとの関係	動物看護過程の展開のに必要な観察事項の詳細とアセスメント、その後の展開について	
		2.コマ主題	アセスメントと情報収集による問題点の抽出し、動物看護計画を立てる	
		3.コマ主題細目	アセスメントによる情報収集とそれへの対応方法を知る	
		4.コマ主題細目深度	嚥下、消化・吸収機能、排泄機能、代謝・解毒機能について情報収集のための観察事項とアセスメントをし、それに基づいた動物看護問題の抽出をして対処方法を計画できるようにする	
		5.次コマとの関係	栄養摂取・代謝障害の症状がある動物の事例を踏まえて動物看護過程の展開を実践してみる	

29	栄養摂取・代謝障害を持つ動物の看護⑦	1.シラバスとの関係	栄養摂取・代謝障害の症状がある動物の事例を踏まえて動物看護過程の展開を実践してみる	
		2.コマ主題	動物看護師の視点で栄養摂取・代謝障害のある動物の看護を事例で実践する。教科書内にある事例について検討する	
		3.コマ主題細目	事例で動物看護過程の展開を実践する。看護動物の情報を収集し、アセスメントから開始してみる。この対象動物の現状の問題点を抽出し、それに対応する看護師の行動を計画できるようになる	
		4.コマ主題細目深度	動物看護師の視点として、栄養摂取・代謝障害のある動物の事例を活用して動物看護過程展開をし、アセスメント、動物看護診断による問題点を抽出し、その解決のためにの動物看護計画をたてて実践する。それらの行動を動物看護師の視点で行動できるように学ぶ。また、飼い主への支援方法も忘れることができない重要な動物看護師の対象となることを知る	
		5.次コマとの関係	生体防護機能障害を持つ動物の看護に進む	
30	まとめと確認	1.シラバスとの関係	授業内容修得確認のための小試験を実施する	
		2.コマ主題	症状別看護のまとめ	
		3.コマ主題細目	動物に看護に必要な技術	
		4.コマ主題細目深度	小試験の実施と正答の確認	
		5.次コマとの関係	臨床動物看護学3に進む	

臨床動物看護学－3

学科	動物看護系学科	シラバス（概要）
コース		動物看護師は、獣医師の診断と治療方針のもと看護動物の援助や飼い主家族の支援をする専門職として、大きな役割を果たすようになってきている。動物看護師が動物病院において適切な動物看護を実践していくためには、獣医学の知識が欠かせない。「臨床動物看護学－3」では、症状別・臓器看護に加え、生理学を振り返りながら疾病動物にどのような障害が起きているのかアセスメントにつなげる。さらに、担がん動物や周術期の看護に必要なポイントを学ぶ。チーム獣医療の中で動物看護師が担う看護を科学的にかつ飼い主の心情を思慮し、動物本来が持つ自然治癒力を高められるよう対応することを目標に学習する。
履修条件	臨床動物看護学1・2を履修すること	
ユニット		
科目名	臨床動物看護学－3	
単位	1単位（1～3合わせて3単位）	
履修時間	30時間（1～3合わせて90時間）	
回数	30回（1～3合わせて90回）	
授業形態	講義	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	筆記試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①基礎動物看護学（インターズー）②動物看護者の倫理綱領（日本動物看護職協会）③基礎動物看護技術（インターズー）④事例でやさしく解説今からはじめる動物看護過程（インターズー）⑤臨床動物看護学総論（インターズー）⑥臨床動物看護学各論（インターズー）⑦疾患別動物看護学ハンドブック（インターズー）	

コマシラバス

50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	生体防御機能障害を持つ動物の看護①	1.シラバスとの関係	生体防御機能の障害に関する基本的知識を習得する	
		2.コマ主題	生体防御機能障害とは何かを知るために、生体防御の生理を理解し、関連する臓器・組織の解剖生理学を振り	
		3.コマ主題細目	代表的特徴的な症状を知る前に、基本的知識の確認をし振り返りをしておく	
		4.コマ主題細目深度	生体防御機能とは、環境中にある多数の病原体が動物の体内に侵入増殖しないように防御する能力が備わっている。この能力のことを生体防護機能という。この機能が低下すると感染しやすくなることを念頭に置いて看護する必要がある。また、過剰になった時にも有害となるので、この点をアセスメントしていくことは重要である。	
		5.次コマとの関係	代表的疾患名を知る	
2	生体防御機能障害を持つ動物の看護②	1.シラバスとの関係	生体防御機能障害をおこす代表的な疾患名を知る	
		2.コマ主題	代表的疾患名は、疾病動物看護学で学習するがここでは疾病名を振り返る	
		3.コマ主題細目	生体防御機能障害の対象動物を看護する動物看護師の視点にとって必要な知識として、獣医師が診断する疾患名について知識を持つ	
		4.コマ主題細目深度	ネコ免疫不全ウイルス感染症、ネコ白血病ウイルス、免疫介在性溶血性貧血、表在性膿皮症、イヌアトピー性皮膚炎など。	
		5.次コマとの関係	代表的疾患名を知った上で、獣医師による診察と検査項目について学習する	
3	生体防御機能障害を持つ動物の看護③	1.シラバスとの関係	代表的疾患名を知った上で、獣医師による診察と検査項目について学習する	
		2.コマ主題	免疫機能不全の獣医師による診断と、検査についての知識を習得する	
		3.コマ主題細目	バリア機能の破綻と免疫機能の低下について知った上で、獣医師による診断内容が理解できるための知識を確認し、関連検査を学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	免疫機能不全疾病について獣医師の診察と診断に必要な情報を収集するためには特殊が検査が必要になる。その検査内容と基本的知識を得るために修得する	
		5.次コマとの関係	さまざまな知識を得て、免疫機能不全を持つ動物の看護について学ぶ	
4	生体防御機能障害を持つ動物の看護④	1.シラバスとの関係	生体防護機能障害を伴う動物の看護について	
		2.コマ主題	生体防護機能障害を伴う看護動物を観察する	
		3.コマ主題細目	生体防護機能障害を伴う看護動物を観察するのに必要な事項について確認し、情報収集の方法を修得する。	
		4.コマ主題細目深度	生体防御に障害のある動物の動物看護過程の展開をするためのアセスメントそ実施、その後の問題点を抽出し、問題を解決するための対応方法を考えてみる。また、この障害は長期に渡る対応が必要なことが多く、看護動物の飼い主への指導方法も学ぶ必要がある。	
		5.次コマとの関係	ここで修得した技術を活用し、事例を基に考えてみよう	
5	生体防御機能障害を持つ動物の看護⑤	1.シラバスとの関係	事例に基づく動物看護過程の展開	
		2.コマ主題	看護動物について情報を収集し、アセスメントを開始し動物看護過程の展開を実施する。確認テストの実施。	
		3.コマ主題細目	免疫機能不全による皮膚疾患についての事例で考える	
		4.コマ主題細目深度	テキストに事例として掲載されている内容を見、各自が自分の事例として考えられるように展開してみる。情報の収集、アセスメント、問題の抽出、問題の解決のための動物看護内容を考える。この事例では、長期に渡る皮膚疾患の看護が必要となるもので、飼い主のモチベーションの低下を引き起こさないような指導が必要となる。	
		5.次コマとの関係	まとめと振り返りをする	

臨床動物看護学－3

6	神経・運動機能障害を持つ動物の看護①	1.シラバスとの関係	神経・運動機能障害のある動物の看護について	
		2.コマ主題	その症状、病態生理を学び、疾患を理解する	
		3.コマ主題細目	神経機能障害とは何かを学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	神経系の局所解剖と整理を理解し、それが障害を受けた時に現れる症状について知る。その上で、獣医師による診察と診断の流れについて知識を得る。	
		5.次コマとの関係	症状を知った上で今後の動物看護に活かせるようにする	
7	神経・運動機能障害を持つ動物の看護②	1.シラバスとの関係	神経機能障害のある動物の治療について学習する	
		2.コマ主題	今後、看護をする上で必要となる治療方針について知識を得る	
		3.コマ主題細目	神経機能障害のある動物の治療につてい学習する治療には、内科療法と外科療法、安静療法、機能回復のためのリハビリテーションがある。	
		4.コマ主題細目深度	失われた機能を可能な限り回復させるリハビリテーションなどについても知識を持つ。外科療法は、リハビリを実施する上でも必要な知識となる。	
		5.次コマとの関係	運動機能障害について学ぶ	
8	神経・運動機能障害を持つ動物の看護③	1.シラバスとの関係	運動器について復習する。解剖学的構造と生理学	
		2.コマ主題	運動機能障害のメカニズムについて学ぶ。	
		3.コマ主題細目	運動機能障害の特徴を知る。	
		4.コマ主題細目深度	このメカニズムによって生じてくる症状を知る。獣医師の診察と診断について知識を持つ。	
		5.次コマとの関係	運動機能障害をおこす代表的な疾患について学ぶ	
9	神経・運動機能障害を持つ動物の看護④	1.シラバスとの関係	神経機能、運動機能障害をおこす疾患について学ぶ	
		2.コマ主題	代表的が疾患をあげて知識を得る	
		3.コマ主題細目	代表的な疾患をいくつかあげてその概要について学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	水頭症、突発性てんかん、ウォブラー症候群、椎間板ヘルニア、馬尾症候群、膝蓋骨脱臼、前十字靭帯断裂、変形性関節症、レッグペルテス病、など。	
		5.次コマとの関係	神経機能、運動機能障害のある動物の看護について学ぶ	
10	神経・運動機能障害を持つ動物の看護:まとめ	1.シラバスとの関係	神経機能、運動機能障害のある動物の看護について学ぶ	
		2.コマ主題	神経・運動機能のアセスメントをし動物看護過程の展開をする	
		3.コマ主題細目	看護動物の観察をし、問題点を拾いだし看護技術を考える	
		4.コマ主題細目深度	問題点を拾いだし、必要な看護計画をし、技術を考える。確認テストを実施する	
		5.次コマとの関係	繁殖機能障害を持つ動物の看護について学ぶ	
11	繁殖機能障害を持つ動物の看護①	1.シラバスとの関係	繁殖機能障害のある動物の看護	
		2.コマ主題	繁殖に関係する局所解剖	
		3.コマ主題細目	繁殖に関係する局所解剖を復習する	
		4.コマ主題細目深度	メスとオスの繁殖に関係する解剖学を復習する	
		5.次コマとの関係	解剖学を知って生理学を復習する	
12	繁殖機能障害を持つ動物の看護②	1.シラバスとの関係	繁殖機能障害とは何かを知る	
		2.コマ主題	メスとオスの繁殖障害について知る。	
		3.コマ主題細目	メスとオスの繁殖障害について特徴を学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	発情が認められない疾患、発情周期の異常、発情周期はあるが妊娠しない疾患、妊娠の異常、生殖器の異常、乳腺の異常、交尾が出来ない、精子の異常、などについ	
		5.次コマとの関係	繁殖障害についての診断、検査について	
13	繁殖機能障害を持つ動物の看護③	1.シラバスとの関係	繁殖障害の疾患について知る	
		2.コマ主題	関連のある疾患と症状について知る	
		3.コマ主題細目	メスとオスの関連のある疾患について知識を持つ	
		4.コマ主題細目深度	潜在精巣、前立腺肥大、子宮蓄膿症、乳腺腫瘍についての検査、症状、治療について知識を得る	
		5.次コマとの関係	繁殖障害のある動物の看護について知る	
14	繁殖機能障害を持つ動物の看護④	1.シラバスとの関係	繁殖障害にある動物の看護について	
		2.コマ主題	繁殖障害のある動物の観察について	
		3.コマ主題細目	清潔、排泄、飼い主の心理について知る	
		4.コマ主題細目深度	子宮蓄膿症の事例について、動物看護の展開をすることで看護を学ぶ。確認小テストの実施	
		5.次コマとの関係	排泄障害のある動物について学ぶ	
15	排泄機能障害を持つ動物の看護①	1.シラバスとの関係	排泄に関係する器官の解剖生理について復習する	
		2.コマ主題	排泄機能障害とは何か、を知る	
		3.コマ主題細目	排泄機能障害とは何か、を知り動物の観察事項を確認し、看護に活用できるようにする	
		4.コマ主題細目深度	排泄という生理について機能を知る。その上で排泄機能障害についての症状を理解する。排尿排便に困難がおきた際の症状について知る。	
		5.次コマとの関係	排泄障害の診断と検査の流れについて	
16	排泄機能障害を持つ動物の看護②	1.シラバスとの関係	排泄障害に対する治療について学ぶ	
		2.コマ主題	排尿障害に対する治療	
		3.コマ主題細目	排尿機能障害を起こす原因や動物の状態によって異なる治療方法について知る	
		4.コマ主題細目深度	輸液療法、薬物療法、食事療法、外科手術、それらの組み合わせによる治療内容を知り、カルテに記載されることの理解だできるような知識にする	
		5.次コマとの関係	排便障害について学ぶ	

17	排泄機能障害を持つ動物の看護③	1.シラバスとの関係	排便障害の治療について学ぶ	
		2.コマ主題	排便障害に対する治療	
		3.コマ主題細目	排便機能障害を起こす原因や動物の状態によって異なる治療方法について知る	
		4.コマ主題細目深度	輸液療法、 浣腸、薬物療法、外科療法など。またそれらの組み合わせについて知る。	
		5.次コマとの関係	代表的な症状と疾患について学ぶ	
18	排泄機能障害を持つ動物の看護④	1.シラバスとの関係	排泄障害の症状を知り、代表的疾患を知る	
		2.コマ主題	各疾患の症状と治療について知識を得る	
		3.コマ主題細目	代表的疾患について知り、獣医師の診断や治療指示について知識を持ち、看護のための観察に役立たせる	
		4.コマ主題細目深度	排尿、排便機能障害を起こす代表的疾患について学ぶ。	
		5.次コマとの関係	排泄障害のある動物の看護について学ぶ	
19	排泄機能障害を持つ動物の看護⑤	1.シラバスとの関係	排泄障害のある動物の看護	
		2.コマ主題	排泄におけるアセスメントから看護介入について	
		3.コマ主題細目	腎不全などにみられるアセスメントを中心とした看護に進む	
		4.コマ主題細目深度	代表的な疾患として慢性腎不全、異所性尿管、膀胱破裂、膀胱炎、尿石症などの中から疾患を学ぶ　泌尿器疾患のある動物の一般的な看護問題、一般的な看護目標、看護介入を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	担がん動物の看護にすすむ	
20	担がん動物の看護①	1.シラバスとの関係	担がん動物についての知識をもち、看護に活用できるよ	
		2.コマ主題	がんについて基礎知識を持つ	
		3.コマ主題細目	がんとは何か、がんの分類、診断についての基礎知識を持つ	
		4.コマ主題細目深度	がんとは何か、がんの分類、診断についての基礎知識を持つ。腫瘍のなりたち、分類について知識を持つ。	
		5.次コマとの関係	がんの診断について学ぶ	
21	担がん動物の看護②	1.シラバスとの関係	がんの診断と治療について学び看護に活用する	
		2.コマ主題	診断方法と、治療方法について学ぶ	
		3.コマ主題細目	検査、診断方法の知識を持ち、看護に活用できるようする。また、治療方法を知り、カルテ内にある事項が理解できるようにし、今後起きえることを予想できるようにしておく。	
		4.コマ主題細目深度	がんの検査、診断、治療方法について基礎的知識を持ち、獣医師が記載するカルテ内容に理解できるようにしておく。これは治療によってひきおこされる今後の副作用や、症状を理解し看護に活かせるために必要な知識となる。	
		5.次コマとの関係	がん動物の栄養管理と看護について学ぶ	
22	担がん動物の看護③	1.シラバスとの関係	担がん動物の栄養管理について知る	
		2.コマ主題	がん性悪液質を知り、看護に活かす。栄養管理ができるようにする	
		3.コマ主題細目	担がん動物の治療と症状、栄養管理について学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	がん性悪液質について知識を持ち、食について変化が大きいがん動物の栄養管理について知識をもち、看護に活用する	
		5.次コマとの関係	担がん動物の看護について学ぶ	
23	担がん動物の看護　まとめ	1.シラバスとの関係	担がん動物を看護する技術について学ぶ	
		2.コマ主題	様々ながん治療を継続する動物の看護について知る	
		3.コマ主題細目	治療方法によって異なる予後と症状について知る。最適な看護方法について学ぶ。	
		4.コマ主題細目深度	治療法やがんの種類、ステージによって異なる症状を知り、今後の生活を予測して看護に活かせるように学ぶ。また、長くない生存期間について飼い主の気持ちを理解し、サポートできるよう環境作りについても学ぶ。	
		5.次コマとの関係	高齢動物の看護について学ぶ	
24	高齢動物の看護①	1.シラバスとの関係	高齢動物とは何かを知る	
		2.コマ主題	加齢に伴う変化を知り、高齢動物とは何かを理解する	
		3.コマ主題細目	老化の速度を決める主な要因を知り、かつ高齢の身体変化を知って対応できるような知識を持つ	
		4.コマ主題細目深度	高齢動物とは何かを知る。加齢にともなう変化を理解し、各器官系におきる実際を知り、看護に活かす。	
		5.次コマとの関係	高齢動物の生活環境について知る	
25	高齢動物の看護②	1.シラバスとの関係	高齢動物の生活環境の改善によるQOL向上について学ぶ	
		2.コマ主題	高齢動物に最適な生活環境について学び、看護に活かす	
		3.コマ主題細目	生活環境の改善。室温、留意すること、トイレ、食事など。	
		4.コマ主題細目深度	高齢動物が生活する上で留意すること、改善点などを考慮する。看護の現場に活用できるようにする。	
		5.次コマとの関係	症状の経過によりことなる看護について学ぶ	
26	経過に基づく動物の看護①	1.シラバスとの関係	急性期、慢性期にある動物の状態について知る	
		2.コマ主題	急性期、慢性期にある動物の状態について知り、必要な看護について知識を持つ	
		3.コマ主題細目	経過別の動物看護実践の重要性を知り、急性期、回復期について学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	急性期の動物の観察とアセスメントについて学ぶ。急性期にある動物の看護について学ぶ。慢性期の動物の観察とアセスメントについて知り、この期にある動物の看護について知る。	
		5.次コマとの関係	障害を持つ動物の看護について学ぶ	

臨床動物看護学－3

27	経過に基づく動物の看護：まとめ	1.シラバスとの関係	障害を持つ動物の看護と観察、アセスメン及び終末期について学ぶ	
		2.コマ主題	急性期、回復期。回復期に身体機能に障害がある場合について。その後の終末期について知る。	
		3.コマ主題細目	回復期に身体機能に障害がある場合をリハビリテーション期という。この期の動物と飼い主への指導について。また、終末期について学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	廃用症候群について。この期のリハビリテーション期についての看護について学び、終末期についての動物看護と飼い主への対応について学ぶ。	
		5.次コマとの関係	周術期の動物看護について学ぶ	
28	周術期の動物看護①	1.シラバスとの関係	周術期にある動物の生活状況の把握と、必要な動物看護について学ぶ	
		2.コマ主題	術前、術中、術後の動物看護の役割と必要な動物看護について知る。	
		3.コマ主題細目	周術期とはどんなことか、何が必要になるかなど基本的な知識を習得する	
		4.コマ主題細目深度	周術期を術前、術中、術後に分けて内容を知り、その時期に必要な技術と動物の看護について学ぶ	
		5.次コマとの関係	周術期看護のまとめ	
29	周術期の動物看護②	1.シラバスとの関係	周術期にある動物の生活状況の把握と、必要な動物看護について学ぶ	
		2.コマ主題	前回学んだ中で、事例を挙げてまとめる	
		3.コマ主題細目	一つの手術を事例とし、それに関係する術前、中、後後の動物看護について検討し、学習する。	
		4.コマ主題細目深度	手術の事例を挙げてディスカッションしながら周術期看護についてまとめる	
		5.次コマとの関係	まとめと振り返りをする	
30	周術期の動物看護：まとめ	1.シラバスとの関係	周術期とはどんなことか、何が必要になるかなど基本的な知識を振り返り、必要な看護技術について討議する	
		2.コマ主題	動物看護の振り返りをしながら、周術期の看護としてまとめる	
		3.コマ主題細目	事例に沿って、動物の術前、中、後の動物看護計画を立案し展開する	
		4.コマ主題細目深度	動物看護過程の展開をし、周術期看護をまとめる	
		5.次コマとの関係		

動物入院管理

学科	動物看護系学科	シラバス（概要）
コース		動物を看護するにあたり、動物看護過程の流れについて、看護動物とその飼い主に十分にアセスメントを行い、看護上の問題点を明確化する。そこから、看護目標を立案し、その目標を達成するための観察計画、ケア計画、指導計画を考える力を身につける。また、看護を実践するだけではなく、提供した看護により動物の病状や心情などがどのように変化したのか、どのような経過をたどっているのかを、SOAP方式を用いて看護記録に動物看護師の責任で記す。動物看護過程の最終段階では、立案した看護目標が達成できたかを評価する必要がある。看護上の問題点が解決するまで、看護計画に基づき看護実践、評価が繰り返し必要である。飼い主と離れて病気の治療を受ける動物を、身体的及び精神的な面から支える重要な仕事が入院動物管理である。入院している看護動物の病状について理解と動物の情報を把握し、入院生活が極力ストレスにならないように管理する基本的なケアを学ぶ。また、ペットホテルなど健康な動物を預かる際の注意点についても学び、適切なケアができるように学習する。
履修条件		
ユニット		
科目名	動物入院管理	
単位	1	
履修時間	30時間	
回数	30回	
授業形態	講義	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	筆記試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①今からはじめる動物看護過程（インターズー）②動物看護実践基準（インターズー）③動物看護の教科書第4巻（緑書房）②動物病院ナースのための臨床テクニック（チクサン出版社）	

コマシラバス

50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	看護過程の復習	1.シラバスとの関係	これから入院動物の看護について学ぶ前に、看護の目的を達成するための考え方である動物看護過程について復習する。	
		2.コマ主題	動物看護過程とは何かを振り返る。	
		3.コマ主題細目	①動物看護過程の流れ　②各段階での考え方のポイント	
		4.コマ主題細目深度	①動物看護学で学んだ看護過程の5段階（アセスメント→看護診断→看護計画→看護実践→看護評価）の流れが理解できているかを確認する。②各段階で行うこと、注意点を確認する。	
		5.次コマとの関係	看護実践で記録する、看護記録について学ぶ。	
2	動物看護計画①	1.シラバスとの関係	入院動物管理において、動物看護過程のアセスメントから看護計画を立案するまでの流れを、看護動物の入院が決定したところから順を追って確認していく。	
		2.コマ主題	動物看護計画について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①動物看護計画の立て方	
		4.コマ主題細目深度	①看護動物の入院が決定したら、動物看護師としてまず何をするべきか考える。アセスメントの際に飼い主からの情報収集の手段として、入院の受入れ用紙を記入してもらうのも良い。自分の飼育している動物が何かの疾患で入院することになったと仮定し、飼い主の立場になって入院の受入れ用紙を記載する。その用紙をペアになった人と交換し、どのような看護上の問題点があるかを探る。	
		5.次コマとの関係	基本情報アセスメント用紙の記載について学ぶ。	
3	動物看護計画②	1.シラバスとの関係	入院動物管理において、動物看護過程のアセスメントから看護計画を立案するまでの流れを、動物の入院が決定したところから順を追って確認していく。	
		2.コマ主題	動物看護計画について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①動物看護計画の立て方　②看護計画の表記方法	
		4.コマ主題細目深度	①飼主からの情報収集を、基本情報アセスメント用紙にまとめる。まとめた例を見て、看護上の問題点を探る。それをもとに看護計画を立案する。②看護計画の一例を見ながら、動物看護記録一号用紙の表記方法を各項目ごとに学ぶ。	
		5.次コマとの関係	動物看護記録について学ぶ。	
4	動物看護記録①	1.シラバスとの関係	入院動物管理における、看護実践の内容などの記録（動物看護記録）の取り方、表記方法を学ぶ。	
		2.コマ主題	動物看護記録の取り方、表記方法を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①動物看護記録の表記内容　②動物看護記録を記載する理由	
		4.コマ主題細目深度	①動物看護記録に表記する内容を確認する。他者が記録を読んだ時に注意事項などをすぐに把握でき、また看護実践の内容が理解できるような記録にする。②なぜ動物看護記録が必要かを理解する。看護記録の役割について学ぶ。	
		5.次コマとの関係	動物看護記録の記載上の注意を学ぶ。	
5	動物看護記録②	1.シラバスとの関係	入院動物管理における、看護実践の内容などの記録（動物看護記録）の取り方、表記方法を学ぶ。	
		2.コマ主題	動物看護記録の取り方、表記方法を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①動物看護記録の記載上の注意　②記録システム（SOAP方式）	
		4.コマ主題細目深度	①実際に看護記録を記載する場合は、正確さ、簡潔さ、明瞭さ、責任の所在、言葉の表現方法、人権やプライバシーの保護に注意する。②動物看護経過は経時的にSOAP方式で記録する。記載実例を見て、記載内容の意味が理解できる。	
		5.次コマとの関係	次回から入院の手順と入院管理について具体的に学ぶ。	

動物入院管理

6	入院動物の看護 入院の手順と注意事項	1.シラバスとの関係	入院生活が極力ストレスにならないように、看護動物を心から迎え入れ、安全で心地良い入院生活を送ることができるように配慮する。	
		2.コマ主題	入院の手順を確認し、それぞれで動物看護師として注意することを考える。	
		3.コマ主題細目	①入院の手順 ②注意すること	
		4.コマ主題細目深度	①入院の大まかな手順を確認する。看護動物の入院が決定したらまず受入れの準備をする。全てが整ったら看護動物を受け入れ、飼い主へのオリエンテーションを行う(オリエンテーションが先でも良い)。そこから記録は始まる。②それぞれの手順の中で、動物看護師として注意することを確認し合う。看護動物だけでなく飼い主への配慮も必要である。	
		5.次コマとの関係	それぞれの手順を具体的に学んでいく。	
7	入院動物の看護 看護動物の受入れ	1.シラバスとの関係	入院生活が極力ストレスにならないように、看護動物を心から迎え入れ、安全で心地良い入院生活を送ることができるように配慮する。	
		2.コマ主題	看護動物を受け入れる前の準備から受入れ時の注意までを学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①準備するもの ②入院体制の確認 ③看護動物の受	
		4.コマ主題細目深度	①入院中に使用するもの(必要なもの)をリストアップする。飼い主から預かったものには必ず名前を貼り、記録しておく。②受け入れる準備として、獣医師や他の動物看護師と相談するべきことを挙げていく。③受入れ時の飼い主との手続き内容を確認する。看護動物の状態を確認し、その状態に応じた対処法、注意点を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	入院環境について学ぶ。	
8	入院動物の看護 入院環境の確認	1.シラバスとの関係	入院生活が極力ストレスにならないように、安全で心地良い入院生活を送ることができるように配慮する。	
		2.コマ主題	看護動物の状態に応じた入院環境の工夫を考える。	
		3.コマ主題細目	①保温が必要な場合 ②暑がっている場合 ③気が立っている場合 ④整形外科疾患の場合 ⑤旋回運動や転倒する動物の場合 ⑥重症の場合 ⑦新生子の場合	
		4.コマ主題細目深度	①～⑦の状態に応じた工夫と注意点をグループで話し合い、発表する。	
		5.次コマとの関係	入院動物の観察ポイントについて学ぶ。	
9	入院動物の看護 入院動物の観察ポイント	1.シラバスとの関係	入院生活が極力ストレスにならないように、安全で心地良い入院生活を送ることができるように配慮する。	
		2.コマ主題	入院動物管理で特に重要な看護動物の観察項目について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①食事、食欲 ②排便・排尿 ③分泌物 ④点滴やチュー	
		4.コマ主題細目深度	①～④において、観察するべきポイントを学ぶ。異常に気付いたら必ず獣医師に報告し、看護記録に記録する。また決められた時間にバイタルチェックを行い、投薬についても記録する。	
		5.次コマとの関係	入院ケージの衛生管理について学ぶ。	
10	入院動物の看護 ケージの衛生管理	1.シラバスとの関係	入院生活が極力ストレスにならないように、安全で心地良い入院生活を送ることができるように配慮する。	
		2.コマ主題	入院ケージの衛生管理について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①ケージ内の分泌物 ②ケージ内の掃除 ③床の掃除 ④食器の消毒	
		4.コマ主題細目深度	①～④において、注意するべきポイントを学ぶ。入院室は徹底した衛生管理が必要であることを理解する。	
		5.次コマとの関係	入院動物を扱う際の注意点について学ぶ。	
11	入院動物の看護 入院動物を扱う際の注意点	1.シラバスとの関係	入院生活が極力ストレスにならないように、安全で心地良い入院生活を送ることができるように配慮する。	
		2.コマ主題	入院動物を扱う際の注意点について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①ケージの開閉 ②小型犬、ネコの移動 ③大型犬の移動 ④抱き上げるとき ⑤エリザベスカラーの使用	
		4.コマ主題細目深度	①～④において、注意するべきポイントを学ぶ。入院動物を扱う際は、落下や逃走事故を起こさないように、興奮などで病状が悪化しないように細心の注意を払う必要があ	
		5.次コマとの関係	入院動物の食事管理について学ぶ。	
12	入院動物の看護 食事管理①	1.シラバスとの関係	入院動物にとっての命綱である食事管理について、看護動物の状態に応じた看護援助ができるようになる。	
		2.コマ主題	入院動物の食事管理について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①栄養とカロリー ②自発的な採食がみられる場合の食事の与え方	
		4.コマ主題細目深度	①動物栄養学で学習したカロリー計算を振り返る。入院動物の状態に応じた食事内容と量を獣医師と相談する。②入院中の食欲と嗜好などを観察し、自発的に採食する場合の食事の与え方を工夫する。	
		5.次コマとの関係	自発的な採食がみられない場合の食事管理について学	

動物入院管理

13	入院動物の看護 食事管理②	1.シラバスとの関係	入院動物にとっての命綱である食事管理について、看護動物の状態に応じた看護援助ができるようになる。	
		2.コマ主題	入院動物の食事管理について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①自発的な採食がみられない場合の食事管理	
		4.コマ主題細目深度	①強制給餌について学習する。経口摂取ができる場合の経口投与の方法や注意点を学ぶ。長期間強制給餌が必要な場合や、経口摂取が不可能な場合はチューブを留置する方法がある。経鼻食道チューブ、咽頭食道チューブ、胃チューブの設置方法とそれぞれの利点、欠点を学ぶ。またチューブフィーディングの具体的な手順とその注意点を理解する。	
		5.次コマとの関係	入院中の運動と散歩、動けない動物のケアについて学	
14	入院動物の看護 運動と散歩 動けない動物のケア	1.シラバスとの関係	入院生活が極力ストレスにならないように、安全で心地良い入院生活を送ることができるように配慮する。	
		2.コマ主題	入院中の運動と散歩、動けない動物のケアについて学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①入院中の運動と散歩　②動けない動物のケア	
		4.コマ主題細目深度	①運動ができる状態の動物であれば、気分転換や運動機能の回復のために運動や散歩が必要である。ケージから出す際や、外での散歩時に注意することを考える。運動・散歩中の動物の観察もしっかり行い記録する。②動けない動物に対して、どのようなケアが必要かを考える。詳しい看護援助に関しては、「幼齢動物・老齢動物管理」の科目で学習する。	
		5.次コマとの関係	入院中の輸液管理について学ぶ。	
15	入院動物の看護 輸液管理①	1.シラバスとの関係	入院動物に対する医療行為の中で、動物看護師の関わりが深い輸液管理について学ぶ。	
		2.コマ主題	輸液の目的と輸液製剤の種類について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①輸液の目的　②輸液製剤の種類	
		4.コマ主題細目深度	①輸液の目的が言えるようになる。なぜその入院動物に輸液が必要なのかを考える。最も重要な体液管理について理解する。②輸液の目的に応じた輸液製剤があることを知る。輸液製剤を決定するのは獣医師だが、その動物の状態や輸液の効果を知るためにも、動物看護師がどのような輸液製剤があるのかを理解することは重要である。	
		5.次コマとの関係	輸液製剤の準備と輸液量の決定について学ぶ。	
16	入院動物の看護 輸液管理②	1.シラバスとの関係	入院動物に対する医療行為の中で、動物看護師の関わりが深い輸液管理について学ぶ。	
		2.コマ主題	輸液製剤の準備と輸液量の決定について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①輸液製剤の調合　②輸液量の決定	
		4.コマ主題細目深度	①看護動物の状態に応じた輸液製剤がない場合は、調合が必要となる。その手技を学び、無菌操作についても確認する。②輸液量は獣医師が決定するが、その計算方法を理解する。特に身体検査から脱水を評価する方法は、その動物の状態を把握するために不可欠である。	
		5.次コマとの関係	輸液に使用する器具を復習し、輸液を開始するまでの手順を確認する。	
17	入院動物の看護 輸液管理③	1.シラバスとの関係	入院動物に対する医療行為の中で、動物看護師の関わりが深い輸液管理について学ぶ。	
		2.コマ主題	輸液に使用する器具を復習し、輸液を開始するまでの手順を確認する。	
		3.コマ主題細目	①静脈内輸液に使用するもの　②輸液の準備	
		4.コマ主題細目深度	①静脈内留置、輸液に使用するものをリストアップする。②看護実習で実践した内容を振り返り、輸液の準備の手順、注意点を確認する。輸液ポンプと自然落下の違いとそれぞれの注意点を確認する。	
		5.次コマとの関係	輸液中の管理について学ぶ。	
18	入院動物の看護 輸液管理④	1.シラバスとの関係	入院動物に対する医療行為の中で、動物看護師の関わりが深い輸液管理について学ぶ。	
		2.コマ主題	輸液中の管理について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①輸液中の動物の観察　②輸液ポンプの管理	
		4.コマ主題細目深度	①輸液中の看護動物の観察項目を挙げる。看護動物全体の変化と血管留置部分の異常に分け、どのような異常が起こりやすいかを学ぶ。異常に気付いたらすぐに獣医師に報告する。②輸液中に起こりやすいトラブル（閉塞、滴下異常、空液）が起こった場合のチェック項目と対処法	
		5.次コマとの関係	退院するときに行うことについて学ぶ。	
19	入院動物の看護 退院するとき	1.シラバスとの関係	入院動物が退院する際に、動物看護師としてやるべきことを考え、帰宅後のケアが必要な場合は十分な指導ができるようになる。	
		2.コマ主題	退院するときに行うことについて学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①退院の手順　②退院前のチェック　③最終確認	
		4.コマ主題細目深度	①大まかな退院の手順を確認する。退院の指示を受けたらその準備を行う。飼い主に看護動物を引き渡す前にしておくべきことを確認する。退院後は電話や再診時に看護動物の様子を尋ね、記録する。②退院前に健康状態のチェックを念入りに行う。体が汚れている場合は獣医師に確認しグルーミングを行う。③退院の際はその日の健康状態を確認し、問題がありそうなら獣医師に報告する。帰宅後のケアについてまとめておく。	
		5.次コマとの関係	主な疾患の入院管理を学んでいく。	

動物入院管理

20	主な疾患の入院管理 伝染性疾患①	1.シラバスとの関係	動物看護過程の流れを踏まえ、症状・状況別の具体的な入院管理を学ぶ。	
		2.コマ主題	伝染性疾患（感染症）の動物の入院管理に必要な基礎知識を確認する。	
		3.コマ主題細目	①感染症とは何か　②感染症の看護	
		4.コマ主題細目深度	①感染症とは何か、発生の3要因を確認する。②伝染性疾患の動物の看護においては、看護動物を保護し、新たに来院する動物と飼い主、動物病院スタッフ自身の保護も必要であることを理解する。そのための対策（標準予防策、手指衛生、感染経路別の感染対策）を具体的に学ぶ。	
		5.次コマとの関係	伝染性疾患（感染症）の看護動物の入院管理のケーススタディーに進む。	
21	主な疾患の入院管理 伝染性疾患②	1.シラバスとの関係	動物看護過程の流れを踏まえ、症状・状況別の具体的な入院管理を学ぶ。	
		2.コマ主題	伝染性疾患（感染症）の動物の入院管理について、具体的なケースから学ぶ。（アセスメントから看護診断まで）	
		3.コマ主題細目	①事例の情報　②解釈・判断　③看護診断	
		4.コマ主題細目深度	①事例の情報を見る。②この事例からわかること、予想される問題点などをグループで話し合う。③出た問題点をまとめて発表する。	
		5.次コマとの関係	看護計画、看護実践に進む。	
22	主な疾患の入院管理 伝染性疾患③	1.シラバスとの関係	動物看護過程の流れを踏まえ、症状・状況別の具体的な入院管理を学ぶ。	
		2.コマ主題	伝染性疾患（感染症）の動物の入院管理について、具体的なケースから学ぶ。（看護目標の設定から看護計画ま	
		3.コマ主題細目	①看護目標の設定　②看護計画の立案	
		4.コマ主題細目深度	①前回グループで話し合い、出た問題点から看護目標を設定する。②その目標を達成するための看護計画を立てる。動物看護実践基準に記載されている具体的な援助法を参考に、この事例の場合どのような援助が必要かを話し合う。	
		5.次コマとの関係	看護記録をもとに、看護実践内容を確認する。	
23	主な疾患の入院管理 伝染性疾患④	1.シラバスとの関係	動物看護過程の流れを踏まえ、症状・状況別の具体的な入院管理を学ぶ。	
		2.コマ主題	伝染性疾患（感染症）の動物の入院管理について、具体的なケースから学ぶ。（看護実践から看護評価まで）	
		3.コマ主題細目	①看護記録内容の確認　②看護評価	
		4.コマ主題細目深度	①看護記録を見て、実践した援助内容の意味と、自分ならどうするかを考え発表する。②看護評価を見て、これまでの流れを振り返る。	
		5.次コマとの関係	ICU患者の入院管理に進む。	
24	主な疾患の入院管理 重症動物（ICU患者）①	1.シラバスとの関係	動物看護過程の流れを踏まえ、症状・状況別の具体的な入院管理を学ぶ。	
		2.コマ主題	重症動物が示す症状に対する看護を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①重症動物のアセスメント　②症状に対する援助	
		4.コマ主題細目深度	①重症度の高い動物に対するアセスメント項目を確認する。そこから看護上の問題点を抽出する。②重症動物が示す発熱、痛み、呼吸困難、嘔吐などの症状に対する看護援助を考える。	
		5.次コマとの関係	危篤状態にある動物の看護について学ぶ。	
25	主な疾患の入院管理 重症動物（ICU患者）②	1.シラバスとの関係	動物看護過程の流れを踏まえ、症状・状況別の具体的な入院管理を学ぶ。	
		2.コマ主題	危篤状態にある看護動物の苦痛と緩和を図るための入院管理を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①看護の手順とその注意事項	
		4.コマ主題細目深度	①危篤状態にある看護動物の苦痛を緩和する援助を積極的に行うべきである。その動物の飼育背景や飼い主の事情も踏まえながら、具体的にどのような援助ができるかを考える。	
		5.次コマとの関係	痛みのある動物の入院管理に進む。	
26	主な疾患の入院管理 痛みのある動物①	1.シラバスとの関係	動物看護過程の流れを踏まえ、症状・状況別の具体的な入院管理を学ぶ。	
		2.コマ主題	痛みについて理解する。	
		3.コマ主題細目	①痛みとは何か　②痛みの分類　③痛みに伴う臨床症状	
		4.コマ主題細目深度	①痛みの定義を知る。症状の出現形態とメカニズムを学ぶ。②痛みの分類について、特に急性疼痛と慢性疼痛の定義や症状の違いについて理解する。③イヌとネコにおける一般的な痛みに伴う臨床症状を確認する。	
		5.次コマとの関係	痛みのある動物のアセスメントに進む。	
27	主な疾患の入院管理 痛みのある動物②	1.シラバスとの関係	動物看護過程の流れを踏まえ、症状・状況別の具体的な入院管理を学ぶ。	
		2.コマ主題	痛みのある動物を観察し、アセスメントを行う。	
		3.コマ主題細目	①観察項目	
		4.コマ主題細目深度	①痛みのある動物の観察項目を確認する。まずは痛みの状況を知り、バイタルサインや行動の変化をよく観察し、イヌの急性痛ペインスケールにあてはめて痛みの程度を評価する。その他、入院環境や処置・手術の種類によっても痛みの感覚が変わることを知る。また、血液検査所見からも炎症反応の有無がわかる。	
		5.次コマとの関係	痛みに対する援助を学ぶ。	

動物入院管理

28	主な疾患の入院管理 痛みのある動物③	1.シラバスとの関係	動物看護過程の流れを踏まえ、症状・状況別の具体的な入院管理を学ぶ。	
		2.コマ主題	痛みのある動物に対する具体的な援助を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①痛みに対する援助	
		4.コマ主題細目深度	①動物看護実践基準に記載されている援助内容に沿って、どのような入院管理が必要かを考える。痛みを和らげる効果がある、温罨法、冷罨法について学ぶ。	
		5.次コマとの関係	在宅医療について学ぶ。	
29	在宅医療	1.シラバスとの関係	通院や入院が困難な動物が過ごす自宅や施設などで行う在宅医療について学ぶ。	
		2.コマ主題	在宅医療について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①在宅医療の特徴 ②サポート内容 ③酸素の供給 ④その他の便利なツール	
		4.コマ主題細目深度	①在宅医療を行うのは飼い主家族であるため、コミュニケーションと家族からの信頼が大切である。在宅医療を希望する理由を考える。②飼い主家族に対して、生活面と医療面でのサポート内容を考え、挙げていく。③在宅医療での酸素吸入の目的とその効果を知り、具体的な吸入方法を学ぶ。④その他、在宅医療で使用できる器具、道具を知る。	
		5.次コマとの関係	健康な動物の預かり(ペットホテル)について学ぶ。	
30	健康な動物の預かり(ペットホテル)	1.シラバスとの関係	動物病院では健康な動物を預かることも多いため、その際の注意点やケアの内容を学ぶ。	
		2.コマ主題	健康な動物の預かる際の注意点やケアの内容を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①預かる時の確認事項 ②動物を預かる手順 ③ケアの内容	
		4.コマ主題細目深度	①動物を預かる際に飼い主に確認するべきことを挙げ、動物の健康状態も観察することが重要である。②飼い主からの預かり方(動物の扱い方、飼い主への声掛けなど)、預かった後に行うことを確認する。③預かり中のケアの内容を学ぶ。予測できる問題点を探り、それを予防するためにはどうするかを考える。	
		5.次コマとの関係		

幼齢動物・老齢動物管理

学科	動物看護系学科	シラバス（概要）
コース		主にイヌやネコの新生子期から幼年期の管理について理解し予防と看護に活かし、また、老齢動物の管理、介護を理解し飼い主やその家族に寄り添った在宅看護に活用する。新生子から成イヌや成ネコになるまで、動物は身体的にも精神的にも様々な変化を経て成長するが、新生子期に必要な特有の看護技術や、成長段階の各時に最適な看護を学び、また、社会化期が一生涯の性格形成についてなぜ重要なのかを理解する。 獣医療の改善によって伴侶動物の寿命が延びていることから、高齢動物が占める割合が増えているが、高齢のための症状は様々にわたり、看護援助技術にも配慮が必要となる。動物看護師として高齢動物に適切な介助できるよう看護技術を習得する。
履修条件		
ユニット		
科目名	幼齢動物・老齢動物管理	
単位	1	
履修時間	30時間	
回数	30回	
授業形態	講義	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	筆記試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①動物看護の教科書第4巻(緑書房)②コンパニオン・アニマルの新健康管理学(インターズー)③愛犬の繁殖と育児百科(誠文堂新光社)④ネコの繁殖と育児百科(誠文堂新光社)⑤臨床動物看護学各論(インターズー)⑥犬と猫の老齢介護エキスパートブック(インターズー)	

コマシラバス

50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	幼齢動物の管理 新生子のケア①	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコの新生子期に必要なケアについて学び、疾病の予防と看護に活かす。	
		2.コマ主題	出産後、母親が子イヌ・子ネコの面倒を見ることができない場合にヒトの手で行う新生子のケアについて学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①出産直後のケア　②初乳の必要性	
		4.コマ主題細目深度	①難産や帝王切開、ネグレクト(育児放棄)などの場合、新生子に対してどのようなケアが必要かを知る。気道確保の方法、臍帯のケアについて写真や映像を見ながら学習する。②初乳とは何か、その役割が説明できるようになる。また、初乳が飲めなかった新生子に対するケアについても学ぶ。	
		5.次コマとの関係	人工哺乳について学ぶ。	
2	幼齢動物の管理 新生子のケア②	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコの新生子期に必要なケアについて学び、疾病の予防と看護に活かす。	
		2.コマ主題	出産後、母親が子イヌ・子ネコの面倒を見ることができない場合にヒトの手で行う新生子のケアについて学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①人工哺乳の方法(哺乳瓶法)	
		4.コマ主題細目深度	①新生子のケアの中で最も重要となる人工哺乳について、哺乳瓶による方法と注意点について学ぶ。哺乳瓶(乳首)のタイプや人工ミルクの量や与え方、温度、回数など、写真や実物を見ながら様々な注意点を具体的に学習する。また、人工哺乳の際の衛生管理についても学び、飼い主に正しく指導できるようになる。	
		5.次コマとの関係	哺乳瓶法以外の人工哺乳について学ぶ。	
3	幼齢動物の管理 新生子のケア③	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコの新生子期に必要なケアについて学び、疾病の予防と看護に活かす。	
		2.コマ主題	出産後、母親が子イヌ・子ネコの面倒を見ることができない場合にヒトの手で行う新生子のケアについて学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①人工哺乳の方法(シリンジやカテーテルを用いた方法)	
		4.コマ主題細目深度	①新生子が哺乳瓶を吸う力がない場合に行う、シリンジやカテーテルを用いた人工哺乳の方法について学ぶ。このような方法は動物病院で飼い主に指導することが多いため、正しい方法や注意点を動物看護師として指導できるようになる。	
		5.次コマとの関係	人工哺乳以外のケアについて学ぶ。	
4	幼齢動物の管理 新生子のケア④	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコの新生子期に必要なケアについて学び、疾病の予防と看護に活かす。	
		2.コマ主題	出産後、母親が子イヌ・子ネコの面倒を見ることができない場合にヒトの手で行う新生子のケアについて学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①適切な飼育環境　②排泄の補助	
		4.コマ主題細目深度	①新生子は体温調節が未発達なため、室温管理が重要であることを知る。高体温や低体温になった場合の新生子への影響も学ぶ。②新生子は自力で排泄できないため、ヒトの手による補助が必要であることを知る。その方法や頻度、注意点について学ぶ。	
		5.次コマとの関係	幼齢動物の成長過程について学ぶ。	
5	幼齢動物の管理 成長過程	1.シラバスとの関係	新生子の成長過程を学び、それぞれの過程において必要なケアを考える。	
		2.コマ主題	出生後から約3ヶ月齢までの成長過程における身体や行動の特徴を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①イヌ、ネコの成長過程における特徴	
		4.コマ主題細目深度	①各成長過程における身体や行動の特徴を学ぶことで、発達が正常かどうかを見極めることができるようになる。それぞれの成長段階でどのようなケアが必要かをグループで話し合い、発表する。	
		5.次コマとの関係	幼齢動物の健康チェックについて学ぶ。	

幼齢動物・老齢動物管理

6	幼齢動物の管理 健康チェック	1.シラバスとの関係	幼齢動物の健康チェックを行うことで、疾病の早期発見につなげ看護に活かす。	
		2.コマ主題	幼齢動物の全身を観察し、健康チェックのポイントを学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①体のチェック ②疾患の徴候 ③先天性疾患のチェック	
		4.コマ主題細目深度	①体重は毎日計測し、同時に可能な範囲でバイタルチェックを行い、頭から尻尾の先まで丁寧に検査をする。その際のチェック項目を学ぶ。②新生子の疾患の徴候として多いものを知り、どのような対処が必要かを考える。③先天性疾患で多いものを知る。	
		5.次コマとの関係	幼齢動物の主な疾患と予防について学ぶ。	
7	幼齢動物の管理 主な疾患とその予防	1.シラバスとの関係	幼齢動物に多くみられる疾患とその予防について学び、疾病の早期発見につなげる。	
		2.コマ主題	幼齢動物の症状からどのような疾患が考えられるかを学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①子イヌにみられる主な疾患 ②子ネコにみられる主な疾患	
		4.コマ主題細目深度	①子イヌの症状から考えられる疾患を学ぶ。それらの疾患を予防するためにはどのようなケアが必要かを考える。②同様に子ネコに見られる主な疾患について学ぶ。	
		5.次コマとの関係	重症の子イヌ、子ネコに対する管理について学ぶ。	
8	幼齢動物の管理 重症の子イヌや子ネコに対する管理	1.シラバスとの関係	重症の子イヌ、子ネコに対する管理について学び、看護に活かす。	
		2.コマ主題	重症の子イヌ、子ネコに対して行う処置や看護について学ぶ	
		3.コマ主題細目	①重症の子イヌ、子ネコに対して行う処置や看護について	
		4.コマ主題細目深度	①重症の子イヌ、子ネコに対して行う処置とその際の注意点、治療効果のチェック項目について知る。体力や免疫力が未発達な幼齢動物に対する看護のポイントを考える。	
		5.次コマとの関係	老齢動物の管理について学んでいく。	
9	老齢動物の管理 老齢期の身体的変化①	1.シラバスとの関係	老齢動物を管理する上で、老化による身体的変化に気づけるようになることでどのような看護援助が必要かがわかるようになる。	
		2.コマ主題	老化の正体を知る。	
		3.コマ主題細目	①老化とは ②老化のサイン	
		4.コマ主題細目深度	①老化の定義を知る。老化が始まる年齢には個体差があるが、おおよその年齢が言えるようになる。②老化による外貌の変化、行動の変化を学ぶ。自宅で老齢動物を飼育している場合は、その動物と照らし合わせて理解していく。	
		5.次コマとの関係	老化による体内変化について学ぶ。	
10	老齢動物の管理 老齢期の身体的変化②	1.シラバスとの関係	老齢動物を管理する上で、老化による身体的変化に気づけるようになることでどのような看護援助が必要かがわかるようになる。	
		2.コマ主題	老化による体内変化について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①老化による体内変化	
		4.コマ主題細目深度	①老化により体内の様々な器官にどのような変化が起こるのかを学ぶ。これまで学んだ各器官の構造や働きを振り返り、老化による変化がどのような影響を及ぼすのかを考える。	
		5.次コマとの関係	老齢期の適切な飼育環境について学ぶ	
11	老齢動物の管理 老齢期の適切な飼育環境	1.シラバスとの関係	老化により様々な変化が起こっている老齢動物に対して、日常生活においてどのような介護が必要かを学び、在宅看護や飼い主指導に活かす。	
		2.コマ主題	老齢期の適切な飼育環境について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①生活環境 ②室内の温度調整 ③室内で気をつけること ④排泄場所	
		4.コマ主題細目深度	①老齢動物が快適に過ごすことができるように、成年期とは異なった様々な工夫が必要であることを理解する。②老齢動物は体温調節機能も衰えるため、夏季と冬季ではどのような配慮が必要かを考える。③老齢動物が室内で起こしやすい事故についてその原因も含めてグループで話し合い発表する。そのような事故を予防するための工夫を考える。④老化による排泄の失敗を減らせるような工夫を考える。	
		5.次コマとの関係	老齢期の生活環境について、これから具体的に学んでいく。次回は老齢犬の散歩について学ぶ。	

12	老齢動物の管理 老齢期の日常生活における介護①	1.シラバスとの関係	老化により様々な変化が起こっている老齢動物に対して、日常生活においてどのような介護が必要かを学び、在宅看護や飼い主指導に活かす。	
		2.コマ主題	老齢犬の散歩の効果や介護法について学ぶ。また散歩の際に使用できる介護グッズを知る。	
		3.コマ主題細目	①散歩の効果　②歩行の状態に応じた介護法　③季節の変化に応じた注意点　④散歩に関する全体的な注意	
		4.コマ主題細目深度	①老齢犬の散歩がなぜ必要かを考える。筋力の低下を防止し、代謝を良くするだけでなく、他のイヌやヒトとのコミュニケーションの機会となることを知る。②走ることができる場合、自立歩行ができる場合、補助があれば歩ける場合、歩けない場合、それぞれに応じた介護法について学ぶ。③春夏秋冬、どのような配慮が必要かを考える。特に夏の散歩で熱中症になった場合の対処法を学ぶ。④老齢犬の散歩で特に注意すべき点について学ぶ。散歩で体調が悪化しないようにする。	
		5.次コマとの関係	老齢犬の食事について学ぶ。	
13	老齢動物の管理 老齢期の日常生活における介護②	1.シラバスとの関係	老化により様々な変化が起こっている老齢動物に対して、日常生活においてどのような介護が必要かを学び、在宅看護や飼い主指導に活かす。	
		2.コマ主題	老齢犬の食事について学ぶ。また食事の際に使用できる介護グッズを知る。	
		3.コマ主題細目	①老齢期の食事量　②食欲が低下した場合　③食事の注意点　④食事に関する介護法	
		4.コマ主題細目深度	①老齢期のエネルギー要求量、飲水量について学ぶ。②食事の嗜好性を高めるための工夫を考える。これらの工夫は動物病院でも行うため、病院での看護にも活かすことができる。③食事の際の注意点を学ぶ。食べない場合はその理由を考える。④老齢犬が食事をしやすい体勢にするための工夫を考える。特に寝たきりの場合は食事の介護が不可欠なため、その方法について学ぶ。また、流動食を与える際の注意点についても学ぶ。	
		5.次コマとの関係	老齢犬の排泄について学ぶ。	
14	老齢動物の管理 老齢期の日常生活における介護③	1.シラバスとの関係	老化により様々な変化が起こっている老齢動物に対して、日常生活においてどのような介護が必要かを学び、在宅看護や飼い主指導に活かす。	
		2.コマ主題	老齢犬の排泄について学ぶ。また排泄の際に使用できる介護グッズを知る。	
		3.コマ主題細目	①排便の管理　②排尿の管理	
		4.コマ主題細目深度	①排便を習慣づけるための心がけを学習する。宿便状態になっている高齢犬の介護法の一つとして、マッサージや指圧も効果があることを知る。②飼い主にできる排尿ケアについて学ぶ。自力で排尿できない場合の排尿方法（圧迫排尿、カテーテル）についても学ぶ。排便、排尿管理が適切にできなければ、どのような障害が起こるかを考える。	
		5.次コマとの関係	老齢犬の入浴について学ぶ。	
15	老齢動物の管理 老齢期の日常生活における介護④	1.シラバスとの関係	老化により様々な変化が起こっている老齢動物に対して、日常生活においてどのような介護が必要かを学び、在宅看護や飼い主指導に活かす。	
		2.コマ主題	老齢犬の入浴について学ぶ。また入浴の際に使用できる介護グッズを知る。	
		3.コマ主題細目	①入浴やシャンプーの必要性　②入浴の注意点　③入浴の方法	
		4.コマ主題細目深度	①イヌによって入浴がストレスになっていないかを確認する。熱いお湯が皮膚や呼吸器に与える影響を知る。②老齢犬のシャンプーや入浴をさせる場合の注意点を知り、なぜそのような対処が必要かを考える。③入浴やシャンプーの手順と注意点を学ぶ。汲み置き洗いの利点を知り、なぜそれが高齢犬に適しているのかを考える。	
		5.次コマとの関係	老齢猫の介護について学ぶ。	
16	老齢動物の管理 老齢期の日常生活における介護⑤	1.シラバスとの関係	老化により様々な変化が起こっている老齢動物に対して、日常生活においてどのような介護が必要かを学び、在宅看護や飼い主指導に活かす。	
		2.コマ主題	老齢猫の介護、特にネコ特有の飼育環境の工夫について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①老齢猫の手入れ　②老齢猫の病気予防　③快適な飼育環境	
		4.コマ主題細目深度	①老齢猫の眼、皮膚、被毛、歯、爪に起こりやすい問題を学び、適切な手入れ方法を知る。②老齢猫の病気予防のためには、定期的な健康診断、予防接種を行い、かかりやすい病気を知ることが重要である。食事管理のポイントを学び、猫特有の注意点を探す。③老齢猫にとって快適な飼育環境をつくるための4つのポイントを説明できるようになる。	
		5.次コマとの関係	老齢動物の慢性疾患について学んでいく。	

17	老齢動物の管理 老齢動物の慢性疾患①	1.シラバスとの関係	老齢動物は慢性疾患の罹患率が高いため、それらの疾患の症状を知り、どのような看護援助が必要かを考え実践できるようになる。	
		2.コマ主題	老齢動物の生活機能障害について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①高齢動物の生活機能とは	
		4.コマ主題細目深度	①老齢動物が日常生活動作（アビリティーモデルを参考に）を正常にできているかを評価する。全ての日常生活動作において、それができているかを飼い主に問診する練習を行う。それができていない場合にどのような援助が必要かをグループで考え、発表する。	
		5.次コマとの関係	老齢動物の運動器疾患について学ぶ。	
18	老齢動物の管理 老齢動物の慢性疾患②	1.シラバスとの関係	老齢動物は慢性疾患の罹患率が高いため、それらの疾患の症状を知り、どのような看護援助が必要かを考え実践できるようになる。	
		2.コマ主題	老齢動物の運動器疾患について、主にその看護援助について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①運動器系への加齢の影響　②老齢動物の運動器疾患に関する援助	
		4.コマ主題細目深度	①加齢に伴う筋肉や関節軟骨への影響を学び、その結果起こりやすい運動器疾患にはどのようなものがあるかを知る。②疼痛管理、理学療法、歩行の援助、環境整備、体重管理の援助について学ぶ。	
		5.次コマとの関係	老齢動物の排泄の調節障害について学ぶ。	
19	老齢動物の管理 老齢動物の慢性疾患③	1.シラバスとの関係	老齢動物は慢性疾患の罹患率が高いため、それらの疾患の症状を知り、どのような看護援助が必要かを考え実践できるようになる。	
		2.コマ主題	老齢動物の排泄の調節障害について、主に症状について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①排尿に関する障害　②排便に関する障害	
		4.コマ主題細目深度	①正常な排尿メカニズムを振り返り、加齢に伴ってどのような変化や症状が起こるかを知る。排尿障害には蓄尿障害と排泄障害の2つに分類することができるため、それらの特徴的な症状を知る。また、尿失禁についても学ぶ。②同様に、正常な排便のメカニズムと加齢による変化を確認する。便秘と下痢、便失禁について、それらの定義、症状、対処法を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	老齢動物の起立困難について学ぶ。	
20	老齢動物の管理 老齢動物の慢性疾患④	1.シラバスとの関係	老齢動物は慢性疾患の罹患率が高いため、それらの疾患の症状を知り、どのような看護援助が必要かを考え実践できるようになる。	
		2.コマ主題	起立が困難な老齢動物の特徴、特に褥瘡と看護援助について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①起立困難に陥る要因　②褥瘡について　③起立が困難な動物に対する援助	
		4.コマ主題細目深度	①老齢動物が起立困難に陥る原因を知る。起立困難の状態が続くことにより起こる廃用性症候群についても学ぶ。②褥瘡の原因、好発部位、予防と管理の方法について学ぶ。③起立が困難な老齢動物の食事、排泄、休息と睡眠、運動器に関する援助について学ぶ。特に体位交換の正しい手順をその理由を含めて理解し、飼い主に指導できるようになる。	
		5.次コマとの関係	老齢動物の認知障害について学ぶ。	
21	老齢動物の管理 老齢動物の慢性疾患⑤	1.シラバスとの関係	老齢動物は慢性疾患の罹患率が高いため、それらの疾患の症状を知り、どのような看護援助が必要かを考え実践できるようになる。	
		2.コマ主題	老齢犬の認知症について、概要、症状、対策について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①老齢犬の認知症とは　②症状	
		4.コマ主題細目深度	①認知症の定義を知る。②映像を見て、認知症の症状を知る。その映像から、どのような看護援助が必要かを考える。	
		5.次コマとの関係	引き続き認知症の老齢犬に対する具体的な援助と、老齢猫の認知症について学ぶ。	
22	老齢動物の管理 老齢動物の慢性疾患⑥	1.シラバスとの関係	老齢動物は慢性疾患の罹患率が高いため、それらの疾患の症状を知り、どのような看護援助が必要かを考え実践できるようになる。	
		2.コマ主題	認知症の老齢犬に対する具体的な援助と、老齢猫の認知症について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①夜鳴きに対する援助　②徘徊に対する援助　③老齢猫の認知症	
		4.コマ主題細目深度	①夜鳴きの概要、予防・改善策を学ぶ。夜鳴きは鳴いている原因を探ることが重要であり、その原因に応じた対処が必要であることを知る。②同様に徘徊の概要、予防・改善策を学ぶ。特に徘徊によって起こる問題点を挙げ、それぞれの対処法を考える。③ネコの認知症に伴う行動の変化について学ぶ。犬ほど目立つ症状はないが、排泄の問題が起こりやすいためその改善策を考える。	
		5.次コマとの関係	次回から老齢動物の主な疾患と予防について学んでいく。	

23	老齢動物の管理 老齢動物の主な疾患と予防①	1.シラバスとの関係	老齢動物で問題となる疾患について、それらのサインを学ぶことでいち早く異常に気付き、適切な看護援助ができるようになる。	
		2.コマ主題	老齢動物に多い関節疾患について、それらのサインや原因、予防、看護援助について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①関節疾患のサイン ②主な関節疾患 ③関節疾患の予防と看護援助	
		4.コマ主題細目深度	①関節の構造を振り返る。関節疾患のサインを知り、老齢動物を飼育している場合は照らし合わせてみる。②関節炎、椎間板ヘルニア、変形性脊椎症の原因と症状を学ぶ。③関節疾患の予防には、体重管理が不可欠であることを知る。関節疾患を持つ老齢動物に対する運動や食事の援助、痛みの管理について学び、動物看護師ができることを考える。	
		5.次コマとの関係	歯の疾患について学ぶ。	
24	老齢動物の管理 老齢動物の主な疾患と予防②	1.シラバスとの関係	老齢動物で問題となる疾患について、それらのサインを学ぶことでいち早く異常に気付き、適切な看護援助ができるようになる。	
		2.コマ主題	老齢動物に多い歯科疾患について、それらのサインや原因、予防、看護援助について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①歯肉炎・歯周病のサイン ②歯周病の治療 ③デンタルケアの方法	
		4.コマ主題細目深度	①歯の構造を振り返る。歯肉炎・歯周病のサインを知り、老齢動物を飼育している場合は照らし合わせてみる。歯肉炎、歯周病は全身に影響を与えることを知る。②動物病院で行う、全身麻酔下での歯科処置の流れを学ぶ。老齢動物では麻酔のリスクが大きくなるため、特に注意が必要である。歯科検診の重要性を理解する。③歯周病予防のためのデンタルケアについて、その種類と方法について学ぶ。歯磨きはステップを踏んで慣れさせていくことが重要である。	
		5.次コマとの関係	心疾患について学ぶ。	
25	老齢動物の管理 老齢動物の主な疾患と予防③	1.シラバスとの関係	老齢動物で問題となる疾患について、それらのサインを学ぶことでいち早く異常に気付き、適切な看護援助ができるようになる。	
		2.コマ主題	老齢動物に多い心疾患について、それらのサインや原因、予防、看護援助について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①老齢動物の循環器 ②主な心疾患 ③対処法	
		4.コマ主題細目深度	①心臓の構造と働きを振り返る。老化によってどのような変化が起こるかを学ぶ。②老齢犬に多い僧帽弁閉鎖不全症、それに引き続いて起こる肺水腫、老齢猫に多い肥大型心筋症について、原因と症状を学ぶ。③自宅でまもるべき注意点を知る。使用する薬物の種類や心臓に負担をかける可能性のある食べ物、運動に対する注意点などを学ぶ。	
		5.次コマとの関係	内分泌疾患と眼科疾患について学ぶ。	
26	老齢動物の管理 老齢動物の主な疾患と予防④	1.シラバスとの関係	老齢動物で問題となる疾患について、それらのサインを学ぶことでいち早く異常に気付き、適切な看護援助ができるようになる。	
		2.コマ主題	老齢動物に多い内分泌疾患と、老齢犬に多い眼科疾患について、それらのサインや原因、予防、看護援助について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①主な内分泌疾患の原因と症状 ②老齢犬の白内障	
		4.コマ主題細目深度	①甲状腺機能低下症（老齢猫では甲状腺機能亢進症）、副腎皮質機能亢進症、糖尿病について、主な原因と症状を知る。②眼の構造を振り返る。老齢性白内障について、その原因と症状を知る。視力が低下した老齢動物にどのような援助が必要かを考える。	
		5.次コマとの関係	腫瘍について学ぶ。	
27	老齢動物の管理 老齢動物の主な疾患と予防⑤	1.シラバスとの関係	老齢動物で問題となる疾患について、それらのサインを学ぶことでいち早く異常に気付き、適切な看護援助ができるようになる。	
		2.コマ主題	老齢動物に多い腫瘍について、それらのサインや原因、予防、看護援助について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①主な腫瘍の原因と症状	
		4.コマ主題細目深度	①乳腺腫瘍、肥満細胞腫、リンパ腫、脂肪腫（老齢犬）、扁平上皮癌（老齢猫）について、主な原因と症状を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	生殖器疾患について学ぶ。	
28	老齢動物の管理 老齢動物の主な疾患と予防⑥	1.シラバスとの関係	老齢動物で問題となる疾患について、それらのサインを学ぶことでいち早く異常に気付き、適切な看護援助ができるようになる。	
		2.コマ主題	老齢動物に多い生殖器疾患について、それらのサインや原因、予防、看護援助について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①雄の生殖器疾患 ②雌の生殖器疾患	
		4.コマ主題細目深度	①老齢犬に多い前立腺肥大、前立腺腫瘍について、その原因や症状について学ぶ。②老齢犬に多い子宮蓄膿症について、その原因や症状について学ぶ。不妊・去勢をしていない老齢動物では生殖器疾患が起こりやすいことを知る。	
		5.次コマとの関係	泌尿器疾患について学ぶ。	

29	老齢動物の管理 老齢動物の主な疾患と予防⑦	1.シラバスとの関係	老齢動物で問題となる疾患について、それらのサインを学ぶことでいち早く異常に気付き、適切な看護援助ができるようになる。	
		2.コマ主題	老齢動物に多い泌尿器疾患について、それらのサインや原因、予防、看護援助について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①腎不全について	
		4.コマ主題細目深度	①腎臓の構造と働きを振り返る。老齢動物に多い腎不全について、その概要と症状について学ぶ。食事管理の重要性を理解する。	
		5.次コマとの関係	老齢猫に多い消化器疾患と感染症について学ぶ。	
30	老齢動物の管理 老齢動物の主な疾患と予防⑧	1.シラバスとの関係	老齢動物で問題となる疾患について、それらのサインを学ぶことでいち早く異常に気付き、適切な看護援助ができるようになる。	
		2.コマ主題	老齢猫に多い消化器疾患と感染症について、それらのサインや原因、予防、看護援助について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	①巨大結腸症　②血液・免疫系に関わる感染症	
		4.コマ主題細目深度	①巨大結腸症の2つの原因と、便の出が悪くなった時のサインを知る。食事管理やマッサージなどの日頃のケアが重要である。②猫免疫不全ウイルス感染症、猫白血病ウイルス感染症について、それらの原因と症状を振り返る。	
		5.次コマとの関係		

動物臨床検査学

学科	動物看護系学科	シラバス(概要)
コース		臨床検査における動物看護師の役割を理解し、検査の目的を解剖学的・生理学的知識とともに身に付ける。基礎的な知識と技術を中心に、動物病院での臨床的応用も理解できるようにする。解剖学、生理学、看護学と臨床検査の関連性を理解し、動物病院での応用臨床検査にまつわる知識を習得し、基礎的臨床検査である検体検査および生体検査に関して、その目的と意義を理解し、動物臨床検査学実習にて習得する、実際の手技に反映できる技術を備えるようにする。検体検査においては、尿検査・糞便検査・血液検査・眼科検査・耳の検査・皮膚科検査・その他細胞診検査・微生物学的検査の目的・方法・検体の扱い方・正常値・異常値を理解す。また、生体検査においては、基礎的身体一般検査・X線検査・心電図検査と血圧測定・超音波検査・内視鏡検査・神経学的検査・CT・MRIなどの特殊検査の目的・方法・検査機器の正しい扱い方・正常値・異常値を学習する。
履修条件	動物臨床検査学を先行すること	
ユニット		
科目名	動物臨床検査学	
単位	1	
履修時間	30時間	
回数	30回	
授業形態	講義	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	筆記試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①動物看護の教科書(インターズー)②動物臨床検査学(インターズー)③動物看護実習テキスト(インターズー)④動物看護実践基準(インターズー)	

コマシラバス

50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	動物臨床検査学 概論	1.シラバスとの関係	臨床検査の目的と動物看護師の役割を理解する	
		2.コマ主題	動物臨床検査学　概論	
		3.コマ主題細目	臨床検査とは何か。その目的と動物病院における動物看護師の役割について	
		4.コマ主題細目深度	物理的な手法を用いて測定・観察し、獣医師が行う次の臨床検査項目の選択や診断・治療に関わる大切な業務であることを理解する	
		5.次コマとの関係	臨床の場で動物看護師が関わる臨床検査の種類につい	
2	臨床検査の種類	1.シラバスとの関係	動物看護師が関わる臨床検査の種類	
		2.コマ主題	動物看護師が関わる臨床検査の種類(検体検査、生体検査)にはどのようなものがあるのか、を知る。	
		3.コマ主題細目	動物看護師が関わる臨床検査は、大別すると(検体検査、生体検査)がある。それぞれにはどのような検査があるのか、動物看護師はそれらの検査においてどんなことを担当するのかということを知る。	
		4.コマ主題細目深度	臨床現場で実際に行われている検体検査と生体検査の種類と目的について知る 。臨床検査は、動物看護師が担当する重要な業務の一つであり、実際に検査業務に参加することが多いことを認識した上で、臨床検査の種類を確認する。	
		5.次コマとの関係	臨床検査をする時に使用する主要な検査機器について	
3	主要な検査機器	1.シラバスとの関係	検体検査・生体検査に使用する主要な検査機器について知る	
		2.コマ主題	検査機器・器具の名称と用途	
		3.コマ主題細目	顕微鏡・遠心分離機・屈折計の各部名称を覚えるとともに、基本的扱いについて理解する	
		4.コマ主題細目深度	顕微鏡の各部名称を知り、ピント合わせや対物レンズの切り替えを学ぶ。また、遠心分離機の原理と設定の方法・使用法について、屈折計の論理と使用法が理解できる	
		5.次コマとの関係	解剖学・看護学との関連性	
4	解剖学・看護学との関連性	1.シラバスとの関係	内臓・骨格・脳・神経の名称・数および、位置関係を知る。動物看護学における臨床検査との関連性を理解する	
		2.コマ主題	臨床検査と解剖学・看護学との関連性について考える。	
		3.コマ主題細目	臨床検査は、ただ単にそれらの検査のテクニックを習得するだけではなく、そこから得られたデーターや数字を見た時に、実施した臨床検査の結果が示している意味や関連のある臓器の生理的な働きが知識として認識できることが必要である。そのための解剖学的復習をし、動物の看護学に活かせるようにする。	
		4.コマ主題細目深度	体表検査の各種部位名称を把握する。臨床検査が必要な事例での異常反応がどこで起きているのかをすぐにイメージできるようになる。	
		5.次コマとの関係	臨床検査の生理学意味を知ることによ動物の看護学に活かせるように関連性を考える	
5	生理学・看護学との関連性	1.シラバスとの関係	各臓器のはたらきと、看護学における臨床検査との関連性について知る	
		2.コマ主題	各臨床検査の生理学意味を知り、動物の看護に活用できるように関連性を考える	
		3.コマ主題細目	各臨床検査の生理学的な意味を知り、獣医師が検査結果の値に基づいて診断をする内容について共通の理解を持つことができ、動物の看護に活用できるようにする	
		4.コマ主題細目深度	各臓器におけるはたらきを学び、臨床検査が必要な事例での異常反応が発生機序をイメージできるようになる	
		5.次コマとの関係	臨床検査の詳細として、尿検査　概論を学ぶ	
6	尿検査　概論	1.シラバスとの関係	泌尿器系の働きと臨床検査の関連性。動物看護師の役割について学ぶ	
		2.コマ主題	尿検査　概論	
		3.コマ主題細目	尿生成の仕組み。泌尿器系の働き。泌尿器疾患について復習し知識の確認をする	
		4.コマ主題細目深度	腎臓と尿生成の関連性、血液生成について知る。また、正常尿と異常尿・疑われる疾患を理解できる。尿検査が必要な生体の状態と尿の異常の見極めについて学ぶ	
		5.次コマとの関係	尿検査①　採尿法・取り扱い・尿検査項目	

動物臨床検査学

7	尿検査① 採尿法・取り扱い・検査項目	1.シラバスとの関係	採尿方法とその取り扱い、尿検査項目について学ぶ	
		2.コマ主題	尿検査①　採尿法・取り扱い・検査項目	
		3.コマ主題細目	各種採尿法。尿の正しい取り扱い。物理的・化学的性状検査の種類。カルテ用語の理解	
		4.コマ主題細目深度	採尿法の違いにより生じるコンタミネーションを知り、生体へのストレス・検査に適した採尿法を理解できるよ。尿の適切な保管について知る。物理的性状検査・化学的性状検査と・尿沈渣とは何かを知る	
		5.次コマとの関係	尿検査②　手技・評価	
8	尿検査② 手技・評価	1.シラバスとの関係	物理的・化学的性状検査・尿沈渣の手技・結果・所見について学ぶ	
		2.コマ主題	尿検査②　手技・評価	
		3.コマ主題細目	正常尿と異常尿（色調・混濁・臭い）の判別。関連性疾患・必要な臨床検査について。手技・評価・所見について	
		4.コマ主題細目深度	正常・異常尿が判別できる。検査機器を正しく扱いスムーズに結果が出せる。尿中に含まれる有形成分を把握し、尿沈渣標本が作製できる。結果により疑われる疾患をイメージできる	
		5.次コマとの関係	糞便検査　概論	
9	糞便検査 概論	1.シラバスとの関係	消化器系のはたらきと臨床検査の関連性。動物看護師の役割について学ぶ	
		2.コマ主題	糞便検査　概論	
		3.コマ主題細目	消化器系の働き。消化器疾患について。内部寄生虫について	
		4.コマ主題細目深度	消化器系の働きと消化・吸収について知る。疑われる疾患（寄生虫・細菌・腫瘍など）との関連性について理解できるようになる。さらに糞便検査が必要な生体の状態と正常便・異常便の見極めについて学ぶ。	
		5.次コマとの関係	糞便検査①　採便法・取り扱い・糞便検査項目	
10	糞便検査① 採便法・取り扱い・検査項目	1.シラバスとの関係	採便方法とその取り扱い、糞便検査項目について学ぶ	
		2.コマ主題	糞便検査①　採便法・取り扱い・検査項目	
		3.コマ主題細目	各種採便法。糞便の正しい取り扱い方。糞便検査の項目と意義。カルテ用語の理解	
		4.コマ主題細目深度	望ましい採便法を知り、その保管について知る。糞便の肉眼的所見により得られる情報を理解できるようになる。寄生虫検査における直接法・浮遊法とは何かを知る	
		5.次コマとの関係	糞便検査②　手技・評価	
11	糞便検査② 手技・評価	1.シラバスとの関係	直接塗抹法・浮遊法・遠心沈殿法の手技・結果・所見について。微生物検査・消化試験について学ぶ	
		2.コマ主題	糞便検査②　手技・浄化	
		3.コマ主題細目	正常便と異常便（色調・臭い・形状）の判別。関連性疾患・必要な臨床検査。手技・評価・所見について	
		4.コマ主題細目深度	正常・異常便の判別が分かる。直接法・浮遊法・遠心沈殿法に必要な検査機器を正しく扱いスムーズに結果が出せる。糞便中の寄生虫卵・微生物の観察及び判別が理解できる。結果により疑われる疾患をイメージできる	
		5.次コマとの関係	血液検査が必要な生体の状態について学ぶ	
12	血液検査 概論	1.シラバスとの関係	循環器系のはたらきと臨床検査の関連性。動物看護師の役割について学ぶ	
		2.コマ主題	血液検査　概論	
		3.コマ主題細目	循環器系の働き。循環器系疾患。血液成分	
		4.コマ主題細目深度	循環器系の働きとについて知る。疑われる疾患（心臓・腎臓・肝臓・免疫系など）との関連性について理解できる。血液の組成と検査項目の関連性を知る。血液検査が必要な生体の状態の見極めについて学ぶ	
		5.次コマとの関係	血液検査①　採血法・取り扱い・血液検査項目	
13	血液検査① 採血法・取り扱い・検査項目	1.シラバスとの関係	動物種別の採血法と血液の取り扱い。採血備品。血液検査の項目を学ぶ	
		2.コマ主題	血液検査①　採血法・取り扱い・血液検査項目	
		3.コマ主題細目	採血法の選択。保定について。備品の名称・使用目的の理解。項目と意義。カルテ用語の理解。	
		4.コマ主題細目深度	採血部位と血管名称を知り、適切な保定と駆血を学ぶ。血液の正しい取り扱いと保管法を学ぶ。抗凝固剤について知り、検査に適切な選択ができる。採血備品を正しく選択できる。血液検査の種類と意義について理解を深め	
		5.次コマとの関係	CBC検査・生化学検査	
14	血液検査② CBC・生化学	1.シラバスとの関係	全血球計算法（CBC）・生化学検査について学ぶ	
		2.コマ主題	血液検査②　CBC・生化学	
		3.コマ主題細目	検査の目的と意義の理解について。検査に必要な機器の名称と取り扱いについて。正常値と異常値を知り、異常値において考えられる疾患について理解を深める	
		4.コマ主題細目深度	PCVの測定・CBC・生化学検査に必要な検査機器の取り扱いができる。その意義・目的を理解し、正常値と異常値を知る。異常値で考えられる疾患について理解を深める。疾患に応じた検査項目が選択できる	
		5.次コマとの関係	血液塗抹標本の作成	
15	血液検査③ 血液塗抹標本の作成	1.シラバスとの関係	血液塗抹標本の作製・染色法・観察法について学ぶ	
		2.コマ主題	血液検査③　血液塗抹標本の作成	
		3.コマ主題細目	目的と意義。必要備品の名称と取り扱い。標本作成の手技・染色法・観察法と結果	
		4.コマ主題細目深度	標本作成の手技の種類と特性を知る。染色液の特徴を知り正しい染め方を学ぶ。顕微鏡を正しく扱い、手技別の観察部位を理解し、確認できる血球の判別ができる。各血球の観察ポイントと出現の異常が分かるようになる	
		5.次コマとの関係	眼科検査　概論	

動物臨床検査学

16	眼科検査　概論	1.シラバスとの関係	眼の解剖・生理学と臨床検査の関連性。動物看護師の役割について学ぶ	
		2.コマ主題	眼科検査　概論	
		3.コマ主題細目	眼の解剖・生理学・各部名称。眼科疾患。検査が必要な生体の状態の理解	
		4.コマ主題細目深度	眼の構造と各部名称を学ぶ。視角・光の感受・視力を知る。疑われる疾患（緑内障・白内障など）や他疾患（糖尿病など）との関連性を理解できる。眼科検査が必要な生体の状態と正常・異常の見極めについて学ぶ	
		5.次コマとの関係	眼科検査　手技	
17	眼科検査 手技	1.シラバスとの関係	眼科検査の項目と実際の手技を身につける	
		2.コマ主題	眼科検査　手技	
		3.コマ主題細目	器具の名称・使用目的・手技	
		4.コマ主題細目深度	各種検査にて使用する器具の名称と取り扱い方を学ぶ。検査時の保定と検査後のケアの技術を習得し、検査の流れと意義を理解できる	
		5.次コマとの関係	耳の検査　概論	
18	耳の検査 概論	1.シラバスとの関係	耳の解剖・生理学と臨床検査の関連性。耳の検査が必要な生体の状態について学ぶ	
		2.コマ主題	耳の検査　概論	
		3.コマ主題細目	耳の解剖・生理学・各部名称。疾患について	
		4.コマ主題細目深度	耳の構造と各部名称を学ぶ。動物における聴力と聞こえの原理について知る。皮膚疾患・外部寄生虫との関連性を知る。検査が必要な生体の状態と正常・異常の見極めについて理解を深める	
		5.次コマとの関係	耳の検査　手技	
19	耳の検査 手技	1.シラバスとの関係	耳介・外耳道・内耳道検査の種類と手技について学ぶ	
		2.コマ主題	耳の検査　手技	
		3.コマ主題細目	耳垢の検査・標本の作製	
		4.コマ主題細目深度	使用する器具の名称と取り扱い方を学ぶ。検査時の保定技術を習得し、検査の流れと意義を理解できる。各種標本（耳ヒゼンダニ・マラセチアなど）を正確に作製できる	
		5.次コマとの関係	皮膚科検査　概論	
20	皮膚科検査 概論	1.シラバスとの関係	皮膚・被毛の構造と臨床検査の関連性。動物看護師の役割について。皮膚検査が必要な生体の状態について学	
		2.コマ主題	皮膚科検査　概論	
		3.コマ主題細目	皮膚・被毛の構造・名称の理解について。疾患について	
		4.コマ主題細目深度	皮膚・被毛の構造と各部名称を学ぶ。皮膚の疾患・栄養学との関連性を知る。皮膚科検査が必要な生体の状態と正常・異常の見極めについて理解できる	
		5.次コマとの関係	皮膚科検査　手技	
21	皮膚科検査 手技	1.シラバスとの関係	皮膚科検査の種類と実際の手技について学ぶ	
		2.コマ主題	皮膚科検査　手技	
		3.コマ主題細目	皮膚病変の観察・記録・検査手技	
		4.コマ主題細目深度	各種検査にて使用する器具の名称と取り扱い方を学ぶ。検査時の保定技術を習得し、検査の流れと意義を理解できる	
		5.次コマとの関係	レントゲン検査　概論	
22	レントゲン検査 概論	1.シラバスとの関係	レントゲン検査の意義と基礎的知識について学ぶ	
		2.コマ主題	レントゲン検査　概論	
		3.コマ主題細目	目的・動物看護師の役割。放射線と撮影の原理。撮影方法とフィルムの読み方。被ばく管理	
		4.コマ主題細目深度	備品及び機器の名称を学ぶ。放射線と撮影の原理を知り、正しい撮影方法にて、各種体位・部位の画像が撮影できるようになる。撮影の準備・フィルムの管理ができる。画像の評価について学ぶ	
		5.次コマとの関係	心電図検査　概論	
23	心電図検査 概論	1.シラバスとの関係	心電図検査の意義と基礎的知識について学ぶ	
		2.コマ主題	心電図検査　概論	
		3.コマ主題細目	目的・動物看護師の役割。循環器疾患との関連性。測定方法と波形の読み方。	
		4.コマ主題細目深度	備品及び機器の名称を学ぶ。心電図測定の原理を知り、正しい保定のもとに測定できるようになる。波形の読み取り及び評価について学び、臨床症状・疾病との関連性を理解できる	
		5.次コマとの関係	超音波検査　概論	
24	超音波検査 概論	1.シラバスとの関係	超音波検査の意義と基礎的知識について学ぶ	
		2.コマ主題	超音波検査　概論	
		3.コマ主題細目	目的・動物看護師の役割。各種疾患・妊娠鑑定の関連性。機器の使用法と測定法の実際	
		4.コマ主題細目深度	備品及び機器の名称を学ぶ。超音波測定の原理を知り、正しい撮影方法にて、各種体位・部位の画像が撮影できる。画像の評価について学ぶ	
		5.次コマとの関係	内視鏡検査　概論	
25	内視鏡検査 概論	1.シラバスとの関係	内視鏡検査の意義と基礎的知識について学ぶ	
		2.コマ主題	内視鏡検査　概論	
		3.コマ主題細目	目的・動物看護師の役割。消化器疾患との関連性。機器の使用法と撮影法の実際	
		4.コマ主題細目深度	備品及び機器の名称を学ぶ。正しい操作方法にて、各部位の画像が撮影できる。画像の評価について学び、臨床症状・疾病との関連性を理解できる	
		5.次コマとの関係	神経学的検査について	

動物臨床検査学

26	神経学的検査 概論	1.シラバスとの関係	神経学的検査の意義と基礎的知識について学ぶ	
		2.コマ主題	神経学的検査　概論	
		3.コマ主題細目	目的・動物看護師の役割。脳神経との関連性。各種検査法と疾患との関連性	
		4.コマ主題細目深度	動物の観察にて、神経学的に正常・異常の見分けができるようになる。姿勢反応・脊髄反射の検査・脳神経検査・感覚の評価・排尿機能の評価について知る	
		5.次コマとの関係	CT・MRI検査　概論	
27	CT・MRI検査 概論	1.シラバスとの関係	CT・MRI検査の意義と基礎的知識について学ぶ	
		2.コマ主題	CT・MRI検査　概論	
		3.コマ主題細目	目的・動物看護師の役割。撮影原理の理解。各種検査法と疾患との関連性	
		4.コマ主題細目深度	各種検査の目的を知り、その手法を学ぶ。撮影に際し必要な動物の準備及びケアができるようになる。画像評価から検討される疾患について学ぶ	
		5.次コマとの関係	細胞診検査について	
28	細胞診検査 概論	1.シラバスとの関係	細胞診検査の意義と基礎的知識について学ぶ	
		2.コマ主題	細胞診検査　概論	
		3.コマ主題細目	目的・動物看護師の役割。各種検査法と疾患との関連性	
		4.コマ主題細目深度	備品の名称と使用法を知り、準備ができる。臨床症状・疾患に応じた検査法が理解できる。細胞採取時の安全な保定法を学ぶ。検体の取り扱い及び保管について理解を深める	
		5.次コマとの関係	微生物学的検査　概論	
29	微生物学関検査 概論	1.シラバスとの関係	微生物学的検査の意義と基礎的知識について学ぶ	
		2.コマ主題	微生物学的検査　概論	
		3.コマ主題細目	目的・動物看護師の役割。細菌・真菌の種類。検査法と疾患の関連性	
		4.コマ主題細目深度	検査前の準備ができ、備品の名称を使用法を知ることができる。培養・染色・標本作製法について理解できる。鏡検から評価について、検討される疾患について知る。	
		5.次コマとの関係	総合テスト	
30	動物臨床検査学 総合テスト	1.シラバスとの関係	動物臨床検査学の理解度を確認する	
		2.コマ主題	動物臨床検査学　総合テスト	
		3.コマ主題細目	動物臨床検査学　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	臨床検査・生体検査において、筆記試験・実技試験の実施により確認を行う	
		5.次コマとの関係		

救急救命対応

学科	動物看護系学科	シラバス(概要)
コース		心肺停止状態をはじめとする緊急状態は、はいつどのような状況で生じるか予測できない。その際、チーム獣医療のスタッフとして救急救命処置の適切な補助を行う事救命への関与は大きく、緊急処置を必要とする看護動物の来院時に、スタッフは適切な対処を速やかに実施できることが必要である。緊急時に慌てないよう、日頃の診療体制内においても機材の確保と救命措置の訓練を実施し、全員が手順や準備を理解し、確実に対応できるよう準備と訓練が必要となる。機材薬剤は整理整頓し、いつでも、どこでも、誰でも使用できる状態であることが重要であり、これらの救急救命について理解する。
履修条件	動物看護実習Ⅰ・外科看護実習Ⅰを履修すること	
ユニット		
科目名	救急救命対応	
単位	1	
履修時間	15時間	
回数	15回	
授業形態	講義・演習	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	筆記試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	動物看護の教科書第6巻(緑書房)	

コマシラバス				
50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	動物モニター	1.シラバスとの関係	救急救命処置が必要であるかどうか評価をする技術について	
		2.コマ主題	動物をモニターする	
		3.コマ主題細目	動物のバイタルサインを知り、緊急状態を評価する	
		4.コマ主題細目深度	①意識レベル②呼吸③心拍数とリズム④循環のパラメーター⑤生理学的パラメーターの評価について、必要性と違いが解るようになる	
		5.次コマとの関係	緊急時の動物のバイタルサインの特徴を知り、CPA、CPRを学ぶ	
2	心肺停止(CPA)と心肺蘇生(CPR)	1.シラバスとの関係	救急救時の救急救命処置の方法を学ぶ	
		2.コマ主題	CPAとCPR	
		3.コマ主題細目	CPAとCPRがわかるようになる	
		4.コマ主題細目深度	心肺停止を起こす要因と心肺停止を起こすリスクのたる動物、さらに準備について学ぶ。心肺蘇生法として、初期の評価、基本的な蘇生法、高度な心肺蘇生法、心肺蘇生の実践的な手順としてモニタリングの重要性について知り実践に活かせるようになる。	
		5.次コマとの関係	救急救命時の処置を知り、その時に使用する薬剤を理解する	
3	救急薬品の知識	1.シラバスとの関係	救急救命処置時に使用される薬剤について学ぶ	
		2.コマ主題	救急薬品についての知識	
		3.コマ主題細目	救急薬品についての知識を知る	
		4.コマ主題細目深度	CPAの場合に用いる主な薬剤とその使用について学び、看護介入に活用できるようになる。	
		5.次コマとの関係	救急時の薬品の種類を知り、次回、治療時の輸液にも活かす	
4	救急時の輸液療法	1.シラバスとの関係	救急救命に必要な治療で、輸液について知る	
		2.コマ主題	救急時の輸液療法	
		3.コマ主題細目	救急時の輸液療法について学び活かす	
		4.コマ主題細目深度	総輸液量、脱水の程度ー脱水の有無の判定基準、身体検査所見からの脱水程度の推測について学び、救急時の看護介入に活かすことができるようになる。	
		5.次コマとの関係	今回は輸液にについて学び、次回は、使用する輸液制剤について知る	
5	輸液製剤	1.シラバスとの関係	救急時に使用できるように輸液製剤について知識を得る	
		2.コマ主題	輸液製剤について知る	
		3.コマ主題細目	一般的に用いられる各輸液製剤の特徴について知り、緊急時に活用できるようにする	
		4.コマ主題細目深度	基本的な輸液製剤および血漿増量剤の特徴と輸液製剤の投与法・投与量の内容を理解する。心肺停止時およびショック時の輸液の使用について学習し看護介入に活用できるようになる。	
		5.次コマとの関係	緊急時の輸液を知ることにより、次回に学ぶ輸血において活用できる	
6	輸血	1.シラバスとの関係	緊急時処置として輸血準備や看護介入に対応できるようになる	
		2.コマ主題	輸血について	
		3.コマ主題細目	輸血についてついての知識を得て、看護に活用できるようになる	
		4.コマ主題細目深度	交差適合試験の手順ー用意するものとクロスマッチ(輸血の適応)の手技。3輸血用血液採取の手順(献血動物の準備、献血直前検査、採血方法、パイロットチューブの作り方)、輸血量の計算、輸血の準備と輸血(準備物、輸血前の受血動物の準備、受血動物の輸血モニター)、輸血の副作用について学び看護介入に活用対応できるようになる。	
		5.次コマとの関係	次回から各論。総論の最後として輸血について知ることができる	

救急救命対応

7	救急疾患の基礎知識①	1.シラバスとの関係	救急看護としての各論。各病態の対応について理解できる	
		2.コマ主題	外傷エマージェンシー	
		3.コマ主題細目	外傷エマージェンシーの処置が理解できる	
		4.コマ主題細目深度	①創傷のケア（ただちに行う必要のあるケア、創傷の洗浄、創傷のデブリードマン、創傷の閉鎖）、②創傷の包帯法（包帯の効果、包帯の構成、出血のコントロール）について知り、対応に必要な準備が速やかにできるようにする。	
		5.次コマとの関係	次は眼科エマージェンシーに進む	
8	救急疾患の基礎知識②	1.シラバスとの関係	救急看護としての各論。各病態の対応について理解できる	
		2.コマ主題	眼科エマージェンシー	
		3.コマ主題細目	眼科エマージェンシーの処置が理解できる	
		4.コマ主題細目深度	眼科救急について、眼球突出、眼球損傷、角膜損傷、緑内障など各々における定義、症状、治療を知ることにより、より良い対応と看護介入ができるようになる	
		5.次コマとの関係	次は神経エマージェンシーに進む	
9	救急疾患の基礎知識③	1.シラバスとの関係	救急看護としての各論。各病態の対応について理解できる	
		2.コマ主題	神経エマージェンシー	
		3.コマ主題細目	神経エマージェンシーの処置が理解できる	
		4.コマ主題細目深度	脊椎の外傷と椎間板の突出について、原因、臨床症状と身体検査、ミニマムデーターベース、治療につてい学び、看護介入に活用できるようになる。	
		5.次コマとの関係	次は中毒エマージェンシーに進む	
10	救急疾患の基礎知識④	1.シラバスとの関係	救急看護としての各論。各病態の対応について理解できる	
		2.コマ主題	中毒エマージェンシー	
		3.コマ主題細目	中毒エマージェンシーの処置が理解できる	
		4.コマ主題細目深度	中毒に対する処置について、治療目標、来院前のご家族に対する指示及び救急処置（吸収の抑制、催吐薬、胃洗浄、吸着剤、下剤、解毒薬、吸収された毒物の排泄促進）。小動物における代表的な中毒（鉛、アセトアミノフェン、チョコレート）について学び治療の理解を増し、看護介入に活かすことができる。	
		5.次コマとの関係	次は熱射病エマージェンシーに進む	
11	救急疾患の基礎知識⑤	1.シラバスとの関係	救急看護としての各論。各病態の対応について理解できる	
		2.コマ主題	熱射病エマージェンシー	
		3.コマ主題細目	熱射病エマージェンシーの処置が理解できる	
		4.コマ主題細目深度	熱射病について、原因と誘発因子（熱射病とは、熱射病を誘発する因子、熱射病の症状）と治療について学び、理解を増して看護介入に活かすことができるようになる。	
		5.次コマとの関係	次は呼吸エマージェンシーに進む	
12	救急疾患の基礎知識⑥	1.シラバスとの関係	救急看護としての各論。各病態の対応について理解できる	
		2.コマ主題	呼吸エマージェンシー	
		3.コマ主題細目	呼吸エマージェンシーの処置が理解できる	
		4.コマ主題細目深度	呼吸器系の救急療法について、動物の評価、治療と処置（気道確保と呼吸の補助）、原因（気胸、胸水、横隔膜ヘルニア）について知り、理解できることにより看護介入に活用できるようになる。	
		5.次コマとの関係	次は心血管エマージェンシーに進む	
13	救急疾患の基礎知識⑦	1.シラバスとの関係	救急看護としての各論。各病態の対応について理解できる	
		2.コマ主題	心血管エマージェンシー	
		3.コマ主題細目	心血管エマージェンシーの処置が理解できる	
		4.コマ主題細目深度	うっ血性心不全について学び、看護介入に活用できるようになる	
		5.次コマとの関係	次はショックに進むので循環器疾患を見直しておく	
14	救急疾患の基礎知識⑧	1.シラバスとの関係	救急看護としての各論。各病態の対応について理解できる	
		2.コマ主題	ショック	
		3.コマ主題細目	ショックについて理解し、看護介入に活かす	
		4.コマ主題細目深度	ショックの定義及び病態生理について学ぶ。モニタリング、血液量、酸素供給、ショックの治療について学び、看護介入に活用できるようになる。	
		5.次コマとの関係	救急救命に関するまとめに入る	
15	総まとめ	1.シラバスとの関係	救急救時の救急救命処置の方法を学ぶ	
		2.コマ主題	まとめ	
		3.コマ主題細目	救急救時の救急救命処置の方法を学び、看護介入に活用できる	
		4.コマ主題細目深度	救急救時の救急救命処置の方法を学び、看護介入に活用できる事を復習しておく。実際に活用できるように訓練をしておく。	
		5.次コマとの関係		

クライアントエデュケーション

学科	動物看護系学科	シラバス（概要）
コース		看護動物の福祉は飼い主に大きく依存され、正しい知識と理解がないと、治療や処置を必要としている看護動物に適切な処置がなされず、治療されないまま、又は適切な処置がされないまま放置されることになる。本科目ではこれまでに学習した専門知識を活用し、健康維持・適正飼養の啓発と個別に応じたご家族教育・指導を通じてヒトと動物のより良い共生を目指し事例を用いて演習する。また、飼い主に指導するにあたり、説明する立場の動物看護師の人柄が重視される。医療人として信頼されるための接遇スキルを心がけた上で、飼い主に受け入れられるような知識を蓄積し、その説明能力と傾聴姿勢を身に着けることが望ましい。特に家庭飼育動物は飼い主のコンプライアンスを高められることが、直接、動物の福祉にかなった生活や治癒率に結びついていることも理解する。
履修条件		
ユニット		
科目名	クライアントエデュケーション	
単位	1	
履修時間	30時間	
回数	30回	
授業形態	講義・演習	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	筆記試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①動物病院におけるコミュニケーション（ヒルズ・コルゲート）②動物看護の教科書第1巻（緑書房）③動物看護の教科書第2巻（緑書房）③動物看護の教科書第3巻（緑書房）④動物看護の教科書第4巻（緑書房）	

コマシラバス

50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	クライアントエデュケーション概論①	1.シラバスとの関係	クライアントエデュケーションとは	
		2.コマ主題	クライアントエデュケーション概論①	
		3.コマ主題細目	クライアントエデュケーションの目的	
		4.コマ主題細目深度	クライアントエデュケーションとは何か、何故必要か、どのように進めるかの解説をし、今後の授業をスムーズに展開できるようにする。	
		5.次コマとの関係	クライアントサービス	
2	クライアントエデュケーション概論②	1.シラバスとの関係	クライアントエデュケーションとは	
		2.コマ主題	クライアントエデュケーション概論②	
		3.コマ主題細目	クライアントサービス	
		4.コマ主題細目深度	①クライアントを分析する ②クライアントサービスとは何か ③クライアントが求める8つ	
		5.次コマとの関係	家庭で行われる健康管理とは	
3	飼い主が行う健康管理①	1.シラバスとの関係	動物飼育状況から飼い主を知る	
		2.コマ主題	家庭で行われている健康管理とは	
		3.コマ主題細目	家庭で行われる健康管理にはどのようなものがあるか思案する①	
		4.コマ主題細目深度	今まで学習したことから、また自身を振り返って家庭でできる健康管理にどのようなものがあるかグループ討議を行う。	
		5.次コマとの関係	家庭で行われる健康管理とは	
4	飼い主が行う健康管理②	1.シラバスとの関係	動物飼育状況から飼い主を知る	
		2.コマ主題	家庭で行われている健康管理とは	
		3.コマ主題細目	家庭で行われる健康管理にはどのようなものがあるか思案する②	
		4.コマ主題細目深度	①前コマのグループ討議を発表する ②医療現場でしかできない健康管理（看護）を考える	
		5.次コマとの関係	飼い主を分析する	
5	クライアントエデュケーションの実践に向けて①	1.シラバスとの関係	クライアントエデュケーションの実践向けて	
		2.コマ主題	クライアントエデュケーション対象を知る	
		3.コマ主題細目	情報のアセスメントとニーズ	
		4.コマ主題細目深度	①飼い主の家族構成、飼育環境など客観的な情報収集の必要性を知る ②飼い主のニーズを知る	
		5.次コマとの関係	飼い主を分析する	
6	クライアントエデュケーションの実践に向けて②	1.シラバスとの関係	クライアントエデュケーションの実践向けて	
		2.コマ主題	クライアントエデュケーション対象を知る	
		3.コマ主題細目	情報のアセスメントとニーズ	
		4.コマ主題細目深度	①飼い主の家族構成、飼育環境など客観的な情報収集の必要性を知る ②飼い主のニーズを知る	
		5.次コマとの関係	狂犬病予防接種について知識の確認を行う	
7	クライアントエデュケーション実践 ～狂犬病予防接種①～	1.シラバスとの関係	健康維持・適正飼育の啓発	
		2.コマ主題	狂犬病予防接種をすすめる	
		3.コマ主題細目	狂犬病予防接種について指導できる①	
		4.コマ主題細目深度	①狂犬病予防法の目的を説明できる ②イヌの登録・鑑札について説明できる ③予防接種前後の注意事項が説明できる ④指導時のポイントをおさえる	
		5.次コマとの関係	狂犬病予防接種について事例を用い演習する	
8	クライアントエデュケーション実践 ～狂犬病予防接種②～	1.シラバスとの関係	健康維持・適正飼育の啓発	
		2.コマ主題	狂犬病予防接種をすすめる	
		3.コマ主題細目	狂犬病予防接種について指導できる②	
		4.コマ主題細目深度	①事例から飼育背景を思案する ②飼い主に分かりやすい言葉を使っているか ③ペアワークで配役（飼い主・動物看護師）しトレーニングする	
		5.次コマとの関係	イヌの混合ワクチン接種について知識の確認を行う	

クライアントエデュケーション

9	クライアントエデュケーション実践 ～混合ワクチン接種①～	1.シラバスとの関係	健康維持・適正飼育の啓発	
		2.コマ主題	ワクチン接種をすすめる	
		3.コマ主題細目	イヌの混合ワクチン接種について指導できる①	
		4.コマ主題細目深度	①イヌの混合ワクチンの種類が説明できる ②混合ワクチンの目的を説明できる ③混合ワクチン接種前後の注意事項が説明できる ④指導時のポイントをおさえる	
		5.次コマとの関係	イヌの混合ワクチン接種について事例を用い演習する	
10	クライアントエデュケーション実践 ～混合ワクチン接種②～	1.シラバスとの関係	健康維持・適正飼育の啓発	
		2.コマ主題	ワクチン接種をすすめる	
		3.コマ主題細目	イヌの混合ワクチン接種について指導できる②	
		4.コマ主題細目深度	①事例から飼育背景を思案する ②飼い主に分かりやすい言葉を使っているか ③ペアワークで配役（飼い主・動物看護師）しトレーニングする	
		5.次コマとの関係	ネコの混合ワクチン接種について知識の確認を行う	
11	クライアントエデュケーション実践 ～混合ワクチン接種③～	1.シラバスとの関係	健康維持・適正飼育の啓発	
		2.コマ主題	ワクチン接種をすすめる	
		3.コマ主題細目	ネコの混合ワクチン接種について指導できる①	
		4.コマ主題細目深度	①ネコの混合ワクチンの種類が説明できる ②混合ワクチンの目的を説明できる ③混合ワクチン接種前後の注意事項が説明できる ④指導時のポイントをおさえる	
		5.次コマとの関係	ネコの混合ワクチン接種について事例を用い演習する	
12	クライアントエデュケーション実践 ～混合ワクチン接種④～	1.シラバスとの関係	健康維持・適正飼育の啓発	
		2.コマ主題	ワクチン接種をすすめる	
		3.コマ主題細目	ネコの混合ワクチン接種について指導できる②	
		4.コマ主題細目深度	①事例から飼育背景を思案する ②飼い主に分かりやすい言葉を使っているか ③ペアワークで配役（飼い主・動物看護師）しトレーニングする	
		5.次コマとの関係	フィラリア予防について知識の確認を行う	
13	クライアントエデュケーション実践 ～フィラリア予防①～	1.シラバスとの関係	健康維持・適正飼育の啓発	
		2.コマ主題	フィラリア予防をすすめる	
		3.コマ主題細目	フィラリア予防について指導できる①	
		4.コマ主題細目深度	①フィラリアについて説明できる ②フィラリア予防薬について説明できる ③フィラリア検査法について説明できる ④指導時のポイントをおさえる	
		5.次コマとの関係	フィラリア予防について事例を用い演習する	
14	クライアントエデュケーション実践 ～フィラリア予防②～	1.シラバスとの関係	健康維持・適正飼育の啓発	
		2.コマ主題	フィラリア予防をすすめる	
		3.コマ主題細目	フィラリア予防について指導できる②	
		4.コマ主題細目深度	①事例から飼育背景を思案する ②飼い主に分かりやすい言葉を使っているか ③ペアワークで配役（飼い主・動物看護師）しトレーニングする	
		5.次コマとの関係	ノミ・ダニ予防について知識の確認を行う	
15	クライアントエデュケーション実践 ～ノミ・ダニ予防①～	1.シラバスとの関係	健康維持・適正飼育の啓発	
		2.コマ主題	ノミ・ダニ予防をすすめる	
		3.コマ主題細目	ノミ・ダニ予防について指導できる①	
		4.コマ主題細目深度	①ノミ・ダニについて説明できる ②ノミ・ダニ予防薬について説明できる ③指導時のポイントをおさえる	
		5.次コマとの関係	ノミ・ダニ予防について事例を用い演習する	
16	クライアントエデュケーション実践 ～ノミダニ予防②～	1.シラバスとの関係	健康維持・適正飼育の啓発	
		2.コマ主題	ノミ・ダニ予防をすすめる	
		3.コマ主題細目	ノミ・ダニ予防について指導できる②	
		4.コマ主題細目深度	①事例から飼育背景を思案する ②飼い主に分かりやすい言葉を使っているか ③ペアワークで配役（飼い主・動物看護師）しトレーニングする	
		5.次コマとの関係	避妊・去勢について知識の確認を行う	
17	クライアントエデュケーション実践 ～避妊・去勢①～	1.シラバスとの関係	健康維持・適正飼育の啓発	
		2.コマ主題	避妊手術・去勢手術をすすめる(イヌ/ネコ)	
		3.コマ主題細目	避妊手術・去勢手術について指導できる①	
		4.コマ主題細目深度	①性ホルモンに関連する疾患・行動について説明できる ②避妊手術・去勢手術の概要を説明できる ③指導時のポイントをおさえる	
		5.次コマとの関係	避妊手術・去勢手術について事例を用い演習する	
18	クライアントエデュケーション実践 ～避妊・去勢②～	1.シラバスとの関係	健康維持・適正飼育の啓発	
		2.コマ主題	避妊手術・去勢手術をすすめる(イヌ/ネコ)	
		3.コマ主題細目	避妊手術・去勢手術について指導できる②	
		4.コマ主題細目深度	①事例から飼育背景を思案する(イヌ/ネコ) ②飼い主に分かりやすい言葉を使っているか ③ペアワークで配役（飼い主・動物看護師）しトレーニングする	
		5.次コマとの関係	デンタルケアについて知識の確認を行う	

クライアントエデュケーション

19	クライアントエデュケーション実践 ～デンタルケア①～	1.シラバスとの関係	健康維持・適正飼育の啓発
		2.コマ主題	デンタルケアをすすめる
		3.コマ主題細目	デンタルケアについて指導できる①
		4.コマ主題細目深度	①デンタルチェックについて説明できる ②歯科疾患について説明できる ③デンタルケアの方法・グッズを説明できる ④指導時のポイントをおさえる
		5.次コマとの関係	デンタルケアについて事例を用い演習する
20	クライアントエデュケーション実践 ～デンタルケア②～	1.シラバスとの関係	健康維持・適正飼育の啓発
		2.コマ主題	デンタルケアをすすめる
		3.コマ主題細目	デンタルケアについて指導できる②
		4.コマ主題細目深度	①事例から飼育背景を思案する ②飼い主に分かりやすい言葉を使っているか ③ペアワークで配役（飼い主・動物看護師）しトレーニングする
		5.次コマとの関係	幼齢動物のケアについて知識の確認を行う
21	クライアントエデュケーション実践 ～幼齢動物のケア①～	1.シラバスとの関係	健康維持・適正飼育の啓発
		2.コマ主題	幼齢動物のケア（イヌ）
		3.コマ主題細目	イヌの幼齢動物の適正飼育について指導できる
		4.コマ主題細目深度	①ライフステージより幼齢期の身体的特徴を説明できる ②栄養学的・行動学的観点から幼齢期に配慮すべき事項を説明できる ③疾病予防に配慮すべき事項を説明できる ④指導時のポイントをおさえる
		5.次コマとの関係	幼齢動物のケアについて知識の確認を行う
22	クライアントエデュケーション実践 ～幼齢動物のケア②～	1.シラバスとの関係	健康維持・適正飼育の啓発
		2.コマ主題	幼齢動物のケア（ネコ）
		3.コマ主題細目	ネコの幼齢動物の適正飼育について指導できる
		4.コマ主題細目深度	①ライフステージより幼齢期の身体的特徴を説明できる ②栄養学的・行動学的観点から幼齢期に配慮すべき事項を説明できる ③疾病予防に配慮すべき事項を説明できる ④指導時のポイントをおさえる
		5.次コマとの関係	幼齢動物ケアについて事例を用い演習する
23	クライアントエデュケーション実践 ～幼齢動物のケア③～	1.シラバスとの関係	健康維持・適正飼育の啓発
		2.コマ主題	幼齢動物のケア（イヌ/ネコ）
		3.コマ主題細目	幼齢動物の適正飼育について指導できる（イヌ/ネコ）
		4.コマ主題細目深度	①事例から飼育背景を思案する ②飼い主に分かりやすい言葉を使っているか ③ペアワークで配役（飼い主・動物看護師）しトレーニングする
		5.次コマとの関係	老齢動物のケアについて知識の確認を行う
24	クライアントエデュケーション実践 ～老齢動物のケア①～	1.シラバスとの関係	健康維持・適正飼育の啓発
		2.コマ主題	老齢動物のケア
		3.コマ主題細目	老齢動物の適正飼育について指導できる①
		4.コマ主題細目深度	①ライフステージより老齢期の身体的特徴を説明できる ②栄養学的・行動学的観点から老齢期に配慮すべき事項を説明できる ③疾病予防・QOLに配慮すべき事項を説明できる ④指導時のポイントをおさえる
		5.次コマとの関係	老齢動物のケアについて知識の確認を行う
25	クライアントエデュケーション実践 ～老齢動物のケア②～	1.シラバスとの関係	健康維持・適正飼育の啓発
		2.コマ主題	老齢動物のケア
		3.コマ主題細目	老齢動物の適正飼育について指導できる②
		4.コマ主題細目深度	①老齢期に発生しやすい疾患を説明できる ②認知症について説明できる ③丁寧な傾聴とアセスメントに配慮できる ④動物介護士など専門機関の提案に配慮できる
		5.次コマとの関係	老齢動物ケアについて事例を用い演習する
26	クライアントエデュケーション実践 ～老齢動物のケア③～	1.シラバスとの関係	健康維持・適正飼育の啓発
		2.コマ主題	老齢動物のケア
		3.コマ主題細目	老齢動物の適正飼育について指導できる③
		4.コマ主題細目深度	①事例から飼育背景を思案する ②飼い主に分かりやすい言葉を使っているか ③ペアワークで配役（飼い主・動物看護師）しトレーニングする
		5.次コマとの関係	減量指導について知識の確認を行う
27	クライアントエデュケーション実践 ～減量指導①～	1.シラバスとの関係	健康維持・適正飼育の啓発
		2.コマ主題	減量指導
		3.コマ主題細目	減量指導について説明できる（イヌ/ネコ）①
		4.コマ主題細目深度	①肥満の弊害と肥満の評価法について説明できる ②減量プログラムを立案できる（食事指導・適正体重の算出） ③減量に効果的なフード・グッズを説明できる
		5.次コマとの関係	減量指導について事例を用い演習する
28	クライアントエデュケーション実践 ～減量指導②～	1.シラバスとの関係	健康維持・適正飼育の啓発
		2.コマ主題	減量指導
		3.コマ主題細目	減量指導について説明できる（イヌ/ネコ）②
		4.コマ主題細目深度	①事例から飼育背景を思案する ②飼い主に分かりやすい言葉を使っているか ③ペアワークで配役（飼い主・動物看護師）しトレーニングする
		5.次コマとの関係	クライアントエデュケーションの応用

クライアントエデュケーション

29	飼い主の心情からクライアントエデュケーションを考える	1.シラバスとの関係	ニーズ応えるクライアントエデュケーション	
		2.コマ主題	クライアントエデュケーションの応用	
		3.コマ主題細目	飼い主の心情に応じたエデュケーションを目指して	
		4.コマ主題細目深度	①傷病中の看護動物に対する飼い主の気持ちを思案する ②継続した治療・処置が必要な場合の指導 ③人獣共通感染症に対する自宅ケア指導	
		5.次コマとの関係	まとめ	
30	クライアントエデュケーションまとめ	1.シラバスとの関係	クライアントエデュケーションについてまとめ	
		2.コマ主題	クライアントエデュケーションのまとめ	
		3.コマ主題細目	クライアントエデュケーションの実践を通じたまとめ	
		4.コマ主題細目深度	①クライアントエデュケーションの目的を再確認する ②クライアントサービスからクライアントが求める8つを再確認する	
		5.次コマとの関係		

院内コミュニケーション－1

学科	動物看護系学科	シラバス（概要）
コース		知識や技術などの目に見えないものの価値はその提供者からの印象を大きく受ける。動物看護師はその提供者の一人であり、病院の印象を決める顔ともなる。「院内コミュニケーション－１」では、ホスピタリティ精神を理解し飼い主からの信頼を得るために、身だしなみの重要性を理解し、言葉遣いと話し方・表情・立ち居振る舞いの接客時の基本を身につけコミュニケーション能力をあげるための基本的な接遇トレーニングを行う。また、看護動物の安全・衛生に配慮した応対ができるよう受付時のカウンターを挟んだ高頻度業務を実技で展開し、グループ運営、段取り、プレゼンテーションの意識を高め、スタッフコミュニケーションを想定した能力を養う。
履修条件	院内コミュニケーション－1を先行すること	
ユニット		
科目名	院内コミュニケーション－１	
単位	1（1～3合わせて3単位）	
履修時間	30時間（1～3合わせて75時間）	
回数	30回（1～3合わせて75時間）	
授業形態	講義・演習	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	筆記試験、実技試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①ホスピタリティを伝える動物病院の接遇（インターズー）②看護におけるコミュニケーション（へるす出版）③動物病院のためのクレーム対応のマインド＆スキル(インターズー)	

コマシラバス

50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	接遇とは ホスピタリティとは	1.シラバスとの関係	信頼を得る要素を理解する	
		2.コマ主題	信頼される社会人になるために	
		3.コマ主題細目	身だしなみ	
		4.コマ主題細目深度	①ホスピタリティとは何か（誰のためのホスピタリティか） ②身だしなみの重要性	
		5.次コマとの関係	身だしなみを自主的に整え、取り組む姿勢を身につける	
2	社会人コミュニケーション能力の基礎	1.シラバスとの関係	社会人としての振る舞い	
		2.コマ主題	ルールを守り、自らコミュニケーションをとる	
		3.コマ主題細目	学校生活においてTPOに応じた言動をわきまえる	
		4.コマ主題細目深度	①シチュエーション別による配慮の必要性を理解する ・公共施設（教室、廊下、エレベーターなど）での振る舞い ・講師室での振る舞い ・相手に合わせた言葉遣い ②メモを利用したコミュニケーション方法を理解する	
		5.次コマとの関係	コミュニケーションの基礎から受付時の応対に活かす	
3	飼い主のお迎え①	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技、動物の安全に配慮した応対	
		2.コマ主題	病院の顔であることを意識する	
		3.コマ主題細目	再診時の診察受付、初診問診票・同意書の記入意図	
		4.コマ主題細目深度	①ペアワークによる演習で積極性を身に付ける ・チーム内フリートークで聞く姿勢、話す際の身振り ・発話練習、スマートなお辞儀、診察券の受取姿勢（アイコンタクト） ・飼い主と看護動物を声に出して確認 ・手で着席案内、待ち時間の目途の案内 ・初診問診票・同意書への記入案内（クリップボードの使用・手を使用した提示・説明）	
		5.次コマとの関係	実践力を身に付けるための反復トレーニング	
4	飼い主のお迎え②	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技、動物の安全に配慮した応対	
		2.コマ主題	飼い主のお迎え①の反復トレーニング	
		3.コマ主題細目	再診時の診察受付が自然にできる	
		4.コマ主題細目深度	①受付時に使用するものを使い、自然な対応を身に付ける	
		5.次コマとの関係	初診時の診察受付で必要なものを理解する	
5	飼い主のお迎え③	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技、動物の安全に配慮した応対	
		2.コマ主題	病院の顔であることを意識する	
		3.コマ主題細目	初診時の診察受付	
		4.コマ主題細目深度	①飼い主の反応をうかがいながらスムーズな受付対応を身に付ける ・初診問診票・同意書への記入案内 ・クリップボードを使用し、指し示しの手で記入説明 ・記入後の処理案内	
		5.次コマとの関係	チームローテーションに繋げるためにも個人の習得を高める	
6	飼い主のお迎え④	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技、動物の安全に配慮した応対	
		2.コマ主題	飼主のお迎え②③の反復トレーニング	
		3.コマ主題細目	初診・再診時の診察受付が自然にできる	
		4.コマ主題細目深度	①ペアワークによる他者の実技を参考にし自身を振り返える	
		5.次コマとの関係	チームローテーションに繋げるためにも個人の習得を高める	
7	実技試験前のグループワーク①	1.シラバスとの関係	スタッフコミュニケーションにつなげるトレーニング	
		2.コマ主題	チームコミュニケーション	
		3.コマ主題細目	再診・初診時の診察受付、備品管理、受付カウンター実習、チーム運営の段取り力、お辞儀・プレゼンテーションの意識	
		4.コマ主題細目深度	①動物看護師・再診患者・初診患者に配役し、実技試験を意識したローテーション練習 ②姿勢、お辞儀の練習 ③実習使用備品の管理意識	
		5.次コマとの関係	個人・グループの精度を高める	

8	実技試験前のグループワーク②	1.シラバスとの関係	スタッフコミュニケーションにつなげるトレーニング	
		2.コマ主題	チームコミュニケーション	
		3.コマ主題細目	再診・初診時の診察受付、備品管理、受付カウンター実習、チーム運営の段取り力、お辞儀・プレゼンテーションの意識	
		4.コマ主題細目深度	①チーム内ローテーショントレーニング （準備、段取り、安定感・一体感を作る、チーム内フォローの方法） ②カウンター姿勢、お辞儀の練習 ③実習使用備品の管理意識 ④実技試験中の他人評価を行う意図を理解	
		5.次コマとの関係	個人・グループの精度を高める	
9	実技試験前のグループワーク③	1.シラバスとの関係	スタッフコミュニケーションにつなげるトレーニング	
		2.コマ主題	チームコミュニケーション	
		3.コマ主題細目	実技試験前のグループワーク①②の反復トレーニング	
		4.コマ主題細目深度	①チーム内で積極的に行動・発言できる ②学んだことを意識し、実践できる	
		5.次コマとの関係	個人・グループの精度を高める	
10	実技試験 ～飼い主のお迎え①～	1.シラバスとの関係	プレゼンテーション意識を向上する	
		2.コマ主題	今までの理解・訓練項目のアウトプット、他者の評価	
		3.コマ主題細目	再診・初診の診察受付実技発表と他人の評価を行う	
		4.コマ主題細目深度	①人前に立つこと、人前で実践することに慣れる ②周りに評価される意識を持つ ③発表グループ以外はクリップボードを使用してメモを取る練習をしつつ、他人の評価をし良い所とアドバイスを記入する	
		5.次コマとの関係	実技試験の続き	
11	実技試験 ～飼い主のお迎え②～	1.シラバスとの関係	プレゼンテーション意識を向上する	
		2.コマ主題	授業で理解・訓練項目のアウトプット、他人評価 飼い主様の動きに合わせて後手の回らない案内	
		3.コマ主題細目	再診・初診の診察受付実技発表と他人の評価を行う	
		4.コマ主題細目深度	①人前に立つこと、人前で実践することに慣れる ②周りに評価される意識を持つ ③発表グループ以外はクリップボードを使用してメモを取る練習をしつつ、他人の評価をし良い所とアドバイスを記入する	
		5.次コマとの関係	多様なシーンで実践できる歩み寄る応対を身につける	
12	実技試験の振り返り ～飼い主のお迎え③～ 診察室への案内①	1.シラバスとの関係	接客時の基本を客観的に評価する	
		2.コマ主題	実技試験を評価する	
		3.コマ主題細目	①実技試験の発表を振り返り、不十分なところを改善する	
		4.コマ主題細目深度	①実技発表時の振り返りを行う （習得しているものを自己認識する、他人の評価をもとに改善を図る、実技試験内容のポイントを押さえなおす） ②診察室への案内に向けて歩み寄る応対を学ぶ	
		5.次コマとの関係	多様なシーンで実践できる歩み寄る応対を身につける。	
13	診察室への案内②	1.シラバスとの関係	信頼を得る要素を理解する、動物の安全に配慮した応対	
		2.コマ主題	信頼される社会人になるために、専門職を意識した案内	
		3.コマ主題細目	言葉遣い、看護動物の安全を意識した案内	
		4.コマ主題細目深度	①滑舌練習、敬語の種類説明と違い、敬語表現の発話 ②歩み寄る応対から診察室への案内 ③待機中の注意喚起（他者に配慮する）	
		5.次コマとの関係	敬語表現の発話で次回から使用するセンテンスを取り込み、カウンター業務実習をスムーズにする	
14	薬の説明①	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技、動物の安全に配慮した応対	
		2.コマ主題	相手が理解できる説明	
		3.コマ主題細目	薬の説明業務にかかる責任、必要最低限の説明	
		4.コマ主題細目深度	①薬の説明をしながら案内を手にし、手際よく薬袋につめる一連の作業をスムーズに行う ②薬の種類、処方の仕方、数の確認、注意事項を適切に説明できる	
		5.次コマとの関係	実践力を高めるため必要最低限の内容をマスターする	
15	薬の説明②	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技、動物の安全に配慮した応対	
		2.コマ主題	薬の説明①の反復トレーニング	
		3.コマ主題細目	薬の説明業務を自然にできる	
		4.コマ主題細目深度	①説明と手の動きを合わせた一連の作業をスムーズにできる	
		5.次コマとの関係	応用力を持った反復トレーニング	
16	薬の説明③	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技、動物の安全に配慮した応対	
		2.コマ主題	相手が理解できる説明	
		3.コマ主題細目	相手に合わせた説明	
		4.コマ主題細目深度	①スムーズな説明と行動 ②相手の理解を確認しながら説明できる ・経験の確認をし、飼い主を中心にした表現ができる	
		5.次コマとの関係	応用力を持った反復トレーニング	
17	薬の説明④	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技、看護動物の安全に配慮した応対	
		2.コマ主題	薬の説明③の反復トレーニング	
		3.コマ主題細目	相手に合わせた説明を自然にできる	
		4.コマ主題細目深度	①飼い主に渡すものということを配慮した行動ができる ②飼い主の理解を高めることを配慮した説明ができる	
		5.次コマとの関係	カウンター業務である精算業務を学ぶ	

18	精算業務①	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技、動物の安全に配慮した応対	
		2.コマ主題	迅速かつ丁寧な精算業務	
		3.コマ主題細目	金銭の社会的意味と扱いを知る	
		4.コマ主題細目深度	①清算書を作成し、金額を明確に告げる ②金銭トレイ・お金の扱い方を知る ③「お待たせいたしました」などの基本の挨拶応対	
		5.次コマとの関係	相手に配慮できるよう精算業務の基礎をおさえる	
19	精算業務②	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技、動物の安全に配慮した応対	
		2.コマ主題	精算業務②の反復トレーニング	
		3.コマ主題細目	金銭トレイを使用して自然に精算業務を進められる	
		4.コマ主題細目深度	①一連の流れをスムーズにできる ②数字の読み間違いに気をつける	
		5.次コマとの関係	精算額の確認に集中できるような配慮をした説明を行う	
20	精算業務③	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技、動物の安全に配慮した応対	
		2.コマ主題	迅速かつ丁寧な精算業務	
		3.コマ主題細目	相手の動きを観察しつつ、タイミングよく行動する	
		4.コマ主題細目深度	①スピーディで適度な明細説明ができる ②速やかで正確な電卓入力ができる ③飼い主の状態を見て、タイミングよく必要なものを渡す	
		5.次コマとの関係	応用力を持った反復トレーニング	
21	精算業務④	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技、動物の安全に配慮した応対	
		2.コマ主題	精算業務③の反復トレーニング	
		3.コマ主題細目	相手の動きに合わせタイミングよく精算業務を行う	
		4.コマ主題細目深度	①飼い主に渡すものということを配慮した行動ができる ②飼い主の理解を高めることを配慮した説明ができる	
		5.次コマとの関係	チームローテーションに繋げるためにも個人の習得を高める	
22	実技試験前のグループワーク①	1.シラバスとの関係	スタッフコミュニケーションにつなげるトレーニング	
		2.コマ主題	チームコミュニケーション	
		3.コマ主題細目	チーム運営の段取り力、お辞儀・プレゼンテーション意識	
		4.コマ主題細目深度	①動物看護師・飼い主に配役し、実技試験を意識したローテーション練習 ②姿勢、お辞儀の練習 ③実習使用備品の管理意識	
		5.次コマとの関係	個人・グループの精度を高める	
23	実技試験前のグループワーク②	1.シラバスとの関係	スタッフコミュニケーションにつなげるトレーニング	
		2.コマ主題	チームコミュニケーション	
		3.コマ主題細目	チーム運営の段取り力、お辞儀・プレゼンテーション意識	
		4.コマ主題細目深度	①チーム内ローテーショントレーニング （準備、段取り、安定感・一体感を作る、チーム内フォローの方法） ②カウンター姿勢、お辞儀の練習 ③実習使用備品の管理意識	
		5.次コマとの関係	個人・グループの精度を高める	
24	実技試験前のグループワーク③	1.シラバスとの関係	スタッフコミュニケーションにつなげるトレーニング	
		2.コマ主題	チームコミュニケーション	
		3.コマ主題細目	チーム運営の段取り力、お辞儀・プレゼンテーション意識	
		4.コマ主題細目深度	①チーム内で積極的に行動・発言できる ②学んだことを意識し、実践できる	
		5.次コマとの関係	個人・グループの精度を高める	
25	実技試験 ～薬の説明、精算業務①～	1.シラバスとの関係	プレゼンテーション意識を向上する	
		2.コマ主題	授業で理解・訓練項目のアウトプット、他人評価	
		3.コマ主題細目	薬の説明・精算業務実技発表と他人の評価を行う	
		4.コマ主題細目深度	①人前に立つこと、人前で実践することに慣れる ②周りに評価される意識を持つ ③発表グループ以外はクリップボードを使用してメモを取る練習をしつつ、他人の評価をし良い所とアドバイスを記入する	
		5.次コマとの関係	実技試験の続き	
26	実技試験 ～薬の説明、精算業務②～	1.シラバスとの関係	プレゼンテーション意識を向上する	
		2.コマ主題	授業で理解・訓練項目のアウトプット、他人評価	
		3.コマ主題細目	薬の説明・精算業務実技発表と他人の評価を行う	
		4.コマ主題細目深度	①人前に立つこと、人前で実践することに慣れる ②周りに評価される意識を持つ ③発表グループ以外はクリップボードを使用してメモを取る練習をしつつ、他人の評価をし良い所とアドバイスを記入する	
		5.次コマとの関係	多様なシーンで実践できる歩み寄る応対を身につける	
27	実技試験の振り返り ～薬の説明、精算業務③～	1.シラバスとの関係	接客時の基本を客観的に評価する	
		2.コマ主題	実技試験を評価する	
		3.コマ主題細目	25．26の実技発表を振り返り、不十分なところを改善する。	
		4.コマ主題細目深度	①実技発表時の振り返りを行う （習得しているものを自己認識する、他人の評価をもとに改善を図る、実技試験内容のポイントを押さえなおす）	
		5.次コマとの関係	専門知識を活かした飼い主との対話法を学ぶ	

院内コミュニケーション一1

28	質問と傾聴① ～主訴:その①～	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技、動物の健康に配慮した応対	
		2.コマ主題	基礎的な質問項目の認識、傾聴の姿勢	
		3.コマ主題細目	アイコンタクトをとりながら会話式の質問ができる	
		4.コマ主題細目深度	①看護動物の様子を見ながら質問できる ・クリップボードを持って迅速に記述しながら質問する ・飼い主とアイコンタクトしながら質問する ②質問の必要事項を取りこぼさない	
		5.次コマとの関係	相手に合わせた対応ができるよう基礎の質問事項をおさえる	
29	質問と傾聴② ～主訴:その①～	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技、動物の健康に配慮した応対	
		2.コマ主題	質問と傾聴のポイント	
		3.コマ主題細目	マニュアルだけでなく飼い主を中心にしてカスタマイズした質問・説明をする	
		4.コマ主題細目深度	①飼い主の答えに応じて表情・声色・話し方のスピードに変化をつける ②飼い主を中心にした表現で質問、説明ができる	
		5.次コマとの関係	相手に合わせた対応ができるよう基礎の質問事項をおさえる	
30	質問と傾聴③ ～主訴:その②～	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技、動物の健康に配慮した応対	
		2.コマ主題	質問と傾聴のポイント	
		3.コマ主題細目	主訴内容に合わせ、飼い主様を中心にしてカスタマイズした質問・説明をする	
		4.コマ主題細目深度	①飼い主の答えに応じて表情・声色・話し方のスピードに変化をつける ②飼い主を中心にした表現で質問、説明ができる	
		5.次コマとの関係	「院内コミュニケーション2」質問・傾聴の姿勢から電話による音声表現のプレトレーニングに進む	

院内コミュニケーション－2

学科	動物看護系学科	シラバス（概要）
コース		知識や技術などの目に見えないものの価値は、その提供者からの印象を大きく受ける。動物看護師はその提供者の一人であり、病院の印象を決める顔ともなる。「院内コミュニケーション－2」では、「1」で身に付けた接遇の基本とホスピタリティ精神を活用し緊急時の応対、不快感情に対する応対をトレーニングする。また、動物看護知識だけでなく、外部応対や電話応対を院内スタッフとのコミュニケーションを通じて一社会人としての行動ができるようビジネスマナーを習得する。模擬待合室で行うローテーショントレーニングから相手の心情を慮った歩み寄る対応を臨機応変に実践できるよう精度を高める。
履修条件	院内コミュニケーション－1を履修すること	
ユニット		
科目名	院内コミュニケーション－2	
単位	1（1～3合わせて3単位）	
履修時間	30時間（1～3合わせて75時間）	
回数	30回（1～3合わせて75時間）	
授業形態	講義・演習	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	筆記試験・実技試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①ホスピタリティを伝える動物病院の接遇（インターズー）②看護におけるコミュニケーション（へるす出版）③動物病院のためのクレーム対応のマインド＆スキル（インターズー）	

コマシラバス

50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	電話応対①	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技	
		2.コマ主題	音声表現スキルの向上、信頼につながる応対	
		3.コマ主題細目	滑舌、表現、言葉遣い、会話しながら内容のメモを取る	
		4.コマ主題細目深度	①ペアワークによる声のみの印象を意識した応対を身に付ける ・電話に出てハキハキ名乗り、明るく挨拶する ・話しながらメモをとれる ・聞き取れないときの対応	
		5.次コマとの関係	必要情報を収集し、処理案内に繋げる	
2	電話応対②	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技	
		2.コマ主題	音声表現スキルの向上、信頼につながる応対	
		3.コマ主題細目	名指し人へ取り次ぐ	
		4.コマ主題細目深度	①ペアワークによる声のみの印象を意識した応対を身に付行ける ・こちらの状況を伝える ・処理の案内をする ・クッション言葉を使う ・保留するときの注意	
		5.次コマとの関係	応用力を持った反復トレーニング	
3	電話応対③	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技	
		2.コマ主題	責任を持って処理する	
		3.コマ主題細目	処理案内	
		4.コマ主題細目深度	①取次後の処理案内をする ②電話番号を控えて、復唱、確認する	
		5.次コマとの関係	多用なシーンを実践できる反応を身に付ける	
4	電話応対④	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技	
		2.コマ主題	電話内の会話をマスターし、行動が伴えるようにする	
		3.コマ主題細目	電話対応中におきる様々なシチュエーション対応	
		4.コマ主題細目深度	①電話に出るところから、切るところまでの流れをスムーズにできる（カウンターでのメモの取り方） ②電話会話中に来られた飼い主の対応ができる ③診察中の獣医師へ取り次ぐときのアプローチできる ④電話会話終了後に待合室飼い主への声掛けができる	
		5.次コマとの関係	受付カウンターにおける動きを習得し、全体の流れに繋げる	
5	実技試験前のグループワーク①	1.シラバスとの関係	スタッフコミュニケーションにつなげるトレーニング	
		2.コマ主題	チームコミュニケーション	
		3.コマ主題細目	複数の場面設定からの選択と自由設定 チーム運営の段取り力、お辞儀・プレゼンテーション意識	
		4.コマ主題細目深度	①「受付カウンター（動物看護師、電話をかける飼い主、来院者）」と「診察室（動物看護師、獣医師、受診中飼い主）」に別れてローテーションしながら一連の流れをスムーズにできる	
		5.次コマとの関係	個人・グループの精度を高める	
6	実技試験前のグループワーク②	1.シラバスとの関係	スタッフコミュニケーションにつなげるトレーニング	
		2.コマ主題	チームコミュニケーション	
		3.コマ主題細目	複数のシチュエーションで反復トレーニングを行う チーム運営の段取り力、お辞儀・プレゼンテーション意識	
		4.コマ主題細目深度	①チーム内ローテーショントレーニング（準備、段取り、安定感・一体感を作る、チーム内フォローの方法） ②社会人としての立ち振る舞いを意識し積極的に取り組む	
		5.次コマとの関係	個人・グループの精度を高める	
7	実技試験前のグループワーク③	1.シラバスとの関係	スタッフコミュニケーションにつなげるトレーニング	
		2.コマ主題	チームコミュニケーション	
		3.コマ主題細目	複数のシチュエーションで反復トレーニングを行う チーム運営の段取り力、お辞儀・プレゼンテーション意識	
		4.コマ主題細目深度	①チーム内で積極的に行動・発言できる ②学んだことを意識し、実践できる	
		5.次コマとの関係	個人・グループの精度を高める	

8	実技試験 ～電話応対①～	1.シラバスとの関係	プレゼンテーション意識を向上する	
		2.コマ主題	授業で理解・訓練項目のアウトプット、他人評価	
		3.コマ主題細目	電話応対実技発表と他人の評価を行う	
		4.コマ主題細目深度	①人前に立つこと、実践することに慣れる ②周りに評価される意識を持つ ③発表グループ以外はクリップボードを使用してメモを取る練習をしつつ、他人の評価をし良い所とアドバイスを記入する	
		5.次コマとの関係	実技試験の続き	
9	実技試験 ～電話応対②～	1.シラバスとの関係	プレゼンテーション意識を向上する	
		2.コマ主題	授業で理解・訓練項目のアウトプット、他人評価	
		3.コマ主題細目	電話応対実技発表と他人の評価を行う	
		4.コマ主題細目深度	①人前に立つこと、実践することに慣れる ②周りに評価される意識を持つ ③発表グループ以外はクリップボードを使用してメモを取る練習をしつつ、他人の評価をし良い所とアドバイスを記入する	
		5.次コマとの関係	多様なシーンを実践できる歩み寄る対応を身に付ける	
10	実技試験の振り返り ～電話応対③～	1.シラバスとの関係	プレゼンテーション意識を向上する	
		2.コマ主題	授業で理解・訓練項目のアウトプット、他人評価	
		3.コマ主題細目	電話応対実技発表と他人の評価を行う	
		4.コマ主題細目深度	①実技発表時の振り返りを行う （習得しているものを自己確認する、他人の評価をもとに改善を図る、実技試験内容のポイントを押さえなおす）	
		5.次コマとの関係	社会人としての振る舞いから、外部対応を学ぶ	
11	外部応対①	1.シラバスとの関係	社会人としての振る舞い	
		2.コマ主題	ビジネスマナーの意識を持つ	
		3.コマ主題細目	面会の約束のある方／ない方の受付の発話	
		4.コマ主題細目深度	①マナーに従った方法で名刺を受取る（取り次ぎ名刺の意味を理解する） ②取り次ぎ業務で必要な情報を収集する ③丁寧なお断りの対応ができる	
		5.次コマとの関係	社会マナーを理解した上で、取引先とのやり取りをする	
12	外部応対②	1.シラバスとの関係	社会人としての振る舞い	
		2.コマ主題	ビジネスマナーの意識を持つ	
		3.コマ主題細目	面会の約束のある方／ない方の受付のカウンター実習	
		4.コマ主題細目深度	①カウンターで名刺の受け取り、取り次ぎをスムーズにできる ・取り次ぎ業務で必要な情報を収集し、丁寧なお断りの対応ができる	
		5.次コマとの関係	社会マナーを理解した上で、取引先とのやり取りをする	
13	外部応対③	1.シラバスとの関係	社会人としての振る舞い	
		2.コマ主題	ビジネスマナーの意識を持つ	
		3.コマ主題細目	取引先の方の受付の発話	
		4.コマ主題細目深度	①取引先との関係を理解した上で感謝の気持ちが現れるような応対ができる ②飼い主最優先の応対をカウンターで行う	
		5.次コマとの関係	社会マナーを理解した上で、取引先とのやり取りをする	
14	外部応対④	1.シラバスとの関係	社会人としての振る舞い	
		2.コマ主題	ビジネスマナーの意識を持つ	
		3.コマ主題細目	取引先の方の受付のカウンター実習	
		4.コマ主題細目深度	①一連の流れをスムーズにできる ②他者への配慮ができた言動ができる	
		5.次コマとの関係	受付カウンター業務の応用として臨機応変な対応	
15	緊急時の応対①	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技	
		2.コマ主題	待合室飼い主への対応	
		3.コマ主題細目	緊急時の電話の受け方ベーシック 待合室の飼い主へ協力お願いの発話	
		4.コマ主題細目深度	①急患の来院時に、待合室の飼い主へ依頼することがあることを知る ・待合の飼い主様へ、必要な情報を提供できる ・ご協力いただいた飼い主様へその後の対応 ②急患の電話で必要事項の確認ができる	
		5.次コマとの関係	予期しない事態への臨機応変な対応	
16	緊急時の応対②	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技	
		2.コマ主題	待合室飼い主への対応	
		3.コマ主題細目	緊急時の電話の受け方ベーシック 待合室の飼い主へ協力お願いの発話	
		4.コマ主題細目深度	①模擬待合室を背景に配役（動物看護師、急患、待合飼い主、獣医師）し、ローテーショントレーニング ②それぞれの立場になって言動に配慮できる	
		5.次コマとの関係	予期しない事態への臨機応変な対応	
17	不快感情の飼い主応対	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技	
		2.コマ主題	相手の話を落ち着いて聞き、内容を理解する	
		3.コマ主題細目	歩み寄る応対、初動対応の発話	
		4.コマ主題細目深度	①必要な情報の聞き取り、時間をいただく ②スタッフに報告をする	
		5.次コマとの関係	予期しない事態への臨機応変な対応	

院内コミュニケーション－２

18	不快感情の飼い主応対	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技	
		2.コマ主題	相手の話を落ち着いて聞き、内容を理解する	
		3.コマ主題細目	歩み寄る応対、初動対応の演習	
		4.コマ主題細目深度	①傾聴の姿勢、必要な情報の聞き取りをスムーズにできる	
		5.次コマとの関係	チームを意識し個人の精度を高める	
19	実技試験前のグループワーク①	1.シラバスとの関係	スタッフコミュニケーションにつなげるトレーニング	
		2.コマ主題	チームコミュニケーション	
		3.コマ主題細目	複数のシチュエーションで反復トレーニングを行う チーム運営の段取り力、プレゼンテーション意識	
		4.コマ主題細目深度	①「受付カウンター（動物看護師、電話をかける飼い主、来院者、待合飼い主）」と「診察室（動物看護師、獣医師、受診中飼い主）」に別れてローテーションしながら一連の流れをスムーズにできる	
		5.次コマとの関係	個人・グループの精度を高める	
20	実技試験前のグループワーク②	1.シラバスとの関係	スタッフコミュニケーションにつなげるトレーニング	
		2.コマ主題	チームコミュニケーション	
		3.コマ主題細目	複数のシチュエーションで反復トレーニングを行う チーム運営の段取り力、プレゼンテーション意識	
		4.コマ主題細目深度	①チーム内ローテーショントレーニング（準備、段取り、安定感・一体感を作る、チーム内フォローの方法） ②社会人としての立ち振る舞いを意識し積極的に取り組む	
		5.次コマとの関係	個人・グループの精度を高める	
21	実技試験前のグループワーク③	1.シラバスとの関係	スタッフコミュニケーションにつなげるトレーニング	
		2.コマ主題	チームコミュニケーション	
		3.コマ主題細目	複数のシチュエーションで反復トレーニングを行う チーム運営の段取り力、プレゼンテーション意識	
		4.コマ主題細目深度	①チーム内で積極的に行動・発言できる ②様々な配役になることで、当事者の心情を思慮できる ③学んだことを意識し、実践できる	
		5.次コマとの関係	個人・グループの精度を高める	
22	実技試験 演目選択① ～外部応対～ ～緊急時の応対～ ～不快感情の飼い主応対～	1.シラバスとの関係	プレゼンテーション意識を向上する	
		2.コマ主題	総合シュミレーションのアウトプット、他人評価	
		3.コマ主題細目	複数のシチュエーションから演目を選択し自由設定で発表する チーム運営の段取り力、プレゼンテーション意識	
		4.コマ主題細目深度	①人前に立つこと、実践することに慣れる ②周りに評価される意識を持つ ③発表グループ以外はクリップボードを使用してメモを取る練習をしつつ、他人の評価をし良い所とアドバイスを記入する	
		5.次コマとの関係	実技試験の続き	
23	実技試験 演目選択② ～外部応対～ ～緊急時の応対～ ～不快感情の飼い主応対～	1.シラバスとの関係	プレゼンテーション意識を向上する	
		2.コマ主題	総合シュミレーションのアウトプット、他人評価	
		3.コマ主題細目	複数のシチュエーションから演目を選択し自由設定で発表する チーム運営の段取り力、プレゼンテーション意識	
		4.コマ主題細目深度	①人前に立つこと、実践することに慣れる ②周りに評価される意識を持つ ③発表グループ以外はクリップボードを使用してメモを取る練習をしつつ、他人の評価をし良い所とアドバイスを記入する	
		5.次コマとの関係	多様なシーンで実践できる歩み寄る対応を身につける	
24	実技試験の振り返り 演目選択③ ～外部応対～ ～緊急時の応対～ ～不快感情の飼い主応対～	1.シラバスとの関係	プレゼンテーション意識を向上する	
		2.コマ主題	総合シュミレーションのアウトプット、他人評価	
		3.コマ主題細目	複数の場面設定からの選択と自由設定、 これまでの総合した応対実技発表と他人の評価を行う	
		4.コマ主題細目深度	①実技発表時の振り返りを行う （習得しているものを自己確認する、他人の評価をもとに改善を図る、実技試験内容のポイントを押さえなおす）	
		5.次コマとの関係	ビジネスマナーの実践	
25	訪問と応対のマナー①	1.シラバスとの関係	社会人としての振る舞い	
		2.コマ主題	ビジネスマナーの基本を知る	
		3.コマ主題細目	名刺交換、席次、ペアワーク	
		4.コマ主題細目深度	①上座と下座を理解する ②社会の役職での上下関係を理解する ③名刺交換～着席でのマナーを理解する	
		5.次コマとの関係	着席を促すために席次を理解する	
26	訪問と応対のマナー②	1.シラバスとの関係	社会人としての振る舞い	
		2.コマ主題	ビジネスマナーの基本を知る	
		3.コマ主題細目	名刺交換、応接室の席次のマナーを知る	
		4.コマ主題細目深度	①役職、立場から席次を判断できる ②スムーズな名刺交換ができる ③来客者、対応者としての意識の違いを知る	
		5.次コマとの関係	訪問者対応として応接室への案内、給茶	

院内コミュニケーション－２

27	訪問と応対のマナー③	1.シラバスとの関係	社会人としての振る舞い	
		2.コマ主題	ビジネスマナーの基本を知る	
		3.コマ主題細目	名刺交換、席次を理解した応接室への案内、お茶出しの演習	
		4.コマ主題細目深度	①模擬応接室までの案内と退室ができる ②名刺交換ができる ③給茶ができる	
		5.次コマとの関係	応接室のレイアウトに合わせた席次と給茶	
28	訪問と応対のマナー④	1.シラバスとの関係	社会人としての振る舞い	
		2.コマ主題	ビジネスマナーの基本を知る	
		3.コマ主題細目	訪問と応対のマナー①②③反復トレーニングと応用	
		4.コマ主題細目深度	①応接室のレイアウトに応じた案内をする（席次、ドア） ②商談中の給茶での注意	
		5.次コマとの関係	深刻な場面での対応	
29	深刻な場での対応 ～訃報時～	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技	
		2.コマ主題	（感情を示す）初動対応	
		3.コマ主題細目	相手が望む人への取り次ぎ	
		4.コマ主題細目深度	①電話をかけてきた飼い主の感情をくむ ②相手が望む人へ取り次ぐ必要性と重要性を理解する ③お帰りの際の対応	
		5.次コマとの関係	深刻な場面での対応	
30	深刻な場での対応 ～診察時、面会時～	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技	
		2.コマ主題	飼主様に配慮しながら業務を行う	
		3.コマ主題細目	診察中、面会中飼主様への配慮	
		4.コマ主題細目深度	①診察中の飼い主と電話先の飼い主の個人情報に配慮し、獣医師へ取次ぎができる ②飼い主に配慮した入院室への出入りができる ③入院室で面会中の飼い主へ声がけができる	
		5.次コマとの関係	「院内コミュニケーション3」接遇トレーニングの応用に進む	

院内コミュニケーション－３

学科	動物看護系学科	シラバス（概要）
コース		知識や技術などの目に見えないものの価値はその提供者からの印象を大きく受ける。動物看護師はその提供者の一人であり、病院の印象を決める顔ともなる。「院内コミュニケーション－３」は、「１」「２」の応用として多様なシチュエーションを用いたトレーニングを行う。動物医療提供者として安心かつ安全で、信頼を基本にホスピタリティ精神を接遇に活かす対応について、人間心理（顧客心理）を思慮しながら実践力を養う。また、受付ではしばしば同時に複数の対応が必要とされたり、予期しない事項への問題解決能力が問われる場合がある。マニュアルだけでなく誠実さと謙虚さを持ち常に人間力を高める心構えで飼い主、スタッフとのコミュニケーション作りに活かす必要があり、コミュニケーション能力は経験と慮りが影響する。本科目を通じて社会人としての準備段階であることを認識し、学習に取り組む必要がある。
履修条件	院内コミュニケーション－1・2を履修すること	
ユニット		
科目名	院内コミュニケーション－３	
単位	1（1～3合わせて3単位）	
履修時間	15時間（1～3合わせて75時間）	
回数	15回(1～3合わせて75回)	
授業形態	講義・演習	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	筆記試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①ホスピタリティを伝える動物病院の接遇（インターズー）②看護におけるコミュニケーション（へるす出版）③動物病院のためのクレーム対応のマインド＆スキル(インターズー)	

コマシラバス				
50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	飼い主のお迎え（展開）①	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技、動物の安全に配慮した応対	
		2.コマ主題	応用にきかせた初診問診票・同意書の記入案内	
		3.コマ主題細目	初診問診票・同意書の記入に関する諸問題への対応	
		4.コマ主題細目深度	①飼い主のお迎えから展開した応用の練習 ・「拾ったから誕生日が不明」「緊急連絡先は書かないとダメか」などの質問に対応できる	
		5.次コマとの関係	飼い主対応の応用（飼い主のお迎え）	
2	飼い主のお迎え（展開）②	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技、動物の安全に配慮した応対	
		2.コマ主題	応用にきかせた初診問診票・同意書の記入案内	
		3.コマ主題細目	病院の書式に合わせた記入案内	
		4.コマ主題細目深度	①記入項目が多い書式の必要最低限の記入枠案内 ②裏面、複数枚に渡って記入欄がある書式での記入案内	
		5.次コマとの関係	飼い主対応の応用（飼い主のお迎え）	
3	飼主様のお迎え（展開）③	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技、動物の安全に配慮した応対	
		2.コマ主題	応用にきかせた初診問診票・同意書の記入案内、再診受付	
		3.コマ主題細目	相手（の身体状況）に合わせた記入案内	
		4.コマ主題細目深度	①身体の不自由な飼い主に対しての応対（足の悪い方、耳の遠い方、目の悪い方など） ②記入を面倒に感じている飼い主に対しての対応 ③来院歴がある可能性のある飼主様に対しての対応 ④診察券を出さない飼主様に対しての対応	
		5.次コマとの関係	飼い主対応の応用（薬の説明）	
4	薬の説明（展開）①	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技、動物の安全に配慮した応対	
		2.コマ主題	応用をきかせた薬の説明	
		3.コマ主題細目	分包数の多い内用薬をスムーズに説明する	
		4.コマ主題細目深度	①ベーシックな説明の復習 ②分包数の確認作業の必要性を理解 ③分包数確認と説明しながら薬袋に収める一連の作業がスムーズにできる	
		5.次コマとの関係	飼い主た対応の応用（薬の説明）	
5	薬の説明（展開）②	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技、動物の安全に配慮した応対	
		2.コマ主題	応用をきかせた薬の説明	
		3.コマ主題細目	相手が理解できる説明（外用薬）	
		4.コマ主題細目深度	①薬の効果、処方内容を伝える ②経験確認を行う ③精算後に投与方法を伝授する ④受付業務を滞らせない場所で説明する	
		5.次コマとの関係	待合室環境に配慮する	
6	待合室管理①	1.シラバスとの関係	信頼を得る要素を理解する、高頻度業務の実技	
		2.コマ主題	快適な待合室管理	
		3.コマ主題細目	カウンターワークの考え方、薬の説明・精算業務復習	
		4.コマ主題細目深度	①待合室管理の重要性 ②定型業務をカウンターで分業する ③カウンターの形に合わせて分業する	
		5.次コマとの関係	待合室環境に配慮する	
7	待合室管理②	1.シラバスとの関係	信頼を得る要素を理解する、動物の安全に配慮した応対	
		2.コマ主題	快適な待合室管理	
		3.コマ主題細目	待合室管理を意識した診察室への案内、グループワーク	
		4.コマ主題細目深度	①ベーシックな診察室への案内復習 ②待機中の注意喚起復習 ③歩み寄る応対の復習（荷物のサポート、後手にならないスムーズな誘導）	
		5.次コマとの関係	飼い主対応の応用（電話応対）	

院内コミュニケーション－３

8	電話応対（展開）①	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技	
		2.コマ主題	音声表現スキルの向上、信頼につながる応対	
		3.コマ主題細目	ベーシックな電話対応復習、相手の質問への応対する	
		4.コマ主題細目深度	①ベーシックな電話応対復習：名乗る、挨拶、話しながらメモを取る、聞き取れないときの対応、状況案内、処理案内 ②処理案内についての相手から質問に答える ・「折り返すっていつ頃になるの？」・「急いでいるのですが」など	
		5.次コマとの関係	飼い主対応の応用（電話応対）	
9	電話応対（展開）②	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技	
		2.コマ主題	受付・動物看護師の判断で処理できる用件の対応	
		3.コマ主題細目	電話でのフードの注文を受ける、ペアワーク	
		4.コマ主題細目深度	①ベーシックな電話応対（名乗る、挨拶、話しながらメモを取る、聞き取れないときの対応、状況案内、処理案内）の復習 ②状況確認（診察券が手元にない場合のカルテ検索） ③在庫管理、後処理を意識した対応を行う ④クローズドクエスチョンでの対応を行う	
		5.次コマとの関係	飼い主対応の応用（電話応対）	
10	電話応対（展開）③	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技	
		2.コマ主題	受付・動物看護師の判断で処理できる用件の対応	
		3.コマ主題細目	道案内、初診飼い主からの問い合わせ	
		4.コマ主題細目深度	①敬語復習（いる、見るなど） ②相手の現在地確認 ・目印になるものを方向と色で案内する ・所要時間の案内する ③再電話しやすいよう案内し、名乗って切る ④来院時のスマートな対応につなげる	
		5.次コマとの関係	飼い主対応の応用（電話応対）	
11	電話応対（展開）④	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技	
		2.コマ主題	受付・動物看護師の判断で処理できない用件の対応	
		3.コマ主題細目	以前処方の投薬許可の確認、ペアワーク	
		4.コマ主題細目深度	①ベーシックな電話応対（名乗る、挨拶、話しながらメモを取る、聞き取れないときの対応）の復習 ②残量確認し、状況案内を行う ③獣医師への確認後、処理案内をする	
		5.次コマとの関係	飼い主対応の応用（電話応対）	
12	電話応対（展開）⑤	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技	
		2.コマ主題	多重処理で行う受付業務	
		3.コマ主題細目	音声スキルの向上、精算中にかかってきた電話の応対、来院を促す電話応対、グループワーク	
		4.コマ主題細目深度	①精算相手との対応を一時中断し、すぐに電話に出る ②電話先の相手に状況説明、処理案内をする ③電話中の精算相手への配慮 ④折り返し電話での対応 ⑤来院を迷う飼主様へ来院を促す対応	
		5.次コマとの関係	人間心理を知る	
13	人間心理を知る①	1.シラバスとの関係	スタッフコミュニケーションにつなげるトレーニング	
		2.コマ主題	顧客心理	
		3.コマ主題細目	顧客とは、様々なケースでの顧客心理を考える	
		4.コマ主題細目深度	①顧客とは何か（動物病院にとっての顧客とは） ②ケーススタディで相手の心理を読むトレーニング ③顧客心理をよんだ応対	
		5.次コマとの関係	人間心理を知る	
14	人間心理を知る②	1.シラバスとの関係	高頻度業務の実技	
		2.コマ主題	顧客心理	
		3.コマ主題細目	不快感情の飼い主様応対（復習と展開）	
		4.コマ主題細目深度	①初動対応の復習 ・飼主様の不快につながることを検討する ・検討した事案についての予防策を練る	
		5.次コマとの関係	人間心理を知る	
15	人間心理を知る③	1.シラバスとの関係	スタッフコミュニケーションにつなげるトレーニング	
		2.コマ主題	スタッフコミュニケーションを円滑に行う	
		3.コマ主題細目	相手の思考の特徴パターンを知る	
		4.コマ主題細目深度	①右脳・左脳心理を知る ②行動などからのコミュニケーションパターン知る ③自分の行動パターンや考え方についてより深く理解する ④相手の行動パターンや考え方を理解し、コミュニケーションの幅を広げる	
		5.次コマとの関係		

動物飼育実習Ⅰ

学科	動物看護系学科	シラバス(概要)
コース		実際に動物の飼養管理をすることにより、種類の特徴を知り、基本的行動様式と正しいハンドリング、アニマルウェルフェアの国際基準「5つの自由」を遵守した飼育および基本的なトレーニング法を理解する。特に動物の身体的な健康と心理的健康の保持に努め、動物の観察力や看護および問題解決能力を養う。また、動物の飼養管理を通して感染症や誤食などの事故が発生した場合に必要な予防医療や衛生管理、環境整備を実践し危機管理能力を養い、飼い主の指導に活用する。動物が人間社会で適応し、飼い主と楽しく快適に暮らすために安心感を与えて、よい関係を築くトレーニングを行う。
履修条件	動物飼育実習Ⅰを先行すること	
ユニット		
科目名	動物飼育実習Ⅰ	
単位	1	
履修時間	45時間	
回数	45回	
授業形態	実習	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	実技試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①動物看護実習テキスト(インターズー)	

コマシラバス

50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	飼育とは	1.シラバスとの関係	飼育実習の必要性を考え、実際に動物を世話することで動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。	
		2.コマ主題	飼育とは何かを理解する。	
		3.コマ主題細目	飼育とは	
		4.コマ主題細目深度	動物看護に必要な問題解決能力や看護実践能力を養うためには、生態を知ることである。個体の生態を知ることで栄養管理、運動管理、健康管理、望ましい飼育方法や環境を追及することが出来る。また動物福祉を意識し、動物愛護精神を身につけることも重要である。動物福祉を考えた飼育方法を学ぶことにより、国際基準である「5つの自由」を理解する。	
		5.次コマとの関係	イヌの飼育に進む。	
2	イヌについて① (犬種と特徴)	1.シラバスとの関係	イヌの飼育をする上で、まずは犬種と特徴について理解し、飼育上の注意点を知る。	
		2.コマ主題	犬種とその特徴について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	犬種とその特徴	
		4.コマ主題細目深度	イヌの品種による身体の特徴を知る。鳥猟犬、獣猟犬、使役犬、牧羊犬、愛玩犬の主な犬種や身体の特徴を学ぶ。また、イヌの性別による基本的動作、特徴についても学習する。	
		5.次コマとの関係	イヌの飼育に必要なものに進む。	
3	イヌについて② (飼育用具)	1.シラバスとの関係	イヌの飼育をする上で必要な施設や用具について理解し、正しく使用できるようになる。	
		2.コマ主題	イヌの飼育に必要な用具について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	イヌの飼育に必要な用具	
		4.コマ主題細目深度	イヌの飼育に必要な施設・機材・用具について学ぶ。飼育する際に必要な施設・機材・用具を準備し、正しく使用できるようになる。	
		5.次コマとの関係	イヌの環境整備、衛生管理、栄養管理に進む。	
4	イヌについて③ (気を付けること)	1.シラバスとの関係	イヌの飼育をする上での衛生管理や食事管理について学び、適正飼養ができるようになる。	
		2.コマ主題	イヌの環境整備・衛生管理・栄養管理の必要性と方法を理解する。	
		3.コマ主題細目	①衛生管理　②食事管理	
		4.コマ主題細目深度	①個体の特性を理解し、ライフステージや健康状態に合わせてイヌの飼育施設、使用する機材・用具について正しい衛生管理ができるようになる。②犬用飼料の種類と特性と種類を理解し、ライフステージや健康状態に合わせた栄養管理ができるようになる。	
		5.次コマとの関係	イヌのハンドリングに進む。	
5	イヌについて④ (ハンドリング)	1.シラバスとの関係	イヌの飼育をする上で、適切なハンドリング方法を知り、個体別によるハンドリングができるようになる。	
		2.コマ主題	イヌの適切なハンドリング方法を知る。	
		3.コマ主題細目	①スキンシップ　②イヌへの近づき方　③抱き方	
		4.コマ主題細目深度	①イヌとスキンシップをはかる方法を学ぶ。その際に注意することを知る。②よく知らないイヌに近づく時の方法やポイントを知る。なぜその方法なのかを考える。③大型犬、中型犬、小型犬の抱き方を学ぶ。ぬいぐるみを使って練習する。	
		5.次コマとの関係	実際にイヌの飼育を行う。	
6	イヌについて⑤ (飼育実習①)	1.シラバスとの関係	これまで学んだイヌの飼育方法を実践し、実際に動物を世話することで動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。	
		2.コマ主題	イヌの飼育を実践する。	
		3.コマ主題細目	イヌの飼育	
		4.コマ主題細目深度	実際にイヌの飼育を行う。これまで学んだ環境整備・衛生管理・栄養管理、ハンドリングを実践し、適正飼養ができるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き、イヌの日常の飼育管理を行う。	

7	イヌについて⑥ （飼育実習②）	1.シラバスとの関係	これまで学んだイヌの飼育方法を実践し、実際に動物を世話することで動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。
		2.コマ主題	イヌの飼育を実践する。
		3.コマ主題細目	イヌの飼育
		4.コマ主題細目深度	前回に引き続き、イヌの飼育を行う。前回のできなかったところや反省をふまえ、環境整備・衛生管理・栄養管理、ハンドリングを実践し、適正飼養ができるようになる。
		5.次コマとの関係	引き続き、イヌの日常の飼育管理を行う。
8	イヌについて⑦ （飼育実習③）	1.シラバスとの関係	これまで学んだイヌの飼育方法を実践し、実際に動物を世話することで動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。
		2.コマ主題	イヌの飼育を実践する。
		3.コマ主題細目	イヌの飼育
		4.コマ主題細目深度	前回に引き続き、イヌの飼育を行う。前回のできなかったところや反省をふまえ、環境整備・衛生管理・栄養管理、ハンドリングを実践し、適正飼養ができるようになる。
		5.次コマとの関係	ネコの飼育に進む。
9	ネコについて① （猫種と特徴）	1.シラバスとの関係	ネコの飼育をする上で、まずは猫種と特徴について理解し、飼育上の注意点を知る。
		2.コマ主題	猫種とその特徴について学ぶ。
		3.コマ主題細目	猫種とその特徴
		4.コマ主題細目深度	ネコの品種による身体の特徴を知る。長毛種、短毛種の主な猫種や身体の特徴を学ぶ。また、ネコの性別による基本的動作、特徴についても学習する。
		5.次コマとの関係	ネコの飼育に必要なものに進む。
10	ネコについて② （飼育用具）	1.シラバスとの関係	ネコの飼育をする上で必要な施設や用具について理解し、正しく使用できるようになる。
		2.コマ主題	ネコの飼育に必要な用具について学ぶ。
		3.コマ主題細目	ネコの飼育に必要な用具
		4.コマ主題細目深度	ネコの飼育に必要な施設・機材・用具について学ぶ。特に、ネコを室内で飼育する際に必要な施設・機材・用具を準備し、正しく使用できるようになる。
		5.次コマとの関係	ネコの環境整備、衛生管理、栄養管理に進む。
11	ネコについて③ （気を付けること）	1.シラバスとの関係	ネコの飼育をする上での衛生管理や食事管理について学び、適正飼養ができるようになる。
		2.コマ主題	ネコの環境整備・衛生管理・栄養管理の必要性と方法を理解する。
		3.コマ主題細目	①衛生管理　②食事管理
		4.コマ主題細目深度	①個体の特性を理解し、ライフステージや健康状態に合わせてネコの飼育施設、使用する機材・用具について正しい衛生管理ができるようになる。②猫用飼料の種類と特性と種類を理解し、ライフステージや健康状態に合わせた栄養管理ができるようになる。
		5.次コマとの関係	ネコのハンドリングに進む。
12	ネコについて④ （ハンドリング）	1.シラバスとの関係	ネコの飼育をする上で、適切なハンドリング方法を知り、個体別によるハンドリングができるようになる。
		2.コマ主題	ネコの適切なハンドリング方法を知る。
		3.コマ主題細目	①スキンシップ　②抱き方　③ネコのおもちゃ
		4.コマ主題細目深度	①ネコとスキンシップをはかる方法を学ぶ。その際に注意することを知る。犬との違いを理解する。②ネコの抱き方を学ぶ。ぬいぐるみを使って練習する。③ネコとおもちゃで遊ぶことの目的と利点を知る。
		5.次コマとの関係	実際にネコの飼育を行う。
13	ネコについて④ （飼育実習①）	1.シラバスとの関係	これまで学んだネコ猫の飼育方法を実践し、実際に動物を世話することで動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。
		2.コマ主題	ネコの飼育を実践する。
		3.コマ主題細目	ネコの飼育
		4.コマ主題細目深度	実際にネコの飼育を行う。これまで学んだ環境整備・衛生管理・栄養管理、ハンドリングを実践し、適正飼養ができるようになる。
		5.次コマとの関係	引き続き、ネコの日常の飼育管理を行う。
14	ネコについて⑤ （飼育実習②）	1.シラバスとの関係	これまで学んだネコの飼育方法を実践し、実際に動物を世話することで動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。
		2.コマ主題	ネコの飼育を実践する。
		3.コマ主題細目	ネコの飼育
		4.コマ主題細目深度	前回に引き続き、ネコの飼育を行う。前回のできなかったところや反省をふまえ、環境整備・衛生管理・栄養管理、ハンドリングを実践し、適正飼養ができるようになる。
		5.次コマとの関係	引き続き、ネコの日常の飼育管理を行う。
15	ネコについて⑥ （飼育実習③）	1.シラバスとの関係	これまで学んだネコの飼育方法を実践し、実際に動物を世話することで動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。
		2.コマ主題	ネコの飼育を実践する。
		3.コマ主題細目	ネコの飼育
		4.コマ主題細目深度	前回に引き続き、ネコの飼育を行う。前回のできなかったところや反省をふまえ、環境整備・衛生管理・栄養管理、ハンドリングを実践し、適正飼養ができるようになる。
		5.次コマとの関係	イヌのトレーニングに進む。

16	トレーニング① （アイコンタクト）	1.シラバスとの関係	イヌの基本的なトレーニング方法を身につけ、飼い主指導に活かす。	
		2.コマ主題	アイコンタクトについて理解する。	
		3.コマ主題細目	アイコンタクト	
		4.コマ主題細目深度	アイコンタクトとはイヌが自分(人間)に注意を向けることである。目と目を合わせ凝視することが長く続くと威嚇を意味するので、無理矢理目を直接見させるのではなく顔周辺を見させるようにし、自分へ注意を向けさせることができるようになる。	
		5.次コマとの関係	トレーニングに使用するご褒美について学ぶ。	
17	トレーニング② （用具とご褒美）	1.シラバスとの関係	イヌの基本的なトレーニング方法を身につけ、飼い主指導に活かす。	
		2.コマ主題	個体や状況(環境)による効果的な褒め方やご褒美について理解する。	
		3.コマ主題細目	イヌの主なご褒美	
		4.コマ主題細目深度	イヌによっていいこと(ご褒美)にはどのようなものがあるかを知る。個体や状況(環境)によって適切に褒めることができ、ご褒美を使用することができる。	
		5.次コマとの関係	基本的なトレーニングに進む。	
18	トレーニング③ （オスワリ）	1.シラバスとの関係	イヌの基本的なトレーニング方法を身につけ、飼い主指導に活かす。	
		2.コマ主題	オスワリのトレーニング方法を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	オスワリ	
		4.コマ主題細目深度	オスワリは人間社会で生活していく上で必要な基本のしつけであり日常生活の中で様々な場面で役に立つという事を理解する。オスワリのトレーニング方法を学び、実際に犬にオスワリを教えることができるようになる。	
		5.次コマとの関係	マテのトレーニングに進む。	
19	トレーニング④ （マテ）	1.シラバスとの関係	イヌの基本的なトレーニング方法を身につけ、飼い主指導に活かす。	
		2.コマ主題	マテのトレーニング方法を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	マテ	
		4.コマ主題細目深度	マテも人間社会で生活していく上で必要な基本のしつけであり日常生活の中で様々な場面で役に立つという事を理解する。マテのトレーニング方法を学び、実際にイヌにマテを教えることができるようになる。	
		5.次コマとの関係	フセのトレーニングに進む。	
20	トレーニング⑤ （フセ）	1.シラバスとの関係	イヌの基本的なトレーニング方法を身につけ、飼い主指導に活かす。	
		2.コマ主題	フセのトレーニング方法を学ぶ。	
		3.コマ主題細目	フセ	
		4.コマ主題細目深度	フセも人間社会で生活していく上で必要な基本のしつけであり日常生活の中で様々な場面で役に立つという事を理解する。フセのトレーニング方法を学び、実勢にイヌにフセを教えることができるようになる。	
		5.次コマとの関係	トレーニングの実践に進む。	
21	トレーニング実習①	1.シラバスとの関係	イヌの基本的なトレーニング方法を身につけ、飼い主指導に活かす。	
		2.コマ主題	基本的なトレーニング方法を実践し、身につける。	
		3.コマ主題細目	①アイコンタクト ②オスワリ ③マテ ④フセ	
		4.コマ主題細目深度	①～④について、これまで学んだことを実践する。うまくできない時は、その原因を探り繰り返し練習する。その際はイヌにとって安全な方法かを必ず確認する。どのトレーニングも、ご褒美を使って誘導し、その行動をイヌが自発的にとった時にご褒美をあげることを忘れない。	
		5.次コマとの関係	引き続き、イヌの基本的なトレーニングを実践する。	
22	トレーニング実習②	1.シラバスとの関係	イヌの基本的なトレーニング方法を身につけ、飼い主指導に活かす。	
		2.コマ主題	基本的なトレーニング方法を実践し、身につける。	
		3.コマ主題細目	①アイコンタクト ②オスワリ ③マテ ④フセ	
		4.コマ主題細目深度	前回に引き続き、①～④について、これまで学んだことを実践する。前回できなかったところや反省をふまえ、繰り返し練習する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、イヌの基本的なトレーニングを実践する。	
23	トレーニング実習③	1.シラバスとの関係	イヌの基本的なトレーニング方法を身につけ、飼い主指導に活かす。	
		2.コマ主題	基本的なトレーニング方法を実践し、身につける。	
		3.コマ主題細目	①アイコンタクト ②オスワリ ③マテ ④フセ	
		4.コマ主題細目深度	前回に引き続き、①～④について、これまで学んだことを実践する。前回できなかったところや反省をふまえ、繰り返し練習する。	
		5.次コマとの関係	エキゾチックアニマルの飼育に進む。	
24	エキゾチックアニマル① ウサギ①	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコ以外のコンパニオンアニマルの適切な飼育ができるようになるために、ペットとして飼育されている主なエキゾチックアニマルの飼育方法について学習する。	
		2.コマ主題	ウサギの種類とその特徴について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	ウサギの種類とその特徴	
		4.コマ主題細目深度	ウサギの生態、品種、特徴、用途を知る。ウサギを飼育する上で、生態を知ることは非常に重要である。また、品種による違いを知ることにより、適切な飼育法を飼い主に指導できるようになる。	
		5.次コマとの関係	ウサギの飼育に必要な用具に進む。	

25	エキゾチックアニマル② ウサギ②	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコ以外のコンパニオンアニマルの適切な飼育ができるようになるために、ペットとして飼育されている主なエキゾチックアニマルの飼育方法について学習する。	
		2.コマ主題	ウサギの飼育に必要な用具について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	ウサギの飼育に必要な用具	
		4.コマ主題細目深度	ウサギの飼育に必要な施設・機材・用具について学ぶ。ウサギの生態や習性を考慮し、飼育する際に必要な施設・機材・用具を準備し、正しく使用できるようになる。	
		5.次コマとの関係	ウサギの日常管理に必要な知識を習得する。	
26	エキゾチックアニマル③ ウサギ③	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコ以外のコンパニオンアニマルの適切な飼育ができるようになるために、ペットとして飼育されている主なエキゾチックアニマルの飼育方法について学習する。	
		2.コマ主題	ウサギの日常管理に必要な栄養管理・環境整備・衛生管理・の方法を理解し、ハンドリング方法を知る。	
		3.コマ主題細目	①食餌の与え方 ②排泄物の処理 ③飼育上の注意 ④ハンドリング	
		4.コマ主題細目深度	①ウサギの栄養管理に必要な知識を習得する。ウサギの食性を理解し、主食として与えるもの、適切な与え方を学ぶ。②排泄物の処理方法について学ぶ。ウサギは2種類の糞をすることを知る。③ウサギの生態を振り返り、飼育する上で注意することを覚える。特に骨折には注意する。④ウサギの適切な抱き方を習得する。	
		5.次コマとの関係	ハムスターの飼育に進む。	
27	エキゾチックアニマル④ ハムスター①	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコ以外のコンパニオンアニマルの適切な飼育ができるようになるために、ペットとして飼育されている主なエキゾチックアニマルの飼育方法について学習する。	
		2.コマ主題	ハムスターの種類とその特徴について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	ハムスターの種類とその特徴	
		4.コマ主題細目深度	ハムスターの生態、習性、種類および、種類ごとの特徴、用途、飼育上の注意点を知る。ハムスターは種類によって性格が異なるため、種類ごとの特徴をしっかり理解する。	
		5.次コマとの関係	ハムスターの飼育に必要な用具に進む。	
28	エキゾチックアニマル⑤ ハムスター②	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコ以外のコンパニオンアニマルの適切な飼育ができるようになるために、ペットとして飼育されている主なエキゾチックアニマルの飼育方法について学習する。	
		2.コマ主題	ハムスターの飼育に必要な用具について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	ハムスターの飼育に必要な用具	
		4.コマ主題細目深度	ハムスターの飼育に必要な施設・機材・用具について学ぶ。ハムスターの生態や習性を考慮し、飼育する際に必要な施設・機材・用具を準備し、正しく使用できるようになる。特に脱走には注意する。	
		5.次コマとの関係	ハムスターの日常管理に必要な知識を習得する。	
29	エキゾチックアニマル⑥ ハムスター③	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコ以外のコンパニオンアニマルの適切な飼育ができるようになるために、ペットとして飼育されている主なエキゾチックアニマルの飼育方法について学習する。	
		2.コマ主題	ハムスターの飼育に必要な栄養管理・環境整備・衛生管理の方法を理解し、ハンドリング方法を知る。	
		3.コマ主題細目	①食餌の与え方 ②排泄物の処理 ③飼育上の注意 ④ハンドリング	
		4.コマ主題細目深度	①ハムスターの栄養管理に必要な知識を習得する。ハムスターの食性を理解し、主食として与えるもの、適切な与え方を学ぶ。②排泄物の処理方法について学ぶ。③ハムスターの生態を振り返り、飼育する上で注意することを覚える。運動ができる環境を整えることが重要である。④ハムスターの適切な抱き方を習得する。	
		5.次コマとの関係	モルモットの飼育に進む。	
30	エキゾチックアニマル⑦ モルモット①	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコ以外のコンパニオンアニマルの適切な飼育ができるようになるために、ペットとして飼育されている主なエキゾチックアニマルの飼育方法について学習する。	
		2.コマ主題	モルモットの種類とその特徴について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	モルモットの種類とその特徴	
		4.コマ主題細目深度	モルモットの生態、習性、種類および、種類ごとの特徴、用途、飼育上の注意点を知る。モルモットは臆病な性格であることを理解する。	
		5.次コマとの関係	モルモットの飼育に必要な用具に進む。	
31	エキゾチックアニマル⑧ モルモット②	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコ以外のコンパニオンアニマルの適切な飼育ができるようになるために、ペットとして飼育されている主なエキゾチックアニマルの飼育方法について学習する。	
		2.コマ主題	モルモットの飼育に必要な用具について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	モルモットの飼育に必要な用具	
		4.コマ主題細目深度	モルモットの飼育に必要な施設・機材・用具について理解する。モルモットの性格や習性を考慮し、飼育する際に必要な施設・機材・用具を準備し、正しく使用できるようになる。	
		5.次コマとの関係	モルモットの日常管理に必要な知識を習得する。	

32	エキゾチックアニマル⑨ モルモット③	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコ以外のコンパニオンアニマルの適切な飼育ができるようになるために、ペットとして飼育されている主なエキゾチックアニマルの飼育方法について学習する。	
		2.コマ主題	モルモットの飼育に必要な栄養管理・環境整備・衛生管理の方法を理解し、ハンドリング方法を知る。	
		3.コマ主題細目	①食餌の与え方 ②排泄物の処理 ③飼育上の注意 ④ハンドリング	
		4.コマ主題細目深度	①モルモットの栄養管理に必要な知識を習得する。モルモットの食性を理解し、主食として与えるもの、適切な与え方を学ぶ。②排泄物の処理方法について学ぶ。モルモットは排泄物の量が多いため、まめに処理することが衛生上重要である。③モルモットの生態を振り返り、飼育する上で注意することを覚える。臆病な性格を考慮し、隠れる場所を整えることが重要である。④モルモットの適切な抱き方を習得する。	
		5.次コマとの関係	ウサギ・ハムスター・モルモットの飼育を実践する。	
33	エキゾチックアニマル⑩ ウサギ・ハムスター・モルモット飼育実習①	1.シラバスとの関係	これまで学んだウサギ・ハムスター・モルモットの飼育方法を実践し、実際に動物を世話することで動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。	
		2.コマ主題	ウサギ・ハムスター・モルモットの飼育を実践する。	
		3.コマ主題細目	ウサギ・ハムスター・モルモットの飼育	
		4.コマ主題細目深度	実際にウサギ・ハムスター・モルモットのいずれかの飼育を行う。これまで学んだ環境整備・衛生管理・栄養管理、ハンドリングを実践し、適正飼養ができるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き、ウサギ・ハムスター・モルモットの日常の飼育管理を行う。	
34	エキゾチックアニマル⑪ ウサギ・ハムスター・モルモット飼育実習②	1.シラバスとの関係	これまで学んだウサギ・ハムスター・モルモットの飼育方法を実践し、実際に動物を世話することで動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。	
		2.コマ主題	ウサギ・ハムスター・モルモットの飼育を実践する。	
		3.コマ主題細目	ウサギ・ハムスター・モルモットの飼育	
		4.コマ主題細目深度	前回に引き続き、ウサギ・ハムスター・モルモットのいずれかの飼育を行う。前回のできなかったところや反省をふまえ、環境整備・衛生管理・栄養管理、ハンドリングを実践し、適正飼養ができるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き、ウサギ・ハムスター・モルモットの日常の飼育管理を行う。	
35	エキゾチックアニマル⑫ ウサギ・ハムスター・モルモット飼育実習③	1.シラバスとの関係	これまで学んだウサギ・ハムスター・モルモットの飼育方法を実践し、実際に動物を世話することで動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。	
		2.コマ主題	ウサギ・ハムスター・モルモットの飼育を実践する。	
		3.コマ主題細目	ウサギ・ハムスター・モルモットの飼育	
		4.コマ主題細目深度	前回に引き続き、ウサギ・ハムスター・モルモットのいずれかの飼育を行う。前回のできなかったところや反省をふまえ、環境整備・衛生管理・栄養管理、ハンドリングを実践し、適正飼養ができるようになる。	
		5.次コマとの関係	フェレットの飼育に進む。	
36	エキゾチックアニマル⑬ フェレット①	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコ以外のコンパニオンアニマルの適切な飼育ができるようになるために、ペットとして飼育されている主なエキゾチックアニマルの飼育方法について学習する。	
		2.コマ主題	フェレットの種とその特徴について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	フェレットの種とその特徴	
		4.コマ主題細目深度	フェレットの生態、習性、種類および、種類ごとの特徴、用途、飼育上の注意点を知る。ショップで販売されているフェレットはほとんどが去勢・不妊・臭腺除去済みであることを知る。	
		5.次コマとの関係	フェレットの飼育に必要な用具に進む。	
37	エキゾチックアニマル⑭ フェレット②	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコ以外のコンパニオンアニマルの適切な飼育ができるようになるために、ペットとして飼育されている主なエキゾチックアニマルの飼育方法について学習する。	
		2.コマ主題	フェレットの飼育に必要な用具について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	フェレットの飼育に必要な用具	
		4.コマ主題細目深度	フェレットの飼育に必要な施設・機材・用具について理解する。フェレットの性格や習性を考慮し、飼育する際に必要な施設・機材・用具を準備し、正しく使用できるようになる。フェレットは寝床としてハンモックを使用することを知る。また、脱走に注意する。	
		5.次コマとの関係	フェレットの日常管理に必要な知識を習得する。	

38	エキゾチックアニマル⑮ フェレット③	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコ以外のコンパニオンアニマルの適切な飼育ができるようになるために、ペットとして飼育されている主なエキゾチックアニマルの飼育方法について学習する。	
		2.コマ主題	フェレットの飼育に必要な栄養管理・環境整備・衛生管理の方法を理解し、ハンドリング方法を知る。	
		3.コマ主題細目	①食餌の与え方 ②排泄物の処理 ③飼育上の注意 ④ハンドリング	
		4.コマ主題細目深度	①フェレットの栄養管理に必要な知識を習得する。フェレットの食性を理解し、主食として与えるもの、適切な与え方を学ぶ。②排泄物の処理方法について学ぶ。③フェレットの生態を振り返り、飼育する上で注意することを覚える。好奇心が旺盛なため、遊びの時間を設けることが重要である。また、犬のジステンパーとヒトのインフルエンザに感受性があることを知る。④フェレットの適切な抱き方を習得する。	
		5.次コマとの関係	フェレットの飼育を実践する。	
39	エキゾチックアニマル⑯ フェレット飼育実習①	1.シラバスとの関係	これまで学んだフェレットの飼育方法を実践し、実際に動物を世話することで動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。	
		2.コマ主題	フェレットの飼育を実践する。	
		3.コマ主題細目	フェレットの飼育	
		4.コマ主題細目深度	実際にフェレットの飼育を行う。これまで学んだ環境整備・衛生管理・栄養管理、ハンドリングを実践し、適正飼養ができるようになる。	
		5.次コマとの関係	小鳥の飼育に進む。	
40	エキゾチックアニマル⑱ 小鳥①	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコ以外のコンパニオンアニマルの適切な飼育ができるようになるために、ペットとして飼育されている主なエキゾチックアニマルの飼育方法について学習する。	
		2.コマ主題	ペットとして飼われている小鳥の代表として、セキセイインコの種とその特徴について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	セキセイインコの種とその特徴	
		4.コマ主題細目深度	セキセイインコの生態、習性、種類および、種類ごとの特徴、用途、飼育上の注意点を知る。雌雄鑑別の方法も知る。	
		5.次コマとの関係	セキセイインコの飼育に必要な用具に進む。	
41	エキゾチックアニマル⑰ 小鳥②	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコ以外のコンパニオンアニマルの適切な飼育ができるようになるために、ペットとして飼育されている主なエキゾチックアニマルの飼育方法について学習する。	
		2.コマ主題	セキセイインコの飼育に必要な用具について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	セキセイインコの飼育に必要な用具	
		4.コマ主題細目深度	セキセイインコの飼育に必要な施設・機材・用具について理解する。セキセイインコの性格や習性を考慮し、飼育する際に必要な施設・機材・用具を準備し、正しく使用できるようになる。止まり木、巣箱の必要性を知る。	
		5.次コマとの関係	セキセイインコの日常管理に必要な知識を習得する。	
42	エキゾチックアニマル⑱ 小鳥③	1.シラバスとの関係	イヌ、ネコ以外のコンパニオンアニマルの適切な飼育ができるようになるために、ペットとして飼育されている主なエキゾチックアニマルの飼育方法について学習する。	
		2.コマ主題	セキセイインコの飼育に必要な栄養管理・環境整備・衛生管理の方法を理解し、ハンドリング方法を知る。	
		3.コマ主題細目	①食餌の与え方 ②排泄物の処理 ③飼育上の注意 ④ハンドリング	
		4.コマ主題細目深度	①セキセイインコの栄養管理に必要な知識を習得する。セキセイインコの食性を理解し、主食として与えるもの、適切な与え方を学ぶ。②排泄物の処理方法について学ぶ。③セキセイインコの生態を振り返り、飼育する上で注意することを覚える。特に脱走防止策を考える。④セキセイインコの適切な抱き方を習得する。	
		5.次コマとの関係	セキセイインコの飼育を実践する。	
43	エキゾチックアニマ⑲ 小鳥飼育実習①	1.シラバスとの関係	これまで学んだセキセイインコの飼育方法を実践し、実際に動物を世話することで動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を養う。	
		2.コマ主題	セキセイインコの飼育を実践する。	
		3.コマ主題細目	セキセイインコの飼育	
		4.コマ主題細目深度	実際にセキセイインコの飼育を行う。これまで学んだ環境整備・衛生管理・栄養管理、ハンドリングを実践し、適正飼養ができるようになる。	
		5.次コマとの関係	家畜の飼育に進む。	
44	家畜について ウシ・ウマ	1.シラバスとの関係	産業動物として飼育されている主な家畜の飼育方法について学習し、「5つの自由」を遵守した飼育方法が指導できるようになる。	
		2.コマ主題	家畜（ウシ、ウマ）とその特徴について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	家畜（ウシ、ウマ）とその特徴	
		4.コマ主題細目深度	産業動物の社会的役割を考える。家畜（ウシ、ウマ）の生態、習性、種類およびその特徴、用途、飼育上の注意点を知る。	
		5.次コマとの関係	その他の家畜（ブタ、ニワトリ）の飼育に進む。	

動物飼育実習Ⅰ

45	家畜について ブタ・ニワトリ	1.シラバスとの関係	産業動物として飼育されている主な家畜の飼育方法について学習し、「5つの自由」を遵守した飼育方法が指導できるようになる。	
		2.コマ主題	家畜（ブタ、ニワトリ）とその特徴について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	家畜（ブタ、ニワトリ）とその特徴	
		4.コマ主題細目深度	家畜（ブタ、ニワトリ）の生態、習性、種類およびその特徴、用途、飼育上の注意点を知る。	
		5.次コマとの関係	動物飼育実習Ⅱに進む。	

動物飼育実習Ⅱ－1

学科	動物看護系学科	シラバス（概要）
コース		実際に動物の飼養管理をすることにより種類による特徴を知り、動物の心身の健康の保持に努める。また、繰り返し実践することで動物の観察力を養うとともに、他の人と協力して飼育作業を行う協働性を身につける。さらに、動物の個性を見極め、任された作業を一人でやり遂げる責任感やチームを意識したコミュニケーション力を習得する。感染症や誤食などの事故が発生した場合に必要な予防医療や衛生管理、環境整備を実践し危機管理能力を養い、飼主指導に活用する。
履修条件	動物飼育実習Ⅰを履修すること・動物飼育実習Ⅱ-1を先行すること	
ユニット		
科目名	動物飼育実習Ⅱ－1	
単位	1（Ⅱ-1・2合わせて2単位）	
履修時間	45時間（Ⅱ-1・2合わせて90時間）	
回数	45回（Ⅱ-1・2合わせて90回）	
授業形態	実習	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	実技試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	動物看護実習テキスト(インターズー)	

コマシラバス				
50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	事前準備①	1.シラバスとの関係	飼育に取り掛かる前の準備不足で起こりうるトラブルを予測し、事前準備の重要性を理解する。	
		2.コマ主題	飼育に取り掛かる前にしておくことを確認する。	
		3.コマ主題細目	動物飼育前の準備	
		4.コマ主題細目深度	動物を飼育する際起こりうるトラブルを予測し、飼育担当者が準備するべきことを挙げる。特に病気を持ち込まないようにするため、自分の体調管理、衣類の衛生管理や交換、ペットの防疫の重要性を知る	
		5.次コマとの関係	引き続き、事前準備について確認する。	
2	事前準備②	1.シラバスとの関係	飼育に取り掛かる前の準備不足で起こりうるトラブルを予測し、事前準備の重要性を理解する。	
		2.コマ主題	前回に引き続き、飼育に取り掛かる前にしておくことを確認する。	
		3.コマ主題細目	情報収集と共有の重要性	
		4.コマ主題細目深度	飼育する動物の種別・個体別特徴の理解と個体識別ができているかを確認する。これまでの飼育で得られた情報を整理し、今後の飼育で得られた情報を正確に伝えることができるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き、事前準備について確認する。	
3	事前準備③	1.シラバスとの関係	飼育に取り掛かる前の準備不足で起こりうるトラブルを予測し、事前準備の重要性を理解する。	
		2.コマ主題	前回に引き続き、飼育に取り掛かる前にしておくことを確認する。	
		3.コマ主題細目	飼育環境の整備	
		4.コマ主題細目深度	これまでの飼育実習で使用した、飼育作業に必要な用具類を挙げる。それぞれの用具がなぜ必要か、使用する際の注意点などを話し合い、正しく使用できるかを確認する。また、正しく使用しなかった場合の危険性についても話し合う。	
		5.次コマとの関係	引き続き、事前準備について確認する。	
4	事前準備④	1.シラバスとの関係	飼育に取り掛かる前の準備不足で起こりうるトラブルを予測し、事前準備の重要性を理解する。	
		2.コマ主題	前回に引き続き、飼育に取り掛かる前にしておくことを確認する。	
		3.コマ主題細目	特別なケア	
		4.コマ主題細目深度	治療や投薬の必要な動物についての情報を共有する。まずは現在の状況を確認し、治療や投薬の準備やタイミングを考え、適切に処置できるようになる。また、病状が悪化しないような環境を考え、異常に気づいた際にはすぐに獣医師に報告することを忘れない。	
		5.次コマとの関係	飼育時の留意点を確認する。	
5	飼育時の留意点①	1.シラバスとの関係	動物の飼育で留意することを確認し、安全で快適な環境が作れるようになる。	
		2.コマ主題	飼育時に気を付けることを確認する。	
		3.コマ主題細目	飼育時に気を付けること	
		4.コマ主題細目深度	飼育施設への入退室・飼育ケージの開閉に注意すること、動物を観察する際のチェックポイントを確認する。動物が脱走したり、事故を起こしたりしないためには、どのようなことに注意すればよいのかを話し合う。	
		5.次コマとの関係	引き続き、飼育時の留意点を確認する。	
6	飼育時の留意点①	1.シラバスとの関係	動物の飼育で留意することを確認し、安全で快適な環境が作れるようになる。	
		2.コマ主題	前回に引き続き、飼育時に気を付けることを確認する。	
		3.コマ主題細目	飼育時に気を付けること	
		4.コマ主題細目深度	飼育時に気が付いたこと、計測した数値をメモし、記録することの大切さを理解する。数値はグラフ等を用いて変化を可視化することの重要性を知る。これらの記録がどのようなときに役立つかを確認する。また、異常な変化に気づいた場合の報告も忘れない。	
		5.次コマとの関係	実際に協働しながら動物を飼育する	

7	協働で質の高い飼育を目指す①	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を二人で協力分担して行う。	
		4.コマ主題細目深度	これまで学んだ飼育管理を二人で協力分担して行う。お互いの動きを把握し、手順どおりに効率よく動けるようにコミュニケーションを取りながら実践する。動物には愛情を持って接し、わからないところや異常に気づいたところは必ず確認し合う。正常と異常を鑑別し、教員に報告する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、二人で動物の飼育を行う。	
8	協働で質の高い飼育を目指す②	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を二人で協力分担して行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや、反省点、ペアの学生や教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。前回の記録と見比べ、少しの変化に気づけるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き、二人で動物の飼育を行う。	
9	協働で質の高い飼育を目指す③	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を二人で協力分担して行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや、反省点、ペアの学生や教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。前回の記録と見比べ、少しの変化に気づけるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き、二人で動物の飼育を行う。	
10	協働で質の高い飼育を目指す④	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を二人で協力分担して行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや、反省点、ペアの学生や教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。前回の記録と見比べ、少しの変化に気づけるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き、二人で動物の飼育を行う。	
11	協働で質の高い飼育を目指す⑤	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を二人で協力分担して行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや、反省点、ペアの学生や教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。前回の記録と見比べ、少しの変化に気づけるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き、二人で動物の飼育を行う。	
12	協働で質の高い飼育を目指す⑥	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を二人で協力分担して行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや、反省点、ペアの学生や教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。前回の記録と見比べ、少しの変化に気づけるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き、二人で動物の飼育を行う。	
13	協働で質の高い飼育を目指す⑦ まとめ	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を二人で協力分担して行う。	
		4.コマ主題細目深度	本テーマでの反省点を挙げ、改善方法や、到達目標を設定することができる。	
		5.次コマとの関係	ペアを変え、動物福祉を意識した飼育実習に進む。	

動物飼育実習Ⅱ－1

14	動物福祉を意識し質の高い飼育を目指す①	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	前テーマとはペアを変え、動物の飼育を二人で協力分担して行う。	
		4.コマ主題細目深度	前テーマでの反省や改善点を考慮しながら、動物の飼育を二人で協力分担して行い、到達目標を達成する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、二人で動物の飼育を行う。	
15	動物福祉を意識し質の高い飼育を目指す②	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を二人で協力分担して行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや、反省点、ペアの学生や教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。前回の記録と見比べ、少しの変化に気づけるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き、二人で動物の飼育を行う。	
16	動物福祉を意識し質の高い飼育を目指す③	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を二人で協力分担して行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや、反省点、ペアの学生や教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。前回の記録と見比べ、少しの変化に気づけるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き、二人で動物の飼育を行う。	
17	動物福祉を意識し質の高い飼育を目指す④	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を二人で協力分担して行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや、反省点、ペアの学生や教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。前回の記録と見比べ、少しの変化に気づけるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き、二人で動物の飼育を行う。	
18	動物福祉を意識し質の高い飼育を目指す⑤	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を二人で協力分担して行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや、反省点、ペアの学生や教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。前回の記録と見比べ、少しの変化に気づけるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き、二人で動物の飼育を行う。	
19	動物福祉を意識し質の高い飼育を目指す⑥	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を二人で協力分担して行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや、反省点、ペアの学生や教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。前回の記録と見比べ、少しの変化に気づけるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き、二人で動物の飼育を行う。	
20	動物福祉を意識し質の高い飼育を目指す⑦ まとめ	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を二人で協力分担して行う。	
		4.コマ主題細目深度	本テーマでの反省点を挙げ、改善方法や、到達目標を設定することができる。飼育実習1と比べて、改善できたところやできなかったところを挙げ、次の目標を立てる。	
		5.次コマとの関係	ペアを変え、正確性と迅速性を意識した飼育実習に進む。	

動物飼育実習Ⅱ－1

21	正確性と迅速性を意識し質の高い飼育を目指す①	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	前テーマとはペアを変え、動物の飼育を二人で協力分担して行う。	
		4.コマ主題細目深度	飼育実習2での反省や改善点を考慮しながら、動物の飼育を二人で協力分担して行い、到達目標を達成する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、二人で動物の飼育を行う。	
22	正確性と迅速性を意識し質の高い飼育を目指す②	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を二人で協力分担して行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや、反省点、ペアの学生や教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。前回の記録と見比べ、少しの変化に気づけるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き、二人で動物の飼育を行う。	
23	正確性と迅速性を意識し質の高い飼育を目指す③	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を二人で協力分担して行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや、反省点、ペアの学生や教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。前回の記録と見比べ、少しの変化に気づけるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き、二人で動物の飼育を行う。	
24	正確性と迅速性を意識し質の高い飼育を目指す④	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を二人で協力分担して行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや、反省点、ペアの学生や教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。前回の記録と見比べ、少しの変化に気づけるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き、二人で動物の飼育を行う。	
25	正確性と迅速性を意識し質の高い飼育を目指す⑤	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を二人で協力分担して行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや、反省点、ペアの学生や教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。前回の記録と見比べ、少しの変化に気づけるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き、二人で動物の飼育を行う。	
26	正確性と迅速性を意識し質の高い飼育を目指す⑥	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を二人で協力分担して行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや、反省点、ペアの学生や教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。前回の記録と見比べ、少しの変化に気づけるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き、二人で動物の飼育を行う。	
27	正確性と迅速性を意識した質の高い飼育を目指す⑦ まとめ	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を二人で協力分担して行う。	
		4.コマ主題細目深度	本テーマでの反省点を挙げ、改善方法や、到達目標を設定することができる。飼育実習2と比べて、改善できたところやできなかったところを挙げ、次の目標を立てる。	
		5.次コマとの関係	チームを意識した動物飼育に進む。	

28	チームを意識した高い飼育を目指す①	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	実際に動物を班で協力分担して行う。	
		4.コマ主題細目深度	班で協力分担し、動物の飼育を実践する。人数が多くなることで、どのような利点、欠点があるかを実感する。他の班の飼育と比較検討し、お互いの反省点を挙げ、改善方法や、到達目標を設定する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、班で動物を飼育する。	
29	チームを意識した高い飼育を目指す②	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	実際に動物を班で協力分担して行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや、反省点、同じ班の学生や教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。	
		5.次コマとの関係	危機管理について学ぶ。	
30	危機管理から質の高い飼育を目指す① 事例検討	1.シラバスとの関係	動物の飼育時に起こりうるトラブルの対処法や予防策を考え、適正飼育と飼主指導に活かす。	
		2.コマ主題	飼育時の危機管理について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	事例検討	
		4.コマ主題細目深度	飼育時に発生したり遭遇したトラブルについて事例検討を行い、対策や予防策を考える。これまでの飼育管理中に発生したトラブルを班ごとに挙げる。それぞれでどう対処したか、予防するためにはどうすればよいのかを考え、話し合う。	
		5.次コマとの関係	引き続き、危機管理について学ぶ。	
31	危機管理から質の高い飼育を目指す② 事例検討	1.シラバスとの関係	動物の飼育時に起こりうるトラブルの対処法や予防策を考え、適正飼育と飼主指導に活かす。	
		2.コマ主題	前回に引き続き、飼育時の危機管理について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	事例検討	
		4.コマ主題細目深度	飼育時に発生したり遭遇したトラブルについて事例検討を行い、対策や予防策を考える。これまでの飼育管理中に発生したトラブルを班ごとに挙げる。それぞれでどう対処したか、予防するためにはどうすればよいのかを考え、話し合う。	
		5.次コマとの関係	コミュニケーション力を活かした飼育実習に進む。	
32	コミュニケーション力を活かし質の高い飼育を目指す①	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	班のメンバーを変え、実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	実際に動物を班で協力分担して行う。	
		4.コマ主題細目深度	班で協力分担し、動物の飼育を実践する。班のメンバーが変わっても、スムーズに飼育管理するためにはコミュニケーションが重要であることを実感する。いままで通した反省や改善点、他の班とのディスカッションでの反省や改善点、危機管理方法について理解し、到達目標を設定する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、班で動物を飼育する。	
33	コミュニケーション力を活かし質の高い飼育を目指す②	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	実際に動物を班で協力分担して行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや、反省点、同じ班の学生や教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き、班で動物を飼育する。	
34	コミュニケーション力を活かし質の高い飼育を目指す③	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	実際に動物を班で協力分担して行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや、反省点、同じ班の学生や教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き、班で動物を飼育する。	

動物飼育実習Ⅱ－1

35	コミュニケーション力を活かし質の高い飼育を目指す④	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	実際に動物を班で協力分担して行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや、反省点、同じ班の学生や教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き、班で動物を飼育する。	
36	コミュニケーション力を活かし質の高い飼育を目指す⑤	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	実際に動物を班で協力分担して行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや、反省点、同じ班の学生や教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き、班で動物を飼育する。	
37	コミュニケーション力を活かし質の高い飼育を目指す⑥	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	実際に動物を班で協力分担して行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや、反省点、同じ班の学生や教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き、班で動物を飼育する。	
38	コミュニケーション力を活かし質の高い飼育を目指す⑦ まとめ	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	実際に動物を班で協力分担して行う。	
		4.コマ主題細目深度	本テーマでの反省点を挙げ、改善方法や、到達目標を設定することができる。飼育実習3と比べて、改善できたところやできなかったところを挙げ、次の目標を立てる。	
		5.次コマとの関係	再び二人で共同しながら飼育実習を行う。	
39	情報の共有から質の高い飼育を目指す①	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	再びペアになり、動物の飼育を二人で協力分担して行う。	
		4.コマ主題細目深度	ここまで学んだことや反省点を考慮しながら、より正確、丁寧、迅速に動物の飼育ができるかを実践する。班からペアにもどったことにより、どのような変化があったかを話し合い、新たな到達目標を設定する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、二人で動物を飼育する。	
40	情報の共有から質の高い飼育を目指す②	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を二人で協力分担して行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや、反省点、ペアの学生や教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。前回の記録と見比べ、少しの変化に気づけるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き、二人で動物の飼育を行う。	
41	情報の共有から質の高い飼育を目指す③	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を二人で協力分担して行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや、反省点、ペアの学生や教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。前回の記録と見比べ、少しの変化に気づけるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き、二人で動物の飼育を行う。	

42	情報の共有から質の高い飼育を目指す④	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を二人で協力分担して行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや、反省点、ペアの学生や教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。前回の記録と見比べ、少しの変化に気づけるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き、二人で動物の飼育を行う。	
43	情報の共有から質の高い飼育を目指す⑤	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を二人で協力分担して行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや、反省点、ペアの学生や教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。前回の記録と見比べ、少しの変化に気づけるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き、二人で動物の飼育を行う。	
44	情報の共有から質の高い飼育を目指す⑥	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を二人で協力分担して行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや、反省点、ペアの学生や教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。前回の記録と見比べ、少しの変化に気づけるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き、二人で動物の飼育を行う。	
45	情報の共有から質の高い飼育を目指す⑦ まとめ	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を二人で協力分担して行う。	
		4.コマ主題細目深度	飼育実習5での反省点を挙げ、改善方法や、到達目標を設定することができる。飼育実習4と比べて、改善できたところやできなかったところを挙げ、次の目標を立てる。	
		5.次コマとの関係	動物飼育実習Ⅱ-2に進む	

動物飼育実習Ⅱ－2

学科	動物看護系学科	シラバス（概要）
コース		実際に動物の飼養管理をすることにより種類による特徴を知り、動物の心身の健康の保持に努める。また、繰り返し実践することで動物の観察力を養うとともに、他の人と協力して飼育作業を行う協働性を身につける。さらに、動物の個性を見極め、任された作業を一人でやり遂げる責任感やチームを意識したコミュニケーション力を習得する。感染症や誤食などの事故が発生した場合に必要な予防医療や衛生管理、環境整備を実践し危機管理能力を養い、飼主指導に活用する。
履修条件	動物飼育実習Ⅱ-1を履修すること	
ユニット		
科目名	動物飼育実習Ⅱ-2	
単位	1（Ⅱ-1・2合わせて2単位）	
履修時間	45時間（Ⅱ-1・2合わせて90時間）	
回数	45回（Ⅱ-1・2合わせて90回）	
授業形態	実習	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	実技試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	動物看護実習テキスト(インターズー)	

コマシラバス				
50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	個人のスキルアップから質の高い飼育を目指す①	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	二人で行っていた飼育を一人で行うことができる。飼育実習1～5での反省を踏まえ、一人で担当動物の飼育管理を行う。飼育管理の流れを覚え、正確、丁寧、迅速にすすめることができるようになる。	
		5.次コマとの関係	引き続き、一人で担当動物の飼育管理を行う。	
2	個人のスキルアップから質の高い飼育を目指す②	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや時間がかかったところ、反省点、教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。到達目標を設定し、今の自分に足りないことを補えるように努力する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、一人で担当動物の飼育管理を行う。	
3	個人のスキルアップから質の高い飼育を目指す③	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや時間がかかったところ、反省点、教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。到達目標を設定し、今の自分に足りないことを補えるように努力する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、一人で担当動物の飼育管理を行う。	
4	個人のスキルアップから質の高い飼育を目指す④	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや時間がかかったところ、反省点、教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。到達目標を設定し、今の自分に足りないことを補えるように努力する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、一人で担当動物の飼育管理を行う。	
5	個人のスキルアップから質の高い飼育を目指す⑤	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや時間がかかったところ、反省点、教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。到達目標を設定し、今の自分に足りないことを補えるように努力する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、一人で担当動物の飼育管理を行う。	

6	個人のスキルアップから質の高い飼育を目指す⑥	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや時間がかかったところ、反省点、教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。到達目標を設定し、今の自分に足りないことを補えるように努力する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、一人で担当動物の飼育管理を行う。	
7	個人のスキルアップから質の高い飼育を目指す⑦ まとめ	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	本テーマでの反省点を挙げ、改善方法や、到達目標を設定する。一人で飼育管理をする際の注意点を挙げ、誰が飼育しても同じような環境が作れるようにする。	
		5.次コマとの関係	引き続き、一人で担当動物の飼育管理を行う。	
8	観察力アップから質の高い飼育を目指す①	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	個人スキルアップでの反省や改善点を考慮しながら、動物の飼育を一人で行い、到達目標を達成する。前回出た注意点を踏まえ、誰がどの動物を担当しても、同じ環境が作れるようにする。	
		5.次コマとの関係	引き続き、一人で担当動物の飼育管理を行う。	
9	観察力アップから質の高い飼育を目指す②	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや時間がかかったところ、反省点、教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。到達目標を設定し、今の自分に足りないことを補えるように努力する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、一人で担当動物の飼育管理を行う。	
10	観察力アップから質の高い飼育を目指す③	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや時間がかかったところ、反省点、教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。到達目標を設定し、今の自分に足りないことを補えるように努力する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、一人で担当動物の飼育管理を行う。	
11	観察力アップから質の高い飼育を目指す④	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや時間がかかったところ、反省点、教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。到達目標を設定し、今の自分に足りないことを補えるように努力する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、一人で担当動物の飼育管理を行う。	
12	観察力アップから質の高い飼育を目指す⑤	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや時間がかかったところ、反省点、教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。到達目標を設定し、今の自分に足りないことを補えるように努力する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、一人で担当動物の飼育管理を行う。	

動物飼育実習Ⅱ－2

13	観察力アップから質の高い飼育を目指す⑥	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや時間がかかったところ、反省点、教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。到達目標を設定し、今の自分に足りないことを補えるように努力する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、一人で担当動物の飼育管理を行う。	
14	観察力アップから質の高い飼育を目指す⑦ まとめ	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	本テーマでの反省点を挙げ、改善方法や、到達目標を設定する。一人で飼育管理をする際の注意点を挙げ、誰が飼育しても同じような環境が作れるようにする。	
		5.次コマとの関係	引き続き、一人で担当動物の飼育管理を行う。	
15	自己評価から質の高い飼育を目指す①	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	観察力アップでの反省や改善点を考慮しながら、動物の飼育を一人で行い、到達目標を達成する。前回出た注意点を踏まえ、誰がどの動物を担当しても、同じ環境が作れるようにする。	
		5.次コマとの関係	引き続き、一人で担当動物の飼育管理を行う。	
16	自己評価から質の高い飼育を目指す②	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや時間がかかったところ、反省点、教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。到達目標を設定し、今の自分に足りないことを補えるように努力する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、一人で担当動物の飼育管理を行う。	
17	自己評価から質の高い飼育を目指す③	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや時間がかかったところ、反省点、教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。到達目標を設定し、今の自分に足りないことを補えるように努力する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、一人で担当動物の飼育管理を行う。	
18	自己評価から質の高い飼育を目指す④	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや時間がかかったところ、反省点、教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。到達目標を設定し、今の自分に足りないことを補えるように努力する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、一人で担当動物の飼育管理を行う。	
19	自己評価から質の高い飼育を目指す⑤	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや時間がかかったところ、反省点、教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。到達目標を設定し、今の自分に足りないことを補えるように努力する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、一人で担当動物の飼育管理を行う。	

動物飼育実習Ⅱ－2

20	自己評価から質の高い飼育を目指す⑥	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや時間がかかったところ、反省点、教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。到達目標を設定し、今の自分に足りないことを補えるように努力する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、一人で担当動物の飼育管理を行う。	
21	自己評価から質の高い飼育を目指す⑦ まとめ	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につ	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	本テーマでの反省点を挙げ、改善方法や、到達目標を設定する。一人で飼育管理をする際の注意点を挙げ、誰が飼育しても同じような環境が作れるようにする。	
		5.次コマとの関係	引き続き、一人で担当動物の飼育管理を行う。	
22	危機管理を実践に活かし質の高い飼育を目指す①	1.シラバスとの関係	動物の飼育時に起こりうるトラブルの対処法や予防策を考え、適正飼育と飼主指導に活かす。	
		2.コマ主題	飼育時の危機管理について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	事例検討	
		4.コマ主題細目深度	飼育時に発生したり遭遇したトラブルについて事例検討を行い、対策や予防策を考える。これまでの飼育管理中に発生したトラブルを班ごとに挙げる。それぞれでどう対処したか、予防するためにはどうすればよいのかを考え、話し合う。	
		5.次コマとの関係	引き続き、危機管理を実践に活かす	
23	危機管理を実践に活かし質の高い飼育を目指す②	1.シラバスとの関係	動物の飼育時に起こりうるトラブルの対処法や予防策を考え、適正飼育と飼主指導に活かす。	
		2.コマ主題	前回に引き続き、飼育時の危機管理について学ぶ。	
		3.コマ主題細目	事例検討	
		4.コマ主題細目深度	飼育時に発生したり遭遇したトラブルについて事例検討を行い、対策や予防策を考える。これまでの飼育管理中に発生したトラブルを班ごとに挙げる。それぞれでどう対処したか、予防するためにはどうすればよいのかを考え、話し合う。	
		5.次コマとの関係	引き続き危機管理を実践に活かす	
24	危機管理を実践に活かし質の高い飼育を目指す③	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	飼育実習8までの反省や改善点、他の人とのディスカッションでの反省や改善点、危機管理方法について理解し、一人で飼育ができる。	
		5.次コマとの関係	引き続き危機管理を実践に活かす	
25	危機管理を実践に活かし質の高い飼育を目指す④	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや時間がかかったところ、反省点、教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。到達目標を設定し、今の自分に足りないことを補えるように努力する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、危機管理を実践に活かす	
26	危機管理を実践に活かし質の高い飼育を目指す⑤	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや時間がかかったところ、反省点、教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。到達目標を設定し、今の自分に足りないことを補えるように努力する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、危機管理を実践に活かす	

動物飼育実習Ⅱ－2

27	危機管理を実践に活かし質の高い飼育を目指す⑥	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや時間がかかったところ、反省点、教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。到達目標を設定し、今の自分に足りないことを補えるように努力する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、危機管理を実践に活かす	
28	危機管理を実践に活かし質の高い飼育を目指す⑦	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや時間がかかったところ、反省点、教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。到達目標を設定し、今の自分に足りないことを補えるように努力する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、危機管理を実践に活かす	
29	危機管理を実践に活かし質の高い飼育を目指す⑧	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや時間がかかったところ、反省点、教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。到達目標を設定し、今の自分に足りないことを補えるように努力する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、危機管理を実践に活かす	
30	危機管理を実践に活かし質の高い飼育を目指す⑨ まとめ	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	本テーマでの反省点を挙げ、改善方法や、到達目標を設定する。一人で飼育管理をする際の注意点を挙げ、誰が飼育しても同じような環境が作れるようにする。	
		5.次コマとの関係	入院管理を想定した飼育を目指す	
31	入院管理を想定し質の高い飼育を目指す①	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	危機管理を実践に活かした飼育までの反省や改善点、他の人とのディスカッションでの反省や改善点、危機管理方法について理解し、一人で飼育ができる。	
		5.次コマとの関係	引き続き、一人で担当動物の飼育管理を行う。	
32	入院管理を想定し質の高い飼育を目指す②	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや時間がかかったところ、反省点、教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。到達目標を設定し、今の自分に足りないことを補えるように努力する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、一人で担当動物の飼育管理を行う。	
33	入院管理を想定し質の高い飼育を目指す③	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや時間がかかったところ、反省点、教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。到達目標を設定し、今の自分に足りないことを補えるように努力する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、一人で担当動物の飼育管理を行う。	

34	入院管理を想定し質の高い飼育を目指す④	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや時間がかかったところ、反省点、教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。到達目標を設定し、今の自分に足りないことを補えるように努力する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、一人で担当動物の飼育管理を行う。	
35	入院管理を想定し質の高い飼育を目指す⑤	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや時間がかかったところ、反省点、教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。到達目標を設定し、今の自分に足りないことを補えるように努力する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、一人で担当動物の飼育管理を行う。	
36	入院管理を想定し質の高い飼育を目指す⑥	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや時間がかかったところ、反省点、教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。到達目標を設定し、今の自分に足りないことを補えるように努力する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、一人で担当動物の飼育管理を行う。	
37	入院管理を想定し質の高い飼育を目指す⑦ まとめ	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	本テーマでの反省点を挙げ、改善方法や、到達目標を設定する。一人で飼育管理をする際の注意点を挙げ、誰が飼育しても同じような環境が作れるようにする。	
		5.次コマとの関係	飼育実習10に進む。	
38	動物看護師としての倫理観を備えた質の高い飼育を目指す①	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	入院管理を想定した育実習までの反省や改善点、他の人とのディスカッションでの反省や改善点、危機管理方法について理解し、一人で飼育ができる。	
		5.次コマとの関係	引き続き、一人で担当動物の飼育管理を行う。	
39	動物看護師としての倫理観を備えた質の高い飼育を目指す②	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや時間がかかったところ、反省点、教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。到達目標を設定し、今の自分に足りないことを補えるように努力する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、一人で担当動物の飼育管理を行う。	
40	動物看護師としての倫理観を備えた質の高い飼育を目指す③	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや時間がかかったところ、反省点、教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。到達目標を設定し、今の自分に足りないことを補えるように努力する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、一人で担当動物の飼育管理を行う。	

41	動物看護師としての倫理観を備えた質の高い飼育を目指す④	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや時間がかかったところ、反省点、教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。到達目標を設定し、今の自分に足りないことを補えるように努力する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、一人で担当動物の飼育管理を行う。	
42	動物看護師としての倫理観を備えた質の高い飼育を目指す⑤	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや時間がかかったところ、反省点、教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。到達目標を設定し、今の自分に足りないことを補えるように努力する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、一人で担当動物の飼育管理を行う。	
43	動物看護師としての倫理観を備えた質の高い飼育を目指す⑥	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	前回うまくできなかったところや時間がかかったところ、反省点、教員に注意されたことを活かし、より正確、丁寧、かつ迅速に飼育管理できるようになる。到達目標を設定し、今の自分に足りないことを補えるように努力する。	
		5.次コマとの関係	引き続き、一人で担当動物の飼育管理を行う。	
44	動物看護師としての倫理観を備えた質の高い飼育を目指す⑦ まとめ	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	動物看護師としての倫理観を備えた飼育実習での反省点を挙げ、改善方法や、到達目標を設定する。一人で飼育管理をする際の注意点を挙げ、誰が飼育しても同じような環境が作れるようにする。	
		5.次コマとの関係	統括	
45	飼育実習の総括	1.シラバスとの関係	動物飼育実習Ⅰでの実践能力に応用力を用いて、正確性、迅速性を身につける。また、ただ世話をするだけでなく、動物看護に必要な観察力と動物福祉の精神を身につける。	
		2.コマ主題	実際に動物を飼育する	
		3.コマ主題細目	動物の飼育を一人で行う。	
		4.コマ主題細目深度	実際に動物を飼育することを通して得た知識、技術を振り返り、各種動物の適切な飼育管理について、人に伝えることができるようになる。	
		5.次コマとの関係		

動物看護実習Ⅰ－1

学科	動物看護系学科	シラバス(概要)
コース		講義で習得した知識の実践とし、診療現場で必要な観察力及び看護法に関する基本的手技を身につける。また、手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を身に付ける。動物の基礎情報を収集し、診療補助からはじまるトータルケアの看護技術を学ぶ。飼い主から得た主訴・病歴などの情報をもとに、全身の身体検査を実施し、バイタルサインの評価・記録・獣医師への報告が行えるようにする。エキゾチックアニマルの状態観察法や、幼齢動物・高齢動物にみられる特有の状態や疾患を理解し、全身評価ができるようにする。それぞれの動物種と状態に応じた保定技術を身につけ、スムーズな診察・処置を行えるようにし、また投薬や輸液時の器機の管理・備品の準備・正確な手技をマスターする。院内・イヌ舎・ネコ舎・入院舎の衛生管理に努め、滅菌・消毒・殺菌への理解を深めながら感染の予防を実践する。
履修条件	動物看護実習Ⅰ-1を先行すること	
ユニット		
科目名	動物看護実習Ⅰ－1	
単位	1(Ⅰ-1･2合わせて2単位)	
履修時間	45時間(Ⅰ-1･2合わせて90時間)	
回数	45回(Ⅰ-1･2合わせて90回)	
授業形態	実習	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員会	実技試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①動物看護の教科書第1巻(緑書房)②基礎動物看護技術(インターズー)③動物看護実習テキスト(インターズー)④動物看護実践基準(インターズー)	

コマシラバス

50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	動物看護　概論 概論	1.シラバスとの関係	基礎で習得した知識の実践とし、診療現場で必要な観察力・看護法の基本的手技を身につけ、問題解決能力や実践能力を高める	
		2.コマ主題	動物看護概論について理解する	
		3.コマ主題細目	動物看護とは・動物看護者の倫理綱領・5つの自由・動物愛護及び管理に関する法律	
		4.コマ主題細目深度	動物看護とは何か、動物看護の歴史、社会における動物看護師の重要性と動物・飼い主との関わりについて学ぶ 動物看護の基本理念・動物愛護及び管理に関する法律を理解し、実習への心得を身につける	
		5.次コマとの関係	動物看護　概論　　動物看護の意義・目的に進む	
2	動物看護　概論 目的・意義	1.シラバスとの関係	動物看護の意義・目的について学ぶ	
		2.コマ主題	動物看護の目的・意義について理解する	
		3.コマ主題細目	動物看護の意義・目的・動物看護技術・計画・記録・クライアントエデュケーション・チーム医療	
		4.コマ主題細目深度	動物看護の意義・目的を知る。動物病院における動物看護師の役割と職域を理解できるようになる。動物の生活ステージを理解し、動物看護技術が必要なケースを想定できるようになる。臨床現場で動物看護師が関わるトータルケアの流れと動物看護の関連性を知る	
		5.次コマとの関係	動物看護概論　動物看護師が行う動物看護の実践に進む	
3	動物看護　概論 準備・心構え	1.シラバスとの関係	臨床現場における動物看護師の看護技術について学ぶ	
		2.コマ主題	動物看護のための準備・心構えについて学ぶ	
		3.コマ主題細目	実習にあたっての準備・心構え	
		4.コマ主題細目深度	動物看護師としての身支度・環境整備・手粗いと手指消毒について学び、実習にあたっての心構えを理解する	
		5.次コマとの関係	動物看護　概論　小テスト	
4	動物看護　概論 小テスト	1.シラバスとの関係	動物看護概論についての理解度を確認する	
		2.コマ主題	動物看護概論　小テスト	
		3.コマ主題細目	動物看護概論　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	動物看護概論において、筆記試験を行う	
		5.次コマとの関係	解剖生理学　概論に進む	
5	解剖生理学 概論	1.シラバスとの関係	動物看護にあたり必要な、解剖学・生理学について学ぶ	
		2.コマ主題	解剖生理学の基礎を理解する	
		3.コマ主題細目	解剖生理学とは	
		4.コマ主題細目深度	細胞・組織・器官(臓器)・筋肉・骨格からなる生体の成り立ちについて学ぶ	
		5.次コマとの関係	解剖生理学①　筋・骨格に進む	
6	解剖生理学① 筋・骨格	1.シラバスとの関係	筋・骨格の名称と構成、位置関係を学ぶ	
		2.コマ主題	解剖生理学①(筋・骨格)	
		3.コマ主題細目	筋・骨格名称・構成・数・位置	
		4.コマ主題細目深度	動物看護に必要なイヌ・ネコの筋・骨格の名称・数・位置関係を学び、それぞれの構成について理解できる	
		5.次コマとの関係	解剖生理学②　器官(臓器)に進む	
7	解剖生理学② 器官(臓器)	1.シラバスとの関係	器官(臓器)の名称と構成、位置関係を学ぶ	
		2.コマ主題	解剖生理学②　器官(臓器)	
		3.コマ主題細目	器官(臓器)名称・構成・数・位置	
		4.コマ主題細目深度	動物看護に必要なイヌ・ネコの器官(臓器)の名称・数・位置関係を学び、それぞれの構成について理解できる	
		5.次コマとの関係	解剖生理学③　内分泌・ホルモンに進む	
8	解剖生理学③ 内分泌・ホルモン	1.シラバスとの関係	内分泌・ホルモンの働きについて学ぶ	
		2.コマ主題	解剖生理学③　内分泌・ホルモン	
		3.コマ主題細目	内分泌・ホルモンの働き・作用	
		4.コマ主題細目深度	動物看護に必要な内分泌・ホルモンの働きと作用について学び、動物看護との関連性について理解できる	
		5.次コマとの関係	解剖生理学④　免疫学に進む	

動物看護実習Ⅰ－1

9	解剖生理学④ 免疫学	1.シラバスとの関係	免疫器官と働き・免疫学と動物看護の関連性について学ぶ	
		2.コマ主題	解剖生理学④　免疫学	
		3.コマ主題細目	免疫器官・自然免疫と免疫獲得・抗原と抗体・アレルギー	
		4.コマ主題細目深度	生体における免疫について学び、抗原と抗体の意味について理解できる。アレルギーと免疫の関連性について知り、アレルギーの分類を知る	
		5.次コマとの関係	解剖生理学　小テスト	
10	解剖生理学 小テスト	1.シラバスとの関係	解剖生理についての理解度を確認する	
		2.コマ主題	解剖生理　小テスト	
		3.コマ主題細目	解剖生理　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	解剖生理において、筆記試験を行う	
		5.次コマとの関係	診療補助　概論に進む	
11	診療補助 概論	1.シラバスとの関係	イヌネコの扱いを知り、基本的な保定法と身体検査法を身につける	
		2.コマ主題	診療補助　概論	
		3.コマ主題細目	保定とは・保定時の注意・イヌとネコの扱い	
		4.コマ主題細目深度	診察・処置・検査をスムーズに行うための保定の重要性について理解を深める。保定前の動物の行動観察について学び、適切な保定が行える状態作るようになれる。保定時の注意点を知り、動物・保定者の安全確保の重要性を知る。保定に進むためのイヌ・ネコの扱い方について学ぶ	
		5.次コマとの関係	診療補助①　イヌ・ネコの保定法	
12	診療補助① イヌ・ネコの保定法	1.シラバスとの関係	イヌ・ネコの基本的な保定法の違いを知り、処置と個体に合った保定ができる	
		2.コマ主題	診療補助①　イヌ・ネコの保定法を習得する	
		3.コマ主題細目	立位・座位・伏臥位・横臥位の基本的な保定法	
		4.コマ主題細目深度	立位・座位・伏臥位・横臥位における基本的な保定法について学ぶ。また、個体の大きさ・種類・状態に応じ、ストレスをかけない保定法を身につける。複数名で行う保定法もマスターする	
		5.次コマとの関係	診療補助②　バイタルチェック・身体検査に進む	
13	診療補助② バイタルチェック・身体検査	1.シラバスとの関係	バイタルチェックと身体検査が適切にできる	
		2.コマ主題	診療補助②　バイタルチェック・身体検査の方法を習得する	
		3.コマ主題細目	バイタルチェックとは何か・身体検査の項目	
		4.コマ主題細目深度	バイタルチェックとは何かを学び、診察時・検査時に行う身体検査の項目を知る。また、各種測定において正しい手技が行える	
		5.次コマとの関係	診療補助③　生体の正常・異常に進む	
14	診療補助③ 生体の正常・異常	1.シラバスとの関係	バイタルチェックを含む身体検査時の正常と異常の違いを知り、報告できる	
		2.コマ主題	診療補助③　生体の正常・異常について理解する	
		3.コマ主題細目	バイタルの正常と異常・正常値と異常値・カルテの記入と報告	
		4.コマ主題細目深度	実施したバイタルチェック・身体検査の結果が正常な状態か、異常な状態かを判別できる。また、基準値(正常値)を知り、異常値や異常が疑われる事項に対して、獣医師に報告できる。カルテに結果を正確に記載できる	
		5.次コマとの関係	診療補助　小テスト	
15	診療補助 小テスト	1.シラバスとの関係	診療補助についての理解度を確認する	
		2.コマ主題	診療補助　小テスト	
		3.コマ主題細目	診療補助　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	診療補助において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	輸液管理　概論に進む	
16	輸液管理 概論	1.シラバスとの関係	輸液の適切な接続及び操作法を身につける	
		2.コマ主題	輸液管理　概論について学ぶ	
		3.コマ主題細目	輸液とは・輸液の手技・自動点滴と皮下点滴	
		4.コマ主題細目深度	輸液が行われる目的と、輸液を必要とする生体の状態について学ぶ。輸液に必要な備品を知り、手技をマスターできる。自動点滴と皮下点滴の目的を学び、その効果について知る	
		5.次コマとの関係	輸液管理①　輸液ラインの接続に進む	
17	輸液管理① 輸液ラインの接続	1.シラバスとの関係	正しく無菌的に輸液ラインを接続できる	
		2.コマ主題	輸液管理①　輸液ラインの接続の仕方を習得する	
		3.コマ主題細目	輸液準備・備品・ラインの接続	
		4.コマ主題細目深度	自動点滴・皮下点滴に必要な備品とその名称について学ぶ。実施に際し、それぞれの準備ができる。自動点滴における輸液ラインのセットを正しく行える。輸液剤の名称と用途について学ぶ。留置について学び、動物へのラインセットを的確に行える	
		5.次コマとの関係	輸液管理②　輸液の設定にすすむ	
18	輸液管理②　設定	1.シラバスとの関係	輸液スピードを設定できる	
		2.コマ主題	輸液管理②　設定の仕方を習得する	
		3.コマ主題細目	自動点滴装置(輸液ポンプ)の理解	
		4.コマ主題細目深度	輸液ポンプの仕組みと設定について学び、獣医師の指示のもと正しい輸液スピードの管理が行えるようになる。また、輸液ポンプの警報と確認事項を知り、適切な対応が取れる	
		5.次コマとの関係	輸液管理③　動物観察・投与量の確認に進む	

動物看護実習Ⅰ－1

19	輸液管理③ 観察・投与量の確認	1.シラバスとの関係	輸液中の動物観察と投与量の確認ができる	
		2.コマ主題	輸液管理③　観察・投与量の確認の習得	
		3.コマ主題細目	動物のモニタリング・輸液中の投与量の管理	
		4.コマ主題細目深度	輸液中の動物の観察・モニタリングについて学び、正確な記録が取れる。また状態について獣医師に報告できる。輸液中の注意事項を知り、異常が生じた場合適切な対応を行うことができる。投与後及び一時中断する場合の留置の管理と処置の技術を身につける	
		5.次コマとの関係	輸液管理　小テスト	
20	輸液管理 小テスト	1.シラバスとの関係	輸液管理についての理解度を確認する	
		2.コマ主題	輸液管理　小テスト	
		3.コマ主題細目	輸液管理　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	輸液管理において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	シリンジ・注射針の扱い　概論	
21	シリンジ・注射針の扱い 概論	1.シラバスとの関係	シリンジ・注射針の正しい扱いを身につけ、注射の目的と違いを知る	
		2.コマ主題	シリンジ・注射針の扱い　概論	
		3.コマ主題細目	シリンジと注射針の構造・接続・種類	
		4.コマ主題細目深度	シリンジと注射針の構造について学び、それらを正しく接続できる。また種類・サイズ・名称を知る	
		5.次コマとの関係	シリンジ・注射針の扱い①　薬液の準備・無菌操作に進む	
22	シリンジ・注射針の扱い① 薬剤の準備・無菌操作	1.シラバスとの関係	正しく無菌的にシリンジ・注射針を扱い、定められた薬液量を準備できる	
		2.コマ主題	シリンジ・注射針の扱い①　準備・無菌操作の習得	
		3.コマ主題細目	無菌操作・薬剤の準備・無菌操作	
		4.コマ主題細目深度	シリンジと注射針を無菌的に操作し、準備ができる。薬剤の準備として、アンプルとバイアルを正しく扱い、必要量の薬剤をシリンジに準備できる	
		5.次コマとの関係	シリンジ・注射針の扱い②　シリンジの準備に進む	
23	シリンジ・注射針の扱い② 準備	1.シラバスとの関係	注射の目的に応じたシリンジの準備ができる	
		2.コマ主題	シリンジ・注射針の扱い②　準備について理解する	
		3.コマ主題細目	各種注射法・目的・方法	
		4.コマ主題細目深度	各種注射法(皮内・皮下・筋肉内・静脈内)の目的と方法を学び、それぞれに合ったシリンジと注射針を選択できる	
		5.次コマとの関係	シリンジ・注射針の扱い　小テスト	
24	シリンジ・注射針の扱い 小テスト	1.シラバスとの関係	シリンジ・注射針の扱いについての理解度を確認する	
		2.コマ主題	シリンジ・注射針の扱い　小テスト	
		3.コマ主題細目	シリンジ・注射針の扱い　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	シリンジ・注射針の扱いにおいて、筆記試験を行う	
		5.次コマとの関係	衛生管理・入院管理　概論	
25	衛生管理・入院管理 概論	1.シラバスとの関係	汚染を防ぐ入院動物の扱い方及び入院舎の清掃ができる	
		2.コマ主題	衛生管理・入院管理　概論について理解する	
		3.コマ主題細目	衛生管理とは・滅菌・消毒・殺菌・手指消毒法・診察台の消毒法	
		4.コマ主題細目深度	衛生管理の重要性を知り、滅菌・消毒・殺菌の違いについて学ぶ。正しい手指消毒法を実践できる。診察台の消毒手順及び、消毒後の確認事項について学ぶ。アルコール綿花の準備と管理ができる	
		5.次コマとの関係	衛生管理・入院管理①　感染源の理解に進む	
26	衛生管理・入院管理① 感染源の理解	1.シラバスとの関係	感染源を理解し、不潔と清潔の区別を徹底できる	
		2.コマ主題	衛生管理・入院管理①　感染源の理解について学ぶ	
		3.コマ主題細目	感染・廃棄物処理	
		4.コマ主題細目深度	検体に含まれる感染性微生物について理解を深める。院内の感染を防ぐための消毒・滅菌について学ぶ。また、廃棄物の正しい処理法について知る	
		5.次コマとの関係	衛生管理・入院管理②　安全な入院環境に進む	
27	衛生管理・入院管理② 入院環境	1.シラバスとの関係	安全な入院環境を保つことができる	
		2.コマ主題	衛生管理・入院管理②　入院環境について理解する	
		3.コマ主題細目	イヌ舎・ネコ舎・入院ケージの清掃と衛生管理	
		4.コマ主題細目深度	入院ケージの清掃の手順に従い、正しい衛生管理が実践できる。隔離舎における注意事項を把握する。院内清掃と衛生管理において配慮すべき点について学ぶ	
		5.次コマとの関係	衛生管理・入院管理　小テスト	
28	衛生管理・入院管理 小テスト	1.シラバスとの関係	衛生管理・入院管理についての理解度を確認する	
		2.コマ主題	衛生管理・入院管理　小テスト	
		3.コマ主題細目	衛生管理・入院管理　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	衛生管理・入院管理において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	調剤　概論に進む	
29	調剤 概論	1.シラバスとの関係	処方箋に従った薬剤の準備及び適切な薬剤の取り扱いを身につける	
		2.コマ主題	調剤　概論について理解する	
		3.コマ主題細目	調剤とは・動物看護師の職域	
		4.コマ主題細目深度	獣医師法・薬事法について学び、動物看護師が行う調剤の職域について知る。調剤の手順と手技を学び、正しい薬の説明と投与法について、飼い主に説明ができる	
		5.次コマとの関係	調剤①　処方箋・調剤用語に進む	
30	調剤① 処方箋・調剤用語	1.シラバスとの関係	処方箋と調剤用語を理解できる	
		2.コマ主題	調剤①　処方箋・調剤用語について理解する	
		3.コマ主題細目	処方箋・調剤用語	
		4.コマ主題細目深度	処方箋の意味を知り、記載されている内容が理解できるようになる。処方箋に用いられる略語を知る	
		5.次コマとの関係	調剤②　形状・標記に進む	

31	調剤② 形状・標記	1.シラバスとの関係	薬剤の形状、標記を理解できる	
		2.コマ主題	調剤②　形状・標記について理解する	
		3.コマ主題細目	薬剤の形状・医薬品の種類・標記	
		4.コマ主題細目深度	内服薬・外用薬・注射薬の種類と特徴を学ぶ。また、医薬品の種類(毒薬・劇薬・要指示薬・大衆薬・麻薬・覚せい剤)とは何かを知り、その標記に関して学ぶ	
		5.次コマとの関係	調剤③　薬剤の取り扱いに進む	
32	調剤③ 取り扱い	1.シラバスとの関係	衛生的で安全な薬剤の取り扱いができる	
		2.コマ主題	調剤③　取り扱いについて理解する	
		3.コマ主題細目	取り扱いにおける注意事項	
		4.コマ主題細目深度	薬剤を取り扱う際の注意事項を理解し、衛生的かつ安全な取り扱いと管理ができる	
		5.次コマとの関係	調剤④　薬用量の計算・調剤・分包に進む	
33	調剤④ 薬用量の計算・調剤・分包	1.シラバスとの関係	正確に薬用量の計算・調剤・分包ができる	
		2.コマ主題	調剤④　薬用量の計算・調剤・分包について理解する	
		3.コマ主題細目	薬用量の計算・調剤・分包	
		4.コマ主題細目深度	各種薬剤の調剤法を学ぶ。また、正しい薬用量の計算を行い、必要な分量の準備ができる。調剤に必要な器機・備品の名称と使用法を知る。分包の手技と分包機の扱い方をマスターする	
		5.次コマとの関係	調剤⑤　薬袋に進む	
34	調剤⑤ 薬袋	1.シラバスとの関係	薬袋の記入・作成ができる	
		2.コマ主題	調剤⑤　薬袋について学ぶ	
		3.コマ主題細目	薬袋の準備・記入	
		4.コマ主題細目深度	薬袋を正しく準備し、分かりやすい薬袋の作成ができる	
		5.次コマとの関係	調剤⑥　薬剤の使用法に進む	
35	調剤⑥ 薬剤の使用法	1.シラバスとの関係	薬剤の使用方法について、飼い主へ説明ができる	
		2.コマ主題	調剤⑥　薬剤の使用法について理解する	
		3.コマ主題細目	使用方法の説明	
		4.コマ主題細目深度	飼い主に対して、薬剤を正しく理解し、正確に投与してもらうための、薬剤の投与法について説明ができる	
		5.次コマとの関係	調剤　小テスト	
36	調剤 小テスト	1.シラバスとの関係	調剤についての理解度を確認する	
		2.コマ主題	調剤　小テスト	
		3.コマ主題細目	調剤　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	調剤において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	創傷管理に進む	
37	創傷管理	1.シラバスとの関係	創傷の分類と管理について学ぶ	
		2.コマ主題	創傷管理について理解する	
		3.コマ主題細目	創傷の分類・保護材・褥瘡のケア	
		4.コマ主題細目深度	創傷とは何か。創傷の分類について学び、観察ポイントと管理における確認事項について理解を深める。また必要な保護材について知ることができる。褥瘡の部位とケアについて理解する	
		5.次コマとの関係	創傷管理　小テスト	
38	創傷管理 小テスト	1.シラバスとの関係	創傷管理についての理解度を確認する	
		2.コマ主題	創傷管理　小テスト	
		3.コマ主題細目	創傷管理　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	創傷管理において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	包帯法に進む	
39	包帯法	1.シラバスとの関係	包帯法の目的と手技について学ぶ	
		2.コマ主題	包帯法を習得する	
		3.コマ主題細目	包帯法とは・包帯法の手技・使用備品	
		4.コマ主題細目深度	包帯法の目的と手技について学ぶ。また使用備品について知り、適切な選択ができる	
		5.次コマとの関係	包帯法　小テスト	
40	包帯法 小テスト	1.シラバスとの関係	包帯法についての理解度を確認する	
		2.コマ主題	包帯法　小テスト	
		3.コマ主題細目	包帯法　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	包帯法において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	罨法に進む	
41	罨法	1.シラバスとの関係	罨法の種類と手技について学ぶ	
		2.コマ主題	罨法を習得する	
		3.コマ主題細目	温罨法・冷罨法	
		4.コマ主題細目深度	温罨法と冷罨法に手技と効果について学び、適切なケアができる	
		5.次コマとの関係	罨法　小テスト	
42	罨法 小テスト	1.シラバスとの関係	罨法についての理解度を確認する	
		2.コマ主題	罨法　小テスト	
		3.コマ主題細目	罨法　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	罨法において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	吸引に進む	
43	吸引	1.シラバスとの関係	吸引器の使用法と効果について学ぶ	
		2.コマ主題	吸引法を習得する	
		3.コマ主題細目	吸引器の使用法・効果	
		4.コマ主題細目深度	吸引のメカニズムについて学び、吸引器の使用方法と手技について理解できる	
		5.次コマとの関係	吸引　小テスト	
44	吸引 小テスト	1.シラバスとの関係	吸引についての理解度を確認する	
		2.コマ主題	吸引　小テスト	
		3.コマ主題細目	吸引　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	吸引において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	動物看護実習　総合テスト	

動物看護実習Ⅰ－1

45	動物看護実習 総合テスト	1.シラバスとの関係	動物看護実習についての理解度を確認する	
		2.コマ主題	動物看護実習　総合テスト	
		3.コマ主題細目	動物看護概論　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	動物看護概論において、筆記試験を行う	
		5.次コマとの関係	動物看護実習Ⅰ-2に進む	

動物看護実習Ⅰ－2

学科	動物看護系学科	シラバス(概要)
コース		基礎で習得した知識の実践とし、診療現場で必要な観察力及び看護法に関する基本的手技を身につけ、手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践能力を習得する。グルーミングが与える動物への効果を学び、様々なイヌ種・ネコ種や状態に応じたグルーミングの技術を得るとともに、皮膚・被毛を中心とした健康状態の把握について理解を深める。疾患が疑われた場合は獣医師に報告し、獣医学的見地から動物の看護およびケアにあたる。薬浴を必要とする動物のケアと家庭での管理について、飼い主へ説明を実施し、状態の維持・向上とクライアントエデュケーションに努める。グルーミングに使用する備品・シャンプー剤を知り、個々に応じた選択ができるように習得し、高齢動物・罹患動物のグルーミングにおいて、状態の観察・的確な手技を取り、負担のないグルーミングを実践する。死亡後のエンジェルケアについて理解を深め、的確なグルーミングを実施したうえで家庭へ戻すまでの手技を学び、ペットロスの心の状態を理解し、飼い主のケアに努める。
履修条件	動物看護実習Ⅰ-1を履修すること	
ユニット		
科目名	動物看護実習Ⅰ－2	
単位	1(Ⅰ-1･2合わせて2単位)	
履修時間	45時間(Ⅰ-1･2合わせて90時間)	
回数	45回(Ⅰ-1･2合わせて90回)	
授業形態	実習	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員会	実技テスト
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①動物看護の教科書(緑書房)②基礎動物看護技術(インターズー)③動物看護実習テキスト(インターズー)④動物看護実践基準(インターズー)	

コマシラバス

50分／コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	グルーミング概論	1.シラバスとの関係	個体に応じたグルーミングが安全にできる	
		2.コマ主題	グルーミング　概論について理解する	
		3.コマ主題細目	グルーミングの目的・効果	
		4.コマ主題細目深度	グルーミングの目的・効果及び、動物看護におけるグルーミングの重要性について学ぶ。また、麻酔科におけるケアについても理解を深める	
		5.次コマとの関係	イヌ種　概論に進む	
2	イヌ種概論	1.シラバスとの関係	グルーミングにおける専門用語が理解できる	
		2.コマ主題	イヌ種　概論について理解する	
		3.コマ主題細目	専門用語の理解	
		4.コマ主題細目深度	体表や被毛の部位・毛色など、グルーミングに際し必要な専門用語について学ぶ	
		5.次コマとの関係	イヌ種　種類に進む	
3	イヌ種種類	1.シラバスとの関係	イヌ種の特徴を理解し、個々に応じたグルーミング法を学ぶ	
		2.コマ主題	イヌ種　種類について学ぶ	
		3.コマ主題細目	イヌ種の理解	
		4.コマ主題細目深度	イヌの種類と特徴を学び、グルーミングにおける注意点について理解を深める	
		5.次コマとの関係	イヌ種　小テスト	
4	イヌ種小テスト	1.シラバスとの関係	イヌの種類と特徴・それぞれのグルーミングにおける注意点についての理解度を確認する	
		2.コマ主題	イヌ種　小テスト	
		3.コマ主題細目	イヌ種　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	イヌ種において、筆記試験を行う	
		5.次コマとの関係	ネコ種　概論に進む	
5	ネコ種概論	1.シラバスとの関係	グルーミングにおける専門用語が理解できる	
		2.コマ主題	ネコ種　概論について理解する	
		3.コマ主題細目	専門用語の理解	
		4.コマ主題細目深度	体表や被毛の部位・毛色など、グルーミングに際し必要な専門用語について学ぶ	
		5.次コマとの関係	ネコ種　種類に進む	
6	ネコ種種類	1.シラバスとの関係	ネコ種の特徴を理解し、個々に応じたグルーミング法を学ぶ	
		2.コマ主題	ネコ種　種類について学ぶ	
		3.コマ主題細目	ネコ種の理解	
		4.コマ主題細目深度	ネコの種類と特徴を学び、グルーミングにおける注意点について理解を深める	
		5.次コマとの関係	ネコ種　小テスト	
7	ネコ種小テスト	1.シラバスとの関係	ネコの種類と特徴・それぞれのグルーミングにおける注意点についての理解度を確認する	
		2.コマ主題	ネコ種　小テスト	
		3.コマ主題細目	ネコ種　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	ネコ種において、筆記試験を行う	
		5.次コマとの関係	グルーミング①　備品に進む	
8	グルーミング①備品	1.シラバスとの関係	グルーミングで使用する備品の名称と使用法が理解できる	
		2.コマ主題	グルーミング①　備品について理解する	
		3.コマ主題細目	グルーミング備品の名称・使用法	
		4.コマ主題細目深度	コーム・ブラシ・爪切り・爪やすりの名称について学び、適切な備品の選択ができるようになる。また、それぞれの使用法を知る	
		5.次コマとの関係	グルーミング②　シャンプー・リンスの種類に進む	
9	グルーミング②シャンプー・リンスの種類	1.シラバスとの関係	シャンプー・リンスの種類を理解できる	
		2.コマ主題	グルーミング②　シャンプー・リンスの種類を理解する	
		3.コマ主題細目	シャンプー・リンスの種類と用途	
		4.コマ主題細目深度	シャンプー・リンスの種類と効果について学び、、イヌ種・ネコ種・長毛・短毛などに応じた選択ができる	
		5.次コマとの関係	グルーミング③　シャンプー・薬浴の手技に進む	

動物看護実習Ⅰ－2

10	グルーミング③ シャンプー・薬浴の手技	1.シラバスとの関係	シャンプー及び薬浴が適切にできる	
		2.コマ主題	グルーミング③ シャンプー・薬浴の手技を習得する	
		3.コマ主題細目	シャンプー・薬浴の手技・シャンプー・薬剤の選択と効果	
		4.コマ主題細目深度	適切なシャンプーを選択し、正しい手技でのシャンプーができるようになる。また、皮膚・被毛疾患に関して学び、薬浴に使用する薬剤を知り、その成分と効果を理解し、正しい手順で薬浴ができるようになる。観察により疾患が疑われる事項があった場合には、客観的に正確に報告ができる	
		5.次コマとの関係	グルーミング④ ブラッシング・コーミングに進む	
11	グルーミング④ ブラッシング・コーミング	1.シラバスとの関係	ブラッシング・コーミングが適切にできる	
		2.コマ主題	グルーミング④ ブラッシング・コーミングを習得する	
		3.コマ主題細目	ブラッシング・コーミングの手技	
		4.コマ主題細目深度	ブラシ・コームの正しい使用法を身につけ、個々に応じたブラッシング・コーミングを行うことができる	
		5.次コマとの関係	グルーミング⑤ ドライングに進む	
12	グルーミング⑤ ドライング	1.シラバスとの関係	ドライングが適切にできる	
		2.コマ主題	グルーミング⑤ ドライングを習得する	
		3.コマ主題細目	ドライングの手技	
		4.コマ主題細目深度	正しい方法でドライングができるようになる	
		5.次コマとの関係	グルーミング⑥ 爪切りに進む	
13	グルーミング⑥ 爪切り	1.シラバスとの関係	爪切りが適切にできる	
		2.コマ主題	グルーミング⑥ 爪切りを習得する	
		3.コマ主題細目	爪の構造・爪切りの使用法	
		4.コマ主題細目深度	爪の構造を理解し、イヌ・ネコにストレスを与えず速やかに爪切りを行う手技を身につける。また、出血時の処置および、爪切り後のケアについても学ぶ。備品使用後の管理を正しく行えるようになる	
		5.次コマとの関係	グルーミング⑦ 耳掃除に進む	
14	グルーミング⑦ 耳掃除	1.シラバスとの関係	耳掃除が適切にできる	
		2.コマ主題	グルーミング⑦ 耳掃除を習得する	
		3.コマ主題細目	耳の構造・使用備品・鉗子の扱いと衛生管理・耳掃除の手技	
		4.コマ主題細目深度	耳の構造を学ぶ。耳掃除に必要な備品を揃え、正しい手技で行えるようになる。また鉗子使用後の衛生管理についても学ぶ。疾患が疑われる事項があった場合には、客観的な事実を正確に報告できるようになる	
		5.次コマとの関係	グルーミング⑧ 肛門嚢絞りに進む	
15	グルーミング⑧ 肛門嚢絞り	1.シラバスとの関係	肛門嚢絞りが適切にできる	
		2.コマ主題	グルーミング⑧ 肛門嚢絞りを習得する	
		3.コマ主題細目	肛門腺とは・肛門嚢絞りの手技	
		4.コマ主題細目深度	肛門腺の位置について理解し、肛門嚢絞りを正しく行えるようになる。疾患が疑われる事項があった場合には、客観的事実を正確に報告ができる	
		5.次コマとの関係	グルーミング⑧ クリッピングに進む	
16	グルーミング⑨ クリッピング	1.シラバスとの関係	バリカンを使った趾裏のクリッピングができる	
		2.コマ主題	グルーミング⑨ クリッピングを習得する	
		3.コマ主題細目	バリカンの使用法・クリッピング	
		4.コマ主題細目深度	バリカンの正しい管理と使用法について学ぶ。趾裏のクリッピングを安全にできる	
		5.次コマとの関係	高齢動物・罹患動物のケアに進む	
17	高齢動物・罹患動物のケア	1.シラバスとの関係	高齢動物・罹患動物のケアができるようになる	
		2.コマ主題	高齢動物・罹患動物のケアについて学ぶ	
		3.コマ主題細目	シニア期のグルーミング・罹患動物のケア	
		4.コマ主題細目深度	動物病院で行う高齢動物や慢性疾患動物のグルーミングにおいて気をつける点を学ぶ。また、在宅ケアのアドバイスができる知識を身につけ、実践できる	
		5.次コマとの関係	エンジェルケアに進む	
18	エンジェルケア	1.シラバスとの関係	エンジェルケアができるようになる	
		2.コマ主題	エンジェルケアを習得する	
		3.コマ主題細目	エンジェルケアの手技・ペットロス	
		4.コマ主題細目深度	死後のケアとして、動物の遺体を整え、飼い主へお返しするまでのケアについて学ぶ。また飼い主の心のケアについても学ぶ	
		5.次コマとの関係	グルーミング 小テスト	
19	グルーミング 小テスト	1.シラバスとの関係	グルーミングについての理解度を確認する	
		2.コマ主題	グルーミング 小テスト	
		3.コマ主題細目	グルーミング 理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	グルーミングにおいて、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	グルーミング実習	
20	グルーミング 実習	1.シラバスとの関係	様々なイヌ種・ネコ種のグルーミング及び薬浴ができるようになる	
		2.コマ主題	グルーミング実習	
		3.コマ主題細目	グルーミング実習	
		4.コマ主題細目深度	様々なイヌ種・ネコ種の正しいグルーミング及び薬浴ができる手技を身につける。動物にストレスをかけず、時間内にグルーミングを行えるようになる。皮膚や被毛に疾患が疑われる場合は、速やかに獣医師に報告する目を養う。日常のケアとして、飼い主が行うグルーミングについてアドバイスができる	
		5.次コマとの関係	グルーミング実習	

21	グルーミング　実習	1.シラバスとの関係	様々なイヌ種・ネコ種のグルーミング及び薬浴ができるようになる	
		2.コマ主題	グルーミング実習	
		3.コマ主題細目	グルーミング実習	
		4.コマ主題細目深度	様々なイヌ種・ネコ種の正しいグルーミング及び薬浴ができる手技を身につける。動物にストレスをかけず、時間内にグルーミングを行えるようになる。皮膚や被毛に疾患が疑われる場合は、速やかに獣医師に報告する目を養う。日常のケアとして、飼い主が行うグルーミングについてアドバイスができる	
		5.次コマとの関係	グルーミング実習	
22	グルーミング　実習	1.シラバスとの関係	様々なイヌ種・ネコ種のグルーミング及び薬浴ができるようになる	
		2.コマ主題	グルーミング実習	
		3.コマ主題細目	グルーミング実習	
		4.コマ主題細目深度	様々なイヌ種・ネコ種の正しいグルーミング及び薬浴ができる手技を身につける。動物にストレスをかけず、時間内にグルーミングを行えるようになる。皮膚や被毛に疾患が疑われる場合は、速やかに獣医師に報告する目を養う。日常のケアとして、飼い主が行うグルーミングについてアドバイスができる	
		5.次コマとの関係	グルーミング実習	
23	グルーミング　実習	1.シラバスとの関係	様々なイヌ種・ネコ種のグルーミング及び薬浴ができるようになる	
		2.コマ主題	グルーミング実習	
		3.コマ主題細目	グルーミング実習	
		4.コマ主題細目深度	様々なイヌ種・ネコ種の正しいグルーミング及び薬浴ができる手技を身につける。動物にストレスをかけず、時間内にグルーミングを行えるようになる。皮膚や被毛に疾患が疑われる場合は、速やかに獣医師に報告する目を養う。日常のケアとして、飼い主が行うグルーミングについてアドバイスができる	
		5.次コマとの関係	グルーミング実習	
24	グルーミング　実習	1.シラバスとの関係	様々なイヌ種・ネコ種のグルーミング及び薬浴ができるようになる	
		2.コマ主題	グルーミング実習	
		3.コマ主題細目	グルーミング実習	
		4.コマ主題細目深度	様々なイヌ種・ネコ種の正しいグルーミング及び薬浴ができる手技を身につける。動物にストレスをかけず、時間内にグルーミングを行えるようになる。皮膚や被毛に疾患が疑われる場合は、速やかに獣医師に報告する目を養う。日常のケアとして、飼い主が行うグルーミングについてアドバイスができる	
		5.次コマとの関係	グルーミング実習	
25	グルーミング　実習	1.シラバスとの関係	様々なイヌ種・ネコ種のグルーミング及び薬浴ができるようになる	
		2.コマ主題	グルーミング実習	
		3.コマ主題細目	グルーミング実習	
		4.コマ主題細目深度	様々なイヌ種・ネコ種の正しいグルーミング及び薬浴ができる手技を身につける。動物にストレスをかけず、時間内にグルーミングを行えるようになる。皮膚や被毛に疾患が疑われる場合は、速やかに獣医師に報告する目を養う。日常のケアとして、飼い主が行うグルーミングについてアドバイスができる	
		5.次コマとの関係	グルーミング実習	
26	グルーミング　実習	1.シラバスとの関係	様々なイヌ種・ネコ種のグルーミング及び薬浴ができるようになる	
		2.コマ主題	グルーミング実習	
		3.コマ主題細目	グルーミング実習	
		4.コマ主題細目深度	様々なイヌ種・ネコ種の正しいグルーミング及び薬浴ができる手技を身につける。動物にストレスをかけず、時間内にグルーミングを行えるようになる。皮膚や被毛に疾患が疑われる場合は、速やかに獣医師に報告する目を養う。日常のケアとして、飼い主が行うグルーミングについてアドバイスができる	
		5.次コマとの関係	グルーミング実習	
27	グルーミング　実習	1.シラバスとの関係	様々なイヌ種・ネコ種のグルーミング及び薬浴ができるようになる	
		2.コマ主題	グルーミング実習	
		3.コマ主題細目	グルーミング実習	
		4.コマ主題細目深度	様々なイヌ種・ネコ種の正しいグルーミング及び薬浴ができる手技を身につける。動物にストレスをかけず、時間内にグルーミングを行えるようになる。皮膚や被毛に疾患が疑われる場合は、速やかに獣医師に報告する目を養う。日常のケアとして、飼い主が行うグルーミングについてアドバイスができる	
		5.次コマとの関係	グルーミング実習	

28	グルーミング　実習	1.シラバスとの関係	様々なイヌ種・ネコ種のグルーミング及び薬浴ができるようになる	
		2.コマ主題	グルーミング実習	
		3.コマ主題細目	グルーミング実習	
		4.コマ主題細目深度	様々なイヌ種・ネコ種の正しいグルーミング及び薬浴ができる手技を身につける。動物にストレスをかけず、時間内にグルーミングを行えるようになる。皮膚や被毛に疾患が疑われる場合は、速やかに獣医師に報告する目を養う。日常のケアとして、飼い主が行うグルーミングについてアドバイスができる	
		5.次コマとの関係	グルーミング実習	
29	グルーミング　実習	1.シラバスとの関係	様々なイヌ種・ネコ種のグルーミング及び薬浴ができるようになる	
		2.コマ主題	グルーミング実習	
		3.コマ主題細目	グルーミング実習	
		4.コマ主題細目深度	様々なイヌ種・ネコ種の正しいグルーミング及び薬浴ができる手技を身につける。動物にストレスをかけず、時間内にグルーミングを行えるようになる。皮膚や被毛に疾患が疑われる場合は、速やかに獣医師に報告する目を養う。日常のケアとして、飼い主が行うグルーミングについてアドバイスができる	
		5.次コマとの関係	グルーミング実習	
30	グルーミング　実習	1.シラバスとの関係	様々なイヌ種・ネコ種のグルーミング及び薬浴ができるようになる	
		2.コマ主題	グルーミング実習	
		3.コマ主題細目	グルーミング実習	
		4.コマ主題細目深度	様々なイヌ種・ネコ種の正しいグルーミング及び薬浴ができる手技を身につける。動物にストレスをかけず、時間内にグルーミングを行えるようになる。皮膚や被毛に疾患が疑われる場合は、速やかに獣医師に報告する目を養う。日常のケアとして、飼い主が行うグルーミングについてアドバイスができる	
		5.次コマとの関係	グルーミング実習	
31	グルーミング　実習	1.シラバスとの関係	様々なイヌ種・ネコ種のグルーミング及び薬浴ができるようになる	
		2.コマ主題	グルーミング実習	
		3.コマ主題細目	グルーミング実習	
		4.コマ主題細目深度	様々なイヌ種・ネコ種の正しいグルーミング及び薬浴ができる手技を身につける。動物にストレスをかけず、時間内にグルーミングを行えるようになる。皮膚や被毛に疾患が疑われる場合は、速やかに獣医師に報告する目を養う。日常のケアとして、飼い主が行うグルーミングについてアドバイスができる	
		5.次コマとの関係	グルーミング実習	
32	グルーミング　実習	1.シラバスとの関係	様々なイヌ種・ネコ種のグルーミング及び薬浴ができるようになる	
		2.コマ主題	グルーミング実習	
		3.コマ主題細目	グルーミング実習	
		4.コマ主題細目深度	様々なイヌ種・ネコ種の正しいグルーミング及び薬浴ができる手技を身につける。動物にストレスをかけず、時間内にグルーミングを行えるようになる。皮膚や被毛に疾患が疑われる場合は、速やかに獣医師に報告する目を養う。日常のケアとして、飼い主が行うグルーミングについてアドバイスができる	
		5.次コマとの関係	グルーミング実習	
33	グルーミング　実習	1.シラバスとの関係	様々なイヌ種・ネコ種のグルーミング及び薬浴ができるようになる	
		2.コマ主題	グルーミング実習	
		3.コマ主題細目	グルーミング実習	
		4.コマ主題細目深度	様々なイヌ種・ネコ種の正しいグルーミング及び薬浴ができる手技を身につける。動物にストレスをかけず、時間内にグルーミングを行えるようになる。皮膚や被毛に疾患が疑われる場合は、速やかに獣医師に報告する目を養う。日常のケアとして、飼い主が行うグルーミングについてアドバイスができる	
		5.次コマとの関係	グルーミング実習	
34	グルーミング　実習	1.シラバスとの関係	様々なイヌ種・ネコ種のグルーミング及び薬浴ができるようになる	
		2.コマ主題	グルーミング実習	
		3.コマ主題細目	グルーミング実習	
		4.コマ主題細目深度	様々なイヌ種・ネコ種の正しいグルーミング及び薬浴ができる手技を身につける。動物にストレスをかけず、時間内にグルーミングを行えるようになる。皮膚や被毛に疾患が疑われる場合は、速やかに獣医師に報告する目を養う。日常のケアとして、飼い主が行うグルーミングについてアドバイスができる	
		5.次コマとの関係	グルーミング実習	

35	グルーミング　実習	1.シラバスとの関係	様々なイヌ種・ネコ種のグルーミング及び薬浴ができるようになる	
		2.コマ主題	グルーミング実習	
		3.コマ主題細目	グルーミング実習	
		4.コマ主題細目深度	様々なイヌ種・ネコ種の正しいグルーミング及び薬浴ができる手技を身につける。動物にストレスをかけず、時間内にグルーミングを行えるようになる。皮膚や被毛に疾患が疑われる場合は、速やかに獣医師に報告する目を養う。日常のケアとして、飼い主が行うグルーミングについてアドバイスができる	
		5.次コマとの関係	グルーミング実習	
36	グルーミング　実習	1.シラバスとの関係	様々なイヌ種・ネコ種のグルーミング及び薬浴ができるようになる	
		2.コマ主題	グルーミング実習	
		3.コマ主題細目	グルーミング実習	
		4.コマ主題細目深度	様々なイヌ種・ネコ種の正しいグルーミング及び薬浴ができる手技を身につける。動物にストレスをかけず、時間内にグルーミングを行えるようになる。皮膚や被毛に疾患が疑われる場合は、速やかに獣医師に報告する目を養う。日常のケアとして、飼い主に行っていただくグルーミングについてアドバイスができるようになる。	
		5.次コマとの関係	グルーミング実習	
37	グルーミング　実習	1.シラバスとの関係	様々なイヌ種・ネコ種のグルーミング及び薬浴ができるようになる	
		2.コマ主題	グルーミング実習	
		3.コマ主題細目	グルーミング実習	
		4.コマ主題細目深度	様々なイヌ種・ネコ種の正しいグルーミング及び薬浴ができる手技を身につける。動物にストレスをかけず、時間内にグルーミングを行えるようになる。皮膚や被毛に疾患が疑われる場合は、速やかに獣医師に報告する目を養う。日常のケアとして、飼い主が行うグルーミングについてアドバイスができる	
		5.次コマとの関係	グルーミング実習	
38	グルーミング　実習	1.シラバスとの関係	様々なイヌ種・ネコ種のグルーミング及び薬浴ができるようになる	
		2.コマ主題	グルーミング実習	
		3.コマ主題細目	グルーミング実習	
		4.コマ主題細目深度	様々なイヌ種・ネコ種の正しいグルーミング及び薬浴ができる手技を身につける。動物にストレスをかけず、時間内にグルーミングを行えるようになる。皮膚や被毛に疾患が疑われる場合は、速やかに獣医師に報告する目を養う。日常のケアとして、飼い主が行うグルーミングについてアドバイスができる	
		5.次コマとの関係	グルーミング実習	
39	グルーミング　実習	1.シラバスとの関係	様々なイヌ種・ネコ種のグルーミング及び薬浴ができるよ	
		2.コマ主題	グルーミング実習	
		3.コマ主題細目	グルーミング実習	
		4.コマ主題細目深度	様々なイヌ種・ネコ種の正しいグルーミング及び薬浴ができる手技を身につける。動物にストレスをかけず、時間内にグルーミングを行えるようになる。皮膚や被毛に疾患が疑われる場合は、速やかに獣医師に報告する目を養う。日常のケアとして、飼い主が行うグルーミングについてアドバイスができる	
		5.次コマとの関係	グルーミング実習	
40	グルーミング　実習	1.シラバスとの関係	様々なイヌ種・ネコ種のグルーミング及び薬浴ができるようになる	
		2.コマ主題	グルーミング実習	
		3.コマ主題細目	グルーミング実習	
		4.コマ主題細目深度	様々なイヌ種・ネコ種の正しいグルーミング及び薬浴ができる手技を身につける。動物にストレスをかけず、時間内にグルーミングを行えるようになる。皮膚や被毛に疾患が疑われる場合は、速やかに獣医師に報告する目を養う。日常のケアとして、飼い主が行うグルーミングについてアドバイスができる	
		5.次コマとの関係	グルーミング実習	
41	グルーミング　実習	1.シラバスとの関係	様々なイヌ種・ネコ種のグルーミング及び薬浴ができるようになる	
		2.コマ主題	グルーミング実習	
		3.コマ主題細目	グルーミング実習	
		4.コマ主題細目深度	様々なイヌ種・ネコ種の正しいグルーミング及び薬浴ができる手技を身につける。動物にストレスをかけず、時間内にグルーミングを行えるようになる。皮膚や被毛に疾患が疑われる場合は、速やかに獣医師に報告する目を養う。日常のケアとして、飼い主が行うグルーミングについてアドバイスができる	
		5.次コマとの関係	グルーミング実習	

動物看護実習Ⅰ－2

42	グルーミング　実習	1.シラバスとの関係	様々なイヌ種・ネコ種のグルーミング及び薬浴ができるようになる	
		2.コマ主題	グルーミング実習	
		3.コマ主題細目	グルーミング実習	
		4.コマ主題細目深度	様々なイヌ種・ネコ種の正しいグルーミング及び薬浴ができる手技を身につける。動物にストレスをかけず、時間内にグルーミングを行えるようになる。皮膚や被毛に疾患が疑われる場合は、速やかに獣医師に報告する目を養う。日常のケアとして、飼い主が行うグルーミングについてアドバイスができる	
		5.次コマとの関係	グルーミング実習	
43	グルーミング　実習	1.シラバスとの関係	様々なイヌ種・ネコ種のグルーミング及び薬浴ができるようになる	
		2.コマ主題	グルーミング実習	
		3.コマ主題細目	グルーミング実習	
		4.コマ主題細目深度	様々なイヌ種・ネコ種の正しいグルーミング及び薬浴ができる手技を身につける。動物にストレスをかけず、時間内にグルーミングを行えるようになる。皮膚や被毛に疾患が疑われる場合は、速やかに獣医師に報告する目を養う。日常のケアとして、飼い主が行うグルーミングについてアドバイスができる	
		5.次コマとの関係	グルーミング実習	
44	グルーミング　実習	1.シラバスとの関係	様々なイヌ種・ネコ種のグルーミング及び薬浴ができるようになる	
		2.コマ主題	グルーミング実習	
		3.コマ主題細目	グルーミング実習	
		4.コマ主題細目深度	様々なイヌ種・ネコ種の正しいグルーミング及び薬浴ができる手技を身につける。動物にストレスをかけず、時間内にグルーミングを行えるようになる。皮膚や被毛に疾患が疑われる場合は、速やかに獣医師に報告する目を養う。日常のケアとして、飼い主が行うグルーミングについてアドバイスができる	
		5.次コマとの関係	グルーミング実習	
45	グルーミング実習　総合テスト	1.シラバスとの関係	グルーミング実習についての理解度を確認する	
		2.コマ主題	グルーミング実習　総合テスト	
		3.コマ主題細目	グルーミング　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	グルーミングにおいて、実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	動物看護実習Ⅱに進む	

動物看護実習Ⅱ－1

学科	動物看護系学科	シラバス（概要）
コース		「動物看護実習Ⅰ」での実践能力に応用力を用いて、正確性や迅速性を身につける。動物の基礎情報を収集し、診療補助からはじまるトータルケアの看護技術を学ぶ。飼い主から得た主訴・病歴などの情報をもとに、全身の身体検査を実施し、バイタルサインの評価・記録・獣医師への報告が行えるようになる。エキゾチックアニマルの状態観察法も知り、幼齢動物・高齢動物にみられる特融の状態や疾患を理解し、全身評価ができるようにする。それぞれの動物種と状態に応じた保定技術を身につけ、できるだけ受診動物に負担がなく、かつスムーズな診察・処置が行えるよう、サポートができるように習得する。投薬や輸液が必要なケースにおいて、器機の管理・備品の準備・正確な手技をマスターし、動物の状態観察および看護に努め、院内・犬舎・猫舎・入院舎の衛生管理に努め、滅菌・消毒・殺菌への理解を深めながら感染の予防を実践する。
履修条件	動物看護実習Ⅰを履修すること・動物看護実習Ⅱ-1を先行すること	
ユニット		
科目名	動物看護実習Ⅱ－1	
単位	1（Ⅱ-1～3合わせて3単位）	
履修時間	45時間（Ⅱ-1･2合わせて135時間）	
回数	45回（Ⅱ-1～3合わせて135回）	
授業形態	実習	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員会	実技試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①動物看護の教科書第1巻（緑書房）②基礎動物看護技術（インターズー）③動物看護実習テキスト（インターズー）④動物看護実践基準（インターズー）	

コマシラバス

50分／コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	診療補助 概論	1.シラバスとの関係	動物看護師が担当する診療補助業務について学ぶ	
		2.コマ主題	診療補助　概論	
		3.コマ主題細目	診療補助の業務内容・動物看護師の役割	
		4.コマ主題細目深度	動物病院での診療補助業務の実際と、動物看護師が担う職域について学ぶ。また、保定・バイタルチェック・ケアを中心とした動物の正しい扱いと正常・異常の見極め、獣医師への報告が適切にできる。また、グルーミングにおける皮膚・被毛のケアについても理解を深める	
		5.次コマとの関係	基礎情報の収集	
2	基礎情報の収集	1.シラバスとの関係	動物の状態を把握し、基礎情報を収集する目を養う	
		2.コマ主題	基礎情報の収集	
		3.コマ主題細目	基礎情報の収集・正常・異常の見極めと報告	
		4.コマ主題細目深度	動物の状態を把握し、バイタルを中心とした基礎情報を収集し、正常・異常の見極めと獣医師への報告ができるようになる。また次に必要な診療補助や臨床検査の準備ができる	
		5.次コマとの関係	カルテ用語	
3	カルテ用語	1.シラバスとの関係	カルテ記号とカルテ用語を学び、内容を理解する	
		2.コマ主題	カルテ用語	
		3.コマ主題細目	カルテ記号・カルテ用語	
		4.コマ主題細目深度	動物病院で使用しているカルテの種類を知り、カルテ用語の意味を把握し、読み取りができる	
		5.次コマとの関係	カルテ記入法	
4	カルテ記入法	1.シラバスとの関係	基礎情報・診療内容などを正しくカルテに記載できるようになる	
		2.コマ主題	カルテ記入法	
		3.コマ主題細目	カルテ記入法	
		4.コマ主題細目深度	基礎情報に加え、実施した診療内容・検査項目・手術記録などの記載ができるようになる	
		5.次コマとの関係	カルテ　小テスト	
5	カルテ 小テスト	1.シラバスとの関係	カルテ用語およびカルテの記入法についての理解度を確認する	
		2.コマ主題	カルテ　小テスト	
		3.コマ主題細目	カルテ　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	カルテにおいて、筆記試験を行う	
		5.次コマとの関係	イヌの扱い方	
6	犬の扱い方	1.シラバスとの関係	診察に伴う犬の扱い方について学ぶ	
		2.コマ主題	イヌの扱い方	
		3.コマ主題細目	犬舎・キャリーバッグからの出し入れ・診察台への上げ下ろし	
		4.コマ主題細目深度	診察に伴い、犬舎・キャリーバッグからの犬の出し入れおよび、診察台への上げ下ろしを安全に行う技術を身につける。個々の大きさに応じ、一人もしくは複数名で対応する方法を身につける	
		5.次コマとの関係	ネコの扱い方	
7	猫の扱い方	1.シラバスとの関係	診察に伴う猫の扱い方について学ぶ	
		2.コマ主題	ネコの扱い方・解剖生理学の理解	
		3.コマ主題細目	猫舎・キャリーバッグからの出し入れ・診察台への上げ下ろし	
		4.コマ主題細目深度	診察に伴い、犬舎・キャリーバッグからの猫の出し入れおよび、診察台での保持を安全に行うための技術を身につける。猫の解剖生理と機能形態を理解し、突発的な動きにも対応できる	
		5.次コマとの関係	イヌ・ネコの扱い方　小テスト	
8	犬・猫の扱い方 小テスト	1.シラバスとの関係	診療に伴うイヌ・ネコの正しい扱い方についての理解度を確認する	
		2.コマ主題	イヌ・ネコの扱い方　小テスト	
		3.コマ主題細目	イヌ・ネコの扱い方　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	イヌ・ネコの扱い方において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	保定①　概論	

9	保定 概論	1.シラバスとの関係	イヌの保定に必要な知識と技術を学ぶ	
		2.コマ主題	保定　概論	
		3.コマ主題細目	保定とは・イヌの解剖生理・イヌの保定法	
		4.コマ主題細目深度	保定とは、保定の重要性を学ぶ。イヌの解剖生理を理解し、安全に診療・処置が行える保定法について知る。イヌの保定法の形を知る	
		5.次コマとの関係	保定　イヌ①	
10	保定 犬①	1.シラバスとの関係	イヌの保定法の基本をマスターする	
		2.コマ主題	保定　イヌ①	
		3.コマ主題細目	イヌの立位・座位・伏臥位・横臥位の保定	
		4.コマ主題細目深度	イヌの立位・座位・伏臥位・横臥位の保定における基本スタイルを学び、犬種・大きさに応じた保定ができるようになる。一人で保定できない場合は、複数名で実施する方法を学ぶ	
		5.次コマとの関係	保定　イヌ②	
11	保定 犬②	1.シラバスとの関係	イヌの保定法の基本をマスターする	
		2.コマ主題	保定　イヌ②	
		3.コマ主題細目	イヌの立位・座位・伏臥位・横臥位の保定	
		4.コマ主題細目深度	イヌの立位・座位・伏臥位・横臥位の保定における基本スタイルを学び、犬種・大きさに応じた保定ができるようになる。一人で保定できない場合は、複数名で実施する方法を学ぶ	
		5.次コマとの関係	保定　ネコ　概論	
12	保定 猫　概論	1.シラバスとの関係	ネコの保定に必要な知識と技術を学ぶ	
		2.コマ主題	保定　ネコ　概論	
		3.コマ主題細目	保定とは・ネコの解剖生理・ネコの保定法	
		4.コマ主題細目深度	保定について。保定の重要性を学ぶ。ネコの解剖生理を理解し、安全に診療・処置が行える保定法について知る。猫の保定法の形を知る	
		5.次コマとの関係	保定　ネコ①	
13	保定 猫①	1.シラバスとの関係	ネコの保定法の基本をマスターする。	
		2.コマ主題	保定　ネコ①	
		3.コマ主題細目	ネコの座位・伏臥位・横臥位の保定	
		4.コマ主題細目深度	ネコの座位・伏臥位・横臥位の保定における基本スタイルを学び、猫種に応じた保定ができるようになる。一人で保定できない場合は、複数名で実施する方法を学ぶ。また、独特な動きをするネコの保定におけるポイントを習得する。	
		5.次コマとの関係	保定　ネコ②	
14	保定 猫②	1.シラバスとの関係	ネコの保定法の基本をマスターする。	
		2.コマ主題	保定　ネコ②	
		3.コマ主題細目	ネコの座位・伏臥位・横臥位の保定	
		4.コマ主題細目深度	ネコの座位・伏臥位・横臥位の保定における基本スタイルを学び、猫種に応じた保定ができるようになる。一人で保定できない場合は、複数名で実施する方法を学ぶ。また、独特な動きをするネコの保定におけるポイントを習得する。	
		5.次コマとの関係	イヌ・ネコの保定　小テスト	
15	犬・猫の保定 小テスト	1.シラバスとの関係	イヌ・ネコの保定　小テスト	
		2.コマ主題	イヌ・ネコの保定　小テスト	
		3.コマ主題細目	イヌ・ネコの保定　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	イヌ・ネコの保定において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	エリザベスカラーの使用法　イヌ	
16	エリザベスカラーの使用法 犬	1.シラバスとの関係	イヌにおけるエリザベスカラーの選択と使用法を学ぶ	
		2.コマ主題	エリザベスカラーの使用法　イヌ	
		3.コマ主題細目	エリザベスカラーの種類	
		4.コマ主題細目深度	様々なエリザベスカラーの種類を知り、用途に応じた選択ができるようになる。エリザベスカラーが必要なイヌの状態及び正しい使用法を学び、創傷部位を保護することができる。また安全な処置につなげることができる	
		5.次コマとの関係	エリザベスカラーの使用法　ネコ	
17	エリザベスカラーの使用法 猫	1.シラバスとの関係	ネコにおけるエリザベスカラーの選択と使用法を学ぶ	
		2.コマ主題	エリザベスカラーの使用法　ネコ	
		3.コマ主題細目	エリザベスカラーの種類・選択	
		4.コマ主題細目深度	様々なエリザベスカラーの種類を知り、用途に応じた選択ができるようになる。エリザベスカラーが必要なネコの状態及び正しい使用法を学び、創傷部位を保護することができる。また安全な処置につなげることができる	
		5.次コマとの関係	口輪の使用法　イヌ	
18	口輪の使用法 犬	1.シラバスとの関係	イヌにおける口輪の選択と使用法を学ぶ	
		2.コマ主題	口輪の使用法　イヌ	
		3.コマ主題細目	口輪の種類・サイズ・使用法	
		4.コマ主題細目深度	様々な口輪の種類を知り、用途に応じた選択ができるようになる。口輪が必要な犬の状態および正しい使用法を学び、安全な処置につなげることができる	
		5.次コマとの関係	口輪・猫袋の使用法　ネコ	

動物看護実習Ⅱ－1

19	口輪の使用法 猫	1.シラバスとの関係	ネコにおける口輪の選択と使用法を学ぶ	
		2.コマ主題	口輪の使用法　ネコ	
		3.コマ主題細目	口輪の種類・サイズ・使用法・ネコ袋の使用法	
		4.コマ主題細目深度	様々な口輪の種類を知り、用途に応じた選択ができるようになる。口輪が必要なネコの状態および正しい使用法を学び、安全な処置につなげることができる。また、処置に使用されるネコ袋の使用法と効果を知り、安全な処置につなげることができる	
		5.次コマとの関係	エリザベスカラー・口輪　小テスト	
20	エリザベスカラー・口輪 小テスト	1.シラバスとの関係	エリザベスカラー・口輪の選択・使用法に関する理解度を確認する。	
		2.コマ主題	エリザベスカラー・口輪　小テスト	
		3.コマ主題細目	エリザベスカラー・口輪　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	エリザベスカラー・口輪において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	解剖生理　ウサギ	
21	ウサギ 解剖生理	1.シラバスとの関係	ウサギの種類を知り、保定に必要な解剖生理を学ぶ	
		2.コマ主題	ウサギ　解剖生理	
		3.コマ主題細目	ウサギの種類・解剖生理	
		4.コマ主題細目深度	ウサギの種類を知り、解剖生理について学ぶ	
		5.次コマとの関係	ウサギ　保定	
22	ウサギ 保定	1.シラバスとの関係	ウサギの保定法を学び、安全な診察・治療につなげることができる	
		2.コマ主題	ウサギ　保定	
		3.コマ主題細目	ウサギの保定法	
		4.コマ主題細目深度	ウサギの保定における3つの方法を学び、安全な診察・処置のサポートができるようになる。	
		5.次コマとの関係	ハムスター　解剖生理	
23	ハムスター 解剖生理	1.シラバスとの関係	ハムスターの種類を知り、保定に必要な解剖生理を学ぶ	
		2.コマ主題	ハムスター　解剖生理	
		3.コマ主題細目	ハムスターの種類・解剖生理	
		4.コマ主題細目深度	ハムスターの種類を知り、解剖生理について学ぶ	
		5.次コマとの関係	ハムスター　保定	
24	ハムスター 保定	1.シラバスとの関係	ハムスターの保定法を学び、安全な診察・治療につなげることができる	
		2.コマ主題	ハムスター　保定	
		3.コマ主題細目	ハムスターの保定法	
		4.コマ主題細目深度	ハムスターの保定法を学び、安全な診察・処置のサポートができる	
		5.次コマとの関係	モルモット　解剖生理	
25	モルモット 解剖生理	1.シラバスとの関係	モルモットの種類を知り、保定に必要な解剖生理を学ぶ	
		2.コマ主題	モルモット　解剖生理	
		3.コマ主題細目	モルモットの種類・解剖生理	
		4.コマ主題細目深度	モルモットの種類を知り、解剖生理について学ぶ	
		5.次コマとの関係	モルモット　保定	
26	モルモット 保定	1.シラバスとの関係	モルモットの保定法を学び、安全な診察・治療につなげることができる	
		2.コマ主題	モルモット　保定	
		3.コマ主題細目	モルモットの保定法	
		4.コマ主題細目深度	モルモットの保定法を学び、安全な診察・処置のサポートができるようになる	
		5.次コマとの関係	フェレット　解剖生理	
27	フェレット 解剖生理	1.シラバスとの関係	フェレットの保定に必要な解剖生理を学ぶ	
		2.コマ主題	フェレット　解剖生理	
		3.コマ主題細目	フェレットの解剖生理	
		4.コマ主題細目深度	フェレット解剖生理について学ぶ。	
		5.次コマとの関係	フェレット　保定	
28	フェレット 保定	1.シラバスとの関係	フェレットの保定法を学び、安全な診察・治療につなげることができる	
		2.コマ主題	フェレット　保定	
		3.コマ主題細目	ファレットの保定法	
		4.コマ主題細目深度	フェレットの保定法を学び、安全な診察・処置のサポートができるようになる。	
		5.次コマとの関係	鳥類　解剖生理	
29	鳥類 解剖生理	1.シラバスとの関係	ペット・野生下にて動物病院に来院する鳥類の種類および、診療時の保定に必要な解剖生理を学ぶ	
		2.コマ主題	鳥類　解剖生理	
		3.コマ主題細目	鳥類の種類・解剖生理	
		4.コマ主題細目深度	ペットとして飼育されている基本的な鳥類の種類を学び、その判別ができるようになる。また野生下における鳥類で動物病院に来院する鳥類の種類についても理解を深める	
		5.次コマとの関係	鳥類　保定	
30	鳥類 保定	1.シラバスとの関係	鳥類の保定法を学び、安全な診察・治療につなげることができる	
		2.コマ主題	鳥類　保定	
		3.コマ主題細目	ファレットの保定法	
		4.コマ主題細目深度	鳥類の保定法を学び、安全な診察・処置のサポートができるようになる。	
		5.次コマとの関係	エキゾチックアニマル　保定　小テスト	

31	エキゾチックアニマル　保定 小テスト	1.シラバスとの関係	エキゾチックアニマルの保定法に関する理解度を確認する	
		2.コマ主題	エキゾチックアニマル　保定　小テスト	
		3.コマ主題細目	エキゾチックアニマル　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	エキゾチックアニマルにおいて、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	眼科検査　解剖生理	
32	眼科検査 解剖生理	1.シラバスとの関係	眼の解剖生理を理解し、眼科検査時の保定法を身につける	
		2.コマ主題	眼科検査　解剖生理	
		3.コマ主題細目	眼の各部名称・眼科検査の種類・眼の疾患	
		4.コマ主題細目深度	眼の解剖生理を理解し、眼科検査が必要となる疾患について学ぶ。眼科検査の種類を知ることができる	
		5.次コマとの関係	眼科検査　保定	
33	眼科検査 保定	1.シラバスとの関係	眼科検査における保定法をマスターする	
		2.コマ主題	眼科検査　保定	
		3.コマ主題細目	眼科検査時の保定法	
		4.コマ主題細目深度	眼の状態チェックおよび眼科検査を行う際の保定法を身につける	
		5.次コマとの関係	耳の検査　解剖生理	
34	耳の検査 解剖生理	1.シラバスとの関係	耳の解剖生理を理解し、耳の検査時の保定法を身につける	
		2.コマ主題	耳の検査　解剖生理	
		3.コマ主題細目	耳の各部名称・耳の検査の種類・耳の疾患	
		4.コマ主題細目深度	耳の解剖生理を理解し、耳の検査が必要となる疾患について学ぶ。耳の検査の種類を知ることができる	
		5.次コマとの関係	耳の検査　保定	
35	耳の検査 保定	1.シラバスとの関係	耳の検査における保定法をマスターする	
		2.コマ主題	耳の検査　保定	
		3.コマ主題細目	耳の検査時の保定法	
		4.コマ主題細目深度	耳の状態チェックおよび耳の検査を行う際の保定法を身につける	
		5.次コマとの関係	眼科・耳の検査　保定　小テスト	
36	眼科・耳の検査　保定 小テスト	1.シラバスとの関係	眼科・耳の検査における理解度を確認する	
		2.コマ主題	眼科・耳の検査　保定　小テスト	
		3.コマ主題細目	眼科・耳の検査　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	眼科・耳の検査において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	血液　解剖生理	
37	血液 解剖生理	1.シラバスとの関係	採血時の保定に必要な解剖生理学を学ぶ	
		2.コマ主題	血液　解剖生理	
		3.コマ主題細目	駆血部位と血管の名称	
		4.コマ主題細目深度	採血に用いる犬・猫の血管の名称と部位を学び、それぞれの血管の走行を理解できるようになる	
		5.次コマとの関係	採血・静脈内注射　保定	
38	採血・静脈内注射 保定	1.シラバスとの関係	採血・静脈内注射時の保定および駆血の手技を身につける	
		2.コマ主題	採血・静脈内注射　保定	
		3.コマ主題細目	採血時の保定・静脈注射時の保定・それぞれの駆血法	
		4.コマ主題細目深度	イヌ・ネコおよび目的に応じた採血時の保定法について学び、手技を実践できるようになる。また駆血を行えるようになる。動物を安心させ、落ち着かせる声掛けができるようになる。静脈注射時の保定法をマスターする	
		5.次コマとの関係	皮膚・筋肉　解剖生理	
39	皮膚・筋肉 解剖生理	1.シラバスとの関係	皮下注射・皮内注射・筋肉内注射の保定に必要な解剖生理学を学ぶ	
		2.コマ主題	皮膚・筋肉　解剖生理	
		3.コマ主題細目	皮下注射・皮内注射・筋肉内注射を行う部位	
		4.コマ主題細目深度	皮下・皮内・筋肉内注射の部位を知る	
		5.次コマとの関係	注射（皮下・皮内・筋肉）　保定	
40	注射（皮下・皮内・筋肉） 保定	1.シラバスとの関係	皮下注射・皮内注射・筋肉内注射の部位を学び、注射時の保定の手技を身につける	
		2.コマ主題	注射（皮下・皮内・筋肉）　保定	
		3.コマ主題細目	皮下注射・皮内注射・筋肉内注射を行う部位・注射時の保定	
		4.コマ主題細目深度	皮下注射・皮内注射・筋肉内注射時の保定について学び、手技を実践できるようになる。動物を安心させ、落ち着かせる声掛けができる	
		5.次コマとの関係	採血・注射時　保定　小テスト	
41	採血・注射時　保定 小テスト	1.シラバスとの関係	採血・注射時の保定法に関しての理解度を確認する	
		2.コマ主題	採血・注射時　保定　小テスト	
		3.コマ主題細目	採血・注射時　保定　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	採血・注射時　保定において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	レントゲン　概論	
42	レントゲン 概論	1.シラバスとの関係	レントゲン撮影の仕組み・装置の操作法を学び、適切なポジショニングがとれるようになる	
		2.コマ主題	レントゲン　概論	
		3.コマ主題細目	レントゲン撮影の仕組み・手技	
		4.コマ主題細目深度	レントゲン撮影の仕組みを学び、動物・撮影者に安全な撮影法と保定について知識を深める	
		5.次コマとの関係	レントゲン　保定	

動物看護実習Ⅱ－1

43	レントゲン 保定	1.シラバスとの関係	必要な画像のためのポジショニング及び保定ができるようになる	
		2.コマ主題	レントゲン　保定	
		3.コマ主題細目	レントゲン撮影時の保定	
		4.コマ主題細目深度	X線の放射について理解し、正しいポジショニングおよび保定ができる。DV・VD・ラテラルの保定が出来るようになる。麻酔科の撮影において速やかな手順で撮影を終えることができる	
		5.次コマとの関係	心電図　概論	
44	心電図 概論	1.シラバスとの関係	心電図の仕組み・器機の操作法を学び、適切な保定法の技術を身につける	
		2.コマ主題	心電図　概論	
		3.コマ主題細目	心電図測定の仕組み・手技	
		4.コマ主題細目深度	心電図測定の仕組みを学び、安定した波形を得るための保定法を知る	
		5.次コマとの関係	心電図　保定	
45	心電図 保定	1.シラバスとの関係	心電図測定のための電極の装着および測定時の保定ができるようになる	
		2.コマ主題	心電図　保定	
		3.コマ主題細目	心電図測定時の保定	
		4.コマ主題細目深度	心電図測定について理解し、正確な波形を得るための電極の装着および、測定時の保定ができる	
		5.次コマとの関係	動物看護実習Ⅱ-2に進む	

動物看護実習Ⅱ－2

学科	動物看護系学科	シラバス（概要）
コース		「動物看護実習Ⅰ」での実践能力に応用力を用いて、正確性や迅速性を身につける。動物の基礎情報を収集し、診療補助からはじまるトータルケアの看護技術を学ぶ。飼い主から得た主訴・病歴などの情報をもとに、全身の身体検査を実施し、バイタルサインの評価・記録・獣医師への報告が行えるようになる。エキゾチックアニマルの状態観察法も知り、幼齢動物・高齢動物にみられる特融の状態や疾患を理解し、全身評価ができるようにする。それぞれの動物種と状態に応じた保定技術を身につけ、できるだけ受診動物に負担がなく、かつスムーズな診察・処置が行えるよう、サポートができるように習得する。投薬や輸液が必要なケースにおいて、器機の管理・備品の準備・正確な手技をマスターし、動物の状態観察および看護に努め、院内・犬舎・猫舎・入院舎の衛生管理に努め、滅菌・消毒・殺菌への理解を深めながら感染の予防を実践する。
履修条件	動物看護実習Ⅰを履修すること・動物看護実習Ⅱ-1を履修すること	
ユニット		
科目名	動物看護実習Ⅱ－2	
単位	1（Ⅱ-1～3合わせて3単位）	
履修時間	45時間（Ⅱ-1～3合わせて135時間）	
回数	45回（Ⅱ-1～3合わせて135回）	
授業形態	実習	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員会	実技試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①動物看護の教科書第1巻（緑書房）②基礎動物看護技術（インターズー）③動物看護実習テキスト（インターズー）④動物看護実践基準（インターズー）	

コマシラバス

50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	超音波 概論	1.シラバスとの関係	超音波の仕組み・器機の操作法を学び、適切な保定ができるようになる	
		2.コマ主題	超音波　概論	
		3.コマ主題細目	超音波検査のしくみ・手技	
		4.コマ主題細目深度	超音波検査のしくみを学び、綺麗な画像を得るための保定法を知る	
		5.次コマとの関係	超音波　保定	
2	超音波 保定	1.シラバスとの関係	必要な画像のためのポジショニングおよび保定ができるようになる	
		2.コマ主題	保定　超音波	
		3.コマ主題細目	超音波画像診断のための保定	
		4.コマ主題細目深度	画像診断に必要な部位へのアプローチ法を学び、安定したポジショニングおよび保定ができるようになる。また撮影時に動物に安心感を与えられる様な声掛けができる	
		5.次コマとの関係	レントゲン・心電図・超音波保定　小テスト	
3	レントゲン・心電図・超音波保定　小テスト	1.シラバスとの関係	レントゲン・心電図・超音波保定　小テスト	
		2.コマ主題	レントゲン・心電図・超音波保定　小テスト	
		3.コマ主題細目	レントゲン・心電図・超音波保定　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	レントゲン・心電図・超音波保定において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	各器官系評価①　概論	
4	各器官系評価 概論	1.シラバスとの関係	各器官系および外皮系の身体検査における、項目・評価について学ぶ。異常がみられ、疾患が懸念される場合は獣医師に報告できるようになる。	
		2.コマ主題	各器官系評価　概論	
		3.コマ主題細目	検査項目・評価・正常と異常	
		4.コマ主題細目深度	主訴と統合し、各器官系および外皮系の身体検査項目と評価を学ぶ。それぞれの正常な状態を知り、チェック項目の理解と異常の発見・報告ができる	
		5.次コマとの関係	各器官系評価①　皮膚・被毛	
5	各器官系評価① 皮膚・被毛	1.シラバスとの関係	外皮系の身体検査項目・評価・正常と異常について学ぶ	
		2.コマ主題	各器官系評価①　皮膚・被毛	
		3.コマ主題細目	皮膚・被毛のチェック項目・正常と異常	
		4.コマ主題細目深度	皮膚・被毛の全体の外観と状態をチェックし、赤み・膿疱の有無、腫瘤病変の有無などの確認ができる。正常と異常の判別ができる力を養う。また観察内容を客観的と主観的に得た情報として記録し、獣医師に報告できる	
		5.次コマとの関係	各器官系評価②　眼	
6	各器官系評価② 眼	1.シラバスとの関係	眼の身体検査項目・評価・正常と異常について学ぶ	
		2.コマ主題	各器官系評価②　眼	
		3.コマ主題細目	眼のチェック項目・正常と異常	
		4.コマ主題細目深度	外部構造と内部構造をチェックし、分泌物や色調・出血の有無などの確認ができる。正常と異常の判別ができる力を養う。また観察内容を記録し、獣医師に報告できる	
		5.次コマとの関係	各器官系評価③　耳	
7	各器官系評価③ 耳	1.シラバスとの関係	耳の身体検査項目・評価・正常と異常について学ぶ	
		2.コマ主題	各器官系評価③　耳	
		3.コマ主題細目	耳のチェック項目・正常と異常	
		4.コマ主題細目深度	耳介の触診・視診と外耳道の視診について学ぶ。脱毛・血腫など、病変の有無を確認し、正常と異常の判別ができる力を養う。また観察内容を記録し、獣医師に報告できるようになる。	
		5.次コマとの関係	各器官系評価④　口腔・歯科	
8	各器官系評価④ 口腔・歯科	1.シラバスとの関係	口腔・歯科の身体検査項目・評価・正常と異常について学ぶ	
		2.コマ主題	各器官系評価④　口腔・歯科	
		3.コマ主題細目	口腔・歯科のチェック項目・正常と異常	
		4.コマ主題細目深度	口腔内の状態観察および、歯垢・歯石の有無、腫れ・出血などの確認ができる。正常と異常の判別ができる力を養い、観察内容の記録と獣医師への報告ができる	
		5.次コマとの関係	各器官系評価⑤　筋骨格系	

9	各器官系評価⑤ 筋骨格系	1.シラバスとの関係	筋骨格系の身体検査項目・評価・正常と異常について学ぶ	
		2.コマ主題	各器官系評価⑤　筋骨格系	
		3.コマ主題細目	筋骨格系のチェック項目・正常と異常	
		4.コマ主題細目深度	筋骨格の全体バランス・対称性のチェックについて学ぶ。頭部・四肢の筋肉触診および関節可動域について理解し、触診の手技をマスターする。各部位の疼痛の有無と正常・異常の確認について学び、記録できる力を養う。記録内容を獣医師に報告ができる。	
		5.次コマとの関係	各器官系評価⑥　末梢リンパ系	
10	各器官系評価⑥ 末梢リンパ系	1.シラバスとの関係	末梢リンパ系の身体検査項目・評価・正常と異常について学ぶ	
		2.コマ主題	各器官系評価⑥　末梢リンパ系	
		3.コマ主題細目	末梢リンパ系のチェック項目・正常と異常	
		4.コマ主題細目深度	リンパ節の場所を学び、腫れがないかの確認ができる。状態を記録し、獣医師に報告ができる	
		5.次コマとの関係	各器官系評価⑦　神経系	
11	各器官系評価⑦ 神経系	1.シラバスとの関係	神経系の身体検査項目・評価・正常と異常について学ぶ	
		2.コマ主題	各器官系評価⑦　神経系	
		3.コマ主題細目	神経系のチェック項目・正常と異常	
		4.コマ主題細目深度	神経学的検査の項目を知り、手技の種類について理解を深める。獣医師とともに行う検査において、評価記録法に基づき、正しく記録できる	
		5.次コマとの関係	各器官系評価⑧　呼吸器系	
12	各器官系評価⑧ 呼吸器系	1.シラバスとの関係	呼吸器系の身体検査項目・評価・正常と異常について学ぶ	
		2.コマ主題	各器官系評価⑧　呼吸器系	
		3.コマ主題細目	呼吸器系のチェック項目・正常と異常	
		5.次コマとの関係	各器官系評価⑨　心血管系	
13	各器官系評価⑨ 心血管系	1.シラバスとの関係	心血管系の身体検査項目・評価・正常と異常について学ぶ	
		2.コマ主題	各器官系評価⑨　心血管系	
		3.コマ主題細目	心血管系のチェック項目・正常と異常	
		4.コマ主題細目深度	聴診の手技を身につけ、股動脈圧の触診・頸静脈の拍動測定および心臓の聴診ができる。心拍数の正常値を知り、心拍数とリズムの記録について学ぶ。心雑音の有無と特徴の聞き取りができる。粘膜の色調とCRTの正常・異常の判断について理解する。各記録を正確に行い、獣医師に報告ができる	
		5.次コマとの関係	各器官系評価⑩　消化器系	
14	各器官系評価⑩ 消化器系	1.シラバスとの関係	消化器系の身体検査項目・評価・正常と異常について学ぶ	
		2.コマ主題	各器官系評価⑩　消化器系	
		3.コマ主題細目	消化器系のチェック項目・正常と異常	
		4.コマ主題細目深度	腹部臓器の位置を知り、腹部触診の手技を学ぶ。膨満の有無・触知の可否など触診所見の記録ができる。肛門周囲・会陰部の観察法とチェック項目を知る。直腸検査の実際について学ぶ	
		5.次コマとの関係	各器官系評価⑪　泌尿・生殖器系	
15	各器官系評価⑪ 泌尿・生殖器系	1.シラバスとの関係	泌尿・生殖器系の身体検査項目・評価・正常と異常について学ぶ	
		2.コマ主題	各器官系評価⑪　泌尿・生殖器系	
		3.コマ主題細目	泌尿・生殖器系のチェック項目・正常と異常	
		4.コマ主題細目深度	腎・膀胱・子宮・尿道・前立腺・ペニス・睾丸・膣・乳腺の触診ができる。膀胱の触診にて欠席や腫瘤病変の有無の確認ができる。観察・記録・獣医師への報告を正しく行える	
		5.次コマとの関係	各器官系評価　小テスト	
16	各器官系評価 小テスト	1.シラバスとの関係	各器官系・外皮系の身体検査項目・評価・正常と異常の判別への理解度を確認する	
		2.コマ主題	各器官系評価　小テスト	
		3.コマ主題細目	各器官系評価　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	各器官系評価において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	バイタルチェック①　体温　概論	
17	バイタルチェック① 体温　概論	1.シラバスとの関係	測定部位に応じた体温計を選択できる。正常値を知る	
		2.コマ主題	バイタルチェック①　体温　概論	
		3.コマ主題細目	測定部位・体温計の種類	
		4.コマ主題細目深度	体温の測定部位と正常値を知る。それぞれの部位に応じた体温計の使用法を学ぶ	
		5.次コマとの関係	バイタルチェック②　体温　手技	
18	バイタルチェック② 体温　手技	1.シラバスとの関係	イヌ・ネコの体温を測定し、記録・報告できるようになる	
		2.コマ主題	バイタルチェック②　体温　手技	
		3.コマ主題細目	手技・記録・報告	
		4.コマ主題細目深度	測定の手技をマスターできる。測定記録をつけ、異常な場合は獣医師に報告できる	
		5.次コマとの関係	バイタルチェック③　脈拍　概論	
19	バイタルチェック③ 脈拍　概論	1.シラバスとの関係	脈拍の測定部位を知る。正常値を知る	
		2.コマ主題	バイタルチェック③　脈拍　概論	
		3.コマ主題細目	脈拍の測定部位	
		4.コマ主題細目深度	イヌ・ネコの脈拍測定における部位を知り、正常値・正常な状態を理解できる	
		5.次コマとの関係	バイタルチェック④　脈拍　手技	

動物看護実習Ⅱ－2

20	バイタルチェック④ 脈拍　手技	1.シラバスとの関係	犬・猫の脈拍を測定し、記録・報告できるようになる	
		2.コマ主題	バイタルチェック④　脈拍　手技	
		3.コマ主題細目	手技・記録・報告	
		4.コマ主題細目深度	測定の手技をマスターできる。測定記録をつけ、異常な場合は獣医師に報告できる	
		5.次コマとの関係	バイタルチェック⑤　呼吸数・呼吸パターン　概論	
21	バイタルチェック⑤ 呼吸数・呼吸パターン　概論	1.シラバスとの関係	呼吸数の測定部位を知る。正常値を知る。異常な呼吸パターンを学ぶ	
		2.コマ主題	バイタルチェック⑤　呼吸数・呼吸パターン　概論	
		3.コマ主題細目	測定部位・正常値・異常な呼吸パターン	
		4.コマ主題細目深度	イヌ・ネコの呼吸数測定における部位を知り、正常値・正常な状態を理解できる	
		5.次コマとの関係	バイタルチェック⑥　呼吸数・呼吸パターン　手技	
22	バイタルチェック⑥ 呼吸数・呼吸パターン　手技	1.シラバスとの関係	イヌ・ネコの呼吸数・呼吸状態を把握し、記録・報告できるようになる	
		2.コマ主題	バイタルチェック⑥　呼吸数・呼吸パターン　手技	
		3.コマ主題細目	手技・記録・報告	
		4.コマ主題細目深度	測定の手技をマスターできる。測定記録をつけ、異常な場合は獣医師に報告できる	
		5.次コマとの関係	バイタルチェック⑦　体重測定	
23	バイタルチェック⑦ 体重測定	1.シラバスとの関係	イヌ・ネコの体重測定ができるようになる	
		2.コマ主題	バイタルチェック⑦　体重測定	
		3.コマ主題細目	測定方法・適正体重	
		4.コマ主題細目深度	イヌ・ネコの体重測定方法および、犬種・猫種の適正体重が理解できるようになる。削痩・肥満傾向にある場合は獣医師に報告できる	
		5.次コマとの関係	バイタルチェック・体重測定　小テスト	
24	バイタルチェック・体重測定 小テスト	1.シラバスとの関係	バイタルチェック・体重測定の理解度を確認する	
		2.コマ主題	バイタルチェック・体重測定　小テスト	
		3.コマ主題細目	バイタルチェック・体重測定　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	バイタルチェック・体重測定において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	バイタルチェック　PFA	
25	バイタルチェック PFA	1.シラバスとの関係	股動脈圧（PFA）の測定部位・測定法・評価法を学ぶ	
		2.コマ主題	バイタルチェック　PFA	
		3.コマ主題細目	測定部位・測定法・評価法	
		4.コマ主題細目深度	PFAの測定部位を知り、測定法を学ぶ。また圧力の評価について理解できる	
26	バイタルチェック CRT	1.シラバスとの関係	可視粘膜の観察・毛細血管再充満時間（CRT）の測定部位・測定法・評価法を学ぶ	
		2.コマ主題	バイタルチェック　CRT	
		3.コマ主題細目	測定部位・測定法・評価法	
		4.コマ主題細目深度	口腔粘膜・可視粘膜の色調を観察し、正常・異常のが判断できる。評価法における蒼白・黄色・紫色・充血から考えられる動物の状態および疾患が分かる。CRTの測定ができ、異常な場合に考えられる動物の状態・疾患が理解できる	
		5.次コマとの関係	血圧測定	
27	血圧測定	1.シラバスとの関係	血圧測定の意味と測定部位・測定法・評価法を学ぶ	
		2.コマ主題	血圧測定	
		3.コマ主題細目	意義・測定法・評価法	
		4.コマ主題細目深度	血の測定部位を知り、プローブを正しく装着できる。正常値を理解し、異常値および状態の判別ができる。	
		5.次コマとの関係	尿生産量チェック	
28	尿生産量チェック	1.シラバスとの関係	尿生成の仕組みを学び、尿生産量の検査方法を学ぶ	
		2.コマ主題	尿生産量チェック	
		3.コマ主題細目	尿生成の仕組み・検査方法・評価法	
		4.コマ主題細目深度	尿量をチェックする必要があるケースを学び、その手技を知る。膀胱カテーテル留置とは、閉鎖採尿システムとは何かが理解できる	
		5.次コマとの関係	動脈血酸素飽和度測定	
29	動脈血酸素飽和度測定	1.シラバスとの関係	酸素飽和度の意味と測定部位・測定法・評価法を学ぶ	
		2.コマ主題	酸素飽和度測定	
		3.コマ主題細目	意義・測定法・評価法	
		4.コマ主題細目深度	動脈血の酸素飽和度の測定部位を知り、プローブを正しく装着できる。正常値を理解し、異常値および状態の判別ができる。低下時の対応ができる	
		5.次コマとの関係	PFA・CRT・血圧測定・尿生産量チェック・酸素飽和度測定　小テスト	
30	PFA・CRT・血圧測定・尿生産量チェック・酸素飽和度測定 小テスト	1.シラバスとの関係	PFA・CRT・血圧測定・尿生産量チェック・酸素飽和度測定に関しての理解度を確認する	
		2.コマ主題	PFA・CRT・血圧測定・尿生産量チェック・酸素飽和度測定　小テスト	
		3.コマ主題細目	PFA・CRT・血圧測定・尿生産量チェック・酸素飽和度測定　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	PFA・CRT・血圧測定・尿生産量チェック・酸素飽和度測定において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	子イヌの全身評価　概論	

動物看護実習Ⅱ－2

31	子イヌの全身評価 概論	1.シラバスとの関係	子イヌの全身評価法を学び、正常・異常の判断ができるようになる	
		2.コマ主題	子イヌの全身評価　概論	
		3.コマ主題細目	身体検査・全身評価・正常・異常の判断	
		4.コマ主題細目深度	子イヌの身体検査のポイントを学ぶ	
		5.次コマとの関係	子イヌの全身評価　手技	
32	子イヌの全身評価 手技	1.シラバスとの関係	子イヌの全身評価において、その手技を身につけ記録ができる。	
		2.コマ主題	子イヌの全身評価　手技	
		3.コマ主題細目	手技・評価法	
		4.コマ主題細目深度	評価法を知る。正常・異常の判断ができ、記録ができるようになる。	
		5.次コマとの関係	子ネコの全身評価	
33	子ネコの全身評価 概論	1.シラバスとの関係	子ネコの全身評価法を学び、正常・異常の判断ができるようになる。	
		2.コマ主題	子ネコの全身評価　概論	
		3.コマ主題細目	身体検査・全身評価・正常・異常の判断	
		4.コマ主題細目深度	子ネコの身体検査のポイントを学ぶ。	
		5.次コマとの関係	子ネコの全身評価　手技	
34	子ネコの全身評価 手技	1.シラバスとの関係	子ネコの全身評価において、その手技を身につけ記録ができる	
		2.コマ主題	子ネコの全身評価　手技	
		3.コマ主題細目	手技・評価法	
		4.コマ主題細目深度	評価法を知る。正常・異常の判断ができ、記録ができる	
		5.次コマとの関係	老齢動物の全身評価　概論	
35	老齢動物の全身評価 概論	1.シラバスとの関係	老齢動物の全身評価法を学び、正常・異常の判断ができるようになる	
		2.コマ主題	老齢動物の全身評価　概論	
		3.コマ主題細目	身体検査・全身評価・正常・異常の判断	
		4.コマ主題細目深度	老齢動物の身体状態を知り、身体検査のポイントを学ぶ	
		5.次コマとの関係	老齢動物の全身評価　手技	
36	老齢動物の全身評価 手技	1.シラバスとの関係	老齢動物の全身評価において、その手技を身につけ記録ができる。	
		2.コマ主題	老齢動物の全身評価　手技	
		3.コマ主題細目	手技・評価法	
		4.コマ主題細目深度	評価法を知る。正常・異常の判断ができ、記録ができる	
		5.次コマとの関係	幼齢動物・老齢動物の全身評価　小テスト	
37	幼齢動物・老齢動物の全身評価 小テスト	1.シラバスとの関係	幼齢動物・老齢動物の全身評価法と手技に関する理解度を確認する	
		2.コマ主題	幼齢動物・老齢動物の全身評価　小テスト	
		3.コマ主題細目	幼齢動物・老齢動物の全身評価　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	幼齢動物・老齢動物の全身評価において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	聴診法　概論	
38	聴診法 概論	1.シラバスとの関係	聴診法で得る情報から、正常・異常の判断ができるようになる。聴診器各部の名称と種類を知り、適切な使用法・管理ができる	
		4.コマ主題細目深度	身体検査における聴診法の意義と目的を知る。肺・心臓の解剖生理・位置を理解し、アプローチ部位を学ぶ。正常温と異常音の聞き分けができる	
		5.次コマとの関係	聴診法①聴診器各部の名称・使用法	
39	聴診法① 名称・種類・使用法	1.シラバスとの関係	聴診器各部の名称・種類を知り、正しい使用法を学ぶ	
		2.コマ主題	聴診法①	
		3.コマ主題細目	聴診器各部の名称・種類・使用法	
		4.コマ主題細目深度	聴診器各部の名称と種類を知る。正しい使用法を学び、管理ができる	
		5.次コマとの関係	聴診法②聴診の手技・評価	
40	聴診法② 手技・評価	1.シラバスとの関係	聴診の手技と正常・異常の評価について学ぶ	
		2.コマ主題	聴診法②	
		3.コマ主題細目	聴診の手技・評価	
		4.コマ主題細目深度	肺・心臓の聴診法の手技を知り、正常温と異常音の聞き分けができる。また異常音にて疑われる疾患について学ぶ	
		5.次コマとの関係	聴診法　小テスト	
41	聴診法 小テスト	1.シラバスとの関係	聴診法の理解度を確認する	
		2.コマ主題	聴診法　小テスト	
		3.コマ主題細目	聴診法　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	聴診法において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	調剤①　概論	
42	調剤 概論	1.シラバスとの関係	処方箋に従った薬剤の準備及び適切な薬剤の取り扱いを身につける	
		2.コマ主題	調剤①　概論	
		3.コマ主題細目	調剤とは・動物看護師の職域	
		4.コマ主題細目深度	獣医師法・薬事用について学び、動物看護師が行う調剤の職域について知る。医薬品の知識を備え、調剤の手順と手技を学び、正しい薬の説明と投与法について飼い主に説明ができる	
		5.次コマとの関係	調剤　　医薬品　概論	

43	調剤① 医薬品　概論	1.シラバスとの関係	医薬品の定義を知り、情報の必要性、薬物動態について理解する
		2.コマ主題	調剤①　医薬品　概論
		3.コマ主題細目	医薬品の定義・薬物動態
		4.コマ主題細目深度	医薬品の定義を知り、情報の必要性を学ぶ。薬物動態（吸収・代謝・排泄）について理解を深める
		5.次コマとの関係	調剤②　医薬品　取り扱い・廃棄
44	調剤② 医薬品　取り扱い・廃棄	1.シラバスとの関係	医薬品の正しい取り扱い・管理・廃棄について学ぶ
		2.コマ主題	調剤②　医薬品　取り扱い・廃棄
		3.コマ主題細目	取り扱い・管理・廃棄
		4.コマ主題細目深度	医薬品を正しく取り扱い・適切な日常の管理および在庫の管理がができるようになる。また感染性廃棄物と非感染性廃棄物の分別・医療廃棄物の処理が適切にできる
		5.次コマとの関係	調剤③　処方箋・用語
45	調剤③ 処方箋・用語	1.シラバスとの関係	処方箋と調剤用語を理解できる
		2.コマ主題	調剤③　処方箋・用語
		3.コマ主題細目	処方箋・調剤用語
		4.コマ主題細目深度	処方箋の意味を知り、記載されている内容が理解できるようになる。処方箋に用いられる略語を知る
		5.次コマとの関係	動物看護学Ⅱ-3に進む

動物看護実習Ⅱ－3

学科	動物看護系学科	シラバス（概要）
コース		「動物看護実習Ⅰ」での実践能力に応用力を用いて、正確性や迅速性を身につける。動物の基礎情報を収集し、診療補助からはじまるトータルケアの看護技術を学ぶ。飼い主から得た主訴・病歴などの情報をもとに、全身の身体検査を実施し、バイタルサインの評価・記録・獣医師への報告が行えるようになる。エキゾチックアニマルの状態観察法も知り、幼齢動物・高齢動物にみられる特融の状態や疾患を理解し、全身評価ができるようにする。それぞれの動物種と状態に応じた保定技術を身につけ、できるだけ受診動物に負担がなく、かつスムーズな診察・処置が行えるよう、サポートができるように習得する。投薬や輸液が必要なケースにおいて、器機の管理・備品の準備・正確な手技をマスターし、動物の状態観察および看護に努め、院内・犬舎・猫舎・入院舎の衛生管理に努め、滅菌・消毒・殺菌への理解を深めながら感染の予防を実践する。
履修条件	動物看護実習Ⅰを履修すること・動物看護実習Ⅱ-1・2を履修すること	
ユニット		
科目名	動物看護実習Ⅱ-3	
単位	1（Ⅱ-1～3合わせて3単位）	
履修時間	45時間（Ⅱ-1～3合わせて135時間）	
回数	45回（Ⅱ-1～3合わせて135回）	
授業形態	実習	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員会	実技試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①動物看護の教科書第1巻（緑書房）②基礎動物看護技術（インターズー）③動物看護実習テキスト（インターズー）④動物看護実践基準（インターズー）	

コマシラバス

50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	調剤④ 種類・形状・標記	1.シラバスとの関係	医薬品の種類を知り、薬剤の形状・標記を理解できる	
		2.コマ主題	調剤④　種類・形状・標記	
		3.コマ主題細目	医薬品の種類・分類・薬剤の形状・標記	
		4.コマ主題細目深度	医薬品の種類・分類（毒・劇・を知り、内服薬・外用薬・注射薬の種類と特徴を学ぶ。薬の形状について理解できる。薬の標記に関して知る。	
		5.次コマとの関係	調剤⑤　薬用量計算	
2	調剤⑤ 薬用量計算	1.シラバスとの関係	正確に薬用量の計算ができる	
		2.コマ主題	調剤⑤　薬用量計算	
		3.コマ主題細目	薬用量計算	
		4.コマ主題細目深度	正しい薬用量の計算を行い、必要な分量の準備ができるようになる。	
		5.次コマとの関係	調剤⑥　調剤の手技	
3	調剤⑥ 手技	1.シラバスとの関係	各種薬剤の調剤法を学ぶ	
		2.コマ主題	調剤⑥　手技	
		3.コマ主題細目	分割調剤・粉砕調剤・液剤の調剤	
		4.コマ主題細目深度	各種薬剤の調剤法を学ぶ。電子天秤を正しく扱える。錠剤の分割調剤・粉砕調剤・液剤の調剤の手技を学び、等しい分量での調剤ができる。	
		5.次コマとの関係	調剤⑦　分包	
4	調剤⑦ 分包	1.シラバスとの関係	分包の手技を学ぶ	
		2.コマ主題	調剤⑦　分包	
		3.コマ主題細目	手分割分包機・手分包・分包機の管理	
		4.コマ主題細目深度	分包機の使用法と管理ができる。手分割分包機の使用法を理解し、正しく分包することができる。また分包機の掃除と管理ができる。手分包の手技を身につける。	
		5.次コマとの関係	調剤⑧　薬袋・説明	
5	調剤⑧ 薬袋・説明	1.シラバスとの関係	薬袋の記入および処方された薬の内容、記載事項の説明ができる	
		2.コマ主題	調剤⑧　薬袋・説明	
		3.コマ主題細目	薬袋の準備・記入・投薬方法の説明	
		4.コマ主題細目深度	薬袋を正しく準備し、分かりやすい薬袋の作製ができるようになる。飼い主に対して、薬剤を正しく理解し、正確に投与してもらうための薬剤の投与法の説明ができる。	
		5.次コマとの関係	調剤⑨　投薬法　内服薬	
6	調剤⑨ 投薬法　内服薬	1.シラバスとの関係	内服薬の投薬法の手技を身につける。飼い主が家庭で実践できるポイントの説明ができる。	
		2.コマ主題	調剤⑨　投薬法　内服薬	
		3.コマ主題細目	手技・クライアントエデュケーション	
		4.コマ主題細目深度	内服薬であるカプセル・錠剤・散剤・液剤の投薬手技を身につける。水分や食餌に混ぜて与える方法について学ぶ。家庭で実践できるよう、飼い主へ手技の指導ができる。	
		5.次コマとの関係	調剤⑩　投薬法　外用薬	
7	調剤⑩ 投薬法　外用薬	1.シラバスとの関係	外用薬ほ投薬法の手技を身につける。飼い主が家庭で実践できるポイントの説明ができる。	
		2.コマ主題	調剤⑩　投薬法　外用薬	
		3.コマ主題細目	手技・クライアントエデュケーション	
		4.コマ主題細目深度	外用薬である点眼液・塗り薬の投与・塗布法を身につける。家庭で実践できるよう、飼い主へ手技の指導ができる。	
		5.次コマとの関係	調剤　小テスト	
8	調剤 小テスト	1.シラバスとの関係	調剤に関する理解度を確認する	
		2.コマ主題	調剤　小テスト	
		3.コマ主題細目	聴診法　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	聴診法において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	創傷管理　概論	

動物看護実習Ⅱ－3

9	創傷管理 概論	1.シラバスとの関係	創傷の分類と管理について学ぶ	
		2.コマ主題	創傷管理　概論	
		3.コマ主題細目	分類・褥瘡とは	
		4.コマ主題細目深度	創傷とは何か。創傷の分類について学び、観察ポイントと管理における確認事項について理解を深める。褥瘡の部位とケアについて理解する。	
		5.次コマとの関係	創傷管理　器具・手技	
10	創傷管理 手技	1.シラバスとの関係	創傷管理に使用する器具・保護材・手順について学ぶ	
		2.コマ主題	創傷管理　手技	
		3.コマ主題細目	器具・手順	
		4.コマ主題細目深度	創傷管理に用いる器具・ドレッシング材の種類を知る。創傷管理の手順として、洗浄・デブリードマン・止血・創面の被覆の流れを理解できる。	
		5.次コマとの関係	包帯法　概論	
11	包帯法 概論	1.シラバスとの関係	創傷管理における包帯法について学ぶ	
		2.コマ主題	包帯法　概論	
		3.コマ主題細目	包帯法の効果・手順・器具	
		4.コマ主題細目深度	包帯法の効果を知り、正しい手技が行える。第一層から第三層の手順を理解する。様々な包帯法の種類を知り、使用する器具について学ぶ。	
		5.次コマとの関係	包帯法　手技	
12	包帯法 手技	1.シラバスとの関係	包帯法の手技を学ぶ	
		2.コマ主題	包帯法　手技	
		3.コマ主題細目	手技	
		4.コマ主題細目深度	包帯法の手技を学び、正しい手順でケアができるようになる。包帯装着時のモニタリング・観察について学び、注意点を留意しながらアフターケアができるようになる。	
		5.次コマとの関係	腹帯　イヌ	
13	腹帯 犬	1.シラバスとの関係	腹帯の目的を知り、イヌにおける腹帯の準備・作成・装着について学ぶ。	
		2.コマ主題	腹帯　イヌ	
		3.コマ主題細目	目的・準備・作成方法・正しい装着と管理	
		4.コマ主題細目深度	腹帯を装着する事例と必要性を学ぶ。イヌにおける腹帯の準備及び個々に合った腹帯の作成ができる。正しく装着ができ、注意点を留意した管理ができる。	
		5.次コマとの関係	腹帯　ネコ	
14	腹帯 猫	1.シラバスとの関係	腹帯の目的を知り、猫における腹帯の準備と装着について学ぶ。	
		2.コマ主題	腹帯　ネコ	
		3.コマ主題細目	目的・準備・作成方法・正しい装着と管理	
		4.コマ主題細目深度	腹帯を装着する事例と必要性を学ぶ。ネコにおける腹帯の準備及び個々に合った腹帯の作成ができる。正しく装着ができ、注意点を留意した管理ができる。	
		5.次コマとの関係	創傷管理　小テスト	
15	創傷管理 小テスト	1.シラバスとの関係	創傷管理の理解度を確認する	
		2.コマ主題	創傷管理　小テスト	
		3.コマ主題細目	聴診法　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	聴診法において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	罨法　概論	
16	罨法 概論	1.シラバスとの関係	罨法を行う事例を知り、手技を身につける	
		2.コマ主題	罨法　概論	
		3.コマ主題細目	罨法とは・温罨法・冷罨法	
		4.コマ主題細目深度	罨法を用いる症状を理解し、温罨法と冷罨法の効果を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	罨法　手技	
17	罨法 手技	1.シラバスとの関係	罨法の手技を学び、適切なケアができるようになる	
		2.コマ主題	罨法　手技	
		3.コマ主題細目	手技	
		4.コマ主題細目深度	温罨法と冷罨法の手技をみにつける	
		5.次コマとの関係	吸引法　概論	
18	吸引法 概論	1.シラバスとの関係	吸引法を用いる事例を知り、手技を身につける	
		2.コマ主題	吸引法　概論	
		3.コマ主題細目	吸引法とは・効果	
		4.コマ主題細目深度	吸引のメカニズムを学び、用いる事例と効果を知る。	
		5.次コマとの関係	吸引法　手技	
19	吸引法 手技	1.シラバスとの関係	吸引器の使用法を知り、手技を理解する	
		2.コマ主題	吸引法　手技	
		3.コマ主題細目	吸引器の使用法・手技	
		4.コマ主題細目深度	吸引器の使用法要と手技について理解する。	
		5.次コマとの関係	罨法・吸引法　小テスト	
20	罨法・吸引法 小テスト	1.シラバスとの関係	罨法・吸引法の理解度を確認する	
		2.コマ主題	罨法・吸引法　小テスト	
		3.コマ主題細目	聴診法　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	聴診法において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	衛生管理・入院管理　概論	
21	衛生管理・入院管理 概論	1.シラバスとの関係	汚染を防ぐ入院動物の扱い方及び入院舎の清掃ができる	
		2.コマ主題	衛生管理・入院管理　概論	
		3.コマ主題細目	衛生管理とは	
		4.コマ主題細目深度	衛生管理の重要性を知り、院内全体及び入院舎の清掃・環境整備・衛生管理を正しく行えるようになる。	
		5.次コマとの関係	滅菌・消毒・殺菌	

22	衛生管理・入院管理① 滅菌・消毒・殺菌	1.シラバスとの関係	滅菌・消毒・殺菌の定義を知り、薬剤の使用目的と効果を理解する	
		2.コマ主題	衛生管理・入院管理①　滅菌・消毒・殺菌	
		3.コマ主題細目	定義・薬剤の目的・効果・滅菌器機の理解	
		4.コマ主題細目深度	滅菌・消毒・殺菌の定義を知り、その違いを学ぶ。用いる薬剤の使用目的と効果を理解できる。それぞれに用いる機器の名称・操作法・使用目的について知る。	
		5.次コマとの関係	衛生管理・入院管理②　感染	
23	衛生管理・入院管理② 感染	1.シラバスとの関係	感染の定義と感染症を理解する	
		2.コマ主題	衛生管理・入院管理②　感染	
		3.コマ主題細目	感染とは・定義・感染源・感染経路・感染症・対策	
		4.コマ主題細目深度	感染の定義を学び、感染源・感染経路の種類を知る。主な感染症とズーノーシスを学ぶ。院内感染を防ぐための対策法を知り、動物と看護者の安全確保に努めることができる	
		5.次コマとの関係	衛生管理・入院管理③　医療廃棄物処理	
24	衛生管理・入院管理③ 医療廃棄物処理	1.シラバスとの関係	廃棄物の分類を知り、廃棄物処理法に基づき正しい管理と処理ができるようになる	
		2.コマ主題	衛生管理・入院管理③　医療廃棄物処理	
		3.コマ主題細目	分類・医療廃棄物処理法・管理と処理法	
		4.コマ主題細目深度	産業廃棄物処理法を知り、感染性廃棄物処理マニュアルに従った処理ができる。院内で正しい管理を行うことができる。バイオハザードマークについて知る	
		5.次コマとの関係	衛生管理・入院管理④　院内清掃・衛生管理	
25	衛生管理・入院管理④ 院内清掃・衛生管理	1.シラバスとの関係	院内の清掃法と衛生管理法について学ぶ	
		2.コマ主題	衛生管理・入院管理④　院内清掃・衛生管理	
		3.コマ主題細目	清掃法・衛生管理法	
		4.コマ主題細目深度	院内全体の清掃法と衛生管理法について学ぶ。診察に使用するアルコール綿花の作成手順を知り、正しく管理できる。診察台の衛生管理に努めることができる	
		5.次コマとの関係	衛生管理・入院管理⑤　犬舎・猫舎・入院舎の清掃・衛生	
26	衛生管理・入院管理⑤ 犬舎・猫舎・入院舎の清掃・衛生管理	1.シラバスとの関係	犬舎・猫舎・入院舎の清掃法と衛生管理法について学ぶ	
		2.コマ主題	衛生管理・入院管理⑤　犬舎・猫舎・入院舎の清掃・衛生	
		3.コマ主題細目	犬舎・猫舎・入院舎の清掃法・衛生管理法	
		4.コマ主題細目深度	犬舎・猫舎・入院舎の清掃法と衛生管理について学ぶ。消毒剤を正しく使用し、感染予防に努める。検査に必要なサンプルの管理ができる	
		5.次コマとの関係	衛生管理・入院管理　小テスト	
27	衛生管理・入院管理 小テスト	1.シラバスとの関係	衛生管理・入院管理の理解度を確認する	
		2.コマ主題	衛生管理・入院管理　小テスト	
		3.コマ主題細目	聴診法　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	聴診法において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	シリンジ・注射針　概論	
28	シリンジ・注射針 概論	1.シラバスとの関係	シリンジの正しい扱いを身につけ、注射法の目的と違い	
		2.コマ主題	シリンジ・注射針　概論	
		3.コマ主題細目	目的・管理	
		4.コマ主題細目深度	注射の目的を知り、正しい管理ができるようになる。それぞれの注射法（皮内・皮下・筋肉・静脈）の効果とポイントを知る	
		5.次コマとの関係	シリンジ・注射針①　種類	
29	シリンジ・注射針① 種類	1.シラバスとの関係	注射に用いるシリンジ・針の種類を知り、用途に応じた選択ができる	
		2.コマ主題	シリンジ・注射針①　種類	
		3.コマ主題細目	種類	
		4.コマ主題細目深度	注射器と針の構造を知り、各部位の名称を学ぶ。それぞれの種類とサイズを学び、用途に応じた選択ができるようになる	
		5.次コマとの関係	シリンジ・注射針②　手技	
30	シリンジ・注射針② 手技	1.シラバスとの関係	無菌的操作及びを正しい接続ができる。正しく操作ができる。	
		2.コマ主題	シリンジ・注射針②　手技	
		3.コマ主題細目	無菌操作・接続・操作	
		4.コマ主題細目深度	無菌的に操作し、シリンジと針を正しく接続ができる。安全に注射針のキャップのつけ外しができる。注射器を正しく持ち、操作ができる。	
		5.次コマとの関係	シリンジ・注射針　小テスト	
31	シリンジ・注射針 小テスト	1.シラバスとの関係	シリンジ・針の理解度を確認する	
		2.コマ主題	シリンジ・注射針　小テスト	
		3.コマ主題細目	聴診法　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	聴診法において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	アンプル・バイアル　概論	
32	アンプル・バイアル 概論	1.シラバスとの関係	アンプル・バイアルの標記を読み取り、管理ができる	
		2.コマ主題	アンプル・バイアル　概論	
		3.コマ主題細目	標記・管理	
		4.コマ主題細目深度	アンプル・バイアルの標記・管理法について身につける	
		5.次コマとの関係	バイアル・アンプル①　アンプル　手技	
33	アンプル・バイアル① アンプル　手技	1.シラバスとの関係	アンプルを安全に取り扱い、確実に注射の準備ができる	
		2.コマ主題	バイアル・アンプル①　アンプル　手技	
		3.コマ主題細目	手技	
		4.コマ主題細目深度	アンプルを安全に取り扱い、確実に注射の準備ができる。また使用後のアンプルの処理ができる	
		5.次コマとの関係	バイアル・アンプル①　バイアル　手技	

34	アンプル・バイアル② バイアル　手技	1.シラバスとの関係	バイアルを衛生的に取り扱い、確実に注射の準備ができる	
		2.コマ主題	バイアル・アンプル①　バイアル　手技	
		3.コマ主題細目	手技	
		4.コマ主題細目深度	バイアルを衛生的に取り扱い、確実に注射の準備ができる。また正しい管理ができる	
		5.次コマとの関係	アンプル・バイアル　小テスト	
35	アンプル・バイアル 小テスト	1.シラバスとの関係	アンプル・バイアルに関する理解度を確認する	
		2.コマ主題	アンプル・バイアル　小テスト	
		3.コマ主題細目	聴診法　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	聴診法において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	輸液　概論	
36	輸液 概論	1.シラバスとの関係	輸液の適切な接続及び操作法を身につける	
		2.コマ主題	輸液　概論	
		3.コマ主題細目	輸液とは・効果・動物のモニタリング	
		4.コマ主題細目深度	体内における水分・電解質・酸塩基平衡について知る。輸液が必要なケースを学び、輸液の目的と効果について理解する。輸液実施時の動物のモニタリング項目を知り、観察・記録ができる	
		5.次コマとの関係	輸液①　留置　準備	
37	輸液① 留置　準備	1.シラバスとの関係	血管確保のための血液留置における準備ができる	
		2.コマ主題	輸液①　留置　準備	
		3.コマ主題細目	血管確保の目的・備品の準備・事前準備	
		4.コマ主題細目深度	血管確保の目的を学び、血液留置部位を知る。必要な備品の準備ができる。ヘパリン加生理食塩水の作り方を学び、インジェクションプラグへ準備ができる	
		5.次コマとの関係	輸液②　留置　手技	
38	輸液② 留置　手技	1.シラバスとの関係	手順を学び、獣医師のサポートができる。留置後の衛生管理と看護動物の状態観察ができる	
		2.コマ主題	輸液②　留置　手技	
		3.コマ主題細目	手技・留置部位の衛生管理・動物の状態観察	
		4.コマ主題細目深度	血管確保の手順を学び、確実な保定と駆血ができる。速やかな挿入に必要な獣医師のサポートができる。必要に応じ剃毛ができる。留置後の衛生管理と動物の状態把握について学ぶ。また、留置針抜去の手順と動物のケアができる	
		5.次コマとの関係	輸液③　輸液剤　種類	
39	輸液③ 輸液剤　種類	1.シラバスとの関係	輸液剤の種類を知り、目的と用途を理解する	
		2.コマ主題	輸液③　輸液剤　種類	
		3.コマ主題細目	輸液剤の種類・目的と用途	
		4.コマ主題細目深度	輸液に使用する輸液剤の種類を知る。使用目的に応じた選択ができる。	
		5.次コマとの関係	輸液④　輸液　準備	
40	輸液④ 準備	1.シラバスとの関係	自動点滴装置（輸液ポンプ）の構造を理解し、輸液に必要な備品の準備ができる	
		2.コマ主題	輸液④　輸液　準備	
		3.コマ主題細目	自動点滴装置の構造・備品の準備	
		4.コマ主題細目深度	輸液ポンプの構造について学び、使用する備品の準備ができる。獣医師の指示のもと正しい輸液スピードの設定と管理が行えるようになる。輸液ポンプの警報と確認事項を知り、適切な対応が取れる	
		5.次コマとの関係	輸液⑤　輸液　手技	
41	輸液⑤ 輸液　手技	1.シラバスとの関係	輸液ラインの接続および、設定ができるようになる。看護動物へのセットができる。	
		2.コマ主題	輸液⑤　輸液　手技	
		3.コマ主題細目	ラインの接続・設定・看護動物へのセット	
		4.コマ主題細目深度	輸液ラインのセット手順を知り、正しく準備ができる。獣医師の指示のもと、必要に応じた設定・管理が出来る。留置部位・動物への接続を適切に行い、輸液中の状態観察ができる	
		5.次コマとの関係	輸液⑥　皮下点滴　準備	
42	輸液⑥ 皮下点滴　準備	1.シラバスとの関係	皮下点滴の目的と部位を理解し、必要な準備ができる	
		2.コマ主題	輸液⑥　皮下点滴　準備	
		3.コマ主題細目	目的・部位・備品の準備	
		4.コマ主題細目深度	皮下点滴が必要な看護動物の状態を学ぶ。使用する備品の準備ができる。獣医師の指示のもと正しい輸液スピードの設定と管理が行える	
		5.次コマとの関係	輸液⑦　皮下点滴　手技	
43	輸液⑦ 皮下点滴　手技	1.シラバスとの関係	翼状針・注射針を安全に扱い、動物へのセットができる。	
		2.コマ主題	輸液⑦　皮下点滴　手技	
		3.コマ主題細目	翼状針・注射針の扱い・設定・看護動物へのセット	
		4.コマ主題細目深度	点滴部位の消毒・衛生管理を行い、的確に皮下点滴を行える手技を身につける。獣医師の指示のもと正しい輸液スピードの設定と管理が行える。輸液中の状態観察ができる。輸液後の状態（輸液剤の吸収）において、飼い主へ説明ができる	
		5.次コマとの関係	輸液　小テスト	
44	輸液 小テスト	1.シラバスとの関係	輸液に関する理解度を確認する	
		2.コマ主題	輸液　小テスト	
		3.コマ主題細目	聴診法　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	聴診法において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	総合テスト	

45	総合テスト	1.シラバスとの関係	動物看護実習に関する理解度を確認する	
		2.コマ主題	総合テスト	
		3.コマ主題細目	聴診法　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	聴診法において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係		

動物臨床検査学実習Ⅰ－1

学科	動物看護系学科	シラバス（概要）
コース		講義で習得した知識の実践とし、診療現場で必要な検体検査及び生体検査に関する意義を理解し基本的手技を身につけ、また手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践を習得する。検査における動物看護師の役割を理解し、臨床検査の目的を解剖・生理学的知識とともに、検体検査および生体検査の目的と意義を理解し習得する。採取した検体を用いた検査では、尿検査・糞便検査・血液検査・眼科検査・耳の検査・皮膚科検査・その他細胞診検査・微生物学的検査の目的・方法・検体の扱い方・正常値・異常値の理解ができるようにする。また、生体検査では、基礎的身体一般検査・X線検査・心電図検査と血圧測定・超音波検査・内視鏡検査・神経学的検査・CT・MRIなどの特殊検査の目的・方法・検査機器の正しい扱い方・正常値・異常値の理解ができるようにする。
履修条件	動物臨床検査学Ⅰ-1を先行すること	
ユニット		
科目名	動物臨床検査学実習Ⅰ-1	
単位	1(1・2合わせて2単位)	
履修時間	45時間(1・2合わせて90時間)	
回数	45回(1・2合わせて90回)	
授業形態	実習	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	実技試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①動物看護の教科書(緑書房)②動物臨床検査学(インターズー)③動物看護実習テキスト(インターズー)④動物看護実践基準(インターズー)	

コマシラバス

50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	臨床検査　概論 目的・意義	1.シラバスとの関係	習得した基礎の実践とし、臨床検査の意義を理解し、基本的手技を身につける。また、看護実践能力を身につける	
		2.コマ主題	臨床検査　概論　目的・意義	
		3.コマ主題細目	臨床検査の目的・意義	
		4.コマ主題細目深度	臨床検査の目的・意義を知る。動物看護師の役割と職域を理解する	
		5.次コマとの関係	臨床検査　概論　生体の観察・検査項目	
2	臨床検査　概論 生体の観察・検査項目	1.シラバスとの関係	生体の観察と検査の関連性について学ぶ	
		2.コマ主題	臨床検査　概論　生態観察・検査	
		3.コマ主題細目	生体の観察・検査項目	
		4.コマ主題細目深度	問診・身体一般検査を理解し、生体の正常・異常な状態・項目を見極め、臨床検査の必要性および検査項目の選択について理解できる。	
		5.次コマとの関係	臨床検査　概論　スクリーニング検査	
3	臨床検査　概論 スクリーニング検査	1.シラバスとの関係	スクリーニング検査について学ぶ	
		2.コマ主題	臨床検査概論　スクリーニング検査	
		3.コマ主題細目	スクリーニング検査とは	
		4.コマ主題細目深度	スクリーニング検査（CBC・生化学・凝固系。糞便検査・尿検査）の目的・意義と検査内容を知り、以降に学ぶ各検査の詳細につなげることができる。	
		5.次コマとの関係	検体処理　概論	
4	検体処理 概論	1.シラバスとの関係	検体の適切な取り扱いを身につける	
		2.コマ主題	検体処理　概論	
		3.コマ主題細目	検体の種類・成分・検査方法	
		4.コマ主題細目深度	検体の種類（血液・尿・糞便・脳脊髄液・貯留液・生体材料）および成分・用いる検査について理解できる。	
		5.次コマとの関係	検体処理①　血液採取法・保存法	
5	検体処理① 血液採取法・保存法	1.シラバスとの関係	血液採取法と各成分に応じた保存法について理解できる	
		2.コマ主題	検体処理①　血液採取法・保存法	
		3.コマ主題細目	採血部位・注意点・保定について、血液の保存・処理について	
		4.コマ主題細目深度	採血部位・採血時の注意点・保定について理解し、スムーズな採血時の補助ができる。採血に必要な準備物とその名称を知る。また採取した血液を正しく保存・処理できる。	
		5.次コマとの関係	検体処理②　血液抗凝固剤	
6	検体処理② 血液抗凝固剤	1.シラバスとの関係	血液抗凝固剤の種類と特徴を理解できる	
		2.コマ主題	検体処理②　血液抗凝固剤	
		3.コマ主題細目	血液抗凝固剤の種類・特徴	
		4.コマ主題細目深度	EDTA・ヘパリン・クエン酸ナトリウムの特徴を知り、それぞれの使用目的により使い分けができる。	
		5.次コマとの関係	検体処理③　尿の採取・保存法	
7	検体処理③ 尿の採取・保存法	1.シラバスとの関係	尿の採取法と保存法を理解できる	
		2.コマ主題	検体処理③　尿の採取・保存法	
		3.コマ主題細目	4種の採尿法とメリット・デメリット。採尿の準備と尿の保	
		4.コマ主題細目深度	自然採尿・圧迫採尿・導尿・膀胱穿刺のメリット・デメリットについて学ぶ。採尿に使用する備品の名称を知り、必要な準備と衛生管理ができる。また採取した尿を正しく保存できる。	
		5.次コマとの関係	検体処理④　採便法・保存法	
8	検体処理④ 採便法・保存法	1.シラバスとの関係	採便法と保存法を理解できる	
		2.コマ主題	検体処理④　採便法・保存法	
		3.コマ主題細目	採便法と保存。準備と衛生管理	
		4.コマ主題細目深度	採便に必要な備品を知り、必要な準備と衛生管理ができるようになる。採取した検体を正しく保存できる。	
		5.次コマとの関係	検体処理⑤　貯留液の採取・保存・処理法	
9	検体処理⑤ 貯留液の採取・保存・処理法	1.シラバスとの関係	貯留液の採取・保存・処理法を理解できる	
		2.コマ主題	検体処理⑤　貯留液の採取・保存・処理法	
		3.コマ主題細目	貯留液の種類・採取法・保存法・処理法	
		4.コマ主題細目深度	胸水・腹水・脳脊髄液・関節液・嚢胞ない貯留液の採取方法を学ぶ。穿刺時の正しい保定ができるようになる。保存・処理のただし知識を得る。	
		5.次コマとの関係	検体処理　小テスト	

動物臨床検査学実習Ⅰ－1

10	検体処理 小テスト	1.シラバスとの関係	検体の適切な取り扱いについての理解度を確認する	
		2.コマ主題	検体処理　小テスト	
		3.コマ主題細目	検体処理　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	検体処理において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	顕微鏡　概論	
11	顕微鏡 概論	1.シラバスとの関係	適切な顕微鏡の操作法および取り扱いを身につける	
		2.コマ主題	顕微鏡　概論	
		3.コマ主題細目	各部名称・操作法・取り扱い	
		4.コマ主題細目深度	顕微鏡の各部名称を学びメカニズムを理解できる。正しい顕微鏡の操作法・取り扱い方を身につける。使用後のメンテナンス法・管理法をみにつける。	
		5.次コマとの関係	顕微鏡①　名称・倍率・条件	
12	顕微鏡① 名称・倍率・条件	1.シラバスとの関係	顕微鏡の各部名称と鏡検倍率・鏡検条件のしくみを理解できる	
		2.コマ主題	顕微鏡①　名称・倍率・倍率・条件	
		3.コマ主題細目	顕微鏡の鏡検倍率・条件のしくみ	
		4.コマ主題細目深度	接眼・対物レンズの倍率のしくみを理解し、明るさ・色・ピントの調整ができる。	
		5.次コマとの関係	顕微鏡②　操作法・メンテナンス法	
13	顕微鏡② 操作法・メンテナンス法	1.シラバスとの関係	正しい操作と基本的なメンテナンス法が理解できる	
		2.コマ主題	顕微鏡②　操作法・メンテナンス法	
		3.コマ主題細目	操作法・メンテナンス法	
		4.コマ主題細目深度	ハンドル操作法・接眼・対物レンズの倍率設定・スライドガラスの正しいセッティングができる。油浸オイルを正しく使えるようになる。正しいピント合わせによる検体の鮮明な判別ができる。スライドの正しい保管・管理ができる。	
		5.次コマとの関係	顕微鏡　小テスト	
14	顕微鏡 小テスト	1.シラバスとの関係	顕微鏡の適切な扱いについての理解度を確認する	
		2.コマ主題	顕微鏡　小テスト	
		3.コマ主題細目	顕微鏡　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	顕微鏡において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	血液検査　概論	
15	血液検査 概論	1.シラバスとの関係	CBC・生化学検査を基本に臨床現場で主に行われる血液検査の意義を理解し、適切な手技を身につける	
		2.コマ主題	血液検査　概論	
		3.コマ主題細目	検査の意義・血液の成分と役割・正常値・検査項目	
		4.コマ主題細目深度	血液の構成を知り、個体と液体成分とその役割について理解できる。CBC・生化学検査における検査項目とその正常値が分かる。	
		5.次コマとの関係	血液検査①　CBC検査	
16	血液検査① CBC検査	1.シラバスとの関係	CBC検査の意義を理解し適切な手技ができる	
		2.コマ主題	血液検査①　CBC検査	
		3.コマ主題細目	CBC検査の準備・手技・ヘマトクリット管を用いた検査	
		4.コマ主題細目深度	機器および備品の名称と使用手順を学ぶ。ヘマトクリット管とリーダーを適切に使用し、遠心分離機にてただしPCV値を導くことができる。タンパク比重計を用い、TPの測定ができる。ヘマトクリット管にてmf検査ができる。	
		5.次コマとの関係	血液検査②　血液塗抹標本	
17	血液検査② 血液塗抹標本	1.シラバスとの関係	血液塗抹標本作成の意義と鑑別を理解できる	
		2.コマ主題	血液検査②　血液塗抹標本	
		3.コマ主題細目	意義・各種作成法・封入・血球の観察・白血球の百分比	
		4.コマ主題細目深度	各種検査法の手技をマスターできる。染色液の使用目的を理解し、正しい基準で綺麗な標本が作成できる。標本保護のための封入操作を学ぶ。血球を観察しそれぞれの判別が分かる。白血球の百分比計算ができる。	
		5.次コマとの関係	血液検査③　生化学検査	
18	血液検査③ 生化学検査	1.シラバスとの関係	生化学検査の意義を理解し適切な手技ができる	
		2.コマ主題	血液検査③　生化学検査	
		3.コマ主題細目	準備・手技	
		4.コマ主題細目深度	生化学検査に用いるドライケミストリーの正しい操作方法について学ぶ。	
		5.次コマとの関係	血液検査④　輸血・クロスマッチ	
19	血液検査④ 輸血・クロスマッチ	1.シラバスとの関係	輸血時のクロスマッチの意義が理解できる	
		2.コマ主題	血液検査④　輸血・クロスマッチ	
		3.コマ主題細目	輸血と免疫反応。検査手順。試験の評価	
		4.コマ主題細目深度	輸血と免疫・ショックの関連性を学び、クロスマッチの必要性を知る。必要準備物を揃え、正しい手順で検査を実施できる。適合・不適合の評価ができる。	
		5.次コマとの関係	血液検査⑤　住血寄生虫検査	
20	血液検査⑤ 住血寄生虫検査	1.シラバスとの関係	住血寄生虫の検査法の意義を理解し、適切な手技ができる	
		2.コマ主題	血液検査⑤　住血寄生虫検査	
		3.コマ主題細目	検査手順。貧血とバベシア・マイコプラズマの関連性	
		4.コマ主題細目深度	犬のバベシア、猫のマイコプラズマと溶血性貧血の関連性について学ぶ。綺麗な血液塗抹標本を作成し、住血寄生虫の判別ができる。	
		5.次コマとの関係	血液検査⑥　免疫学的検査	

動物臨床検査学実習Ⅰ－1

21	血液検査⑥ 免疫学的検査	1.シラバスとの関係	簡易キットを用いた免疫学的検査の意義を理解し、適切な手技ができる	
		2.コマ主題	血液検査⑥　免疫学的検査	
		3.コマ主題細目	検出できる感染。キットの使用手順	
		4.コマ主題細目深度	フィラリア・Felv・FIVと抗原・抗体のしくみについて学ぶ。検査器とを正しく使用し、感染の有無について理解できる。	
		5.次コマとの関係	血液検査⑦　凝固系検査	
22	血液検査⑦ 凝固系検査	1.シラバスとの関係	凝固系検査の意義を理解し適切な手技ができる	
		2.コマ主題	血液検査⑦　凝固系検査	
		3.コマ主題細目	止血・血液凝固因子の関連性。検査項目と手技について	
		4.コマ主題細目深度	手順を学び、血小板数と形態の異常および、活性化凝固時間について理解できる。	
		5.次コマとの関係	血液検査　小テスト	
23	血液検査 小テスト	1.シラバスとの関係	血液検査の意義と手技についての理解度を確認する	
		2.コマ主題	血液検査　小テスト	
		3.コマ主題細目	血液検査　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	血液検査において、筆記試験と実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	尿検査　意義	
24	尿検査 概論	1.シラバスとの関係	尿検査の意義を理解し、適切な手技を身につける	
		2.コマ主題	尿検査　概論	
		3.コマ主題細目	尿生成のしくみ・意義・正常値・検査項目・採尿法	
		4.コマ主題細目深度	物理的性状検査・化学的検査・顕微鏡学的検査における検査項目とその正常値が分かる。各種採尿法を学び、採尿と尿の衛生管理ができる。	
		5.次コマとの関係	尿検査①　物理学的性状検査	
25	尿検査① 物理学的性状検査	1.シラバスとの関係	物理学的性状検査の意義を理解し、適切な手技ができる	
		2.コマ主題	尿検査①　物理学的性状検査	
		3.コマ主題細目	検査項目と手技。尿比重の測定	
		4.コマ主題細目深度	一般性状のチェック項目を学び、正常・異常の理解ができる。色調・混濁の観察と判別、タンパク比重計による比重の測定をマスターする。	
		5.次コマとの関係	尿検査②　化学的検査	
26	尿検査② 化学的検査	1.シラバスとの関係	化学的検査の意義を理解し適切な手技ができる	
		2.コマ主題	尿検査②　化学的検査	
		3.コマ主題細目	検査項目と手技。尿試験紙の管理	
		4.コマ主題細目深度	尿試験紙の正しい取り扱いを学ぶ。試験項目と色調による正常・異常の関連性がわかる。検査手技を正しく行える。	
		5.次コマとの関係	尿検査③　顕微鏡学的検査	
27	尿検査③ 顕微鏡学的検査	1.シラバスとの関係	顕微鏡学的検査の意義を理解し適切な手技ができる	
		2.コマ主題	尿検査③　顕微鏡学的検査	
		3.コマ主題細目	尿沈渣の検査項目と手技。尿のphと結晶の発生	
		4.コマ主題細目深度	尿沈渣で見られる尿中の固形成分の種類について学ぶ。結晶・細胞成分・尿円柱・細菌などの形状を知り、鏡検につなげる判別ができる。尿とphの関連性および、結晶発生について知る。尿検査における遠心分離機の正しい操作・設定を身につける。	
		5.次コマとの関係	尿検査　小テスト	
28	尿検査 小テスト	1.シラバスとの関係	尿検査の意義と手技についての理解度を確認する	
		2.コマ主題	尿検査　小テスト	
		3.コマ主題細目	尿検査　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	尿検査において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	糞便検査　意義	
29	糞便検査 概論	1.シラバスとの関係	糞便検査の意義を理解し適切な手技を身につける	
		2.コマ主題	糞便検査　概論	
		3.コマ主題細目	検査意義と消化器系疾患の関連性。適切な取り扱い	
		4.コマ主題細目深度	消化・吸収の影響が及ぼす消化器系疾患の関連性について学ぶ。腸管内寄生虫・細菌などの病原生物について学ぶ。検体の管理と処理法について正しく理解できる。	
		5.次コマとの関係	糞便検査①　物理学的性状検査	
30	糞便検査① 物理学的性状検査	1.シラバスとの関係	物理学的性状検査の意義を理解し、適切な手技ができる	
		2.コマ主題	糞便検査①　物理学的性状検査	
		3.コマ主題細目	検査項目・手技	
		4.コマ主題細目深度	肉眼で行う物理学的性状検査の項目を知り、正常と異常の判別ができる。	
		5.次コマとの関係	糞便検査②　顕微鏡学的検査（直接法・浮遊法）	
31	糞便検査② 顕微鏡学的検査	1.シラバスとの関係	顕微鏡学的検査の意義を理解し適切な手技ができる	
		2.コマ主題	糞便検査②　顕微鏡学的検査（直接法・浮遊法）	
		3.コマ主題細目	直接塗抹法・浮遊法の手技と目的	
		4.コマ主題細目深度	肉眼では確認できない含有物を観察する顕微鏡学的検査の項目を知り、正常と異常の判別ができる。直接塗抹法・浮遊法の手技を正しく行える。観察できる寄生虫・虫卵・細菌・血球の判別が理解できる。	
		5.次コマとの関係	糞便検査③　免疫学的検査	
32	糞便検査③ 免疫学的検査	1.シラバスとの関係	簡易キットを用いた免疫学的検査の意義を理解し、適切な手技ができる	
		2.コマ主題	糞便検査③　免疫学的検査	
		3.コマ主題細目	検出できる感染。キットの使用手順	
		4.コマ主題細目深度	パルボウイルス感染症・ジアルジア感染症と抗原・抗体のしくみについて学ぶ。検査キットを正しく使用し、感染の有無について理解できる。	
		5.次コマとの関係	糞便検査　小テスト	

動物臨床検査学実習Ⅰ－1

33	糞便検査 小テスト	1.シラバスとの関係	糞便検査の意義と手技についての理解度を確認する	
		2.コマ主題	糞便検査　小テスト	
		3.コマ主題細目	糞便検査　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	糞便検査において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	細胞診検査　概論	
34	細胞診検査 概論	1.シラバスとの関係	細胞診の意義を理解し手技を身につける	
		2.コマ主題	細胞診検査　概論	
		3.コマ主題細目	目的と意義。病変の把握との関連性。長所と欠点	
		4.コマ主題細目深度	臓器や組織と病態把握の関連性について学ぶ。必要器機と備品の準備ができる。長所と欠点が理解できる。	
		5.次コマとの関係	細胞診検査①　検体採取法	
35	細胞診検査① 検体採取法	1.シラバスとの関係	病理検査における検体の採取法を理解できる	
		2.コマ主題	細胞診検査①　検体採取法	
		3.コマ主題細目	検体の種類・採取部位と採取法。標本作成法と検体処理	
		4.コマ主題細目深度	検体の種類に応じた採取部位と方法について学ぶ。検査器具の使用法について理解できる。塗抹法・固定法など、正しい処理法により標本の作成ができる。検体処理法の注意点を理解できる。	
		5.次コマとの関係	細胞診検査②　検体保存法	
36	細胞診検査② 検体保存法	1.シラバスとの関係	病理検査における検体の保存法を理解できる	
		2.コマ主題	細胞診検査②　検体保存法	
		3.コマ主題細目	病理組織学的検査について。検体保存法	
		4.コマ主題細目深度	各種病理学的検査(酵素組織学・免疫器組織学・電子顕微鏡的観察法)とは何かを学ぶ。各種生検(病理組織検査)とは何かを学ぶ。	
		5.次コマとの関係	細胞診検査③　スメア作成法	
37	細胞診検査③ スメア作成	1.シラバスとの関係	細胞診におけるスタンプスメア作成法を理解し適切な手技ができる	
		2.コマ主題	細胞診検査③　スメア作成法	
		3.コマ主題細目	スタンプ・スクラッチ・パンチバイオプシー	
		4.コマ主題細目深度	スタンプ法の実施目的を知り、標本作成の流れを知ることができる。その他スクラッチ・パンチバイオプシーなど、目的に応じた採取法の違いを学ぶ。	
		5.次コマとの関係	細胞診検査　小テスト	
38	細胞診検査 小テスト	1.シラバスとの関係	細胞診検査の意義と手技についての理解度を確認する	
		2.コマ主題	細胞診検査　小テスト	
		3.コマ主題細目	細胞診検査　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	細胞診検査において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	微生物学的検査　概論	
39	微生物学的検査 概論	1.シラバスとの関係	微生物学的検査の意義を理解し適切な手技を身につける	
		2.コマ主題	微生物学的検査　概論	
		3.コマ主題細目	細菌・真菌検査の意義	
		4.コマ主題細目深度	細菌と真菌の種類が分かる。検査もく手kいと意義を理解し、動物病院内で実施する検査と外注検査の依頼について学ぶ。微生物学的検査を実施するにあたっての環境条件を学び、正しい操作による検査が行える。	
		5.次コマとの関係	微生物学的検査①　細菌・真菌検査	
40	微生物学的検査① 細菌・真菌培養	1.シラバスとの関係	細菌検査および真菌培養の意義を理解し、適切な手技ができる	
		2.コマ主題	微生物学的検査①　細菌・真菌検査	
		3.コマ主題細目	手順と培養法	
		4.コマ主題細目深度	備品の準備および手技の手順について学ぶ。寒天培地とダーマキットの正しい取り扱いを理解できる。正しい手順でシャーレへ菌を塗抹できる。ダーマキットの色調の変化から皮膚糸状菌の検出ができる。	
		5.次コマとの関係	微生物学的検査②　標本作成法	
41	微生物学的検査② 標本作成法	1.シラバスとの関係	細菌鑑別のための法本作成法を理解し、適切な手技ができる	
		2.コマ主題	微生物学的検査②　標本作成法	
		3.コマ主題細目	グラム染色による標本作成法	
		4.コマ主題細目深度	グラム染色により判別できる陽性菌と陰性菌について学び、染色の色調の違いと判別法を知ることができる。グラム染色の手順を学び実施できる。	
		5.次コマとの関係	微生物学的検査③　菌の同定	
42	微生物学的検査③ 菌の固定	1.シラバスとの関係	基本的な菌の同定ができる	
		2.コマ主題	微生物学的検査③　菌の同定	
		3.コマ主題細目	菌種の属名と種名の特定。菌の発育条件について	
		4.コマ主題細目深度	菌の物質代謝能力・育成条件について知り、菌種の構造・性状の違いについて学ぶ。菌の同定の流れを学ぶ。	
		5.次コマとの関係	微生物学的検査　小テスト	
43	微生物学的検査 小テスト	1.シラバスとの関係	微生物学的検査の意義と手技についての理解度を確認する	
		2.コマ主題	微生物学的検査　小テスト	
		3.コマ主題細目	微生物学的検査　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	微生物学的検査において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	レントゲン検査　概論	

動物臨床検査学実習Ⅰ－1

44	レントゲン検査 概論	1.シラバスとの関係	レントゲン葬儀の操作法と撮影時のポジショニングおよび現像法を理解し適切な手技を身につける	
		2.コマ主題	レントゲン検査　概論	
		3.コマ主題細目	X線とは	
		4.コマ主題細目深度	X線と可視光線の違いについて学び、波長・エネルギーについて理解できる。各電波の違いやその特徴を利用した撮影について学ぶ。電波・可視光線・赤外線・紫外線などの専門用語を理解できる。	
		5.次コマとの関係	レントゲン検査①　撮影条件	
45	レントゲン検査① 撮影条件	1.シラバスとの関係	レントゲンの撮影条件について学ぶ	
		2.コマ主題	レントゲン検査①　撮影条件	
		3.コマ主題細目	撮影濃度とコントラスト。注意点。散乱線について	
		4.コマ主題細目深度	撮影条件の決定に際し必要な、X線量・電流・電圧・照射条件・被写体の大きさ・厚みの関連性について学ぶ。撮影条件の注意点を正しく理解できる。散乱線の意味を理解できる。	
		5.次コマとの関係	動物臨床検査実習Ⅰ-2に進む	

動物臨床検査学実習Ⅰ－2

学科	動物看護系学科	シラバス（概要）
コース		講義で習得した知識の実践とし、診療現場で必要な検体検査及び生体検査に関する意義を理解し基本的手技を身につけ、また手順や要領を考慮した行動から問題解決能力や看護実践を習得する。検査における動物看護師の役割を理解し、臨床検査の目的を解剖・生理学的知識とともに、検体検査および生体検査の目的と意義を理解し習得する。採取した検体を用いた検査では、尿検査・糞便検査・血液検査・眼科検査・耳の検査・皮膚科検査・その他細胞診検査・微生物学的検査の目的・方法・検体の扱い方・正常値・異常値の理解ができるようにする。また、生体検査では、基礎的身体一般検査・X線検査・心電図検査と血圧測定・超音波検査・内視鏡検査・神経学的検査・CT・MRIなどの特殊検査の目的・方法・検査機器の正しい扱い方・正常値・異常値の理解ができるようにする。
履修条件	動物臨床検査学Ⅰ－1を履修すること	
ユニット		
科目名	動物臨床検査学実習Ⅰ－2	
単位	1（1・2合わせて2単位）	
履修時間	45時間（1・2合わせて90時間）	
回数	45回（1・2合わせて90回）	
授業形態	実習	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	実技試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①動物看護の教科書(緑書房)②動物臨床検査学(インターズー)③動物看護実習テキスト(インターズー)④動物看護実践基準（インターズー）	

コマシラバス

50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	レントゲン検査② カセッテ・グリッド・フィルム	1.シラバスとの関係	適切な撮影のための関連器具について理解できる	
		2.コマ主題	レントゲン検査②　カセッテ・グリッド・フィルム	
		3.コマ主題細目	カセッテ・グリッド・フィルムなどの理解	
		4.コマ主題細目深度	レントゲン撮影に用いる器具（フィルム・カセッテ・増感紙・グリッド・造影剤・防護服）の名称と使用目的について理解できるようになる。X線防護の三原則と防護用具の重要性を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	レントゲン検査③　扱いと準備	
2	レントゲン検査③ 扱いと準備	1.シラバスとの関係	カセッテ及びフィルムの適切な取扱いと準備ができる	
		2.コマ主題	レントゲン検査③　扱いと準備	
		3.コマ主題細目	カセッテ・フィルムの正しい取り扱い・準備	
		4.コマ主題細目深度	感光を防ぐ正しいフィルムとカセッテの取り扱いと注意事項について学ぶ。	
		5.次コマとの関係	レントゲン検査④　ポジショニング	
3	レントゲン検査④ ポジショニング	1.シラバスとの関係	撮影目的に合った動物のポジショニングができる	
		2.コマ主題	レントゲン検査④　ポジショニング	
		3.コマ主題細目	撮影時の保定とポジショニング	
		4.コマ主題細目深度	X線の放射について理解し、正しいポジショニングが取れるようになる。被写体に合ったフィルムサイズと照射野が選択できる。フィルム位置を正しくセットできる。DV・VD・ラテラルの保定ができる。	
		5.次コマとの関係	レントゲン検査⑤　現像	
4	レントゲン検査⑤ 現像	1.シラバスとの関係	適切な現像ができる	
		2.コマ主題	レントゲン検査⑤　現像	
		3.コマ主題細目	現像の手順について	
		4.コマ主題細目深度	現像の手順である、現像・定着・水洗・乾燥の流れと手技について学ぶ。	
		5.次コマとの関係	レントゲン検査⑥　フィルム・データ管理	
5	レントゲン検査⑥ フィルム・データ管理	1.シラバスとの関係	フィルム及びデータの適切な管理ができる	
		2.コマ主題	レントゲン検査⑥　フィルム・データ管理	
		3.コマ主題細目	獣医師法21条の理解	
		4.コマ主題細目深度	獣医師法21条に基づいたフィルム及びデータの適切な管理について学ぶ。実際に動物病院で行われている管理法を知る。	
		5.次コマとの関係	レントゲン検査⑦　読影	
6	レントゲン検査⑦ 読影	1.シラバスとの関係	レントゲンフィルムの基本的な読影が理解できる	
		2.コマ主題	レントゲン検査⑦　読影	
		3.コマ主題細目	フィルムの読影・組織と投影の関係性	
		4.コマ主題細目深度	X線フィルムの濃淡と骨・軟部組織・脂肪・空気の関連性を学ぶ。また、X線の吸収と写り方について理解できるようになる。フィルムに移された骨・軟部組織の名称と位置関係が分かる。	
		5.次コマとの関係	レントゲン検査⑧　報告の義務	
7	レントゲン検査⑧ 報告の義務	1.シラバスとの関係	レントゲン撮影に従事する者の各種報告の義務について理解できる	
		2.コマ主題	レントゲン検査⑧　報告の義務	
		3.コマ主題細目	獣医療法施行規則第9条・15条・19条の理解・診療従事者等に対する注意事項	
		4.コマ主題細目深度	獣医療法施行規則第9条・15条・19条について学ぶ。X線診療従事者等に対する注意事項を学び、防護と被曝の知識を得る。	
		5.次コマとの関係	レントゲン検査　小テスト	
8	レントゲン検査 小テスト	1.シラバスとの関係	レントゲン検査の意義と手技についての理解度を確認する	
		2.コマ主題	レントゲン検査　小テスト	
		3.コマ主題細目	レントゲン検査　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	レントゲン検査において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	超音波検査　概論	

動物臨床検査学実習Ⅰ－2

9	超音波検査 概論	1.シラバスとの関係	超音波装置の操作法と検査時のポジショニング方法を身につける	
		2.コマ主題	超音波検査　概論	
		3.コマ主題細目	超音波検査の仕組み・周波数と超音波の関係性	
		4.コマ主題細目深度	周波数と超音波の関係性を学ぶ。プローブから発する超音波の特性（反射・散乱・減弱・屈折）を知り、生体組織や液体への性質について理解できる。生体組織の画像のあらわれ方の違いを学ぶ。また、超音波検査の欠点を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	超音波検査①　検査準備	
10	超音波検査① 検査準備	1.シラバスとの関係	超音波検査時に必要な準備ができる	
		2.コマ主題	超音波検査①　検査準備	
		3.コマ主題細目	生体の前処置（剃毛）と機材準備	
		4.コマ主題細目深度	検査前に行う剃毛と超音波の関連性について学ぶ。剃毛の部位について学び、正確に実施できる技術をつける。超音波装置の準備ができる。	
		5.次コマとの関係	超音波検査②　装置の取り扱いと操作法	
11	超音波検査② 装置の取り扱い・操作法	1.シラバスとの関係	超音波装置の適切な取り扱いと操作ができる	
		2.コマ主題	超音波検査②　装置の取り扱いと操作法	
		3.コマ主題細目	超音波装置の設定と選択	
		4.コマ主題細目深度	各種プローブの名称と特性を知り、目的に応じて必要なプローブを選択できるようになる。	
		5.次コマとの関係	超音波検査③　ポジショニング	
12	超音波検査③ ポジショニング	1.シラバスとの関係	検査目的に合った動物のポジショニングができる	
		2.コマ主題	超音波検査③　ポジショニング	
		3.コマ主題細目	目的に応じた保定とポジショニング	
		4.コマ主題細目深度	動物の安全と正確な画像を得るための立位・横臥位・仰臥位の正しい保定技術を学ぶ。生体組織にアプローチする際の、正しいプローブ位置を知る。	
		5.次コマとの関係	超音波検査　小テスト	
13	超音波検査 小テスト	1.シラバスとの関係	超音波検査の意義と手技についての理解度を確認する	
		2.コマ主題	超音波検査　小テスト	
		3.コマ主題細目	超音波検査　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	超音波検査において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	心電図検査　概論	
14	心電図検査 概論	1.シラバスとの関係	心電図の原理を理解し、心電図装置の操作方法と意義及び検査時のポジショニング方法を身につける	
		2.コマ主題	心電図検査　概論	
		3.コマ主題細目	検査目的と意義・評価	
		4.コマ主題細目深度	心電図検査の目的について知り、疾患との関連性について学ぶ。計測・アーチファクト・不整脈・PQRST波の意味について知る。	
		5.次コマとの関係	心電図検査①　基本原理	
15	心電図検査① 基本原理	1.シラバスとの関係	心電図の原理を理解できる	
		2.コマ主題	心電図検査①　基本原理	
		3.コマ主題細目	心臓の機能・心電図の原理	
		4.コマ主題細目深度	心臓の解剖生理を復習し、電気刺伝導の仕組みが理解できる。心電図の原理と電気刺激伝導の関係性を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	心電図検査②　波形と検査意義	
16	心電図検査② 波形と検査意義	1.シラバスとの関係	基本的な波形と検査意義を理解できる	
		2.コマ主題	心電図検査②　波形と検査意義	
		3.コマ主題細目	正常波形と異常波形	
		4.コマ主題細目深度	心臓の働きと心電図波形のあらわれに関して学ぶ。正常な心電図波形を知り、異常波形（期外収縮・心房細動）との違いが分かるようになる。心電図パターンと不整脈の関連性について学ぶ。	
		5.次コマとの関係	心電図検査③　検査準備	
17	心電図検査③ 検査準備	1.シラバスとの関係	心電図検査時に必要な準備ができる	
		2.コマ主題	心電図検査③　検査準備	
		3.コマ主題細目	検査機器の準備	
		4.コマ主題細目深度	ケーブルと電極のセッティング及び、検査機器の作動に関して、正しく準備ができる。	
		5.次コマとの関係	心電図検査④　操作法	
18	心電図検査④ 操作法	1.シラバスとの関係	心電図の適切な取り扱いと操作ができる	
		2.コマ主題	心電図検査④　操作法	
		3.コマ主題細目	誘導の設定・取り扱いと操作	
		4.コマ主題細目深度	誘導法の種類と標準肢誘導について学び、電極の装着ができる。波形の表示までの基本的流れを理解する。感度を適切に調節し、正しい波形を表示できる。記録紙の見方について学ぶ。	
		5.次コマとの関係	心電図検査⑤　ポジショニング	
19	心電図検査⑤ ポジショニング	1.シラバスとの関係	動物のポジショニングができる	
		2.コマ主題	心電図検査⑤　ポジショニング	
		3.コマ主題細目	動物の保定・ポジショニング	
		4.コマ主題細目深度	測定に際し、正しい保定とポジショニングが取れるようになる	
		5.次コマとの関係	心電図検査　小テスト	
20	心電図検査 小テスト	1.シラバスとの関係	心電図検査の意義と手技についての理解度を確認する	
		2.コマ主題	心電図検査　小テスト	
		3.コマ主題細目	心電図検査　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	心電図検査において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	眼科検査　概論	

動物臨床検査学実習Ⅰ－2

21	眼科検査 概論	1.シラバスとの関係	診療現場で主に行われる眼科検査の意義を理解し、適切な手技を身につける
		2.コマ主題	眼科検査　概論
		3.コマ主題細目	眼の解剖の理解・検査意義・視覚検査・反射
		4.コマ主題細目深度	眼の解剖について復習し、各部名称と働きについて理解を深める。視覚検査と神経学的検査における反射について、具体的手技を知る。眼科検査の意義を学び、疾患との関連性について学ぶ。
		5.次コマとの関係	眼科検査①　シルマー・フルオレ試験
22	眼科検査① シルマー・フルオレ試験	1.シラバスとの関係	シルマー試験・フルオレセイン試験の方法と意義について理解し、適切な手技ができる
		2.コマ主題	眼科検査①　シルマー・フルオレ試験
		3.コマ主題細目	シルマー試験・フルオレセイン試験の方法と意義・検眼鏡の取り扱い
		4.コマ主題細目深度	シルマー試験とフルオレセイン試験の実施目的を学び、得られる結果と正常・異常について理解できる。試験紙・染色液・検眼鏡の扱いと管理ができる。
		5.次コマとの関係	眼科検査②　眼圧測定・眼底検査
23	眼科検査② 眼圧測定・眼底検査	1.シラバスとの関係	眼圧測定・眼底検査の方法と意義について理解し、適切な手技ができる
		2.コマ主題	眼科検査②　眼圧測定・眼底検査
		3.コマ主題細目	眼圧測定と眼底検査の意義と手技
		4.コマ主題細目深度	各種眼圧計（シェッツ・トノペン・リバウンド）の使用法とその手技について学ぶ。眼圧の基準値を知り、高値にて疑われる疾患を理解できる。眼底検査の目的を知り、評価法を学ぶ。測定時の正しい保定法を身につける。
		5.次コマとの関係	眼科検査　小テスト
24	眼科検査 小テスト	1.シラバスとの関係	眼科検査の意義と手技についての理解度を確認する
		2.コマ主題	眼科検査　小テスト
		3.コマ主題細目	眼科検査　理解度確認
		4.コマ主題細目深度	眼科検査において、筆記試験・実技試験を行う
		5.次コマとの関係	耳の検査　概論
25	耳の検査 概論	1.シラバスとの関係	診療現場で主に行われる耳の検査の意義を理解し、適切な手技を身につける
		2.コマ主題	耳の検査　概論
		3.コマ主題細目	耳の構造の理解・検査意義
		4.コマ主題細目深度	外耳道の解剖を復習し、各部位の名称を理解できる。耳の検査項目と各疾患の関連性について学ぶ。観察時の正しい保定法を身につける。
		5.次コマとの関係	耳の検査①　耳鏡の取り扱い法
26	耳の検査① 耳鏡の取り扱い	1.シラバスとの関係	耳の検査にて使用する耳鏡の正しい取り扱い方について理解できる
		2.コマ主題	耳の検査①　耳鏡の取り扱い
		3.コマ主題細目	耳鏡の取り扱い
		4.コマ主題細目深度	耳鏡及びスペキュラコーンの正しい取り扱い方と管理について学ぶ
		5.次コマとの関係	耳の検査②　耳垢検査と寄生虫
27	耳の検査② 耳垢検査・寄生虫	1.シラバスとの関係	耳垢検査の標本作製と寄生虫検査について理解できる
		2.コマ主題	耳の検査②　耳垢検査・寄生虫
		3.コマ主題細目	標本の作製・寄生虫検査
		4.コマ主題細目深度	耳垢の採取と管理ができる。各種標本（耳ヒゼンダニ・マラセチアなど）の作製と染色の技術を身につける。鏡検により判別できる寄生虫・疾患について理解できる。
		5.次コマとの関係	耳の検査　小テスト
28	耳の検査 小テスト	1.シラバスとの関係	耳の検査の意義と手技についての理解度を確認する
		2.コマ主題	耳の検査　小テスト
		3.コマ主題細目	耳の検査　理解度確認
		4.コマ主題細目深度	耳の検査において、筆記試験・実技試験を行う
		5.次コマとの関係	皮膚科検査　概論
29	皮膚科検査 概論	1.シラバスとの関係	診療現場で主に行われる皮膚科検査の意義を理解し、適切な手技を身につける
		2.コマ主題	皮膚科検査　概論
		3.コマ主題細目	皮膚科検査の目的・使用備品
		4.コマ主題細目深度	皮膚・被毛の構造と名称を学ぶ。皮膚の疾患・栄養学との関連性を知る。各種皮膚科検査にて必要な器機及び備品の名称と使用法について学ぶ。
		5.次コマとの関係	皮膚科検査①　病変の観察・記録
30	皮膚科検査① 病変の観察・記録	1.シラバスとの関係	皮膚病変の観察と記録法について説明できるようになる
		2.コマ主題	皮膚科検査①　病変の観察と記録
		3.コマ主題細目	皮膚病変の観察・記録法
		4.コマ主題細目深度	皮膚病変の観察により、正常と異常の判別と記録ができるようになる。
		5.次コマとの関係	皮膚科検査②　掻爬試験・被毛検査・ウッド灯・真菌培養
31	皮膚科検査② 掻爬試験・被毛検査・ ウッド灯・真菌培養	1.シラバスとの関係	皮膚掻爬・スタンプ・被毛検査・ウッド灯検査・真菌培養法の意義と手技を理解できる
		2.コマ主題	皮膚科検査②　掻爬試験・被毛検査・ウッド灯・真菌培養
		3.コマ主題細目	各種検査の意義と手技
		4.コマ主題細目深度	皮膚掻爬・スタンプ・被毛検査・ウッド灯検査・真菌培養法の意義を理解し、手技をマスターできる。検査により検出された寄生虫や細菌・真菌の判別ができる。
		5.次コマとの関係	皮膚科検査　小テスト

動物臨床検査学実習Ⅰ－2

32	皮膚科検査 小テスト	1.シラバスとの関係	皮膚科検査の意義と手技についての理解度を確認する	
		2.コマ主題	皮膚科検査　小テスト	
		3.コマ主題細目	皮膚科検査　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	皮膚科検査において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	内視鏡検査　概論	
33	内視鏡検査 概論	1.シラバスとの関係	内視鏡検査の原理と方法、意義を理解できる	
		2.コマ主題	内視鏡検査　概論	
		3.コマ主題細目	内視鏡検査の目的と意義	
		4.コマ主題細目深度	内視鏡の原理を知り、検査意義について学ぶ。検査により確認できる疾患について理解を深める。	
		5.次コマとの関係	内視鏡検査①　方法と準備	
34	内視鏡検査① 方法と準備	1.シラバスとの関係	内視鏡検査の実施方法、準備事項について説明できる	
		2.コマ主題	内視鏡検査①　方法と準備	
		3.コマ主題細目	器機の準備・実施の流れ	
		4.コマ主題細目深度	器機の準備及びスコープの操作について学ぶ。また検査の流れを把握し、観察部位と生検材料の採取について知る。	
		5.次コマとの関係	内視鏡検査②　スコープの取り扱い	
35	内視鏡検査② スコープの取り扱い	1.シラバスとの関係	スコープの洗浄・消毒法について理解できる	
		2.コマ主題	内視鏡検査②　スコープの取り扱い	
		3.コマ主題細目	スコープの洗浄と消毒	
		4.コマ主題細目深度	汚染されたスコープの正しい洗浄・消毒について学ぶ	
		5.次コマとの関係	内視鏡検査　小テスト	
36	内視鏡検査 小テスト	1.シラバスとの関係	内視鏡検査の意義と手技についての理解度を確認する	
		2.コマ主題	内視鏡検査　小テスト	
		3.コマ主題細目	内視鏡検査　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	内視鏡検査において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	神経学的検査　概論	
37	神経学的検査 概論	1.シラバスとの関係	神経学的検査の方法と意義を理解できる	
		2.コマ主題	神経学的検査　概論	
		3.コマ主題細目	神経学的検査の方法と意義・検査環境・備品	
		4.コマ主題細目深度	神経学的検査の種類と意義を学ぶ。それぞれの検査に必要な備品の名称と使用法を学び、検査環境の重要性と動物へのストレスの関係性を理解できる。	
		5.次コマとの関係	神経学的検査①　反応と反射・脳神経の検査法	
38	神経学的検査① 反応・反射・脳神経の検査法	1.シラバスとの関係	姿勢反応と脊髄反射及び脳神経の検査法について説明	
		2.コマ主題	神経学的検査①　反応と反射・脳神経の検査法	
		3.コマ主題細目	動物の観察（視診・反応・反射）・検査法の実際	
		4.コマ主題細目深度	動物の観察により、正常と神経学的検査が必要な状態の判別ができる。姿勢反射の手技と脊髄反射について学ぶ。各種脳神経検査の手技について学ぶ。感覚・排尿機能の評価について理解を深める。	
		5.次コマとの関係	神経学的検査②　評価記録法	
39	神経学的検査② 評価記録法	1.シラバスとの関係	神経学的検査の評価記録法について理解する	
		2.コマ主題	神経学的検査②　評価記録法	
		3.コマ主題細目	神経学的検査表の記録	
		4.コマ主題細目深度	検査内容・正常または異常な反応を理解し、検査により得た情報を神経学的検査表に正確に記録できるようになる。記録表が病変の特定につながることを学ぶ。	
		5.次コマとの関係	神経学的検査　小テスト	
40	神経学的検査 小テスト	1.シラバスとの関係	神経学的検査の意義と手技についての理解度を確認する	
		2.コマ主題	神経学的検査　小テスト	
		3.コマ主題細目	神経学的検査　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	神経学的検査において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	CT・MRI検査　概論	
41	CT・MRI検査 概論	1.シラバスとの関係	コンピュータ断層撮影法（CT）と磁気共鳴画像法（MRI）の原理と手技について理解できる	
		2.コマ主題	CT・MRI検査　概論	
		3.コマ主題細目	CT・MRIの原理・臨床現場での応用について	
		4.コマ主題細目深度	臨床現場での利用と動物看護師の関わり方について知る。基本的原理や実施目的について学ぶ。	
		5.次コマとの関係	CT・MRI検査①　原理	
42	CT・MRI検査① 原理	1.シラバスとの関係	CTとMRIの原理について理解できる	
		2.コマ主題	CT・MRI検査①　原理	
		3.コマ主題細目	原理と意義	
		4.コマ主題細目深度	それぞれの検査における撮影原理について理解を深める	
		5.次コマとの関係	CT・MRI検査②　手技	
43	CT・MRI検査② 手技	1.シラバスとの関係	CTとMRIの撮影手技について理解できる	
		2.コマ主題	CT・MRI検査②　手技	
		3.コマ主題細目	検査手技・保定・動物のケア	
		4.コマ主題細目深度	検査準備時の動物の管理と検査後のケアについて学ぶ。具体的な撮影法と撮影における注意事項について理解を深める	
		5.次コマとの関係	CT・MRI検査　小テスト	
44	CT・MRI検査 小テスト	1.シラバスとの関係	CT・MRI検査の意義と手技についての理解度を確認する	
		2.コマ主題	CT・MRI検査　小テスト	
		3.コマ主題細目	CT・MRI検査　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	CT・MRI検査において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	総合テスト	

45	総合テスト	1.シラバスとの関係	臨床検査学の総合的な理解度を確認する	
		2.コマ主題	総合テスト	
		3.コマ主題細目	動物臨床検査学実習Ⅰ　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	動物臨床検査学実習Ⅰにおいて、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係		

動物臨床検査学実習Ⅱ－1

学科	動物看護系学科	シラバス(概要)
コース		「動物臨床検査学実習Ⅰ」で習得した手技に応用力を付けて正確性、迅速性を身につける。検査の意義を理解し、手順書を見ないでも一人で責任を持った検査結果を出せるよう繰り返し実習し、また、検査結果の意味と関連性臓器について考察できるようにする。常に検査結果を準値と比べ、異常値の場合は速やかに獣医師に報告できるよう一連の流れを習得する。さらにデータのまとめとして飼い主に提示しできるようにまとめ、検査内容について説明できるよう習得する。基本を忘れずに、検体の保存法、取り扱いと検査後の処理と医療廃棄物の区分が正しくでき、スタッフの安全と院内感染防止にも配慮し、検査後の看護動物の容態観察も習得する。
履修条件	動物臨床検査学実習Ⅰを履修すること・動物臨床検査学実習Ⅱ-1を先行すること	
ユニット		
科目名	動物臨床検査学実習Ⅱ-1	
単位	1(1～3合わせ3単位)	
履修時間	45時間(1～3合わせて135時間)	
回数	45回(1～3合わせて135時間)	
授業形態	実習	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	実技試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①動物看護の教科書(緑書房)②動物臨床検査学(インターズー)③動物看護実習テキスト(インターズー)④動物看護実践基準(イン	

コマシラバス

50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	臨床検査 概論	1.シラバスとの関係	習得した基礎の実践とし、臨床検査の意義を理解し基本的手技を身につける。また看護実践能力を身につける	
		2.コマ主題	臨床検査　概論	
		3.コマ主題細目	臨床検査の意義・目的	
		4.コマ主題細目深度	臨床検査の意義・目的知る。動物看護師の役割と職域を理解できる	
		5.次コマとの関係	解剖・生理①　各臓器(内臓系)	
2	解剖・生理① 各臓器(内臓系)	1.シラバスとの関係	各臓器の名称・位置・働きなどの解剖・生理学を理解し、スムーズな臨床検査が実施できる	
		2.コマ主題	解剖・生理①　各臓器(内臓系)	
		3.コマ主題細目	名称・位置・働きの理解	
		4.コマ主題細目深度	イヌ・ネコを中心とした各臓器の名称・位置・働きを理解する。臨床検査にて正常・異常の判別及び疾患の特定を行う各種臓器と臨床検査の関連性を学ぶ。基礎的知識を備え、スムーズな臨床検査が実施できる。	
		5.次コマとの関係	解剖生理②　筋・骨格系	
3	解剖生理② 筋・骨格系	1.シラバスとの関係	筋・骨格系の名称・位置・働きなどの解剖・生理学を理解し、スムーズな臨床検査が実施できる	
		2.コマ主題	解剖生理②　筋・骨格系	
		3.コマ主題細目	名称・位置・働きの理解	
		4.コマ主題細目深度	イヌ・ネコを中心とした筋・骨格系の名称・位置・働きを理解する。臨床検査にて正常・異常の判別及び疾患の特定を行う各種臓器と臨床検査の関連性を学ぶ。基礎的知識を備え、スムーズな臨床検査が実施できる。	
		5.次コマとの関係	解剖生理③　脳・神経系	
4	解剖生理③ 脳・神経系	1.シラバスとの関係	脳・神経系の名称・位置・働きなどの解剖・生理学を理解し、スムーズな臨床検査が実施できる	
		2.コマ主題	解剖生理③　脳・神経系	
		3.コマ主題細目	名称・位置・働きの理解	
		4.コマ主題細目深度	イヌ・ネコを中心とした脳・神経系の名称・位置・働きを理解する。臨床検査にて正常・異常の判別及び疾患の特定を行う各種臓器と臨床検査の関連性を学ぶ。基礎的知識を備え、スムーズな臨床検査が実施できる。	
		5.次コマとの関係	解剖生理　小テスト	
5	解剖生理 小テスト	1.シラバスとの関係	解剖・生理・機能形態学についての理解度を確認する	
		2.コマ主題	解剖生理　小テスト	
		3.コマ主題細目	解剖生理　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	解剖生理において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	顕微鏡①各部名称・操作法	
6	顕微鏡① 名称・取り扱い	1.シラバスとの関係	顕微鏡各部の名称を知り、適切な操作法を身につける	
		2.コマ主題	顕微鏡①　名称・取り扱い	
		3.コマ主題細目	各部名称・操作法・取り扱い・メンテナンス	
		4.コマ主題細目深度	顕微鏡の各部名称を学び、メカニズムを理解できるようになる。正しい顕微鏡の操作法・取り扱い方を身につける。使用後のメンテナンス法・管理法を身につける。	
		5.次コマとの関係	顕微鏡②　鏡検倍率の設定・条件のしくみ	
7	顕微鏡② 設定・条件・しくみ	1.シラバスとの関係	鏡検の倍率設定と条件のしくみを理解できる	
		2.コマ主題	顕微鏡②　設定・条件・しくみ	
		3.コマ主題細目	倍率の設定・条件の仕組み	
		4.コマ主題細目深度	接眼・対物レンズの倍率の仕組みを理解し、明るさ・色・ピントの調節ができる。	
		5.次コマとの関係	顕微鏡③　操作法	
8	顕微鏡③ 操作法	1.シラバスとの関係	正しい操作法について学ぶ	
		2.コマ主題	顕微鏡③　操作法	
		3.コマ主題細目	正しい操作法	
		4.コマ主題細目深度	ハンドルの操作及び対物・接眼レンズの倍率設定、スライドガラスの正しいセッティングができる。油浸オイルを正しく使えるようになる。正しいピント合わせによる検体の鮮明な判別ができる。	
		5.次コマとの関係	顕微鏡④　操作実習①	

動物臨床検査学実習Ⅱ－1

9	顕微鏡④ 操作実習①	1.シラバスとの関係	様々な検体の標本を用い、速やかに操作・ピント合わせ	
		2.コマ主題	顕微鏡④　操作実習①	
		3.コマ主題細目	顕微鏡操作	
		4.コマ主題細目深度	血液塗抹標本・寄生虫などの標本を用い、正しい操作法にて速やかにピント合わせができる。また各検体の判別ができる。	
		5.次コマとの関係	顕微鏡⑤　操作実習②	
10	顕微鏡⑤ 操作実習②	1.シラバスとの関係	様々な検体の標本を用い、速やかに操作・ピント合わせができる	
		2.コマ主題	顕微鏡⑤　操作実習②	
		3.コマ主題細目	顕微鏡操作	
		4.コマ主題細目深度	血液塗抹標本・寄生虫などの標本を用い、正しい操作法にて速やかにピント合わせができる。また各検体の判別ができる。	
		5.次コマとの関係	顕微鏡　小テスト	
11	顕微鏡 小テスト	1.シラバスとの関係	顕微鏡に関する理解度を確認する	
		2.コマ主題	顕微鏡　小テスト	
		3.コマ主題細目	顕微鏡　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	顕微鏡において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	血液検査①　意義・目的	
12	血液検査① 意義・目的	1.シラバスとの関係	CBC・生化学検査を基本に診療現場で主に行われる血液検査の意義を理解し、適切な手技を身につける	
		2.コマ主題	血液検査①　意義・目的	
		3.コマ主題細目	検査の意義・血液の成分と役割・正常値・検査項目	
		4.コマ主題細目深度	血液の構成を知り、個体と液体成分とその役割について理解できるようになる。CBC・生化学検査における検査項目とその正常値が分かる。	
		5.次コマとの関係	血液検査②　採血部位・保定・駆血	
13	血液検査② 採血部位・保定・駆血	1.シラバスとの関係	採血時の部位を知り、適切な保定・駆血ができる	
		2.コマ主題	血液検査②　採血部位・保定・駆血	
		3.コマ主題細目	部位・保定・駆血	
		4.コマ主題細目深度	イヌ・ネコの採血に用いる血管の位置および走行を知る。動物に負担のない適切な保定ができ、スムーズな採血につながる駆血ができる。	
		5.次コマとの関係	血液検査③　シリンジ・注射針	
14	血液検査③ シリンジ・注射針	1.シラバスとの関係	血液検査に用いるシリンジ・注射針の種類・サイズ・用途・準備・取り扱いについて学ぶ	
		2.コマ主題	血液検査③　シリンジ・注射針	
		3.コマ主題細目	種類・サイズ・用途・準備・取り扱い	
		4.コマ主題細目深度	血液検査に際し、準備が必要なシリンジ・注射針への知識を備える。種類・サイズ・用途・準備・取り扱いについて学び、スムーズな検査及び検体の処理ができる。	
		5.次コマとの関係	血液検査④　CBC検査	
15	血液検査④ CBC検査	1.シラバスとの関係	CBC検査の意義を理解し適切な手技ができる	
		2.コマ主題	血液検査④　CBC検査	
		3.コマ主題細目	CBC検査の準備・手技・ヘマトクリット管を用いた検査	
		4.コマ主題細目深度	機器及び備品の名称と使用手順を学ぶ。ヘマトクリット管とリーダーを適切に使用し、遠心分離機にて正しいPCV値を導くことができる。たんぱく比重計を用い、TPの測定ができる。ヘマトクリット管にてmf検査ができる。	
		5.次コマとの関係	血液検査⑤　血液塗抹標本	
16	血液検査⑤ 血液塗抹標本	1.シラバスとの関係	血液塗抹標本作製の意義と鑑別を理解できる	
		2.コマ主題	血液検査⑤　血液塗抹標本	
		3.コマ主題細目	作製の意義・各種作成方法（引き離し法・押しガラス法・引き離し法）・染色（ギムザ・ヘマカラー）・封入・血球の観測・白血球の百分比。	
		4.コマ主題細目深度	標本作成の意義を理解し、手技をマスターできる。染色液の使用目的を理解し、正しい手順で綺麗な標本が作成できる。標本保護のための封入操作ができる。血球を観察し、それぞれの判別が分かる。白血球の百分比計算ができる。	
		5.次コマとの関係	血液検査⑥　生化学検査	
17	血液検査⑥ 生化学検査	1.シラバスとの関係	生化学検査の意義を理解し適切な手技ができる	
		2.コマ主題	血液検査⑥　生化学検査	
		3.コマ主題細目	生化学検査の準備・手技	
		4.コマ主題細目深度	生化学検査に用いるドライケミストリーの正しい操作方法について学ぶ。	
		5.次コマとの関係	血液検査⑦　輸血・クロスマッチ	
18	血液検査⑦ 輸血・クロスマッチ	1.シラバスとの関係	輸血時のクロスマッチの意義が理解できる	
		2.コマ主題	血液検査⑦　輸血・クロスマッチ	
		3.コマ主題細目	輸血と免疫反応。検査手順。試験の評価。	
		4.コマ主題細目深度	輸血と免疫・ショックの関連性を学び、クロスマッチの必要性を理解できるようになる。必要準備物を揃え、正しい手順で検査を実施できる。適合・不適合の評価ができるようになる。	
		5.次コマとの関係	血液検査⑧　住血寄生虫の検査法	
19	血液検査⑧ 住血寄生虫の検査法	1.シラバスとの関係	住血寄生虫の検査法の意義を理解し、適切な手技ができる	
		2.コマ主題	血液検査⑧　住血寄生虫の検査法	
		3.コマ主題細目	検査手順。貧血とバベシア・ヘモプラズマ（マイコプラズマ）の関連性。	
		4.コマ主題細目深度	イヌのバベシア、猫のヘモプラズマと溶血性貧血の関連性について学ぶ。綺麗な血液塗抹標本を作成し、住血寄生虫の判別ができる。	
		5.次コマとの関係	血液検査⑨　免疫学的検査	

動物臨床検査学実習Ⅱ－1

20	血液検査⑨ 免疫学的検査	1.シラバスとの関係	簡易キットを用いた免疫学的検査の意義を理解し、適切な手技ができる
		2.コマ主題	血液検査⑨　免疫学的検査
		3.コマ主題細目	検出できる感染症。キットの使用手順
		4.コマ主題細目深度	フィラリア・Felv・FIVと抗原・抗体の仕組みについて理解できるようになる。検査キットを正しく使用し、感染の有無について理解できる。
		5.次コマとの関係	血液検査⑩　凝固系検査
21	血液検査⑩ 凝固系検査	1.シラバスとの関係	凝固系検査の意義を理解し適切な手技ができる
		2.コマ主題	血液検査⑩　凝固系検査
		3.コマ主題細目	止血・血液凝固因子の関連性。検査項目と手技につい
		4.コマ主題細目深度	検査手順と学び、血小板数と形態の異常及び、活性化凝固時間について理解できる。
		5.次コマとの関係	血液検査　小テスト
22	血液検査 小テスト	1.シラバスとの関係	血液検査の理解度を確認する
		2.コマ主題	血液検査　小テスト
		3.コマ主題細目	血液検査　理解度確認
		4.コマ主題細目深度	血液検査において、筆記試験・実技試験を行う
		5.次コマとの関係	尿検査①　目的・意義
23	尿検査① 目的・意義	1.シラバスとの関係	診療現場で主に行われる尿検査の意義を理解し、適切な手技を身につける
		2.コマ主題	尿検査①　目的・意義
		3.コマ主題細目	尿生成の仕組み・検査の意義・正常値・検査項目・採尿
		4.コマ主題細目深度	物理的性状検査・化学的検査・顕微鏡学的検査における検査項目とその正常値が分かる。各種採尿法を知り、採取と尿の衛生的管理ができる。
		5.次コマとの関係	尿検査②　器機・備品の管理・取り扱い
24	尿検査② 器機・備品管理	1.シラバスとの関係	尿検査に用いる各種機器・備品の名称・管理・取り扱いについて学ぶ
		2.コマ主題	尿検査②　器機・備品の管理・取り扱い
		3.コマ主題細目	器機・備品の管理・取り扱い
		4.コマ主題細目深度	遠心分離機の正しい操作法を学ぶ。各種検査に用いる試験紙・比重計の名称・使用法・使用目的・管理ができる。
		5.次コマとの関係	尿検査③　採尿法
25	尿検査③ 採尿法	1.シラバスとの関係	各種採尿法を知り、メリット・デメリットを学ぶ
		2.コマ主題	尿検査③　採尿法
		3.コマ主題細目	採尿法
		4.コマ主題細目深度	各種採尿法を学び、メリット・デメリットを知る。カテーテル法におけるカテーテルのサイズ選択・準備および無菌操作を学び、的確な保定ができる。採尿後の検体の管理ができる。
		5.次コマとの関係	尿検査④　物理学的性状検査・検査項目
26	尿検査④ 物理学的性状検査・検査項目	1.シラバスとの関係	物理的性状検査の項目を知る
		2.コマ主題	尿検査④　物理学的性状検査・検査項目
		3.コマ主題細目	検査項目
		4.コマ主題細目深度	色調・混濁・比重・臭気などの物理学的性状検査項目を知る
		5.次コマとの関係	尿検査⑤　物理学的性状検査・手技
27	尿検査⑤ 物理学的性状検査・手技	1.シラバスとの関係	物理的性状検査の手技を学ぶ。正常・異常の判別ができる
		2.コマ主題	尿検査⑤　物理学的性状検査・手技
		3.コマ主題細目	手技
		4.コマ主題細目深度	それぞれの検査における手技をマスターし、記録・報告ができる。異常値が認められ、疾患が疑われる場合は獣医師に報告ができる。タンパク比重計を正しく扱い、管理ができる。
		5.次コマとの関係	尿検査⑥　化学的検査・検査項目
28	尿検査⑥ 化学的検査・項目	1.シラバスとの関係	化学的検査の項目を知る
		2.コマ主題	尿検査⑥　化学的検査・検査項目
		3.コマ主題細目	検査項目
		4.コマ主題細目深度	ph・タンパク質・ブドウ糖・潜血・ケトン体・ビリルビン・ウロビリノーゲンの化学的検査項目と主旨を理解する。
		5.次コマとの関係	尿検査⑦　化学的検査・手技
29	尿検査⑦ 化学的検査・手技	1.シラバスとの関係	化学的検査の手技を学ぶ。正常・異常の判別ができる
		2.コマ主題	尿検査⑦　化学的検査・手技
		3.コマ主題細目	手技
		4.コマ主題細目深度	尿試験紙を正しく扱い、化学的検査の手技をマスターし、記録・報告ができる。異常値が認められ、疾患が疑われる場合は獣医師に報告ができる。尿試験紙の管理が行える。
		5.次コマとの関係	尿検査⑧　顕微鏡学的検査・検査項目
30	尿検査⑧ 顕微鏡学的検査・項目	1.シラバスとの関係	顕微鏡学的検査の項目を知る。尿沈渣を理解する
		2.コマ主題	尿検査⑧　顕微鏡学的検査・検査項目
		3.コマ主題細目	検査項目
		4.コマ主題細目深度	尿沈渣で検出される結晶・円柱・細胞成分・微生物について知る。
		5.次コマとの関係	尿検査⑨　顕微鏡学的検査・手技

動物臨床検査学実習Ⅱ－1

31	尿検査⑨ 顕微鏡学的検査・手技	1.シラバスとの関係	尿沈渣の手技を学ぶ。遠心分離機を正しく取り扱う。正常・異常の判別ができる	
		2.コマ主題	尿検査⑨　顕微鏡学的検査・手技	
		3.コマ主題細目	手技	
		4.コマ主題細目深度	尿沈渣の手技を学び、検出される成分の判別ができる。遠心分離機の正しい取り扱い方を学ぶ。正常・異常の判別ができ、疾患が疑われる成分がみられた場合は、獣医師に報告ができる。	
		5.次コマとの関係	尿検査⑩　正常値と異常値	
32	尿検査⑩ 正常値・異常値	1.シラバスとの関係	尿検査における正常・異常の判別ができる	
		2.コマ主題	尿検査⑩　正常値と異常値	
		3.コマ主題細目	正常値・異常値	
		4.コマ主題細目深度	尿の正常状態を知り、異常状態から疑われる疾患について理解を深める。	
		5.次コマとの関係	尿検査　小テスト	
33	尿検査 小テスト	1.シラバスとの関係	尿検査の理解度を確認する	
		2.コマ主題	尿検査　小テスト	
		3.コマ主題細目	尿検査　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	尿検査において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	糞便検査①　目的・意義	
34	糞便検査① 目的・意義	1.シラバスとの関係	糞便検査の意義を理解し、適切な手技を身につける	
		2.コマ主題	糞便検査①　目的・意義	
		3.コマ主題細目	検査の意義・正常値・検査項目・採便法	
		4.コマ主題細目深度	物理的性状検査・顕微鏡学的検査（直接法・浮遊法）・免疫学的検査における検査項目とその正常値が分かるようになる。各種採便法を知り、採取と便の管理ができる。	
		5.次コマとの関係	糞便検査②　器機・備品の取り扱い・管理	
35	糞便検査② 器機・備品管理	1.シラバスとの関係	糞便検査に用いる各種機器・備品の名称・管理・取り扱いについて学ぶ	
		2.コマ主題	糞便検査②　器機・備品の取り扱い・管理	
		3.コマ主題細目	器機・備品の管理・取り扱い	
		4.コマ主題細目深度	各種検査に用いる試験管・簡易キットなどの使用法・使用目的・管理ができる。	
		5.次コマとの関係	尿検査③　採便法	
36	糞便検査③ 採便法	1.シラバスとの関係	各種便法を知り、メリット・デメリットを学ぶ	
		2.コマ主題	尿検査③　採便法	
		3.コマ主題細目	採便法	
		4.コマ主題細目深度	各種採便法を学び、メリット・デメリットを知る。採便棒の準備および、的確な保定ができる。採便後の検体の管理ができる。	
		5.次コマとの関係	糞便検査④　物理学的性状検査・検査項目	
37	糞便検査④ 物理学的性状検査・項目	1.シラバスとの関係	物理的性状検査の項目を知る。	
		2.コマ主題	糞便検査④　物理学的性状検査・検査項目	
		3.コマ主題細目	検査項目	
		4.コマ主題細目深度	色調・硬度・形状・臭気・含有物などの物理学的性状検査項目を知る。	
		5.次コマとの関係	糞便検査⑤　物理学的性状検査・手技	
38	糞便検査⑤ 物理学的性状検査・手技	1.シラバスとの関係	物理的性状検査の手技を学ぶ。正常・異常の判別ができる	
		2.コマ主題	糞便検査⑤　物理学的性状検査・手技	
		3.コマ主題細目	手技	
		4.コマ主題細目深度	それぞれの検査における手技をマスターし、記録・報告ができる。異常値が認められ、疾患が疑われる場合は獣医師に報告ができる。	
		5.次コマとの関係	糞便検査⑥　顕微鏡学的検査・検査項目	
39	糞便検査⑥ 顕微鏡学的検査・項目	1.シラバスとの関係	顕微鏡学的検査の検査項目を知る。	
		2.コマ主題	糞便検査⑥　顕微鏡学的検査・検査項目	
		3.コマ主題細目	直接塗抹法・浮遊法	
		4.コマ主題細目深度	顕微鏡学的検査の内容を学ぶ。直接塗抹法・浮遊法にて検出できる含有物を知る。	
		5.次コマとの関係	糞便検査⑦　顕微鏡学的検査・手技（直接法）	
40	糞便検査⑦ 顕微鏡学的検査・手技（直接法）	1.シラバスとの関係	直接塗抹法の手技を学ぶ。顕微鏡を正しく扱える	
		2.コマ主題	糞便検査⑦　顕微鏡学的検査・手技（直接法）	
		3.コマ主題細目	手技	
		4.コマ主題細目深度	直接法の手技を学び、綺麗な標本の作製ができる。顕微鏡を正しく扱い、鏡検ができる。確認できた含有物の記録・報告ができる。異常が疑われる場合、獣医師に報告ができる。	
		5.次コマとの関係	糞便検査⑧　顕微鏡学的検査・手技（浮遊法）	
41	糞便検査⑧ 顕微鏡学的検査・手技（浮遊法）	1.シラバスとの関係	浮遊法の手技を学ぶ。顕微鏡を正しく扱える	
		2.コマ主題	糞便検査⑧　顕微鏡学的検査・手技（浮遊法）	
		3.コマ主題細目	手技	
		4.コマ主題細目深度	浮遊法の手技を学び、綺麗な標本の作製ができる。飽和食塩水の準備ができる。顕微鏡を正しく扱い、鏡検ができる。確認できた含有物の記録・報告ができる。異常が疑われる場合、獣医師に報告ができる。	
		5.次コマとの関係	糞便検査⑨　虫卵の判別	
42	糞便検査⑨ 虫卵の判別	1.シラバスとの関係	虫卵の検出・判別ができる。	
		2.コマ主題	糞便検査⑨　虫卵の判別	
		3.コマ主題細目	虫卵の判別	
		4.コマ主題細目深度	糞便検査にて検出できる線虫類・条虫類・原虫類の虫卵およびシストとの名称を学び、それぞれの判別ができる。検出された場合、獣医師に報告ができる。	
		5.次コマとの関係	糞便検査⑩　免疫学的検査	

動物臨床検査学実習Ⅱ－1

43	糞便検査⑩ 免疫学的検査	1.シラバスとの関係	免疫学的検査の内容・手技を学ぶ	
		2.コマ主題	糞便検査⑩　免疫学的検査	
		3.コマ主題細目	犬パルボウイルス感染症・ジアルジア症・手技	
		4.コマ主題細目深度	免疫学的検査にて検出できる犬パルボとジアルジアについて学ぶ。検査キットの使用法を理解し、正しく扱える。感染が疑われる場合獣医師に報告し、検体の適切な処理ができる。	
		5.次コマとの関係	糞便検査　小テスト	
44	糞便検査 小テスト	1.シラバスとの関係	糞便検査の理解度を確認する	
		2.コマ主題	糞便検査　小テスト	
		3.コマ主題細目	糞便検査　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	糞便検査において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	細胞診検査①　目的・意義	
45	細胞診検査① 目的・意義	1.シラバスとの関係	細胞診の意義を理解し、適切な手技を身につける	
		2.コマ主題	細胞診検査①　目的・意義	
		3.コマ主題細目	目的・意義	
		4.コマ主題細目深度	病理検査とは何か、細胞診とは何かについて学ぶ。臨床現場で行われている細胞診の種類を知る。	
		5.次コマとの関係	動物臨床検査学実習Ⅱ-2に進む	

動物臨床検査学実習Ⅱ－2

学科	動物看護系学科	シラバス（概要）
コース		「動物臨床検査学実習Ⅰ」で習得した手技に応用力を付けて正確性、迅速性を身につける。検査の意義を理解し、手順書を見ないでも一人で責任を持った検査結果を出せるよう繰り返し実習し、また、検査結果の意味と関連性臓器について考察できるようにする。常に検査結果を準値と比べ、異常値の場合は速やかに獣医師に報告できるよう一連の流れを習得する。さらにデータのまとめとして飼い主に提示しできるようにまとめ、検査内容について説明できるよう習得する。基本を忘れずに、検体の保存法、取り扱いと検査後の処理と医療廃棄物の区分が正しくでき、スタッフの安全と院内感染防止にも配慮し、検査後の看護動物の容態観察も習得する。
履修条件	動物臨床検査学実習Ⅰを履修すること・動物臨床検査学実習Ⅱ-1を履修すること	
ユニット		
科目名	動物臨床検査学実習Ⅱ-2	
単位	1（1～3合わせ3単位）	
履修時間	45時間（1～3合わせて135時間）	
回数	45回（1～3合わせて135時間）	
授業形態	実習	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	実技試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①動物看護の教科書(緑書房)②動物臨床検査学(インターズー)③動物看護実習テキスト(インターズー)④動物看護実践基準（インターズー）	

コマシラバス

50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	細胞診検査② 長所と欠点	1.シラバスとの関係	細胞診検査の長所と欠点を学ぶ	
		2.コマ主題	細胞診検査②　長所・欠点	
		3.コマ主題細目	長所・欠点	
		4.コマ主題細目深度	細胞診における長所と欠点を学び、動物の観察や手技・検査後の動物のケアに反映させることができる。	
		5.次コマとの関係	細胞診検査③　検体の採取法	
2	細胞診検査③ 検体の採取法	1.シラバスとの関係	病理検査における検体の採取法を理解できる	
		2.コマ主題	細胞診検査③　検体の採取法	
		3.コマ主題細目	検体の種類。採取部位と採取法。標本作製法と検体処理法	
		4.コマ主題細目深度	検体の種類に応じた採取部位と方法について学ぶ。検査器具の使用法について理解できるようになる。塗抹法・固定法など、正しい処理法により標本の作製ができるようになる。検体処理法の注意点を理解できる。	
		5.次コマとの関係	細胞診検査④　検体の保存法	
3	細胞診検査④ 検体の保存法	1.シラバスとの関係	病理検査における検体の保存法を理解できる	
		2.コマ主題	細胞診検査④　検体の保存法	
		3.コマ主題細目	病理組織学的検査について。検体保存法	
		4.コマ主題細目深度	各種病理学的検査（酵素組織化学・免疫組織化学・電子顕微鏡的観察法）とは何かを学ぶ。各種生検（病理組織検査）とは何かを学ぶ。	
		5.次コマとの関係	細胞診検査⑤　スメア作成法	
4	細胞診検査⑤ スメア作成法	1.シラバスとの関係	細胞診におけるスタンプスメア作製法を理解し適切な手技ができる	
		2.コマ主題	細胞診検査⑤　スメア作成法	
		3.コマ主題細目	スタンプ（押捺）・スクラッチ（掻爬）・パンチバイオプシー	
		4.コマ主題細目深度	スタンプ法の実施目的を知り、標本作製の流れを知ることができる。その他スクラッチ・パンチバイオプシーなど、目的に応じた採取法の違いを学ぶ。	
		5.次コマとの関係	骨髄検査　①目的・意義	
5	骨髄検査① 目的・意義	1.シラバスとの関係	骨髄検査の意義を理解し、適切な手技を身につける	
		2.コマ主題	骨髄検査①　目的・意義	
		3.コマ主題細目	目的・意義	
		4.コマ主題細目深度	骨髄生成のしくみを知り、目的を理解する	
		5.次コマとの関係	骨髄検査②　異常・疾患	
6	骨髄検査② 異常・疾患	1.シラバスとの関係	検出される異常・疑われる疾患を知る	
		2.コマ主題	骨髄検査②　異常・疾患	
		3.コマ主題細目	異常・疾患	
		4.コマ主題細目深度	骨髄検査で検出される異常および、疑われる疾患名を知り、各種疾患への理解を深める。	
		5.次コマとの関係	骨髄検査③　準備・手順	
7	骨髄検査③ 準備・手順	1.シラバスとの関係	検査部位の事前準備を知り、準備物・染色液・手技を学ぶ	
		2.コマ主題	骨髄検査③　準備・手順	
		3.コマ主題細目	準備・備品・染色液・手順	
		4.コマ主題細目深度	検査前の動物の剃毛を行える。検査・穿刺部位を学び、消毒・衛生管理ができる。染色液をはじめとした備品の準備及び管理ができる。検査の手順を学び、保定・獣医師のサポート及び動物の負担が少なく危険のない保定とケアができる。	
		5.次コマとの関係	骨髄検査④　塗抹標本の作成	
8	骨髄検査④ 塗抹標本の作成	1.シラバスとの関係	検体を正しく衛生的に扱い、綺麗な塗抹標本が作成できる	
		2.コマ主題	骨髄検査④　塗抹標本の作成	
		3.コマ主題細目	塗抹作成の手技	
		4.コマ主題細目深度	検体を正しく衛生的に扱い、速やかに塗抹標本の作成ができる。固定・染色・封入の手順を理解し、正確な結果を導けるように綺麗な標本を作成できる。	
		5.次コマとの関係	骨髄検査⑤　鏡検	

動物臨床検査学実習Ⅱ－2

9	骨髄検査⑤ 鏡検	1.シラバスとの関係	鏡検により、細胞の状態により疑われる疾患について理解する	
		2.コマ主題	骨髄検査⑤　鏡検	
		3.コマ主題細目	鏡検	
		4.コマ主題細目深度	顕微鏡を正しく扱える。鏡検により確認できる細胞の状態を学び、そこから導き出される疑わしき疾患についての理解を深める。	
		5.次コマとの関係	細胞診検査・骨髄検査　小テスト	
10	細胞診検査・骨髄検査 小テスト	1.シラバスとの関係	細胞診・骨髄検査の理解度を確認する	
		2.コマ主題	細胞診検査・骨髄検査　小テスト	
		3.コマ主題細目	細胞診検査・骨髄検査　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	細胞診検査・骨髄検査において、筆記試験・実技試験を行う。	
		5.次コマとの関係	微生物学的検査①　目的・意義	
11	微生物学的検査① 目的・意義	1.シラバスとの関係	診療現場で主に行われる微生物学的検査の意義を理解し、適切な手技を身につける	
		2.コマ主題	微生物学的検査①　目的・意義	
		3.コマ主題細目	意義・目的	
		4.コマ主題細目深度	検査目的と意義について理解し、動物病院で行える検査と外注検査の依頼について学ぶ。微生物学検査を実施にあたっての環境条件を学び、正しい操作で正確な結果を導きだせるような検査が行える。	
		5.次コマとの関係	微生物学的検査②　滅菌・消毒・殺菌	
12	微生物学的検査② 滅菌・消毒・殺菌	1.シラバスとの関係	滅菌・消毒・殺菌の定義を知り、薬剤の使用目的と効果を理解する	
		2.コマ主題	微生物学的検査②　滅菌・消毒・殺菌	
		3.コマ主題細目	定義・薬剤の目的・効果	
		4.コマ主題細目深度	滅菌・消毒・殺菌の定義を知り、その違いを学ぶ。用いる薬剤の使用目的と効果を理解できる。それぞれに用いる機器の名称・操作法・使用目的について知る。	
		5.次コマとの関係	微生物学的検査③　感染	
13	微生物学的検査③ 感染	1.シラバスとの関係	感染の定義と感染症を理解する	
		2.コマ主題	微生物学的検査③　感染	
		3.コマ主題細目	感染とは・定義・感染源・感染経路・感染症・対策	
		4.コマ主題細目深度	感染の定義を学び、感染源・感染経路の種類を知る。主な感染症とズーノーシスを学ぶ。院内感染を防ぐための対策法を知り、動物と看護者の安全確保に努めることができる。	
		5.次コマとの関係	微生物学的検査④　細菌・真菌の種類	
14	微生物学的検査④ 細菌・真菌の種類	1.シラバスとの関係	細菌・真菌の種類について学ぶ	
		2.コマ主題	微生物学的検査④　細菌・真菌の種類	
		3.コマ主題細目	細菌・真菌	
		4.コマ主題細目深度	真菌・細菌の種類と形状について知る。それぞれの特徴を理解する。	
		5.次コマとの関係	微生物学的検査⑤　細菌培養	
15	微生物学的検査⑤ 細菌培養	1.シラバスとの関係	細菌培養の意義を理解し、適切な手技ができる	
		2.コマ主題	微生物学的検査⑤　細菌培養	
		3.コマ主題細目	手順・培養法・グラム陽性菌・グラム陰性菌	
		4.コマ主題細目深度	備品の準備及び手技の手順について学ぶ。寒天培地の正しい取り扱いを理解できる。正しい手順でシャーレへ菌を塗抹できる。染色の手順を学び、適切な標本が作成できる。グラム陽性菌・グラム陰性菌について学ぶ。	
		5.次コマとの関係	微生物学的検査⑥　真菌培養	
16	微生物学的検査⑥ 真菌培養	1.シラバスとの関係	真菌培養の意義を理解し、適切な手技ができる	
		2.コマ主題	微生物学的検査⑥　真菌培養	
		3.コマ主題細目	手順・培養法	
		4.コマ主題細目深度	備品の準備及び手技の手順について学ぶ。ダーマキットの正しい取り扱いを理解できる。ダーマキットの色調の変化から皮膚糸状菌検出ができる。	
		5.次コマとの関係	微生物学的検査⑦　菌の固定	
17	微生物学的検査⑦ 菌の固定	1.シラバスとの関係	基本的な菌の同定が理解できる	
		2.コマ主題	微生物学的検査⑦　菌の固定	
		3.コマ主題細目	菌種の属名と種名の特定。菌の発育条件について。	
		4.コマ主題細目深度	菌の物質代謝能力・育成条件について知り、菌種の構造・性状の違いについて学ぶ。菌の同定の流れを学ぶ。	
		5.次コマとの関係	微生物学的検査⑧　薬剤感受性試験	
18	微生物学的検査⑧ 薬剤感受性試験	1.シラバスとの関係	薬剤感受性試験の目的・手順を知る	
		2.コマ主題	微生物学的検査⑧　薬剤感受性試験	
		3.コマ主題細目	薬剤感受性試験	
		4.コマ主題細目深度	薬剤感受性試験の意義・目的を知り、手順を学ぶ。菌種により効果的な薬剤・抗生物質の種類と効果について知る。	
		5.次コマとの関係	微生物学的検査⑨　菌種と抗生物質	
19	微生物学的検査⑨ 菌種と抗生物質	1.シラバスとの関係	細菌・真菌に効果的な薬剤・抗生物質について学ぶ。	
		2.コマ主題	微生物学的検査⑨　菌種と抗生物質	
		3.コマ主題細目	菌種と抗生物質	
		4.コマ主題細目深度	菌種により効果的な薬剤・抗生物質の種類・名称・効果について学ぶ。	
		5.次コマとの関係	微生物学的検査⑩　鏡検	

20	微生物学的検査⑩ 鏡検	1.シラバスとの関係	顕微鏡を正しく扱い、真菌・細菌の種類判別ができる	
		2.コマ主題	微生物学的検査⑩　鏡検	
		3.コマ主題細目	鏡検	
		4.コマ主題細目深度	顕微鏡を正しく扱える。鏡検により確認できる細菌・真菌の状態を学び、そこから導き出される疑わしき疾患についての理解を深める。	
		5.次コマとの関係	微生物学的検査　小テスト	
21	微生物学的検査 小テスト	1.シラバスとの関係	微生物学的検査の理解度を確認する	
		2.コマ主題	微生物学的検査　小テスト	
		3.コマ主題細目	微生物学的検査　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	微生物学的検査において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	レントゲン検査①　基本原理	
22	レントゲン検査① 基本原理	1.シラバスとの関係	X線の仕組みを知る	
		2.コマ主題	レントゲン検査　概論	
		3.コマ主題細目	原理・X線とは	
		4.コマ主題細目深度	X線と可視光線の違いについて学び、波長・エネルギーについて理解できる。各電波の違いや、その特徴を利用した撮影診について学ぶ。電波・可視光線・赤外線・紫外線などの専門用語を理解できる。	
		5.次コマとの関係	レントゲン検査②　撮影条件	
23	レントゲン検査② 撮影条件	1.シラバスとの関係	レントゲン撮影条件について学ぶ	
		2.コマ主題	レントゲン検査②　撮影条件	
		3.コマ主題細目	撮影濃度とコントラスト。撮影条件の注意点。散乱線。	
		4.コマ主題細目深度	撮影条件の決定に際し必要な、X線寮・電流・電圧・照射時間・被写体の大きさ・厚みの関連性について学ぶ。撮影条件の注意点を正しく理解できる。散乱線の意味を理解できる。レントゲンの利便性と共に人体に及ぼす影響についてよく理解し、必要以上に恐怖に感じることはないが、適切な防御の必要性を理解できるようになる。	
		5.次コマとの関係	レントゲン検査③　撮影器具	
24	レントゲン検査③ 撮影器具	1.シラバスとの関係	適切な撮影のための関連器具について理解できる	
		2.コマ主題	レントゲン検査③　撮影器具	
		3.コマ主題細目	撮影器具（フィルム・カセッテ・グリッドなど）	
		4.コマ主題細目深度	レントゲン撮影に用いる器具（フィルム・カセッテ・増感紙・グリッド・造影剤・防護服）の名称と使用目的について理解できるようになる。X線防護の三原則と防護用具の重要性を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	レントゲン検査④　カセッテ・グリッド・フィルム	
25	レントゲン検査④ カセッテ・フィルム	1.シラバスとの関係	カセッテ及びフィルムの適切な取扱いと準備ができる	
		2.コマ主題	レントゲン検査④　カセッテ・グリッド・フィルム	
		3.コマ主題細目	カセッテ・フィルムの正しい取り扱い・準備	
		4.コマ主題細目深度	感光を防ぐ正しいフィルムとカセッテの取り扱いと注意事項について学ぶ。	
		5.次コマとの関係	レントゲン検査⑤　ポジショニング　犬	
26	レントゲン検査⑤ ポジショニング　犬	1.シラバスとの関係	撮影目的に合った犬のポジショニングができる	
		2.コマ主題	レントゲン検査⑤　ポジショニング　犬	
		3.コマ主題細目	撮影時の犬の保定とポジショニング	
		4.コマ主題細目深度	X線の放射について理解し、被写体である動物になるべく負担がかからないような保定ができ、かつ正しい結果を獣医師が読み取れるように正しいポジショニングが取れるようになる。被写体に合ったフィルムサイズと照射野が選択できる。フィルム位置を正しくセットできる。DV・VD・ラテラルの保定ができる。	
		5.次コマとの関係	レントゲン検査⑥　ポジショニング　猫	
27	レントゲン検査⑥ ポジショニング　猫	1.シラバスとの関係	撮影目的に合った猫のポジショニングができる	
		2.コマ主題	レントゲン検査⑥	
		3.コマ主題細目	撮影時の猫の保定とポジショニング	
		4.コマ主題細目深度	X線の放射について理解し、被写体である動物になるべく負担がかからないような保定ができ、かつ正しい結果を獣医師が読み取れるように正しいポジショニングが取れるようになる。被写体に合ったフィルムサイズと照射野が選択できる。フィルム位置を正しくセットできる。DV・VD・ラテラルの保定ができる。	
		5.次コマとの関係	レントゲン検査⑦　現像	
28	レントゲン検査⑦ 現像	1.シラバスとの関係	適切な現像ができる	
		2.コマ主題	レントゲン検査⑦　現像	
		3.コマ主題細目	現像の手順について	
		4.コマ主題細目深度	現像の手順である、現像・定着・水洗・乾燥の流れと手技について学ぶ。	
		5.次コマとの関係	レントゲン検査⑧　フィルム・データ管理	
29	レントゲン検査⑧ フィルム・データ管理	1.シラバスとの関係	フィルム及びデータの適切な管理ができる	
		2.コマ主題	レントゲン検査⑧　フィルム・データ管理	
		3.コマ主題細目	獣医師法21条の理解	
		4.コマ主題細目深度	獣医師法21条に基づいたフィルム及びデータの適切な管理について学ぶ。実際に動物病院で行われている管理法を知ることができる。	
		5.次コマとの関係	レントゲン検査⑨　読影	

30	レントゲン検査⑨ 読影	1.シラバスとの関係	レントゲンフィルムの基本的な読影が理解できる	
		2.コマ主題	レントゲン検査⑨	
		3.コマ主題細目	フィルムの読影・組織と投影の関係性	
		4.コマ主題細目深度	X線フィルムの濃淡と骨・軟部組織・脂肪・空気の関連性を学ぶ。また、X線の吸収と写り方について理解できるようになる。フィルムに移された骨・軟部組織の名称と位置関係が分かる。	
		5.次コマとの関係	レントゲン検査⑩　報告の義務	
31	レントゲン検査⑩ 報告の義務	1.シラバスとの関係	レントゲン撮影に従事する者の各種報告の義務について理解できる	
		2.コマ主題	レントゲン検査⑩　報告の義務	
		3.コマ主題細目	獣医療法施行規則第9条・15条・19条の理解・診療従事者等に対する注意事項	
		4.コマ主題細目深度	獣医療法施行規則第9条・15条・19条について学ぶ。X線診療従事者等に対する注意事項を学び、防護と被曝の知識を得ることができる。	
		5.次コマとの関係	レントゲン検査　小テスト	
32	レントゲン検査 小テスト	1.シラバスとの関係	レントゲン検査の理解度を確認する	
		2.コマ主題	レントゲン検査　小テスト	
		3.コマ主題細目	レントゲン検査　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	レントゲン検査において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	超音波検査①　目的・意義	
33	超音波検査① 目的・意義	1.シラバスとの関係	超音波検査の目的・意義を知る	
		2.コマ主題	超音波検査①　目的・意義	
		3.コマ主題細目	目的・意義	
		4.コマ主題細目深度	臨床検査における目的・意義を知る	
		5.次コマとの関係	超音波検査②　解剖生理	
34	超音波検査② 解剖生理	1.シラバスとの関係	各種内臓の名称・位置関係を学ぶ	
		2.コマ主題	超音波検査②　解剖生理	
		3.コマ主題細目	解剖生理	
		4.コマ主題細目深度	超音波検査にて得られる画像の各種内臓の名称・位置関係を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	超音波検査③　妊娠診断・出産	
35	超音波検査③ 妊娠診断・出産	1.シラバスとの関係	超音波検査にて得られる妊娠診断と妊娠期間について学ぶ	
		2.コマ主題	超音波検査③　妊娠診断・出産	
		3.コマ主題細目	妊娠診断・出産	
		4.コマ主題細目深度	妊娠期間を知り、超音波検査にて得られる画像から考えられる妊娠診断について理解を深める。	
		5.次コマとの関係	超音波検査④　周波数	
36	超音波検査④ 周波数	1.シラバスとの関係	超音波検査のしくみを学び、周波数と超音波の関係性を知る	
		2.コマ主題	超音波検査④　周波数	
		3.コマ主題細目	波数と超音波の関係性	
		4.コマ主題細目深度	超音波検査のしくみを学び、周波数と超音波の関係性を学ぶ。聴覚と周波数について理解する。プローブから発する超音波の特性（反射・散乱・減弱・屈折）を知る。	
		5.次コマとの関係	超音波検査④　検査準備	
37	超音波検査⑤ 検査準備	1.シラバスとの関係	生体・器機の事前準備について学ぶ	
		2.コマ主題	超音波検査⑤　検査準備	
		3.コマ主題細目	生体の前処置（剃毛）と機材準備	
		4.コマ主題細目深度	検査前に行う剃毛と超音波の関連性について学ぶ。アプローチ部位を綺麗に剃毛できる。装置の準備・動物情報の入力ができる。	
		5.次コマとの関係	超音波検査⑥　取り扱いと操作法	
38	超音波検査⑥ 取り扱い・操作法	1.シラバスとの関係	超音波装置の適切な取り扱いと操作ができる	
		2.コマ主題	超音波検査⑥　取り扱い・操作法	
		3.コマ主題細目	超音波装置の設定と選択	
		4.コマ主題細目深度	各種プローブの名称と特性を知り、目的に応じて必要なプローブを選択できる。	
		5.次コマとの関係	超音波検査⑦　ポジショニング　イヌ	
39	超音波検査⑦ ポジショニング　犬	1.シラバスとの関係	検査目的に合ったイヌのポジショニングができる	
		2.コマ主題	超音波検査⑦　ポジショニング　イヌ	
		3.コマ主題細目	目的に応じた保定とポジショニング	
		4.コマ主題細目深度	被写体であるイヌになるべく負担がない上に安全と正確な画像を得るための立位・横臥位・仰臥位の正しい保定技術を学ぶ。生体組織にアプローチする際の、正しいプローブ位置を知る。	
		5.次コマとの関係	超音波検査⑧　ポジショニング　ネコ	
40	超音波検査⑧ ポジショニング　猫	1.シラバスとの関係	検査目的に合ったネコのポジショニングができる	
		2.コマ主題	超音波検査⑧　ポジショニング　ネコ	
		3.コマ主題細目	目的に応じた保定とポジショニング	
		4.コマ主題細目深度	被写体であるネコになるべく負担がない上に安全と正確な画像を得るための立位・横臥位・仰臥位の正しい保定技術を学ぶ。生体組織にアプローチする際の、正しいプローブ位置を知る。	
		5.次コマとの関係	超音波検査⑨　画像のあらわれ方	

動物臨床検査学実習Ⅱ－2

41	超音波検査⑨ 画像のあらわれ方	1.シラバスとの関係	超音波画像のあらわれ方を学ぶ	
		2.コマ主題	超音波検査⑨　画像のあらわれ方	
		3.コマ主題細目	エコーフリー・エコーレベル・液体・空気・組織のあらわれ方	
		4.コマ主題細目深度	超音波検査の画像における液体・空気・組織のあらわれ方、超音波の抵抗・反射について知る。エコーフリーとは、エコーレベルとは何かを学ぶ。	
		5.次コマとの関係	超音波検査⑩　画像の見方	
42	超音波検査⑩ 画像の見方	1.シラバスとの関係	超音波検査の画像の読み取りについて学ぶ	
		2.コマ主題	超音波検査⑩　画像の見方	
		3.コマ主題細目	画像の読み取り	
		4.コマ主題細目深度	超音波検査の画像の読み取りについて学ぶ。各臓器の判断、正常・異常について理解を深める。	
		5.次コマとの関係	超音波検査　小テスト	
43	超音波検査 小テスト	1.シラバスとの関係	超音波検査の理解度を確認する	
		2.コマ主題	超音波検査　小テスト	
		3.コマ主題細目	超音波検査　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	超音波検査において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	心電図検査①　目的・意義	
44	心電図検査① 目的・意義	1.シラバスとの関係	心電図の原理を理解し、心電図装置の操作方法と意義及び検査時のポジショニング方法を身につける	
		2.コマ主題	心電図検査①　目的・意義	
		3.コマ主題細目	検査目的と意義・評価	
		4.コマ主題細目深度	心電図検査の目的について知り、疾患との関連性について学ぶ。計測・アーチファクト・不整脈・PQRST波の意味について知る。	
		5.次コマとの関係	心電図検査②　基本原理	
45	心電図検査② 基本原理	1.シラバスとの関係	心電図の原理を理解できる	
		2.コマ主題	心電図検査②　基本原理	
		3.コマ主題細目	心臓の機能・心電図の原理	
		4.コマ主題細目深度	心臓の解剖生理を復習し、電気刺伝導の仕組みが理解できる。心電図の原理と電気刺激伝導の関係性を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	動物臨床検査学実習Ⅱ-3に進む	

動物臨床検査学実習Ⅱ－3

学科	動物看護系学科	シラバス（概要）
コース		「動物臨床検査学実習Ⅰ」で習得した手技に応用力を付けて正確性、迅速性を身につける。検査の意義を理解し、手順書を見ないでも一人で責任を持った検査結果を出せるよう繰り返し実習し、また、検査結果の意味と関連性臓器について考察できるようにする。常に検査結果を準値と比べ、異常値の場合は速やかに獣医師に報告できるよう一連の流れを習得する。さらにデータのまとめとして飼い主に提示しできるようにまとめ、検査内容について説明できるよう習得する。基本を忘れずに、検体の保存法、取り扱いと検査後の処理と医療廃棄物の区分が正しくでき、スタッフの安全と院内感染防止にも配慮し、検査後の看護動物の容態観察も習得する。
履修条件	動物臨床検査学実習Ⅰを履修すること・動物臨床検査学実習Ⅱ-1･2を履修すること	
ユニット		
科目名	動物臨床検査学実習Ⅱ-3	
単位	1（1～3合わせ3単位）	
履修時間	45時間（1～3合わせて135時間）	
回数	45回（1～3合わせて135時間）	
授業形態	実習	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	実技試験
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	①動物看護の教科書(緑書房)②動物臨床検査学(インターズー)③動物看護実習テキスト(インターズー)④動物看護実践基準（インターズー）	

コマシラバス

50分／コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	心電図検査③ 検査準備	1.シラバスとの関係	心電図検査時に必要な準備ができる	
		2.コマ主題	心電図検査③　検査準備	
		3.コマ主題細目	検査機器の準備	
		4.コマ主題細目深度	ケーブルと電極のセッティング及び、検査機器の作動に関して、正しく準備ができるようになる。	
		5.次コマとの関係	心電図検査④　操作法	
2	心電図検査④ 操作法	1.シラバスとの関係	心電図の適切な取り扱いと操作ができる	
		2.コマ主題	心電図検査④　操作法	
		3.コマ主題細目	誘導の設定・取り扱いと操作	
		4.コマ主題細目深度	誘導法の種類と標準肢誘導について学び、電極の装着ができるようになる。波形の表示までの基本的流れを理解する。感度を適切に調節し、正しい波形を表示できるようになる。記録紙の見方について学ぶ。	
		5.次コマとの関係	心電図検査⑤　ポジショニング　イヌ	
3	心電図検査⑤ ポジショニング　イヌ	1.シラバスとの関係	イヌのポジショニングができる	
		2.コマ主題	心電図検査⑤　ポジショニング　イヌ	
		3.コマ主題細目	イヌの保定・ポジショニング	
		4.コマ主題細目深度	イヌの心電図測定に際し、イヌにできるだけ負担が無く、正しい保定とポジショニングが取れるようになる。	
		5.次コマとの関係	心電図検査⑥　ポジショニング　ネコ	
4	心電図検査⑥ ポジショニング　ネコ	1.シラバスとの関係	ネコのポジショニングができる	
		2.コマ主題	心電図検査⑥　ポジショニング　ネコ	
		3.コマ主題細目	ネコの保定・ポジショニング	
		4.コマ主題細目深度	ネコの心電図測定に際し、ネコにできるだけ負担が無く、正しい保定とポジショニングが取れるようになる。	
		5.次コマとの関係	心電図検査⑦　正常波形	
5	心電図検査⑦ 正常波形	1.シラバスとの関係	刺激伝導系と正常波形の関係性を学ぶ	
		2.コマ主題	心電図検査⑦　正常波形	
		3.コマ主題細目	正常波形	
		4.コマ主題細目深度	心臓の働きと心電図波形のあらわれに関して学ぶ。正常な心電図波形を知る。	
		5.次コマとの関係	心電図検査⑧　異常波形	
6	心電図検査⑧ 異常波形	1.シラバスとの関係	異常波形の種類と疑われる疾患について学ぶ	
		2.コマ主題	心電図検査⑧　異常波形	
		3.コマ主題細目	異常波形	
		4.コマ主題細目深度	異常波形（期外収縮・心房細動）の種類と心電図パターン、不整脈の関連性について学ぶ。	
		5.次コマとの関係	心電図検査⑨　記録紙の見方	
7	心電図検査⑨ 記録紙の見方	1.シラバスとの関係	記録紙の目盛の表し方と誘導の関係を学ぶ	
		2.コマ主題	心電図検査⑨　記録紙の見方	
		3.コマ主題細目	記録紙の見方	
		4.コマ主題細目深度	記録紙の縦軸・横軸を理解し、目盛と誘導の理解ができる	
		5.次コマとの関係	心電図検査⑩　データの読み取り	
8	心電図検査⑩ データの読み取り	1.シラバスとの関係	検査データの読み取りができる	
		2.コマ主題	心電図検査⑩　データの読み取り	
		3.コマ主題細目	データの読み取り	
		4.コマ主題細目深度	検査を実施した心電図波形のデータから読み取られる内容を理解できるようになる。	
		5.次コマとの関係	心電図検査　小テスト	
9	心電図検査 小テスト	1.シラバスとの関係	心電図検査の理解度を確認する	
		2.コマ主題	心電図検査　小テスト	
		3.コマ主題細目	心電図検査　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	心電図検査において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	眼科検査①　目的・意義・解剖生理	
10	眼科検査① 目的・意義・解剖生理	1.シラバスとの関係	眼の解剖を知り、眼科検査の目的・意義を理解する	
		2.コマ主題	眼科検査①　目的・意義・解剖生理	
		3.コマ主題細目	目的・意義・解剖生理	
		4.コマ主題細目深度	眼の解剖について復習し、各部名称と働きについて理解を深める。眼科検査の意義を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	眼科検査②　眼の疾患	

11	眼科検査② 眼の疾患	1.シラバスとの関係	眼科検査にて疑われる疾患を知る	
		2.コマ主題	眼科検査②　眼の疾患	
		3.コマ主題細目	眼科疾患	
		4.コマ主題細目深度	眼科検査と疾患との関連性について学ぶ。疑われる疾患について理解を深める。	
		5.次コマとの関係	眼科検査③　視覚検査	
12	眼科検査③ 視覚検査	1.シラバスとの関係	視角検査の意義と手技を学ぶ	
		2.コマ主題	眼科検査③　視覚検査	
		3.コマ主題細目	意義・手技	
		4.コマ主題細目深度	光の刺激と投射の仕組みを知り、路を学ぶ。威嚇まばたき反応・綿球落下試験・迷路試験の意義と手技を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	眼科検査④　眼科神経学的検査	
13	眼科検査④ 眼科神経学的検査	1.シラバスとの関係	眼科神経学的検査の意義と手技を学ぶ	
		2.コマ主題	眼科検査④　眼科神経学的検査	
		3.コマ主題細目	意義・手技	
		4.コマ主題細目深度	眼科神経学的検査の角膜反射・眼瞼検査・対抗反射の目的・意義・手技を学ぶ。それぞれから疑われる疾患について理解を深める。	
		5.次コマとの関係	眼科検査⑤　シルマー試験	
14	眼科検査⑤ シルマー試験	1.シラバスとの関係	シルマー試験の方法と意義について理解し、適切な手技ができる	
		2.コマ主題	眼科検査⑤　シルマー試験	
		3.コマ主題細目	シルマー試験の方法と意義・試験紙の扱い・管理	
		4.コマ主題細目深度	シルマー試験の実施目的を学び、得られる結果と正常・異常について理解できるようになる。試験紙の扱いと管理ができるようになる。	
		5.次コマとの関係	眼科検査⑥　フルオレセイン試験	
15	眼科検査⑥ フルオレセイン試験	1.シラバスとの関係	フルオレセイン試験の方法と意義について理解し、適切な手技ができる	
		2.コマ主題	眼科検査⑥　フルオレセイン試験	
		3.コマ主題細目	フルオレセイン試験の方法と意義・検眼鏡の取り扱い	
		4.コマ主題細目深度	フルオレセイン試験の実施目的を学び、得られる結果と正常・異常について理解できるようになる。染色液・検眼鏡の扱いと管理ができるようになる。検査後の動物のケアを学ぶ。	
		5.次コマとの関係	眼科検査⑦　眼圧測定	
16	眼科検査⑦ 眼圧測定	1.シラバスとの関係	眼圧測定の方法と意義について理解し、適切な手技ができる	
		2.コマ主題	眼科検査⑦　眼圧測定	
		3.コマ主題細目	眼圧測定の意義と手技	
		4.コマ主題細目深度	各種眼圧計（シェッツ・トノペン・リバウンド）の使用法とその手技について学ぶ。眼圧の基準値を知り、高値において疑われる疾患についても理解できる。測定時の正しい保定法を身につける。	
		5.次コマとの関係	眼科検査⑧　眼底検査	
17	眼科検査⑧ 眼底検査	1.シラバスとの関係	眼底検査の方法と意義について理解し、適切な手技ができる	
		2.コマ主題	眼科検査⑧　眼底検査	
		3.コマ主題細目	眼底検査の意義と手技	
		4.コマ主題細目深度	眼底検査の目的を知り、その評価法を理解する。測定時の正しい保定法を身につける。	
		5.次コマとの関係	眼科試験⑨　細隙灯顕微鏡検査	
18	眼科検査⑨ 細隙灯顕微鏡検査	1.シラバスとの関係	細隙灯顕微鏡検査の方法と意義について理解し、適切な手技ができる。	
		2.コマ主題	眼科検査⑨　細隙灯顕微鏡検査	
		3.コマ主題細目	細隙灯顕微鏡検査の意義と手技	
		4.コマ主題細目深度	細隙灯顕微鏡検査の目的を知り、その評価法を理解する。測定時の正しい保定法を身につける。	
		5.次コマとの関係	眼科検査⑩　その他の眼科検査	
19	眼科検査⑩ その他の眼科検査	1.シラバスとの関係	その他細胞診・超音波検査・網膜電図などの検査内容を知る	
		2.コマ主題	眼科検査⑩　その他の眼科検査	
		3.コマ主題細目	その他の眼科検査	
		4.コマ主題細目深度	その他臨床現場で行われている眼科検査における細胞診・超音波検査・網膜電図などの検査内容を知る。	
		5.次コマとの関係	眼科検査　小テスト	
20	眼科検査 小テスト	1.シラバスとの関係	眼科検査の理解度を確認する	
		2.コマ主題	眼科検査　小テスト	
		3.コマ主題細目	眼科検査　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	眼科検査において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	耳の検査①　目的・意義・解剖生理	
21	耳の検査① 目的・意義・解剖生理	1.シラバスとの関係	診療現場で主に行われる耳の検査の意義を理解し、適切な手技を身につける	
		2.コマ主題	耳の検査①　目的・意義・解剖生理	
		3.コマ主題細目	目的・意義・解剖生理	
		4.コマ主題細目深度	外耳道の解剖を復習し、各部位の名称を理解できる。耳の検査項目と各疾患の関連性について学ぶ。観察時の正しい保定法を身につける。	
		5.次コマとの関係	耳の検査②　耳鏡の扱い方	

22	耳の検査② 耳鏡の扱い方	1.シラバスとの関係	耳の検査にて使用する耳鏡の正しい取り扱い方について理解できる	
		2.コマ主題	耳の検査②　耳鏡の扱い方	
		3.コマ主題細目	耳鏡の取り扱い	
		4.コマ主題細目深度	耳鏡及びスペキュラコーンの正しい取り扱い方と管理について学ぶ。	
		5.次コマとの関係	耳の検査④　塗抹・標本作成	
23	耳の検査③ 塗抹・標本作成	1.シラバスとの関係	耳垢検査の標本・塗抹作製ができる	
		2.コマ主題	耳の検査④　塗抹・標本作成	
		3.コマ主題細目	標本の作製	
		4.コマ主題細目深度	耳垢の採取と管理ができる。各種標本の作製と染色の技術を身につける。	
		5.次コマとの関係	耳の検査④　寄生虫	
24	耳の検査④ 寄生虫	1.シラバスとの関係	耳垢検査で検出される寄生虫について理解できる	
		2.コマ主題	耳の検査④　寄生虫	
		3.コマ主題細目	寄生虫	
		4.コマ主題細目深度	耳ヒゼンダニ・マラセチアなど、鏡検により判別できる寄生虫・疾患について理解できる。	
		5.次コマとの関係	耳の検査⑤　耳の手入れ・投薬	
25	耳の検査⑤ 手入れ・投薬	1.シラバスとの関係	耳の手入れ法および投薬について学ぶ	
		2.コマ主題	耳の検査⑤　手入れ・投薬	
		3.コマ主題細目	手入れ・投薬	
		4.コマ主題細目深度	日常の耳の手入れおよび洗浄の技術を身につける。疾患における投薬ができる。飼い主へ自宅でできるケアと投薬の実践を伝えることができる。	
		5.次コマとの関係	耳の検査　小テスト	
26	耳の検査 小テスト	1.シラバスとの関係	耳の検査の意義と手技についての理解度を確認する	
		2.コマ主題	耳の検査　小テスト	
		3.コマ主題細目	耳の検査　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	耳の検査において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	皮膚科検査①　目的・意義	
27	皮膚科検査① 目的・意義	1.シラバスとの関係	皮膚科検査の意義を理解し、適切な手技を身につける	
		2.コマ主題	皮膚科検査①　目的・意義	
		3.コマ主題細目	皮膚科検査の目的・使用備品	
		4.コマ主題細目深度	皮膚・被毛の構造と名称を学ぶ。皮膚科検査の目的・意義を理解できる。皮膚の疾患・栄養学との関連性を知る。	
		5.次コマとの関係	皮膚科検査②　器機・備品	
28	皮膚科検査② 器機・備品	1.シラバスとの関係	皮膚科検査に用いる機器・備品の名称と用途を知る	
		2.コマ主題	皮膚科検査②　器機・備品	
		3.コマ主題細目	器機・備品	
		4.コマ主題細目深度	各種皮膚科検査にて必要な器機及び備品の名称と使用法について学ぶ。	
		5.次コマとの関係	皮膚科検査③　病変の観察と記録	
29	皮膚科検査③ 病変の観察と記録	1.シラバスとの関係	皮膚病変の観察と記録法について説明できるようになる	
		2.コマ主題	皮膚科検査③　病変の観察と記録	
		3.コマ主題細目	皮膚病変の観察・記録法	
		4.コマ主題細目深度	皮膚病変の観察により、正常と異常の判別と記録ができるようになる。	
		5.次コマとの関係	皮膚科検査④　皮膚掻爬・スタンプ・被毛検査	
30	皮膚科検査④ 皮膚掻爬・スタンプ・被毛検査	1.シラバスとの関係	皮膚掻爬・スタンプ・被毛検査の意義と手技を理解できる	
		2.コマ主題	皮膚科検査④　皮膚掻爬・スタンプ・被毛検査	
		3.コマ主題細目	各種検査の意義と手技	
		4.コマ主題細目深度	皮膚掻爬・スタンプ・被毛検査の意義を理解し、手技をマスターできる。検査により検出された寄生虫や細菌・真菌の判別ができるようになる。	
		5.次コマとの関係	皮膚科検査⑤　ウッド灯検査・真菌培養法	
31	皮膚科検査⑤ ウッド灯検査・真菌培養法	1.シラバスとの関係	ウッド灯検査・真菌培養法の意義と手技を理解できる	
		2.コマ主題	皮膚科検査⑤　ウッド灯検査・真菌培養法	
		3.コマ主題細目	各種検査の意義と手技	
		4.コマ主題細目深度	ウッド灯検査・真菌培養法の意義を理解し、手技をマスターできる。検査により検出された寄生虫や細菌・真菌の判別ができるようになる。	
		5.次コマとの関係	皮膚科検査　小テスト	
32	皮膚科検査 小テスト	1.シラバスとの関係	皮膚科検査の理解度を確認する	
		2.コマ主題	皮膚科検査　小テスト	
		3.コマ主題細目	皮膚科検査　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	皮膚科検査において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	内視鏡検査①　目的・意義	
33	内視鏡検査① 意義・目的	1.シラバスとの関係	内視鏡検査の原理と方法、意義を理解できる	
		2.コマ主題	内視鏡検査①　目的・意義	
		3.コマ主題細目	内視鏡検査の目的と意義	
		4.コマ主題細目深度	内視鏡の原理を知り、検査意義について学ぶ。検査により確認できる疾患について理解を深める。	
		5.次コマとの関係	内視鏡検査②　方法と準備	
34	内視鏡検査② 方法と準備	1.シラバスとの関係	内視鏡検査の実施方法、準備事項について説明できる	
		2.コマ主題	内視鏡検査②　方法と準備	
		3.コマ主題細目	器機の準備・手技	
		4.コマ主題細目深度	器機の名称・用途を知り、準備及びスコープの操作について学ぶ。	
		5.次コマとの関係	内視鏡検査③　スコープの管理	

動物臨床検査学実習Ⅱ－3

35	内視鏡検査③ スコープの管理	1.シラバスとの関係	スコープの洗浄・消毒法について理解できる	
		2.コマ主題	内視鏡検査③　スコープの管理	
		3.コマ主題細目	スコープの洗浄と消毒	
		4.コマ主題細目深度	汚染されたスコープの正しい洗浄・消毒について学ぶ	
		5.次コマとの関係	内視鏡検査④　観察・画像の読み取り	
36	内視鏡検査④ 観察・画像の読み取り	1.シラバスとの関係	観察部位・画像が示す部位を理解できる	
		2.コマ主題	内視鏡検査④　観察・画像の読み取り	
		3.コマ主題細目	観察・画像の読み取り	
		4.コマ主題細目深度	内視鏡にて映し出された画像を示す部位が分かる。疑われる疾患について知る。	
		5.次コマとの関係	内視鏡検査⑤　その他の内視鏡検査	
37	内視鏡検査⑤ その他の内視鏡検査	1.シラバスとの関係	その他臨床現場で行われている内視鏡検査の内容を知る	
		2.コマ主題	内視鏡検査⑤　その他の内視鏡検査	
		3.コマ主題細目	その他の内視鏡検査	
		4.コマ主題細目深度	その他の内視鏡検査である、胸腔内視鏡検査・腹腔鏡内視鏡検査・膀胱鏡検査の内容を知る。	
		5.次コマとの関係	内視鏡検査　小テスト	
38	内視鏡検査 小テスト	1.シラバスとの関係	内視鏡検査の理解度を確認する	
		2.コマ主題	内視鏡検査　小テスト	
		3.コマ主題細目	内視鏡検査　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	細胞診検査・骨髄検査において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	神経学的検査①　目的・意義	
39	神経学的検査① 目的・意義	1.シラバスとの関係	神経学的検査の目的と意義を知る	
		2.コマ主題	神経学的検査①　目的・意義	
		3.コマ主題細目	神経学的検査の方法と意義・検査環境・備品	
		4.コマ主題細目深度	神経学的検査の種類と意義を学ぶ	
		5.次コマとの関係	神経学的検査①　検査環境・備品	
40	神経学的検査② 検査環境・備品	1.シラバスとの関係	検査時に必要な検査環境と備品の理解を深める	
		2.コマ主題	神経学的検査②　検査環境・備品	
		3.コマ主題細目	それぞれの検査に必要な備品の名称と使用法を学び、検査環境の重要性と動物へのストレスの関係性を理解する。	
		4.コマ主題細目深度	神経学的検査の種類と意義を学ぶ。それぞれの検査に必要な備品の名称と使用法を学び、検査環境の重要性と動物へのストレスの関係性を理解する。	
		5.次コマとの関係	神経学的検査③　反応と反射	
41	神経学的検査③ 反応と反射	1.シラバスとの関係	姿勢反応と脊髄反射について学ぶ	
		2.コマ主題	神経学的検査③　反応と反射	
		3.コマ主題細目	動物の観察（視診・反応・反射）	
		4.コマ主題細目深度	動物の観察により、正常と神経学的検査が必要な状態の判別ができるようになる。姿勢反射の手技と脊髄反射について学ぶ。	
		5.次コマとの関係	神経学的検査③　脳神経の検査法	
42	神経学的検査④ 脳神経の検査法	1.シラバスとの関係	脳神経の検査法について説明できる	
		2.コマ主題	神経学的検査④　脳神経の検査法	
		3.コマ主題細目	検査法の実際	
		4.コマ主題細目深度	各種脳神経検査の手技について学ぶ。感覚・排尿機能の評価について理解を深める。	
		5.次コマとの関係	神経学的検査⑤　評価記録法	
43	神経学的検査⑤ 評価記録法	1.シラバスとの関係	神経学的検査の評価記録法について理解する	
		2.コマ主題	神経学的検査⑤　評価記録法	
		3.コマ主題細目	神経学的検査表の記録	
		4.コマ主題細目深度	検査内容・正常または異常な反応を理解し、検査により得た情報を神経学的検査表に正確に記録できるようになる。記録表が病変の特定につながることを学ぶ。	
		5.次コマとの関係	神経学的検査　小テスト	
44	神経学的検査 小テスト	1.シラバスとの関係	神経学的検査の理解度を確認する	
		2.コマ主題	神経学的検査　小テスト	
		3.コマ主題細目	神経学的検査　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	神経学的検査において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係	動物臨床検査学実習　総合テスト	
45	動物臨床検査学実習 総合テスト	1.シラバスとの関係	動物臨床検査学Ⅱの理解度を確認する	
		2.コマ主題	動物臨床検査学実習　総合テスト	
		3.コマ主題細目	細胞診検査・骨髄検査　理解度確認	
		4.コマ主題細目深度	細胞診検査・骨髄検査において、筆記試験・実技試験を行う	
		5.次コマとの関係		

外科動物看護実習Ⅰ

学科	動物看護系学科	シラバス(概要)
コース		周術期の術前・術中・術後において、動物看護師の役割である外科手術を補助するために必要な外科看護技術を修得する。看護動物が安全に麻酔(手術)を遂行するためには、術前の準備として看護動物の術前評価及び状態把握の目的・意義を理解することが重要である。また、麻酔(手術)が円滑に行われるためには、日頃からの手術器具、機材の管理が必要となり、術中の補助では麻酔下の看護動物がどの様な状態にあるのかを考え、麻酔モニターを使用し管理を行う。正常と異常の状態を理解し、異常が見つかった場合は速やかに獣医師に報告し、獣医師の指示に基づき行動がとれるようにする。術後の管理では必ず起こる術後の疼痛に関して、ペインスケールを用いて評価を行い、看護動物の継続的な観察と看護の実践を行う。
履修条件	外科動物看護実習Ⅰを先行すること	
ユニット		
科目名	外科動物看護実習Ⅰ	
単位	1	
履修時間	45時間	
回数	45回	
授業形態	実習	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員会	実技試験
教科書	各校の選択に準ずる	
教科書	①動物看護実習テキスト(インターズー)②周術期の動物看護パーフェクトナビ(インターズー)③動物看護師のための麻酔超入門(インターズー)	

コマシラバス

50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	手術補助	1.シラバスとの関係	周術期看護	
		2.コマ主題	外科実習の流れ	
		3.コマ主題細目	周術期看護とは何か	
		4.コマ主題細目深度	手術(麻酔)とはどのように進められているのか一連の流れを知る。また、周術期(術前・術中・術後)看護を理解し、動物外科看護においての動物看護師の役割を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	周術期のうち手術中に関する項目を学ぶ	
2	器具・機材の準備①	1.シラバスとの関係	器具・機材の準備・管理	
		2.コマ主題	手術器具	
		3.コマ主題細目	使用目的や種類・管理	
		4.コマ主題細目深度	一般的な手術器具の名称と特徴を理解し、それぞれの使用目的に合わせて適切に扱えるようになる。また、外科器具の手入れ方法と維持管理について学ぶ。	
		5.次コマとの関係	手術中に用いる器具の理解を深める	
3	器具・機材の準備②	1.シラバスとの関係	器具・機材の準備・管理	
		2.コマ主題	縫合材料(糸と針)	
		3.コマ主題細目	目的・種類・特徴など	
		4.コマ主題細目深度	縫合糸・縫合針の種類や特徴を理解し、使用部位や目的に合った縫合材料を準備できる。	
		5.次コマとの関係	手術中に用いる器具の理解を深める	
4	器具・機材の準備③	1.シラバスとの関係	器具・機材の準備・管理	
		2.コマ主題	ドレープ類・ガウンの意義	
		3.コマ主題細目	種類や用途	
		4.コマ主題細目深度	ドレープの種類(無窓布・有窓布・器具敷き)を理解し、適切に準備ができる。また、使用効率や無菌操作を考えたドレープやガウンのたたみ方ができるようになる。	
		5.次コマとの関係	手術中に用いる器具の理解を深める	
5	器具・機材の準備④	1.シラバスとの関係	器具・機材の準備・管理	
		2.コマ主題	電気メス	
		3.コマ主題細目	電気メスの種類・使用方法	
		4.コマ主題細目深度	電気メスの種類(モノポーラ(単極)型、バイポーラ(双曲)型)の違い使用方法を理解し、適切な準備ができる。	
		5.次コマとの関係	手術のために用いる器具・器材の準備方法を理解する	
6	器具・機材の準備⑤	1.シラバスとの関係	器具・機材の準備・管理	
		2.コマ主題	器具の滅菌・管理	
		3.コマ主題細目	用途に合わせた滅菌方法と管理	
		4.コマ主題細目深度	滅菌の概念を理解した上で、用途に合わせた滅菌方法が選択できる。高圧蒸気滅菌の滅菌方法を知り、適切に使用できる。また、滅菌した物の安全保管期間を把握し、管理ができる。	
		5.次コマとの関係	実際に行われる手術の内容をイメージできるようにする	
7	避妊・去勢手術	1.シラバスとの関係	外科手術を補助するために必要な基礎知識	
		2.コマ主題	卵巣・子宮全摘出術、去勢手術の定義	
		3.コマ主題細目	手術手技や切開部位を理解する	
		4.コマ主題細目深度	卵巣・子宮全摘出術、去勢手術の流れを把握したうえで、手術助手として、術者のサポートを行う。術野を無菌的に保つために、術野の範囲、切開部位などを理解する。	
		5.次コマとの関係	手術を行う前に動物の状態を理解しておく必要性を知る	
8	麻酔前評価	1.シラバスとの関係	術前の患者動物の評価	
		2.コマ主題	術前検査の意義	
		3.コマ主題細目	麻酔前に動物を評価する目的とは	
		4.コマ主題細目深度	麻酔をかける前にはその動物に安全に麻酔がかけられるかどうかきちんと評価する必要がある。身体検査、血液検査、X線検査などを行い、動物の総合評価を行う。ASA分類を活用し動物の状態を把握する。絶食・絶水の必要性を知り、クライアントエデュケーションが出来るようになる。	
		5.次コマとの関係	総論の流れの最後。次回は総論のまとめ①とする	
9	まとめ①	1.シラバスとの関係	外科看護技術の修得	
		2.コマ主題	まとめ	
		3.コマ主題細目	避妊・去勢手術を想定して器具の準備を行う	
		4.コマ主題細目深度	これまでに学んだ器具・機材の準備を中心に、イヌ・ネコの避妊・去勢手術を想定して、一連の準備を行う。	
		5.次コマとの関係	避妊・去勢手術の流れの中から術前の準備を理解しておく	

外科動物看護実習Ⅰ

10	術前の準備	1.シラバスとの関係	術前の準備	
		2.コマ主題	手術室の準備（日常～当日まで）	
		3.コマ主題細目	手術用備品の日常管理～手術当日の準備	
		4.コマ主題細目深度	手術室だけではなく手術に使用する器具や機器などの手入れ・管理方法を学ぶ。特に手術当日は機器が正常に作動するか、酸素ボンベやガス麻酔薬やその他消耗品の確認をする。使用する器具・機器の配置を考え、準備できるようになる。	
		5.次コマとの関係	術前の準備の流れを学ぶ	
11	術者の準備①	1.シラバスとの関係	術前の準備	
		2.コマ主題	手指の消毒法	
		3.コマ主題細目	手術前の適切な手洗い方法	
		4.コマ主題細目深度	手術前に手指を清潔に保つ必要がある事を理解し、普段の手洗い方法とは異なり、ブラシを使用し手順と時間を決めて行う方法（スクラブ法）と、ブラシや水を使わない方法（ラビング法）を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	術前の準備の流れを学ぶ	
12	術者の準備②	1.シラバスとの関係	術前の準備	
		2.コマ主題	ガウン・グローブ装着方法	
		3.コマ主題細目	無菌的にガウンの着用とグローブの装着を行う	
		4.コマ主題細目深度	帽子、マスクを必ず着用し、汚染源となるものを少なくするように身なりを整えるとともに、無菌的にガウンの着用とグローブの装着を行う。グローブの装着法には閉鎖式（Closed cuff method）と開放式（Open cuff method）があり、手術の際にはより無菌的な状態を保つ、閉鎖式での装着法を身につける。	
		5.次コマとの関係	術前の準備の流れを学ぶ	
13	動物の準備①	1.シラバスとの関係	術前の準備	
		2.コマ主題	術野の準備	
		3.コマ主題細目	毛刈りの意義・適切な消毒方法	
		4.コマ主題細目深度	イヌ・ネコの避妊・去勢手術を想定して、衛生的に手術を行い、術中・術後の清潔が保てる事を考慮した上で、適切な範囲の毛刈りを実施する。その後、消毒剤を使用し術野の消毒を行う。術野の消毒法では、術野の最外側に達したガーゼは中心に戻ってはならず、そういった手順を理解した上で実施する。	
		5.次コマとの関係	術前の準備の流れを学ぶ	
14	動物の準備②	1.シラバスとの関係	術前の準備	
		2.コマ主題	ドレープのかけ方	
		3.コマ主題細目	術野にドレープをかける	
		4.コマ主題細目深度	イヌ・ネコの避妊・去勢手術を想定し、切開部を考慮した上で、適切な範囲で術野にドレープをかける。この時、無菌的なドレープの持ち方・かけ方を身につける。	
		5.次コマとの関係	手術の流れにおける補助の手順・手技を理解する	
15	血管確保	1.シラバスとの関係	外科手術を補助するために必要な基礎知識	
		2.コマ主題	血管確保の準備・手順	
		3.コマ主題細目	血管確保に必要な準備物は何か	
		4.コマ主題細目深度	動物種や大きさに合わせて、血管確保に必要な備品を準備し、手順を理解した上で、的確に処置者のサポートができる。また、処置がスムーズに行え、動物のストレスを考慮した保定法ができる。	
		5.次コマとの関係	手術の流れにおける補助の手順・手技を理解する	
16	気道確保	1.シラバスとの関係	外科手術を補助するために必要な基礎知識	
		2.コマ主題	気道確保の準備・手順	
		3.コマ主題細目	気道確保に必要な準備物は何か	
		4.コマ主題細目深度	動物の気管の太さを考慮した上で、適切なサイズの気管チューブを選択する。また、気道確保に必要な備品の準備をし、手順を理解した上で、的確に処置者のサポートができる。気道確保がスムーズに行えるように考慮した保定法ができる。	
		5.次コマとの関係	手術の流れにおける患者管理の内容を理解する	
17	輸液管理	1.シラバスとの関係	外科手術を補助するために必要な基礎知識	
		2.コマ主題	輸液の準備・管理	
		3.コマ主題細目	輸液の目的を理解し、必要な備品の準備ができる	
		4.コマ主題細目深度	手術中の輸液の目的を理解し、輸液剤や必要な備品の準備ができる。輸液に必要な機器の操作法を理解する。また、自然落下での管理もできるようになる。	
		5.次コマとの関係	手術の流れにおける患者管理の内容を理解する	
18	麻酔とは	1.シラバスとの関係	外科手術を補助するために必要な基礎知識	
		2.コマ主題	麻酔の種類	
		3.コマ主題細目	全身麻酔と局所麻酔	
		4.コマ主題細目深度	麻酔の定義を知り、麻酔とはどういったものなのか理解する。また麻酔状態とはどの様な状態か、なぜ手術をする際に麻酔が必要なのか理解する。全身麻酔と局所麻酔の定義を理解する。	
		5.次コマとの関係	手術の流れにおける患者管理の内容を理解する	
19	麻酔薬の作用	1.シラバスとの関係	外科手術を補助するために必要な基礎知識	
		2.コマ主題	麻酔薬の作用・代謝・排泄	
		3.コマ主題細目	麻酔はどうやって作用して覚めるのか	
		4.コマ主題細目深度	麻酔薬がどのように作用しているのか、麻酔からどうやって覚めるのかを理解する。	
		5.次コマとの関係	手術の流れにおける患者管理の内容を理解する	

外科動物看護実習Ⅰ

20	麻酔前投与薬	1.シラバスとの関係	外科手術を補助するために必要な基礎知識	
		2.コマ主題	麻酔前投与薬の意義	
		3.コマ主題細目	麻酔前投与薬の種類・薬理効果	
		4.コマ主題細目深度	麻酔前投与薬を投与する意義を理解する。また、代表的な麻酔前投与薬（副交感神経遮断薬、トランキライザー、鎮静薬）の種類・薬理効果を理解する。	
		5.次コマとの関係	手術の流れにおける患者管理の内容を理解する	
21	鎮痛薬	1.シラバスとの関係	外科手術を補助するために必要な基礎知識	
		2.コマ主題	鎮痛薬の意義	
		3.コマ主題細目	鎮痛薬の種類・薬理効果	
		4.コマ主題細目深度	鎮痛薬を投与する目的を知り、投与のタイミングを理解する。鎮痛薬の種類・薬理効果を理解する。	
		5.次コマとの関係	手術の流れにおける患者管理の内容を理解する	
22	麻酔導入	1.シラバスとの関係	外科手術を補助するために必要な基礎知識	
		2.コマ主題	麻酔導入方法の理解	
		3.コマ主題細目	注射麻酔薬の種類・薬理効果	
		4.コマ主題細目深度	「急速導入法」と「緩徐導入法」の2種類の方法を理解し、使い分けることができる。急速導入法では代表的な麻酔導入薬の種類・薬理効果を理解する。	
		5.次コマとの関係	手術の流れにおける患者管理の内容を理解する	
23	吸入麻酔薬	1.シラバスとの関係	外科手術を補助するために必要な基礎知識	
		2.コマ主題	吸入麻酔薬の意義	
		3.コマ主題細目	吸入麻酔薬の種類・薬理効果	
		4.コマ主題細目深度	吸入麻酔の意義を知り、代表的な吸入麻酔薬の種類・薬理効果を理解する。	
		5.次コマとの関係	手術の流れにおける患者管理の内容を理解する	
24	酸素化	1.シラバスとの関係	外科手術を補助するために必要な基礎知識	
		2.コマ主題	麻酔導入前の酸素化の意義	
		3.コマ主題細目	効果的な酸素のかがせ方とは	
		4.コマ主題細目深度	麻酔導入前になぜ酸素をかがせる必要があるのか理解し、適切な方法で酸素化を実施する。	
		5.次コマとの関係	手術の流れにおける患者管理に必要な設備・装置を理解する	
25	麻酔器の構造と管理	1.シラバスとの関係	外科手術を補助するために必要な基礎知識	
		2.コマ主題	麻酔器の仕組みの理解	
		3.コマ主題細目	麻酔器の準備・管理ができる	
		4.コマ主題細目深度	一般的な麻酔器の構造を理解し、管理ができる。手術前には的確に準備ができる。	
		5.次コマとの関係	手術の流れにおける患者管理に必要な設備・装置を理解する	
26	モニター機器の準備と管理①	1.シラバスとの関係	外科手術を補助するために必要な基礎知識	
		2.コマ主題	ECGモニターの仕組みを理解	
		3.コマ主題細目	ECGモニターの準備・管理ができる	
		4.コマ主題細目深度	ECGモニターに必要な備品の準備をし、正しく接続ができる。各項目を理解し、管理できる。	
		5.次コマとの関係	手術の流れにおける患者管理に必要な設備・装置を理解する	
27	モニター機器の準備と管理②	1.シラバスとの関係	外科手術を補助するために必要な基礎知識	
		2.コマ主題	血圧モニターの仕組みを理解	
		3.コマ主題細目	血圧モニターの準備・管理ができる	
		4.コマ主題細目深度	血圧モニターに必要な備品の準備をし、正しく接続ができる。各項目を理解し、管理できる。	
		5.次コマとの関係	手術の流れにおける看護動物の管理に必要な設備・装置を理解する	
28	まとめ②	1.シラバスとの関係	外科看護技術の修得	
		2.コマ主題	まとめ	
		3.コマ主題細目	手術の一連の流れを実践	
		4.コマ主題細目深度	ぬいぐるみを用いて手術当日の手術室、動物、術者の準備全ての一連の流れのうち麻酔モニター装置の設置までを理解する。	
		5.次コマとの関係	麻酔モニターの意義について理解する	
29	麻酔のモニター①	1.シラバスとの関係	正常と異常を理解する	
		2.コマ主題	気道のモニター	
		3.コマ主題細目	カプノメーターとカプノグラムとは何か	
		4.コマ主題細目深度	カプノメーターを使用し、モニターできる項目にはどんなものがあるのか理解する。	
		5.次コマとの関係	引き続き麻酔モニターについて理解を深める	
30	麻酔のモニター②	1.シラバスとの関係	正常と異常を理解する	
		2.コマ主題	換気のモニター	
		3.コマ主題細目	パルスオキシメーターとは何か	
		4.コマ主題細目深度	換気がしっかり行われていることが何を意味するのか把握する。また、パルスオキシメーターを使用して、モニターできる項目にはどんなものがあるのか理解する。	
		5.次コマとの関係	血液循環とモニターの関係について理解する	

外科動物看護実習Ⅰ

31	麻酔前評価	1.シラバスとの関係	術前の看護動物の評価	
		2.コマ主題	術前検査の意義	
		3.コマ主題細目	麻酔前に動物を評価する目的とは	
		4.コマ主題細目深度	麻酔をかける前にはその動物に安全に麻酔がかけられるかどうかきちんと評価する必要がある。身体検査、血液検査、X線検査などを行い、動物の総合評価を行う。ASA分類を活用し動物の状態を把握し麻酔の危険度との関連性を理解する。絶食・絶水の必要性の理解と実際に行う時間を理解しクライアントおよびスタッフエデュケーションに活かす。	
		5.次コマとの関係	看護動物の状態の評価を患者観察へ活かす方法を理解する	
32	麻酔維持	1.シラバスとの関係	外科手術を補助するために必要な実践的手技の理解す	
		2.コマ主題	モニタリングの目的	
		3.コマ主題細目	なぜモニタリングが必要なのか	
		4.コマ主題細目深度	動物の安全を確保するためには、麻酔中の動物の生理機能がどのように変化しているかを理解し、監視と制御を行う重要項目の詳細を理解する。	
		5.次コマとの関係	変化する生体状態の評価に必要な項目を学ぶ	
33	動物のモニター①	1.シラバスとの関係	人間の五感を使った動物の評価方法	
		2.コマ主題	五感を使ったモニター方法①	
		3.コマ主題細目	五感を使ったモニターの利点と欠点の理解①	
		4.コマ主題細目深度	人間の五感を用いておこなう麻酔モニタリングの詳細について学ぶ①	
		5.次コマとの関係	麻酔モニタリング装置を用いないモニタリング方法について理解を深める	
34	動物のモニター②	1.シラバスとの関係	人間の五感を使った動物の評価方法	
		2.コマ主題	五感を使ったモニター方法②	
		3.コマ主題細目	五感を使ったモニターの利点と欠点の理解②	
		4.コマ主題細目深度	人間の五感を用いておこなう麻酔モニタリングの詳細について学び、異常が生じた場合の対処法をイメージできるようにする。	
		5.次コマとの関係	五感を用いたモニタリングの限界を知り、モニター装置の重要性を理解する	
35	麻酔のモニター①	1.シラバスとの関係	正常と異常を理解する	
		2.コマ主題	換気のモニター	
		3.コマ主題細目	カプノメーターとカプノグラムとは何か	
		4.コマ主題細目深度	カプノメーターを使用し、モニターできる項目を知るとともに、描出されるカプノグラムから知る事のできる動物の異常状態を理解する。	
		5.次コマとの関係	換気と酸素化のモニタリングの理解を深める	
36	麻酔のモニター②	1.シラバスとの関係	正常と異常を理解する	
		2.コマ主題	酸素化のモニター	
		3.コマ主題細目	パルスオキシメーターから得られる重要な情報は何か	
		4.コマ主題細目深度	生体が生きて行くのに必要な酸素が患者動物に適切に供給されているかどうかをモニタリングする方法を理解する。パルスオキシメーターを用いたモニタリングの内容を知る。	
		5.次コマとの関係	動物が生きるために必要な血液循環を理解する	
37	血液循環	1.シラバスとの関係	正常と異常を理解する	
		2.コマ主題	血液循環とは	
		3.コマ主題細目	全身の血液循環の理解	
		4.コマ主題細目深度	心臓を中心とする血液の流れを理解し、生体管理における血液循環の重要性を理解する。	
		5.次コマとの関係	心臓の動きをどのように看るかを考える	
38	血液循環のモニター①	1.シラバスとの関係	正常と異常を理解する	
		2.コマ主題	心電図モニター	
		3.コマ主題細目	麻酔モニタリングにおける心電図評価を理解する	
		4.コマ主題細目深度	麻酔中の患者看視における心電図測定のための正しい電極の装着方法を理解する。また、麻酔中にモニターすべき心電図波形の基本を理解する。	
		5.次コマとの関係	正常な心電図波形を理解する事で異常を知る事ができる	
39	血液循環のモニター②	1.シラバスとの関係	正常と異常を理解する	
		2.コマ主題	心電図モニター	
		3.コマ主題細目	麻酔モニタリングにおける心電図評価を理解する	
		4.コマ主題細目深度	麻酔中よく遭遇する異常心電図波形について知り、それを発見した時の看護的介入および獣医師への報告方法について学ぶ。	
		5.次コマとの関係	心電図と心臓の動きを結びつけ血液の流れを学ぶ	
40	血液循環のモニター③	1.シラバスとの関係	正常と異常を理解する	
		2.コマ主題	血圧のモニター	
		3.コマ主題細目	血圧測定法の理解	
		4.コマ主題細目深度	非観血的血圧測定法（オシロメトリック法）による実際の血圧測定の方法について理解する。また観血的血圧測定についても概要を理解し、それぞれの利点・欠点を学ぶ。	
		5.次コマとの関係	血液循環のモニターの重要性を理解する	
41	血液循環のモニター④	1.シラバスとの関係	正常と異常を理解する	
		2.コマ主題	血圧のモニター	
		3.コマ主題細目	血圧測定法の重要性の理解	
		4.コマ主題細目深度	血圧測定における異常値を理解し、その対処の重要性を学ぶ。異常を発見した時の看護的介入および獣医師への報告について理解する。	
		5.次コマとの関係	生体管理の重要性を学ぶ	

外科動物看護実習Ⅰ

42	その他のモニター①	1.シラバスとの関係	正常と異常を理解する	
		2.コマ主題	体温のモニター	
		3.コマ主題細目	体温のモニターと異常への対応を学ぶ	
		4.コマ主題細目深度	麻酔管理中に生じることの多い体温低下の発生メカニズムを理解し、その生体への影響を学ぶ。体温低下に対する対応としての保温法を理解し実践する。	
		5.次コマとの関係	生体管理の重要性を学ぶ	
43	その他のモニター②	1.シラバスとの関係	正常と異常を理解する	
		2.コマ主題	尿量モニター	
		3.コマ主題細目	尿量モニターの意義を理解する	
		4.コマ主題細目深度	麻酔モニターを行う中で、なぜ尿量のモニターが必要なのか意義を理解し、正常な状態と異常な状態への対応を理解する。	
		5.次コマとの関係	生体管理をどのようにまとめるべきかを考える	
44	:まとめ:実技試験対策	1.シラバスとの関係	外科看護技術の修得	
		2.コマ主題	総まとめ	
		3.コマ主題細目	今までに習ったことの総復習	
		4.コマ主題細目深度	実技試験に向け、一連の流れ・動作を復習する。	
		5.次コマとの関係	実技試験	
45	実技試験	1.シラバスとの関係	外科看護技術の修得	
		2.コマ主題	実技試験	
		3.コマ主題細目	実技試験	
		4.コマ主題細目深度	修得状況の確認	
		5.次コマとの関係	外科動物看護学実習Ⅱに進む	

外科動物看護実習Ⅱ

学科	動物看護系学科	シラバス（概要）
コース		周術期の術前・術中・術後において、動物看護師の役割である外科手術の補助をするために必要な基礎知識を学び、外科看護技術を修得する。看護動物が安全に麻酔（手術）を遂行するためには、術前の準備として看護動物の術前評価及び状態把握の目的・意義を理解することが重要である。また、麻酔（手術）が円滑に行われるためには日頃からの手術器具、機材の管理が必要となる。術中の補助では麻酔下の看護動物がどの様な状態にあるのかを考え、麻酔モニターを使用し管理を行う。正常と異常の状態を理解し、異常が見つかった場合は速やかに獣医師に報告し、獣医師の指示に基づき行動がとれるようにする。術後の管理では必ず起こる術後の疼痛に関して、ペインスケールを用いて評価を行い、看護動物の継続的な観察と看護の実践を行う。
履修条件	外科動物看護実習Ⅰを履修すること	
ユニット		
科目名	外科動物看護実習Ⅱ	
単位	1	
履修時間	45時間	
回数	45回	
授業形態	実習	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員会	実技試験
教科書	各校の選択に準ずる	
教科書	①動物看護実習テキスト（インターズー）②周術期の動物看護パーフェクトナビ（インターズー）③動物看護師のための麻酔超入門（インターズー）	

コマシラバス

50分/コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	麻酔記録	1.シラバスとの関係	正常と異常を理解する	
		2.コマ主題	麻酔記録の意義	
		3.コマ主題細目	麻酔記録の書き方	
		4.コマ主題細目深度	麻酔中（手術中）の記録をとることの重要性を理解し実践する。	
		5.次コマとの関係	麻酔の流れを理解し、術後の管理へと活かす	
2	麻酔覚醒①	1.シラバスとの関係	外科手術を補助するために必要な基礎知識	
		2.コマ主題	麻酔覚醒とは	
		3.コマ主題細目	麻酔覚醒の生じるメカニズムを理解する	
		4.コマ主題細目深度	麻酔覚醒の内容を理解する。どのように麻酔から醒めるのかを理解することで、安全に麻酔覚醒を迎えるために必要な対処ができるようになる。	
		5.次コマとの関係	麻酔から醒める事で生じる動物の変化に対する対応を理解する	
3	麻酔覚醒②	1.シラバスとの関係	外科手術を補助するために必要な基礎知識	
		2.コマ主題	抜管基準	
		3.コマ主題細目	何を基準に抜管するか	
		4.コマ主題細目深度	気管内挿管で患者管理を行っていた場合には覚醒により抜管という操作を行う事になる。抜管後に生じる危険を少なくするために、抜管基準の確認は重要である。何を基準に抜管するのか把握したうえで、抜管の準備・手順を理解する。	
		5.次コマとの関係	麻酔覚醒後に生じる危険性をイメージする	
4	麻酔覚醒③	1.シラバスとの関係	外科手術を補助するために必要な基礎知識	
		2.コマ主題	覚醒後の患者管理のポイント	
		3.コマ主題細目	何を基準に麻酔覚醒後の安全を確保するか	
		4.コマ主題細目深度	麻酔覚醒後の患者状態の評価の重要性と難しさを十分に理解し、その危険について学ぶ。具体的な看視方法や異常発見に効果的な看護的介入法についてディスカッションする。	
		5.次コマとの関係	術後管理の流れを理解する	
5	術後管理①	1.シラバスとの関係	看護動物に必要な看護の実践	
		2.コマ主題	手術後の創傷管理①	
		3.コマ主題細目	術創の保護方法	
		4.コマ主題細目深度	創傷治癒の過程や機序を理解し、創傷治癒が速やかに行われるように援助する。創傷管理の目的を理解する。一般的に使用されるドレッシング材にはどのようなものがあるか把握する。	
		5.次コマとの関係	傷の管理を理解することで、管理における重要項目を学ぶ	
6	術後管理②	1.シラバスとの関係	看護動物に必要な看護の実践	
		2.コマ主題	手術後の創傷管理②	
		3.コマ主題細目	術創の管理方法	
		4.コマ主題細目深度	手術後の創傷部位の管理方法について学ぶ。術部・創傷部の観察ポイントや、管理における消毒法の理解。実際の包帯法と包帯の交換のポイントなどについて学ぶ	
		5.次コマとの関係	傷の管理を理解することで、傷により生じる痛みを理解する	
7	術後管理③	1.シラバスとの関係	術後疼痛管理	
		2.コマ主題	疼痛管理	
		3.コマ主題細目	疼痛管理とは何か	
		4.コマ主題細目深度	手術によって生じる痛みの発生の理解と、その評価方法についていくつものスケールを用いて評価を行う。	
		5.次コマとの関係	術後患者管理における痛みの管理の重要性を理解する	
8	術後管理④	1.シラバスとの関係	術後疼痛管理	
		2.コマ主題	疼痛管理	
		3.コマ主題細目	疼痛評価を実践する	
		4.コマ主題細目深度	手術後の動物のビデオを見て、動物の感じている痛みの程度の評価を行う。評価には動物のいたみ研究会作成の「犬の急性痛ペインスケール」他、各種ペインスケールを用いて評価を行う。	
		5.次コマとの関係	術後患者管理における痛みの管理の重要性を理解する	

外科動物看護実習Ⅱ

9	術後管理⑤	1.シラバスとの関係	看護動物に必要な看護の実践	
		2.コマ主題	アメニティー	
		3.コマ主題細目	術後の動物の安静・環境を考える	
		4.コマ主題細目深度	術後の痛みの感覚を増強させる要因を理解し、そこに大きく関与する不安因子の除去に有用なアメニティーをはじめとした環境整備を理解する。	
		5.次コマとの関係	看護動物の安静に必要な状態を理解する	
10	術後管理⑥	1.シラバスとの関係	看護動物に必要な看護の実践	
		2.コマ主題	アメニティー	
		3.コマ主題細目	術後の動物の安静・環境を考える	
		4.コマ主題細目深度	麻酔覚醒時、体温が低下している、突然暴れる、頭部を激しく動かし頭をぶつけてしまう場合などがある。動物の周囲は安全が確保されているのか、麻酔覚醒を阻害する因子はないか、状況をしっかり把握したうえで、環境を整える必要がある。	
		5.次コマとの関係	より快適な看護動物管理のために必要なその他の項目について学ぶ	
11	術後管理⑦	1.シラバスとの関係	看護動物に必要な看護の実践	
		2.コマ主題	術後の栄養管理①	
		3.コマ主題細目	術後早期栄養管理について理解する	
		4.コマ主題細目深度	手術後の患者に必要な栄養状態の評価と、給与エネルギーの計算方法を学び、いつからエネルギーを給与すべきかなどの実践的術後患者管理方法および入院管理法について学ぶ。	
		5.次コマとの関係	術後栄養管理の方法を学ぶ	
12	術後管理⑧	1.シラバスとの関係	看護動物に必要な看護の実践	
		2.コマ主題	術後の栄養管理②	
		3.コマ主題細目	術後早期栄養管理で行われる給餌法を理解する	
		4.コマ主題細目深度	手術後に自発的に採食できない患者動物に対して行われる様々な給餌法（チューブフィーディング）の方法を学び、その看護的介入法について理解する。	
		5.次コマとの関係	総合的な患者管理の概要を学ぶ	
13	術後管理⑨	1.シラバスとの関係	看護動物に必要な看護の実践と獣医師への報告	
		2.コマ主題	看護記録と報告	
		3.コマ主題細目	SOAPを用いて経過記録を取り、獣医師に報告する	
		4.コマ主題細目深度	実践した看護に対して、状態や反応の情報を記録する。また、獣医師に的確に報告を行う。	
		5.次コマとの関係	まとめ	
14	まとめ①	1.シラバスとの関係	麻酔記録・術後管理のまとめ	
		2.コマ主題	まとめ	
		3.コマ主題細目	麻酔記録の書き方と術後管理の理解を深める	
		4.コマ主題細目深度	麻酔記録と看護記録をシュミレーション記入し実践力を身に付ける。	
		5.次コマとの関係	去勢手術に向けて全体の流れをシュミレーションする	
15	去勢手術実習に向けてのシュミレーション①	1.シラバスとの関係	去勢手術の流れのシュミレーション	
		2.コマ主題	去勢手術における周術期管理を理解する	
		3.コマ主題細目	去勢手術実習に向けて、個人のレベルアップとチーム力を高める	
		4.コマ主題細目深度	①去勢手術の術式確認 ②術前検査の手順と検査意義（検査結果） ③前投与薬の種類と薬理作用 ④看護動物の術前管理と飼い主への説明 を理解し、シュミレーション練習できる	
		5.次コマとの関係	引き続き去勢手術に向けて全体の流れをシュミレーションする	
16	去勢手術実習に向けてのシュミレーション②	1.シラバスとの関係	去勢手術の流れのシュミレーション	
		2.コマ主題	去勢手術における周術期管理を理解する	
		3.コマ主題細目	去勢手術実習に向けて、個人のレベルアップとチーム力を高める	
		4.コマ主題細目深度	①術前準備と滅菌（器具・ドレープ類） ②術野消毒と準備 ③縫合糸の種類と準備 を理解し、シュミレーション練習できる	
		5.次コマとの関係	引き続き去勢手術に向けて全体の流れをシュミレーションする	
17	去勢手術実習に向けてのシュミレーション③	1.シラバスとの関係	去勢手術の流れのシュミレーション	
		2.コマ主題	去勢手術における周術期管理を理解する	
		3.コマ主題細目	去勢手術実習に向けて、個人のレベルアップとチーム力を高める	
		4.コマ主題細目深度	①モニターの準備とモニター装着 ②麻酔機の準備 ③挿管・血管確保の準備 ④術創の保護 ⑤抗生剤の準備 を理解し、シュミレーション練習できる	
		5.次コマとの関係	避妊手術に向けて全体の流れをシュミレーションする	

外科動物看護実習Ⅱ

18	避妊手術実習に向けてのシュミレーション①	1.シラバスとの関係	避妊手術の流れのシュミレーション	
		2.コマ主題	避妊手術における周術期管理を理解する	
		3.コマ主題細目	避妊手術実習に向けて、個人のレベルアップとチーム力を高める	
		4.コマ主題細目深度	①避妊手術の術式確認 ②術前検査の手順と評価（身体検査・血液検査・X線検査） ③前投与薬の種類と薬理作用 ④看護動物の術前管理と飼い主への説明	
		5.次コマとの関係	引き続き避妊手術に向けて全体の流れのシュミレーション	
19	避妊手術実習に向けてのシュミレーション②	1.シラバスとの関係	避妊手術の流れのシュミレーション	
		2.コマ主題	避妊手術における周術期管理を理解する	
		3.コマ主題細目	避妊手術実習に向けて、個人のレベルアップとチーム力	
		4.コマ主題細目深度	①術前準備と滅菌（器具・ドレープ類） ②術野消毒と準備 ③縫合糸の種類と準備 を理解し、シュミレーション練習できる	
		5.次コマとの関係	引き続き避妊手術に向けて全体の流れのシュミレーション	
20	避妊手術実習に向けてのシュミレーション③	1.シラバスとの関係	避妊手術の流れのシュミレーション	
		2.コマ主題	避妊手術における周術期管理を理解する	
		3.コマ主題細目	避妊手術実習に向けて、個人のレベルアップとチーム力を高める	
		4.コマ主題細目深度	①モニターの準備とモニター装着 ②麻酔機の準備 ③挿管・血管確保・輸液の準備 ④術創の保護 ⑤内服薬の準備 を理解し、シュミレーション練習できる	
		5.次コマとの関係	去勢手術実習	
21	去勢手術（イヌまたはネコ）に向けての術前準備① ～器具準備・ドレープ類の準備～	1.シラバスとの関係	去勢手術実習	
		2.コマ主題	去勢手術に関する周術期管理	
		3.コマ主題細目	去勢手術の周術期に関する業務を実践する	
		4.コマ主題細目深度	①手術器具とドレープ類の準備及び滅菌 ②使用薬剤と縫合糸の確認 ③術前検査の手順確認と看護動物の情報確認 を理解し、実践できる。	
		5.次コマとの関係	去勢手術実習の続き	
22	去勢手術（イヌまたはネコ）に向けて術前準備② ～手術動物の管理・術前検査～	1.シラバスとの関係	去勢手術実習	
		2.コマ主題	去勢手術に関する周術期管理	
		3.コマ主題細目	去勢手術の周術期に関する業務を実践する	
		4.コマ主題細目深度	①術前検査（身体検査） ②獣医師へ結果報告 ③看護動物の術前管理（絶食絶水） を理解し、実践できる	
		5.次コマとの関係	去勢手術実習の続き	
23	去勢手術（イヌまたはネコ）に向けての術前準備③ ～術前検査～	1.シラバスとの関係	去勢手術実習	
		2.コマ主題	去勢手術に関する周術期管理	
		3.コマ主題細目	去勢手術の周術期に関する業務を実践する	
		4.コマ主題細目深度	①術前検査（血液検査・X線検査） ②獣医師へ結果報告し麻酔前評価につなげる ③看護動物の術前管理(絶食・絶水) を理解し、実践できる。	
		5.次コマとの関係	去勢手術実習の続き	
24	去勢手術（イヌまたはネコ）に向けての術前準備④ ～術前検査・術前看護～	1.シラバスとの関係	去勢手術実習	
		2.コマ主題	去勢手術に関する周術期管理	
		3.コマ主題細目	去勢手術の周術期に関する業務を実践する	
		4.コマ主題細目深度	①前投与薬の準備 ②血管確保・気管挿管・輸液の準備 ③看護動物の術前管理(絶食・絶水) を理解し、実践できる。	
		5.次コマとの関係	去勢手術実習の続き	
25	去勢手術（イヌまたはネコ）① ～前処置・麻酔導入まで～	1.シラバスとの関係	去勢手術実習	
		2.コマ主題	去勢手術に関する周術期管理	
		3.コマ主題細目	去勢手術の周術期に関する業務を実践する	
		4.コマ主題細目深度	①血管確保の補助 ②麻酔前投与薬及び導入麻酔薬投与補助 ③バイタル確認・酸素化 ④麻酔記録 を理解し、実践できる。	
		5.次コマとの関係	去勢手術実習の続き	
26	去勢手術（イヌまたはネコ）② ～挿管・モニター装着～	1.シラバスとの関係	去勢手術実習	
		2.コマ主題	去勢手術に関する周術期管理	
		3.コマ主題細目	去勢手術の周術期に関する業務を実践する	
		4.コマ主題細目深度	①気管挿管の補助 ②モニター接続とモニタリング ③輸液接続 ④吸入麻酔機接続と獣医師指示による麻酔濃度調整 を理解し、実践できる。	
		5.次コマとの関係	去勢手術実習の続き	

外科動物看護実習Ⅱ

27	去勢手術(イヌまたはネコ)③ ～術野消毒・手指消毒・術着と手袋の装着～	1.シラバスとの関係	去勢手術実習	
		2.コマ主題	去勢手術に関する周術期管理	
		3.コマ主題細目	去勢手術の周術期に関する業務を実践する	
		4.コマ主題細目深度	①術野消毒 ②助手は手指消毒と術着装着及び手袋装着 を理解し、実践できる。	
		5.次コマとの関係	去勢手術実習の続き	
28	去勢手術(イヌまたはネコ)④ ～器具出し・モニター管理～	1.シラバスとの関係	去勢手術実習	
		2.コマ主題	去勢手術に関する周術期管理	
		3.コマ主題細目	去勢手術の周術期に関する業務を実践する	
		4.コマ主題細目深度	①モニター管理と数値の報告(獣医師指示による対応) ②輸液管理 ③獣医師指示による麻酔濃度管理 ④助手による器具出し・ドレープ掛け ⑤獣医師指示による助手業務 を理解し、実践できる	
		5.次コマとの関係	去勢手術実習の続き	
29	去勢手術(イヌまたはネコ)⑤ ～術後看護・術創管理～	1.シラバスとの関係	去勢手術実習	
		2.コマ主題	去勢手術に関する周術期管理	
		3.コマ主題細目	去勢手術の周術期に関する業務を実践する	
		4.コマ主題細目深度	①覚醒に向けての準備(モニター類抜去及び抜管タイミング) ②バイタルチェック(獣医師指示による対応) ③術創の保護 ④看護動物の術後管理(絶食・絶水) ⑤飼い主への術後注意事項の説明 ⑥片付けおよび適切な廃棄 を理解し、実践できる	
		5.次コマとの関係	去勢手術実習の振り返り	
30	去勢手術実習の振り返り	1.シラバスとの関係	去勢手術実習の振り返り	
		2.コマ主題	去勢手術に関する周術期管理を振り返る	
		3.コマ主題細目	チーム伝達事項と反省	
		4.コマ主題細目深度	個々で担当した業務について、気付いたことや対応したことなどを伝達し合いチーム内で情報共有する。麻酔記録や看護記録から、抜糸に向けて必要な看護や食事指導についてどのようなものがあるか検討し、クライアントエデュケーションに活かす。	
		5.次コマとの関係	避妊手術実習	
31	避妊手術(イヌまたはネコ)に向けての術前準備① ～器具準備・ドレープ類の準備～	1.シラバスとの関係	避妊手術実習	
		2.コマ主題	避妊手術に関する周術期管理	
		3.コマ主題細目	避妊手術の周術期に関する業務を実践する	
		4.コマ主題細目深度	①手術器具とドレープ類の準備及び滅菌 ②使用薬剤と縫合糸の確認 ③術前検査の手順確認と看護動物の情報確認 を理解し、実践できる。	
		5.次コマとの関係	避妊手術実習の続き	
32	避妊手術(イヌまたはネコ)に向けて術前準備② ～手術動物の管理・術前検査～	1.シラバスとの関係	避妊手術実習	
		2.コマ主題	避妊手術に関する周術期管理	
		3.コマ主題細目	避妊手術の周術期に関する業務を実践する	
		4.コマ主題細目深度	①術前検査(身体検査) ②獣医師へ結果報告 ③看護動物の術前管理(絶食絶水) を理解し、実践できる	
		5.次コマとの関係	避妊手術実習の続き	
33	避妊手術(イヌまたはネコ)に向けての術前準備③ ～術前検査～	1.シラバスとの関係	避妊手術実習	
		2.コマ主題	避妊手術に関する周術期管理	
		3.コマ主題細目	避妊手術の周術期に関する業務を実践する	
		4.コマ主題細目深度	①術前検査(血液検査・X線検査) ②獣医師へ結果報告し麻酔前評価につなげる ③看護動物の術前管理(絶食・絶水) を理解し、実践できる。	
		5.次コマとの関係	避妊手術実習の続き	
34	避妊手術(イヌまたはネコ)に向けての術前準備④ ～術前検査・術前看護～	1.シラバスとの関係	避妊手術実習	
		2.コマ主題	避妊手術に関する周術期管理	
		3.コマ主題細目	避妊手術の周術期に関する業務を実践する	
		4.コマ主題細目深度	①前投与薬の準備 ②血管確保・気管挿管・輸液の準備 ③看護動物の術前管理(絶食・絶水) を理解し、実践できる。	
		5.次コマとの関係	避妊手術実習の続き	
35	避妊手術(イヌまたはネコ)① ～前処置・麻酔導入まで～	1.シラバスとの関係	避妊手術実習	
		2.コマ主題	避妊手術に関する周術期管理	
		3.コマ主題細目	避妊手術の周術期に関する業務を実践する	
		4.コマ主題細目深度	①血管確保の補助 ②麻酔前投与薬及び導入麻酔薬投与補助 ③バイタル確認・酸素化 ④麻酔記録 を理解し、実践できる。	
		5.次コマとの関係	避妊手術実習の続き	

外科動物看護実習Ⅱ

36	避妊手術(イヌまたはネコ)② ～挿管・モニター装着～	1.シラバスとの関係	避妊手術実習
		2.コマ主題	避妊手術に関する周術期管理
		3.コマ主題細目	避妊手術の周術期に関する業務を実践する
		4.コマ主題細目深度	①気管挿管の補助 ②モニター接続とモニタリング ③輸液接続 ④吸入麻酔機接続と獣医師指示による麻酔濃度調整 を理解し、実践できる
		5.次コマとの関係	避妊手術実習の続き
37	避妊手術(イヌまたはネコ)③ ～術野消毒・手指消毒・術着と手袋の装着～	1.シラバスとの関係	避妊手術実習
		2.コマ主題	避妊手術に関する周術期管理
		3.コマ主題細目	避妊手術の周術期に関する業務を実践する
		4.コマ主題細目深度	①術野消毒 ②助手は手指消毒と術着装着及び手袋装着 を理解し、実践できる。
		5.次コマとの関係	避妊手術実習の続き
38	避妊手術(イヌまたはネコ)④ ～器具出し・モニター管理～	1.シラバスとの関係	避妊手術実習
		2.コマ主題	避妊手術に関する周術期管理
		3.コマ主題細目	避妊手術の周術期に関する業務を実践する
		4.コマ主題細目深度	①モニター管理と数値の報告(獣医師指示による対応) ②輸液管理 ③獣医師指示による麻酔濃度管理 ④助手による器具出し・ドレープ掛け ⑤獣医師指示による助手業務 を理解し、実践できる
		5.次コマとの関係	避妊手術実習の続き
39	避妊手術(イヌまたはネコ)⑤ ～器具出し・モニター管理～	1.シラバスとの関係	避妊手術実習
		2.コマ主題	避妊手術に関する周術期管理
		3.コマ主題細目	避妊手術の周術期に関する業務を実践する
		4.コマ主題細目深度	①モニター管理と数値の報告(獣医師指示による対応) ②輸液管理 ③獣医師指示による麻酔濃度管理 ④獣医師指示による助手業務 を理解し、実践できる
		5.次コマとの関係	避妊湯術実習の振り返り
40	避妊手術(イヌまたはネコ)⑥ ～術後看護・術創管理～	1.シラバスとの関係	避妊手術実習
		2.コマ主題	避妊手術に関する周術期管理
		3.コマ主題細目	避妊手術の周術期に関する業務を実践する
		4.コマ主題細目深度	①覚醒に向けての準備(モニター類抜去及び抜管タイミング) ②バイタルチェック(獣医師指示による対応) ③術創の保護 ④看護動物の術後管理(絶食・絶水) ⑤飼い主への術後注意事項の説明 ⑥片付けおよび適切な廃棄 を理解し、実践できる
		5.次コマとの関係	避妊手術実習の振り返り
41	避妊手術実習振り返り	1.シラバスとの関係	避妊手術実習の振り返り
		2.コマ主題	避妊手術に関する周術期管理を振り返る
		3.コマ主題細目	チーム伝達事項と反省
		4.コマ主題細目深度	個々で担当した業務について、気付いたことや対応したことなどを伝達し合いチーム内で情報共有する。麻酔記録や看護記録から、抜糸に向けて必要な看護や食事指導についてどのようなものがあるか検討し、クライアントエデュケーションに活かす。
		5.次コマとの関係	外科実習のまとめ
42	まとめ:実技試験対策②	1.シラバスとの関係	外科看護技術の修得
		2.コマ主題	まとめ
		3.コマ主題細目	手術の一連の流れを実践①
		4.コマ主題細目深度	ぬいぐるみを用いて手術当日の避妊手術及び外科手術の一連の流れをぬいぐるみや模擬薬剤を用いて実践する。それぞれの業務を持ち回り繰り返し練習する。
		5.次コマとの関係	外科実習のまとめ
43	まとめ:実技試験対策③	1.シラバスとの関係	外科看護技術の修得
		2.コマ主題	まとめ
		3.コマ主題細目	手術の一連の流れを実践②
		4.コマ主題細目深度	ぬいぐるみを用いて手術当日の避妊手術及び外科手術の一連の流れをぬいぐるみや模擬薬剤を用いて実践する。それぞれの業務を持ち回り繰り返し練習する。
		5.次コマとの関係	実技試験
44	実技試験①	1.シラバスとの関係	外科看護技術の修得
		2.コマ主題	実技試験
		3.コマ主題細目	実技試験
		4.コマ主題細目深度	修得状況の確認
		5.次コマとの関係	実技試験の続き
45	実技試験②	1.シラバスとの関係	外科看護技術の修得
		2.コマ主題	実技試験
		3.コマ主題細目	実技試験
		4.コマ主題細目深度	修得状況の確認
		5.次コマとの関係	

総合臨床実習

学科	動物看護系学科	シラバス（概要）
コース		修学した知識と技術が実際の動物医療現場でどのように活かされているのか動物病院で体験・実習する。動物病院の施設構造・機能を理解し看護が行われている場の環境を理解することで、獣医療現場での臨床経験から看護動物や飼い主への配慮を含むより実践的な看護と専門知識および倫理感を習得する。また、チーム獣医療の現場から診療の流れ、専門職としての役割を体験し、臨床現場ならではの臨場感を経験する。いままで修学した知識と技術、コミュニケーション能力を発揮し、先輩動物看護師に見習うことで、新人スタッフとしての心構えと社会人としての責任感を養い自身に不足している部分を理解する。
履修条件		
ユニット		
科目名	総合臨床実習	
単位	3単位	
履修時間	135時間	
回数		
授業形態	学外実習	評価方法
作成者	コマシラバス評価検証・コマシラバス作成委員	
教科書	各校の選択に準ずる	
参考図書	動物看護実習テキスト（インタズー）	

コマシラバス

50分／コマ	コマのテーマ	項目	内容	教材・教具
1	学びたい技術① 環境	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	環境整備が実践できる	
		3.コマ主題細目	動物病院で必要な環境に関するアセスメント・整備技術	
		4.コマ主題細目深度	・場所環境の観察 ・場所環境整備整頓 ・環境場所の衛生的清掃 ・掃除用具の整備 ・ケージ内の敷物交換・整備 について実践できる。	
		5.次コマとの関係		
2	学びたい技術② 食事	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	食事に関する看護及び技術を実践できる	
		3.コマ主題細目	動物病院で必要な食事に関するアセスメント・介助技術	
		4.コマ主題細目深度	・食事摂取状況の観察（食べ方、摂取方法、摂取量）のアセスメント ・栄養状態のアセスメント ・電解質のアセスメント（脱水状態の観察） ・食事のカロリー計算、配膳、セッティング ・体調や容態に適したセッティングの工夫 ・採食時の体位・要介助の判定（介助の必要あり・なし） ・採食の介助の工夫 ・採食障害あり・なし ・経鼻チューブあり・なし ・経管栄養による給事 ・経管の管理 ・食事内容の説明・指導（看護動物の飼育家族に対する指導・教育） について実践できる。	
		5.次コマとの関係		
3	学びたい技術③ 排泄技術	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	排泄技術を実践できる	
		3.コマ主題細目	動物病院で必要な食事に関するアセスメント・介助技術	
		4.コマ主題細目深度	・排泄状況のアセスメント（自然排尿あり・なし、排便あり・なし） ・排便の援助・腹部マッサージ、排便誘導 ・排尿の援助 ・失禁看護動物のケア ・膀胱内留置カテーテルの管理 ・尿道留置カテーテルの管理 ・導尿の介入 ・グリセリン浣腸の介入 について実践できる。	
		5.次コマとの関係		
4	学びたい技術④ 活動・休息・援助	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	活動・休息・援助後術を実践できる	
		3.コマ主題細目	動物病院で必要な活動・休息・援助に関するアセスメント・介助技術	
		4.コマ主題細目深度	・睡眠・活動状況のアセスメント ・症状・体調に合った散歩 ・臥床看護動物の体位変換 ・歩行介助・補助具なし ・歩行介助・補助具あり（装着具・カート・牽引） ・ケージレスト ・廃用症候群のリスクアセスメント ・廃用症候群予防・筋力保持リハビリ ・廃用症候群予防・関節可動域訓練 について実践できる。	
		5.次コマとの関係		

5	学びたい技術⑤ 身体の清潔・援助	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	身体の清潔・援助技術を実践できる	
		3.コマ主題細目	動物病院で必要な身体の清潔に関するアセスメント・援助技術	
		4.コマ主題細目深度	・清潔状態のアセスメント ・被毛の清潔 ・眼・鼻腔・口腔の清潔 ・爪の適切な衛生 ・排泄口、肛門の清潔 ・身体の清拭（輸液ライン留置がある・なし） ・薬浴の介助 について実践できる。	
		5.次コマとの関係		
6	学びたい技術⑥ 呼吸・循環を整える	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	呼吸・循環を整える技術を実践できる	
		3.コマ主題細目	動物病院で必要な身体の呼吸・循環に関するアセスメント・技術	
		4.コマ主題細目深度	・呼吸・循環のアセスメント ・体温測定 ・温める技術 ・冷やす技術 ・酸素吸入の介助 ・ネブライザーの準備と整備 ・酸素室使用時の管理 について実践できる。	
		5.次コマとの関係		
7	学びたい技術⑦ 創傷管理	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	創傷管理技術を実践できる	
		3.コマ主題細目	動物病院で必要な創傷管理に関するアセスメント・技術	
		4.コマ主題細目深度	・創傷のある看護動物のアセスメント ・包帯や腹帯の外からの観察 ・褥瘡リスク理解と予防のケア について実践できる。	
		5.次コマとの関係		
8	学びたい技術⑧ 投薬	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	投薬の技術を実践できる	
		3.コマ主題細目	動物病院で必要な投薬に関するアセスメント・技術	
		4.コマ主題細目深度	・経口投与 ・経皮・外用薬の塗布 ・点眼法 ・坐薬法 ・皮下注射の準備 ・皮下注射の介助及び後観察 ・筋肉内注射の介助と止血及び後観察 ・静脈注射の準備 ・静脈注射の介助と止血及び後観察 ・点滴静脈内注射の準備 ・点滴静脈内注射の介助と止血及び後観察、ラインの管理 ・輸液ポンプの基本的操作 ・抗菌薬使用看護動物の観察 ・インスリン製薬の投与法理解 ・インスリン製剤の使用看護動物の管理観察 ・劇薬・毒薬の管理理解 ・麻薬の管理理解 ・血液製剤の管理理解 ・輸血開始直後・輸血中・輸血後の観察管理 ・各種取り扱い別薬剤の管理理解 ・薬剤の在庫管理・発注法理解 について実践できる。	
		5.次コマとの関係		

9	学びたい技術⑨ 症状・生体機能管理	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	症状・生体機能管理技術を実践できる	
		3.コマ主題細目	動物病院で必要な生体機能管理に関するアセスメント・技術	
		4.コマ主題細目深度	・バイタルサイン測定 ・意識レベルの観察 ・反応反射の観察 ・呼吸音の聴取 ・心音の聴取 ・腸蠕動音の聴取 ・酸素飽和度の理解と測定介助 ・心電図モニターの装着 ・心電図モニターの観察 ・身体計測全般 ・尿検査の採材と適切な管理 ・細胞検査の採材解除と適切な管理 ・各種検査の介助 ・静脈血採血の介助と観察 について実践できる。	
		5.次コマとの関係		
10	学びたい技術⑩ 感染予防	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	感染予防への配慮と技術を実践できる	
		3.コマ主題細目	動物病院で必要な感染予防に関するアセスメント・技術	
		4.コマ主題細目深度	・基本的衛生管理 ・感染リスクの理解とアセスメント ・使用した器具の感染防止の取り扱い ・隔離室の理解と管理 ・感染性廃棄物の取り扱い理解と管理 ・無菌操作 ・使用後針刺し事故防止対策 ・感染性疾患疑いのある罹患動物外来後の衛生的清掃（待合室など） ・感染性疾患疑いのある罹患動物診療後の清掃管理 ・感染性疾患疑いのある罹患動物入院室の清掃管理 ・使用した食器や機材の清掃と管理 について実践できる。	
		5.次コマとの関係		
11	学びたい技術⑪ 安全管理	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	安全管理ができる	
		3.コマ主題細目	動物病院で必要な安全管理に関するアセスメント・技術	
		4.コマ主題細目深度	・看護動物の容態に見合ったケージの管理 ・転倒・転落・外傷・逃走・闘争リスクの理解とアセスメント ・転倒・転落・外傷・逃走・闘争予防 ・看護動物の誤認防止 ・リスクの大きい薬剤の危険性に関するアセスメント（抗がん剤・カリウム剤など） ・リスクの大きい薬剤安全対策 ・インシデント・アクシデント発生時の速やかな報告 について実践できる。	
		5.次コマとの関係		
12	学びたい技術⑫ コミュニケーション	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	適切なコミュニケーションを実践できる	
		3.コマ主題細目	動物病院で必要なコミュニケーションに関するアセスメント・技術	
		4.コマ主題細目深度	・看護動物とのコミュニケーション ・飼育家族とのコミュニケーション ・動物医療チーム内のコミュニケーション ・看護記録・実習記録 ・看護記録（SOAP） ・報告・連絡・相談方法 ・他職種とのコミュニケーション ・リラクゼーション について実践できる。	
		5.次コマとの関係		
13	発揮したい事項① 医療チームの一員として相応しい態度	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	医療チームの一員として適切な態度ができる	
		3.コマ主題細目	動物病院で必要なチーム医療に関する相応しい態度	
		4.コマ主題細目深度	・獣医療チームの一員としての人間関係への配慮、協調性 ・動物看護師としての役割の自覚、誠実性、責任性：個人情報の管理、報告・連絡・相談、自己の健康管理、約束（集合時間・提出物期限） ・計画的な学習への取り組みをする姿勢 ・学習者としての態度、礼儀：言葉使い、挨拶、清潔な身だしなみ について実践できる。	
		5.次コマとの関係		

14	発揮したい事項② 学習者としての相応しい態度	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	学習者として相応しい態度をとれる	
		3.コマ主題細目	動物病院で必要な学習者としての相応しい態度	
		4.コマ主題細目深度	・ユニフォームを正しく着用し、学生らしい清潔な身だしなみで実習先に出向く ・相手に与える印象や影響を考え、適切な対応を心掛ける ・言葉使い、聴き方を考える ・きちんと挨拶や返事をする ・相手の話をよく聞き、自分の考えも相手に伝える ・実習先の施設や個人情報の秘密を厳守する ・実習先施設等のルールを遵守する ・約束を守り、無断遅刻、欠勤をしない ・学習者としての責任ある行動をとり、適時、確認、相談、連絡、報告をする ・主体的に学習に臨む ・関心を持って課題に取り組み、疑問点について探求する姿勢を持ち、自ら文献で調べたり積極的に質問する ・指導者からの助言を受けた場合は、その助言を活かし修正し、実践できる。	
		5.次コマとの関係		
15	学びたい技術⑬ 周術期（手術前後）の看護	1.シラバスとの関係		
		2.コマ主題	周術期の看護技術を実践できる	
		3.コマ主題細目	動物病院で必要な周術期の看護に関するアセスメント・技術	
		4.コマ主題細目深度	・手術する動物の疾患の経過、手術の必要性を知る ・術前検査の種類と方法 ・麻酔の種類 ・必要物品の準備ができる ・手術及び術後の経過を観察する ・手術が生態に及ぼす影響の理解と看護動物の全身状態を整える援助 ・手術室の環境の整備 ・術野の消毒法、無菌操作手伝い、手洗い、清潔区域の明確化と出入りの注意 ・麻酔導入時の看護、手術中の体位、身体モニタリング機器の装着、手術中の看護動物の観察及び麻酔覚醒時の看護 ・手術直後の観察：バイタルサイン、バイタルサイン一般状況の観察・麻酔覚醒状況の観察(自発呼吸の状態、意識状態なそ)、創部の状態観察、各種チューブの管理(輸液、輸血含む)、随伴症状の観察(創部痛、嘔気、嘔吐、咳)、輸液量・尿量・排液量(水分出納)の観察、各種データの把握(血液ガス、電解質など) ・術後の状況に応じた援助 ・酸素吸入・吸引の準備、苦痛緩和と援助、術後合併症の徴候の観察、創の観察と包帯交換の介助 ・手術環境の整備について実践できる	
		5.次コマとの関係		